

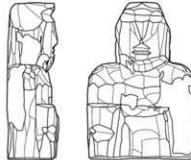
稻積天坂遺跡・稻積天坂北遺跡
稻積才才ヤチ南遺跡・宇波西遺跡
稻積天坂遺跡・稻積天坂北遺跡
稻積才才ヤチ南遺跡
宇波西遺跡
発掘調査報告

富山県文化振興財團
埋藏文化財発掘調査報告第六四集

二〇一四年
（公財）富山県文化振興財團
埋藏文化財調査事務所

稻積天坂遺跡
稻積天坂北遺跡
稻積才才ヤチ南遺跡
宇波西遺跡

—能越自動車道建設に伴う
埋藏文化財発掘報告 XIV —



2014年

公益財團法人 富山県文化振興財團
埋藏文化財調査事務所

稻積天坂遺跡
稻積天坂北遺跡
稻積才才ヤチ南遺跡 発掘調査報告
宇波西遺跡

—能越自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘報告XIV—

2014年

序

能越自動車道は、北陸自動車道の小矢部・砺波ジャンクションから北上して、高岡市、氷見市を通り、石川県輪島市に至る高規格幹線道路として計画されました。この能越自動車道と関連アクセス道の建設に伴い、当事務所では平成4年度から計画路線内の多数の遺跡を発掘調査してまいりました。

本書は、平成18年度と19年度に発掘調査を実施した氷見市の稲積天坂遺跡、稲積天坂北遺跡、稲積オオヤチ南遺跡、宇波西遺跡の成果をまとめたものです。

稲積天坂遺跡からは弥生時代後期の竪穴建物や掘立柱建物、古代・中世の掘立柱建物や井戸などがみつかりました。弥生時代の竪穴建物からは、ひすいの勾玉やガラス小玉のほか、玉の原材料である緑色凝灰岩や鉄石英の剥片も出土しており、この場で玉作りを行っていた証しといえます。中世の井戸からは、遺跡で出土することが稀な木像がみつかっています。稲積天坂北遺跡では古代の集落が、稲積オオヤチ南遺跡では中近世の集落が営まれていたことがわかりました。宇波西遺跡では、弥生時代後期の川の岸辺から、集水するための木組みがみつかり、人々が水を利用する際にこらした知恵と工夫を知ることができます。

こうした発掘調査の成果が、文字の記録に現れることのない往時の生活をひもとく一助となり、地域の歴史と文化財の理解に役立てば幸いです。

本書をまとめるにあたり、ご協力とご指導を頂きました関係機関および関係諸氏に厚く感謝申し上げます。

平成26年3月

公益財団法人 富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
所長 岸本雅敏

例　　言

- 1 本書は富山県氷見市稲積地内に所在する稲積天坂遺跡、^{いなづみあまきか}稲積天坂北遺跡、^{いなづみあまきかきた}稲積オオヤチ南遺跡、^{みなみ}同宇波地内に所在する宇波西遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は国土交通省北陸地方整備局からの委託を受けて、公益財団法人富山県文化振興財団が行った。
- 3 本遺跡の発掘調査期間と本書刊行までの整理期間は下記のとおりである。

調査期間	稲積天坂遺跡	平成18(2006)年6月19日～9月27日
		平成19(2007)年5月24日～8月10日
	稲積天坂北遺跡	平成18(2006)年5月15日～11月13日
	稲積オオヤチ南遺跡	平成18(2006)年9月25日～10月25日
		平成19(2007)年5月29日～11月28日
	宇波西遺跡	平成19(2007)年6月4日～11月22日
- 4 整理期間　平成23(2011)年4月1日～平成26(2014)年3月31日
- 5 本書の編集は新宅 茜、高柳由紀子が担当した。本文執筆は新宅、高柳のほか、島田美佐子、島田亮仁、町田賢一が行った。執筆分担は第I章を高柳、第II章を新宅、第III章を高柳・町田、第IV章・第V章を島田美佐子、第VI章を島田亮仁が担当した。執筆分担は文末に記した。自然科学的な分析は諸機関に委託し、その成果を第VII章に収録した。
- 6 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多大なご教示・ご協力を得た。

水見市教育委員会、富山県教育委員会、富山県埋蔵文化財センター

(敬称略)

凡 例

1 本文・挿図で扱った遺構・遺物は、一覧表に掲載している。

2 本書で示す方位は全て真北である。

3 挿図の縮尺は下記を基本とし、各図の下に縮尺率を示す。

遺構 堪穴建物：1/40・1/80、柵・掘立柱建物：1/100、溝・自然流路：1/40・1/80。

井戸・土坑：1/20・1/40、溜池：1/40・1/100

遺物 土器・陶磁器：1/3・1/4・1/6、木製品：1/4・1/8・1/12、石製品：1/1・
2/3・1/3、金属製品：1/1・1/2

4 遺構の略号は以下のとおりである。

S I：堪穴建物、S A：柵、S B：掘立柱建物、S P：柱穴、S D：溝・自然流路、S E：井戸、
S K：土坑、S G：溜池、S X：落ち込み・木組遺構、S R：谷

5 遺構番号は、各遺跡とも調査時に地区ごとに付した番号にある一定の数値を加算して遺構番号とした。番号は、遺構の種類にかかわらず連番とするが、掘立柱建物・柵には新たに番号を付した。各遺跡、各地区的遺構番号に加算した数値は次のとおりである。但し複数の地区にわたる遺構は、小さい方の遺構番号で示す。

稲積天坂遺跡 A 1 地区：加算せず、A 2 地区：+100、B 地区：+200

稲積天坂北遺跡 A 地区：加算せず、B 1 地区：+100、B 2 地区：+800

稲積オオヤチ南遺跡 A 地区：加算せず、B 地区：+100

宇波西遺跡 A 地区：加算せず、B 1 地区：+1000、B 2 地区：+1500

6 遺物は種類に関わらず連番を付し、斜体で示す。本文・挿図・一覧表・写真図版中の遺物番号は全て一致する。

7 遺跡の略号は市町村番号に遺跡名を続け、稲積天坂遺跡では「05 I A - 地区名」、稲積天坂北遺跡では「05 I A K - 地区名」、稲積オオヤチ南遺跡では「05 I O M - 地区名」、宇波西遺跡では「05 U N - 地区名」とし、遺物の注記には略号を用いた。

8 施釉陶磁器の釉の掛かる範囲、黒色土器の黒色処理が及ぶ範囲は一点鎖線で示した。

9 遺物のススや炭化物の付着する範囲は、二点鎖線及びスクリントーンで示した。但し、煮炊具に付着するススや炭化物は図示せず、付着の有無を一覧表に記載した。

10 使用したスクリントーンは以下に図示した。これ以外については図中に凡例を示した。



スス



黒漆



崩倒



地山



地山
(断面)

● 黒色土器・内黒
○ 赤彩

- 11 土層及び遺構埋土の色については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を参照した。
- 12 遺構一覧及び本文中で用いる遺構についての用語は以下の文献を参考とした。
掘立柱建物：奈良国立文化財研究所 1976『平城宮発掘調査報告Ⅶ』
井戸：宇野隆夫 1982『井戸考』『史林』第65巻第5号
- 13 遺物の分類と編年に関する用語は、以下の文献を参考にした。
弥生土器：財團法人富山県文化振興財団 2006『弥生土器の分類』『下老子篠川遺跡発掘調査報告－能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告V－』
須恵器・土師器：田嶋明人 1988『古代土器編年軸の設定』『シンポジウム 北陸の古代土器研究の現状と課題』石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
北野博司・池野正男 1989『北陸における須恵器生産』『北陸の古代手工業生産』北陸古代手工業生産史研究会
池野正男 2003『越中における古代前半期の土師器食器について』『北陸古代土器研究』第10号 北陸古代土器研究会
中世土師器：越前慎子 1996『梅原胡摩堂遺跡出土中世土師器皿の編年』『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告－東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告II－』
珠洲：吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館
輸入陶磁器：山本信夫 2000『太宰府市の文化財第49集 太宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』太宰府市教育委員会
木製品：奈良国立文化財研究所 1993『木器集成図録』近畿原始編
- 14 遺構一覧・遺物一覧の凡例は以下のとおりである。
- ①遺構の埋土に切り合い関係がある場合は、備考欄に新>古のように記号で示す。
 - ②規模・法量の（ ）内は現存長を表す。
 - ③重量はg単位で示す。計測は大きさによって台秤と電子秤を使い分けた。
 - ④胎土色調・釉色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』・財團法人日本規格協会「標準色票 光沢版」を使用し、釉調の和名は小学館『色の手帖』より似たものを使用した。なお、陶磁器のうち複数の色がみられる場合は最も多く使用されている色を記し、その他は特記事項に記す。但し透明釉の場合は記入しない。

目 次

第Ⅰ章 調査の経過

1 調査に至る経緯	1
(1) 調査の契機	1
(2) 既往の調査	1
2 発掘作業の経過と方法	3
3 整理作業の経過と方法	5

第Ⅱ章 位置と環境

1 地理的環境	6
2 歴史的環境	6

第Ⅲ章 稲積天坂遺跡

1 概要	11
2 層序	11
3 遺構と遺物	12
(1) 縄文時代	12
(2) 弥生時代	12
(3) 古代	15
(4) 中世	16
(5) 近世	19
(6) 包含層出土遺物	22
4 総括	81

第Ⅳ章 稲積天坂北遺跡

1 概要	84
2 層序	84
3 遺構と遺物	85
(1) 縄文時代～古墳時代	85
(2) 古代	86
(3) 中世	89
4 総括	148

第Ⅴ章 稲積オオヤチ南遺跡

1 概要	149
2 層序	149
3 遺構と遺物	149
(1) 古墳時代	149
(2) 中世	150
(3) 包含層出土遺物	155
4 総括	180

第VI章 宇波西遺跡

1 概要	181
2 層序	181
3 遺構	181
(1) 弥生時代終末期～古墳時代初頭	181
(2) 古代	182
(3) 中世	185
4 遺物	187
(1) 土器・陶磁器・土製品	187
(2) 木製品	190
(3) 石製品	191
(4) 金属製品	191
5 総括	257

第VII章 自然科学分析

1 樹種同定	260
2 石材鑑定	270
3 宇波西遺跡の自然科学分析	275
4 氷見市域における木材利用について	289

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1図	調査位置図・遺跡位置図	2
第2図	調査地区区割図	3
第3図	地形図	7
第4図	周辺遺跡位置図	9
第5図	稻積天坂遺跡 基本層序図	23
第6図	稻積天坂遺跡 遺構全体図	24
第7図	稻積天坂遺跡 縄文時代遺構実測図	25
第8図	稻積天坂遺跡 弥生時代遺構全体図	26
第9～13図	稻積天坂遺跡 遺構実測図	27～31
第14図	稻積天坂遺跡 古代遺構全体図	32
第15図	稻積天坂遺跡 遺構実測図	33
第16図	稻積天坂遺跡 中近世遺構全体図	34
第17図	稻積天坂遺跡 A 1 地区 中近世遺構全体図	35
第18～22図	稻積天坂遺跡 遺構実測図	36～40
第23図	稻積天坂遺跡 中近世遺構実測図	41
第24～29図	稻積天坂遺跡 遺構実測図	42～47
第30～48図	稻積天坂遺跡 遺物実測図	48～66
第49図	稻積天坂遺跡 遺構変遷図	83
第50図	稻積天坂北遺跡 遺構全体図	90
第51・52図	稻積天坂北遺跡 B 1 地区 遺構全体図	91・92
第53～59図	稻積天坂北遺跡 遺構実測図	93～99
第60～86図	稻積天坂北遺跡 遺物実測図	100～126
第87図	稻積才オヤチ南遺跡 古墳時代遺構全体図	156
第88図	稻積才オヤチ南遺跡 遺構実測図	157
第89図	稻積才オヤチ南遺跡 中近世遺構全体図	158
第90図	稻積才オヤチ南遺跡 A 地区 中世遺構全体図	159
第91図	稻積才オヤチ南遺跡 B 地区 中近世遺構全体図	160
第92～97図	稻積才オヤチ南遺跡 遺構実測図	161～166
第98～105図	稻積才オヤチ南遺跡 遺物実測図	167～174
第106図	宇波西遺跡 遺構全体図	192
第107～109図	宇波西遺跡 弥生～古墳時代遺構全体図	193～195
第110～112図	宇波西遺跡 遺構実測図	196～198
第113～116図	宇波西遺跡 古代遺構全体図	199～202
第117～121図	宇波西遺跡 遺構実測図	203～207
第122～127図	宇波西遺跡 中近世遺構全体図	208～213
第128～133図	宇波西遺跡 遺構実測図	214～219
第134～155図	宇波西遺跡 遺物実測図	220～241
第156図	宇波西遺跡 主要遺構変遷図	259
第157図	宇波西遺跡 花粉化石群集	278
第158図	宇波西遺跡 植物珪酸体含量	278
第159図	挽物容器の時期別種類構成	297

表目次

第1表	既往の調査一覧	2
第2表	調査体制・調査一覧	4
第3表	整理体制	5
第4表	周辺遺跡一覧	10
第5表	稻積天坂遺跡 堪穴建物一覧	67
第6表	稻積天坂遺跡 挖立柱建物一覧	67
第7表	稻積天坂遺跡 柱穴一覧	68
第8表	稻積天坂遺跡 谷・溝・自然流路一覧	69
第9表	稻積天坂遺跡 土坑一覧	70
第10表	稻積天坂遺跡 井戸一覧	70
第11表	稻積天坂遺跡 落込・溜池一覧	70
第12表	稻積天坂遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧	71
第13表	稻積天坂遺跡 木製品一覧	80
第14表	稻積天坂遺跡 石製品一覧	80
第15表	稻積天坂遺跡 金属製品一覧	80
第16表	稻積天坂北遺跡 古代掘立柱建物一覧	127
第17表	稻積天坂北遺跡 柱穴一覧	127
第18表	稻積天坂北遺跡 溝・自然流路一覧	128
第19表	稻積天坂北遺跡 井戸一覧	128
第20表	稻積天坂北遺跡 土坑一覧	128
第21表	稻積天坂北遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧	129
第22表	稻積天坂北遺跡 木製品一覧	147
第23表	稻積天坂北遺跡 石製品一覧	147
第24表	稻積天坂北遺跡 金属製品一覧	147
第25表	稻積オオヤチ南遺跡 溝・自然流路一覧	175
第26表	稻積オオヤチ南遺跡 井戸一覧	175
第27表	稻積オオヤチ南遺跡 土坑一覧	175
第28表	稻積オオヤチ南遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧	176
第29表	稻積オオヤチ南遺跡 木製品一覧	179
第30表	稻積オオヤチ南遺跡 石製品一覧	179
第31表	稻積オオヤチ南遺跡 金属製品一覧	179
第32表	宇波西遺跡 木組造構一覧	242
第33表	宇波西遺跡 堪穴建物一覧	242
第34表	宇波西遺跡 古代掘立柱建物一覧	242
第35表	宇波西遺跡 中近世掘立柱建物一覧	242
第36表	宇波西遺跡 柱穴一覧	243
第37表	宇波西遺跡 溝・自然流路一覧	246
第38表	宇波西遺跡 土坑一覧	247
第39表	宇波西遺跡 井戸一覧	247
第40表	宇波西遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧	248
第41表	宇波西遺跡 木製品一覧	256
第42表	宇波西遺跡 石製品一覧	256
第43表	宇波西遺跡 金属製品一覧	256
第44表	稻積天坂遺跡の器種別種類構成	262
第45表	稻積天坂北遺跡の器種別種類構成	263

第46表	稲積オオヤチ南遺跡の器種別種類構成	263
第47表	宇波西遺跡の器種別種類構成	264
第48表	稲積天坂遺跡の種類別石材組成	272
第49表	稲積天坂北遺跡の種類別石材組成	273
第50表	宇波西遺跡 花粉分析結果	277
第51表	宇波西遺跡 植物珪酸体含量	278
第52表	宇波西遺跡 種実分析結果	280
第53表	遺跡別・時期別の資料数	290
第54表	時期別種類構成	291
第55表	绳文時代の器種分類別種類構成	292
第56表	弥生時代の器種分類別種類構成	292
第57表	古墳時代の器種分類別種類構成	293
第58表	弥生時代～古墳時代の器種分類別種類構成	294
第59表	古代の器種分類別種類構成	294
第60表	中世の器種分類別種類構成	295
第61表	古代～中世の器種分類別種類構成	298
第62表	中世～近世の器種分類別種類構成	299
第63表	近世・近代の器種分類別種類構成	301

写真図版目次

図版 1	稲積天坂遺跡 遺物	図版52	稲積天坂北遺跡 土器・土製品
図版 2	稲積天坂遺跡・稲積天坂北遺跡 遺構・遺物	図版53～62	稲積天坂北遺跡 土器
図版 3	宇波西遺跡 土器	図版63・64	稲積天坂北遺跡 土器・陶磁器
図版 4・5	航空写真	図版65～67	稲積天坂北遺跡 木製品
図版 6	稲積天坂遺跡 全景	図版68・69	稲積天坂北遺跡 石製品
図版 7	稲積天坂遺跡 全景(縄文時代)	図版70	稲積天坂北遺跡 金属製品
図版 8	稲積天坂遺跡 壑穴建物(弥生時代)	図版71～73	稲積オオヤチ南遺跡 全景
図版 9	稲積天坂遺跡 壑穴建物・掘立柱建物 (弥生時代)	図版74	稲積オオヤチ南遺跡 井戸
図版10	稲積天坂遺跡 溝・土坑(弥生時代)	図版75	稲積オオヤチ南遺跡 溝・井戸・土坑
図版11	稲積天坂遺跡 掘立柱建物・溝 (弥生時代～古代)	図版76～78	稲積オオヤチ南遺跡 土器・陶磁器
図版12	稲積天坂遺跡 掘立柱建物・井戸(中世)	図版79	稲積オオヤチ南遺跡 土器・土製品
図版13	稲積天坂遺跡 井戸・土坑(中世)	図版80～82	稲積オオヤチ南遺跡 土器・陶磁器
図版14	稲積天坂遺跡 土坑(近世)	図版83～85	稲積オオヤチ南遺跡 木製品
図版15～22	稲積天坂遺跡 土器	図版86	稲積オオヤチ南遺跡 石製品・金属製品
図版23・24	稲積天坂遺跡 土器・土製品	図版87・88	宇波西遺跡 全景
図版25～27	稲積天坂遺跡 土器	図版89	宇波西遺跡 木組遺構
図版28～32	稲積天坂遺跡 陶磁器	図版90	宇波西遺跡 全景
図版33～36	稲積天坂遺跡 木製品	図版91・92	宇波西遺跡 掘立柱建物
図版37～40	稲積天坂遺跡 石製品	図版93	宇波西遺跡 壑穴建物
図版41	稲積天坂遺跡 金属製品	図版94	宇波西遺跡 掘立柱建物・溝・井戸
図版42	稲積天坂北遺跡 全景	図版95～105	宇波西遺跡 土器
図版43	稲積天坂北遺跡 掘立柱建物	図版106	宇波西遺跡 土器・土製品
図版44	稲積天坂北遺跡 溝・土坑・柱穴・井戸	図版107	宇波西遺跡 土器
図版45	稲積天坂北遺跡 掘立柱建物・柱穴・溝・土坑	図版108	宇波西遺跡 陶磁器
図版46～51	稲積天坂北遺跡 土器	図版109～115	宇波西遺跡 木製品
		図版116	宇波西遺跡 石製品
		図版117	宇波西遺跡 金属製品

第Ⅰ章 調査の経過

1 調査に至る経緯

(1) 調査の契機

能越自動車道（一般国道470号）は、富山県砺波市と石川県輪島市を結ぶ延長約100kmの自動車専用道路で、昭和62（1987）年に高規格幹線道路網計画の一部として策定された。富山県内では約45kmが計画され、これまでに北陸自動車道・東海北陸自動車道と連結する小矢部砺波JCT（ジャンクション）から高岡北IC（インターチェンジ）までの約18.2km（高岡砺波道路）と高岡北ICから氷見ICまでの11.2km（氷見高岡道路）、氷見ICから灘浦ICまでの8.5km（七尾氷見道路）が開通しており、今後、更に北上して県境PA（仮称、パーキングエリア）が設置される予定となっている。

能越自動車道の建設計画は平成2（1990）年4月に建設省（現国土交通省）から富山県教育委員会（以下、県教委）に示され、路線予定地内の埋蔵文化財の取り扱いについて、建設省北陸建設局（現国土交通省北陸地方整備局）・県教委・小矢部市教育委員会の三者により協議が行われた。その結果、埋蔵文化財の分布状況を把握するため、小矢部市の用地買収完了地域で早急に分布調査を実施することとなった。以後、平成2（1990）年から、小矢部市・旧福岡町・高岡市・氷見市域の分布調査については、県教委・富山県埋蔵文化財センター（以下、県センター）が主体となり、当該市町教育委員会の協力を得て実施している。

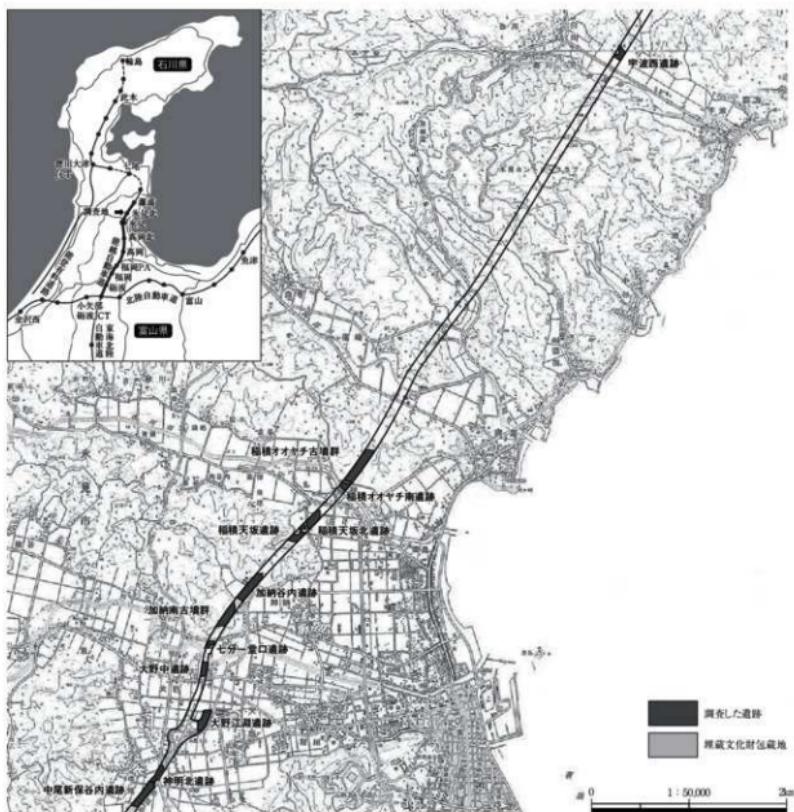
能越自動車道氷見ICから灘浦IC間の分布調査は平成14（2002）年に実施し、NEJ-22～27の埋蔵文化財包蔵地を設定した。また平成16（2004）年には能越自動車道建設予定地内の稲積・宇波・姿～県境までの分布調査を実施し、NEJ-28～30の埋蔵文化財包蔵地を設定した。分布調査の結果報告から、埋蔵文化財包蔵地の今後の取り扱いについて検討が行われた。その結果、遺跡のより明確な範囲と内容について把握するため、包蔵地確認調査を実施することとなった。

NEJ-25～28の包蔵地確認調査は建設省から委託を受け、平成16（2004）年度～平成18（2006）年度に財團法人（現公益財團法人）富山県文化振興財團（以下、財團）が実施した。この結果、NEJ-25では中世の遺構・遺物を確認し、稲積天坂遺跡と命名した。NEJ-26では古代の遺構・遺物を確認し、稲積オオヤチ南遺跡と命名した。NEJ-27では古代～中世の遺構・遺物を確認し、西側に隣接する宇波西遺跡の一部と考えられたため統合した。NEJ-28では古代～中世の遺構・遺物を確認し、稲積天坂北遺跡と命名した。

確認調査の結果を受けて、建設省・県教委・県センター・財團の協議で、範囲が確定している遺跡について本調査の要望が出された。協議の結果、財團が本調査を受託することで合意し、平成18（2006）年度に稲積天坂遺跡、稲積天坂北遺跡、稲積オオヤチ南遺跡、平成19（2007）年度に稲積天坂遺跡、稲積天坂北遺跡、稲積オオヤチ南遺跡、宇波西遺跡の本調査を実施した。

(2) 既往の調査

稲積天坂遺跡、稲積天坂北遺跡、稲積オオヤチ南遺跡、宇波西遺跡の既往の調査は、第1表のとおりである。



第1図 調査位置図・遺跡位置図 (1:50,000)

遺跡名	分布調査		確認調査				本調査			
	年度	調査主体	年度	調査主体	調査面積(対象面積) m ²	文献	年度	調査主体	調査面積 m ²	文献
稲積天坂	H14	県教委	H16	財團	630(9,800)	1	H18	財團	5,650	4
			H17	財團	48(653)	2	H19	財團	2,847	5
			H17	財團	1,032(22,805)	2	H18	財團	14,837	4
			H17	財團	256(5,921)	2	H18	財團	972	4
			H16	財團	864(18,600)	1	H19	財團	8,080	5
宇波西	H11	水見市史 編纂委員会 考古部会	H18	財團	123(1,000)	3	H19	財團	15,524	5

第1表 既往の調査一覧

- 文献 1 財團法人富山県文化振興財團 2005 「能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告 中尾埋蔵文化財包蔵確定地」NEJ-22(大野中遺跡)・NEJ-23(七分一堂口遺跡)・NEJ-24(加納谷内遺跡)・NEJ-25(稲積天坂遺跡)・NEJ-27(宇波西遺跡)・NEJ-29】
- 2 財團法人富山県文化振興財團 2006 「能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告 大野中遺跡隣接地・稲積天坂遺跡隣接地」NEJ-26(稲積オオヤチ南遺跡)・NEJ-28(稲積天坂北遺跡)】
- 3 財團法人富山県文化振興財團 2007 「能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告 加納谷内遺跡隣接地・稲積オオヤチ古墳群・宇波西遺跡】
- 4 財團法人富山県文化振興財團 2007 「平成18年度埋蔵文化財年報】
- 5 財團法人富山県文化振興財團 2008 「平成19年度埋蔵文化財年報】

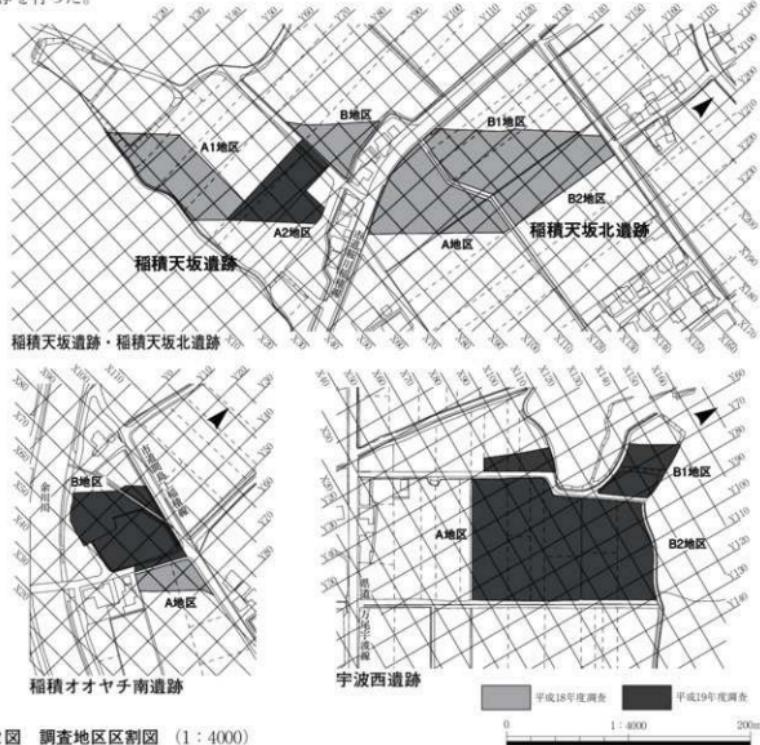
2 発掘作業の経過と方法

発掘調査の作業工程及びその方法・内容は、平成16(2004)年10月に文化庁から示された『行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準(報告)』に則って進めた。

発掘調査の基準となるグリッドは、日本測地系による国土座標(平面直角座標第7系)を基に設定した。稲積天坂遺跡・稲積天坂北遺跡ではX96600, Y-17600, 稲積オオヤチ南遺跡ではX97100, Y-17000, 宇波西遺跡ではX101500, Y-14300をX0Y0の起点とした。南北方向をX軸、東西方向をY軸とし、グリッドは2m方眼とした。各グリッド名は北東角のX軸・Y軸の座標とした。なお、日本測地系を基に起点を定めたので、国土地理院のWeb版TKY2JGDの変換プログラムにより世界測地系に変換し、次頁に掲載した。

調査区は用水、道路、水田の区画によって分け、稲積天坂遺跡ではA1・A2・B地区、稲積天坂北遺跡ではA・B1・B2地区、稲積オオヤチ南遺跡ではA・B地区、宇波西遺跡ではA・B1・B2地区を設定した。

掘削方法は、表土は重機により除去し、包含層と構造埋土については人力で掘削した。稲積天坂遺跡S1130については、掘削中に石製玉作関連遺物の出土がみられたため、建物内埋土は全て土壤洗浄を行った。



第2図 調査地区区割図 (1:4000)

遺跡名	日本測地系		世界測地系	
福積天坂遺跡	X96600		Y-17600	
福積天坂北遺跡			X96946.2397	
福積オヤチ南遺跡	X97100		Y-17269.0323	
宇波西遺跡	X101500		Y-14300	
	X101846.0911		Y-14569.1029	

実施年度	調査対象	地区	年度	期間	延べ日数	面積	担当者	調査実事相		検出遺構	出土遺物			
								チーフ	浅地 正代	調査統括	調査第一課長			
平成18 (2006) 年度	福積天坂			西 長 岩本 雅敏	46日	4,214m ²	田中一賢	チーフ	浅地 正代	調査統括	チーフ	高田美佐子		
				主査・副所長 山本 玄敏				主査	岩田 健紀	調査員	文化財保護法季 研江 真澄			
				副所長・総務課長 加藤豊次郎				主査	岩田 健紀		文化財保護法季 研江 真澄			
平成19 (2007) 年度	福積天坂			西 長 岩本 雅敏	54日	2,847m ²	田中一賢	チーフ	浅地 正代	調査統括	チーフ	高野由紀子		
				主査・副所長 山本 玄敏				主査	岩田 健紀	調査員	文化財保護法季 研江 要			
				副所長・総務課長 加藤豊次郎				主査	岩田 健紀		埋蔵文化財技術 研田 信幸			
福積天坂				A1	平成18 (2006)	H18.6.19 ~ 9.21	46日	4,214m ²	田中一賢	複合建物・機・柱穴・溝・自然流路・舟戸・土坑・墓	縄文土器・磨光土器・須恵器・中晩土器類・瓦質土器・溝・甕・中國製陶磁・古世陶磁等・土製品・木製品・石製品・金属製品			
				A2		H19.5.24 ~ 8.10				複合建物・柱穴・溝・自然流路・土坑				
				B						聚落・柱穴・溝・自然流路・土坑				
福積天坂北				A	平成18 (2006)	H18.5.15 ~ 8.31	55日	4,136m ²	高野山紀子 岩本 信幸	聚落・柱穴・溝・自然流路・土坑・柱穴	生土器・上器・下器・須恵器・中晩土器類・珠洲・瀬戸・中国製陶磁・石製品・金属製品			
				B1 (上層)						聚落・柱穴・溝・自然流路・土坑				
				B1 (下層)						聚落・柱穴・溝・自然流路・土坑				
福積オヤチ南				B2	平成18 (2006)	H18.9.4 ~ 11.13	37日	2,841m ²	島田 美佐子	聚落・柱穴・溝・自然流路・土坑	土師器・須恵器・中晩土器類・世世陶磁器・製塙土器・木製品・石製品・金属製品			
				A						聚落・柱穴・溝・自然流路・土坑・柱穴				
				B						聚落・柱穴・溝・自然流路・土坑				
宇波西				A	平成18 (2006)	H18.9.25 ~ 10.25	20日	972m ²	町田 賢一 永井 三郎	聚落・柱穴・溝・自然流路・舟戸・土坑	生土器・上器・下器・須恵器・珠洲・近世陶磁器・木製品・石製品・金属製品			
				B (上層)						聚落・柱穴・溝・自然流路・舟戸				
				B (下層)						聚落・柱穴・溝・自然流路・土坑				
宇波西				A	平成19 (2007)	H19.6.19 ~ 10.23	76日	9,307m ²	中村 寛仁 朝田 一葉	聚落・柱穴・溝・自然流路・舟戸・土坑・木製品	土師器・須恵器・黑色土器・中晩土器類・珠洲・中国製陶磁・近世陶磁器・製塙土器・土製品・木製品・石製品・金属製品			
				B1						聚落・柱穴・溝・自然流路・土坑				
				B2						聚落・柱穴・溝・自然流路・柱穴				

第2表 調査体制・調査一覧

3 整理作業の経過と方法

出土遺物は調査年度内に可能な限り洗浄・バインダー処理・注記・分類を行った。木製品・石製品・金属製品はメモ写真を撮影し、整理台帳を作成した。木製品及び金属製品は収納・管理の便宜を図るためオートシーラーと専用フィルムを用いてパックし、仮保管している。

調査概要については『埋蔵文化財年報』(平成18・19年度)として発刊している。

報告書刊行に向けての本格的な室内整理作業は、平成23(2011)年度に開始した。平成23年度は、木製品・石製品・金属製品の写真撮影及び実測・挿図版作成、土器の接合・実測、自然科学分析を行った。平成24年度は、土器の復元・写真撮影、土器・遺構の挿図作成、写真図版作成、自然科学分析、木製品の保存処理、原稿執筆、編集を行った。平成25年度は原稿執筆、編集、印刷、校正を行った。

遺物の実測は、土器を調査員及び整理作業員が行い、木製品・石製品・金属製品は業者に委託した。遺構実測図・写真是各台帳を作成して整理し、遺構カードとともにパーソナルコンピューターを使用してデータ入力を行った。データ入力は職員が行い、整理作業員が補足した。遺構・遺物のデータは一覧表として掲載している。遺構・遺物の挿図は業者に委託し、デジタルデータ化を行い印刷原稿とした。遺物の写真撮影は業者に委託した。デジタルカメラで撮影し、写真図版にはデータを使用した。自然科学分析は専門業者に委託し、結果報告を掲載した。また、劣化が懸念される遺物については、保存処理を専門業者に委託して行った。

(高柳由紀子)

実施年度	整 理 事 業 担 当					
	総括	所長 岸本 雅敏 副所長 池野 正男	総務	秘書課長 竹中 哲一 主任 江本 裕一	整理総括	調査課長 鳥田美佐子 チーフ 越前 植子
平成23	総括	所長 岸本 雅敏 副所長 池野 正男	総務	秘書課長 松尾 互 主任 江本 裕一	担当	調査課長 鳥田美佐子 チーフ 越前 植子
平成24	総括	所長 岸本 雅敏 副所長 池野 正男	総務	秘書課長 松尾 互 主任 江本 裕一	担当	調査課長 鳥田美佐子 チーフ 越前 植子
平成25	総括	所長 岸本 雅敏 副所長 池野 正男	総務	秘書課長 松尾 互 主任 江本 裕一	担当	調査課長 鳥田美佐子 チーフ 越前 植子

第3表 整理体制

第Ⅱ章 位置と環境

1 地理的環境

稲積天坂遺跡・稲積天坂北遺跡・稲積オオヤチ南遺跡・宇波西遺跡は、富山県西部の氷見市に位置する。氷見市は能登半島東側基部に位置し、三方を石動丘陵・宝達丘陵・二上山丘陵に囲まれ、東は富山湾に面する。市域の約8割を占める丘陵は新第三紀と第四紀層の泥岩が広く分布し、地滑り地形が多く認められている。市南半部には、仏生寺川とその支流によって開拓された十三谷と呼称される谷底平野がある。かつて仏生寺川下流一帯には布勢水海と呼ばれた潟湖が存在したが、現在は開拓されて水田が広がっている。市北半部は、宇波川・阿尾川・余川川・上庄川などの小河川とその支流からなる谷地形で、上庄川中流域から下流域にかけては小規模な平野が広がり、下流左岸の平野には、弥生時代から古代にかけて、加納潟と仮称する潟湖が広がっていたと推測されている。能越自動車道は十三谷を南北に縦断し、北東に向かって上庄川・余川川・阿尾川・宇波川流域の谷地形と平野部を通る形で計画された。本調査を実施した稲積天坂遺跡・稲積天坂北遺跡・稲積オオヤチ南遺跡は、余川川下流域两岸の平野部、宇波西遺跡は宇波川中流域左岸の平野部に位置する。余川川は碁石ヶ峰に続く県境尾根を水源とし、谷平野を貫流して、稲積付近で低地帯に入る。この右岸に稲積天坂遺跡、稲積天坂北遺跡、左岸に稲積オオヤチ南遺跡が立地している。宇波川は石川県鹿島町の石動山の南斜面を水源とし、白川で五十谷川と合流し、谷平野を経て、低地帯はほとんど通らずに宇波で海に注ぐ。五十谷川と合流した左岸の狭い平野部に、宇波西遺跡が立地している。標高は、稲積天坂遺跡が4.5~6m、稲積天坂北遺跡が5.2~5.8m、稲積オオヤチ南遺跡が4.3~4.8m、宇波西遺跡が15~16mを測る。

2 歴史的環境

稲積天坂遺跡・稲積天坂北遺跡・稲積オオヤチ南遺跡が位置する余川川の下流域には、小規模な平野が広がっており、加納潟の北端が余川川右岸まで広がっていたと推測されている。加納潟とその周辺の平野、それを見下ろす丘陵上には、縄文時代から中近世に至る遺跡が存在している。

縄文時代の遺跡には、余川川左岸の丘陵裾に、前期前葉の土器が出土した稲積後池遺跡(7)があるほか、余川川左岸の丘陵先端裾の平野部に縄文後期の阿尾島田A遺跡(29)がある。

弥生時代には、終末期の土器が出土した稲積前田遺跡(5)があるが、ほかには見つかっていない。古墳時代では、前期から後期まで、平野を見下ろす丘陵上に多くの古墳が築かれた。余川川左岸には余川金谷古墳群(9)、余川田地古墳群(10)、稲積ウシロ古墳群(26)、稲積オオヤチ古墳群(27)、阿尾島田古墳群(28)、右岸には加納蛭子山古墳群(42)、加納横穴群(43)がある。特に阿尾島田古墳群には、全長約70mの前方後円墳であるA1号墳があり、古墳時代前期の築造と推定されている。これらの古墳を支えた人々の集落は明らかではないが、これだけの古墳が密集するということは、陸海の交通要所を押さえた交易や、加納潟周辺での農耕を基盤とし、生産力と政治力の高い集団が生活していたと推測できる。

古代では、平野部に稲積西ヶ谷内遺跡(6)、阿尾島田A遺跡(29)、稲積後池遺跡(7)、稲積川口遺跡(4)などがある。稲積川口遺跡では、余川川の旧河道と推測される落込みの下層から、7世紀

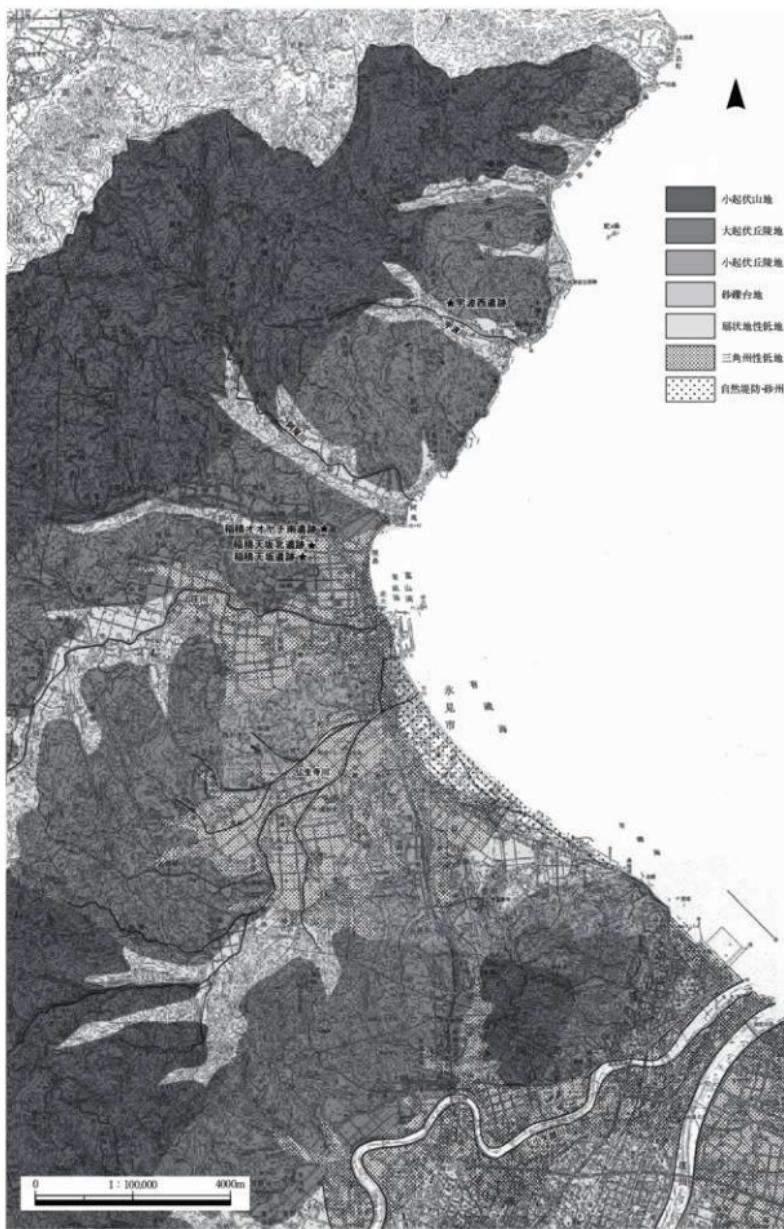


図1 国土地理院 2002年1月 50万地形図 起点・高見・石鈴・喜山・多良木・経済企画庁 1970「地形分類図 高見・起点・石鈴・喜山」を合成して作成

前半の土器とともに護岸施設が見つかっており、施設の一部には馬鍬と田舟が転用されていた。加納横穴群の築造期間が6世紀後半から7世紀末までと考えられていることから、余川川下流域において、土地の開発が活発に継続されていたことが推測される。

中世では、余川川右岸の丘陵上に木谷城(44)、左岸には海老瀬城(16)、稲積城(25)の山城が築かれた。14世紀中頃には、能登守護で北朝方の吉見氏と、越中守護で南朝方の桃井氏との間でたびたび激しい争いがおこり、木谷城を拠点にした桃井直常と、能登から侵攻してきた吉見氏頼とが、「尼坂」で合戦を行ったといわれているが、これが稲積地内の小字「天坂」周辺と考えられている。

一方、宇波西遺跡が位置する宇波川流域は、狹小な谷平野であるが、宇波川両岸の丘陵裾から丘陵上にかけて、古墳時代から中世に至る遺跡が存在している。

古墳時代では、宇波川左岸の丘陵上に熊野神社古墳群(61)、宇波安居寺古墳群(65)、脇方西古墳群(72)、脇方十三塚古墳群(75)、右岸の河口近くの丘陵上に宇波古墳(71)がある。宇波古墳では、明治33年の宇波神社本殿再建時に、主体部である石椁の中から人骨1体分、鉄刀2点、須恵器2点が出土しており、6世紀の古墳と考えられている。

古代では、脇方横穴群(74)がある。最低でも8基の横穴が確認されており、7世紀から8世紀初頭まで継続し、中世においても埋葬に利用されていたことが判明している。

中世では、丘陵上に白河城跡(67)、宇波城跡(64)が築かれたほか、戸津宮中世墓群(66)、脇方谷内出中世墓(73)がある。脇方谷内出中世墓は3つの基壇の上に板石塔婆・一石一尊仏・五輪塔・宝巖印塔を並べたもので、火葬骨・中世土師器皿・銅鏡が出土しており、13世紀末から15世紀前半まで継続して造営されたと考えられている。先にも述べたように、この時期は能登と越中を結ぶ陸海のルート上は激しい戦乱の中で揺れ動いていたと考えられ、不安定な世情の中で、人々の信仰が高まり、宗教活動が盛んであったと推測される。

参考文献

- 氷見市史編さん委員会 1999『氷見市史9 資料編七 自然環境』
- 氷見市史編さん委員会 2002『氷見市史7 資料編五 考古』
- 氷見市教育委員会 1989『脇方横穴群 一般国道160号灘浦トンネル拡幅工事に先立つ埋蔵文化財発掘調査』
- 氷見市教育委員会 2000『脇方谷内出中世墓』
- 氷見市教育委員会 2007『氷見市遺跡地図』
- 氷見市教育委員会 2009『稲積川口遺跡 一般県道鹿西水見線地方特定道路事業に伴う発掘調査報告』
- 氷見市教育委員会 2013『氷見市内遺跡発掘調査概報Ⅲ 稲積天坂北遺跡 緩川D遺跡 柳田遺跡 松田江北遺跡』
- 財團法人富山県文化振興財团 2009『中尾茅戸遺跡・中尾新保谷内遺跡・神明北遺跡・大野江溫遺跡発掘調査報告』



第4図 周辺遺跡位置図 (1:25,000)

遺跡番号	遺跡名	所在地	種類	時代
1	稻穂天瓶	稻穂	集落	古代・中晉・近世
2	稻穂天甕北	稻穂	集落	古代・中晉・近世
3	稻穂天甕ヶ原	稻穂	集落	古代・中晉
4	稻穂川口	稻穂	散布地	古墳・古代
5	稻穂前田	稻穂前田	散布地	出生・古代・中晉
6	稻穂西ヶ谷内	稻穂西ヶ谷内	散布地	奈良・平安・中晉
7	稻穂後池	稻穂西ヶ谷内	散布地	繩文（前）・古代・中晉
8	余間瀬ヶ谷内	余間瀬ヶ谷内	散布地	古代
9	余間古谷古墳群	余間	古墳	古墳
10	余間古地古墳群	余間	古墳	古墳
11	余間寺谷内	余間寺谷内	散布地・伝承地	中晉
12	余間海老田	余間松木	散布地	古代
13	余間川河床	余間	散布地	繩文・古墳・古代・中晉
14	余間片畠	余間片畠	散布地	古墳
15	余間善名	余間	散布地	古代・中晉
16	海老毛城跡	余間寺田地・森寺字海老毛	城跡	中晉（戰國）
17	指輪大谷古墳群	白崎	古墳	古墳
18	指輪五反田	指輪字五反田	散布地	古代
19	指輪北古墳群・指輪城跡	白崎	古墳・城跡	古墳・中晉
20	八代城跡・八代西谷跡	北八代城ヶ峰	城跡	南北朝
21	指輪河山古墳群	指輪字湖町野	散布地	中晉
22	佑輪河山古墳群	指輪字向山	古墳	古墳
23	指輪山	白崎	散布地	古代・中晉・近世
24	稻穂城ヶ峰古墳群	稻穂	古墳	古墳
25	稻穂城跡	稻穂城ヶ峯	城跡	南北朝
26	稻穂ウシロ古墳群	稻穂	古墳	古墳
27	稻穂オヤマ古墳群	稻穂	古墳	古墳
28	阿尾尾田古墳群・土農群	阿尾	古墳・城跡	古墳・中晉
29	阿尾尾田A	阿尾字弓田	集落	繩文（後晩期）・古代・中晉
30	阿尾尾田B	阿尾字弓田	散布地	繩文・古代・中晉
31	阿尾尾尾山菅跡	阿尾字弓尾	城跡	中晉
32	阿尾尾尾A	阿尾字弓尾	集落	繩文・古墳・古代・中晉・近世
33	阿尾尾尾B	阿尾字弓尾	散布地	繩文・古代・中晉・近世
34	阿尾尾跡	阿尾字城山	城跡・散布地	出生（後）・戰國・近畿初期
35	阿尾城山櫛穴群	阿尾	櫛穴	飛鳥・白鳳
36	阿尾	阿尾	散布地	出生・古墳
37	稻穂二ツ足前	稻穂三脚前	不明	古代
38	稻穂二所野	空町	散布地	古代・中晉
39	加納新宮	空町	散布地	古代・中晉
40	湖高野日	湖高野	散布地	古代・中晉
41	湖詠野A	湖詠野	散布地	古代
42	加納新子山古墳群	加納新子山	古墳	古墳初・後期
43	加納新穴群	加納字糸子	廻穴	古墳後～飛鳥・白鳳
44	本谷跡跡	加納・稻穂	城跡	南北朝
45	加納新池古墳群	加納	古墳	古墳
46	加納新内	加納	集落	繩文・古代・中晉・近世
47	加納新古墳群・加納城跡	加納	古墳・城跡	古墳・中晉
48	加納新打	加納	散布地	古代
49	七分一	七分一	散布地	出生（後～末）・古墳（後）
50	七分一B	七分一	散布地	古代・中晉
51	七分一古墳・古墓	七分一	古墳・中晉墓	古墳・中晉
52	七分一東口	七分一	集落	中晉
53	人野中	人野	集落	古代
54	K B - 3	人野	散布地	古代
55	人野江湖	人野	集落	出生・古墳・古代・中晉・近世
56	K B - 2	人野新・人野	散布地	古代
57	輪中A	輪用・大野新	散布地	古代・中晉・近世
58	輪用中B	輪用	集落	出生・古代・中晉・近世
59	輪用金谷	輪用下	散布地	繩文（中）・出生（後）・古墳
60	宇波谷	宇波・白田	散布地	出生・古墳・古代・中晉・近世
61	猪野井社古墳群・集石墓	宇波吉田	古墳・中晉墓	古墳・中晉
62	宇波シダ	宇波	散布地	古墳・中晉
63	N E - 29	宇波	散布地	古代
64	宇波城	宇波	城跡	中晉
65	宇波安忍寺古墳群	宇廣	古墳	古墳（中）
66	戸津百中世墓群	戸津寶	中世墓	中晉
67	白両山跡	白両字出崎田	城跡	南北朝・（戰國）
68	稻荷神社	白用	散布地	繩文（後）
69	宇波ミカラウラ	宇廣	散布地	古代・中晉
70	宇波度中塚	宇波	塚	不明
71	宇波古墳・宇波神社	宇波	古墳・散布地	古墳（後）・中晉
72	脇方古墳群	脇方	古墳	古墳（中）
73	脇方内此少根墓	脇方	中世墓	中晉
74	脇方櫛穴群	脇方字甘利	櫛穴・中世墓	飛鳥・白鳳・中晉
75	脇方十三塚古墳群・集石墓	脇方・小塚	古墳・中世墓	古墳（中～後）・中世
76	大堀字竪住原宿	大堀字南翁	調査	繩文（中）・中世

第4表 周辺遺跡一覧

第Ⅲ章 稲積天坂遺跡

1 概 要

稲積天坂遺跡は、南側を能登半島の宝達山から続く丘陵と北側を余川川に挟まれた沖積平野の奥に位置する。縄文時代から近世までの遺構・遺物を検出し、主に弥生時代後期～終末期、平安時代、室町時代、江戸時代の集落が形成され遺跡の主体的な時期となっている。

縄文時代は、遺跡の南西端（A 1 地区）に谷部を埋積した土壤から土器が出土している。遺構の時期は後期前葉（気屋式期）。

弥生時代は、遺跡の東側（A 2 地区）で堅穴建物 2 棟、掘立柱建物 1 棟、溝、土坑を伴う集落がつくられる。遺構の時期は後期後半（法仏式）～終末期（月影式）を主体とする。

古代は、遺跡の東側（A 2 地区）で掘立柱建物 1 棟、溝、土坑からなる小規模な集落と自然流路がある。遺構の時期は平安時代（9世紀）を主体とする。

中世は、遺跡の南側（A 1 地区）で自然流路と丘陵に囲まれたテラス状の台地部に掘立柱建物 1 棟、区画溝、井戸、土坑などからなる小規模な集落が形成される。遺構の時期は室町時代（15世紀）を主体とする。遺跡の北側（B 地区）でも農耕に関わる溝群があるが詳細時期は不明。

近世は、中世同様にテラス状の台地部で遺構が形成される。南西部に大量の陶磁器が破棄された大きな落込状遺構がありその周間に埋桶や区画溝、東部に溜池がつくられ、小規模な居住地と水田もしくは畑作に関わる農作地が形成される。遺構の時期は江戸時代（17～18世紀）。

2 層 序

調査区は A 1 ・ A 2 ・ B の 3 地区に分かれ、それぞれ層序も異なる。

A 1 地区では I 層：7.5Y4/1灰色シルト（耕作土・盛土）、II 層：25Y3/2黒褐色シルト（中世～近世の遺物包含層）、III 層：2.5Y6/2灰黄色粘質土（遺構検出面・無遺物層）、IV 層：5G Y6/1オリーブ灰色粘質土（無遺物層）、V 層：10Y R3/2黒褐色ローム（有機質層・遺物包含層）、VI 層：7.5G Y5/1緑灰色砂質ローム（谷部埋積土・遺物包含層）、VII 層：10Y5/1灰色粘質土（遺構検出面・無遺物層）。調査区の大半を III 層まで削平を受けており、II 層はわずかにしか残っていない。IV 層以下は調査区各所で深掘りを行い、VI・VII 層は南西端のみで確認し調査を行った。

A 2 地区では I a 層：表土（耕作土）、I b 層：5Y4/1灰色粘質土（盛土）、III 層：7.5Y4/1灰色粘質土（遺構検出面・無遺物層）となり、遺物包含層（II 層）がなく I 層直下が検出面となっている。地山を削平して整地しているため全体に平坦な地形で、現況の標高は 4.7～5.0m を測る。

B 地区では I 層：10Y4/2灰黄褐色粘土質シルト（耕作土・盛土）、II 層：25Y3/2黒褐色粘質土（遺物包含層）、III 層：2.5G Y5/1オリーブ灰色粘質土（遺構検出面・無遺物層）。他の地区に比べ遺構・遺物が極端に少ない。

全地区的層序を時代別にまとめると、縄文時代の遺構は A 1 地区 VII 層上面で検出し、VI 層に遺物包含層を形成する。弥生時代の遺構は A 2 地区 III 層上面で検出した。A 1 地区では遺構はないが V 層中に弥生土器片をわずかに包含する。古代の遺構は A 2・B 地区 III 層上面で検出し、II 層に遺物包含層を形成する。中・近世の遺構は A 1 地区 III 層上面で検出し、II 層に遺物包含層を形成する。

3 遺構と遺物

(1) 縄文時代

A 谷

1号谷 (S R 1, 第7・41図, 図版7・15)

A 1地区の南西端に位置する。南側の丘陵部から北側の平野部に向かって蛇行しながら広がっていた谷。標高は4.9~5.2m。幅は谷奥で2m、開口部で6m以上。深さは0.1~0.35m程度。埋土から土器の破片が数点出土。遺物の時期は後期前葉気屋式に限定され、短期間の足跡しか見られない。中世~近世の下に無遺物層を挟んで地下深くにバックされた状態で検出されたため、これまで考えられていない深さからの縄文土器の出土である。氷見地域では地すべりが多く、上久津呂中屋遺跡(島田ほか2013)や加納谷内遺跡(新宅2006)で、縄文時代の谷や包含層が後世の擾乱を受けない状況でバックされてみつかる例が最近増えている。稲積天坂遺跡ではそれらの遺跡ほど遺物の量も質も良くはないが同様な埋積とみられ、氷見地域における地形変遷を考える上で重要な資料となろう。

遺物は縄文土器で後期後葉気屋式の破片のみ。すべてS R 1埋土(VI層)中からの出土。177は口縁部に円筒形の突起をつける浅鉢。富山市布尻遺跡(富山県埋蔵文化財センター2013)で類例がある。178は屈曲する口縁部内側に末端刺突を伴う沈線を施す深鉢。外面は摩滅して調整は不明。179~182は深鉢底部。いずれも摩滅が激しいが181・182は外面に縦位の縄文を施す。179・182は底面外側に網代痕を残す。

(町田賢一)

(2) 弥生時代

A 壘穴建物

130号竪穴建物 (S I 130, 第9・30・48図, 図版1・8・15・21・38)

A 2地区南端に位置する。調査区段とS D 1・S D 12に切られ、建物の一部を検出した。長さ6.84m、幅6.04m、検出面から床面までは0.1mの深さを測る。平面形は8m×8m以上の規模をもつ隅丸方形もしくは多角形の建物と想定される。埋土は黄灰色粘質土の単層となる。

床面上ではK 1~K 8、壁周溝を検出した。K 2、K 8は後述するS I 153の例から柱穴であった可能性がある。埋土は黄灰色粘質土の単層で、それぞれ弥生土器が廃棄されていた。K 1は他の土坑と比較すると炭化物を多く含むが、周辺に焼土は検出されなかった。その他の土坑の用途は不明である。壁周溝は、床面からの深さは0.26mを測る。壁周溝埋土は建物内と同様の黄灰色粘質土である。

遺物には弥生土器、緑色凝灰岩石核、緑色凝灰岩剥片、鉄石英剥片、ヒスイ製勾玉(271)、ガラス小玉(273)がある。またK 1からは弥生土器、緑色凝灰岩製管玉(272)、緑色凝灰岩剥片、鉄石英剥片、K 2からは弥生土器(2・3)、加工石器(270)、緑色凝灰岩剥片、鉄石英剥片、K 8からは弥生土器(1)、緑色凝灰岩剥片、鉄石英剥片が出土した。

1は有段壺で肩部に刺突文を施す。底部は火を受けており赤色に変色している。2は有段高杯で脚部は外反しそのまま裾部にいたる。透孔は1箇所確認した。3は焼成前に1孔を穿孔した有孔鉢。これらは弥生時代後期後半から終末の時期が考えられる。270は頁岩製の加工石器。扁平疊の周縁に剥離痕がみられ、表面の一部には剥離後の擦痕や線刻と思われるものが確認できる。271~273は玉類の完成品。このほかに少量であるが緑色凝灰岩石核、緑色凝灰岩剥片、鉄石英剥片が出土しており、この建物内で玉作りが行われたと考えられる。なお、玉類や石製玉作関連遺物、ガラス小玉は土壤洗浄

によりみつかったものである。

153号竪穴建物（S I 153、第10・11・30図、図版9・16・22）

A 2地区北西に位置する。古代のS D154に切られるが、建物全体を検出した。東西方向11.4m、南北方向11.0m、検出面から床面までは0~0.1mの深さを測る。平面形や主柱穴の数から隅丸五角形の竪穴建物である。埋土は黄灰色粘質土の単層となる。

床面上ではK 1~K21、壁周溝を検出した。K 1・4・9・17・20は主柱穴となる。K 4~K 6は同一箇所の柱穴と考えられるが、切り合いが最も新しいことや位置から最終的にK 4が使用されたようである。また、主柱穴間の中央にはそれぞれ規模が小さく浅いK 3・8・11・15があり、補助柱穴と考えられる。K 3の壁周溝側にはK 2、K 15の壁周溝側にはK 18があり、それぞれ補助柱穴よりもさらに小規模で浅い。位置から、補助柱穴の支柱となるものかもしれない。埋土は黄灰色粘質土の単層である。K 20では弥生土器（4）が廃棄されていた。K 1・3・9・11・17ではそれぞれ弥生土器小片が出土した。K 21は不整形の深い土坑で、焼土や炭化物がみられ炉と考えられる。K 7は埋土が他と異なり黒褐色粘質土で、水分を多く含んでいた。遺物が出土していないため時期は不明であるが、S I 153とは別時期の井戸の可能性がある。その他の土坑の用途は不明である。壁周溝は、五角形に全周し、一辺6.6~7.2mの規模で、床面からの深さは0.1mを測る。壁周溝埋土は竪穴建物と同様の黄灰色粘質土となる。

遺物には弥生土器がある。4は平縁甕で、ほかは完形で出土した。弥生時代終末から古墳時代初頭の時期のものである。5は蓋で、つまみにわずかにミガキがみられる。

B 挖立柱建物

1号掘立柱建物（S B 1、第12図、図版6・9）

A 2地区中央に位置する。桁行2間（3.35m）、梁行1間（2.7m）、面積9.05m²を測る。主軸方向はN-10°-Wの南北棟である。柱穴埋土は竪穴建物と同様で黄灰色粘質土の単層である。遺物はS P 126から弥生土器が出土した。

C 溝

132号溝（S D132、第8・12図）

A 2地区南側に位置する。古代のS D122に切られる。埋土は黄灰色粘質土の単層である。位置からS I 130の周溝の可能性が考えられるが、統きとなる溝がみつかっておらず、詳細は不明である。遺物は弥生土器が出土した。

156号溝（S D156、第8・12図）

A 2地区北側に位置する。竪穴建物S I 153に切られる。埋土は黄灰色粘質土に地山が混入する単層である。遺物は出土していない。

160号溝（S D160、第8・12・31~34図、図版10・16~22）

A 2地区北側に位置する。弥生時代のS D162に切られる。埋土は黄灰色粘質土が基本となるが、中層は炭化物が混入、下層は少量の炭化物や地山が混入する。炭化物が混入する中層から多くの弥生土器が出土した。遺物は弥生土器（6~66）のほか、不明石材の剥片が出土した。6~33は甕。外面ハケメ、内面にはヘラケズリを施す。6~13は擬四線甕。6は大型の甕。口径29.9cm、底径5.3cmで、器高は43.5cmに復元した。14~30は有段甕。23~25は肩部に刺突文を施す。26~30は口径の小さなものの。26は底部の外面にススがみられる。31~33は平縁甕。34~42は壺。摩耗しているものが多いが、42の外面にミガキを施すほかはハケメを施す。40は台付壺の口縁か。41は擬四線壺。42は有段

壺。43は台付壺。44～47は器台。48～58は高杯。59～61は鉢。62・63は有孔鉢。64～66は蓋。弥生時代後期後半の時期のものである。

A 2 地区の北側に隣接するB地区では弥生時代の遺構はみつかっておらず、このS D160や後述するS D162が弥生時代の集落の北端になる。

162号溝（S D162、第8・12図、図版18・19・21）

A 2 地区北側に位置する。弥生時代のS D160を切り、古代のS D123に切られる。埋土は黒褐色粘質土の単層で、前述したS D160よりも浅い。遺物は弥生土器（67～71）が出土した。67は受口壺。68は台付壺で、外面には赤彩を施す。69は高杯。70・71は鉢。

D 土 坑

105号土坑（S K105、第13図）

A 2 地区南側に位置する。埋土は黄灰色粘質土に炭化物と地山が混入する単層である。遺物は弥生土器が出土した。

107号土坑（S K107、第13・34図、図版19）

A 2 地区南側に位置する。埋土は黄灰色粘質土が基本となるが、中層は炭化物層、下層は少量の炭化物や地山が混入する。遺物は弥生土器が出土した。72は有段壺。口縁外面にはスヌが付着する。

108号土坑（S K108、第13・34図、図版20）

A 2 地区南側に位置する。埋土は黄灰色粘質土が基本となるが、中層は炭化物が少量混入、下層は地山が混入する。遺物は弥生土器が出土した。73は壺の底部。

109号土坑（S K109、第13図）

A 2 地区南側に位置する。埋土は上層が黄灰色粘質土に炭化物が少量混入、下層が黒褐色粘質土となる。遺物は弥生土器が出土した。

110号土坑（S K110、第13図）

A 2 地区南側に位置する。埋土は黄灰色粘質土に炭化物が少量混入する。遺物は弥生土器がある。

135号土坑（S K135、第13図）

A 2 地区中央西寄りに位置する。埋土は黄灰色粘質土の単層である。遺物は弥生土器が出土した。

138号土坑（S K138、第13図）

A 2 地区中央西寄りに位置する。埋土は黄灰色粘質土の単層である。深さが0.32mあり、建物や構などの柱穴であった可能性がある。遺物は弥生土器が出土した。

139号土坑（S K139、第13図）

A 2 地区中央西寄りに位置する。埋土は黄灰色粘質土の単層である。深さが0.54mあり、建物や構などの柱穴であった可能性がある。遺物は弥生土器が出土した。

142号土坑（S K142、第13図）

A 2 地区中央西寄りに位置する。埋土は黄灰色粘質土の単層である。遺物は弥生土器が出土した。

143号土坑（S K143、第13図）

A 2 地区中央西寄りに位置する。埋土は黄灰色粘質土の単層である。遺物は弥生土器が出土した。

152号土坑（S K152、第13・34図）

A 2 地区中央西寄りに位置する。埋土は黄灰色粘質土の単層である。遺物は弥生土器が出土した。74は高杯の底部。S K135・142・143・152はまとまって位置し、長方形で底が平坦という共通点がある。遺物が少なく用途を特定できないが、建物から近いことから貯蔵穴の可能性を考えたい。

167号土坑（S K167、第13・34図、図版20）

A 2地区北端に位置する。調査区境に切られる。埋土は黄灰色粘質土に炭化物が少量混入する。遺物は弥生土器が出土した。75は有段壺でスヌが付着する。76は壺の底部。

(3) 古代

A 捩立柱建物

2号擗立柱建物（S B 2、第15図、図版6・11）

A 2地区中央西寄りに位置する。桁行2間（3.75m）、梁行1間（2.7m）、面積10.13m²を測る。主軸方向はN-8°-Eの南北棟である。主軸方向に並行してSD 150がある。柱穴埋土は炭化物が混入する黒褐色粘質土の単層である。遺物はSP 145から弥生土器が出土したが、小片で流れ込みと考えられる。

B 溝・自然流路

1号自然流路（SD 1、第17・23・53図、図版11・19・20・22・25～28）

A 1・A 2地区にかかる自然流路。包蔵地確認調査でA 1地区北側とA 2・B地区西側は全面自然流路であることが判明したため、調査対象外となつたが、SD 1の続きが広範囲に広がっている。弥生時代の堅穴建物SI 130を切り、古代のSD 122・123・134に切られており、弥生時代後期から古代の遺構である。包蔵地確認調査の結果から全体図上に復元線を入れたが（第6図）、B地区SD 201も一部となる可能性がある。埋土は3～5層に分かれ、何度か流れを変えているのかもしれない。A 1地区で数カ所深掘りを行った結果底面付近から珠洲が出土しており、A 1地区では中世を主体とする。

遺物は弥生土器（77・78）、須恵器（79）、中世土師器（80～82）、珠洲（85～92）、瀬戸（83・84）、越中瀬戸、肥前陶磁器、桶板、砥石が出土した。77は弥生土器の有段壺。口縁部内外面にスヌが付着する。78は弥生土器の壺。出土したのは頭部のみであるが器壁が厚く重さがあり、胴部も更にしっかりしたものであつただろう。外面はハケメ後ミガキ、内面はナデ後一部にミガキを施す。77・78はA 2地区SI 130に近い地点で出土した。79はかえりの付く須恵器杯で、底部はヘラ切り後未調整。7世紀代のもの。80～82は中世土師器の皿。いずれも1段ナデを施す。83・84は瀬戸の瓶子。85～92は珠洲の擂鉢、壺、壺。第II 2期～第IV 2期までのものがみられる。

122号溝（SD 122、第14・15図）

A 2地区南端から北側に向かって流れる溝。A 2地区中央付近では同様に並行して流れるSD 123に合流する。埋土は暗灰黄色粘質土の単層である。遺物は弥生土器が出土したが、流れ込みである。

123号溝（SD 123、第14・15・36図、図版11・19・20・22～24・26・39・40）

A 2地区南端から北側に向かって流れる溝。同様に並行して流れるSD 122がA 2地区中央付近で合流する。更に北上してB地区SD 208が続きとなる可能性がある。埋土は上層が灰色シルト、下層が灰色砂となる。遺物は弥生土器（93・94）、土師器（95・96）、須恵器（97～108）、珠洲（109）、凹石（263）、砥石（267）が出土した。93は弥生土器の有段壺、94は弥生土器の平縁壺。95は土師器の皿で、ロクロ成形後回転糸切りを施す。96はロクロ成形の土師器壺で、内外面にスヌが付着する。97～99は須恵器の壺。97は内面全面に墨痕、98は内面にヘラ記号の一部が確認できる。97は頂部に回転ヘラ切り後ナデを施し、98・99は頂部に回転ヘラケズリを施す。100は須恵器の杯A、101～104は杯B。102～104は高台内にヘラ記号が確認できる。105は須恵器の鉄鉢で、焼成は悪い。ロクロ成形後外面は回転ヘラケズリを施す。106は須恵器の瓶の頭部。107は平瓶の頭部で、胴部中心の内面には閉塞円板が

確認できる。口縁付近には1条の沈線が巡る。*I08*は須恵器の瓶で、胴部下部は回転ヘラケズリを施す。底部は静止糸切りである。S D154から出土した破片と接合した。土師器、須恵器は古代のもので、S D123では古代の遺物が最も多く出土した。8～9世紀代のものが中心となる。*I09*は珠洲のT種の壺で、第V期頃のもの。*263*は凹石で、表面、裏面、側面に敲打痕が顕著にみられる。表面、裏面中央は摩耗による平坦面がみられる。*267*は砥石で、6面全面を砥面として使用している。砥面は平滑で、擦痕が顕著にみられる。

134号溝（S D134、第14・15図）

A 2地区南側に位置する。埋土は地山が混入する黒褐色粘質土の単層である。出土遺物はない。

150号溝（S D150、第14・15図、図版11）

A 2地区中央西側から北西方向に位置する。埋土は炭化物が混入する黒褐色粘質土の単層である。S D154を切る。遺物は出土していない。

154号溝（S D154、第14・15・36図、図版23）

A 2地区北側に位置する。弥生時代の堅穴建物 S I 153を切り、古代のS D123・S D150に切られしており、弥生時代後期から古代の時期の遺構である。埋土は炭化物を含む褐灰色粘質土の単層である。遺物はS D123との接合資料である須恵器 (*I08*) が出土した。

201号自然流路（S D201、第14・15・36図、図版19・21・24）

B地区西側に位置する。先述したS D 1の続きとなる可能性がある。遺物は弥生土器 (*I10*～*I14*)、土師器、打製石斧が出土した。*I10*は有段甕、*I11*は口縁部に段をもつ壺。*I12*・*I13*は高杯で、*I12*是有段の脚部。竹管のスタンプ文が外面に3個確認できる。*I14*は無頭鉢。

208号溝（S D208、第14・36・48図、図版20・41）

B地区東側に位置する。位置関係から、先述したS D123の続きとなる可能性がある。遺物は弥生土器 (*I15*)、土師器、須恵器、珠洲、中国製青磁、越中瀬戸、肥前磁器、砥石、紡錘車 (275)、刀子 (277)、銅錢 (278) が出土した。*I15*は弥生土器の甕で、内外面に条痕を施す。弥生時代中期前半のものと考えられる。275は紡錘車で紡輪と紡茎が組み合わさったほぼ完形のもの。277は断面の形状から刀子と考えられるもの。278は銅錢で、皇宋通寶(初鑄1039年)である。

C 土 坑

125号土坑（S K125、第15図）

A 2地区南端に位置する。S D123を切る。埋土は褐灰色粘質土の単層で、弥生土器が出土した。

(高柳由紀子)

(4) 中 世

A 掘立柱建物

3号掘立柱建物（S B 3、第18・45図、図版6・7・12・35）

A 1地区的中央北側に位置。柱穴はS P16・18・23・25・26・29の6基。桁行1間 (4.84m)、梁行2間 (4.26m) の1×2間の側柱式。建物面積は20.62m²。北側にあるS P27は棟持柱の可能性があるが浅い。主軸方向はN-3°-W。柱穴の深さは0.22～0.56m。柱穴 S P26に柱根 (253) が残っていた。柱根の樹種はケヤキで芯持丸木材。富山県内では中世には柱根にいろいろな樹種を使う傾向(町田2003)にあるがケヤキの利用は少ない。S P16・18では柱痕が残る。建物内部には建物施設の可能性がある柱穴 S P20と間仕切りの可能性があるS A 6がある。建物の西側には櫛 (S A 1・2) 2基、北側には溝 (S D30) 1条、南西に井戸 (S E22) 1基があり、その位置や主軸方向が併行しているこ

とから建物の付随施設と考えられる。遺物は S P 18・26から中世土師器と珠洲が出土しているが、いずれも小片で図化していない。時期は15世紀と考える。

B 檻

1号檻 (S A 1, 第18・45図, 図版12・35)

A 1地区の中央北側に位置。柱穴 S P 13・15・17・19の4基からなる2間+1間の檻。主軸方向はN-3°-W。柱穴の深さは0.31~0.48m。柱穴 S P 17に柱根(251)が残っていた。柱根の樹種はクリで芯持丸木材だがくの字状に屈曲した形状で自立していたかは疑わしい。S P 15・19では柱裏が残る。S A 2とともにS B 3の西側付属施設と考えられる。遺物は出土していない。時期はS B 3同様に15世紀と考える。

2号檻 (S A 2, 第18図)

A 1地区の中央北側に位置。柱穴 S P 12・21の2基からなる1間の檻。主軸方向はN-3°-W。柱穴の深さは0.2~0.5m。S A 1とともにS B 3の西側付属施設と考えられる。遺物はS P 21から中世土師器が出土しているが小片で図化していない。時期はS B 3同様に15世紀と考える。

3号檻 (S A 3, 第19図)

A 1地区のはば中央に位置。柱穴 S P 35~37の3基からなる2間の檻。主軸方向はN-71°-W。柱穴の深さは0.08~0.2m。井戸(S E 41・46)・土坑群(S K 33・47)と区画溝(S D 49)に併行して走っておりこれらの境界を示すものとみられる。遺物は出土していない。時期は井戸出土遺物から15世紀と考える。

6号檻 (S A 6, 第18図)

A 1地区の中央北側でS B 3内に位置。柱穴 S P 24・28の2基からなる1間の檻。主軸方向はN-3°-W。柱穴の深さは0.15~0.24m。S B 3と主軸を同じくし、その内部にあることから間仕切りの可能性がある。遺物はS P 24から中世土師器が出土しているが小片で図化していない。時期はS B 3同様15世紀と考える。

C 柱 穴

32号柱穴 (S P 32, 第19・45図, 図版36)

A 1地区のはば中央に位置。空閑地に単独で検出した柱穴。深さは0.48m。出土遺物はないが、柱根(25f)が残っていた。柱根の樹種はクリで芯持丸木材。時期は周辺の遺構から15世紀と考える。

38号柱穴 (S P 38, 第19図)

A 1地区の中央東側に位置。区画溝S D 49の北側に単独で検出した柱穴。深さは0.52m。遺物は出土していないが柱根が残っていた。時期は周辺の遺構から15世紀と考える。

39号柱穴 (S P 39, 第19・45図, 図版35)

A 1地区のはば中央に位置。単独で検出した柱穴。深さは0.68m。遺物は出土していないが柱根(252)が残っていた。柱根の樹種は他の柱根同様にクリで芯持丸木材。S E 46の北西にあり上屋など付属施設の可能性もある。ただ、柱根は長さ59cm、幅12cmと他の出土品と比べ長く大型で地中深くまで打ち込んでおり、建物以外の用途も考える必要がある。時期は周辺の遺構から15世紀と考える。

D 溝

30号溝 (S D 30, 第17・20図)

A 1地区の中央北側に位置。S B 3の平行方向に併行して走る。幅0.4m、深さ0.06m。S B 3の雨落溝もしくは北側の自然流路S D 1との区画溝か。溝底にはピットが2基あり上部に柵状の構築物が

あったのかもしれない。遺物は中世土師器と珠洲が出土しているが小片で図化していない。時期はSB3と同様に15世紀と考える。

43号溝（SD43、第17・20図）

A1地区の南東に位置。ほぼ東西に走る。幅0.64m、深さ0.09m。近世の溜池SG34に切られるがSD49と連結していたものとみられる。溝の北側にあるSB3を含む居住域と南側の空閑地とを区画する役割を持つ。遺物は出土していない。時期は周辺の遺構から15世紀と考える。

49号溝（SD49、第17・20図）

A1地区のはば中央に位置。ほぼ東西に走り東側で南方向に屈曲する。幅0.32m、深さ0.1m。近世の溜池SG34に切られるがSD43と連結していたものとみられる。溝の北側にあるSB3を含む居住域と南側の空閑地とを区画する役割を持つ。遺物は越中瀬戸、肥前陶磁器、永楽通寶が出土しているが小片で図化していない。時期は周辺の遺構から15世紀と考える。 (町田賢一)

212号溝（SD212、第16・47図、図版39）

B地区中央に位置する。埋土は炭化物がわずかに混入する暗オリーブ褐色粘土の単層である。周辺の同様な遺構の遺物が多岐にわたり、明確な時期は不明であるが、中世以降と考えられることから、中近世としておく。遺物は砥石(266)が出土した。4面を使用している。砥面は平滑で擦痕が顕著にみられる。表面、裏面は大きく板状剥離し、欠損している。 (高柳由紀子)

E 井戸

14号井戸（SE14、第21・37図、図版25）

A1地区の西側に位置。区画溝SD49の西側。平面形は円形で直径1.08m、深さ1.52m。素掘りで掘り方は逆台形状。遺物は中世土師器が出土。II6は中世土師器皿でNDII類。つくりが粗雑で底面に胎土から小石が飛び出している。時期は出土遺物から15世紀と考える。

22号井戸（SE22、第21・44図、図版33）

A1地区的中央北側に位置。SB3の南西隣。平面形は円形で直径0.8m、深さ0.8m。素掘りで掘り方は2段の逆台形状。埋土は3層に分層できる。遺物は漆器椀、板材、竹筒が出土。247は漆器椀の底部。高台部を欠損。内面に黒漆地に赤漆で半円形の文様を描画。外表面は黒漆のみ。材はトチノキ。板材の存在から井戸枠があった可能性もある。図化していないが竹筒は息抜き祭祀に使われたものとみられる。遺構の時期は出土遺物から15世紀と考える。

41号井戸（SE41、第21・37図、図版13・27）

A1地区的ほぼ中央に位置。SK33・47とSE46と並ぶ。平面形は不整形で長軸1.46m、深さ0.58m。現状では掘り方逆台形の素掘りだが疊と井戸枠材が崩壊して埋土に入ってしまっており石組に木製井戸枠があったものとみられる。埋土のあり方もそれに対応する。遺物は土師器、珠洲、粘土塊、井戸枠材、礫が出土。土塊は能登地方で井戸に多く入れられる珪藻土ブロックに相当する(岩瀬2001)。II7は珠洲の片口鉢。体部に卸目、口縁内面に櫛目波状文を6本1単位でつける。内面の一部にはススが付着。V期に相当。遺構の時期は15世紀と考える。

46号井戸（SE46、第21・37・44・46・47図、図版13・25～27・34・39・40）

A1地区的ほぼ中央に位置。SK33・47とSE41と並ぶ。平面形は不整形で長軸1.76m、深さ1.8m。縦板組隅柱横棟留井戸枠。遺物は中世土師器、珠洲(II～V期相当)、中国製白磁、粘土塊、木像、曲物、井戸枠材、敲石、砥石が出土。白磁と木製品の多くは埋土の下層から出土。II8は中世土師器皿のNJ類。15世紀。II9は珠洲の甕でIV期相当。破断面に補修剤とみられる漆が付着。14世紀。

I20は珠洲の擂鉢、体部に7条1単位の御目、口縁内面に5本1単位の櫛目波状文をつける。V期相当。15世紀。249は木像。頭部に冠を戴き袍を着す半身像。神像か。ノミや刀子などで作り出したままの荒彫り。像高11.1cm。虫歯で左腕を欠損するが胸前の衣中で拱手していたものとみられる。冠部に墨彩が残る。顔面は目の表現はないが鼻と口を削りこんでつくりだす。右腕には横方向の抉りがある。樹種はアスナロ。樹種同定を行っている神像は少ないが大半はヒノキと考えられており(児島2013)、樹種同定結果も貴重な資料となろう¹¹⁾。北陸地方では12~14世紀に井戸の祭祀として形代を入れる例はある(岩瀬2001)が木像はない。当遺構は時期が15世紀とみられることから形代とは異なる祭祀に変化したのかもしれない。269は砥石。上下端部を欠損。砥面は3つ。細かい擦痕が見える。下部にはスス付着。遺構の時期は出土遺物と周辺の遺構から15世紀と考えられる。

50号井戸 (S E 50, 第21図)

A 1 地区の西側に位置。S D49に切られる。平面形は円形で直径1.34m、深さ0.88m。素掘りで掘り方フ拉斯コ状。遺物は珠洲、肥前陶磁器が出土。遺構の時期は出土遺物と周辺の遺構から15世紀と考えられる。

56号井戸 (S E 56, 第22・37・44図、図版12・25・26・33)

A 1 地区の中央東側に位置。平面形は不整形で長軸3.52m、深さ1.42m。側面に平石を貼る石組井戸。大きな掘り方で他の井戸と近接していないことから用途や時期差があるのかもしれない。遺物は中世土師器、珠洲(Ⅲ~IV期相当)、漆器椀、下駄、井戸棒材、粘土塊が出土。覆土に土塊が多く含まれていた。I21~I25は中世土師器皿。いずれもN J類で15世紀とみられる。I21は口縁部に油煙が付着し灯明皿とみられる。I26・I27は珠洲の甕。I26は破断面に補修用の漆が付着。IV期相当で14世紀。I27は内面にスス付着。III期相当。246は漆器椀。内外面黒漆に赤漆で描画。材はブナ属で横地柾目。248は隅丸方形の連歛下駄。方形の緒穴を3箇所、前方の緒穴には両脇に小穴をもつ。材はヒノキの板目。遺構の時期は出土遺物から15世紀と考えられる。

F 土 坑

33号土坑 (S K 33, 第20図)

A 1 地区のほぼ中央に位置。S K47とS E 41・46と並ぶ。平面形は円形で直径1.16m、深さ0.22m。深さはないが大型で他の井戸との配置から溜井かもしれない。遺物は柱根が出土。時期は周辺の遺構から15世紀と考える。

47号土坑 (S K 47, 第20図、図版13)

A 1 地区の中央東側に位置。S K33とS E 41・46と並ぶ。平面形は隅丸方形で長軸1.24m、深さ0.53m。深さはないが大型で他の井戸との配置から溜井かもしれない。遺物は珠洲甕・鉢、粘土塊が出土。遺構の時期は出土遺物と周辺の遺構から15世紀と考える。

(5) 近 世

A 檻

4号檻 (S A 4, 第19・45図、図版36)

A 1 地区の西端に位置。柱穴 S P61・62の2基からなる1間の檻。主軸方向はN-25°-W。柱穴の深さは0.16~0.3m。柱穴 S P61には柱根(255)が残っていた。柱根の樹種はクリで芯持丸木材。遺物は中世土師器が出土しているが小片で図化していない。遺構の時期は周辺の遺構から時期は17~18世紀と考える。

¹¹⁾ 金子秀明氏によれば古代の一本脚像はカヤと同定されるものが多い(金子2006)。

5号構（S A 5、第19・45図、図版12・36）

A 1 地区の南西端に位置。柱穴 S P 65～67の3基からなる2間の構。主軸方向はN-49°-W。柱穴の深さは0.38～0.48m。柱穴にはいずれも柱根が残っていた。S P 67の柱根(256)樹種はクリで芯持丸木の半截材。遺物は出土していない。遺構の時期は周辺の遺構から時期は17～18世紀と考える。

B 溝

6号溝（S D 6、第17・24図、図版25・29～32）

A 1 地区の南西側に位置。ほぼ東西に走る。S D 7とは直角に交わる。幅1.42m、深さ0.28m。遺物は珠洲（IV期相当）、肥前陶磁器が出土しているが小片で図化していない。遺構の時期は出土遺物と周辺の遺構から時期は17～18世紀と考える。

7号溝（S D 7、第17・24・38図、図版25・29～32）

A 1 地区の南西側に位置。ほぼ南北に走る。S D 51と併行に走り、S D 8と接続。両側に杭を打ち込んでおり護岸施設があったものとみられる水路。幅1.92m、深さ0.37m。遺物は須恵器、珠洲、越中瀬戸皿・鉢・壺、肥前陶磁器、加工石が出土している。I28は珠洲の壺。IV期相当。14世紀。I29は越中瀬戸の灰釉皿。17世紀。I30は肥前陶器。いわゆる刷毛目唐津の鉢。外面灰釉、内面に花弁と剣先状陰刻を施す。17世紀。I31～I33は肥前磁器。I31は染付椀、I32は染付皿、I33は瓶。いずれも18世紀。遺構の時期は出土遺物と周辺の遺構から時期は17～18世紀と考える。

8号溝（S D 8、第17・24・38図、図版29・31・32）

A 1 地区の西側に位置。ほぼ南北に走る。S D 7・51と接続する。両側に杭を打ち込んでおり護岸施設があったものとみられる水路。幅3.27m、深さ0.4m。遺物は珠洲、越中瀬戸、肥前陶磁器、桶板、砥石が出土している。I34は肥前磁器の染付椀。外面に团鶴文と松を配す。18世紀。遺構の時期は出土遺物と周辺の遺構から時期は17～18世紀と考える。

51号溝（S D 51、第17・24・38図、図版29）

A 1 地区の西端に位置。ほぼ南北に走る。S D 7と平行に走り、S D 8と接続。両側に杭を打ち込んでおり護岸施設があったものとみられる水路。幅2.26m、深さ0.34m。遺物は中世土師器、珠洲、越中瀬戸、肥前陶磁器が出土している。I35・I36は越中瀬戸。I35は鉄釉皿で底面回転糸切り。I36は鉄釉壺。17世紀。遺構の時期は出土遺物と周辺の遺構から時期は17～18世紀と考える。

53号溝（S D 53、第17・20図）

A 1 地区の西側に位置。凹型。幅2.98m、深さ0.6m。東側で中世のS D 49を切り、西側で近世水路S D 51に切られる。水田関係で自然流路S D 1に排水する水路か。遺物は珠洲、越中瀬戸、肥前陶磁器、永楽通寶が出土しているが小片で図化していない。遺構の時期は出土遺物と周辺の遺構から時期は17～18世紀と考える。

C 土 坑

3号土坑（S K 3、第17・29図、図版14）

A 1 地区の南西端に位置。S D 5に切られる。平面形は円形で直径1.12m、深さ0.08m。埋桶。桶は直径95cm、高さ13cm。桶は底部のみで底板と下段の蓋が残る。底板は6枚。便槽か。遺構の時期は出土遺物と周辺の遺構から時期は17～18世紀と考える。

9号土坑（S K 9、第29・47・48図、図版38・40）

A 1 地区の南西端に位置。約半分が調査区外で全体は不明。長軸3.4m、深さ0.4m。廃棄土坑か。遺物は珠洲、越中瀬戸、宝篋印塔、敲石が出土。274は宝篋印塔の笠部。上部を欠損し、上3段下2段のみ残る。風化が激しい。轟田石とみられ、坪池シャンドン遺跡（西井2002）の宝篋印塔と類似。

外面の傾斜度が強いことから15世紀以降とみられる。丘陵上にあったものが崩れて廃棄されたものか。264は円形の敲石。側面に敲打痕。表面は焼けており黒色化。時期は17世紀と考える。

48号土坑（S K 48、第29図）

A 1 地区の中央東側に位置。平面形は隅丸方形で長軸1.08m、深さ0.14m。遺物は肥前陶磁器が出土しているが小片で図化していない。時期は17~19世紀と考える。

57号土坑（S K 57、第29図、図版14）

A 1 地区の南西側に位置。S K 58と並ぶ。平面形は円形で直径1.52m、深さ0.27m。埋桶。桶は直径105cm、高さ18cm。桶は底部のみで底板と下段の蓋が残る。側板はなく、底板も散在。川原石が2つ入る。便槽か。遺物は珠洲が出土しているが小片で図化していない。時期は17~19世紀と考える。

58号土坑（S K 58、第29図、図版14）

A 1 地区の南西側に位置。S K 57と並ぶ。平面形は円形で直径1.32m、深さ0.21m。埋桶。桶は直径100cm、高さ21cm。桶は底部のみで底板と下段の蓋が残る。側板の一部と底板が残る。底板は6枚。便槽か。遺物は珠洲が出土しているが小片で図化していない。時期は17~19世紀と考える。

D 落込状遺構

2号落込状遺構（S X 2、第25~27・39・40・42・46・47図、図版24・25・27~32・37~39）

A 1 地区の南西端に位置。平面形は不整形で長軸15.1m、深さ0.52m。下層に湿地土、上層に整地土の2層の埋土からなる。近世陶磁器が大量に廃棄されていた。遺物は須恵器、珠洲、中国製青磁、越中瀬戸、肥前陶磁器、漆器椀、下駄、曲物底板、板材、磨製石斧、砥石、石臼が出土している。137は須恵器の杯H蓋。7世紀。138~144は珠洲。138は鉢。139は擂鉢でⅡ期相当。13世紀。140~143は甕でⅣ期相当。144は壺。145は中国製青磁椀。内面に花文を入れる。146~150は越中瀬戸。146は灰釉と鉄釉を塗り分ける口禿皿。147~148は壺。149~150は匣鉢。17世紀。151~161は肥前磁器。151~154は染付椀。154は広東椀で19世紀。ほかは18世紀とみられる。155~159は染付皿。160~161は染付蓋。18世紀。162~166は肥前陶器。162~163は染付椀。164はいわゆる内野山の皿。18世紀。165~166はいわゆる刷毛目唐津の鉢。167~171は瀬戸の椀。黄色味を帯びた灰釉を段々に施す。172は不明陶器。灰釉の椀。遺構の時期は出土遺物から17~19世紀と考える。

E 潜 池

34号潜池（S G 34、第25・40図、図版23・27）

A 1 地区の中央南に位置。中世の区画溝 S D 43・49を切る。平面形は不整形で長軸4.76m、深さ0.41m。遺物は珠洲、越中瀬戸、土鍤が出土している。173は土鍤。隅丸方形で表面摩滅。174は珠洲の擂鉢。V期相当。15世紀。遺構の時期は出土遺物から17~18世紀と考える。

54号潜池（S G 54、第28図）

A 1 地区のほぼ中央に位置。平面形は不整形で長軸9.0m、深さ0.44m。遺物は珠洲、瀬戸が出土しているが小片で図化していない。時期は周辺の遺構から17~18世紀と考える。

55号潜池（S G 55、第28・40図、図版25・32・34）

A 1 地区の中央東側に位置。平面形は不整形で長軸7.0m、深さ0.73m。遺物は須恵器、中世土師器、珠洲、肥前陶器、浮子状木製品が出土している。175は中世土師器皿。N J 類。15世紀か。176は肥前陶器の端反皿。内面に灰釉で渦巻文を描き底部内面と高台に砂目が溶着。250は浮子とみられる中空の木製品。棒材の上下に挟りを入れるが下端を欠損。材はウコギ属の芯持丸木。遺構の時期は17~19世紀と考える。

(町田賢一)

(6) 包含層出土遺物

A 土 器 (第41~43図、図版22~31)

弥生土器

183は広口壺。頭部に貼り付けの凸帯が巡る。184は蓋のつまみである。いずれも表面は摩耗が顕著である。両者とも弥生時代後期から古墳時代初頭のものである。

古代の土器・陶器

185~193・195~197は須恵器。185~189は蓋。185・189の頂部は回転ヘラケズリ、その他は回転ヘラ切り後ナデを施す。190~192は杯A、193は杯B。194は中空で器壁は1cm以上あり厚く、外側はナデ調整である。他に例がなく不明であるが、何かを象った土製品の一部と考えられる。195は高杯。脚部のみで透孔が1箇所確認できる。透孔の上には浅い沈線が巡る。196・197は壺。197は外面にカキメが確認でき、いずれも9世紀代のもの。

中世の土器・陶磁器

198~201は中世土師器の皿。全て口縁部に一段ナデを施すもので、口径から198~200はND II類、201はNC I類に分類できる。202~205は瀬戸。202~204は鉢皿。202は内面に僅かに鉗目が確認できる。205は平底で口縁部から胴部にかけて僅かに屈曲する。いずれも後期様式のもの。206~223は珠洲。206は鉗目がなく鉢、207~212は擂鉢、213~215は壺、216~223は甕。I期からV期までの各時期のものがみられる。224は中国製白磁の口禿の皿。225・226は中国製青磁の碗で、226には外面に連弁がみられる。227は中国製染付の皿。228は瓦質土器。 (高柳由紀子)

近世の土器・陶磁器

229~235は越中瀬戸。229・230は内外面鉄釉の皿。底部回転糸切り。230は底面にスス付着。231・232は内面と外面上位鉄釉の灯明受皿。底部回転糸切り。233~235は内外面鉄釉の壺。234は破断面に漆が残る。17世紀。236~242は肥前磁器。236~238は碗で外側に丸文・梅樹文などを配す。239~242は皿。241・242は高台に砂目が溶着。243・244は肥前陶器。243は碗で外側に唐草文を配す。釉薬の掛かり方が粗雑で底面の一部に胎土が見える。244は内面蛇の目剥ぎ、高台に砂目が溶着。17~18世紀。

B 土製品 (第43図、図版23)

245は土錘。梢円形で表面摩滅。

(町田賢一)

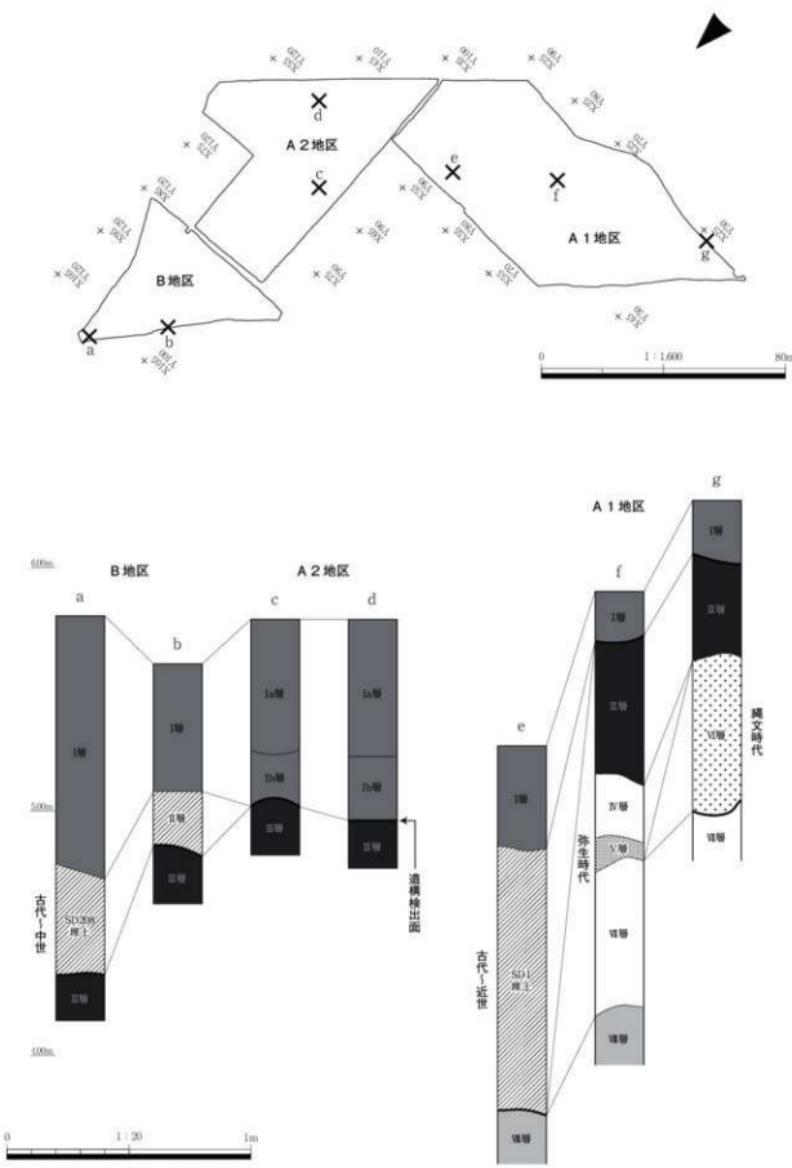
C 石製品 (第46・47図、図版37~39)

257は打製石斧。撥形で、礫皮をもつ縦長剥片を素材とする。表面の刃部周辺が特に摩耗しており、使用痕と考えられる。258・259は磨製石斧。258は刃部を欠損後端部の一部に微細な剥離痕がみられ、基部にも敲打による剥離痕がみられる。259は全体に丁寧な研磨を施すが、研磨痕より新しい敲打痕が多くみられる。いずれも敲石に転用したと考えられる。268は砥石。6面を使用している。砥面は平滑で擦痕が顕著にみられる。

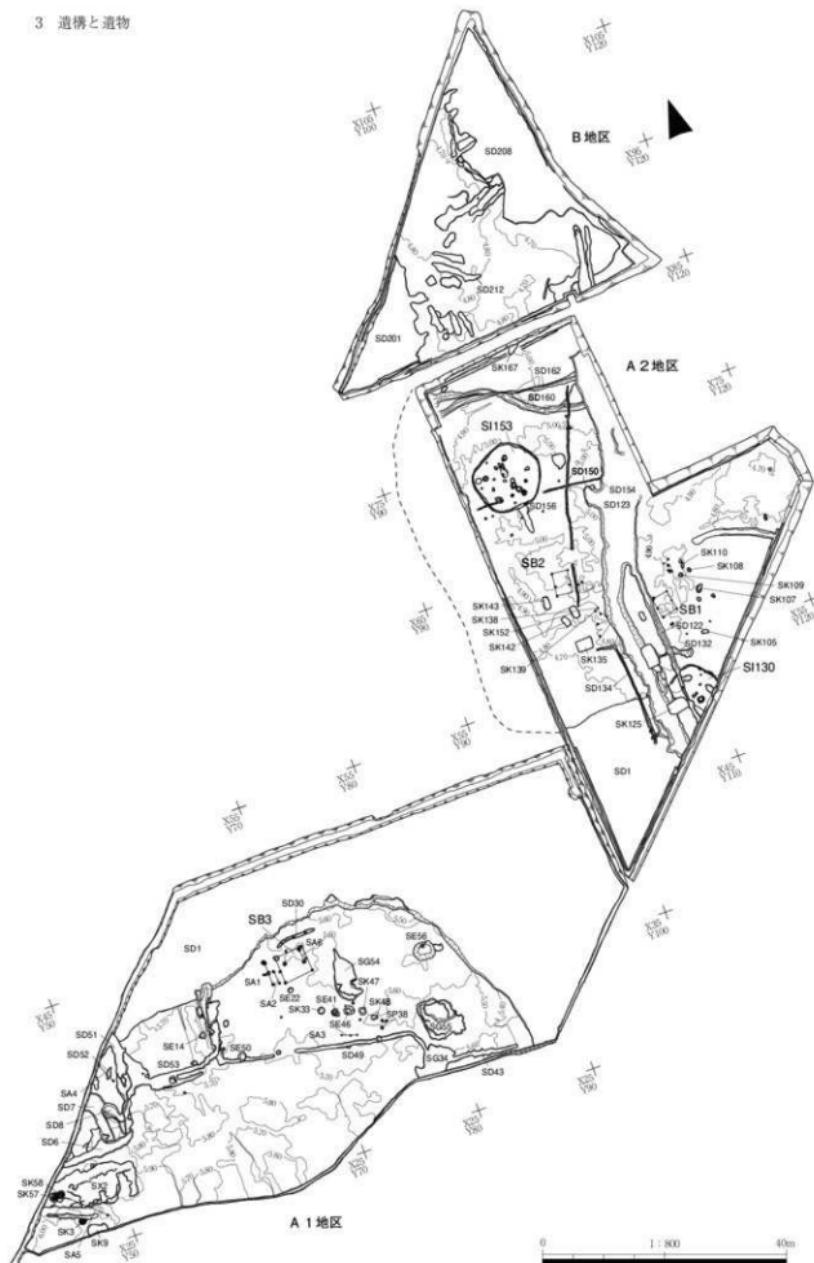
D 金属製品 (第48図、図版41)

276は紡錘車で紡輪のみの出土である。SD 208出土275のような形状をしていたのであろう。279は銅錢で、元豐通寶(初鑄1078年)である。

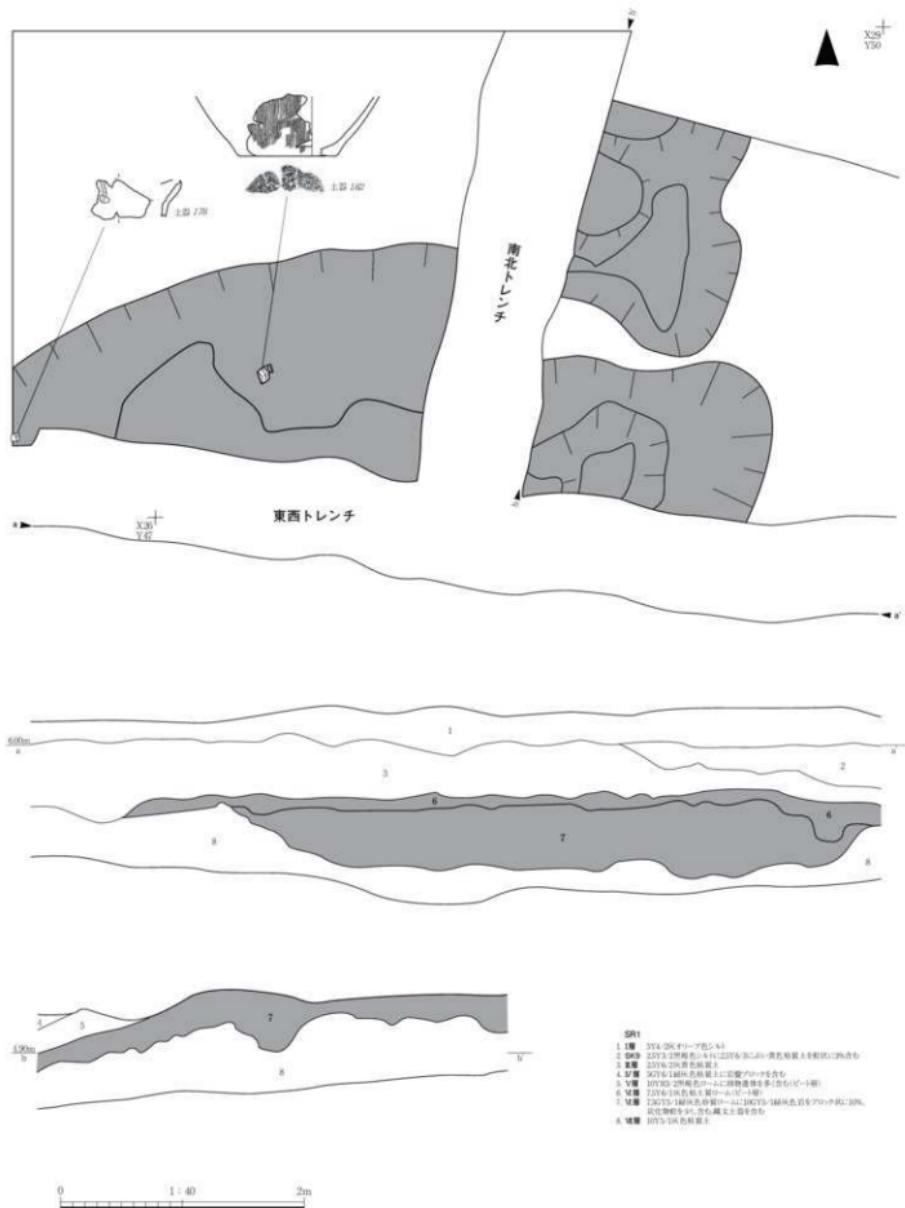
(高柳由紀子)



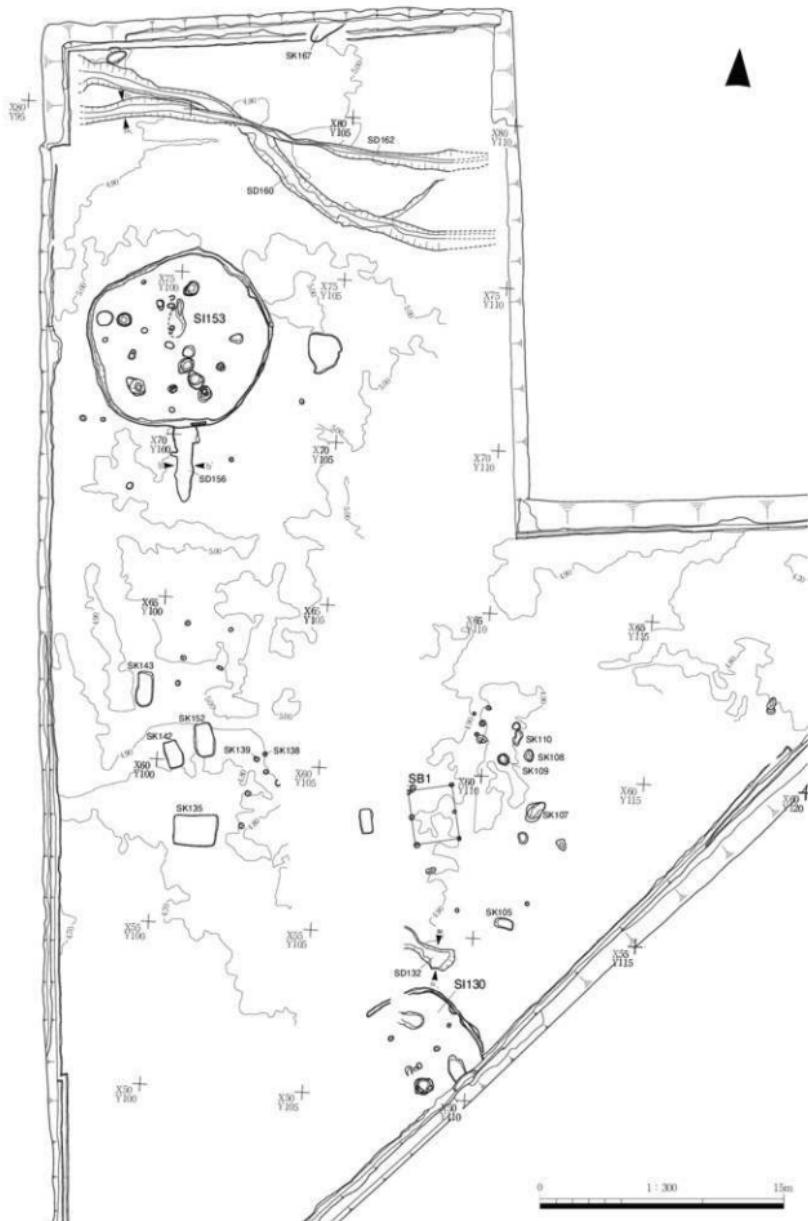
第5図 稲積天板遺跡 基本層序図



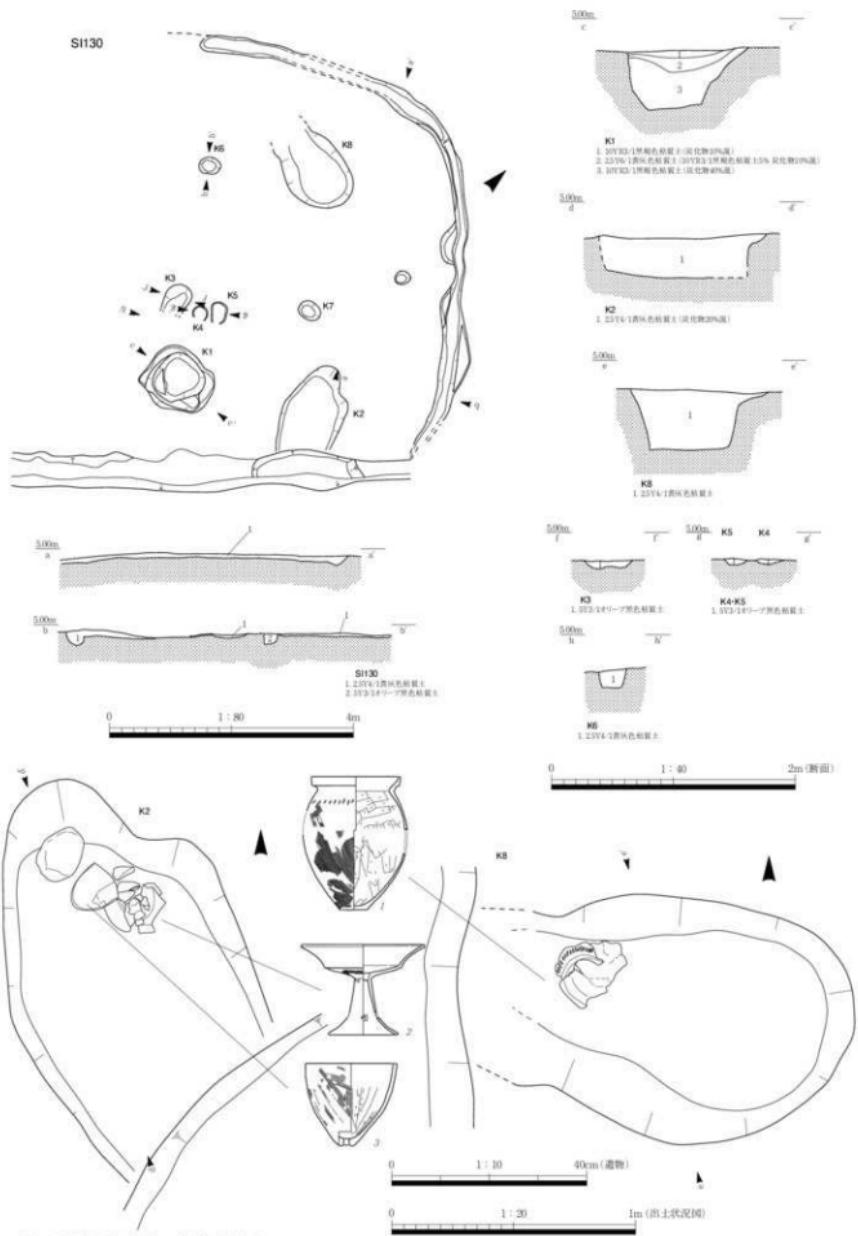
第6図 稲積天坂遺跡 遺構全体図



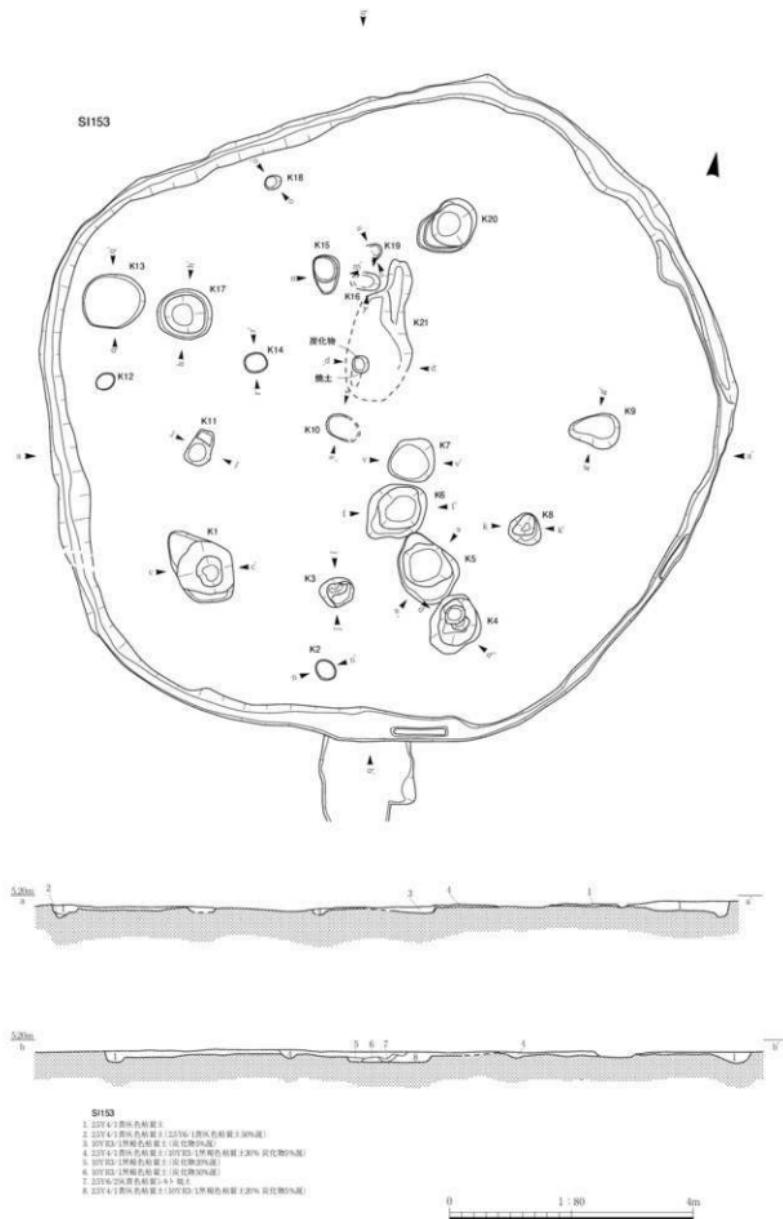
第7図 稲積天板遺跡 繩文時代遺構実測図
SR1



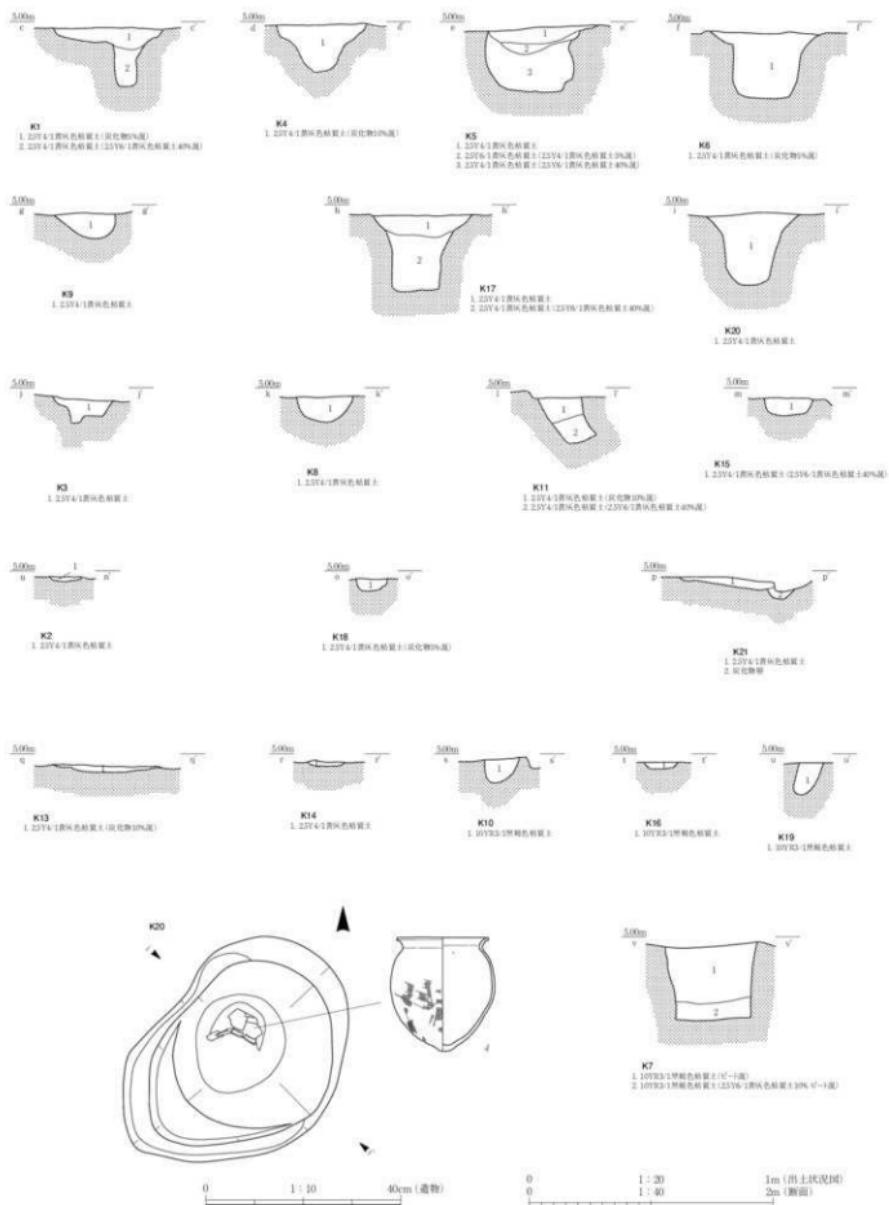
第8図 稲積天坂遺跡 弥生時代遺構全体図



第9図 稲積天板遺跡 遺構実測図
SI130

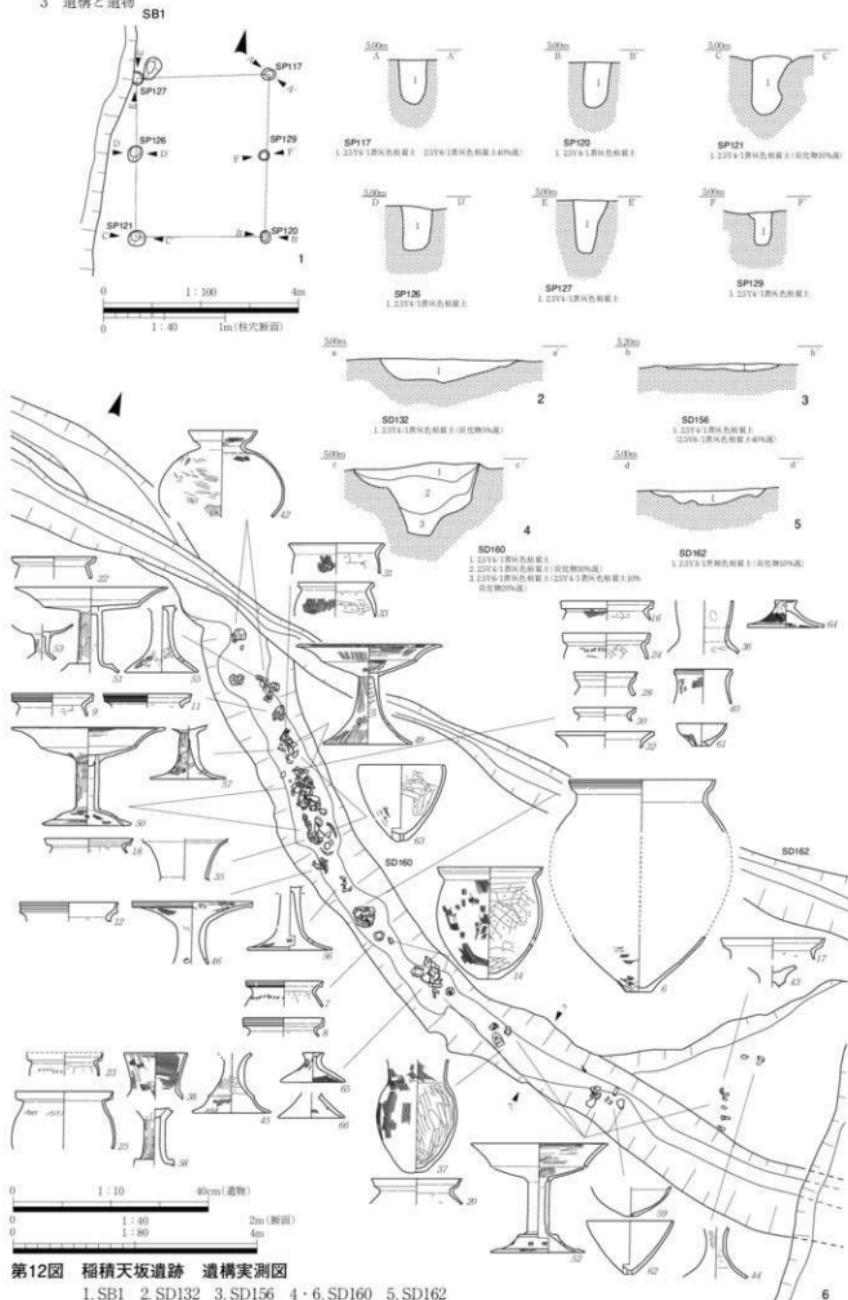


第10図 榛積天板遺跡 遺構実測図
SI153



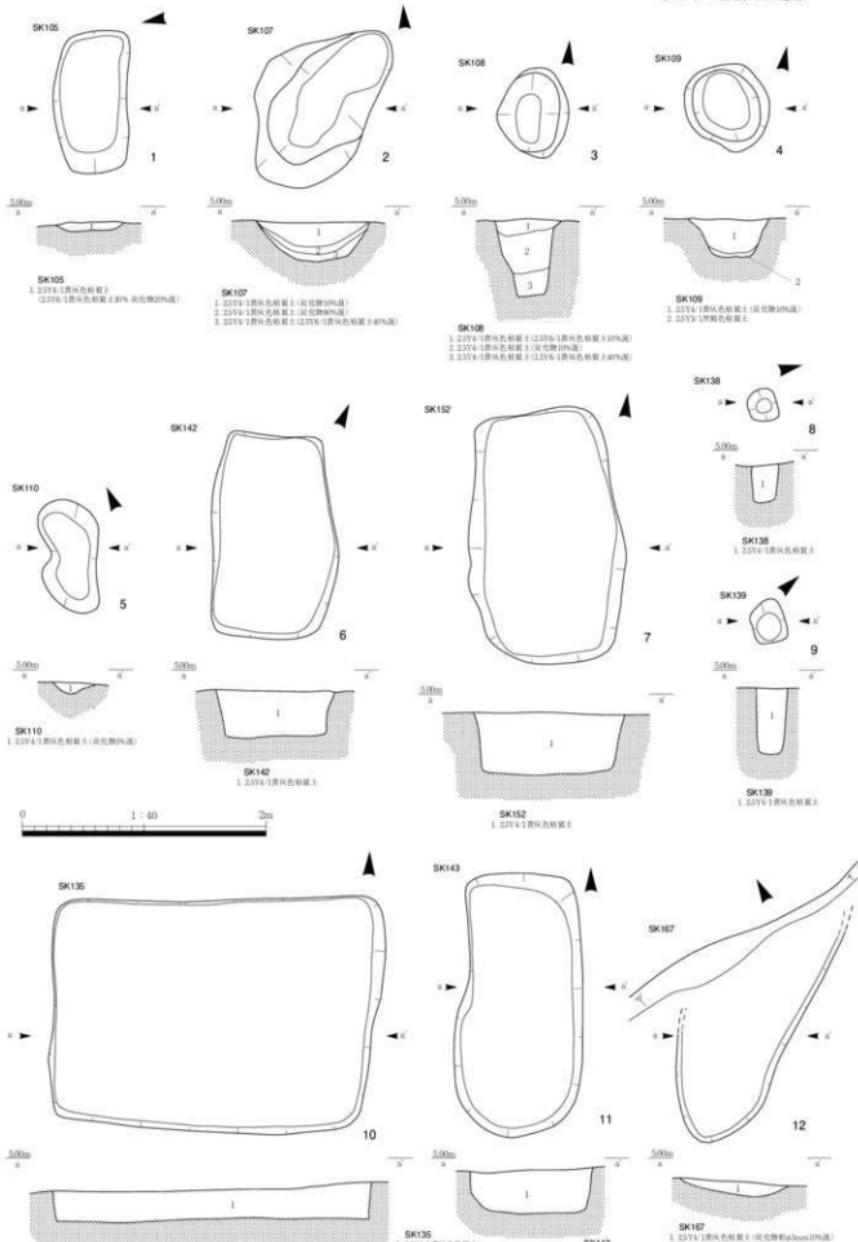
第11図 稲積天板遺跡 遺構実測図
SI153

3 遺構と遺物



第12図 稲積天塚遺跡 遺構実測図

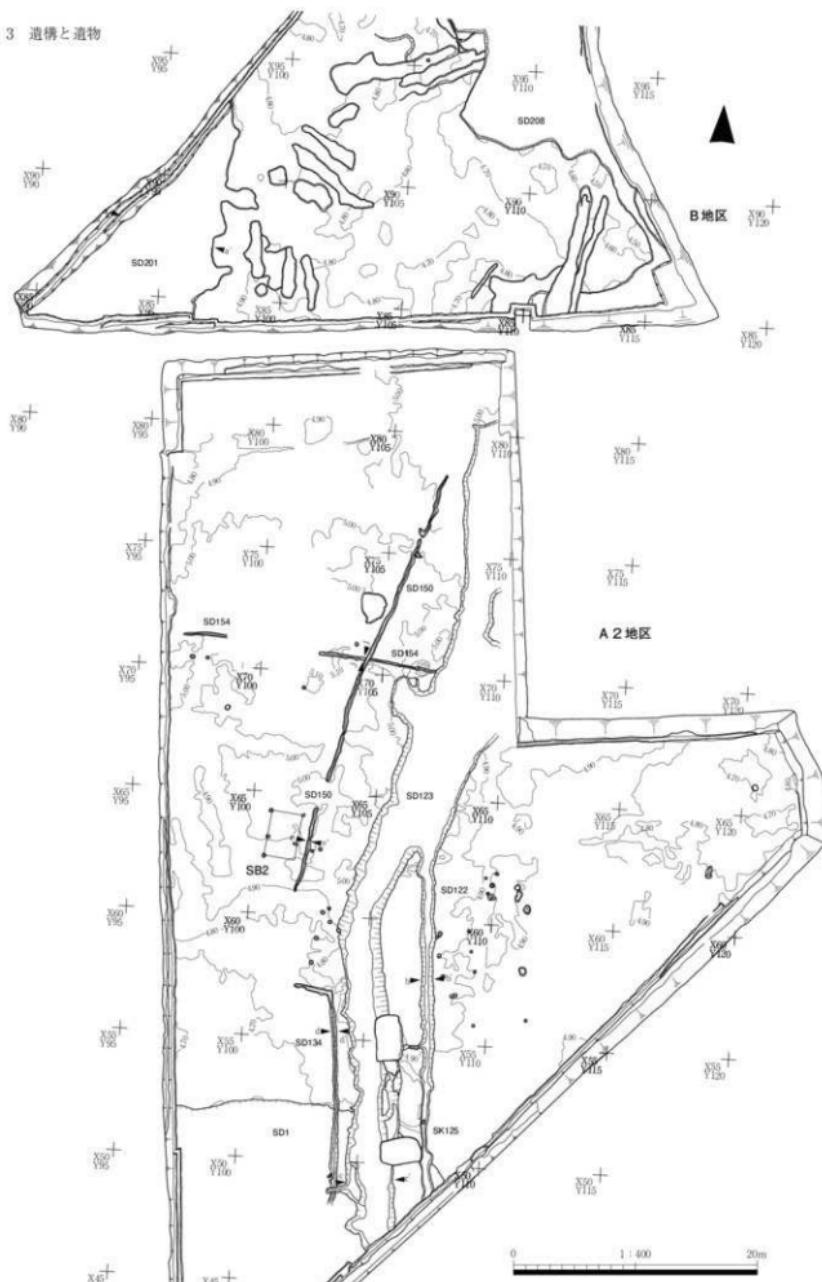
1. SB1 2. SD132 3. SD156 4・6. SD160 5. SD162



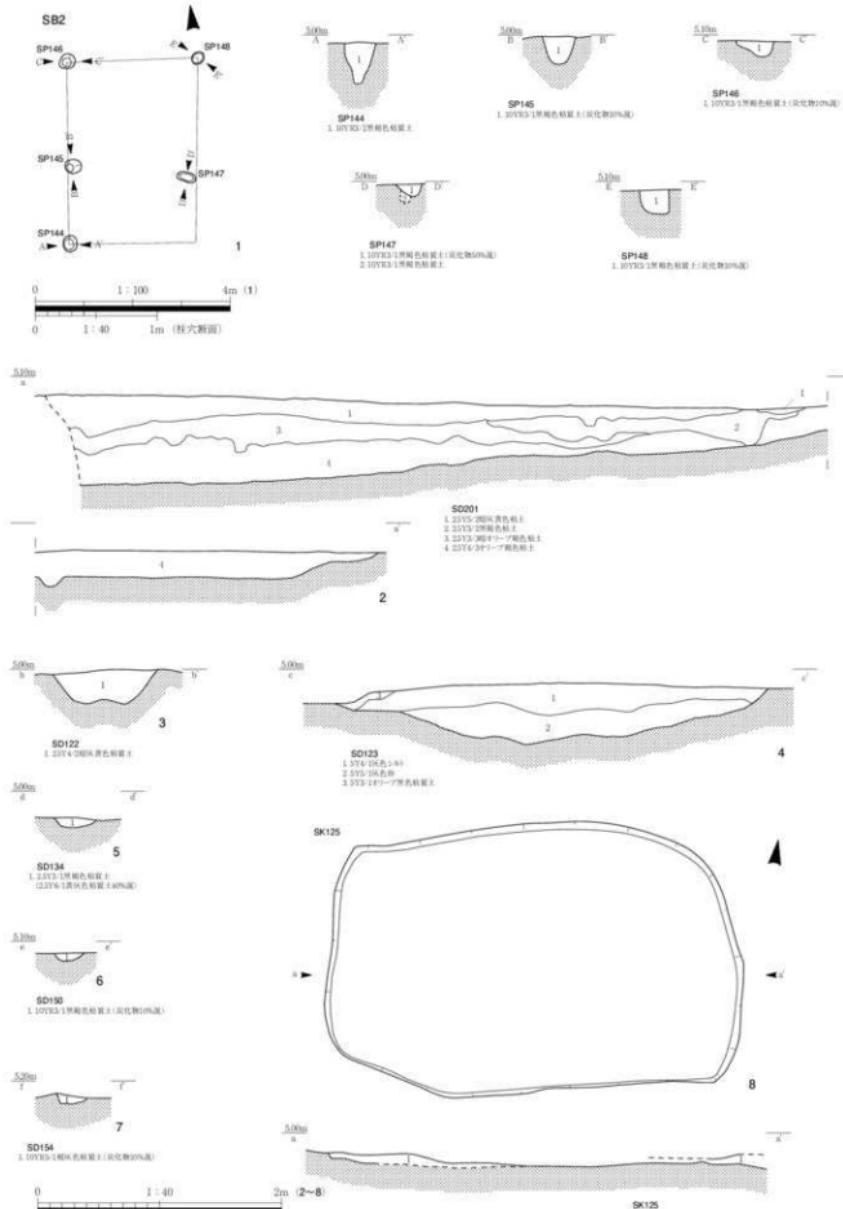
第13図 稲積天板遺跡 遺構実測図

1. SK105 2. SK107 3. SK108 4. SK109 5. SK110 6. SK142 7. SK152 8. SK138 9. SK139
10. SK135 11. SK143 12. SK167

3 遺構と遺物

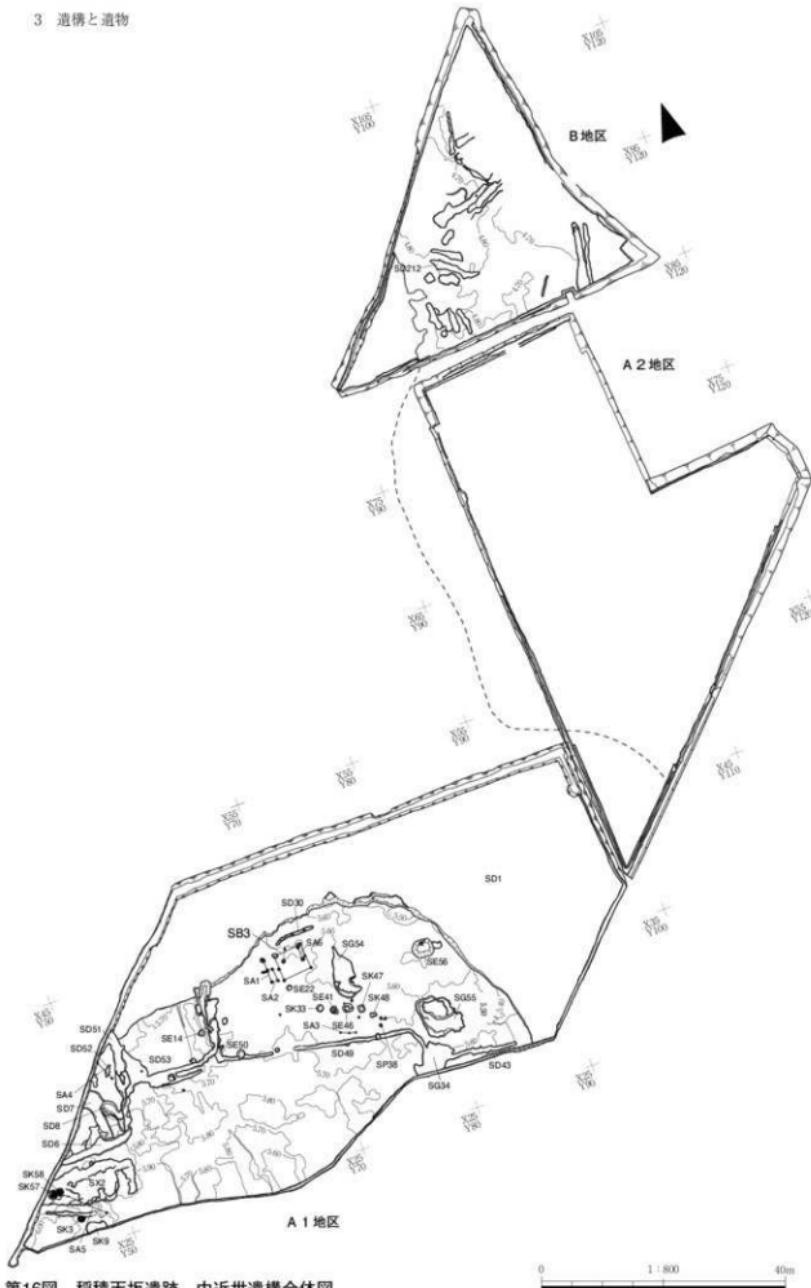


第14図 稲積天板遺跡 古代遺構全体図

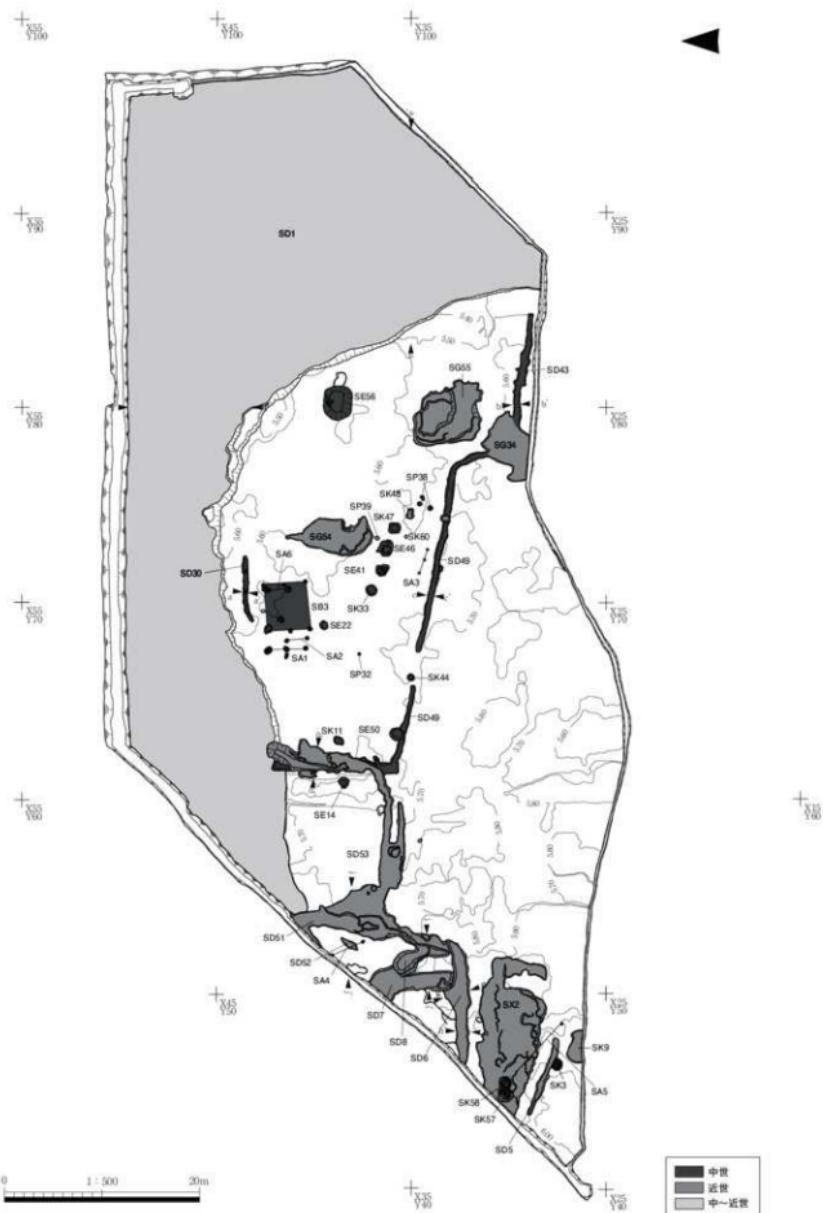


第15図 稲積天板遺跡 遺構実測図

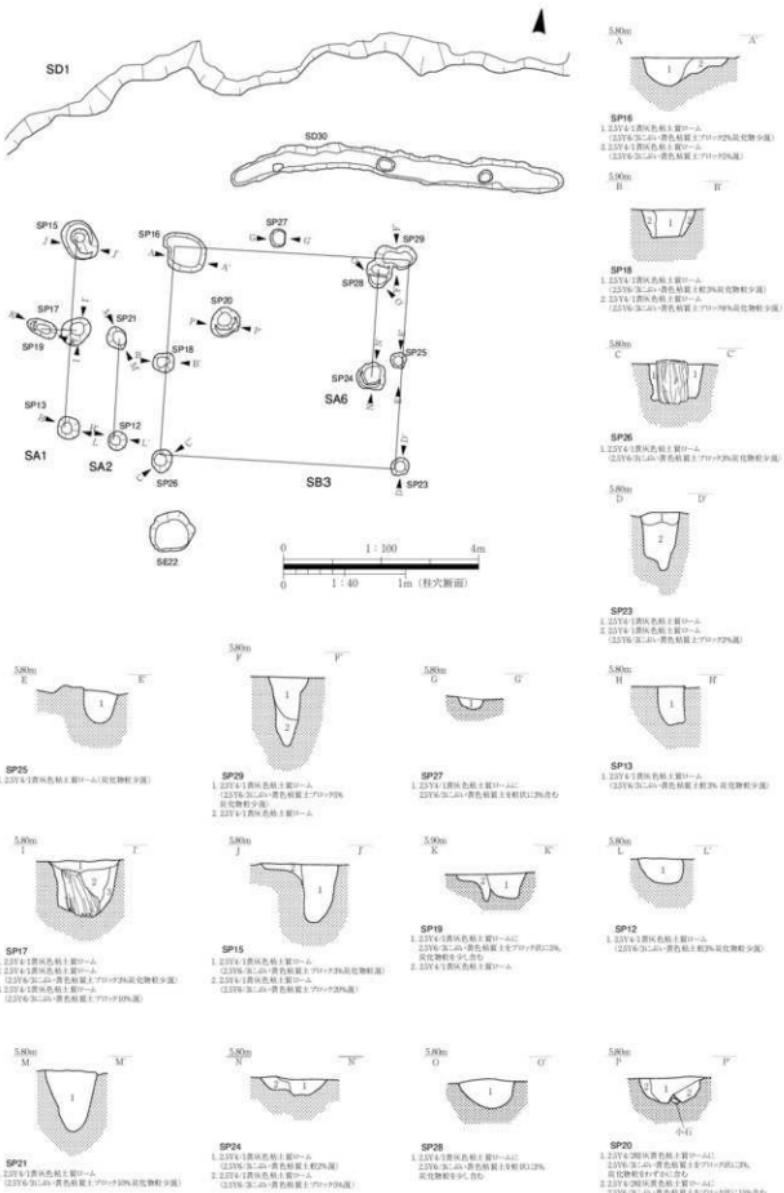
1. SB2
2. SD201
3. SD122
4. SD123
5. SD134
6. SD150
7. SD154
8. SK125



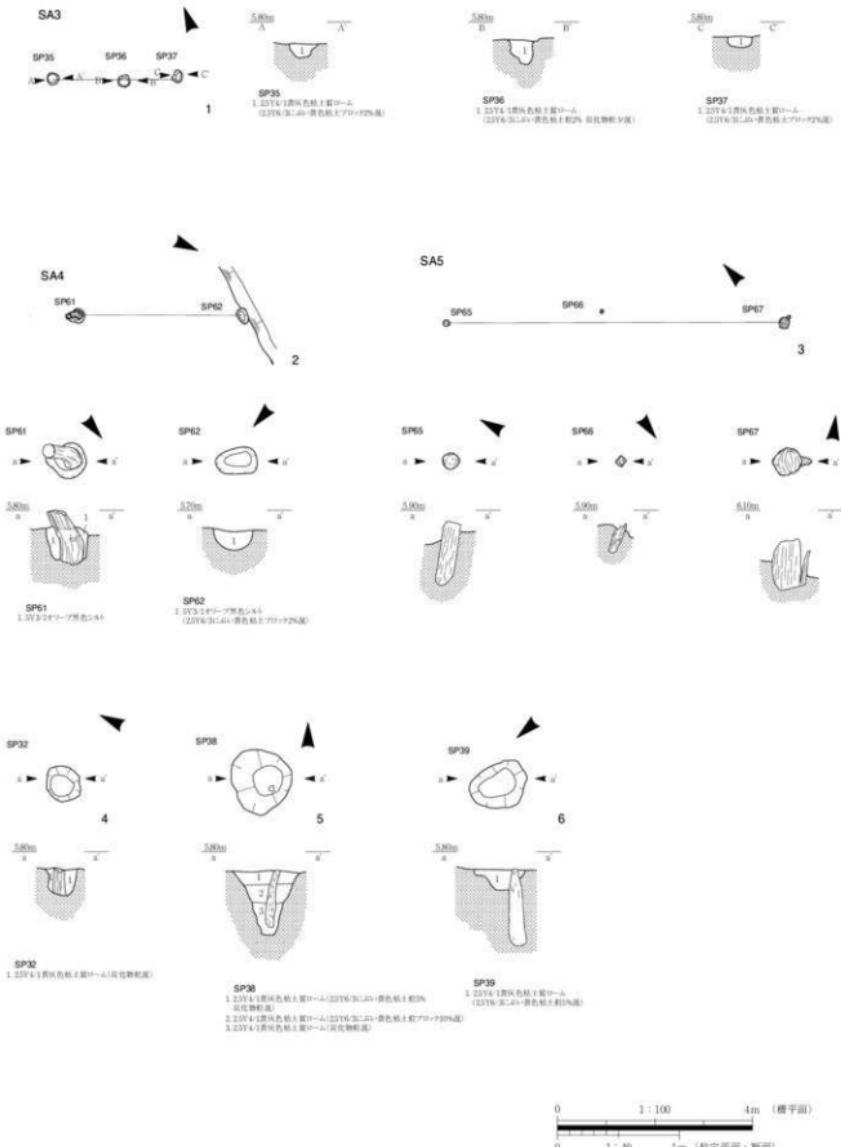
第16図 稲積天坂遺跡 中近世遺構全体図



第17図 稲積天板遺跡 A1地区 中近世遺構全体図



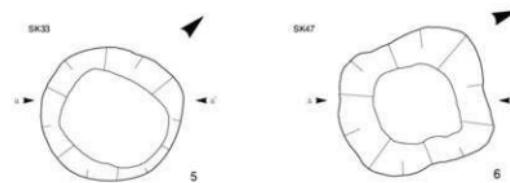
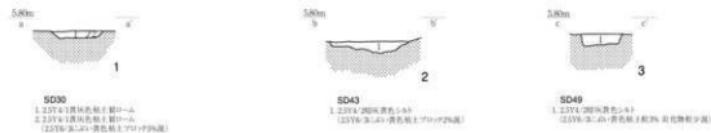
第18図 稲積天板遺跡 遺構実測図
SA1・SA2・SA6・SB3



第19図 稲積天板遺跡 遺構実測図

1. SA3 2. SA4 3. SA5 4. SP32 5. SP38 6. SP39

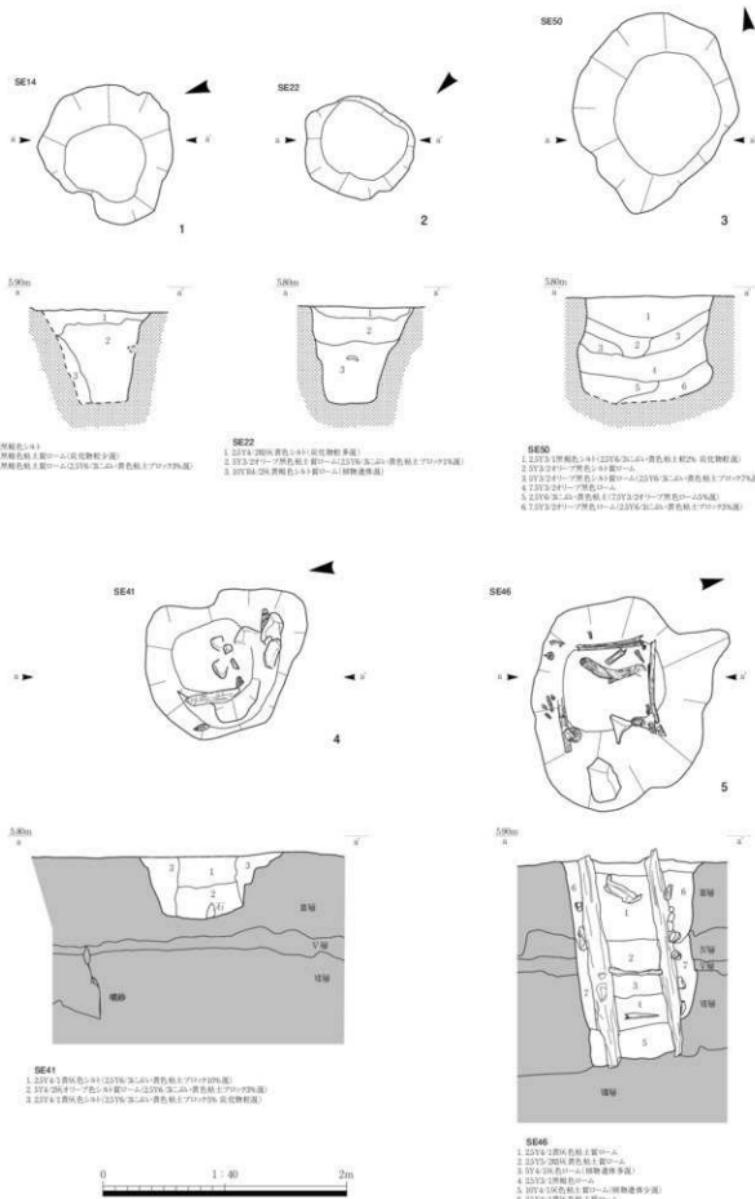
3 遺構と遺物



0 1 : 40 2m

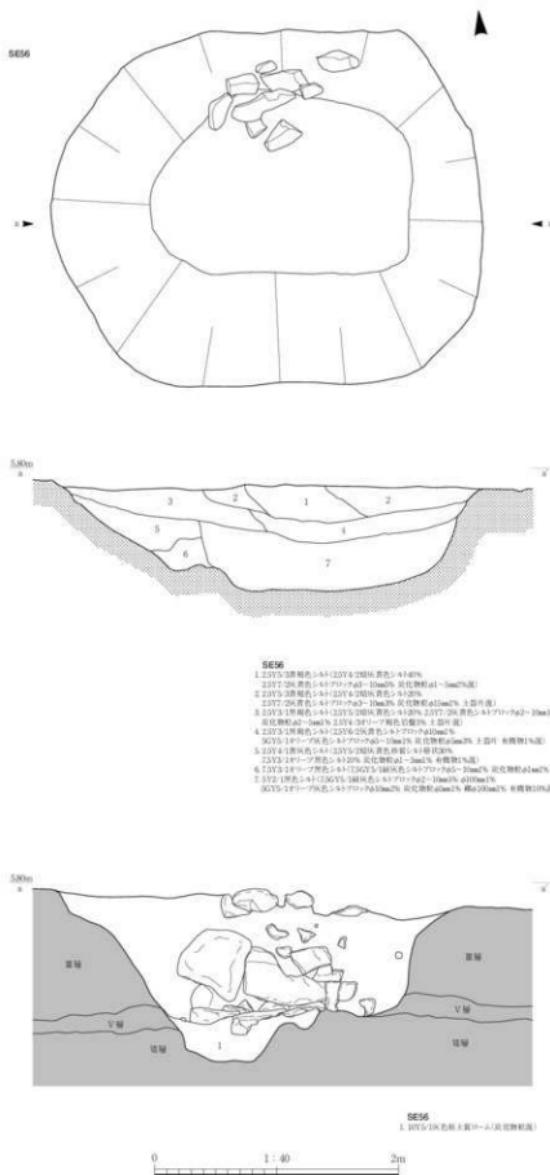
第20図 稲積天坂遺跡 遺構実測図

1. SD30 2. SD43 3. SD49 4. SD53 5. SK33 6. SK47

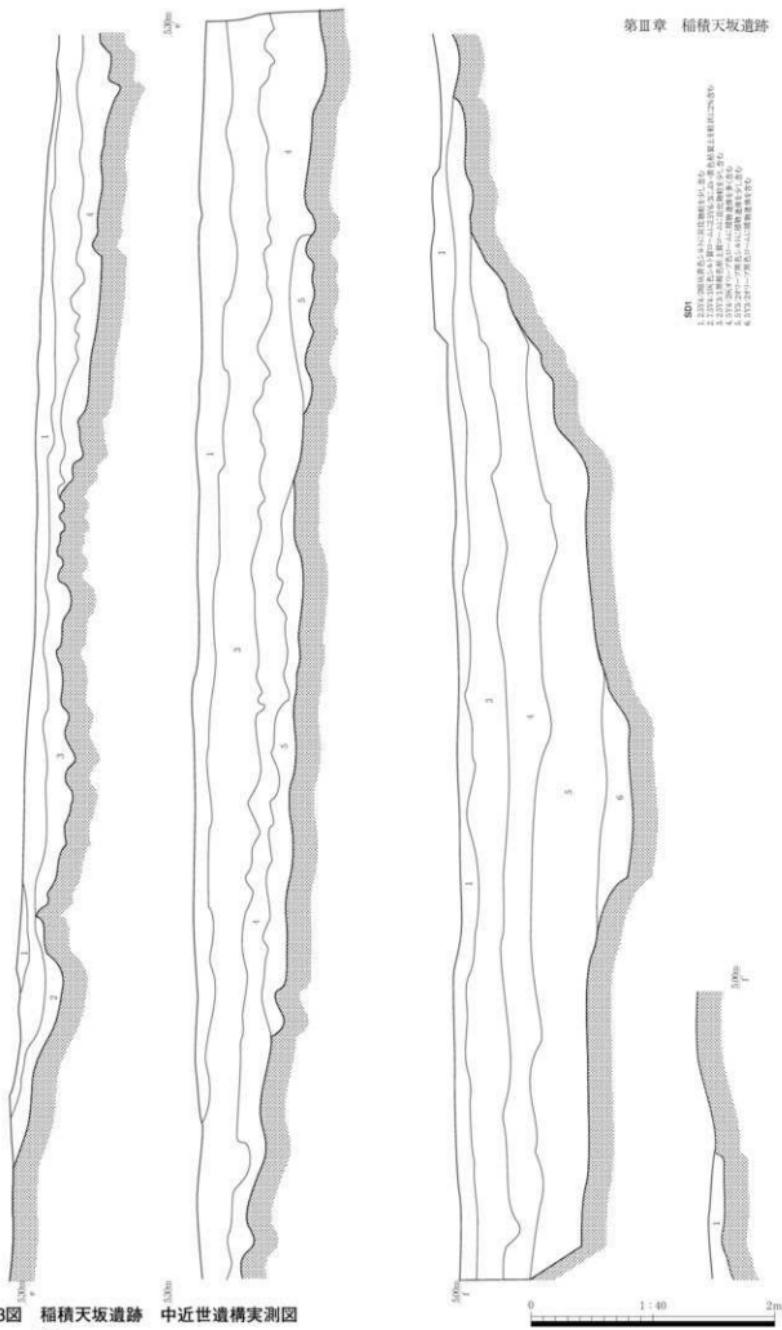


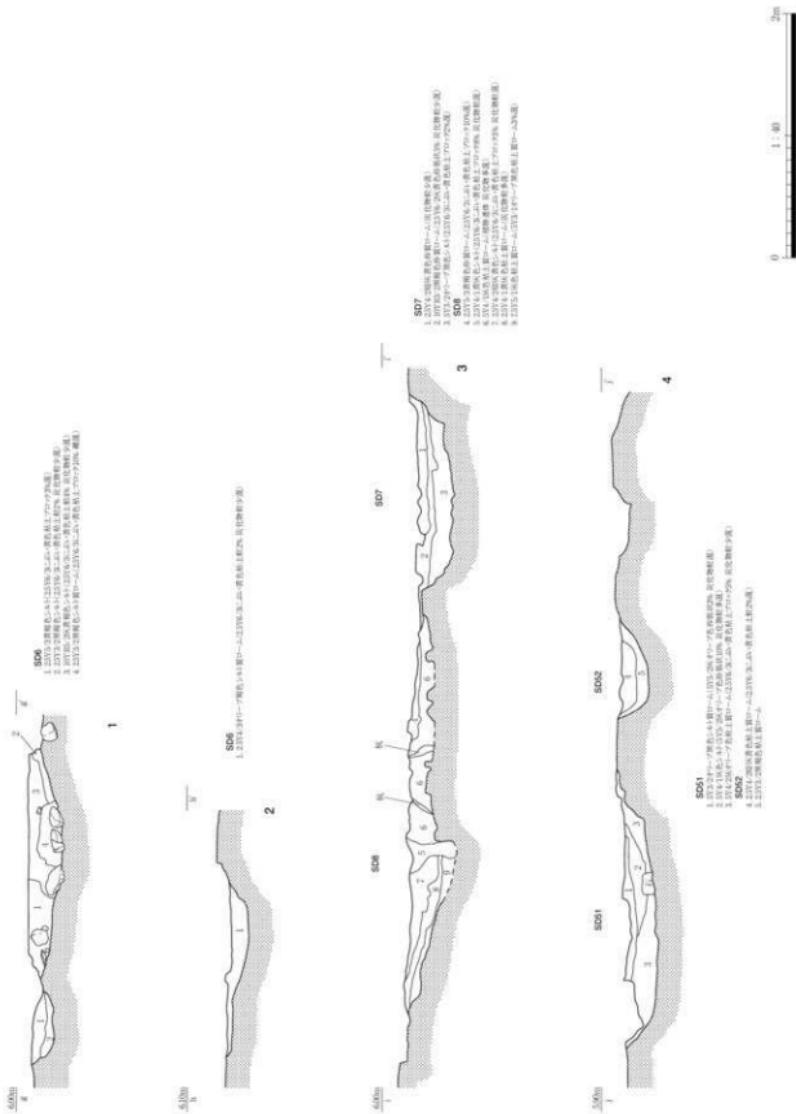
第21図 稲積天板遺跡 遺構実測図

1. SE14 2. SE22 3. SE50 4. SE41 5. SE46



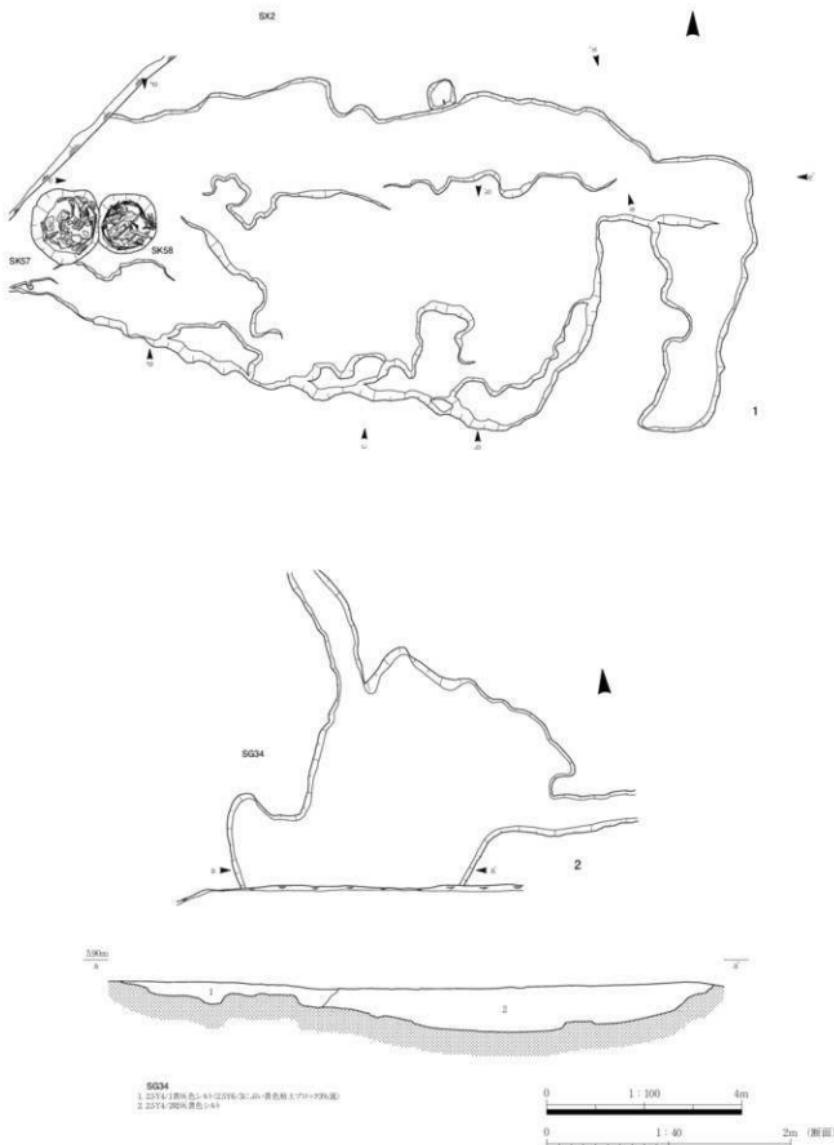
第22図 稲積天坂遺跡 遺構実測図
SE56





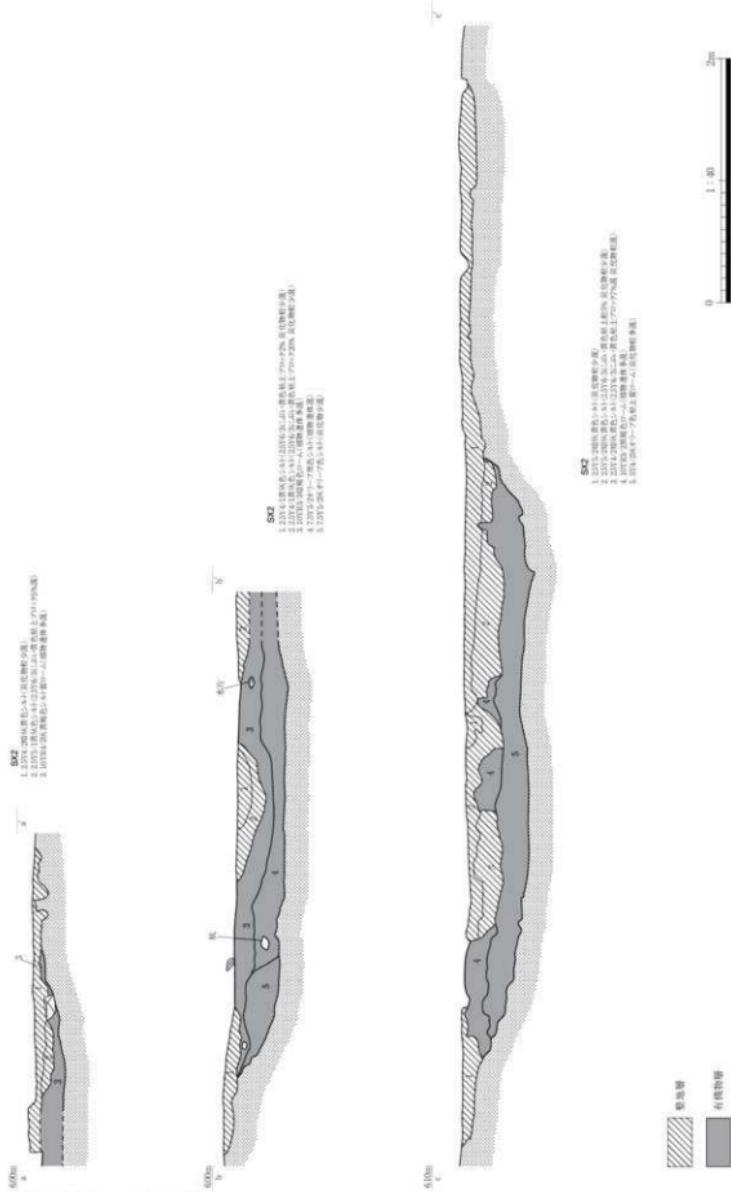
第24図 稲積天坂遺跡 遺構実測図

1・2. SD6 3. SD7・SD8 4. SD51・SD52

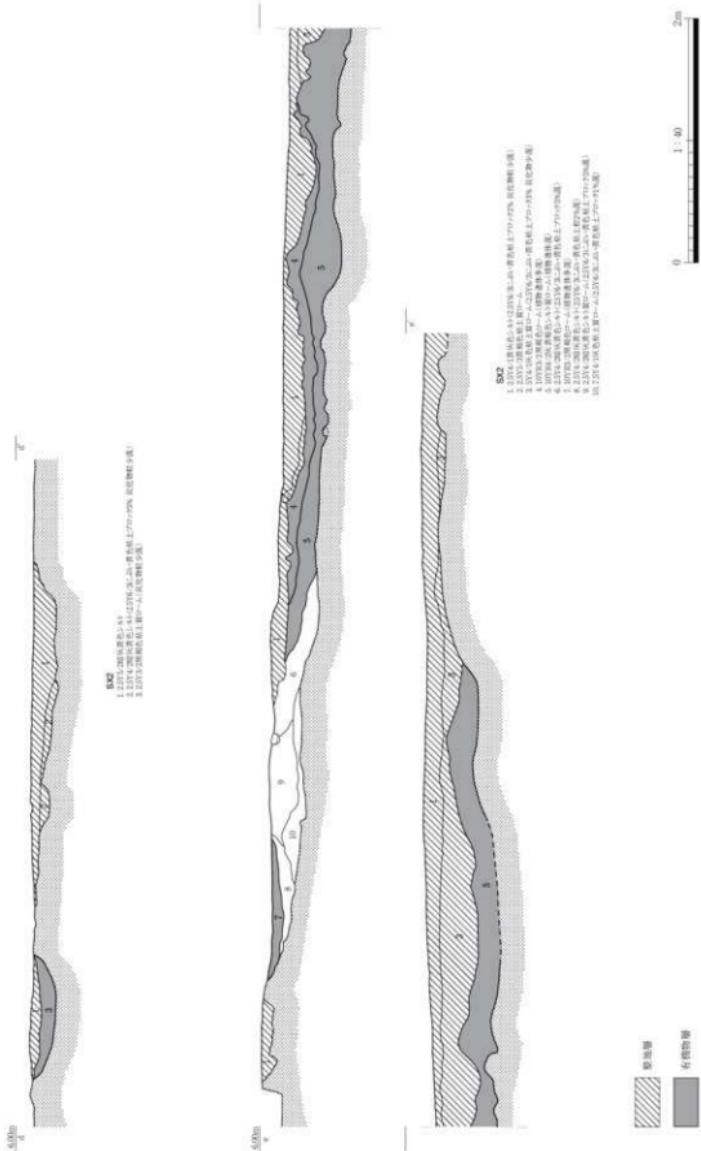


第25図 稲積天板遺跡 遺構実測図

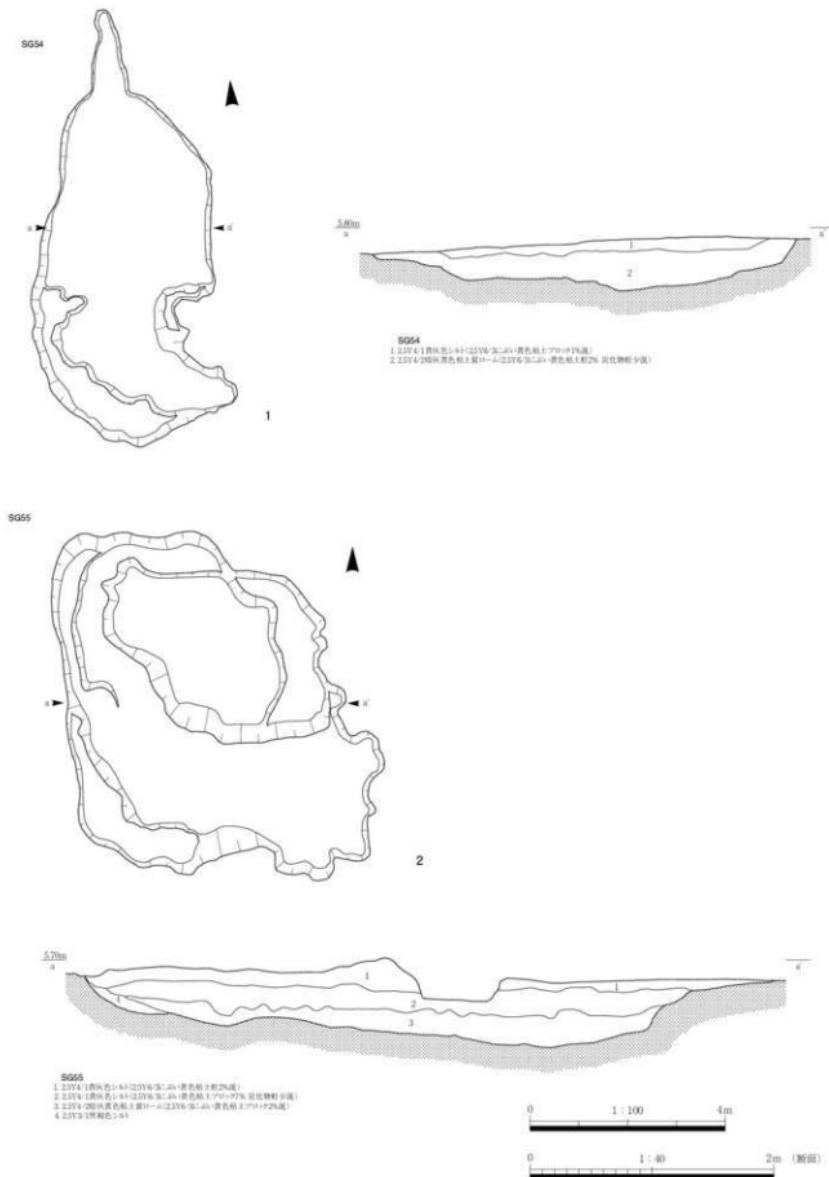
1. SX2 2. SG34



第26図 福積天板遺跡 遺構実測図
SX2

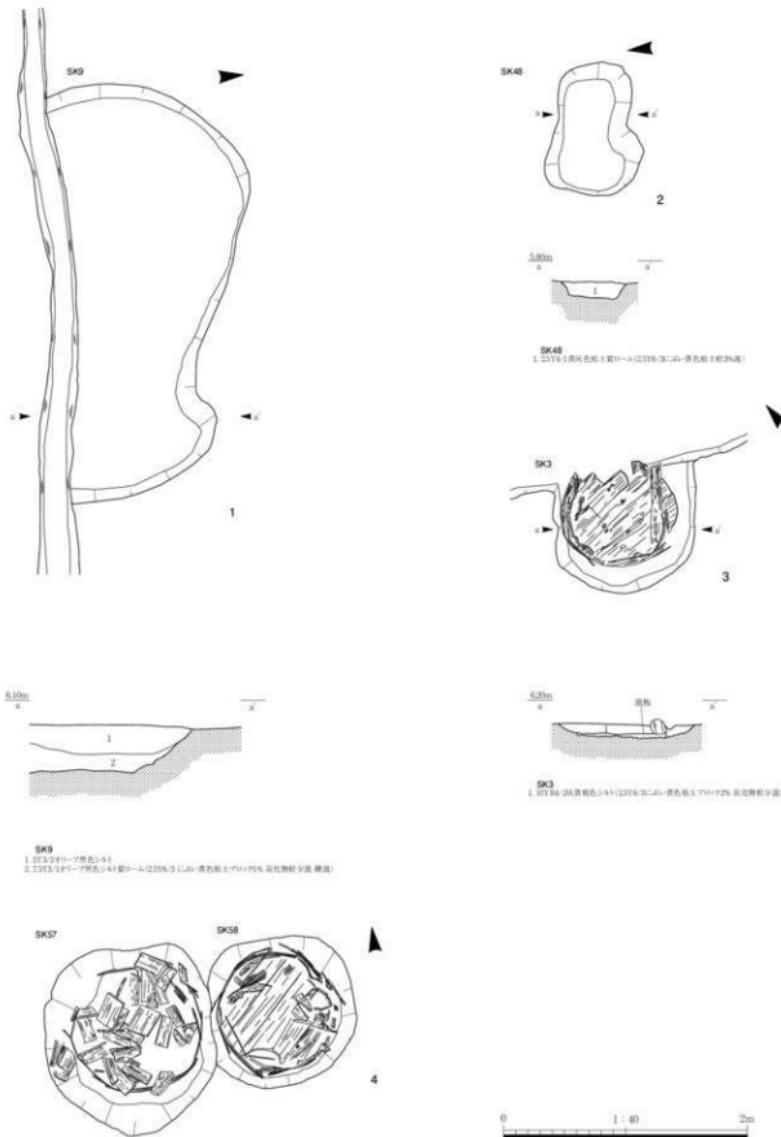


第27図 稲積天板遺跡 遺構実測図
SX2

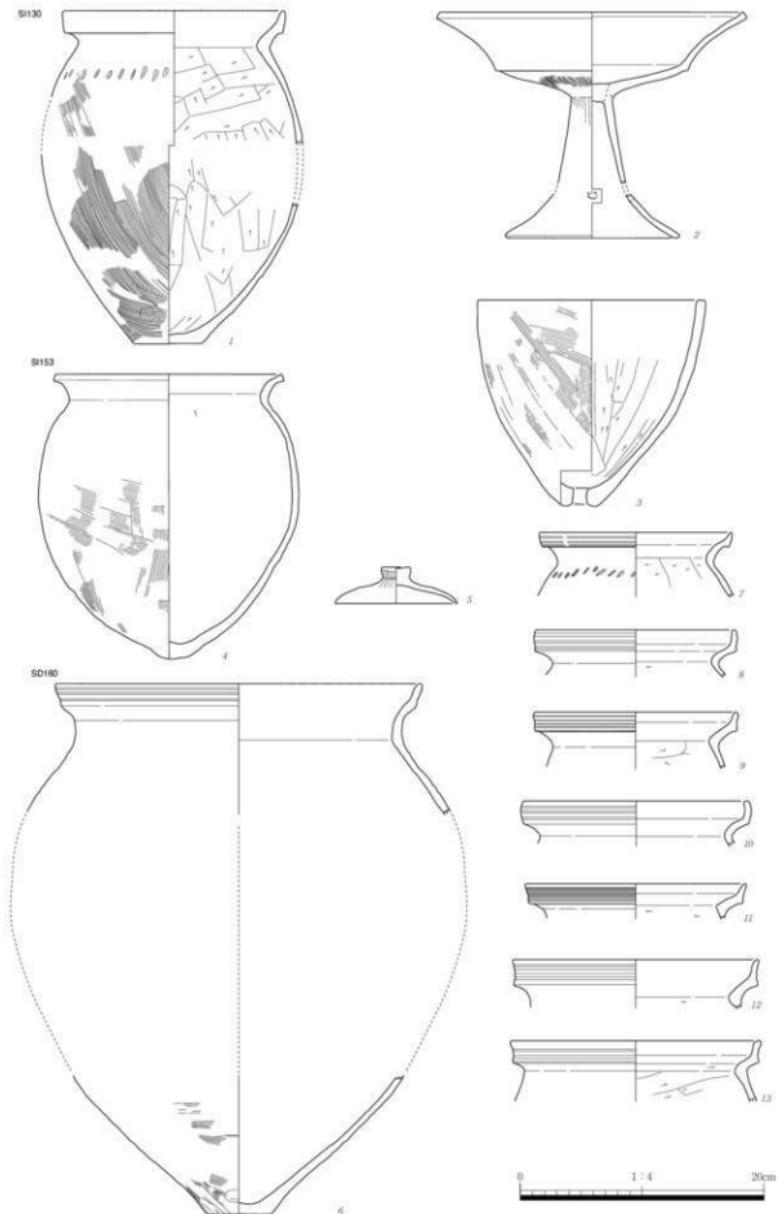


第28図 稲積天板遺跡 遺構実測図

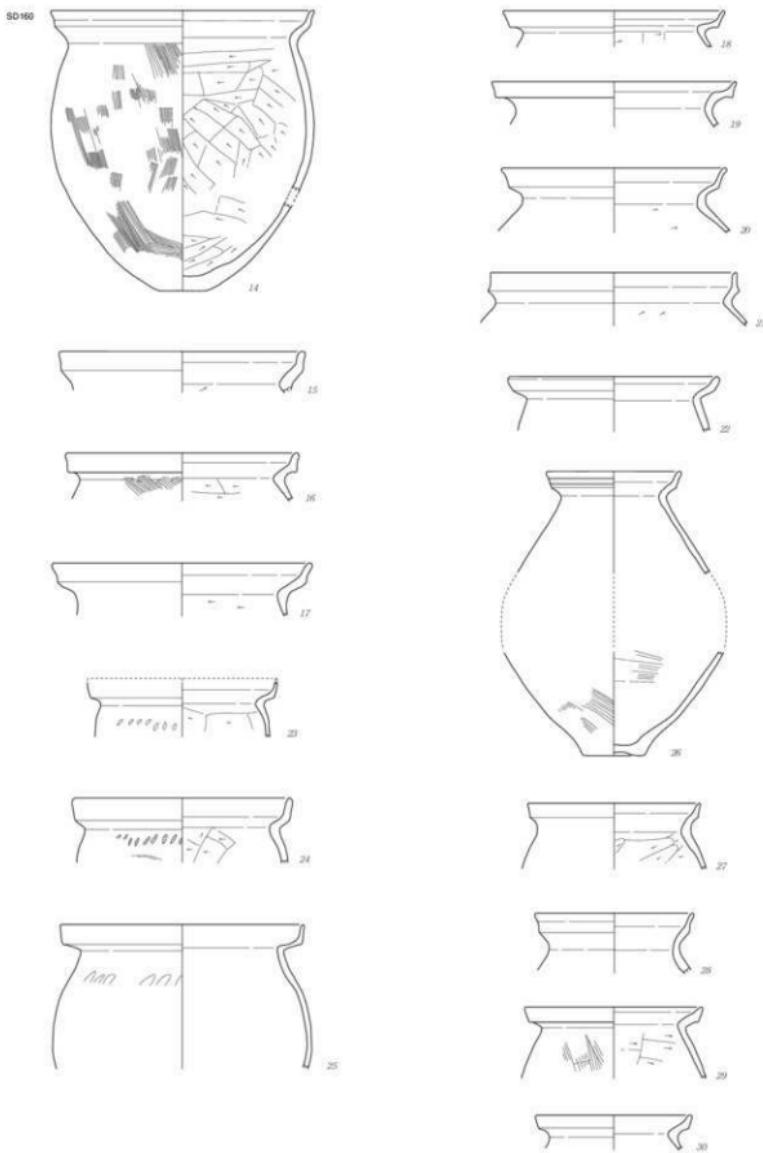
1. SG54 2. SG55



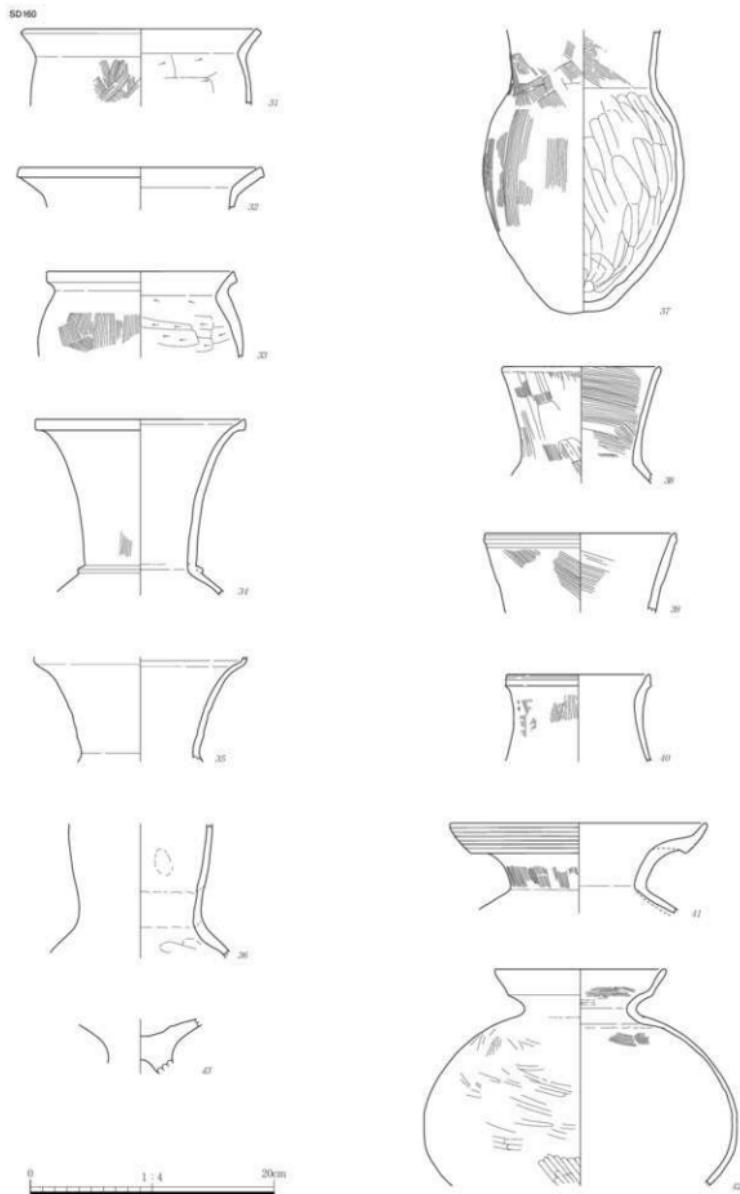
第29図 稲積天板遺跡 遺構実測図
1. SK9 2. SK48 3. SK3 4. SK57・SK58



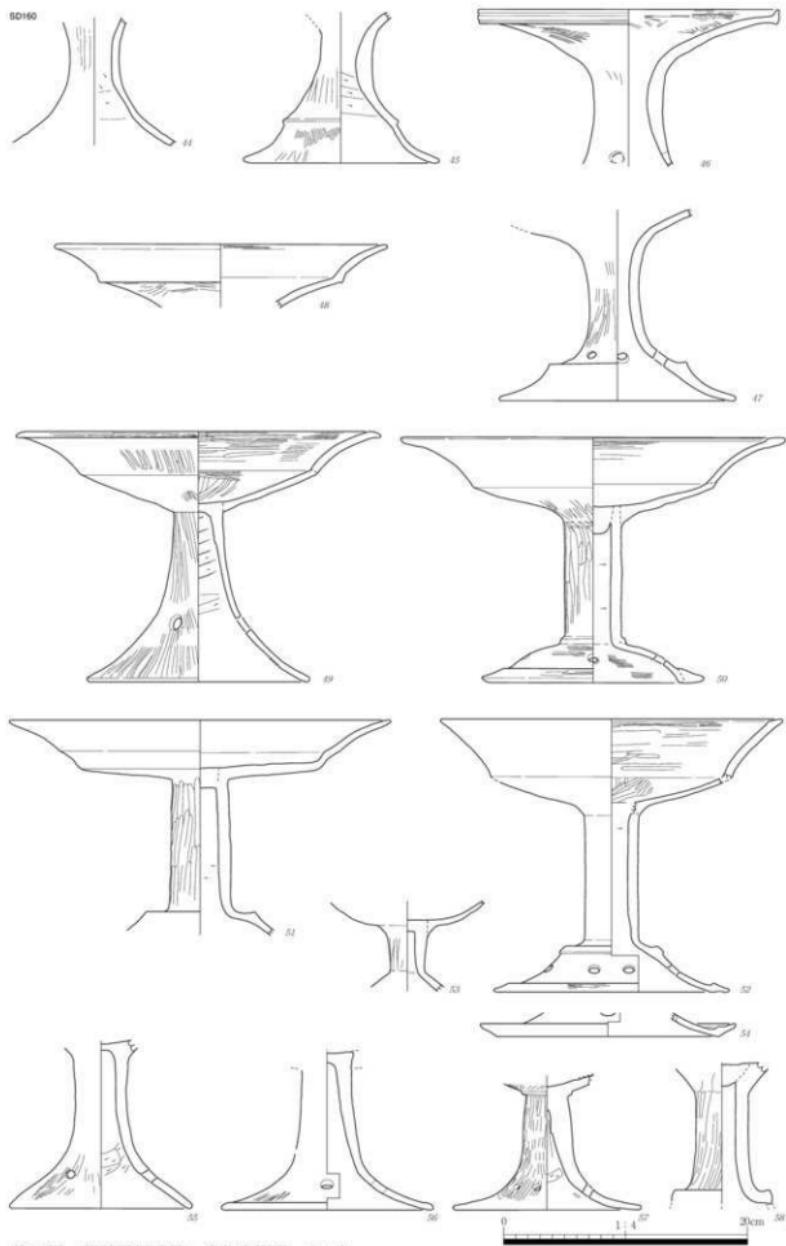
第30図 稲積天坂遺跡 遺物実測図 (1/4)
 SI130(1~3) SI153(4·5) SD160(6~13)



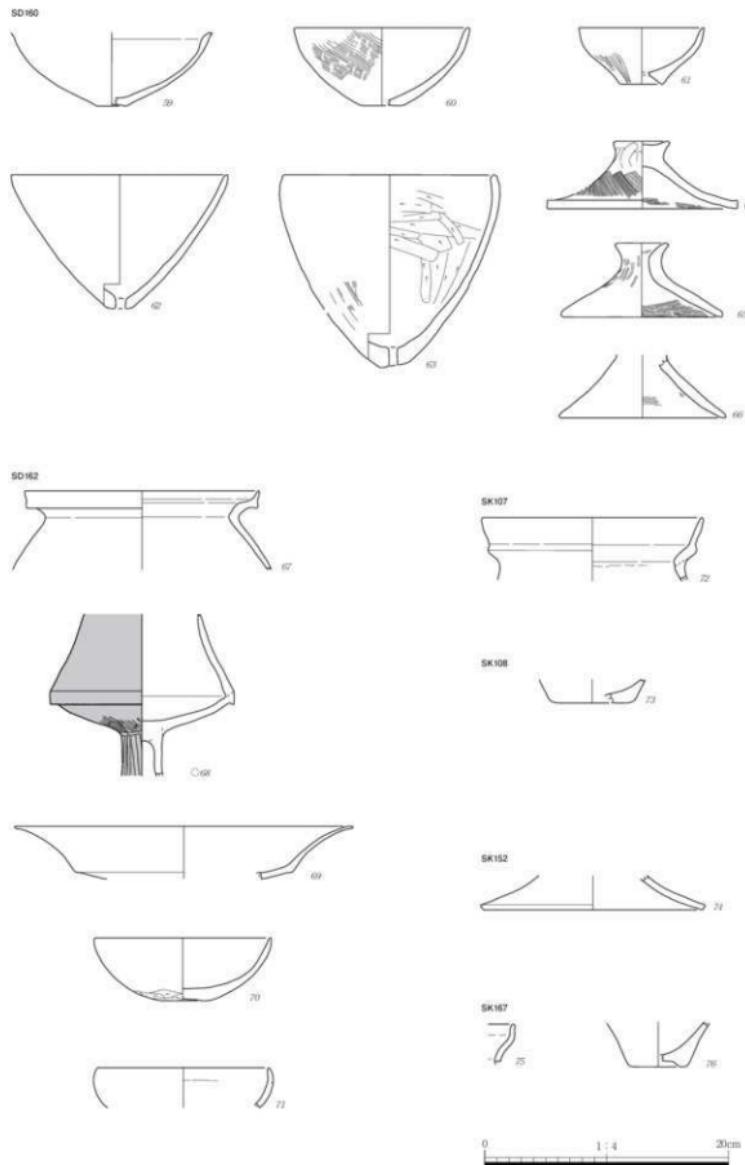
第31図 稲積天板遺跡 遺物実測図 (1/4)
SD160



第32図 稲積天塚遺跡 遺物実測図 (1/4)
SD160

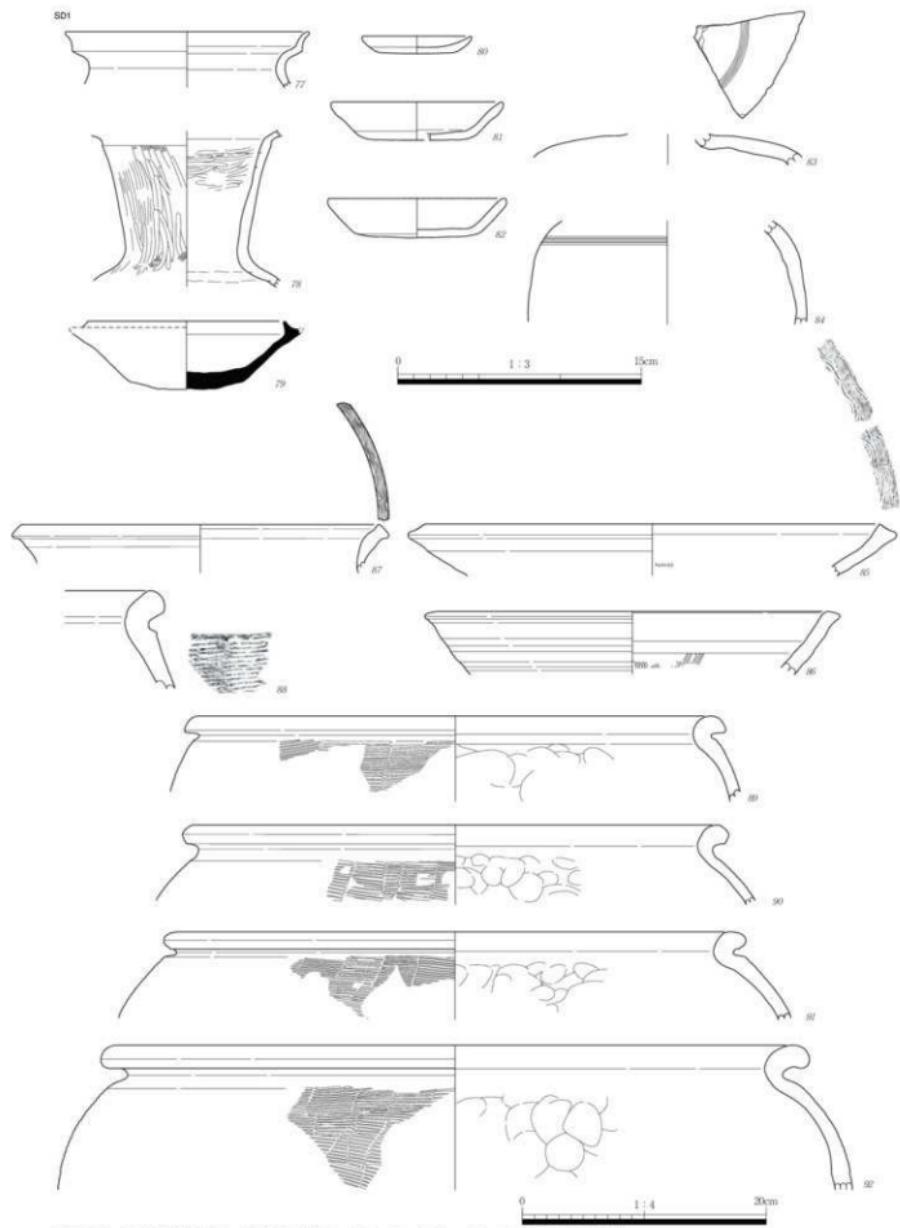


第33図 稲積天板遺跡 遺物実測図 (1/4)
SD160



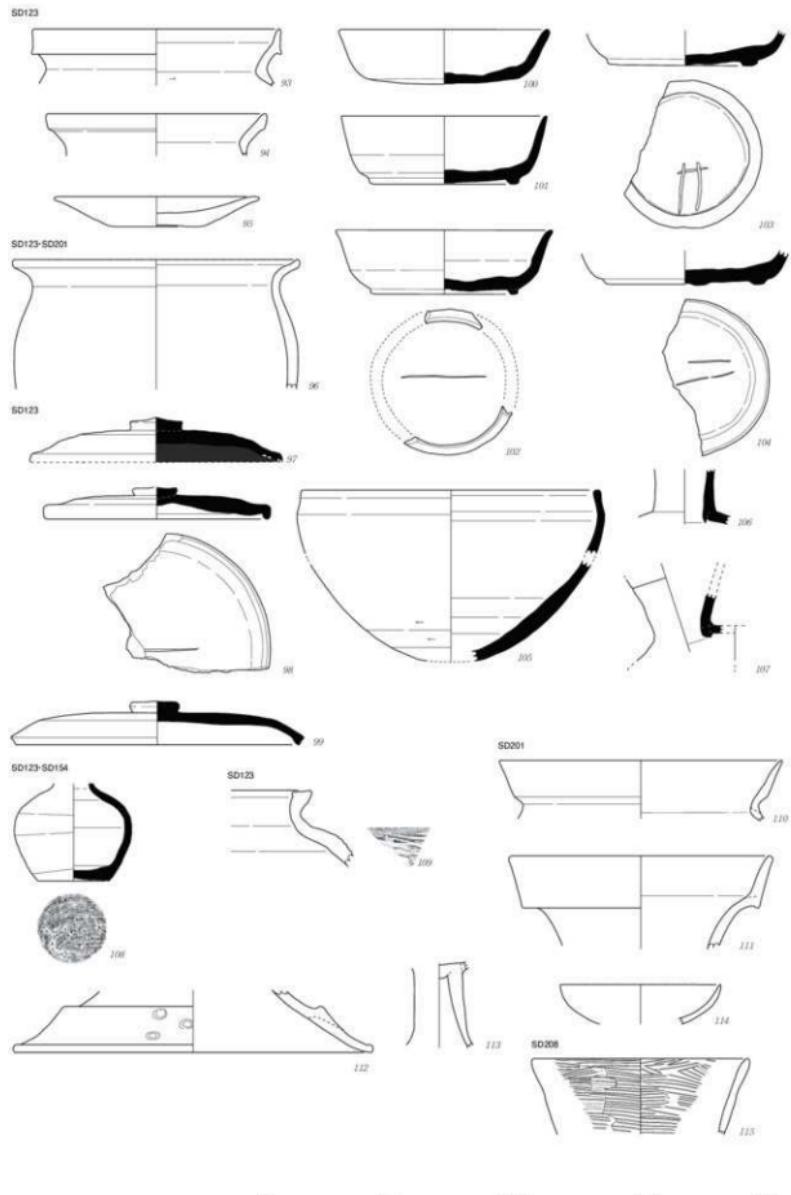
第34図 稲積天坂遺跡 遺物実測図 (1/4)

SD160(59~66) SD162(67~71) SK107(72) SK108(73) SK152(74) SK167(75・76)



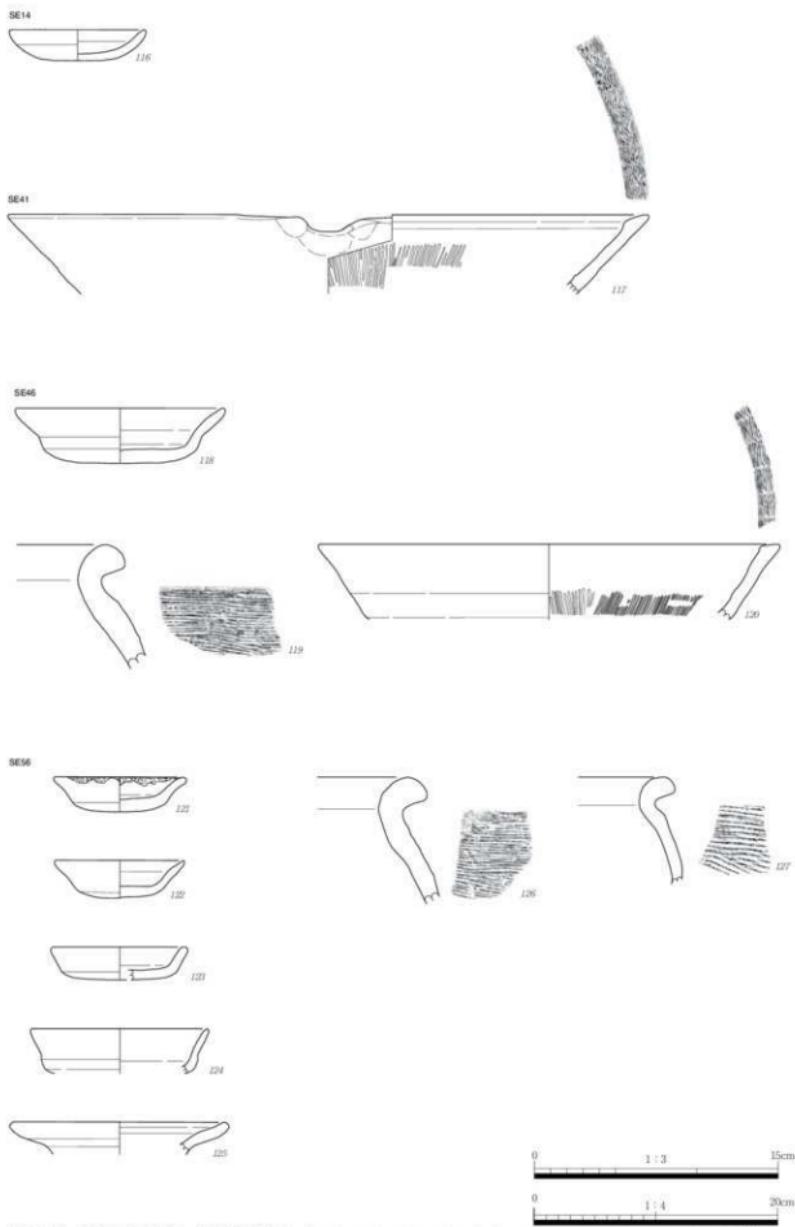
第35図 稲積天板遺跡 遺物実測図 (79~84 1/3, 77・78・85~92 1/4)

SD1

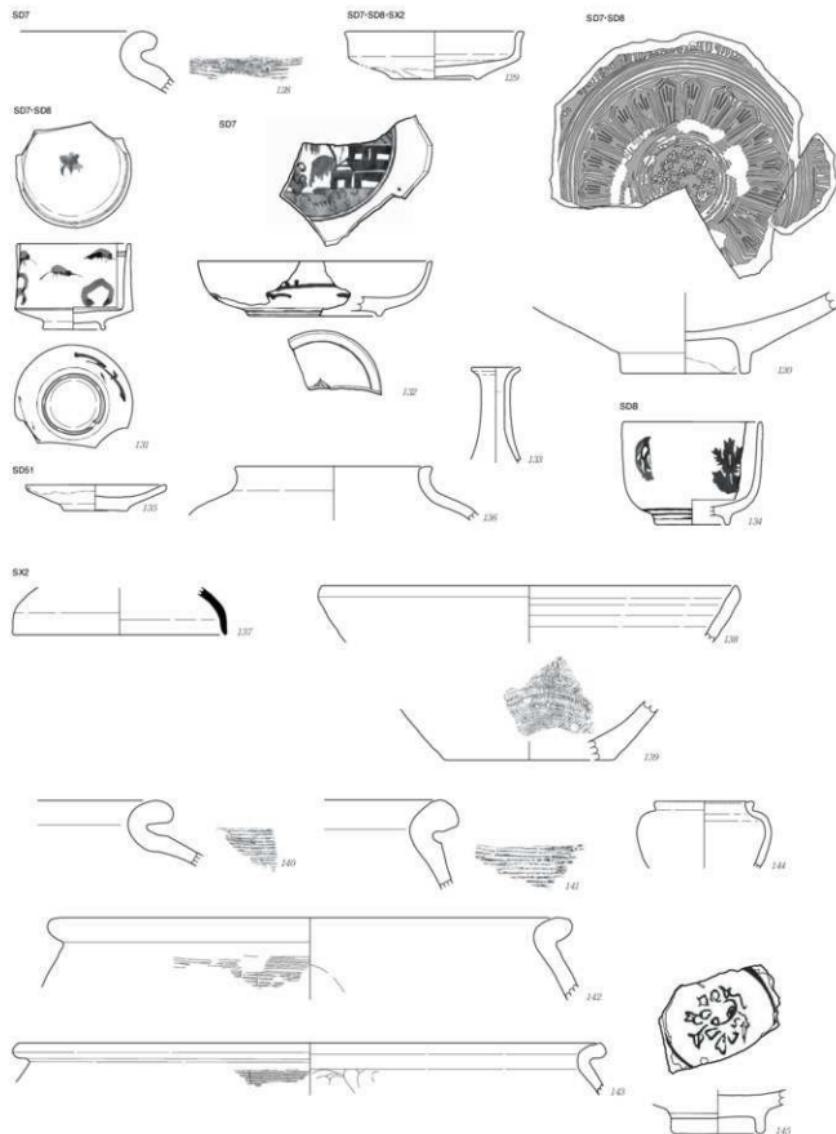


第36図 稲積天板遺跡 遺物実測図 (95・97~105 1/3, 93・94・96・106~115 1/4)

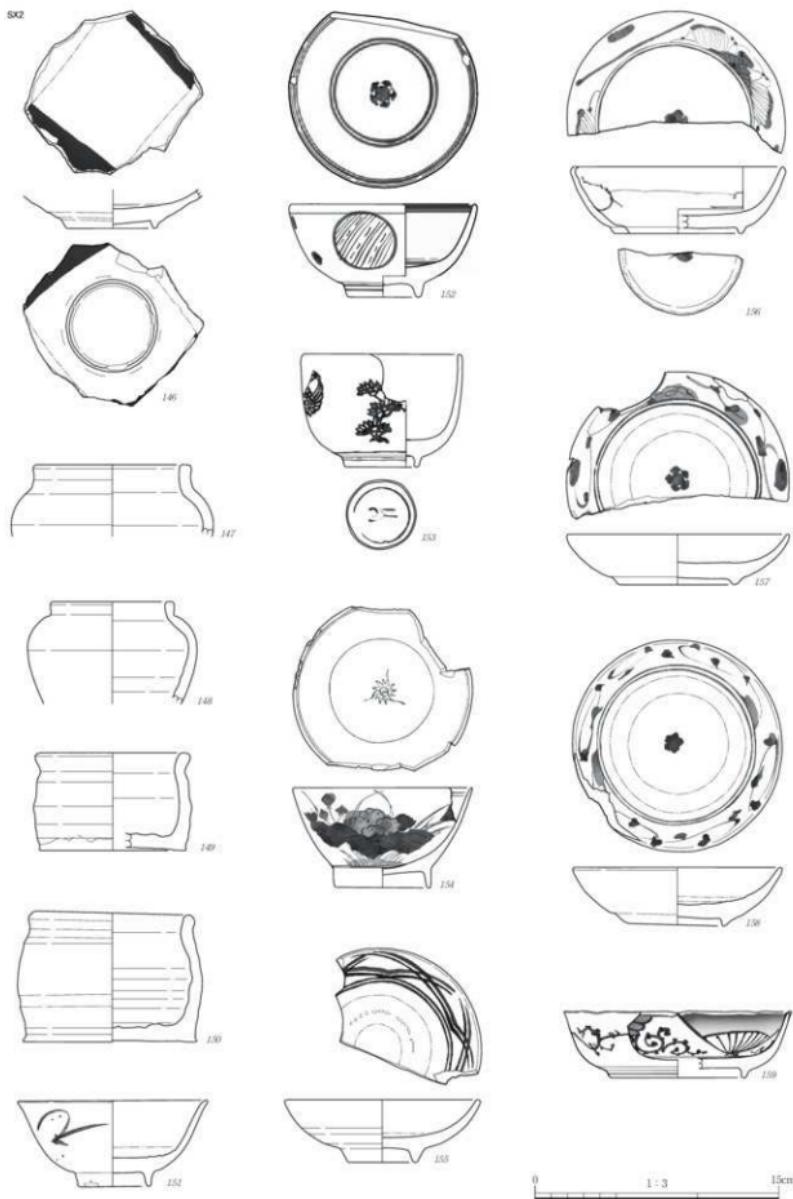
SD123(93~95・97~107, 109) SD123・SD154(108) SD123・SD201(96) SD201(110~114)
SD208(115)



第37図 稲積天板遺跡 遺物実測図 (116・118・121~125 1/3, 117・119・120・126・127 1/4)
SE14(116) SE41(117) SE46(118~120) SE56(121~127)

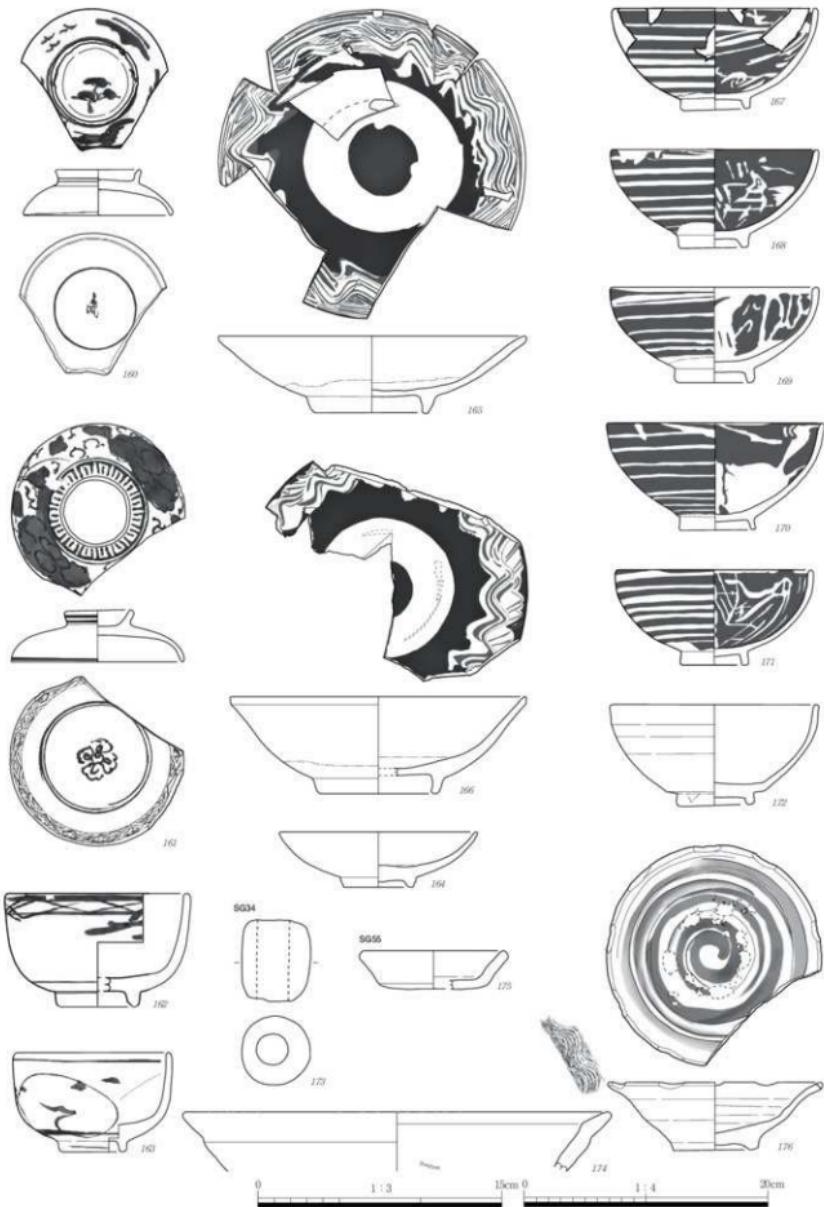


第38図 稲積天板遺跡 遺物実測図 (129~137・145 1/3, 128・138~142・144 1/4, 143 1/6)
SD7(128・132・133) SD7・SD8(130・131) SD7・SD8・SX2(129) SD8(134) SD51(135・136)
SX2(137~145)



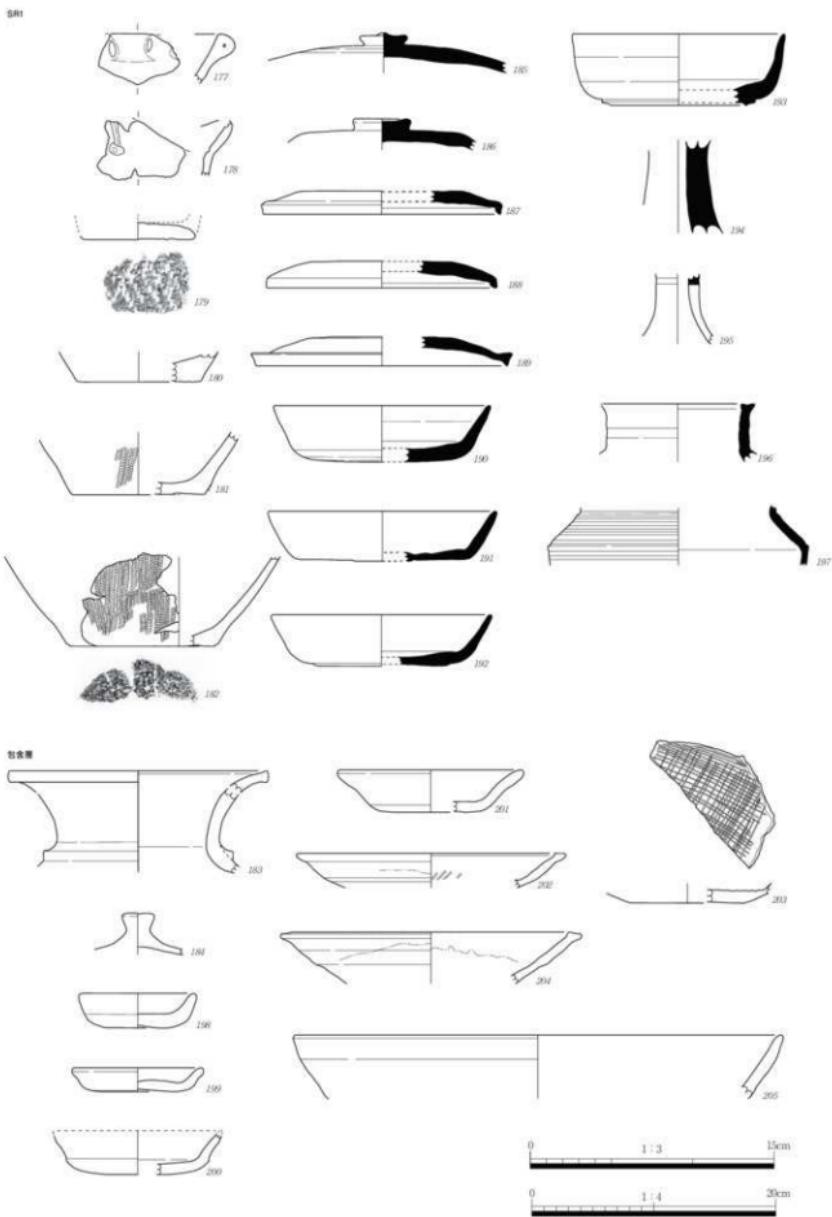
第39図 稲積天板遺跡 遺物実測図 (1/3)
SX2

SX2

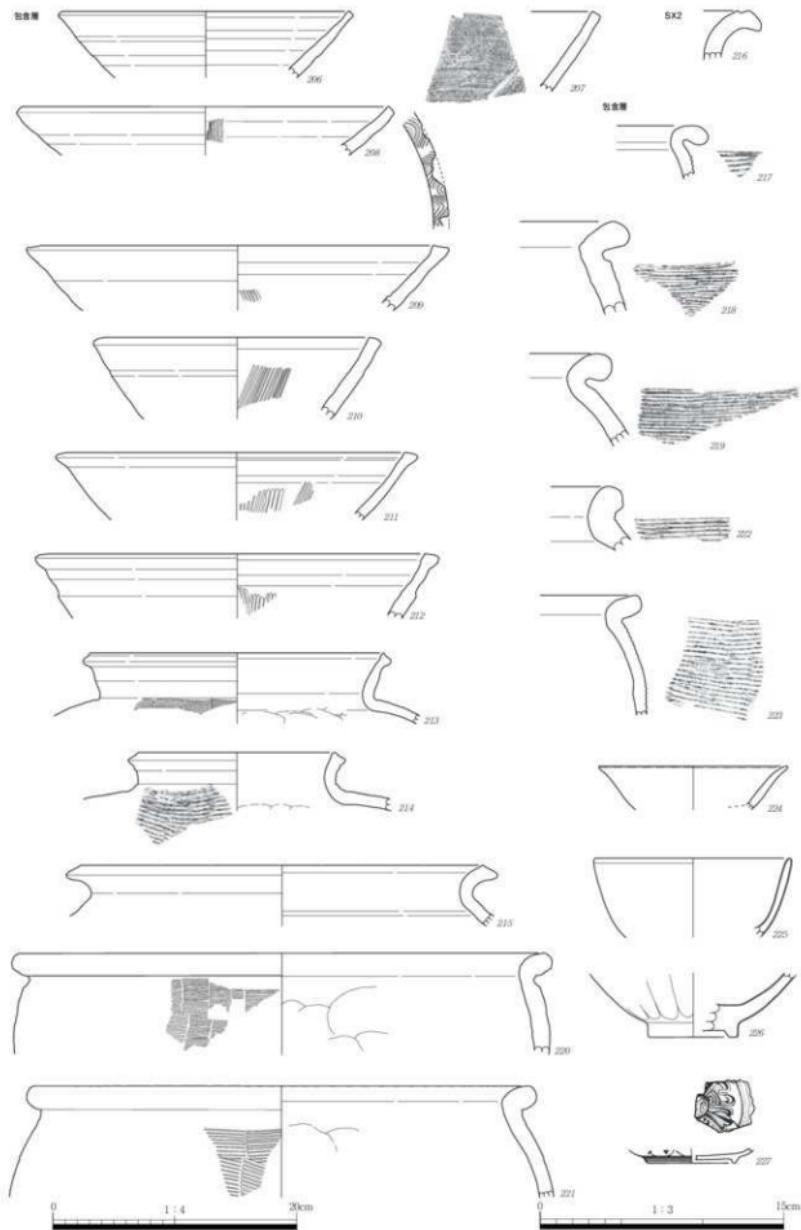


第40図 稲積天板跡 遺物実測図 (160~173・175・176 1/3, 174 1/4)

SX2(160~172) SG34(173・174) SG55(175・176)

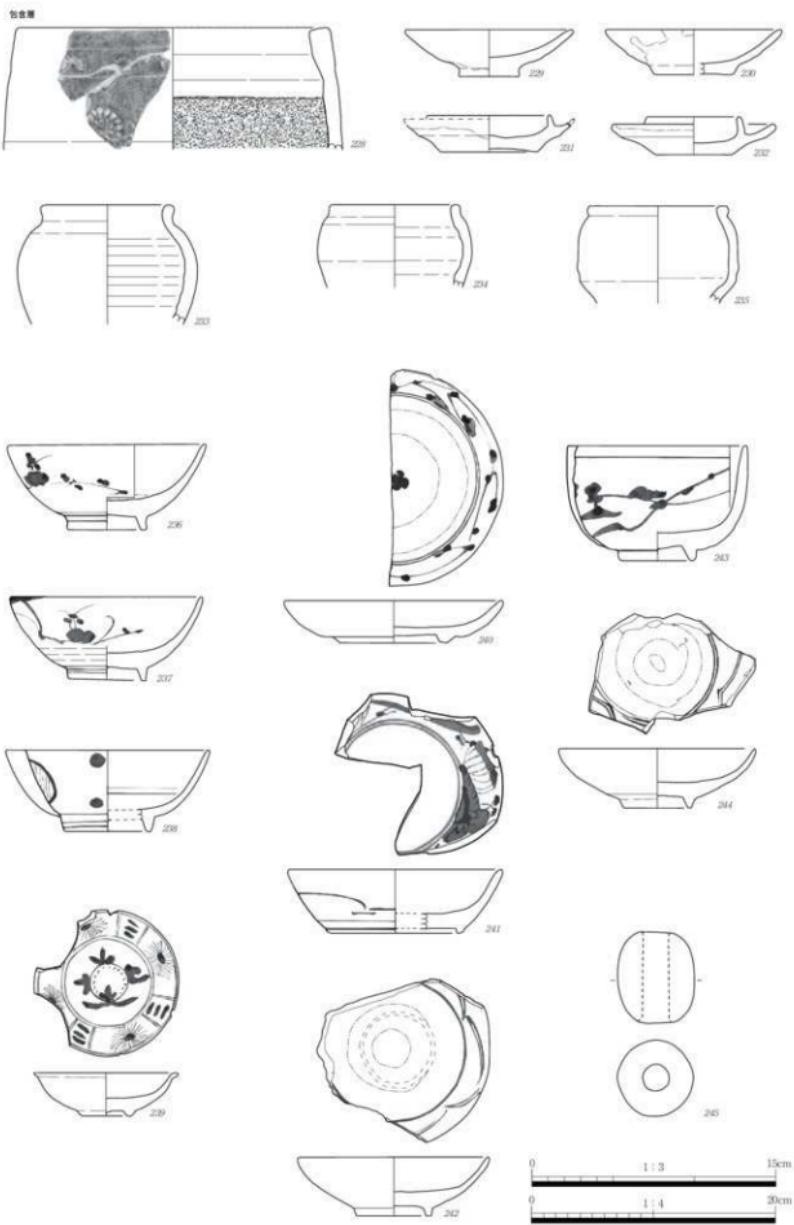


第41図 稲積天板遺跡 遺物実測図 (185~194・196~205 1/3, 177~184・195 1/4)
SR1(177~182) 包含層



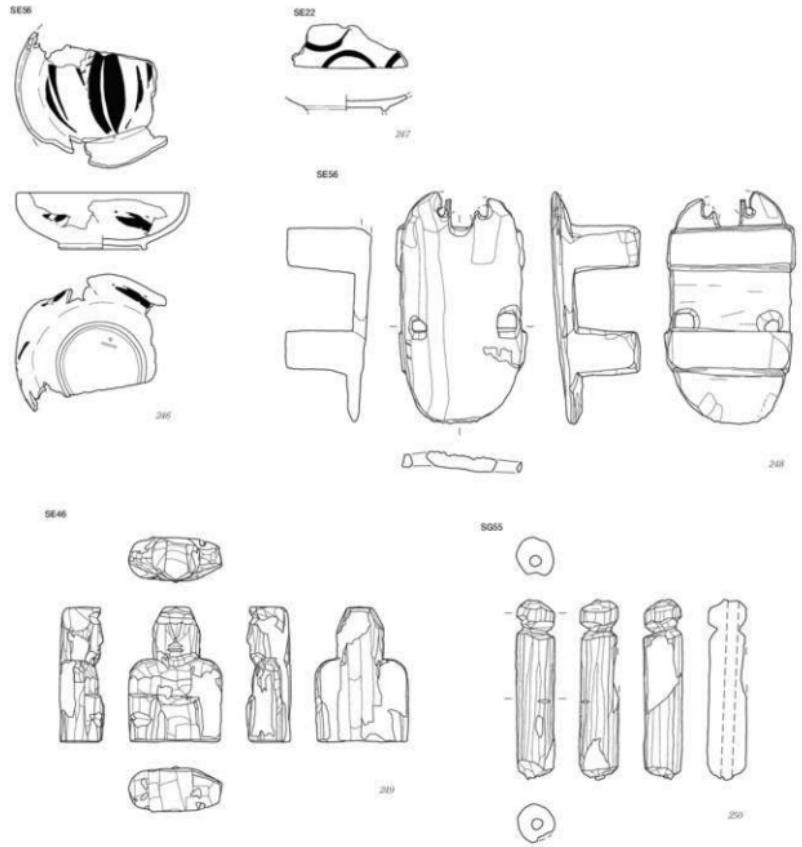
第42図 稲積天板遺跡 遺物実測図 (224~227 1/3, 206~223 1/4)

SX2(216) 包含層



第43図 稲積天板遺跡 遺物実測図 (229~245 1/3, 228 1/4)
包含層

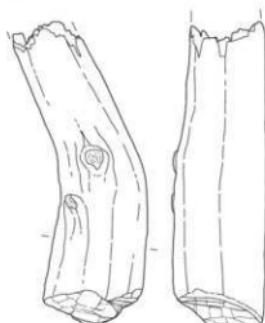
3 遺構と遺物



第44図 稲積天板遺跡 遺物実測図 (1/4)
SE22(247) SE46(249) SE56(246・248) SG55(250)

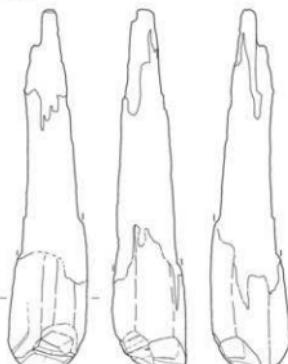
0 1:4 20cm

SA1 SP17



251

SP39



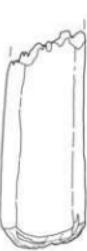
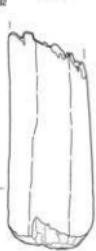
252

SB3 SP26



253

SP32



254

SA4 SP61

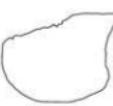


255

SA5 SP67



256



0

1:8

40cm

第45図 稲積天板遺跡 遺物実測図 (1/8)

SB3 SP26(253) SA1 SP17(251) SA4 SP61(255) SA5 SP67(256) SP32(254) SP39(252)

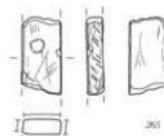
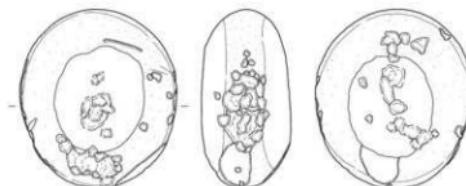
3 遺構と遺物

包含層



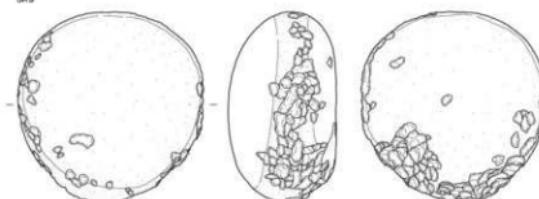
第46図 稲積天板遺跡 遺物実測図 (1/3)
SE46(262) SX2(260・261) 包含層

SD123

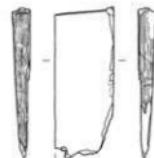


263

SK9



SD212



1 266

264



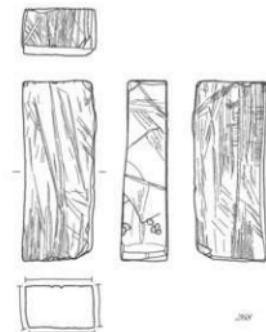
SD123



267



包含層



268

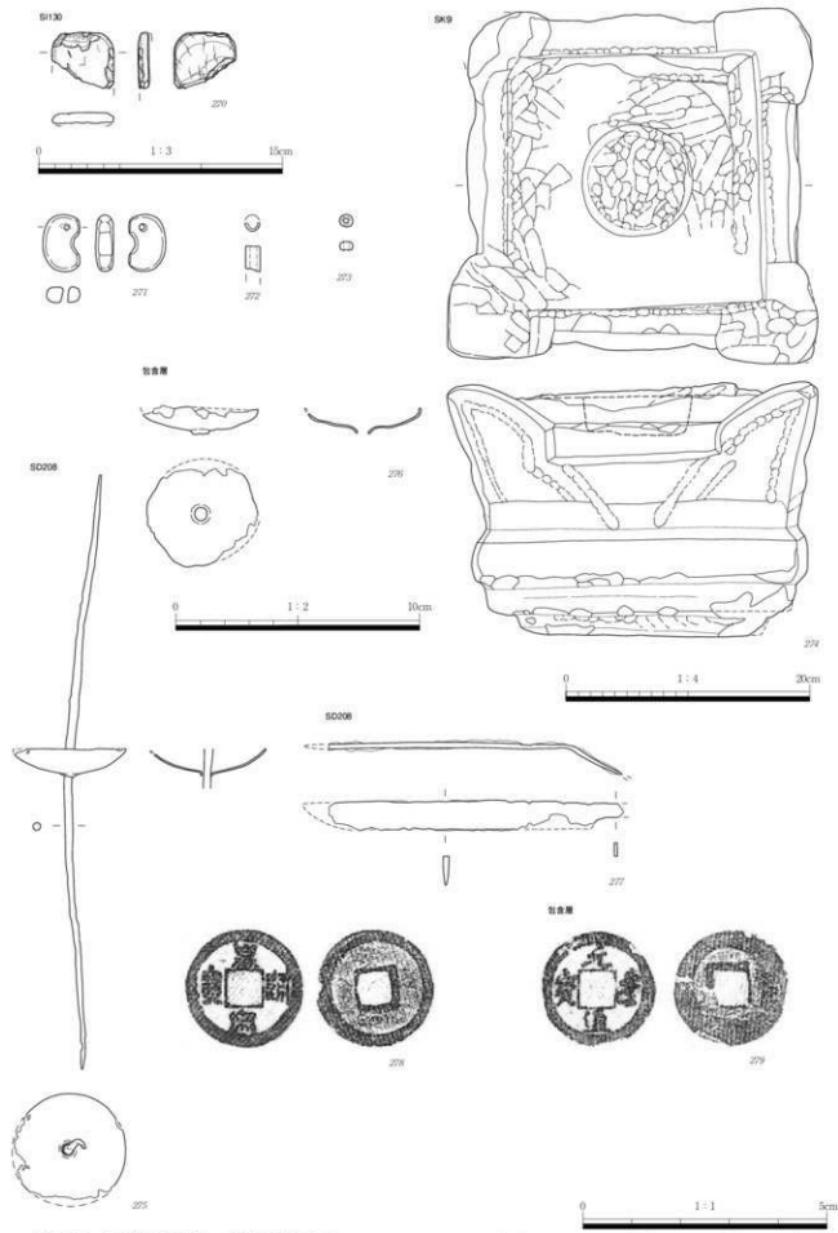


269



第47図 稲積天板遺跡 遺物実測図 (1/3)

SD123(263・267) SD212(266) SE46(268) SK9(264) SX2(265) 包含層



第48図 稲積天板遺跡 遺物実測図 (271~273・278・279 1/1, 275~277 1/2, 270 1/3, 274 1/4)
SI130(270~273) SD208(275・277・278) SK9(274) 包含層

第5表 稲積天板遺跡 穴建物一覧

建物	造形	種類	平面形	規模(m)			出土遺物	時期	特記事項	切り合ひ	桿回	写真 図版
				長さ	幅	深さ						
SI130	SI130	穴建物	隅丸方 又は多角	6.84	6.04	0.26	弥生上層 深色凝灰岩 石核・鉄色凝灰岩調片 鉄石英調片とスイズ脱勾玉 (27) ガラス小玉(23)	弥生		<SD1-122	9	8
	K1	単	円	1.36	1.00	0.48	弥生上層 深色凝灰岩 石核・鉄色凝灰岩調片 石英調片	弥生			9	
	K2	柱穴	楕円	(1.40)	1.00	0.36	弥生上層(?) 板状灰岩 石核・鉄色凝灰岩調片 鉄石英調片 加工石器(27) 管玉(22)	弥生			9	8
	K3	土坑	円	(0.56)	0.40	0.06		弥生			9	
	K4	土坑	円	(0.24)	0.24	0.04		弥生			9	
	K5	土坑	楕円	(0.36)	0.28	0.04		弥生			9	
	K6	土坑	円	0.36	0.28	0.16		弥生			9	
	K7	土坑	円	0.38	0.28	0.11		弥生			9	
SI153	K8	柱穴	楕円	(1.64)	1.00	0.50	弥生上層(?) 緑色凝灰 岩調片 鉄石英調片	弥生			9	8
	SI153	穴建物	隅丸	11.40	11.00	0.20	弥生土器(5)	弥生		>SD156-<SD154	10-11	9
	K1	柱穴	楕円	1.40	0.96	0.48	弥生土器	弥生			10-11	
	K2	土坑	円	0.36	0.32	0.04		弥生	支柱?		10-11	
	K3	補助柱穴	円	0.52	0.46	0.22	弥生土器	弥生			10-11	
	K4	柱穴	楕円	0.90	0.84	0.40		弥生			10-11	9
	K5	柱穴	楕円	1.20	0.96	0.54		弥生			10-11	
	K6	柱穴	楕円	1.16	0.90	0.55		弥生			10-11	
	K7	土坑	円	0.80	0.76	0.64		弥生	月日?		10-11	
	K8	補助柱穴	円	0.54	0.50	0.20		弥生			10-11	
	K9	柱穴	楕円	0.82	0.58	0.20	弥生土器	弥生			10-11	
	K10	土坑	楕円	(0.60)	0.38	0.20		弥生			10-11	
	K11	補助柱穴	楕円	0.60	0.40	0.38	弥生土器	弥生			10-11	
	K12	土坑	円	0.32	0.26	0.10		弥生			10	
	K13	土坑	円	1.02	0.88	0.06	弥生土器	弥生			10-11	
	K14	土坑	円	0.38	0.32	0.04		弥生			10-11	
	K15	補助柱穴	楕円	0.64	0.44	0.14		弥生			10-11	
	K16	土坑	楕円	(0.48)	0.30	0.06		弥生			10-11	
	K17	柱穴	円	0.88	0.82	0.62	弥生土器	弥生			10-11	
	K18	土坑	円	0.28	0.22	0.10		弥生	支柱?		10-11	
	K19	土坑	楕円	0.32	(0.28)	0.26	弥生土器	弥生			10-11	
	K20	柱穴	楕円	1.08	0.76	0.60	弥生土器(?)	弥生			10-11	9
	K21	単	不規	(2.34)	(1.06)	0.18	弥生土器	弥生			10-11	

第6表 稲積天板遺跡 据立柱建物一覧

地区	建物	種別	府行(m)	梁行(m)	面積(m ²)	桿方位	柱穴規模 横(m)	柱穴規模 深(m)	柱間距離 横(m)	柱間距離 深(m)	出土遺物	時期	桿回	写真 図版		
A2	SB1	南北擁 側柱	2間	3.35	1間	2.70	9.05	N-10°-W	0.20-0.36	0.26-0.48	0.15-0.17	0.26-0.27	弥生土器	弥生	12	6-9
A2	SB2	南北擁 側柱	2間	3.75	1間	2.70	10.13	N8°-E	0.20-0.38	0.10-0.34	0.16-0.25	0.26-0.27	弥生土器	古代	15	6-11
A1	SB3	東西擁 側柱	1間	4.84	2間	4.26	20.62	N-3°-W	0.32-0.88	0.22-0.56	0.48-0.49	0.20-0.23	中世土器類 珠洲古墳	中世	18	6-7-12

第7表 稲積天坂遺跡 柱穴一覧

遺物 號	遺構	平面形	規範(m)			出土遺物	時期	特記事項	切り合・ 寸法	標 ^記 印	写真 回数
			長さ	幅	深さ						
SA1	SP13	円	0.44	0.44	0.31		中世			18	
	SP15	円	0.86	0.64	0.48		中世	柱頭		18	
	SP17	円	0.64	0.52	0.46	柱根(25)	中世			18	12
	SP19	橢円	0.56	0.35	0.29		中世	柱頭		18	
SA2	SP12	円	0.46	0.36	0.20		中世			18	
	SP21	円	0.48	0.40	0.50	中世土師器	中世			18	
SA3	SP35	円	0.24	0.24	0.11		中世			19	
	SP36	円	0.24	0.24	0.20		中世			19	
	SP37	円	0.24	0.18	0.08		中世			19	
SA4	SP61	円	0.33	0.29	0.30	中世土師器柱根(255)	中世			19	
	SP62	円	0.31	0.21	0.16		中世			19	
SA5	SP65	円	0.14	0.12	0.48	支柱	近世		<SX2	19	
	SP66	円	0.08	0.06	0.38	柱机支柱	近世		<SX2	19	
	SP67	円	0.38	0.26	0.42	柱根(256)	近世		<SX2	19	12
SA6	SP24	円	0.60	0.60	0.15	中世土師器	中世	柱頭		18	
	SP28	円	(0.48)	0.54	0.24		中世			18	
SB1	SP117	円	0.28	0.24	0.36		弥生			12	
	SP120	円	0.26	0.20	0.36		弥生			12	
	SP121	円	0.36	0.32	0.48		弥生			12	
	SP126	円	0.32	0.28	0.36	弥生土器	弥生			12	
	SP127	円	0.28	(0.24)	0.43		弥生			12	
	SP129	円	0.22	0.20	0.26		弥生			12	
SB2	SP144	円	0.34	0.28	0.34		古代			15	11
	SP145	円	0.32	0.28	0.23	弥生土器	古代			15	
	SP146	円	0.32	0.30	0.14		古代			15	
	SP147	橢円	0.38	0.20	0.10		古代			15	
	SP148	円	0.28	0.24	0.20		古代			15	
SB3	SP16	円	0.88	0.78	0.22		中世	柱頭		18	
	SP18	円	0.44	0.44	0.22	珠列	中世	柱頭		18	
	SP23	円	0.40	0.36	0.48		中世			18	
	SP25	円	0.36	0.32	0.28		中世			18	
	SP26	円	0.48	0.40	0.34	中世土師器柱根(257)	中世	柱頭		18	12
	SP29	円	0.84	0.48	0.56		中世	柱頭		18	
	SP20	円	0.60	0.55	0.20		中世			18	
	SP27	円	0.35	0.30	0.10		中世			18	
	SP32	円	0.30	0.28	0.48	柱根(254)	中世			19	
SP38	円	0.52	0.48	0.52	柱根	中世				19	
	SP39	円	0.48	0.36	0.68	柱根(252)	中世			19	

第8表 稲積天板遺跡 谷・溝・自然流路一覧

遺構	種類	規模(m)		出土遺物	時期	特記事項	切り分け	挿図	写真 図版
		幅	深さ						
SRI	谷	200-	0.10-0.35	圓文土器(177~182)	縄文			7	7
SD1	自然流路	11.20	1.46	弥生土器(177-78)、須恵器(79)、中晉土器器(80~82)、珠洲(85~92)、圓口(83~84)、越中 瀬戸、肥前陶器群、袖板、砥石	弥生~近世		>SI130>SD122-123-134	17-23	11
SD6	溝	142-254	0.18-0.28	珠洲、肥前陶器群	近世		>SX2	17-24	
SD7	溝	192	0.37	須恵器、珠洲(128)、越中瀬戸(129)、肥前陶器 群(130~133)、加工石	近世		SD8と接続	17-24	
SD8	溝	327	0.40	珠洲、越中瀬戸(129)、肥前陶器群(130~131- 134)、袖板、砥石	近世		SD7とSD1と接続	17-24	
SD30	溝	0.40	0.06	中晉土器群、珠洲	中晉			17-20	
SD43	溝	0.64	0.09		中晉		<SG34	17-20	
SD49	溝	0.32	0.10	越中瀬戸、肥前陶器群、水案通寶	中晉~近世		>SE50<SD53-5G34	17-20	
SD61	溝	226	0.34	中晉土器群、珠洲、越中瀬戸(135-136)、肥前 陶器群	近世		>SD53 SD8と接続	17-24	
SD62	溝	0.80	0.24		近世	SD61と接続		17-24	
SD63	溝	298	0.60	珠洲、越中瀬戸、肥前陶器群、水案通寶	中晉~近世	L字型の区画溝	>SD49<SD51	17-20	
SD122	溝	0.86	0.28	弥生土器	古代	SD123と北側で 合流	>SI130>SD1-132	14-15	
SD123	溝	354	0.50	弥生土器(30-94)、土師器(95-96)、須恵器(97- 108)、珠洲(109)、灰石(267)、凹石(262)	古代	SD122と北側で 合流	>SD1-154<SK125	14-15	11
SD132	溝	1.16	0.20	弥生土器	弥生		<SD122	8-12	
SD134	溝	0.35	0.08		古代		>SD1	14-15	
SD150	溝	0.24	0.06		古代		>SD154	14-15	11
SD154	溝	0.24	0.08	須恵器(108)	弥生~古代		>SI153<SD122-150	14-15	
SD156	溝	0.94	0.06		弥生		<SI153	8-12	
SD160	溝	1.02	0.60	弥生土器(67~66)、須恵器、不明石材調片	弥生		<SD162	8-12	10
SD162	溝	0.94	0.12	弥生土器(67~71)	弥生		>SD160	8-12	
SD201	自然流路	(9.21)	0.74	弥生土器(110~114)、土師器(96)、打製石斧	弥生~近世	SD1の続きとなる可能性		14-15	
SD208	溝	12.00	0.40	弥生土器(115)、土師器、須恵器、珠洲、中國製 青磁、越中瀬戸、肥前陶器群、灰石、金属質精錐 (275)、刀子(277)、網鉄(278)	古代	SD123の続きとなる可能性		14	
SD212	溝	150	0.25	灰石(266)	中近世			16	

第9表 稲積天坂遺跡 土坑一覧

遺構	平面形	規模(m)			出土遺物	時期	特記事項	切り合×	測定	写真 回数
		長さ	幅	深さ						
SK3	円	1.12	0.88	0.08	桶	近世	<SD5	29	14	
SK9	PP	3.40	(1.52)	0.40	珠洲,越中瓢口,宝鏡印塔(277),鏡石(364)	近世		29		
SK33	円	1.16	1.08	0.22	柱根	中世		30		
SK47	隅丸方	1.24	1.12	0.53	珠洲,粘土塊	中世		29	13	
SK48	隅丸方	1.08	0.76	0.14	肥前陶磁器	近世		29		
SK57	円	1.52	(1.36)	0.27	珠洲桶	近世		29	14	
SK58	円	1.32	1.28	0.21	珠洲桶	近世		29	14	
SK105	長方	1.16	0.60	0.06	糞生土器	糞生		13		
SK107	不整	1.54	1.02	0.32	糞生土器(22)	糞生		13		
SK108	円	0.74	0.60	0.64	糞生土器(23)	糞生		13		
SK109	円	0.72	0.68	0.32	糞生土器	糞生		13		
SK119	不整	0.96	0.44	0.08	糞生土器	糞生		13		
SK125	長方	3.36	2.20	0.32	糞生土器	糞生	>SD123	15		
SK135	長方	2.68	1.92	0.32	糞生土器	糞生		13		
SK138	円	0.26	0.24	0.32	糞生土器	糞生		13		
SK139	円	0.26	0.28	0.54	糞生土器	糞生		13		
SK142	長方	1.64	1.00	0.40	糞生土器	糞生		13		
SK143	長方	2.56	1.04	0.37	糞生土器	糞生		13		
SK152	長方	2.98	1.28	0.52	糞生土器(24)	糞生		13		
SK167	不整	(1.40)	0.84	0.16	糞生土器(25-26)	糞生		13		

第10表 稲積天坂遺跡 井戸一覧

遺構	平面形	規模(m)			出土遺物	時期	特記事項	切り合×	測定	写真 回数
		長さ	幅	深さ						
SE14	円	1.16	1.08	1.52	中世土師器(126)	中世			21	
SE22	円	0.88	0.80	0.80	漆器桶(297),板材,竹筒	中世			21	
SE41	不整	1.46	1.24	0.58	土師器,珠洲(117),粘土塊,井戸棒材,埋	中世		21	13	
SE46	不整	1.76	1.44	1.80	中世土師器(128),珠洲(129-130),中國白磁,粘土塊,木像(289),棒柱,曲輪,井戸棒材,鏡石(265),鏡石(289)	中世		21	13	
SE50	円	1.64	1.34	0.88	珠洲,肥前陶磁器	中世	<SD49	21		
SE56	不整	3.32	2.88	1.42	中世土師器(122-125),珠洲(126-127),粘土塊,漆器桶(246),下駄(248),井戸棒材	中世		22	12	

第11表 稲積天坂遺跡 落込・溜池一覧

遺構	平面形	規模(m)			出土遺物	時期	特記事項	切り合×	測定	写真 回数
		長さ	幅	深さ						
SX2	不整	(15.08)	6.92	0.52	瓶底器(137),珠洲(138-144-216),中國白磁(145),瓶底器(167-171),越中瓢口(129-146-150),肥前陶磁器(151-166),不明陶器(122),漆器桶,下駄,曲輪,板材,漆器石斧(289-291),鏡石(285),石臼	近世	>SD65-67 (S45), <SD6	25-27		
SG34	不整	(4.56)	3.96	0.41	珠洲(174),越中瓢口,土器(175)	近世	>SD43-49	25		
SG54	不整	9.00	3.80	0.44	珠洲,瓢口	中世-近世		28		
SG55	不整	7.02	6.36	0.73	瓶底器,中世土師器(175),珠洲,肥前陶器(176),矛子(250)	中世-近世		28		

第12表 稻積天板遺跡 土器・陶磁器・土製品一覽 (1)

測量番号	測量番号	測量番号	出土場所	種類	形態1	形態2	寸法	寸法(cm)	寸法	寸法	寸法時間	胎土色調	胎土の特徴	胎土色調	胎土の特徴	胎土色調	胎土の特徴
30 J 15 A2	S130 R8 N61	S130 R8 N61	弦生土器 甕	直徑	17.9	27.4	35	弦生 承生	18.5	24.8	2028/6/4	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
2 21 A2	S130 R2 N62	S130 R2 N62	弦生土器 甕	直徑	24.8	33.8	138	弦生 承生	16.9	28	2028/7/3	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
J 15 A2	S130 R2 N61	S130 R2 N61	弦生土器 甕	直徑	18.6	28	138	弦生 承生	16.9	28	SYRZ/4	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
4 16 A2	S130 R20 N61	S130 R20 N61	弦生土器 甕	直徑	18.5	23.4	186	弦生 承生	18.5	23.4	2028/7/3	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
5 22 A2	S130 S13	S130 S13	弦生土器 甕	直徑	20.0	30	2028/2/4	弦生 承生	16.4	29.9	2028/3	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
6 16 A2	S130 S13	S130 S13	弦生土器 甕	直徑	18.3	29.9	43.5	弦生 承生	15.6	28	2028/7/4	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
7 19 A2	S130 X7Y106	S130 X7Y106	弦生土器 甕	直徑	16.2	27.0	2028/2/4	弦生 承生	16.2	27.0	2028/6	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
8 19 A2	S130 X7Y104	S130 X7Y104	弦生土器 甕	直徑	16.4	27.0	2028/2/4	弦生 承生	16.0	27.0	2028/3	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
9 19 A2	S130 X7Y104	S130 X7Y104	弦生土器 甕	直徑	18.3	29.9	43.5	弦生 承生	16.0	27.0	2028/7/3	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
10 19 A2	S130 X7Y105	S130 X7Y105	弦生土器 甕	直徑	18.0	27.0	2028/2/4	弦生 承生	16.0	27.0	2028/7/3	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
11 19 A2	S130 X7Y104	S130 X7Y104	弦生土器 甕	直徑	18.0	27.0	2028/2/4	弦生 承生	16.0	27.0	2028/7/2	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
12 19 A2	S130 X7Y101	S130 X7Y101	弦生土器 甕	直徑	18.0	27.0	2028/2/4	弦生 承生	16.0	27.0	2028/7/4	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
13 19 A2	S130 X7Y102	S130 X7Y102	弦生土器 甕	直徑	18.0	27.0	2028/2/4	弦生 承生	16.0	27.0	2028/3	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
14 16 A2	S130 X7Y104	S130 X7Y104	弦生土器 甕	直徑	21.4	22.0	40	弦生 承生	19.8	28	2028/2	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
15 19 A2	S130 X7Y105	S130 X7Y105	弦生土器 甕	直徑	18.8	28	2028/2/4	弦生 承生	19.8	28	2028/3	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
16 19 A2	S130 X7Y104	S130 X7Y104	弦生土器 甕	直徑	21.0	28	2028/2/4	弦生 承生	19.8	28	2028/3	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
17 19 A2	S130 X7Y109	S130 X7Y109	弦生土器 甕	直徑	18.0	28	2028/2/4	弦生 承生	19.8	28	2028/6	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
18 A2	S130 X7Y104	S130 X7Y104	弦生土器 甕	直徑	17.5	28	2028/2/4	弦生 承生	19.8	28	SYRZ/4	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
19 A2	S130 X8Y105	S130 X8Y105	弦生土器 甕	直徑	20.0	28	2028/2/4	弦生 承生	19.8	28	2028/6	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
20 19 A2	S130 X8Y107	S130 X8Y107	弦生土器 甕	直徑	18.2	28	2028/2/4	弦生 承生	19.8	28	2028/4	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
21 19 A2	S130 X8Y106	S130 X8Y106	弦生土器 甕	直徑	20.0	28	2028/2/4	弦生 承生	19.8	28	2028/7/3	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
22 19 A2	S130 X8Y103	S130 X8Y103	弦生土器 甕	直徑	17.0	28	2028/2/4	弦生 承生	19.8	28	SYRZ/4	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
23 19 A2	S130 X8Y106	S130 X8Y106	弦生土器 甕	直徑	18.0	28	2028/2/4	弦生 承生	19.8	28	SYRZ/6	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
24 19 A2	S130 X8Y109	S130 X8Y109	弦生土器 甕	直徑	17.5	28	2028/2/4	弦生 承生	19.8	28	2028/3	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
25 19 A2	S130 X8Y106	S130 X8Y106	弦生土器 甕	直徑	19.9	28	2028/2/4	弦生 承生	19.8	28	2028/8	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
26 16 A2	S130 X8Y101	S130 X8Y101	弦生土器 甕	直徑	10.8	23.4	47	弦生 承生	19.8	28	SYRZ/4	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
27 19 A2	S130 X8Y105	S130 X8Y105	弦生土器 甕	直徑	14.0	28	2028/2/4	弦生 承生	19.8	28	SYRZ/6	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
28 16 A2	S130 X8Y109	S130 X8Y109	弦生土器 甕	直徑	12.8	28	2028/2/4	弦生 承生	19.8	28	SYRZ/6	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
29 19 A2	S130 X8Y107	S130 X8Y107	弦生土器 甕	直徑	14.4	28	2028/2/4	弦生 承生	19.8	28	SYRZ/3	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片
30 19 A2	S130 X8Y109	S130 X8Y109	弦生土器 甕	直徑	12.6	28	2028/2/4	弦生 承生	19.8	28	2028/4	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	1.45cm 褐色	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片	褐色 砂粒・骨片

第12表 稲積天板遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(2)

測定番号	測定場所名	測定地点	標明	計幅1	計幅2	計幅	注量(cm)	厚度	測量時間	測量	割上寸数	割率	備考
32 20 A2 SD100 №5	先生土器	先生土器	先生土器	19.0		19.0		先生	先生後期	10197/3	1.25-1.45cm	褐色	升円大文
32 20 A2 SD100 №9	先生土器	先生土器	先生土器	19.6		19.6		先生	先生後期	10197/4	1.25-1.45cm	褐色	升圓大文
33 16 A2 SD100 №5	先生土器	先生土器	先生土器	15.2		15.2		先生	先生後期	10197/3	1.25-1.45cm	褐色	升圓大文
34 20 A2 SD100 X7XY108	先生土器	先生土器	先生土器	17.0		17.0		先生	先生後期	10197/6	褐色	褐色	升圓大文
35 A2 SD100 №10	先生土器	先生土器	先生土器	17.5		17.5		先生	先生後期	10197/4	1.25-1.45cm	褐色	褐色
36 20 A2 SD100 №9	先生土器	先生土器	先生土器	17.0		17.0		先生	先生後期	10197/4	1.25-1.45cm	褐色	褐色
37 17 A2 SD100 №17	先生土器	先生土器	先生土器	14.0		14.0		先生	先生後期	10197/3	1.25-1.45cm	褐色	褐色
38 20 A2 SD100 №16	先生土器	先生土器	先生土器	12.8		12.8		先生	先生後期	10197/3	1.25-1.45cm	褐色	褐色
39 20 A2 SD100 X7XY102	先生土器	先生土器	先生土器	15.4		15.4		先生	先生後期	10197/3	1.25-1.45cm	褐色	褐色
40 20 A2 SD100 №9	先生土器	先生土器	先生土器	11.6		11.6		先生	先生後期	10197/4	1.25-1.45cm	褐色	褐色
41 20 A2 SD100 X8YY107	先生土器	先生土器	先生土器	20.8		20.8		先生	先生後期	10197/4	1.25-1.45cm	褐色	褐色
42 16 A2 SD100 №13	先生土器	先生土器	先生土器	14.0		14.0		先生	先生後期	10197/3	1.25-1.45cm	褐色	褐色
43 20 A2 SD100 №19	先生土器	先生土器	先生土器	27.0		27.0		先生	先生後期	10197/6	褐色	褐色	升圓大文
44 21 A2 SD100 №30	先生土器	先生土器	先生土器	16.1		16.1		先生	先生後期	10197/2	1.25-1.45cm	褐色	褐色
45 21 A2 SD100 №16	先生土器	先生土器	先生土器	24.5		24.5		先生	先生後期	10197/2	1.25-1.45cm	褐色	褐色
46 21 A2 SD100 X8YY101	先生土器	先生土器	先生土器	19.2		19.2		先生	先生後期	10197/4	1.25-1.45cm	褐色	褐色
47 21 A2 SD100 X7XY107	先生土器	先生土器	先生土器	27.0		27.0		先生	先生後期	10197/2	1.25-1.45cm	褐色	褐色
48 21 A2 SD100 №5-9	先生土器	先生土器	先生土器	20.8	30.5	18.0	先生	先生後期	10197/3	1.25-1.45cm	褐色	褐色	
49 17 A2 SD100 №16-10	先生土器	先生土器	先生土器	30.0	30.1	18.2	先生	先生後期	10197/4	1.25-1.45cm	褐色	褐色	
50 17 A2 SD100 №3	先生土器	先生土器	先生土器	31.0		31.0		先生	先生後期	10197/6	褐色	褐色	褐色
51 17 A2 SD100 X7TH100	先生土器	先生土器	先生土器	27.7	22.4	19.3	先生	先生後期	10197/4	1.25-1.45cm	褐色	褐色	
52 17 A2 SD100 X7XY105	先生土器	先生土器	先生土器	27.7		27.7		先生	先生後期	10197/6	褐色	褐色	褐色
53 A2 SD100 №16-19	高杯	高杯	高杯	21.0		21.0		先生	先生後期	10197/4	1.25-1.45cm	褐色	褐色
54 21 A2 SD100 X7XY102	高杯+砂	高杯+砂	高杯+砂	14.6	先生	先生後期	25.5	先生	先生後期	10197/3	1.25-1.45cm	褐色	褐色
55 21 A2 SD100 №3	高杯	高杯	高杯	17.4	先生	先生後期	25.5	先生	先生後期	10197/4	1.25-1.45cm	褐色	褐色
56 21 A2 SD100 №12	高杯	高杯	高杯	15.4	先生	先生後期	25.5	先生	先生後期	10197/4	1.25-1.45cm	褐色	褐色
57 21 A2 SD100 №6	高杯	高杯	高杯	25.7	先生	先生後期	25.7	先生	先生後期	10197/3	1.25-1.45cm	褐色	褐色
58 21 A2 SD100 №16	高杯	高杯	高杯	24	先生	先生後期	10197/3	先生	先生後期	10197/4	1.25-1.45cm	褐色	褐色
59 19 A2 SD100 X7XY103	杯	杯	杯	14.2	6.4	3.4	先生	先生後期	10197/4	1.25-1.45cm	褐色	褐色	
60 17 A2 SD100 X7XY103	杯	杯	杯										

第12表 稻積天板遺跡 土器・陶磁器・土製品一覽(3)

序号	遺物 番号	層位 層級	遺跡	出土地点	種類	形態1	形態2	直徑(cm)	底径	厚度	剖面	剖面時間	胎土調	胎土の特徴	胎土調	相思	備考	
36	61	A2	S0160	No.9	弦纹土器	有孔器		10.2	4.6	.33	先生	泥生土器	25377.2	灰黑色			無泥生地等化	
62 ^a	18	A2	S0160	No.18	弦纹土器	有孔器		17.6	11.0		先生	泥生土器	25377.3	灰黑色				
63 ^a	18	A2	S0160	No.18	弦纹土器	有孔器		17.5	13.8		先生	泥生土器	25377.4	±45°傾斜色				
64	22	A2	S0160	No.9	弦纹土器	素		15.5	5.6		先生	泥生土器	25377.2	±45°傾斜色				
65	22	A2	S0160	No.16	弦纹土器	素		13.0	6.1		先生	泥生土器	25377.2	±45°傾斜色				
66 ^a	22	A2	S0160	No.16	弦纹土器	素		13.4			先生	泥生土器	25378.2	灰白色				
67 ^a	19	A2	S0162	X80Y108	弦纹土器	素		19.2			先生	泥生土器	25378.4	±45°傾斜色				
68 ^a	18	A2	S0162	X80Y108	弦纹土器	合叶型		15.5			先生	泥生土器	25378.4	±45°傾斜色			開面半切	
69 ^a	21	A2	S0162	X80Y108	弦纹土器	高脚		27.8			先生	泥生土器	25378.6	明治時代				
70	18	A2	S0162	X80Y108	弦纹土器	素		14.4	5.2	.39	先生	泥生土器	25378.3	±45°傾斜色				
71	A2	S0162			弦纹土器	林		14.0			先生	泥生土器	25378.4	±45°傾斜色				
72	19	A2	S0167		弦纹土器	素	有段		18.0			先生	泥生土器	25378.3	±45°傾斜色			開面火灰
73	20	A2	S0168		弦纹土器	素			6.6			先生	泥生土器	25378.6	±45°傾斜色			
74	A2	S0162			弦纹土器	高脚		18.0			先生	泥生土器	25378.3	±45°傾斜色				
75	A2	S0167			弦纹土器	素	有段				先生	泥生土器	25378.4	±45°傾斜色	斜切-等計			
76	20	A2	S0167		弦纹土器	素					4.4	先生	泥生土器	25378.4	±45°傾斜色	斜切-等計		
77	19	A2	S01	X80Y108	弦纹土器	素	有段		19.8			先生	泥生土器	25378.4	±45°傾斜色	斜切-等計		
78	20	A2	S01	X80Y108	弦纹土器	素	有段				先生	泥生土器	25378.4	±45°傾斜色	斜切-等計			
79	22	A2	S01	X80Y107	弦纹器	杆H		12.0	4.2		古代	灰	25376.1	圓灰色	黑色-等計			
80	25	A1	S01	X80Y75.1-2	中世土器	皿		6.7	1.1		中世	12.5cm幅手~	25374.1	灰灰色	斜切-等計			
81	25	A1	S01	X80Y84.1-2	中世土器	皿		10.4	2.3		中世	12.5cm幅手~	25376.3	±45°傾斜色	斜切-等計		内外面火灰	
82 ^a	25	A1	S01	X80Y84.1-2	中世土器	皿		10.8	2.4		中世	12.5cm幅手~	25376.2	±45°傾斜色	斜切-等計		内外面火灰	
83 ^a	28	A1	S01	X80Y65.1-2	瓶子	瓶子					中世	12.5cm幅手~	25376.1	灰白色	灰白色		NODI類	
85	27	A1	S01	X80Y85.1-2	瓶子	瓶子					中世	12.5cm幅手~	25376.3	±45°傾斜色	灰白色		NODI類	
86	27	A1	S01	X80Y81.1-2	瓶子	瓶子					中世	12.5cm幅手~	25376.1	灰灰色	斜切-等計		NODI類	
87 ^a	26	A1	S01	X80Y81.1-2	瓶子	瓶子					中世	12.5cm幅手~	25376.0	灰白色	斜切-等計			
88	25	A1	S01	X80Y81.1-2	瓶子	瓶子					中世	12.5cm幅手~	25376.0	灰白色	斜切-等計			
89	A1	S01	X80Y85.1-2	瓶子	瓶子	素					中世	12.5cm幅手~	25376.0	灰白色	斜切-等計			
90	25	A1	S01	X80Y81.1-2	瓶子	瓶子	素				中世	12.5cm幅手~	25376.0	灰白色	斜切-等計			

第12表 稲積天板遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧 (4)

測定番号	写真	地区名	出土地点	種類	計数1	計数2	口径(cm)	注量(cm)	厚さ	測量時間	胎土色調	胎土の特徴	胎土	備考
35 例 26	A1	S01	X3XY155/層 X3XY115/層	灰陶			47.7			中世	灰陶	白色灰黑色-骨針	白色灰黑色-骨针	17種器物下限(-)未記
36 例 25	A1	S01	X3XY155/層 X3XY115/層	灰陶	灰		58.0			中世	灰陶	白色灰黑色-骨针	白色灰黑色-骨针	
36 例 19	A2	S0123	X3XY105/	灰土器	灰		31.0			生世	灰陶	白色灰黑色-骨针	白色灰黑色-骨针	
34 例 20	A2	S0123	X3XY105/	灰土器	灰		18.0			生世	灰陶	白色灰黑色-骨针	白色灰黑色-骨针	
35 例 21	A2	S0123	X3XY109/	灰土器	灰		12.0		1.9	古代	灰陶	白色灰黑色-骨针	白色灰黑色-骨针	
36 例 24	B	S0201	X3XY107/	灰土器	灰		22.3			古代	灰陶	白色灰黑色-骨针	白色灰黑色-骨针	内外面火入火
37 例 24	A2	S0123	X3XY105/	灰土器	灰		12.5		1.2	古代	灰陶	白色灰黑色-骨针	白色灰黑色-骨针	墨痕
38 例 24	A2	S0123	X3XY105/	灰土器	灰		12.5		1.9	古代	灰陶	白色灰黑色-骨针	白色灰黑色-骨针	内面火-記号(-)
39 例 22	A2	S0123	X3XY106/層 X3XY106/層 X3XY106/層	灰土器	灰		17.4		2.7	古代	8~9C	N7.0	灰白色	
40 例 23	A2	S0123	X3XY105/	灰土器	灰		12.6		3.4	古代	灰陶	白色灰黑色-骨针	白色灰黑色-骨针	
41 例 23	A2	S0123	X3XY105/	灰土器	灰		12.5		4.2	古代	灰陶	白色灰黑色-骨针	白色灰黑色-骨针	
42 例 23	A2	S0123	X3XY107/	灰土器	灰		13.2		3.9	古代	8~9C	N7.0	灰白色	
43 例 23	A2	S0123	X3XY107/	灰土器	灰		9.0			古代	8~9C	N7.0	灰白色	
44 例 23	A2	S0123	X3XY107/	灰土器	灰		9.0			古代	8~9C	N7.0	灰白色	
45 例 24	A2	S0123	X3XY105/	灰土器	灰		18.0			古代	8~9C	N7.0	灰白色	
46 例 24	A2	S0123	X3XY105/	灰土器	灰		12.5			古代	8~9C	N7.0	灰白色	
47 例 22	A2	S0123	X3XY109/	灰土器	灰		13.2			古代	8~9C	N7.0	灰白色	
48 例 23	A2	S0123	X3XY107/	灰土器	灰		12.5			古代	8~9C	N7.0	灰白色	
49 例 23	A2	S0123	X3XY107/	灰土器	灰		12.5			古代	8~9C	N7.0	灰白色	
50 例 19	B	S0201	X3XY106/	灰土器	灰		21.0			生世	灰陶	白色灰黑色-骨针	白色灰黑色-骨针	直角切削
51 例 18	B	S0201	X3XY109/	灰土器	灰		21.0			生世	灰陶	白色灰黑色-骨针	白色灰黑色-骨针	直角切削
52 例 21	B	S0201	X3XY110/	灰土器	灰		29.2			生世	灰陶	白色灰黑色-骨针	白色灰黑色-骨针	直角切削
53 例 21	B	S0201	X3XY105/	灰土器	灰		13.0			生世	灰陶	白色灰黑色-骨针	白色灰黑色-骨针	直角切削
54 例 20	B	S0208	X3XY110/	灰土器	灰		17.6			生世	灰陶	白色灰黑色-骨针	白色灰黑色-骨针	直角切削
55 例 25	A1	SE14					8.2		1.9	中世	灰陶	白色灰黑色-骨针	白色灰黑色-骨针	NDF型
56 例 25	A1	SE11					8.2		1.9	中世	灰陶	白色灰黑色-骨针	白色灰黑色-骨针	NDF型
57 例 26	A1	SE6					12.7		3.4	中世	灰陶	白色灰黑色-骨针	白色灰黑色-骨针	NDF型

第12表 稻積天板遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(5)

番号	遺物 名	地区名	遺構	出土地点	種類	形態1	形態2	寸法	重量(g)	断面	剖面時間	胎土調査	胎土の特徴	色調	相場	備考
X7	Z29	Z7	S26	33XY6	陶器	罐		37.8	中復 中復	中復 中復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			
X7	Z25	A1	S256	之輪	中復土器部	罐		7.8	22	中復 中復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			ノリ型
X7	Z25	A1	S256	之輪	中復土器部	罐		7.9	23	中復 中復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			ノリ型
X7	Z25	A1	S256	之輪	中復土器部	罐		8.2	20	中復 中復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			ノリ型
X7	Z25	A1	S256	之輪	中復土器部	罐		10.8	中復 中復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			ノリ型	
X7	Z25	A1	S256	油圓	中復土器部	罐		12.9	中復 中復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			ノリ型	
X7	Z25	A1	S256	油圓	中復土器部	罐		12.9	中復 中復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			ノリ型	
X7	Z25	A1	S256	油圓	中復土器部	罐		12.9	中復 中復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			ノリ型	
X7	Z25	A1	S256	油圓	中復土器部	罐		12.9	中復 中復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			ノリ型	
X8	Z29	A1	S257	6 33XY50 33XY50	輪中輪口	罐		10.9	29	近復 近復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			
X9	Z32	A1	S257	8	肥前陶器	林		8.0	近復 近復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			白系SY 2/26+4-1-2色	
X9	Z31	A1	S257	8	肥前陶器	林		6.9	5.3	近復 近復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			白系SY 2/26+4-1-2色
X9	Z32	A1	S257	30	肥前陶器	林		14.4	3.4	近復 近復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			白系SY 2/26+4-1-2色
X7	Z17	A1	S105	33XY53	肥前陶器	瓶		2.9	近復 近復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			透明地	
XH	Z11	A1	S108	33XY53	肥前陶器	瓶		8.4	6.4	近復 近復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			透明地
X5	Z29	A1	S161	輪中輪口	罐		8.4	1.6	近復 近復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			透明地	
X6	Z29	A1	S161	輪中輪口	罐		11.6	近復 近復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			透明地		
X7	Z27	A1	S162	33XY53	肥前陶器	杯		13.0	古代 古代	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			透明地	
X8	A1	S172	33XY45	陶		33.6	中復	中復	中復 中復	中復 中復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			透明地
X8	Z27	A1	S172	33XY45	陶		13.8	中復	中復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			透明地	
X9	Z25	A1	S172	33XY50	陶		5.8	中復 中復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			透明地		
X9	Z25	A1	S172	33XY50	陶		5.2	近復 近復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			透明地		
X9	Z29	A1	S172	33XY50	陶		9.3	近復 近復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			透明地		
X9	Z29	A1	S172	33XY50	陶		7.3	近復 近復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			透明地		
X9	Z30	A1	S172	33XY49 bt?	陶		8.8	6.0	近復 近復	10YR 4/2	灰褐色	白色胎・輪郭・骨片			透明地	

第12表 稲積天板遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧 (6)

測定番号	器名	地区名	出土地点	縦幅	横幅	厚さ(cm)	注量(cm)	断面	断面時間	断面色調	断面上の特徴	断面	備考
39 130 30 A1 SXC2 X3XY19 X3XY20 X3XY23	肥前高砂 梗	中高砂1	II	9.3	8.1	10.7	云板	10YR6/3	浅黄色		7.5YR2/2	黒褐色	
45 21 31 A1 SXC2 X3XY46	肥前高砂 梗	高砂1	II	11.6	5.3	4.1	云板	N8.0	灰白色				青竹T305-296青灰色 透明釉 表面有裂隙 青竹T305-296青灰色
45* 31 A1 SXC2 X3XY48	肥前高砂 梗	高砂1	II	11.3	5.7	4.4	云板	N8.0	灰白色				青竹T305-296青灰色 透明釉 表面有裂隙
45* 31 A1 SXC2 X3XY52	肥前高砂 梗	高砂1	II	9.5	6.9	4.3	云板	N8.0	灰白色				青竹T305-296青灰色 透明釉 表面有裂隙
45* 31 A1 SXC2 X3XY45	肥前高砂 梗	高砂1	II	11.0	6.1	5.8	云板	N8.0	灰白色				青竹T305-296青灰色 透明釉 表面有裂隙
45* 30 A1 SXC2 X3XY53	肥前高砂 梗	高砂1	II	11.8	3.8	4.0	云板	N8.0	灰白色				青竹T305-296青灰色 透明釉 表面有裂隙
45* 30 A1 SXC2 X3XY49	肥前高砂 梗	高砂1	II	12.9	4.1	7.8	云板 引	N8.0	灰白色				青竹T305-296青灰色 透明釉 表面有裂隙
45* 30 A1 SXC2 X3XY49	肥前高砂 梗	高砂1	II	13.6	3.1	7.3	云板 引	N8.0	灰白色				青竹T305-296青灰色 透明釉 表面有裂隙
45* 31 A1 SXC2 X3XY48	肥前高砂 梗	高砂1	II	12.7	3.6	5.6	云板	N8.0	灰白色				青竹T305-296青灰色 透明釉 表面有裂隙
45* 31 A1 SXC2 X3XY49	肥前高砂 梗	高砂1	II	13.8	4.1	8.0	云板	N8.0	灰白色				青竹T305-296青灰色 透明釉 表面有裂隙
40 160 30 A1 SXC2 X3XY49	肥前高砂 梗	高砂1	II	9.0	2.8		云板	N8.0	灰白色				青竹T305-296青灰色 透明釉 表面有裂隙
46 30 A1 SXC2 3e3	肥前高砂 梗	高砂1	II	10.5	3.2		云板 引	N8.0	灰白色				青竹T305-296青灰色 透明釉 表面有裂隙
46* 31 A1 SXC2 X3XY48	肥前高砂 梗	高砂1	II	11.0	7.0	4.9	云板	10Y7/1	灰白色				青竹T305-296青灰色 透明釉 表面有裂隙
46* 31 A1 SXC2 3e3	肥前高砂 梗	高砂1	II	9.4	6.1	4.2	云板	N8.0	灰白色				青竹T305-296青灰色 透明釉 表面有裂隙
46* 32 A1 SXC2 3e3	肥前高砂 梗	高砂1	II	12.0	3.4	4.3	云板	25Y8/2	灰白色				青竹T305-296青灰色 透明釉 表面有裂隙
46* 32 A1 SXC2 X3XY48	肥前高砂 梗	高砂1	II	18.7	4.7	6.9	云板 引	25Y8/2	灰白色				青竹T305-296青灰色 透明釉 表面有裂隙
46* 32 A1 SXC2 X3XY48 X3XY49	肥前高砂 梗	高砂1	II	18.0	6.0	7.2	云板 引	10Y4/6	赤色				白泥T305-296白色 透明釉 表面有裂隙
46* 32 A1 SXC2 X3XY47	肥前高砂 梗	高砂1	II	12.2	6.3	4.3	云板 引	25Y7/4	浅黄色				白泥T305-296浅黄色 透明釉 表面有裂隙
46* 32 A1 SXC2 3e3	肥前高砂 梗	高砂1	II	12.6	6.1	4.3	云板 引	10Y7/1	浅黄色				白泥T305-296浅黄色 透明釉 表面有裂隙
46* 32 A1 SXC2 X3XY48	肥前高砂 梗	高砂1	II	12.6	5.9	4.9	云板 引	25Y8/2	灰白色				白泥T305-296灰白色 透明釉 表面有裂隙
46* 32 A1 SXC2 X3XY49	肥前高砂 梗	高砂1	II	13.2	6.6	4.5	云板 引	25Y7/3	浅黄色				白泥T305-296浅黄色 透明釉 表面有裂隙
47 32 A1 SXC2 X3XY50	肥前高砂 梗	高砂1	II	11.8	5.9	4.2	云板 引	25Y8/2	灰白色				白泥T305-296白色 透明釉 表面有裂隙

第12表 稻積天板遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(7)

測量番号	測量番号	測量番号	測量番号	出土地点	種類	形態1	形態2	寸法(cm)	寸法(cm)	寸法(cm)	寸法(cm)	寸法(cm)	寸法(cm)	寸法(cm)	寸法(cm)	寸法(cm)	寸法(cm)	寸法(cm)	寸法(cm)
40	172	22	A1	X3XY48	不明陶器	筒		12.9	6.2	47	直徑		2578.3	淡黃色		2578.2	灰白色	灰褐色	
41	173	23	A1	S634	土製品	土瓶		長3.5	幅	孔径		10187.3	1.25~黃褐色	褐色-青白		10187.3	灰褐色	灰褐色	
42	174	27	A1	S634	瓦片	圓錐		5.0	4.2	20				黑色-青白-青白			黑色-青白-青白	黑色-青白-青白	
43	175	25	A1	S635	中世土器物	圓		8.6	2.3	中徑	15°C後半~	10187.6	淡黃褐色	褐色-青白		10187.6	褐色-青白	褐色-青白	
44	176	32	A1	S635	無地陶器	圓		13.0	4.2	52	直徑	10186.1	灰褐色		10186.1	褐色	褐色	褐色	
45	177	15	A1	S81	X3XY51	博文土器	瓦狀				縫	10187.1	褐色-青白	褐色-青白		10187.2	灰白色	青白-青白	
46	178	15	A1	S81	X3XY53	博文土器	瓦狀				縫	10187.6	褐色	褐色		10187.6	褐色	褐色	
47	179	15	A1	S81	X3XY55	博文土器	瓦狀				縫	10187.1	褐色-青白	褐色-青白		10187.3	灰褐色	青白-青白	
48	180	15	A1	S81	X3XY56~57	博文土器	瓦狀				縫	10187.6	褐色-青白	褐色-青白		10187.3	灰褐色	青白-青白	
49	181	15	A1	S81	X3XY57	博文土器	瓦狀				縫	10187.3	褐色-青白	褐色-青白		10187.3	灰褐色	青白-青白	
50	182	15	A1	S81	X3XY58	博文土器	瓦狀				縫	10187.4	褐色-青白	褐色-青白		10187.4	灰褐色	青白-青白	
51	183	15	A1	S81	X3XY59	博文土器	瓦狀				縫	10187.4	褐色-青白	褐色-青白		10187.4	灰褐色	青白-青白	
52	184	22	A2	X66Y108	生土器	壺		21.0			先生	10187.6	褐色-青白	褐色-青白		10187.2	1.25~黃褐色	褐色-青白	
53	185	24	A2	X3XY105	生土器	壺		12.5~12.9			先生	10187.0	褐色	褐色		10187.0	褐色	褐色	
54	186	24	A2	X3XY106	生土器	壺		12.5~12.6			先生	10187.1	褐色	褐色		10187.1	褐色	褐色	
55	187	24	A2	X3XY107	生土器	壺		14.5			古代	10186.0	褐色	褐色		10186.0	褐色	褐色	
56	188	24	A2	X3XY108	生土器	壺		14.0			古代	10186.1	褐色	褐色		10186.1	褐色	褐色	
57	189	24	A2	X3XY109	生土器	壺		15.4			古代	8~9C	褐色	褐色		8~9C	褐色	褐色	
58	190	25	A2	X3XY110	生土器	壺		13.2	3.5	7.8	古代	10187.1	褐色	褐色		10187.1	褐色	褐色	
59	191	25	A2	X3XY110	生土器	壺		13.8	3.1	10.0	古代	10187.0	褐色	褐色		10187.0	褐色	褐色	
60	192	25	A2	X3XY111	生土器	壺		13.3	3.2	7.8	古代	10187.1	褐色	褐色		10187.1	褐色	褐色	
61	193	23	A2	X3XY105	生土器	H.B.		12.9	4.4	9.4	古代	10187.1	褐色	褐色		10187.1	褐色	褐色	
62	194	24	A2	X3XY105	生土器	土瓶					古代	10186.0	褐色	褐色		10186.0	褐色	褐色	
63	195	24	A1	(無)	生土器	高杯					古代	10187.1	褐色	褐色		10187.1	褐色	褐色	
64	196	24	A2	X3XY103	生土器	壺		9.2			古代	10187.2	褐色	褐色		10187.2	褐色	褐色	
65	197	24	B	X3XY102	生土器	壺					古代	10186.0	褐色	褐色		10186.0	褐色	褐色	
66	198	25	A2	X3XY103	生土器	壺					古代	10187.3	褐色	褐色		10187.3	褐色	褐色	
67	199	25	A2	X3XY104	生土器	中世土器物	圓	6.8	2.1		中後	10187.1	褐色	褐色		10187.1	褐色	褐色	
68	200	25	A2	X3XY104	生土器	中世土器物	圓	7.8	1.5		中後	10187.6	褐色	褐色		10187.6	褐色	褐色	
69	201	25	A2	X3XY104	生土器	中世土器物	圓				中後	10187.3	褐色	褐色		10187.3	褐色	褐色	
70	202	25	A2	X3XY104	生土器	中世土器物	圓				中後	10187.1	褐色	褐色		10187.1	褐色	褐色	

第12表 稲積天板遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧 (8)

測定番号	器名	測定区名	遺跡	出土地点	縦幅	横幅	厚幅	口径(cm)	底径	断面	断面時間	断面	断面上の特徴	断面上の特徴	種類	備考
41 201 25 A2	X3XY1081罐	中世土器群	瓦		11.2	2.6		13世前半~15世後半	75578.6	白色				N11期		
202 28 A2	X3XY1086罐	瓦	瓦		16.3			13世後半~15世後半	25578.1	灰白色						
203 23 B	X3XY1084罐	瓦	瓦		7.0	中腹	高脚式	13世後半	25578.2	灰白色						
204 28 B	X3XY1081罐	瓦	瓦		18.5	中腹	高脚式	13世後半	25578.1	灰白色						
205 28 A2	X3XY1086罐	瓦	瓦		30.0	中腹	高脚式	13世後半	25578.0	灰白色						
42 206 27 B	X3XY1081罐	瓦	瓦		24.2	中腹	高脚式	13世後半	25576.1	灰白色						
207 27 A2	X3XY1111罐	瓦	瓦		19.6	中腹	高脚式	13世後半	25576.0	灰白色						
208 27 B	X3XY1086罐	瓦	瓦		31.0	中腹	高脚式	13世後半	25574.1	灰白色						
209 27 A1	X3XY1081罐	瓦	瓦		34.6	中腹	高脚式	13世後半	25573.0	灰白色						
210 27 B	X3XY1101罐	瓦	瓦		20.6	中腹	高脚式	13世後半	25573.0	灰白色						
211 27 A2	X3XY1115罐	瓦	瓦		29.6	中腹	高脚式	13世後半	25574.1	灰白色						
212 27 A2	X3XY1101罐	瓦	瓦		19.6	中腹	高脚式	13世後半	25574.0	灰白色						
213 26 A2	X3XY1081罐	瓦	瓦		25.2	中腹	高脚式	13世後半	25574.0	灰白色						
214 26 A1	X3XY1086罐	瓦	瓦		17.8	中腹	高脚式	13世後半	25574.1	灰白色						
215 26 A1	X3XY1086罐	瓦	瓦		31.0	中腹	高脚式	13世後半	25573.0	灰白色						
216 25 A1	SAC	X3XY1101罐	瓦	瓦		中腹	高脚式	13世後半	25573.1	41~7~黒色						
217 25 A2	X3XY1086罐	瓦	瓦			中腹	高脚式	13世後半	25573.0	灰白色						
218 25 A1	X3XY1086罐	瓦	瓦			中腹	高脚式	13世後半	25575.1	灰白色						
219 25 A1	X3XY1086罐	瓦	瓦			中腹	高脚式	13世後半	25573.0	灰白色						
220 25 A1	X3XY1086罐	瓦	瓦		44.2	中腹	高脚式	13世後半	25573.0	灰白色						
221 25 A1	X3XY1081罐	瓦	瓦		41.7	中腹	高脚式	13世後半	25573.0	灰白色						
222 25 A2	X3XY1087罐	瓦	瓦			中腹	高脚式	13世後半	25573.0	灰白色						
223 26 B	X3XY1101罐	瓦	瓦			中腹	高脚式	13世後半	25573.0	灰白色						
224 28 A1	X3XY1081罐	中世制瓦田	瓦		11.4	中腹	1周1孔中 1周1孔	13世後半	25571.1	灰白色						
225 28 A2	X3XY1085罐	中世制瓦田	瓦		12.0	中腹		13世後半	25571.1	灰白色						
226 28 A2	X3XY1083罐	中世制瓦田	瓦		5.5	中腹		13世後半	25571.1	灰白色						
43 228 29 B	X3XY1081罐	中世制瓦田	瓦		53	中腹		13世後半	25573.0	灰白色						
229 29 A1	X3XY1081罐	瓦	瓦		25.4	中腹		13世後半	25572.3	1.5~7~青色						
230 29 A1	X3XY1086罐	瓦	瓦		10.2	2.9	近底	13世後半	25572.3	1.5~7~青色						
					10.6	2.8	近底	13世後半	25572.3	1.5~7~青色						

第12表 稻積天板遺跡 土器・陶磁器・土製品一覽 (9)

序號 遺物 番号	遺物 名稱	遺跡 名稱	出土地點	種類	形制1	形制2	直徑(cm)	厚度	剖面	剖面時間	胎土色調		胎土的特徵	胎色	胎質	備考
											1	2				
43 271 29	A1	X3XY685號	燒土	燒土	燒土	燒土	11.0	0.4	燒土	7.5/78.6	黃褐色		10YR5/1	褐灰褐色	真柏	
272 29	A1	X3XY686號	燒土	燒土	燒土	燒土	9.8	2.3	燒土	25/78.3	淡黃色		10YR2/1	黑色	真柏	
273 30	A1	X3XY681號	燒土	燒土	燒土	燒土	7.7	1.7	燒土	25/78.4	淺黃褐色		10YR3.2	帶綠褐色	真柏	
274 29	A1	X3XY682號	燒土	燒土	燒土	燒土	7.6	1.7	燒土	25/78.3	淡黃色		7.5/YR2/2	黑褐色	真柏	
275 29	A1	X3XY683號	燒土	燒土	燒土	燒土	8.4	1.7	燒土	25/77.2	淡黃色		3/YR3.2	帶綠褐色	真柏	
276 31	A1	X3XY671號	肥前窯器	楕			12.0	5.3	4.7	燒土	10YR 0	灰白色		10YR5/1~3(YR5/1~2)青 色	透明褐色	真柏
277 31	A1	X3XY688號	肥前窯器	楕			11.6	5.2	4.6	燒土	10YR8.1	灰白色		10YR5/1~3(YR5/1~2)青 色	透明褐色	真柏
278	A1	X3XY671號	肥前窯器	楕			12.4	5.0	5.1	燒土	10YR 0	灰白色		10YR5/1~3(YR5/1~2)青 色	透明褐色	真柏
279 31	A1	X3XY671號	肥前窯器	小圓			8.7	2.6	2.0	燒土	10YR 0	灰白色		10YR5/1~3(YR5/1~2)青 色	透明褐色	真柏
280 30	A1	X3XY688號	肥前窯器	圓			13.4	2.0	6.6	燒土	10YR 0	灰白色		10YR5/1~3(YR5/1~2)青 色	透明褐色	真柏
281 30	A1	X3XY671號	肥前窯器	圓			13.0	3.9	7.7	燒土	25/76.1	黃褐色		10YR5/1~3(YR5/1~2)青 色	透明褐色	真柏
282 30	A1	X3XY671號	肥前窯器	圓			11.6	3.6	4.6	燒土	10YR 0	灰白色		10YR5/1~3(YR5/1~2)青 色	透明褐色	真柏
283	A1	X3XY671號	肥前窯器	楕			10.8	7.1	4.3	燒土	25/76.1	黃褐色		10YR5/1~3(YR5/1~2)青 色	透明褐色	真柏
284	A1	X3XY671號	肥前窯器	圓			11.9	3.6	4.1	燒土	10YR 0	灰白色		10YR5/1~3(YR5/1~2)青 色	透明褐色	真柏
285 23	A1	X3XY726號	土製品	土製品			長35.6	寬17	長35.6	DYR7.3	土製品	帶青色	帶青色	帶青色	青色	青色

第13表 稲積天板遺跡 木製品一覧

編番	遺物番号	写真 図版	遺構	出土地点	種類	法量(cm)				樹種	木取り	備考
						長さ	幅	厚さ	重さ			
44	246	33	SE56		漆器椀	118.0	4.70	6.20	7.30	ブナ属	横木地粧目	内面墨赤塗 外面黒
44	247	33	SE22		漆器椀	-	漆高 (1.30)	漆径 (6.80)	-	トチノキ	横木地	内面墨赤塗 外面黒
44	248	33	SE56		下駄	(19.00)	10.50	7.30	ビノキ	板目		
44	249	34	SE46	井戸井内	木像	111.0	7.70	3.60	アスナロ	柾目		
44	250	34	SG55		浮子	148.0	3.10	3.10	ウコギ属	芯持丸木		
45	251	35	SP17 (SA1)		柱根	(50.20)	16.00	15.10	2.91	芯持丸木		
45	252	35	SP39		柱根	(59.30)	12.50	11.50	2.91	芯持丸木		
45	253	35	SP26 (SH3)		柱根	(34.90)	22.80	23.40	ケヤキ	芯持丸木		
45	254	36	SP32		柱根	(35.70)	14.00	10.50	2.91	芯持丸木		
45	255	36	SE61 (SA4)		柱根	(41.60)	18.30	16.70	2.91	芯持丸木		
45	256	36	SE67 (SA5)		柱根	(43.10)	19.00	14.20	2.91	芯持丸木	手裁材	

第14表 稲積天板遺跡 石製品一覧

編番	遺物番号	写真 図版	遺構	出土地点	種類	法量(cm ³)					材質	備考
						長さ	幅	厚さ	孔径	重さ		
46	257	37	A2	X65Y105壁	打製石斧	167.2	7.99	3.4	-	518.11	斜長斑岩	
46	258	37	A1	X35Y89壁	磨製石斧	(12.55)	6.13	2.98	-	337.2	風化蛇紋岩	刃部欠損
46	259	37-38	A1	X35Y81壁	磨製石斧	115.5	5.9	2.62	-	254.96	風化蛇紋岩	
46	260	37-38	SX2	X32Y54	磨製石斧	102.9	5.68	2.55	-	258.55	風化蛇紋岩	
46	261	37	SX2	X29Y48	磨製石斧	8.3	4.85	1.77	-	120.48	風化蛇紋岩	未製品
46	262	40	SE46	井戸井内	敲石	111.1	(9.95)	5.69	-	854.29	輝石安山岩	コゲ
47	263	40	SD123	X65Y107	凹石	109.8	9.7	5.5	-	848.55	多孔質輝石安山岩 (新第三紀)	
47	264	40	SK9		敲石	11.7	11.45	6.65	-	1184.8	輝石安山岩(第4紀)	コゲ
47	265	39	SX2	X32Y48	砥石	(4.78)	2.48	1.1	-	197.8	流紋岩	
47	266	39	SD212		砥石	(9.2)	3.6	1.1	-	48.46	緑色粘板岩	
47	267	39	SD123	X65Y107	砥石	82.8	3.15	2.92	-	101.75	流紋岩	
47	268	39	A1	X25Y66壁	砥石	11.09	4.55	2.9	-	362.59	角閃石ディオイド	
47	269	39	SE46	井戸井内	砥石	13.15	4.65	3.0	-	187.59	流紋岩	
48	270	38	SD130	K2	加工石器	(3.45)	3.8	0.7	-	9.16	頁岩	
48	271	1	SD130		勾玉	1.17	0.76	0.34	-	0.53	翡翠	
48	272	1	SD130	K1	管玉	(0.65)	0.3	-	-	0.04	变質凝灰岩	緑灰色
48	273	1	SD130		ガラス玉	0.26	0.28	0.15	0.12	0.02	-	
48	274	38	SK9		宝鏡印塔	29.2	30.5	21.0	-	25.9	シルト岩	

第15表 稲積天板遺跡 金属製品一覧

編番	遺物番号	写真 図版	遺構	出土地点	種類	法量(cm ³)				備考
						長さ	幅	厚さ	重さ	
48	275	41	SD308	X108Y110	結縛草	24.4	(4.6)	0.3	15.4	
48	276	41	B	X108Y110壁	結縛草	4.5	(4.2)	0.1	6.8	
48	277	41	SD308	X90Y108	刀子	(12.1)	1.2	0.2	11.5	
48	278	41	SD308		銅錢	2.3	2.3	0.1	3.15	「皇宋通寶」
48	279	41	A2	X54Y110壁	銅錢	2.35	2.35	0.1	2.09	「元豐通寶」

4 総 括

稲積天板遺跡では弥生時代、古代、中世、近世の遺構を確認した。遺物は縄文時代～近世のものがみつかっている。

縄文時代はA 1 地区で谷埋土から後期前葉気屋式土器を検出した。

余川流域では上流の山間部に一ノ瀬遺跡、一削前田遺跡、懸札宮ガ谷内遺跡（小島2002）で後期前葉の遺跡があるがいずれも散布地。低地部の稲積川口遺跡（廣瀬はか2009）でも後期前葉の気屋式土器が出土しているが遺構ではなく、付近には集落を形成しない。このような傾向は高岡市堂前遺跡（越前はか2008）周辺でも見られ、宝達山から続く丘陵や谷部の特徴かもしれない。（町田賢一）

弥生時代の遺構はA 2 地区で確認した。堅穴建物2棟、掘立柱建物1棟のほか、溝、土坑がある。土器の年代から弥生時代後期後半～古墳時代初頭に収まる時期のものである。堅穴建物はS I 153で五角形に検出された。一辺6.6～7.2mと大型で、5本の柱穴の間には補助柱穴をもつ。類例としては石川県津幡町刈安野々宮遺跡第23号住居址⁸⁵がある。5本の柱穴の間には小柱穴があり、S I 153と同様の構造、規模をもつ。五角形の堅穴建物は石川県や鳥取県で分布の中心があるとされ、富山県内では弥生時代～古墳時代初頭の時期では管見では高岡市に所在する下老子笠川遺跡S I 12⁸⁶や、滑川市・上市町に所在する本江・広野新遺跡1号住居址⁸⁷が知られる。

氷見市内で堅穴建物の検出された遺跡は稲積天板遺跡も含めて3例目と少ない。しかし、稲積天板遺跡周辺では北約600mに所在する同じく余川下流右岸の稲積前田遺跡で弥生時代終末期の土器約100破片が採集されており⁸⁸、また南側の丘陵を隔てて南西約700mに位置する加納谷内遺跡では谷状地形から弥生時代後期後半～終末期の土器が出土しており⁸⁹、この時期の集落が周辺に点在していたことが想定される。

古代の遺構はA 2 地区、B 地区で確認した。掘立柱建物1棟のほか、溝・自然流路、土坑がある。古代の溝・自然流路はS D 1 と S D 123の2時期のものがあるが、S B 2 に並行するS D 150がS D 123と並行するため、掘立柱建物の時期はS D 1 が機能しなくなり新たにS D 123が形成された時期と考えられる。S D 123は8～9世紀代の土器が多く出土している。稲積天板遺跡A 2 地区から北東に約70m離れた地点から稲積天板北遺跡が広がる。この遺跡については第Ⅳ章で調査の詳細を述べるが、掘立柱建物が5棟みつかり、また8～9世紀代の土器が数多く出土している。こちらを古代の集落の中心と考えた場合、稲積天板遺跡A 2 地区は集落の縁辺部といえるだろう。（高柳由紀子）

中世の遺構は自然流路S D 1 を挟んで東側のB 地区で生産域と関わる溝群、西側のA 1 地区で掘立柱建物を中心とした居住域を検出した。前者は浅く不整形な溝群で水田や畠の一部と考えられる。遺物は少なく詳細時期は不明。後者は掘立柱建物1棟と区画溝、柵、井戸などそれに付随する施設からなる15世紀の集落。小規模な集落で自然流路脇の水田や畠などの農耕に従事していたものとみられる。なお、包含層からではあるが土錘が出土しており自然流路で網漁も行っていたかもしれない。遺物は中世土師器や珠洲など中世の一般的な集落と同様だがS E 46内からの木像（神像）出土は特筆すべきことであろう。木像は遺跡からの出土例は数少ない。しかも樹種同定を行いアスナロと結果が出たことも木像研究の上では重要であろう。このような特殊な遺物が出土する背景には遺跡の南側の丘陵頂部に木谷城（高岡2006）が築かれたこともあるのかもしれない。木谷城は桃井氏の拠点の一つで文献では14世紀を中心とする。この中世城郭の真下に位置するのが稲積天板遺跡A 1 地区で区画溝や自然流路もその防御機能一端を担っているのかもしれない。この他の井戸では木像は出土していない

註2 1988 石川県歴史文化財センター「高岡市 古安野・芦瀬遺跡」

註3 2005 留出地教育行政会議「高岡市 古安野・芦瀬遺跡」

註4 1972 留出地教育行政会議「高岡市 古安野・芦瀬遺跡」

註5 2002 留出地教育行政会議「氷見市 古安野・芦瀬遺跡」

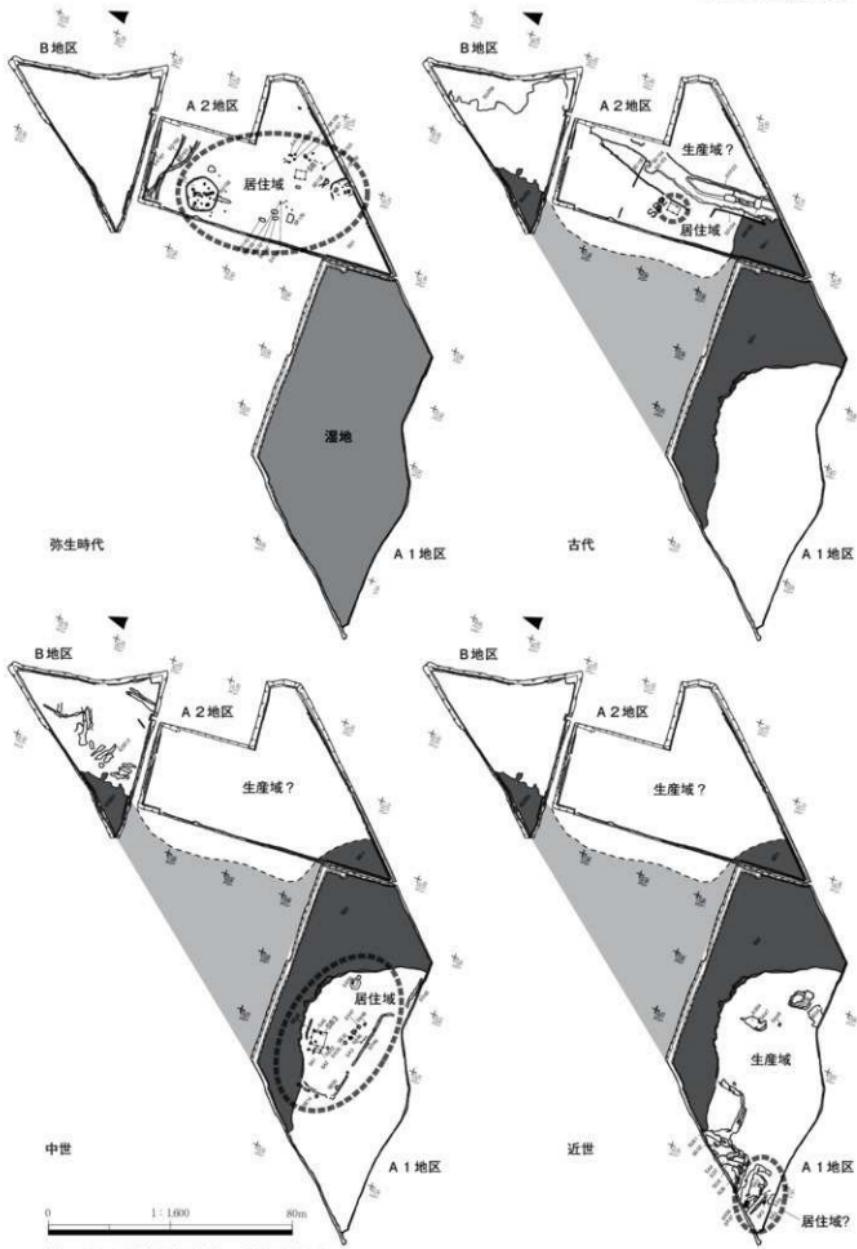
註6 2014 留出地文化財辨財団「大野小堀跡・七分一土官遺跡・加納谷内遺跡発掘調査報告」

が、S E22で息抜きの竹筒、S E41・46・56で能登地方に多く見られる土塊を入れる祭祀行為がみられる。このような井戸を掘立柱建物S B 3の1棟のみでまかなっていたは考えにくく、近隣もしくは痕跡の残らないような建物（平地建物など）があったのであろう。

近世の遺構は遺跡の南部A 1地区で土坑、落込状遺構、溝、溜池がある。溝は護岸施設をもつていた水路の可能性が高く中世のものよりつくりがよい。近隣に水田の存在が伺える。特に南西部にある区画溝や落込状遺構からは大量の陶磁器が廃棄されていた。落込状遺構は埋土に整地した痕跡がみられ、プランははっきりしないが内部には便槽とみられる埋桶をもち下老子篠川遺跡（宮田ほか2005）にあるような土台建物もしくは近隣に集落がありその廃棄場であった可能性がある。遺構の時期は17～19世紀。小規模な集落だが、近年近世集落の調査が少ないなかで貴重な資料となろう。（町田賢一）

引用文献

- 岩瀬由美 2001『能登の様相』『中世北陸の井戸』北陸中世考古学研究会
 越前慎子・町田賢一 2008『堂前遺跡』『板屋谷内B・C古墳群・堂前遺跡発掘調査報告』財団法人富山県文化振興財團 埋蔵文化財調査事務所
 大橋康二 1989『肥前陶磁』ニューサイエンス社
 尾崎光伸 1997『遺構・遺物からみた吉川元春館跡の便所遺構』『史跡吉川氏城館跡 吉川元春館跡－第2次発掘調査 概要』広島県教育委員会
 金子啓明 2006『彫刻用材研究の最前線』『月刊文化財 512号』第一法規株式会社
 黒崎直 2009『水洗トイレは古代にもあった トイレ考古学入門』吉川弘文館
 児島大輔 2013『埋蔵文化財ニュース 150 マイクロフォーカスX線CTを用いた木造神像彫刻の非破壊年輪年代調査（2）』独立行政法人国立文化財機関奈良文化財研究所埋蔵文化財センター
 小島俊彰 2002『「ノ瀬遺跡」－一刻前田遺跡』『懸松宮谷内遺跡』『水見市史7 資料編五 考古』水見市史編さん委員会 沙留遺跡調査会 1996『沙留遺跡』
 島田美佐子・朝田亞紀子・町田賢一 2012『上久津呂中屋遺跡発掘調査報告』公益財団法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所
 新宅西 2006『加納谷内遺跡』『平成17年度 埋蔵文化財年報』財団法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所
 狹谷真一・松井一明 2012『中世石塔の考古学』高志書院
 高岡徹 2006『木谷城』『富山県中世城館遺跡総合調査報告書』富山県埋蔵文化財センター
 富山県埋蔵文化財センター 2013『布尻遺跡 出土品集』
 西井龍義 2002『坪池シャンソン遺跡』『水見市史7 資料編五 考古』水見市史編さん委員会
 西田宏子・大橋康二 1988『別冊太陽 古伊万里』平凡社
 幕瀬直樹はか 2009『稻積川口遺跡』水見市教育委員会
 町田賢一 2003『「木の家」－柱根の樹種鑑定から建物を考える－』『紀要 富山考古学研究 第6号』財団法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所
 丸山士郎 2013『神像の表現』『国宝 大神社屏』東京国立博物館・九州国立博物館
 宮田進一・島田美佐子・武田健次郎・新宅西・高柳由紀子・町田賢一・町田尚美 2005『下老子篠川遺跡発掘調査報告 第四分冊 古代以降編』財団法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所
 山本正敏・島田美佐子・横山和美・中川道子・越前慎子 1996『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』財団法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所
 吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館



第49図 稲積天板遺跡 遺構変遷図

第IV章 稲積天坂北遺跡

1 概 要

稲積天坂北遺跡は、市道を挟んで稲積天坂遺跡の北東側に位置する。両者は、宝達丘陵から東に延びる小丘陵と余川川の間の狭隘な平野部に立地する。調査区は、用排水路を境界に南からA地区、B1地区、B2地区とした。現況は水田と一部宅地である。遺構は、縄文時代の埋設土器、古墳時代の自然流路、古代の掘立柱建物・自然流路、中近世の溝・自然流路がある。縄文時代、古墳時代、中近世の遺構は散発的な検出に止まるが、古代の遺構は中央のB1地区に集中して検出された。

2 層 序

基本層序は、I層：灰黄褐色シルト（表土・耕作土）、II層：褐灰色粘質シルト（遺物包含層）、III層：灰黄褐色砂質シルト（遺物包含層）、IV層：黄灰色粘土（遺物包含層）、V層：明黄褐色粘土、VI層：褐灰色粘土。V層は灰黄色粘土である。遺構はIII層の上面で検出している。遺物包含層であるII層は、ほ場整備の影響で削平されており、その残存範囲は調査区の半分を下回る。また、本来はII層下にあるべき柱穴及び溝の埋土に認められる黒色シルトは、層としての堆積はほとんど捉えることはできなかった。各地区のほとんどで、I層下が遺構検出面のIII層となっている。

A地区では南北2本(Y145、Y160ライン)と東西1本(X110ライン)のセクションベルトを設定し、層序確認を行っている。Y145ラインでは、II層は厚さ10cm前後で北側に部分的に残っている。III層は10～30cmの厚さで北側に堆積するが、南側には認められない。IV層は10～20cmの厚さで全体にわたって堆積する。Y160ラインでは、II層は5～20cmの厚さで堆積し、北に向かって厚くなっている。III層は5～10cm、IV層は10～30cmの厚さで、同様に北に向かって厚くなる。X110ラインでは、西端ではII層・III層が認められない。II層は中央より西側では認められるようになり、10～20cmの厚さで均一に残っている。III層は、西端以東では20～30cmと均一に堆積している。IV層は約10～30cmの厚さで堆積し、特に中央部が厚くなっている。A地区は特に西側と南側におけるII層の遺存状況が悪く、それは遺構の検出密度にも比例している。

B1地区では南北1本(Y160ライン)、東西1本(X140ライン)で層序確認した。Y160ラインでは、北側ではII層の堆積は水平な堆積層としては認められず、遺構の掘形として点在している。ただ、X130～140の範囲では、約5～10cmの厚さで水平堆積が認められる。III層は10～20cm、IV層は約10～30cmで安定した堆積を示す。また、この時点で、V層上面に2箇所の遺構状の掘り込みが確認されたため、III層上面での調査後、V層上面での下層確認調査をすることを決定した。X140ラインでは、西側にはII層は遺存せず、I層下がIII層となり、Y160以東になると厚さ約10cmの堆積が認められる。III層は10～20cm、IV層も10～20cmで安定した水平堆積を示す。B1地区でのII層の遺存状況は中央東寄りで比較的安定した堆積を示すが、全体としては良好ではない。

B2地区では南北1本(Y175ライン)、東西1本(X140、X160ライン)で層序確認を行った。Y175ラインでは、II層は北端では遺存しないが、5～20cmと中央に向かって厚く堆積する。III層あまり認められず、I・II層下はIV層またはV層となる。北側のX160ラインでは約10～20cmのII層の堆

積が認められる。やはり、II層の遺物包含層が遺存している中央北よりの範囲には遺構の分布が認められる。また、各ラインの層序において、北東南西方向にV層の下にオリーブ黒色粘質シルトが帶状に堆積していることが確認された。遺物は包含しないが、浅い谷地形であったと推察される。

3 遺構と遺物

(1) 繩文時代～古墳時代

III層上面において、縄文時代の埋設土器1基と、古墳時代から古代の流路を検出した。縄文時代の遺構はこの1基のみで、包含層には当該期の土器・石器がわずかに混じる。周辺に当該期の遺跡の存在をうかがわせるものである。

A 土 坑

709号土坑（S K709、第53・60図、図版44・46）

遺跡中央部、B1地区南端で検出した。長軸0.48m、短軸0.36mの楕円形の土坑で、中央やや南寄りに縄文土器が埋設される。縄文土器の中には直径2cm～4cmの礫が混じった土が充填されていた。土器の外側の埋土中には礫が混じっていないことから、意識的に詰められたものと推定できる。縄文土器（1）は検出時は残存高約30cm、残存最大径約30cm程度であったが、復元は底部周辺に止まっている。器表面は荒れ、施文状況は不明である。底部には網代痕が残る。時期は縄文時代晚期である。

B 自然流路

50号自然流路（S D50、第50・53・60・61・81・83～85図、図版44・46・47・52～54・56・57・60～63・65～69）

A地区南端でこの流路の一部を検出した。流路の幅は不明である。埋土は大きく3層に分かれ、上層は褐灰色粘質土、中層は黒褐色粘質シルト、下層はこれに黒褐色粘質シルトを主体とし、これに暗灰黄色粘質土と有機物腐殖層の互層が堆積する。遺物は、古墳時代後半から古代の遺物が出土しており、上層と中層から主に古代の遺物が、下層から古墳時代の遺物が出土している。遺物の種類は、土師器、須恵器、木製品、石製品がある。土師器は、総体的に埋土の粘質土のために表面が剥離しており、器表面の調整が不明となるものが多い。

古墳時代の遺物には、土師器は壺・壺・小型壺・高杯・椀・手捏ね土器が、須恵器には杯・椀がある。壺は全形を知り得る個体ではなく、くの字口縁の内外面ハケメ調整のものが多い。小型壺は3点あり、遺存状況は良い。I5は丸底の底部外面が円形に剥離している。高杯は杯部と脚部が出土している。杯部は浅い皿状の器形で、I6は口縁端部が緩く外反する。内面はヘラケズリ調整で黒色処理が施されている。I7は口縁端部が欠損し、外面に赤彩、内面が黒色処理される。脚部は短脚のものと脚裾部が大きく外展するものがある。22は口縁端部が垂直に摘み上げられる完形の手捏ね土器である。椀は浅い器形で、口縁が斜め上方に直線的に延びるものと、体部が丸みを帯びるものがある。後者は口縁端部がわずかに内側するものと上方に延びるものがある。体部の調整は内面ヘラケズリ調整、外面ヘラケズリ調整、下半がケズリ調整である。須恵器には杯H（33）や杯G（34）があり、前者は7世紀前半、後者は7世紀後半の特徴をもつ。34は体部外面と口縁部内面にススが付着する。

古代の遺物には、土師器の椀・高杯、須恵器の杯・瓶・壺がある。27の土師器の椀は遺存状況が完全に近く、9世紀まで時期は下る。35の杯B底部内面には「×」カのヘラ記号が残る。40は長頸瓶で、時期は8世紀前半である。41・42は棒状尖底の製塩土器の一部である。木製品は、円形の底板（511・

512) 以外は、柄や柄穴をもつ組み合わせ部材がほとんどで、用途がわかるものはない。519~521はその形状寸法から建築部材と考える。材はすべてスギである。

C 包含層出土遺物（第60・84図、図版46・60・68・69）

包含層の中には、縄文土器（2~4）、石製品が混じる。縄文土器は底部が多く、全形を知り得る個体はない。また、器表面が剥離していることから、時期の特徴はつかみにくい。

縄文時代の石製品には石鎌（523）、打製石斧（524）、磨製石斧（525~527）、石棒（529）がある。523は完形の有茎石鎌で、近世の流路（S D200）から出土している。やや大型のその形態から弥生時代まで時期が下る可能性がある。524も古代の流路（S D50）から出土しており、いずれも混入品である。529は頭部のみの残存であるが、その断面形が円形であることから石棒と判断する。頭部には直線文と三角文の線刻が施される。528はいわゆるバステル形石製品である。富山県内のバステル形石製品を集成した藤田富士夫によれば³¹、県内では縄文時代と古墳時代の遺跡から出土しており、石材は滑石、蠑石、蛇紋岩が多い。用途は未だ明らかではないが、本遺跡出土品も石材は葉蠑石であり、この部類に属するものであろう。断面形は多角形を呈し、両端周縁は細かく面を取り丸みを帯びる。531・532は、側縁に細かい敲打を施して整形した半円形と長方形の剥片石器である。531はS D50出土で、擦り切り具と想定されるものである。刃部周辺の両側は摩耗し、やや丸みを帯びた鈍い刃部には線状痕と敲打痕が残る。532は石包丁形の石製品で、同じく両面の突起部は全体に摩耗しており、531に比べて鋭い刃部にはこれに平行する横方向の線状痕が残る。

なお、包含層出土の古墳時代の遺物については、古代の包含層出土遺物と合わせて記述する。

（2）古代

Ⅲ層上面において、掘立柱建物5棟、柵1列、柱穴、井戸1基、溝、土坑を検出した。建物は遺跡北側中央部に集中している。柱穴もその周辺で多く検出しており、本来は5棟以上の建物が存在していた可能性がある。建物はいずれも3間×2間の南北棟の建物と推定され、主軸方向から大きく2時期に分けられる。溝は集落の東西両端で2条検出している。土坑の数は少なく、用途がわかるものはない。遺構の時期は、概ね8世紀代を中心としている。

A 掘立柱建物

1号掘立柱建物（S B 1、第54図、図版43）

遺跡中央部北西で検出した2間以上×1間の建物である。4.5m南に位置するS B 2と主軸方向を同じくする。梁行で柱穴は検出できなかったが、検出した5基の柱穴の内、いずれも深さは浅いが柱根が見つかっている。

2号掘立柱建物（S B 2、第54・61図）

S B 1と主軸方向を同じくする3間×2間の建物である。桁行の柱間はほぼ2.1mと揃っているが梁行は2.4mと2.7mである。柱穴には柱根は遺存せず、深さもまちまちである。柱穴埋土は単層である。遺物はS P621から土師器の椀底部（43）が出土している。

3号掘立柱建物（S B 3、第55図）

S B 2の7m南に位置する南北棟の建物である。建物方位はS B 1・2と異なり、東に位置するS B 4・5と同じくする。梁行の柱穴は1基検出できなかったが、桁行の柱穴は間隔も規模も比較的揃っている。柱穴はいずれも浅く、埋土は黒褐色シルトの単層である。

4号掘立柱建物（S B 4、第55・61図）

S B 3の15m北東で検出した3間×2間と推定する建物である。10基の柱穴のうち6基しか検出し

31 藤田富士夫 1991 「バステル形石製品について」『考古学論叢』第41号 28-31考古学食

ていない。桁行の柱間はS B 3と同じ2mである。遺物はS P 274から須恵器(44)杯蓋が出土した。

5号掘立柱建物(S B 5、第56図、図版43)

S B 4の25m南で検出した3間×2間の南北棟の建物である。梁行の1基の柱穴のみ検出できなかった。柱穴は楕円形のものが多く、深さは他の建物に比べるとやや深い。柱根の遺存はないが、埋土には柱根の位置を推定できる空洞がある。

B 檻

1号檻(S A 1、第56図)

B 2地区北側、B 1地区との境界付近で検出した南北方向の檻である。5基の柱穴で構成され、それぞれの柱穴には柱根あるいは柱根痕跡が残る。東西両側に柱穴が検出されないことから、檻と判断した。向きはN-2°-Eを指し、約4m東に位置するS D 850と平行する。

C 井戸

716号井戸(S E 716、第58・61図、図版44)

B 1地区中央南端で検出した井戸である。建物群からややはざれた場所に位置する。井戸の検出はこの1基のみである。井戸側は立て板を四方に組む板組で、水溜の施設は特にならないが、7層の最下層側板内側には5cm前後の礫が厚さ10cmに渡って詰められており、これがその役割を果たしていたと推定される。中から須恵器の小片(45)が出土している。

D 溝

717号溝(S D 717、第50・57・62~65図、図版44・47・48・52~54・56~62)

B 1地区西端で検出した南北方向の不定形な溝である。建物域と一定の距離を空けた位置にあり、東西の境界を示す役割をしていた可能性がある。埋土は上面に薄く黒色シルトが堆積するが、下層は炭化物粒が混じる黄灰色シルトが主体的に堆積する。埋土の中からは多量の須恵器、土師器、製塙土器が出土した。須恵器には杯蓋、杯、皿、高杯、壺、甕がある。時期は8世紀から9世紀を主体としている。杯蓋には内面に摩耗痕跡が認められる個体(51・54)があり、転用硯と考える。特に54は鉢部頂部及び口縁部周辺を打ち欠いて整形している。杯には底部外面に墨書やヘラ記号を残すもの(70)がある。墨書には、「富」カ、「魚」、「田邊」カ¹²がある。「魚」は、可能性のある83・84も含めれば6点の出土がある。「魚」の墨書文字の出土例は少ないが、石川県千木ヤシキダ遺跡¹³からは25点確認され、9世紀中葉の2間×8間の大型建物周辺から出土している。「田邊」は98と99の「邊」も「田邊」だったと推定すれば、2点の出土がある。「田邊」は姓氏または地名を示す文字か。77は内面に墨痕が残っており、墨溜めとして利用したものと思われる。ヘラ記号が残るものは、70の「一」1点のみで、ヘラによる記号以外に底部には板の上に置いたことが推定される浅い平行線が残る個体がいくつかある。81は薄手の皿状の器形で、10世紀にまで下るものである。106は、長頸瓶の口縁部で、端部が一部凹んでいる。7世紀に遡る個体である。112は直立した短い口縁部をもつ小型の甕で、遺存状況は良い。117は全形を知り得ないが、双耳瓶の体部である。

土師器は椀、皿、甕がある。椀は回転糸切り底の内外面ロクロナデの個体が多く出土している。133・134は、大型の内面黒色土器椀である。130は皿、131・132は椀または皿の高台付き底部である。136は甕、139は杯部内面黒色処理の高杯で、古墳時代にまで遡る。140・141は製塙土器の尖底部である。

850号溝(S D 850、第50・57・66図、図版45・48・56・58・60・61)

調査区北側、B 1・B 2地区の境界付近で検出した南北方向の不定形な溝である。南端は近世のSD 200に切られ、北端は調査区外へ延びる。S D 717の対局にあり、同様に東西の境界を示す役割をしていたと推定している。埋土は幅の広い部分で、主に上層に灰黄褐色砂質シルト、下層に褐灰色砂質

註2 畿山大学人文学部教務課木暮二氏のご教示による。

註3 金沢市教育委員会 1987 「金沢市千木ヤシキダ遺跡」

註4 金沢市教育委員会 2001 「金沢市千木ヤシキダ遺跡」

シルトが堆積する。下層には砂、炭化物、腐食した貝類の痕跡が混じる。出土遺物には、須恵器の杯蓋・杯・椀・壺、土師器の甕がある。**146**は須恵器の椀で、内外面にススが付着する。**147**は小型の短頸壺。**148・149**は古墳時代に遡る個体である。

E 土 坑

137号土坑（SK137、第58図）

B1地区北側で検出した柱穴規模の土坑である。深さは0.5mとやや深く、段掘り状である。下層から木片が出土している。

511号・517号・524号・529号土坑（SK511・517・524・529、第58図）

調査区北側に点在する楕円形の土坑である。黒褐色シルトが堆積する浅い土坑で、柱穴とは異なる。遺物の出土は小片に止まる。

849号土坑（SK849、第58図、図版45）

B2地区北端で検出した不整形な土坑である。北側は調査区外へ延び、底面は平坦ではない。埋土は灰黄褐色砂粘質シルトの單層で、板材等の木片が混じる。

F 包含層出土遺物（第66～77図、図版49～62・68・84）

ここでは、包含層から出土した古墳時代から古代の遺物を記述する。その種類には、須恵器・土師器・灰釉陶器・黒色土器・手捏ね土器・製塙土器・土錐・砥石がある。

須恵器には、杯蓋・杯・稜椀・鉢・壺・壺蓋・甕・横瓶・提瓶・陶硯がある。時期は7世紀から9世紀代ものが出土している。杯蓋は7世紀半ばの**150**や、内面にかえりをもつ**152～158**もあるが、大方が8世紀から9世紀代の特徴をもつものである。また、**183・185・199・226・227**のように内面に墨痕が残るものや、内面が摩耗しているものなど転用硯として利用されたものがある。杯は7世紀の杯G・杯Hが出土しているが、量は少ない。杯Aは口径11.2～14.2cmのものがあり、高さは2.8～4cmのものがある。**267**は皿か。**245**は内面に墨痕が残っており、墨溜めとして利用されている。杯Bは口径9.2～16.8cmのものがあるが、13～14cm前後ものが多い。高さは3.2～6.4cmのものがあり、4cm前後が多い。**275**は体部外面に線状のヘラ記号がある。**299**は体部外面2箇所と底部高台内側に3重の沈線が巡る。墨書が残るものは、杯Aに1点、杯Bで2点のみである。**261**は体部外面に墨痕が認められるが、文字は判読不明。**352**も不明。**353**は「□田」か。**309**は底部外面中央に墨痕が付着したもので、文字とは考えにくい。**366**は高台内側の周縁に沿って、貼り付け時の圧痕が残る。**367・368**は稜椀である。**368**の高台内側には墨痕が残るが、判読不明である。時期は9世紀に下る。**369**は灰釉陶器皿の底部である。

壺・甕・横瓶・提瓶類はほとんど全形を知り得る個体はない。口縁部と底部が大半である。壺には広口壺・直口壺・短頸壺・小型壺がある。**375**は肩部に2条の沈線が巡る小型の壺である。広口壺は外反する口縁部をもつものが多く、**378**は内唇気味の口縁部をもつ個体で、時期は7世紀前半である。**388**は短頸壺の破片で、肩部にヘラ書き文様が残る。**389**は底部外面に回転糸切り痕が残る。**394**は丸底風で、体部下半は手持ちケズリ調整である。

陶硯は4点出土している。**370**は把手付中空円面硯、**371・372・390**は透脚円面硯である。把手付中空円面硯の出土例は稀で、時期は7世紀代のものである。石川県では小松市漆町遺跡、金沢市藤江C遺跡での出土例がある³⁵。透脚円面硯は有堤式(**372**)と無堤無溝式(**371・390**)があるが、上部片のみで、全形を知り得るものではない。杯蓋の内面、杯の底部外面には、ヘラ記号が残る個体が比較的多くある。記号の種類は、大きく「×」・「○」・一本線・二本線・三本線に分けられる。「×」は大きさが2種類ある。「○」は○というよりは、ヘラ状のもので記したせいか、多角形に近い。線状の記号は書

き方が多様であり、統一感はありません。線の強さもまちまちで、圧痕と判断に迷うものもある。

土師器は椀・皿・壺・高杯がある。これも全形を知り得る個体は少ない。414～416は黒色土器椀の底部である。高杯はすべて古墳時代のもので、421の杯部は内面黒色処理される。426・427は壺の把手で、427は表面をハケメで調整する。424・425は、古墳時代の平底と丸底の手捏ね土器である。製塙土器は尖底部のみの出土、土錐は表面に指頭圧痕が残る。

砥石はとりあえずこの項で述べるが、時期は中・近世まで下る可能性がある。4面全面に砥面を持ち、両側面に筋状の線状痕残す。石材は流紋岩で、地元で採取可能な石材である。

(3) 中近世

中・近世の遺構は溝が2条のみである。遺物包含層からは、中・近世の遺物が出土している。

A 溝

30号溝 (SD30、第50・53・59・78図、図版64)

A地区中央東寄りを南北に伸びる溝で、北端は大きく東に屈曲する。南端は西に向かって緩やかに曲がり、SD50を切る。埋土は主に褐灰色粘質シルトが堆積し、部分的に砂が帶状に混じり、底面は不整形である。出土遺物には、越中瀬戸(434)の削り出し高台の鉄軸の皿底部がある。

200号溝 (SD200、第50・59・78・81・84・86図、図版51～53・55・56・58・62・64・65・68・70)

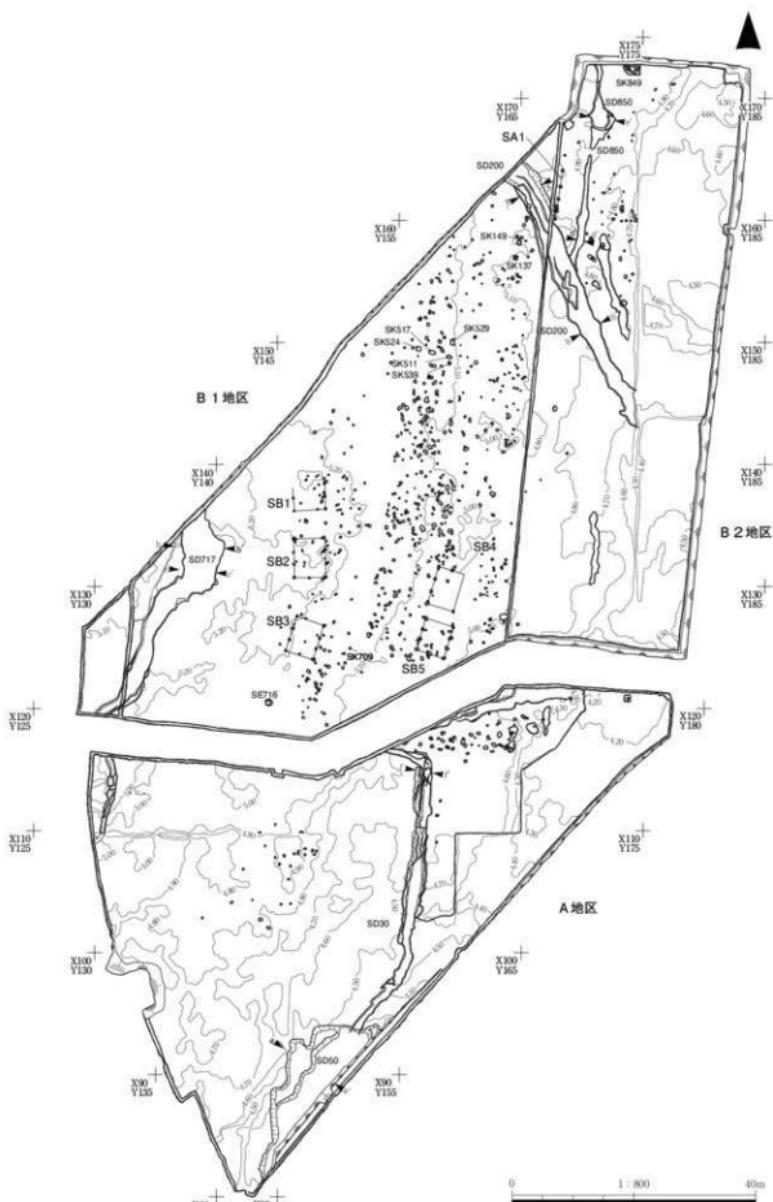
B1地区からB2地区にわたる、北西から南東方向に流れる溝である。断面形は皿状を呈し、埋土はレンズ状に堆積する。出土遺物は、包含層とSD850を切っているため、古代以前の遺物が多く混入している。出土遺物は、須恵器・土師器・珠洲・肥前陶磁器、木製品、銅鏡がある。

須恵器には、杯蓋・杯がある。杯蓋には内外面にヘラ記号が残る個体がある。443の杯Aには内外面スヌが付着する。土師器は古墳時代の椀・高杯・壺が出土している。455は橙色を呈するが、V期の珠洲か。457～459は近世陶磁器で、これらの遺物が遺構の時期を示すもので、18世紀代のものである。または木製品には、漆器椀と小型の円形板がある。508・509はいずれも口縁が垂直に立ち上がる形態の椀で、前者は外面黒漆、内面赤漆、後者は内外面共に赤漆が塗られる。材は508がブナ属、509がカツラで、どちらも漆器の材としては利用されるものである。510は直径5.6cm、周縁を斜めに切ってあることから、小型の容器の底部か。材はヒノキである。538は北宋錢で、「祥符通寶」である。

B 包含層出土遺物 (第79・80・86図、図版62～64・70)

出土した遺物は、珠洲・青磁・白磁・瀬戸・瀬戸美濃・越中瀬戸・肥前陶磁器、金属製品がある。珠洲は古いところでI期の壺の小片も混じるが、II期～VI期の鉢が出土している。462は壺の胴部破片で、16弁の菊花文の押印を有する。青磁は椀・皿・盤がある。478は鎬蓮弁文の皿で、断面に漆継ぎの跡が残る。椀は見込みに印花文またはヘラ描き文を有するものがある。480は盤の底部で、豈付け部分は輪状に露胎となる。482・483は白磁の染め付け。482は昔筒底の皿で、胴部外面には芭蕉葉文が描かれる。483は椀の底部で見込みには唐草文が描かれる。瀬戸は灰釉の皿、卸皿、天目茶碗、瓶、梅瓶がある。489は鉄軸の天目茶碗。越中瀬戸は、皿・壺・鉢・瓶・茶入れがある。499の唐津碗の内面には胎土目が残る。504は透明釉をかけた磁器の小杯で、体部下半高台付近は無釉である。高台内側には赤色漆で「上×」と書いてある。金属製品には、簪、笄、刀子、船釘、銅鏡がある。533は頂部に突起があり、線描きの文様がある。下部が断面方形の脚が大きく分かれる。534は頂部に耳かきが付き、下部がヘラ状となる形態で、線書きで開いた内部は魚子で装飾され、中央には蛙又は魚?が貼り付けられている。535の刀子は切先が緩く曲線を描く。銅鏡は「開元通寶」と「天聖元寶」が出土している。

(鳥田美佐子)



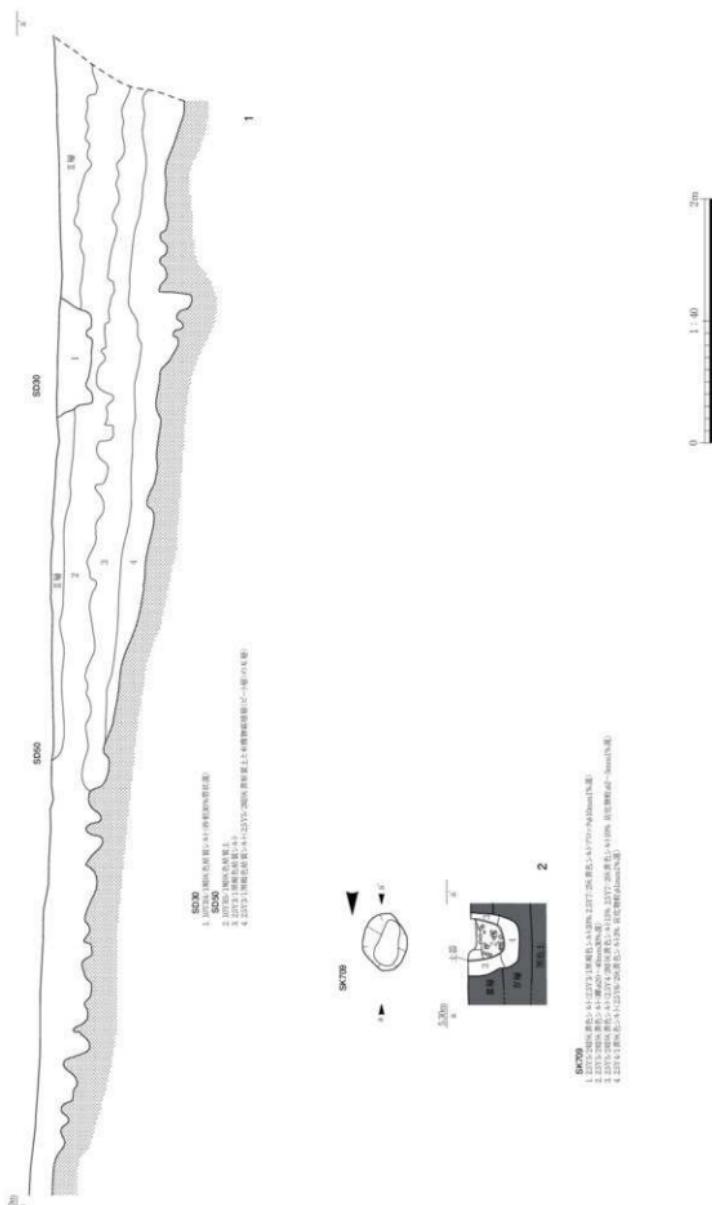
第50図 稲積天坂北遺跡 遺構全体図



第51図 稲積天坂北遺跡 B1地区 遺構全体図(1)

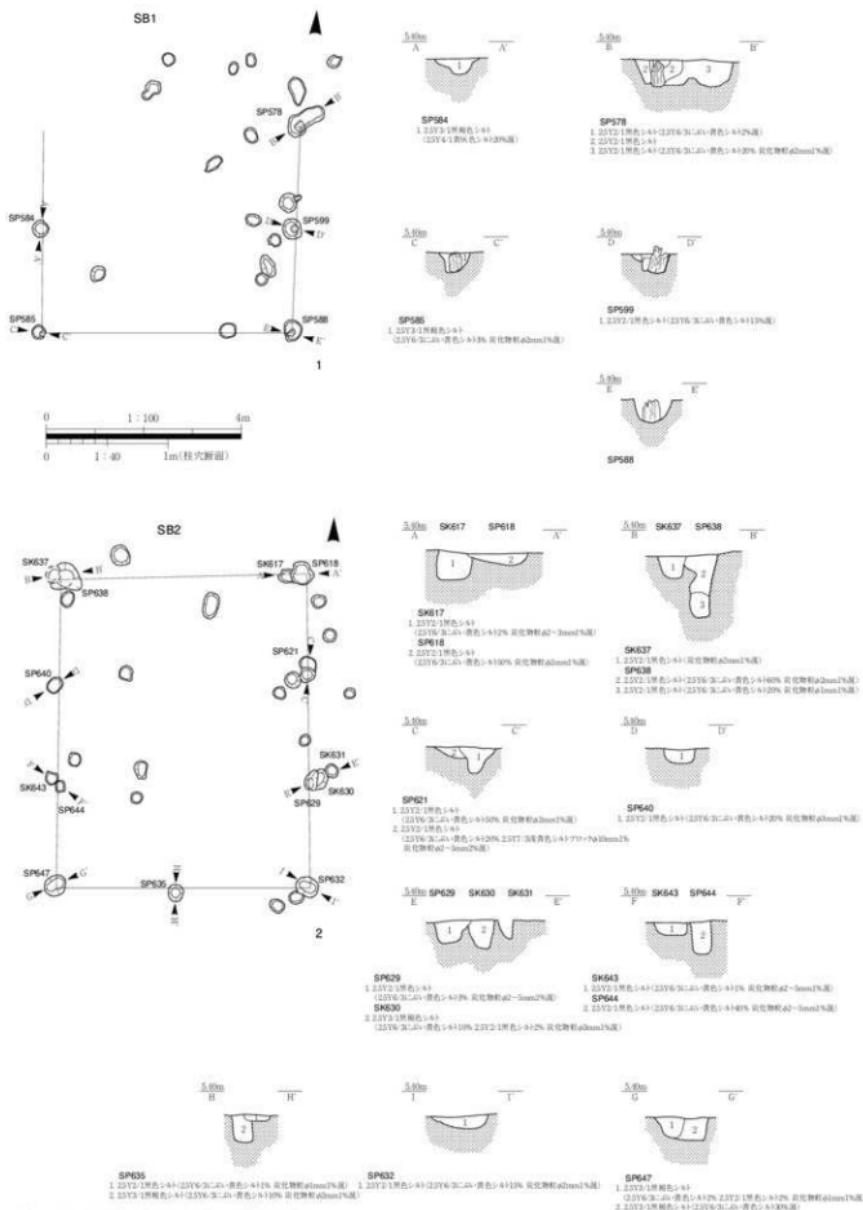


第52図 稲積天坂北遺跡 B1地区 遺構全体図 (2)



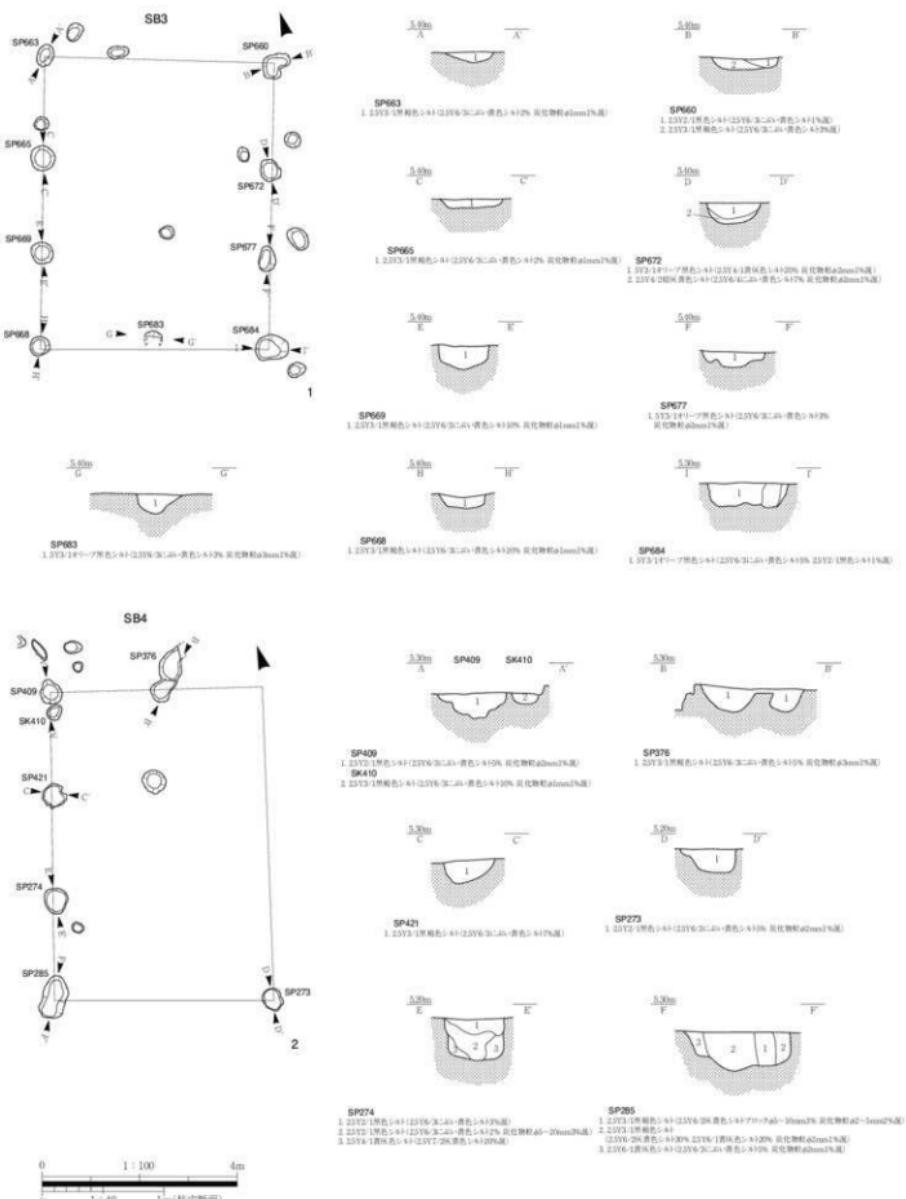
第53図 稲積天坂北遺跡 遺構実測図

1. SD30・SD50 2. SK709



第54図 稲積天坂北遺跡 遺構実測図

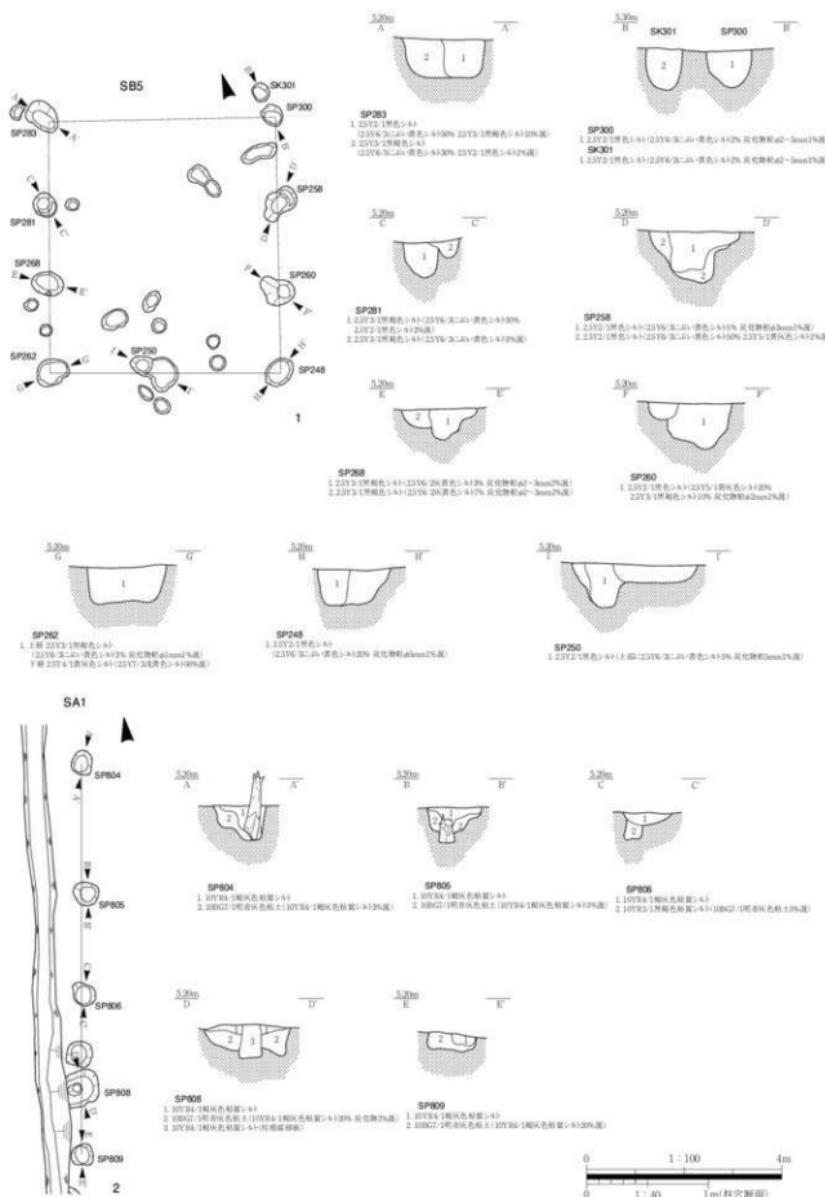
1. SB1 2. SB2



第55図 稲積天板北遺跡 遺構実測図

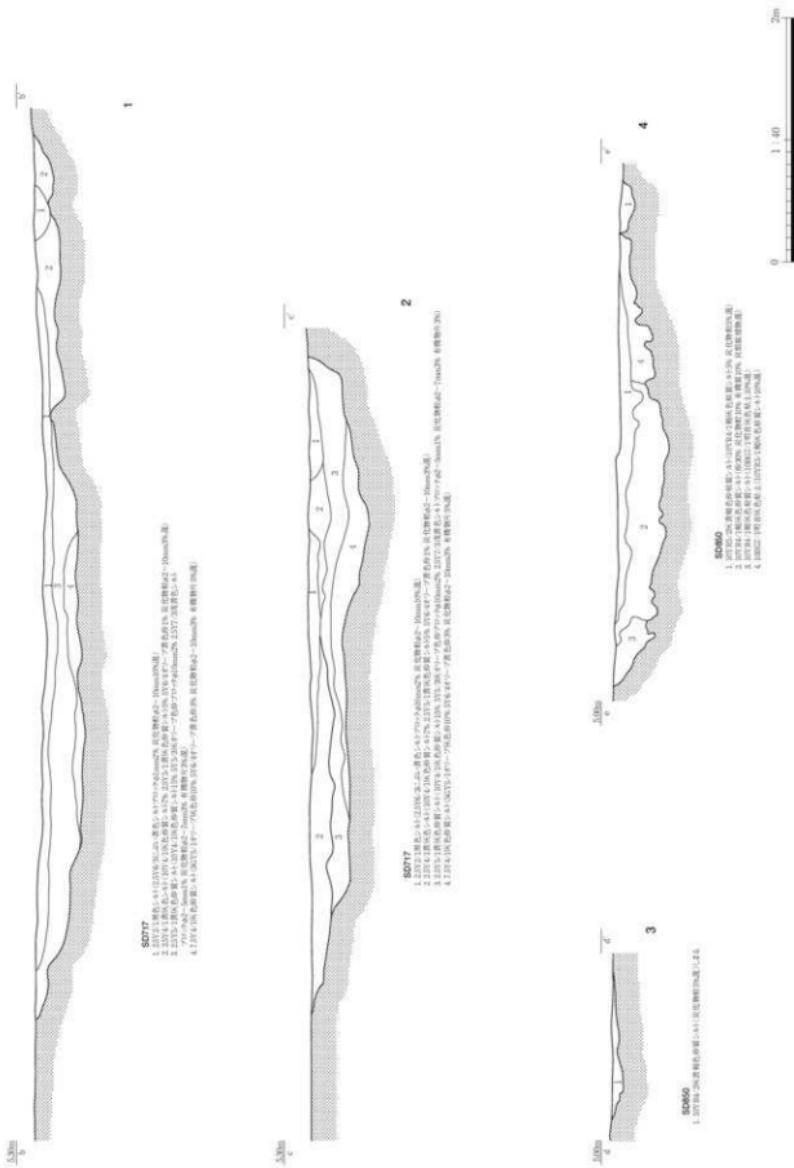
1. SB3 2. SB4

3 遺構と遺物



第56図 稲積天坂古遺跡 遺構実測図

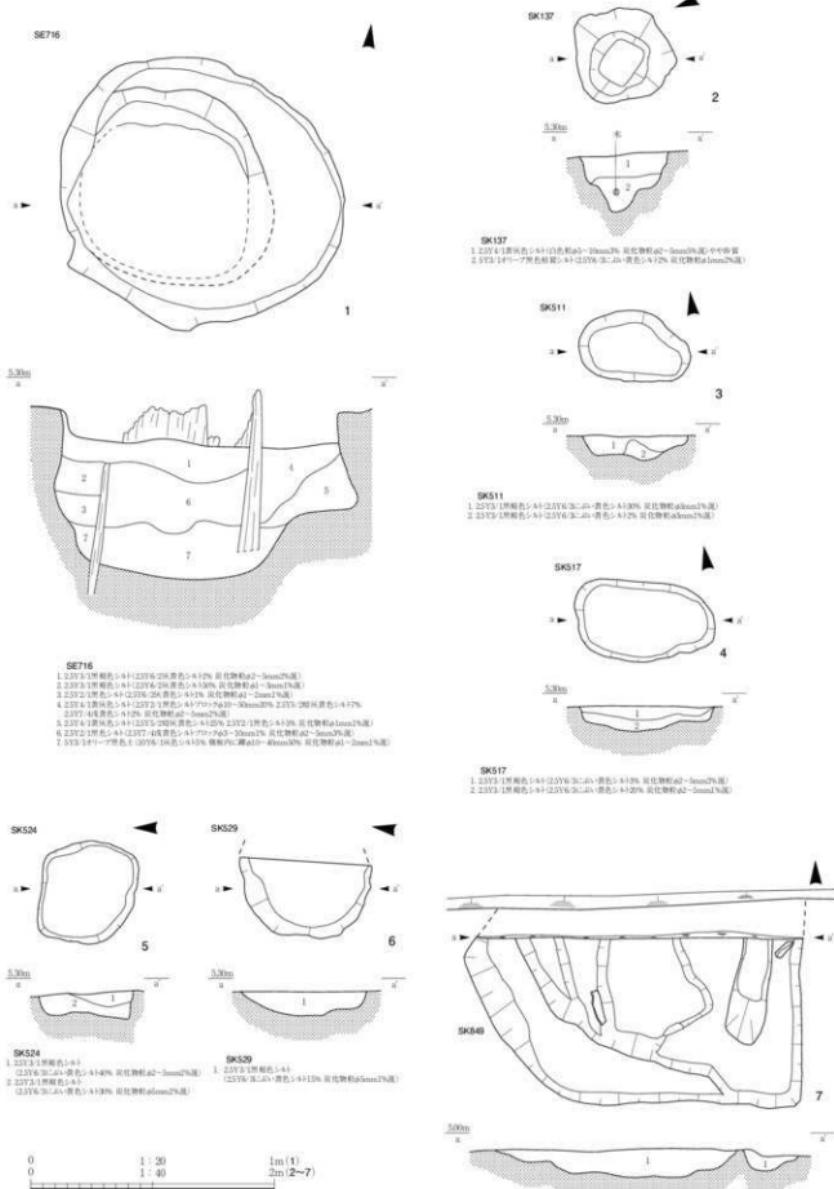
1. SB5 2. SA1



第57図 稲積天板北遺跡 遺構実測図

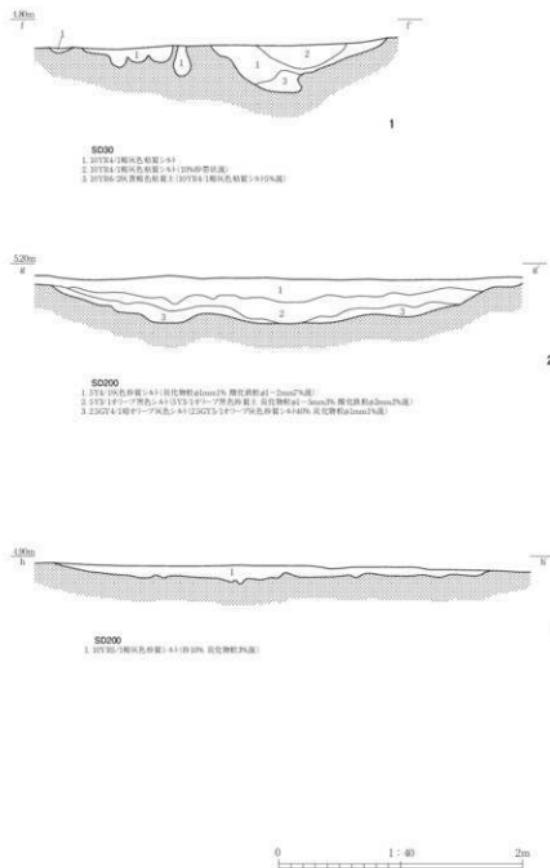
1・2. SD717 3・4. SD850

3 遺構と遺物

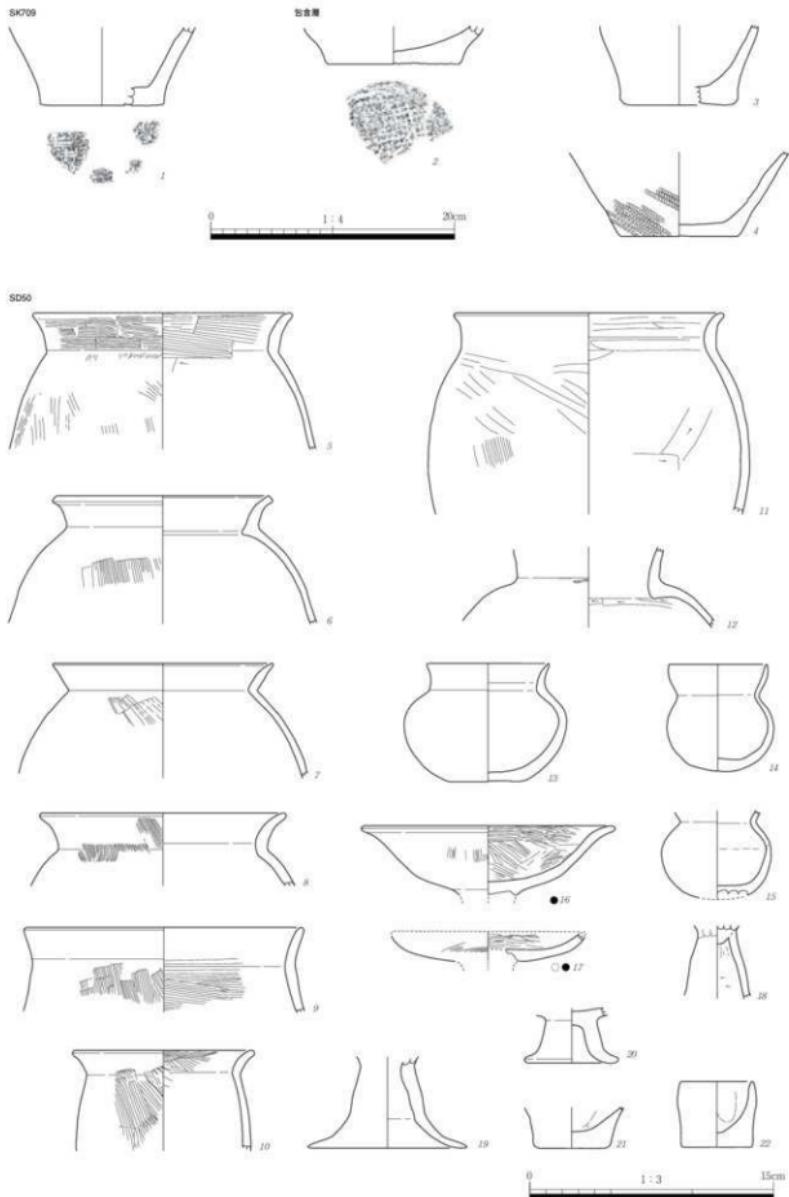


第58図 稲積天坂北遺跡 遺構実測図

1. SE716
2. SK137
3. SK511
4. SK517
5. SK524
6. SK529
7. SK849

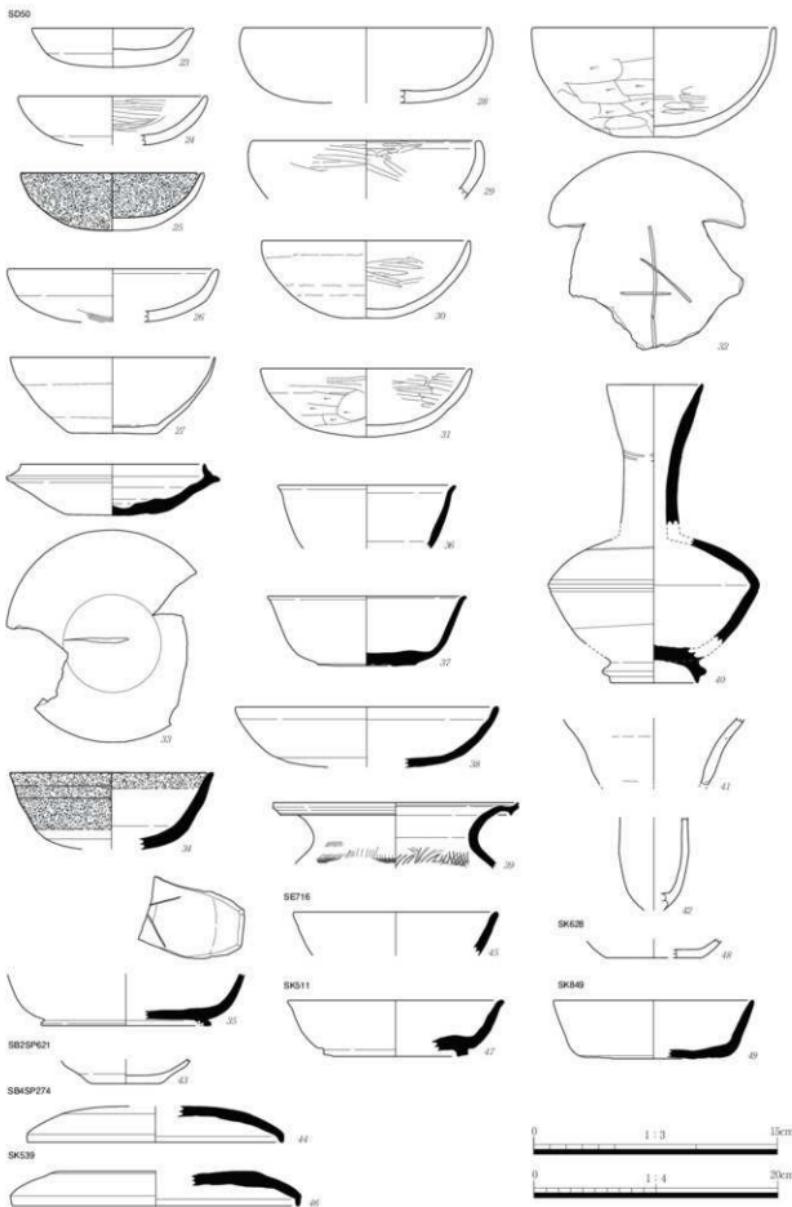


第59図 稲積天板北遺跡 遺構実測図
1. SD30 2・3. SD200



第60図 稲積天坂北遺跡 遺物実測図 (21・22 1/3, 1~20 1/4)

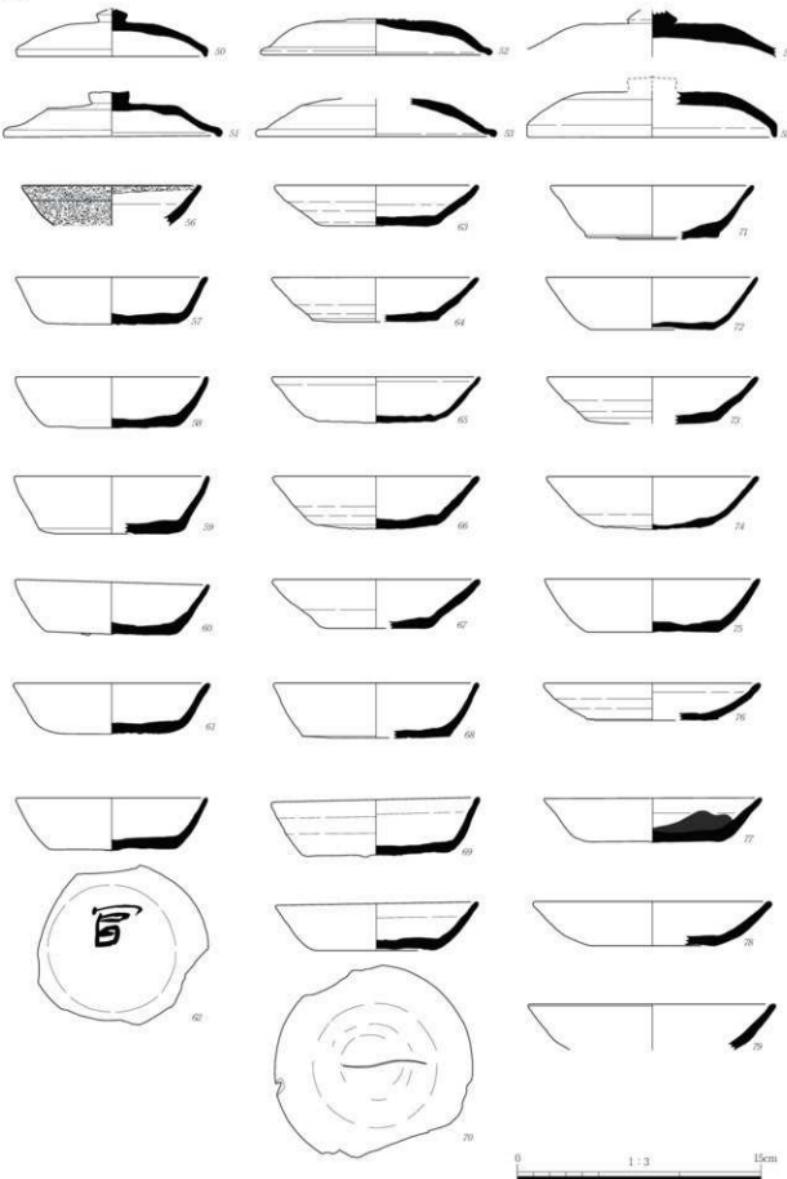
SD50 (5~22) SK709 (1) 包含層



第61図 稲積天板北遺跡 遺物実測図 (23~38・43~49 1/3, 39~42 1/4)

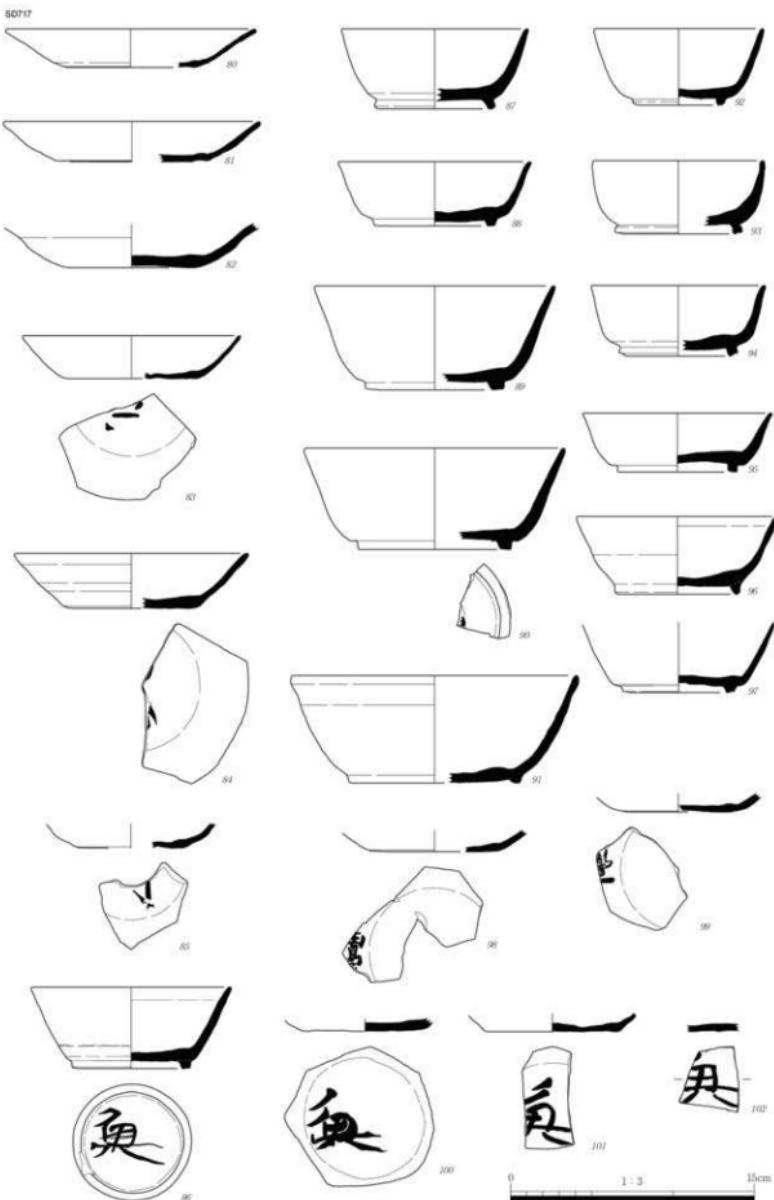
SB2SP621 (43) SB4SP274 (44) SD50 (23~42) SE716 (45) SK511 (47)
SK628 (48) SK849 (49)

SD717

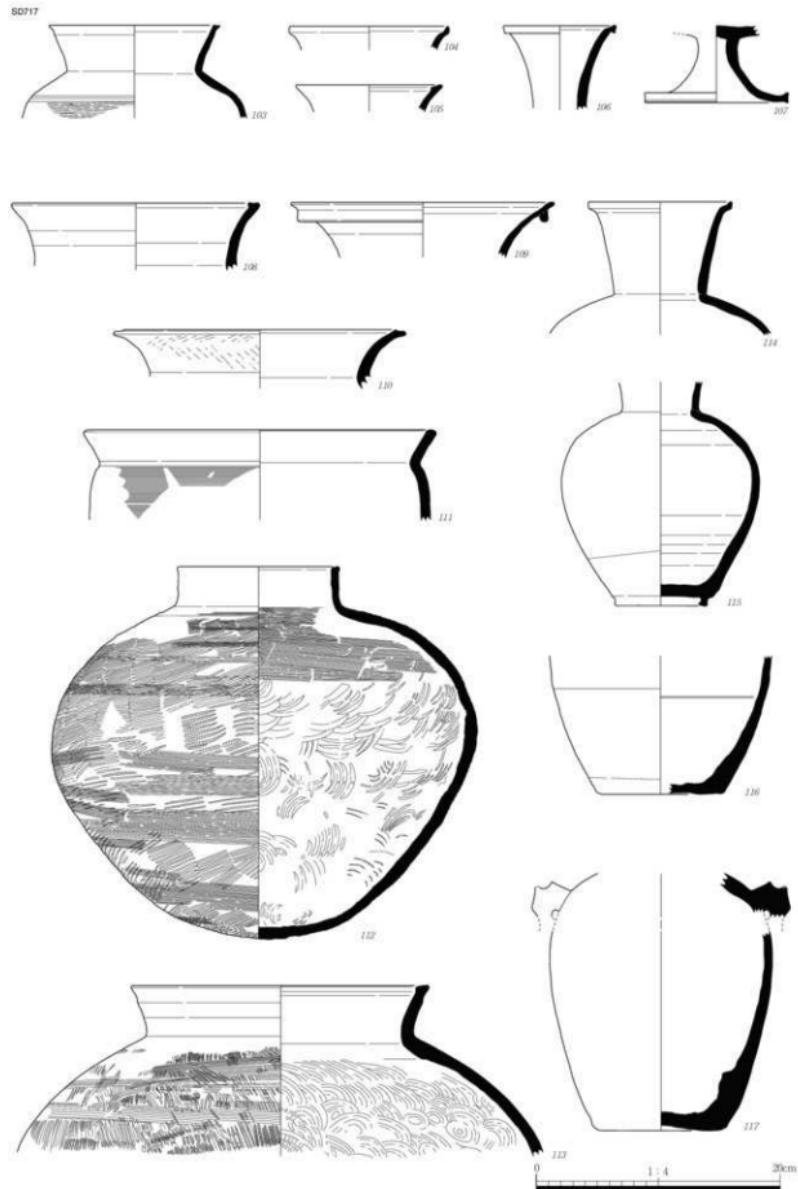


第62図 稲積天板北遺跡 遺物実測図 (1/3)

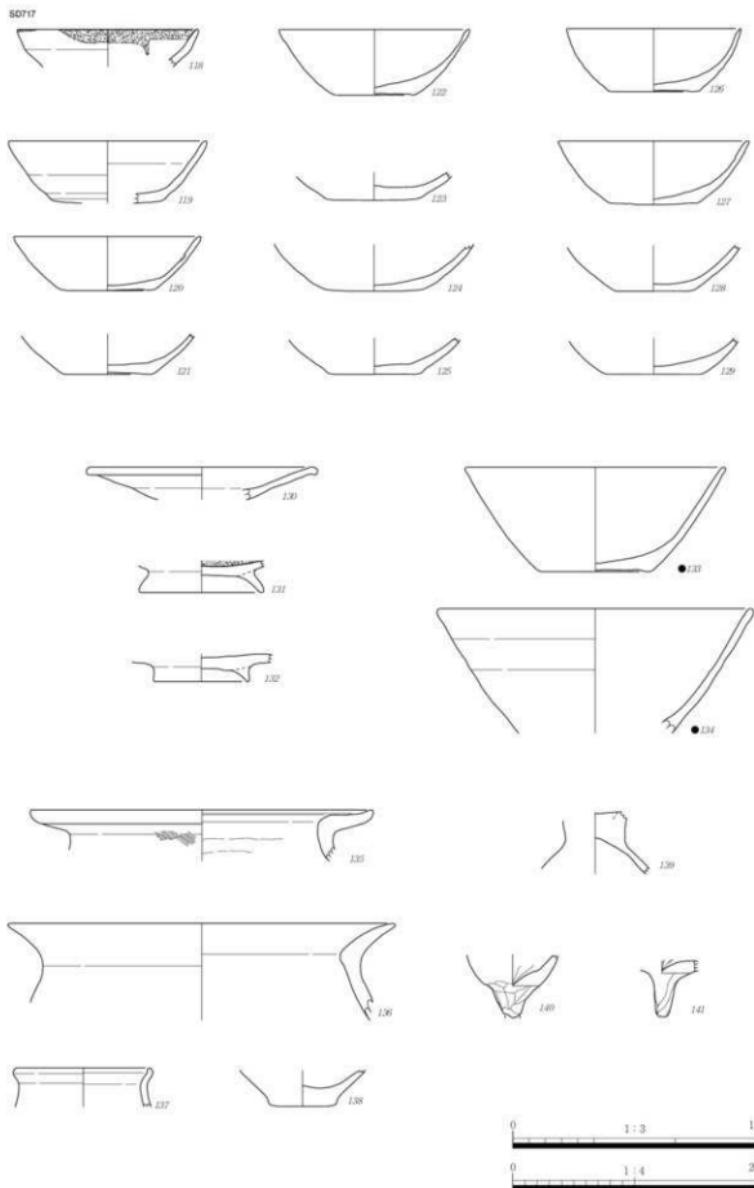
SD717



第63図 稲積天板北遺跡 遺物実測図 (1/3)
SD717

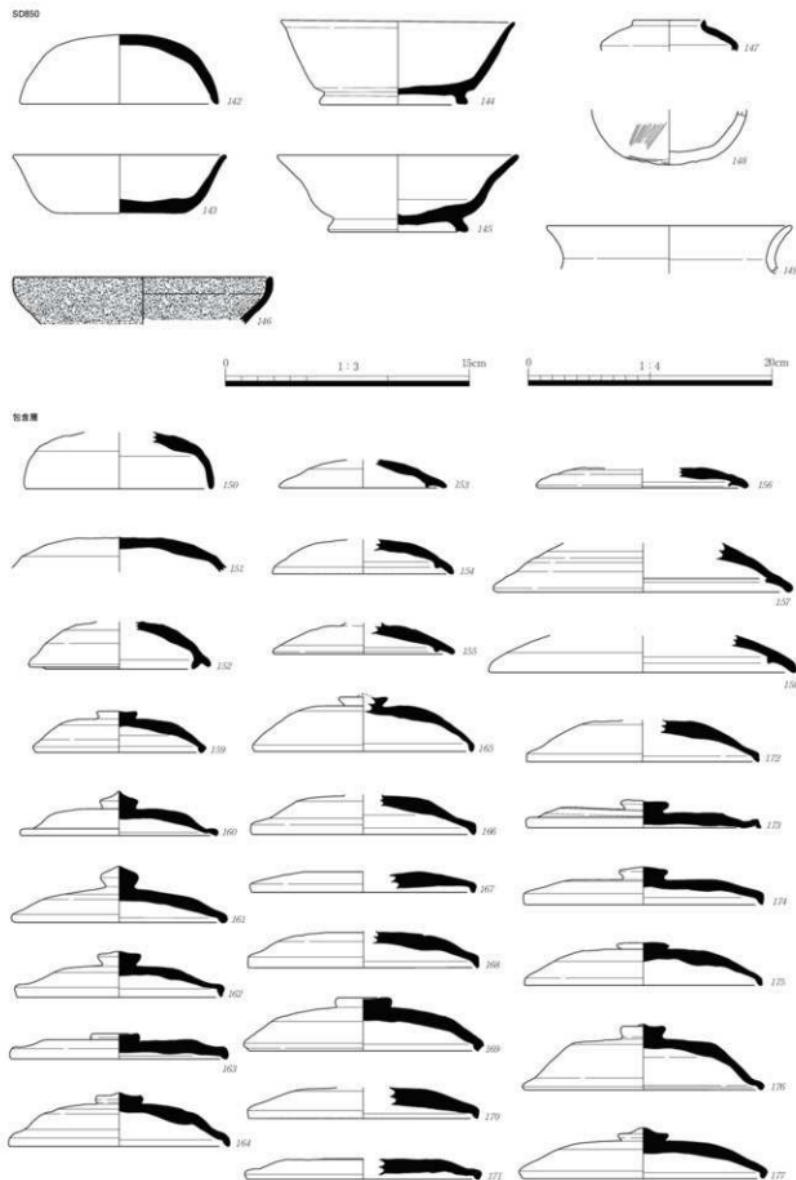


第64図 稲積天坂北遺跡 遺物実測図 (1/4)
SD717



第65図 稲積天板北遺跡 遺物実測図 (118~134 1/3, 135~141 1/4)

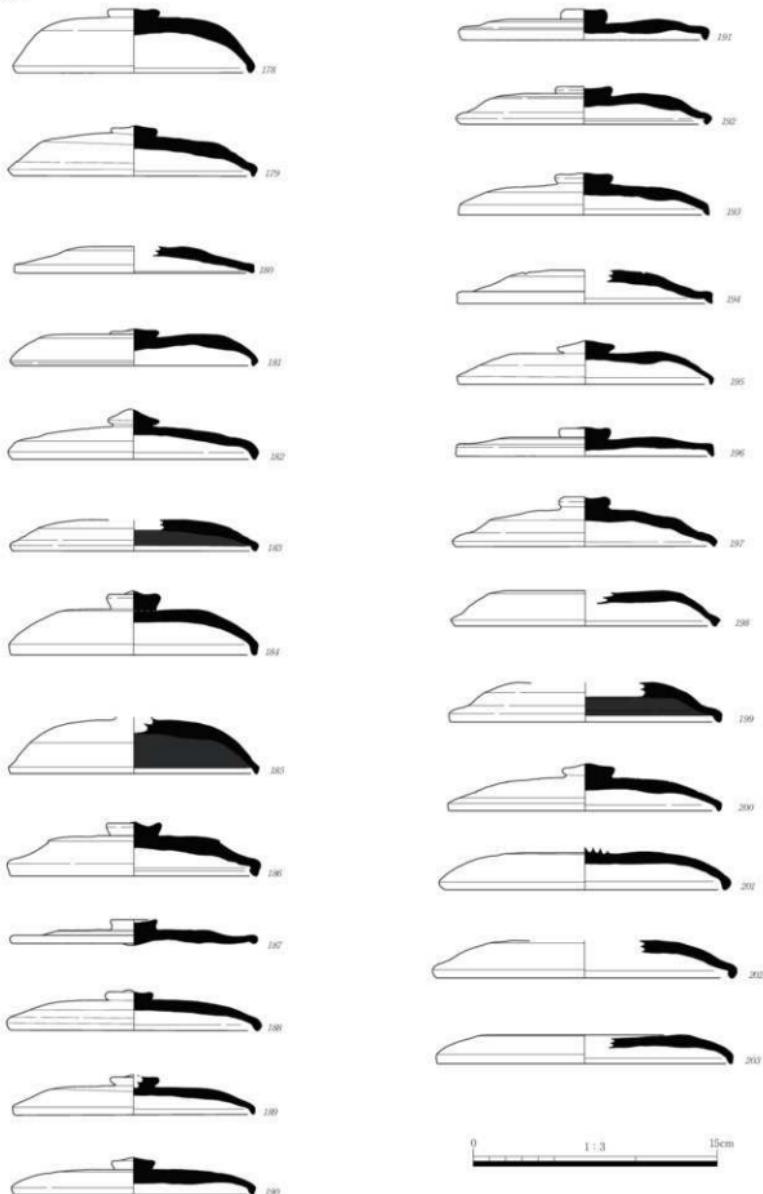
SD717



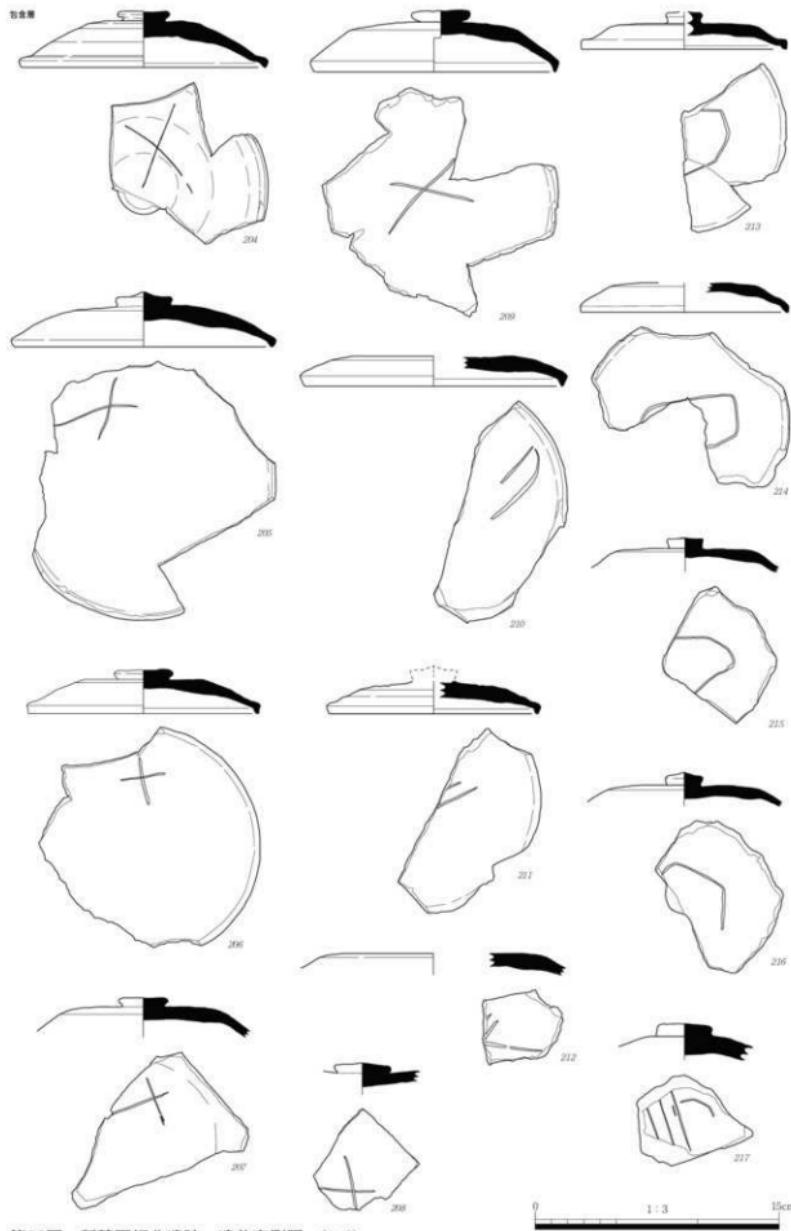
第66図 稲積天坂北遺跡 遺物実測図 (142~145・150~177 1/3, 146~149 1/4)

SD850 (142~149) 包含層

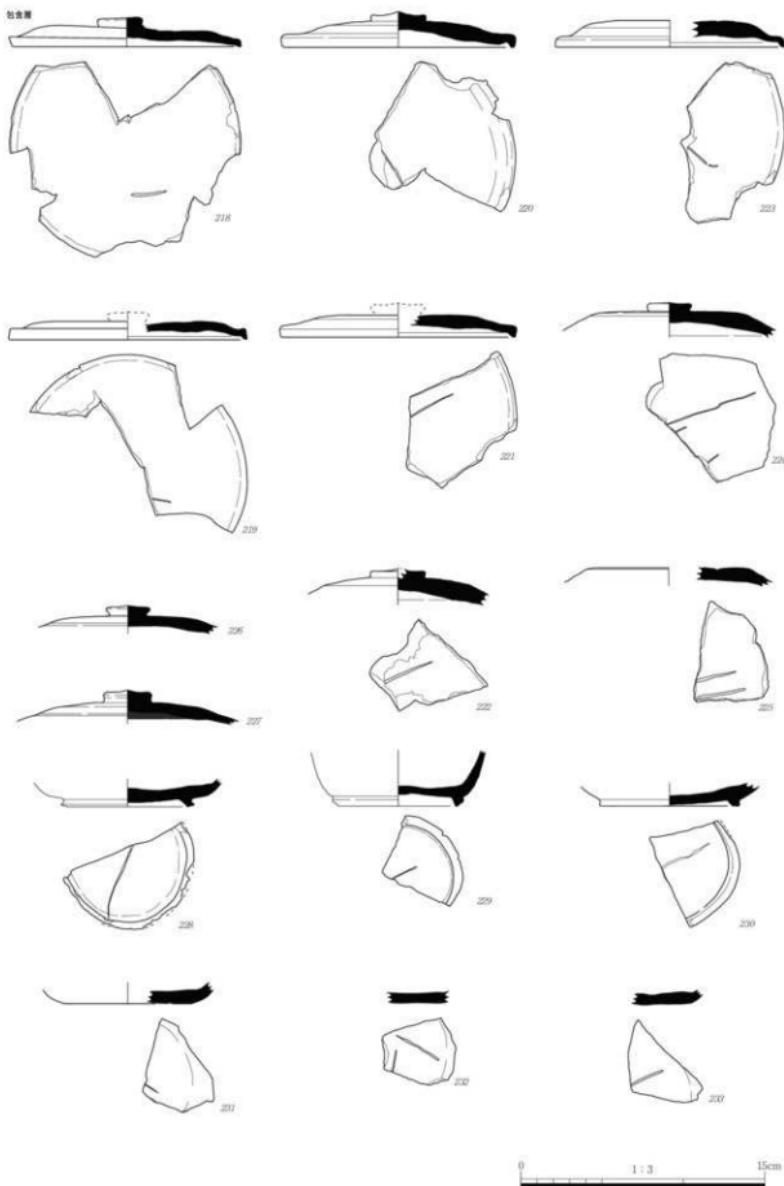
包含層



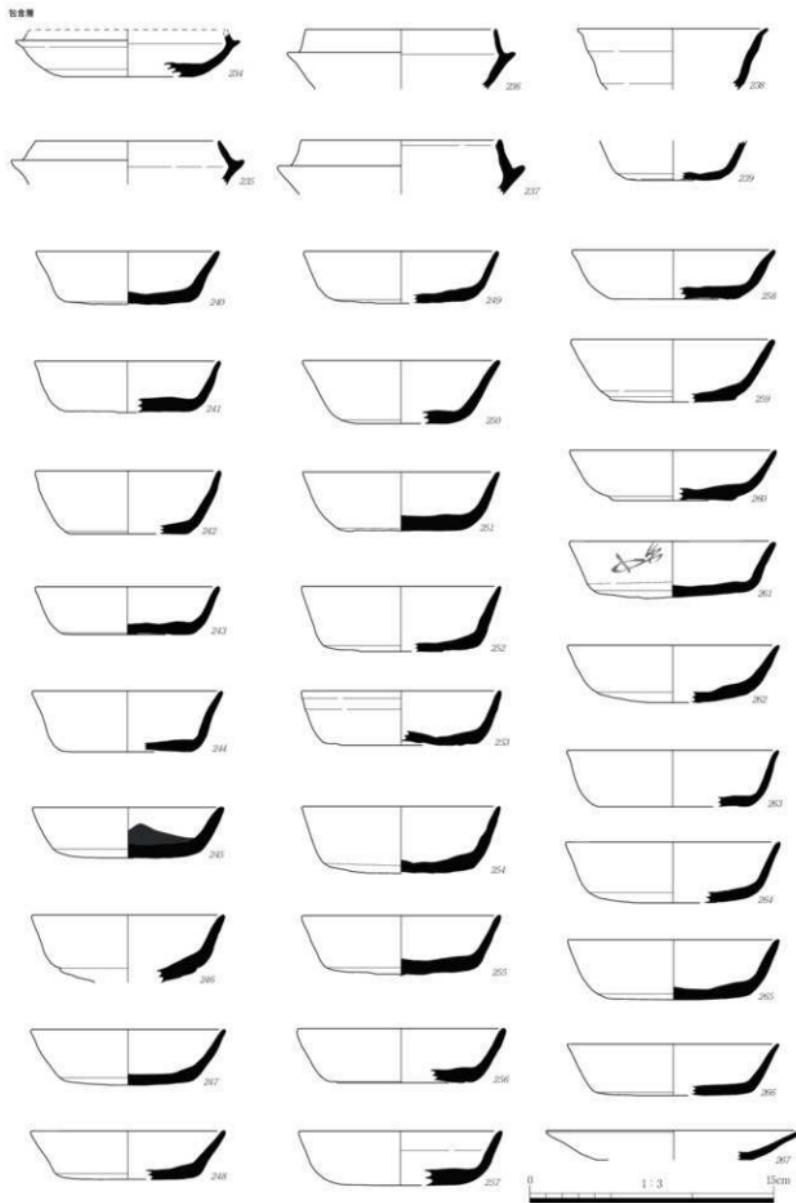
第67図 稲積天坂北遺跡 遺物実測図 (1/3)
包含層

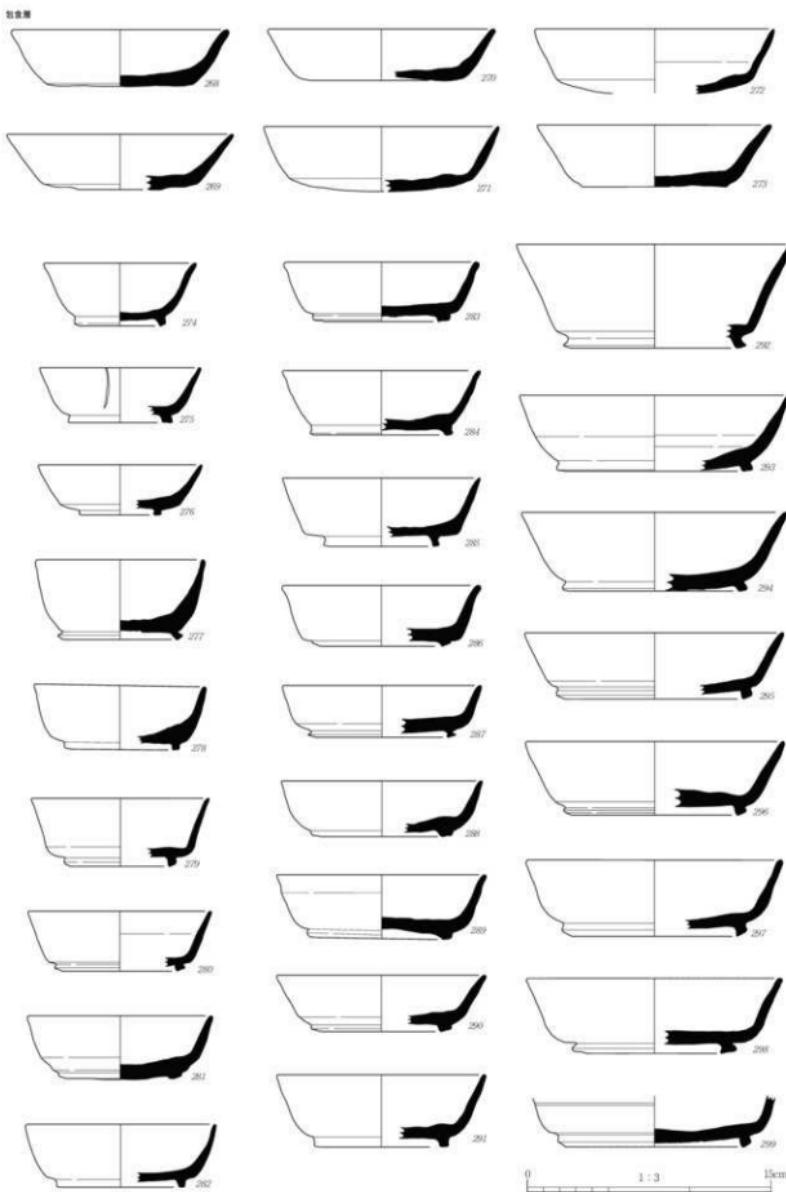


第68図 稲積天坂北遺跡 遺物実測図 (1/3)
包含層

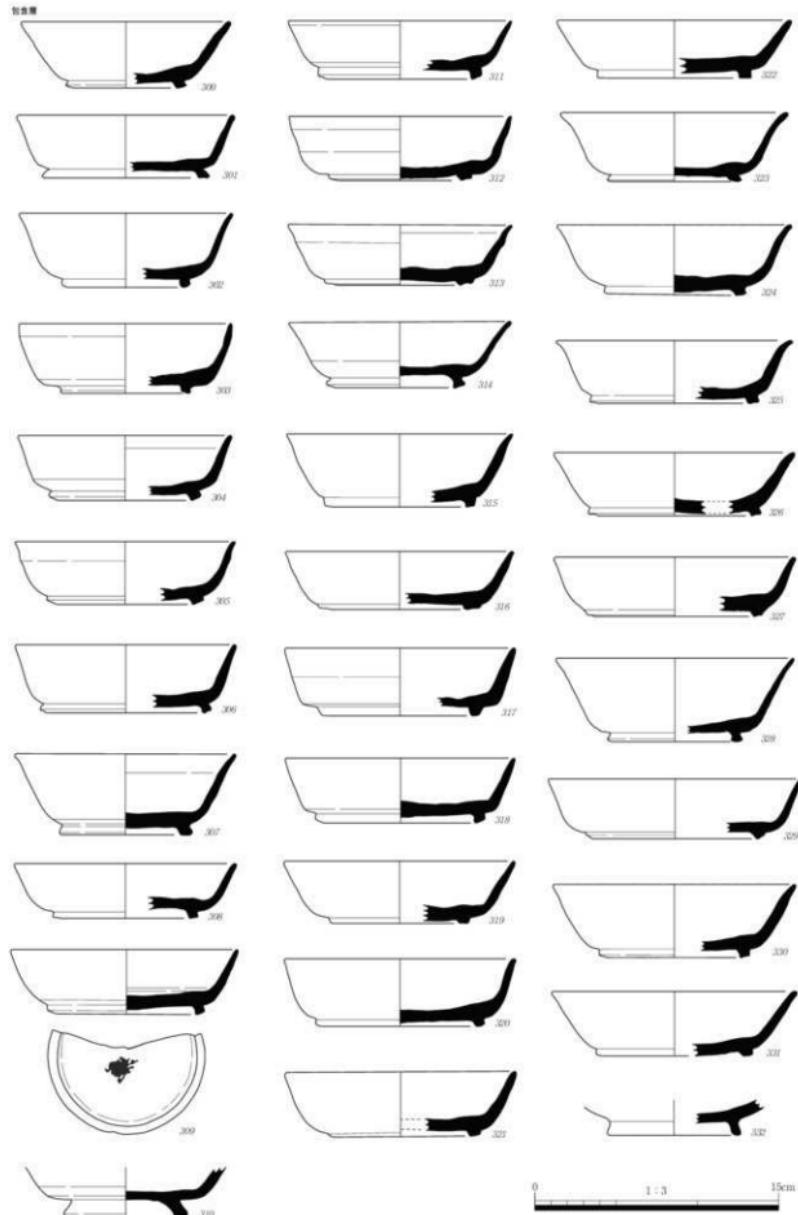


第69図 稲積天板北遺跡 遺物実測図 (1/3)
包含層

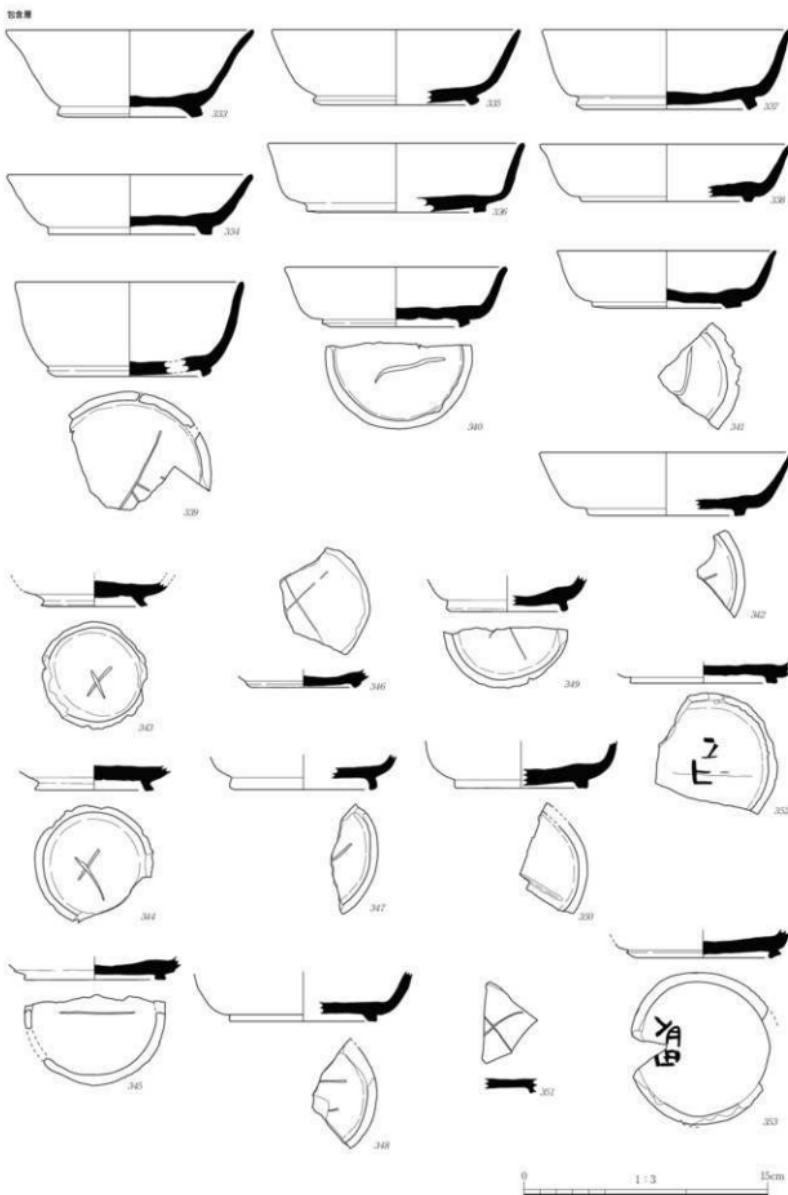
第70図 稲積天坂北遺跡 遺物実測図 (1/3)
包含層



第71図 稲積天板北遺跡 遺物実測図 (1/3)
包含層



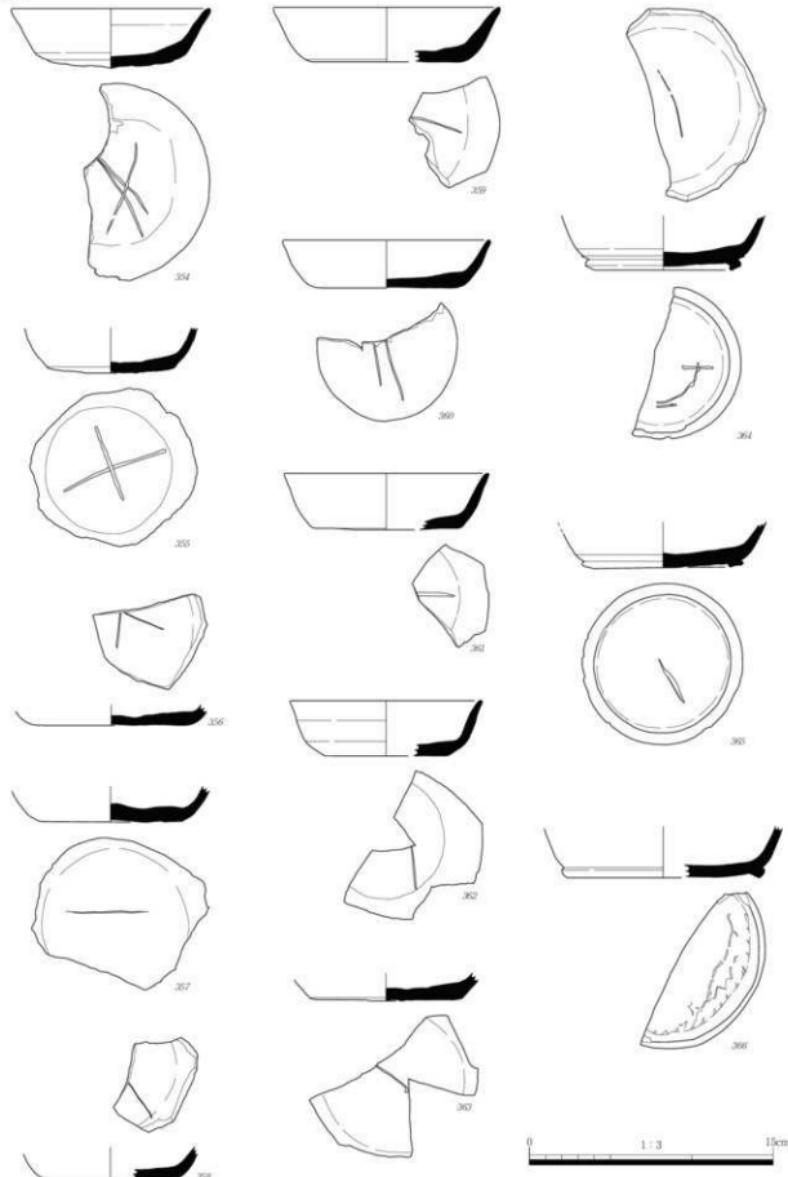
第72図 稲精天板北遺跡 遺物実測図 (1/3)
包含層



第73図 稲積天板北遺跡 遺物実測図 (1/3)

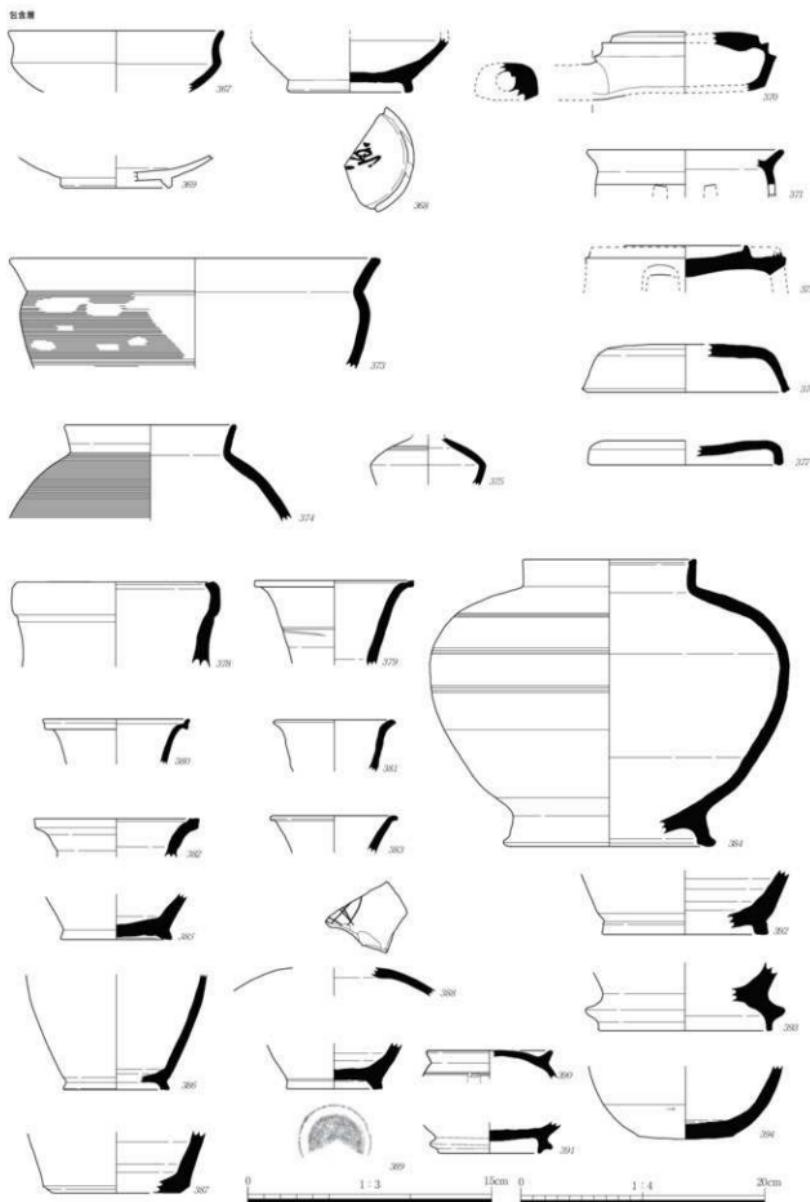
包含層

包含層

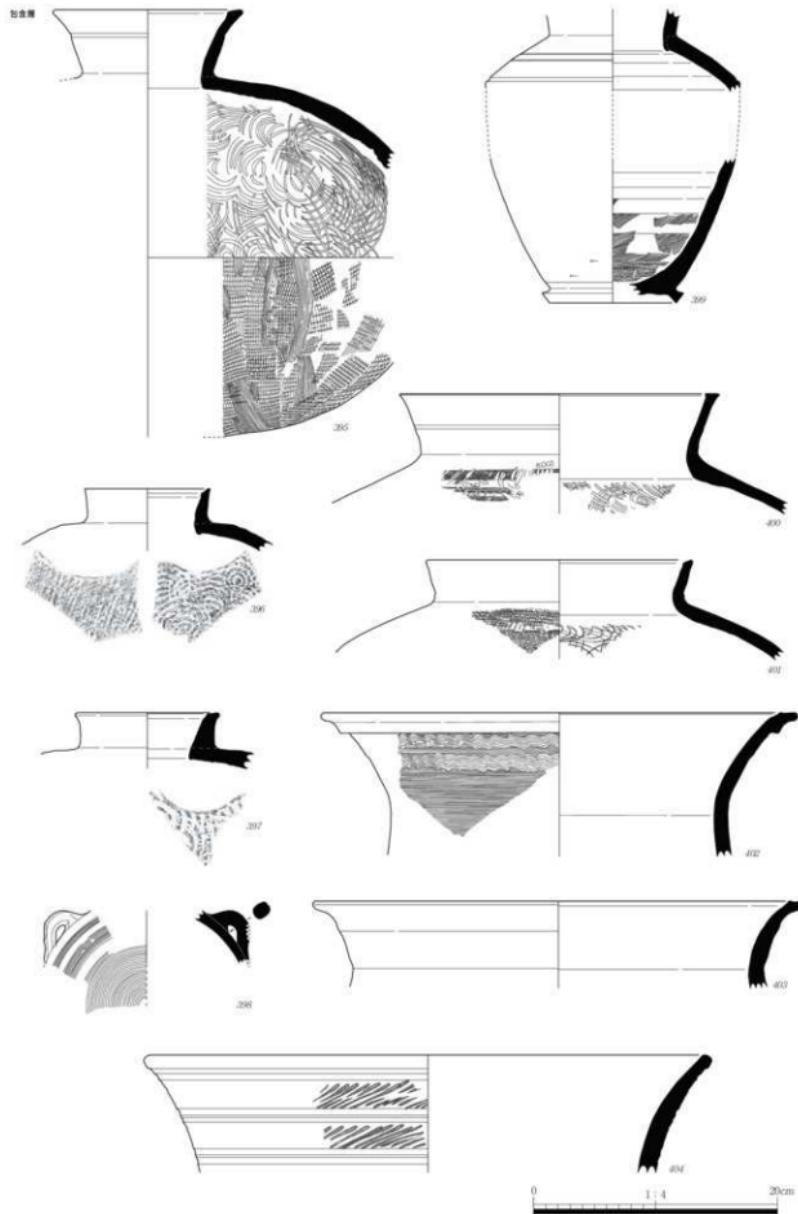


第74図 稲積天坂北遺跡 遺物実測図 (1/3)

包含層

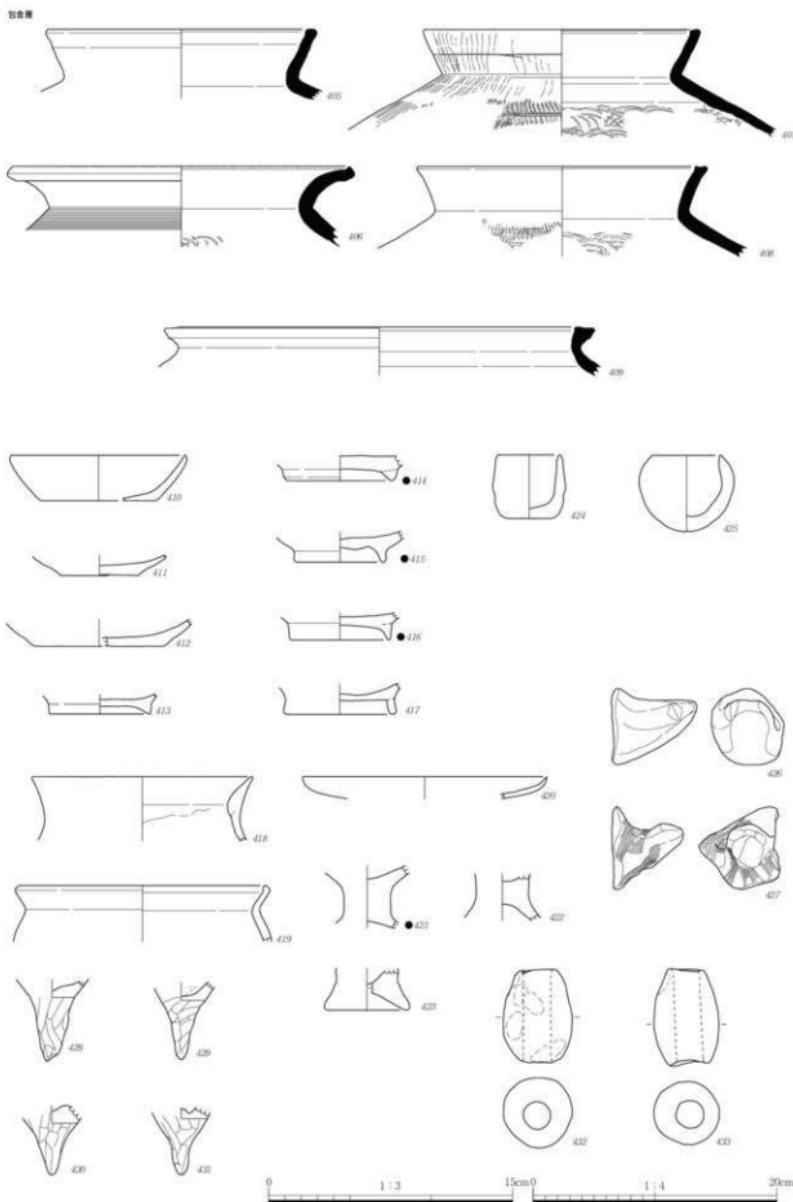


第75図 稲積天板北遺跡 遺物実測図 (367~372・376・377 1/3, 373~375・378~394 1/4)
包含層

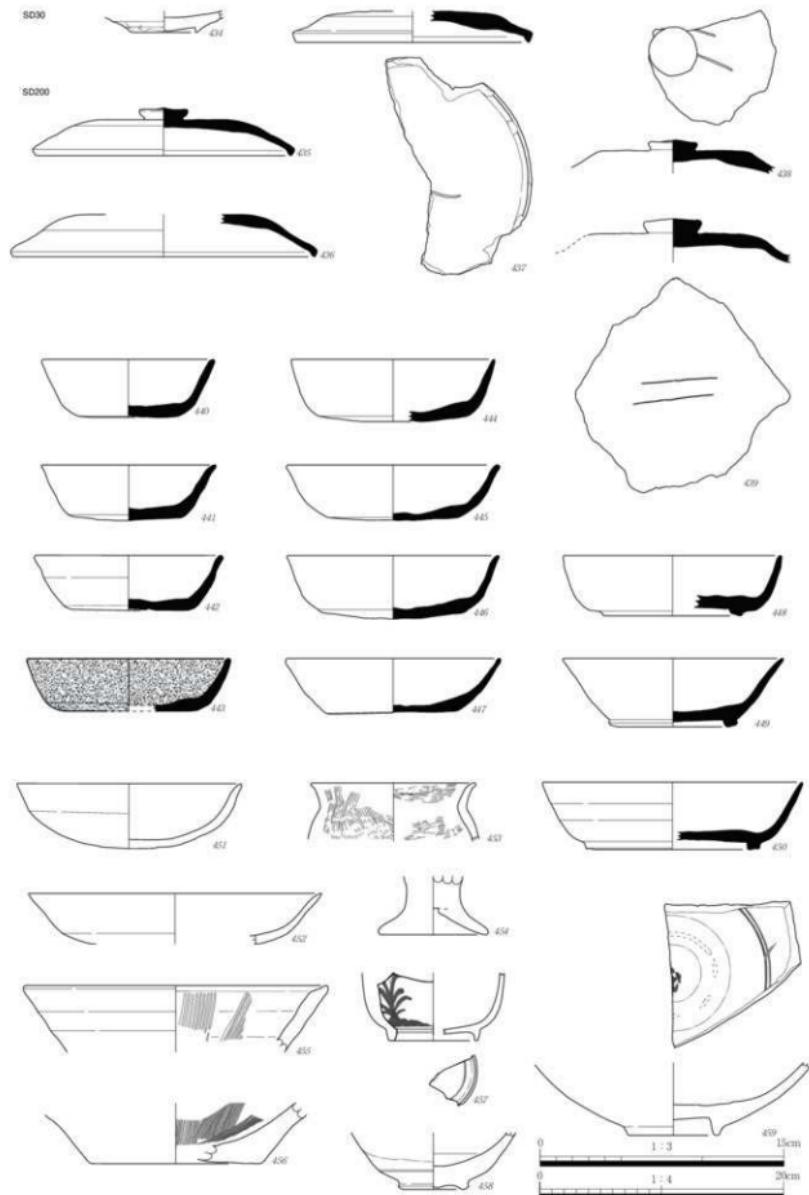


第76図 稲積天坂北遺跡 遺物実測図 (1/4)

包含層

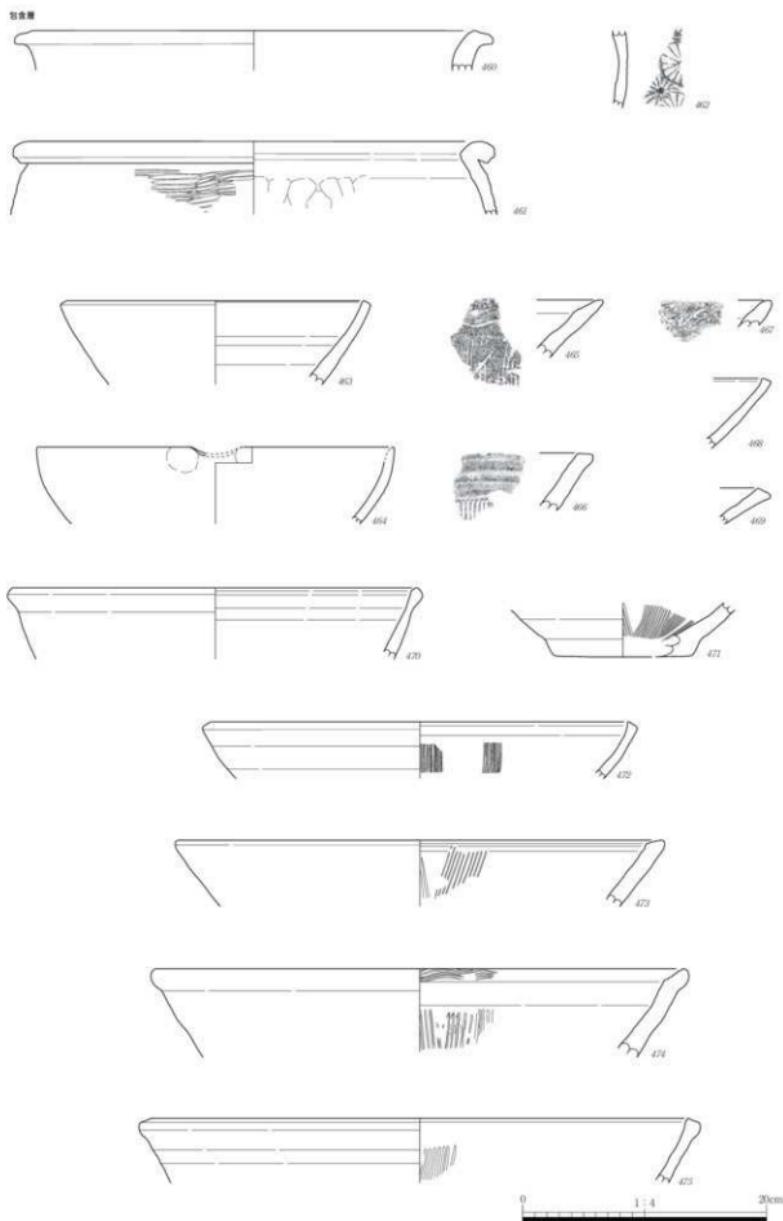


第77図 稲積天板北遺跡 遺物実測図 (410~417・424~427・432・433 1/3,
包含層
405~409・418~423・428~431 1/4)



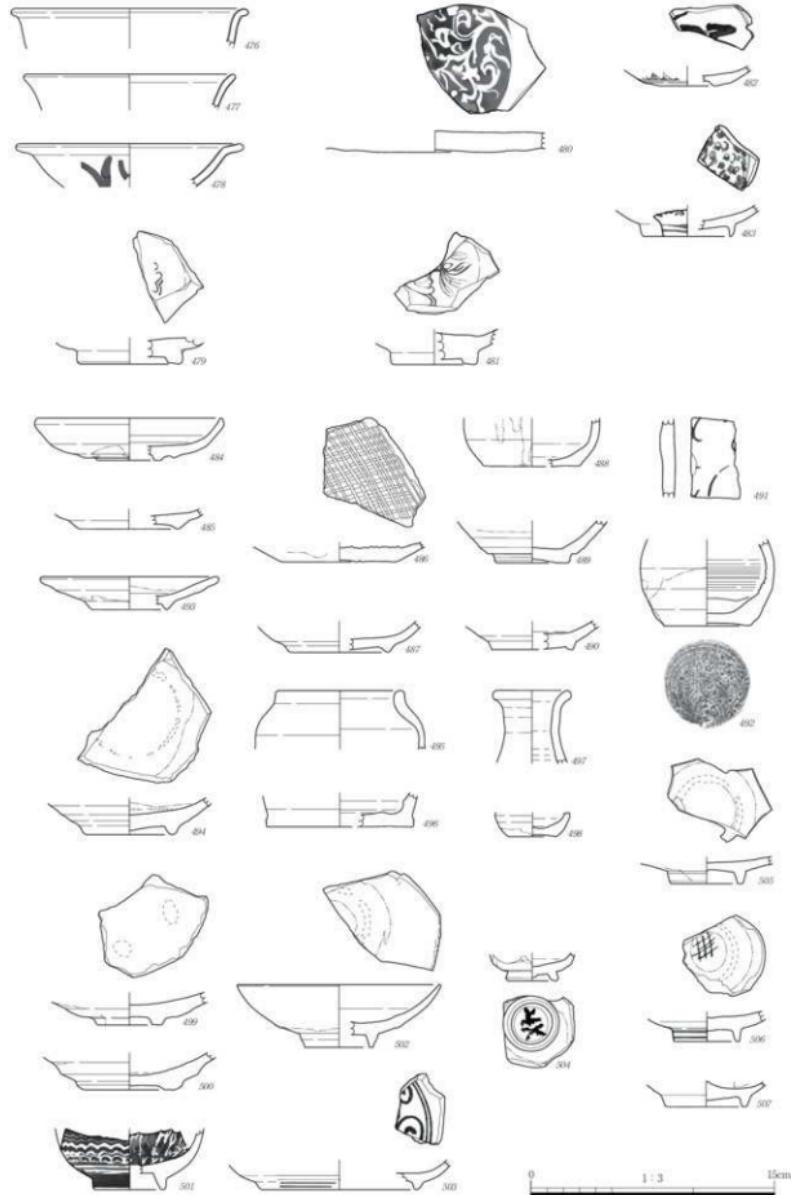
第78図 稲積天坂北遺跡 遺物実測図 (434~452・457~459 1/3, 453~456 1/4)

SD30 (434) SD200 (435~459)



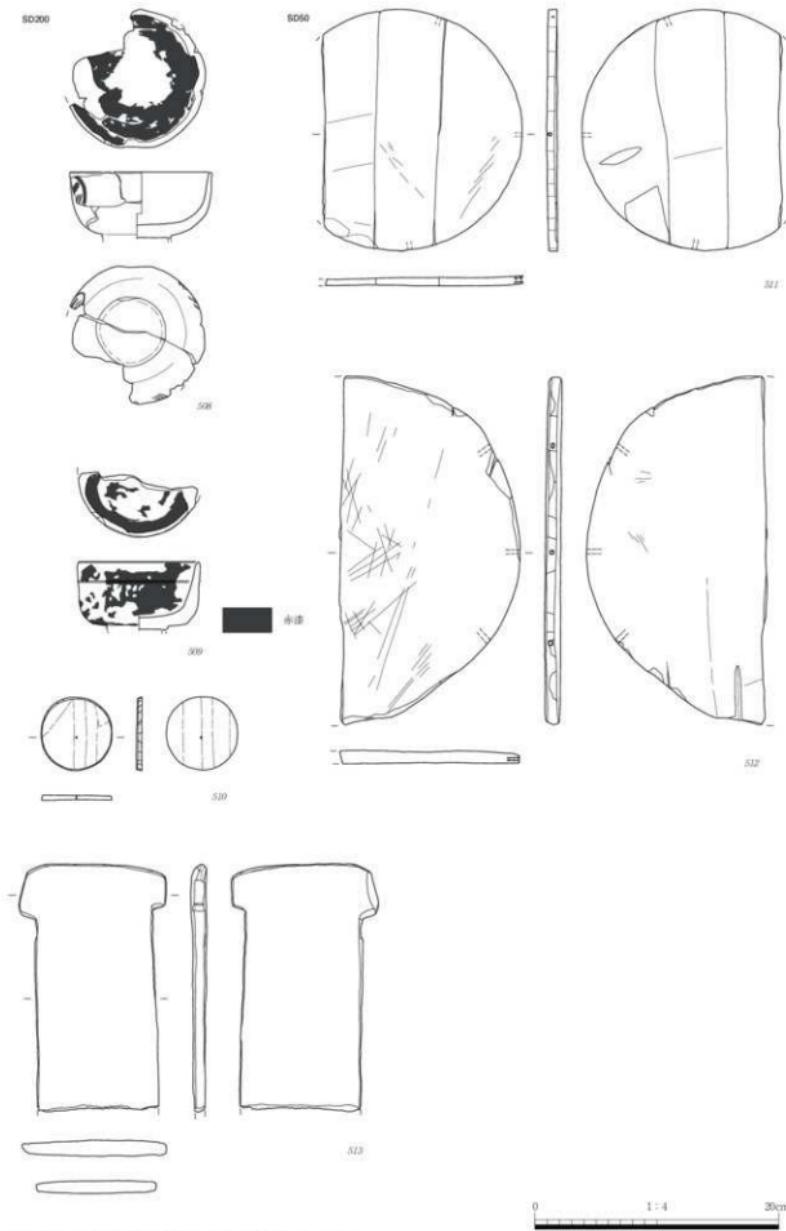
第79図 稲積天坂北遺跡 遺物実測図 (1/4)
包含層

包含層



第380図 稲積天板北遺跡 遺物実測図 (1/3)

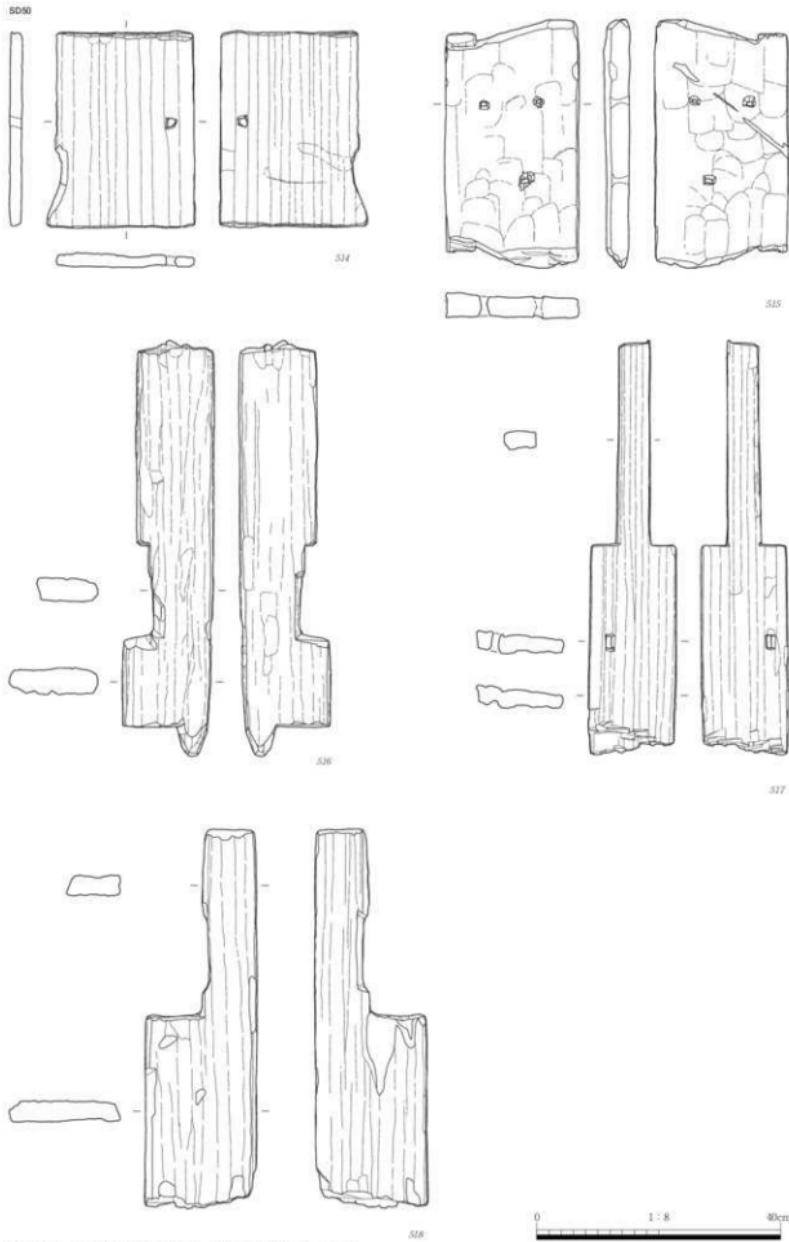
包含層



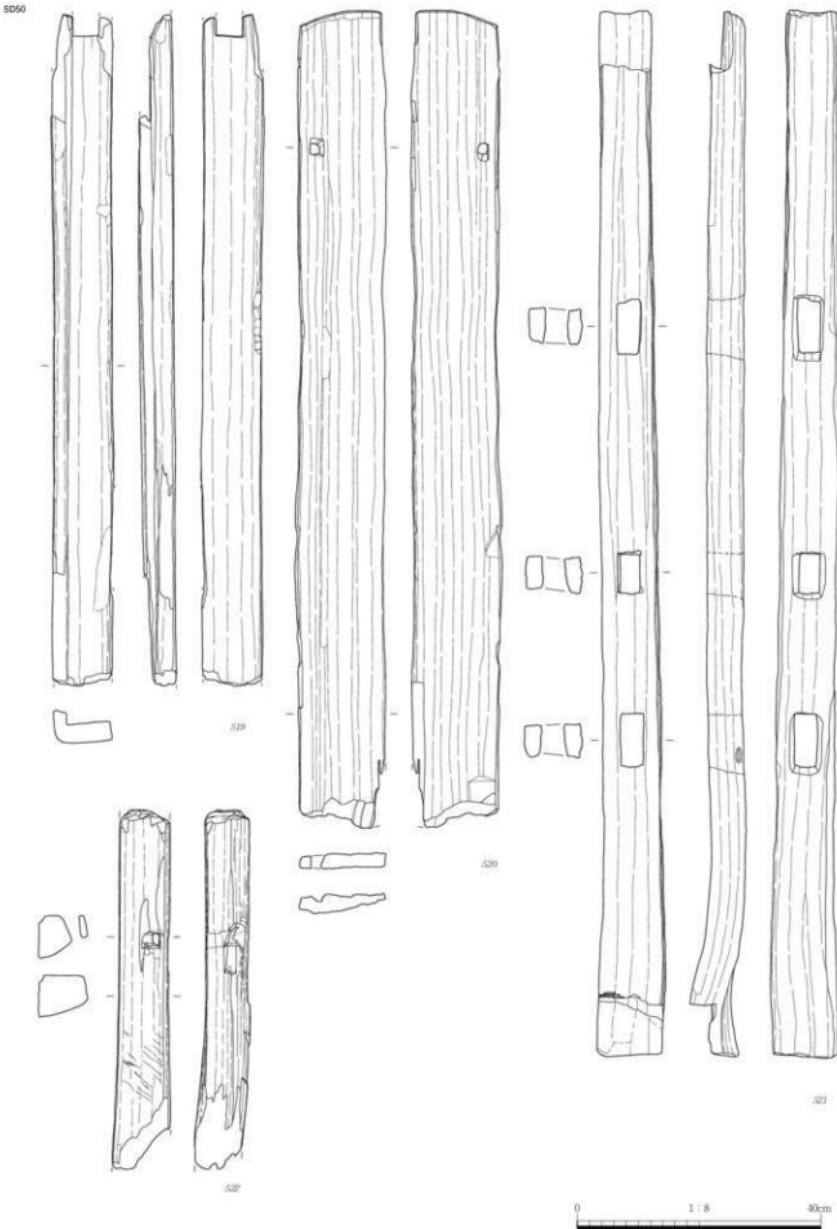
第81図 稲積天板北遺跡 遺物実測図 (1/4)

SD50 (511~513) SD200 (508~510)

3 遺構と遺物



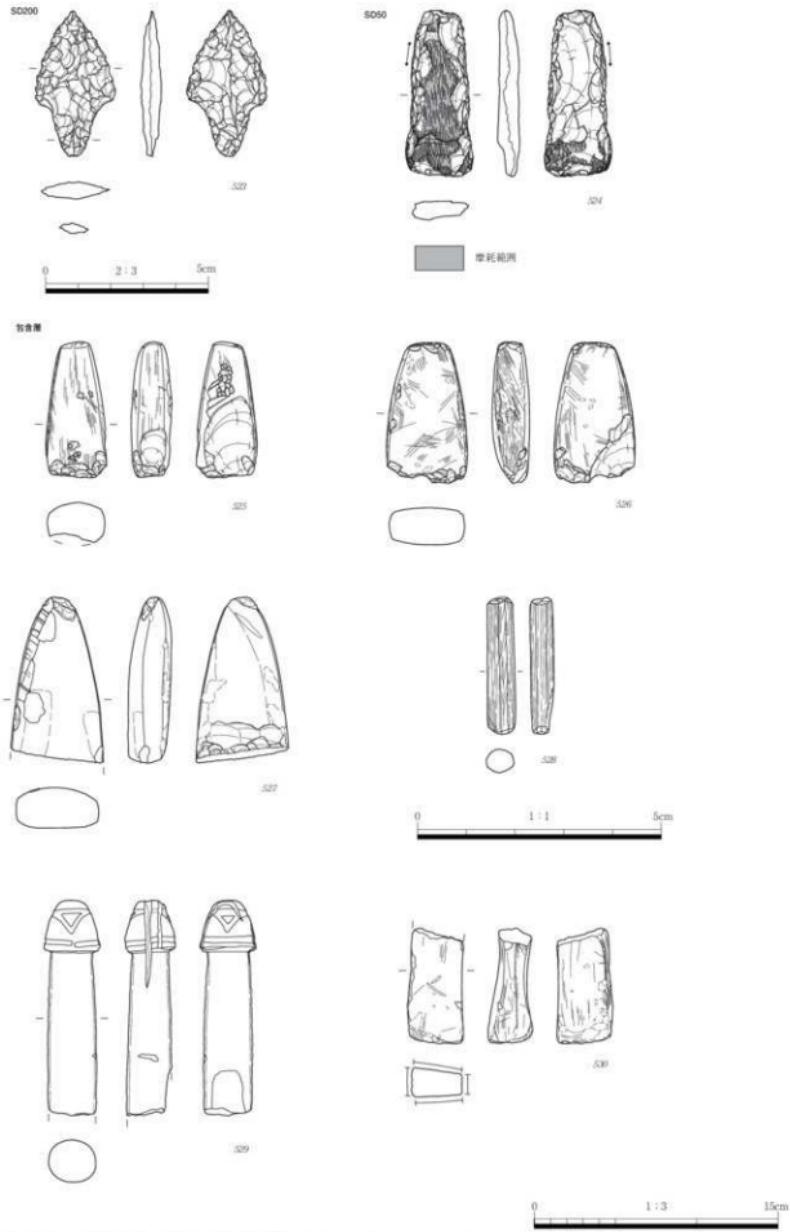
第82図 積累天板北跡 遺物実測図 (1/8)
SD50



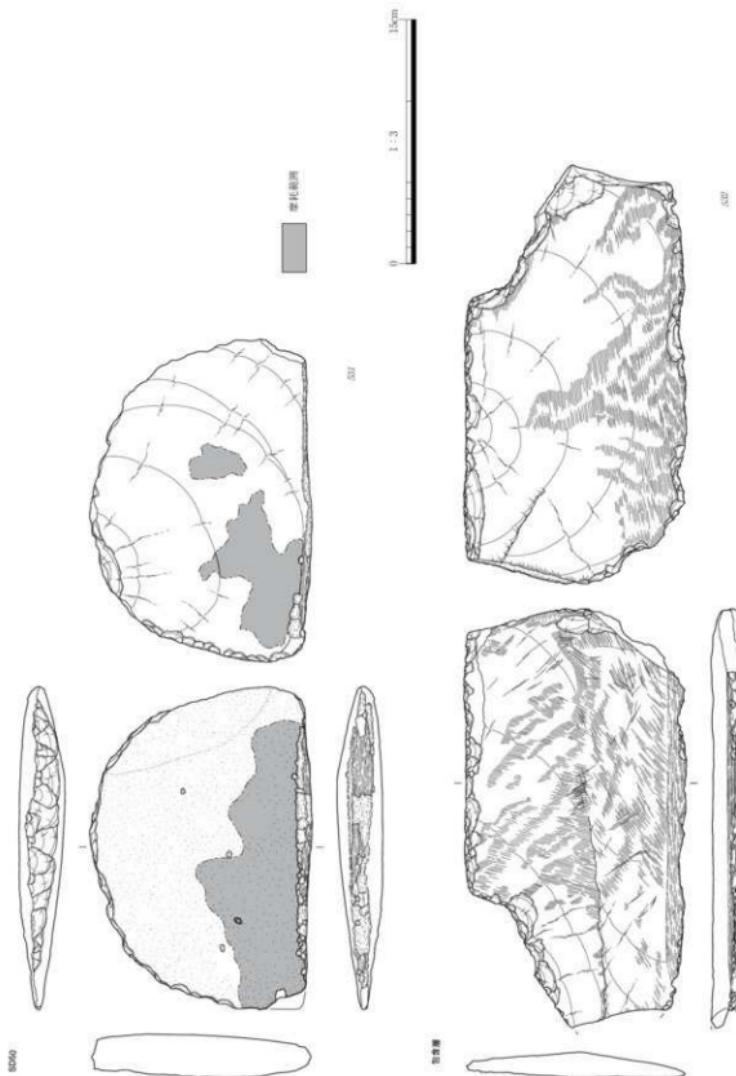
第83図 稲積天板北遺跡 遺物実測図 (1/8)

SD50

3 遺構と遺物



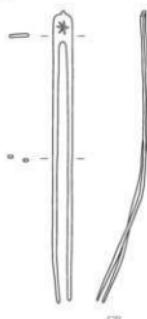
第84図 稲積天板北遺跡 遺物実測図 (528 1/1, 523 2/3, 524~527・529・530 1/3)
SD50 (524) SD200 (523) 包含層



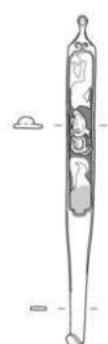
第85図 稲積天板北遺跡 遺物実測図 (1/3)

SD50 (53I) 包含層

532

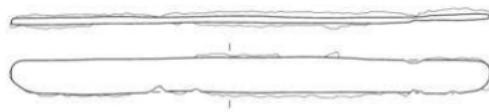


532



534

魚子範囲
魚子底座範囲

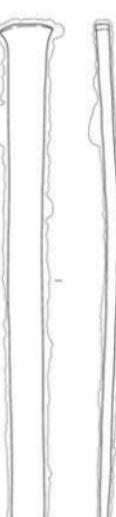


533

0

1:2

10cm



536

537



537

SD200



538

539



539

0

1:1

5cm

第86図 稲積天板北遺跡 遺物実測図 (537~539 1/1, 533~536 1/2)

SD200 (538) 包含層

第16表 稲積天板北遺跡 古代掘立柱建物一覧

地区	建物	種別	柱径 (m)	梁行 (m)	梁高 (m)	傾方位	柱穴版幅 径(m)	柱穴版幅 深さ(m)	柱間距離 幅(m)	柱間距離 奥(m)	出土遺物	種別	写真 図版		
B1	SB1	南北棟 棚柱 (2箇)	(4.10)	1間	5.10	(20.91)	N2°W	0.28~0.86	0.13~0.48	2.10~2.20	5.20	柱根	54	43	
B1	SB2	南北棟 棚柱	3間	5.40	2間	5.20	28.08	N2°W	0.20~0.64	0.10~0.52	2.10~2.20	2.40~2.70	土師器, 陶器	54	45
B1	SB3	南北棟 棚柱	3間	6.00	2間	4.70	28.30	N16°E	0.32~0.68	0.08~0.20	2.00~2.30	2.30~2.40	土師器	55	
B1	SB4	南北棟 棚柱	3間	6.40	2間	4.50	28.80	N17°E	0.40~(1.04)	0.20~0.35	2.00~2.15	2.10~2.30	土師器, 陶器	55	
B1	SB5	南北棟 棚柱	3間	5.25	2間	4.80	25.20	N17°E	0.40~1.00	0.25~0.43	1.60~1.90	2.30~2.50		56	43

第17表 稲積天板北遺跡 柱穴一覧

建物	道床	平面形	面積(m ²)			柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	
			長さ	幅	深さ									
SA1	SP804	楕円	0.50	0.43	0.28	柱根							56	45
	SP805	楕円	0.52	0.48	0.29	柱根							56	45
	SP806	楕円	0.54	0.44	0.22								56	
	SP808	楕円	0.71	(0.66)	0.28								56	
	SP809	楕円	0.48	0.44	0.15								56	
SB1	SP578	不要	0.86	0.44	0.34	柱根							54	44
	SP584	円	0.36	0.34	0.13	柱根							54	
	SP585	円	0.28	0.28	0.19	柱根							54	44
	SP588	円	0.42	0.40	0.48	柱根							54	44
	SP599	円	0.44	0.40	0.29	柱根							54	
SB2	SP618	楕円	0.48	0.48	0.10	土師器							>SK617	54
	SP621	楕円	0.48	0.35	0.22	土師器(43)	須恵器						54	
	SP629	不要	0.42	(0.28)	0.18								>SK630	54
	SP632	不整	0.48	0.40	0.10	須恵器							54	
	SP635	円	0.34	0.32	0.23								54	
SB3	SP638	円	0.64	0.54	0.52								<SK637	54
	SP640	円	0.36	0.28	0.13								54	
	SP644	円	0.24	0.20	0.27								54	
	SP647	楕円	0.48	0.40	0.18								54	
	SP660	不要	0.60	0.48	0.10								55	
SB4	SP663	不整	0.44	0.32	0.08								55	
	SP665	円	0.50	0.48	0.08								55	
	SP668	円	0.40	0.38	0.11								55	
	SP669	円	0.48	0.44	0.20								55	
	SP672	楕円	0.44	0.40	0.16								55	
SB5	SP677	楕円	0.52	0.36	0.12								55	
	SP683	円	0.36	(0.32)	0.16								55	
	SP684	不整	0.68	0.52	0.20	土師器							55	
	SP723	円	0.48	0.40	0.20								55	
	SP724	不整	0.52	0.48	0.35	土師器, 須恵器(44)							55	
SB6	SP725	楕円	0.88	0.52	0.32								55	
	SP726	不要	(1.04)	0.48	0.22								55	
	SP740	不整	0.52	0.44	0.20								55	
	SP741	円	0.48	0.48	0.20								55	
	SP748	楕円	0.64	0.48	0.30								56	
SB7	SP750	円	1.00	0.68	0.36								56	
	SP758	不整	0.82	0.52	0.43								56	
	SP760	不整	0.74	0.56	0.38								56	
	SP762	楕円	0.68	0.54	0.30								56	
	SP768	楕円	0.64	0.48	0.25								56	
SB8	SP781	不整	0.52	0.44	0.29								56	
	SP783	不整	0.72	0.48	0.34								56	
	SP790	円	0.46	0.40	0.30								56	

第18表 稲積天板北遺跡 溝・自然流路一覧

造構	種類	規模(m)			出土遺物	時期	特記事項	切り合い	伸縮	写真 回数
		長さ	幅	深さ						
SD30	溝	2.80	0.40		土師器, 陶器, 越中板瓦(434), 唐津, 伊万里, 打製石斧, 刻銘石斧, 鋸鐵	近畿~	>SD50	50/53 59		
SD50	自然流路	不明	0.90		土師器(5~32), 陶器(32~40), ニチユウ土器, 細塗土器(41~42), 丹波, 釋迦, 板瓦(51/1512), 丹形板, 埴輪, 加工木材, 加工木棒, 木棒(522), 板瓦(532~547), 石軒(547), 製石斧, 打製石斧(524), 鋸切石具(537)	古墳時代後期 ~古代	<SD30	50/53 44		
SD209	溝	3.58	0.40		土師器(451~454), 陶器(455~460), 丹波(455~456), 鎌前, 鮎中板瓦, 肥前陶器(457~459), 肥前陶器(458), 唐津, 伊万里, 丹形板(508~509), 植輪板, 丹形板(510), 石軒(523), 製石斧, 鋸鐵(538)	近畿~	>SD860	50/59		
SD717	溝	7.24/5.32/ 12.31/3.28/ 2.16/2.64	0.40/0.52/ 0.50/0.44/ 0.62/0.56		土師器(128~129), 陶器(130~131), 黑色土器(132~134), 製陶土器(140~141), 中世土師器, 中国青瓷(146), 丹口(490~492), 木材, 刻銘石斧, 唐津, 唐	古代			50/57 44	
SD850	溝	4.14/1.25	0.46/0.10		土師器(148~149), 陶器(142~147), 製陶土器?	古代		<SD200	50/57 45	

第19表 稲積天板北遺跡 井戸一覧

造構	平面形	規模(m)			出土遺物	時期	特記事項	切り合い	伸縮	写真 回数
		長さ	幅	深さ						
SE716	円	1.20	1.04	0.72	土師器, 陶器(45), 井戸枠, 丹形板	古代				58 44

第20表 稲積天板北遺跡 土坑一覧

造構	平面形	規模(m)			出土遺物	時期	特記事項	切り合い	伸縮	写真 回数
		長さ	幅	深さ						
SK137	不規	0.86	0.84	0.50	土師器, 陶器	古代				58
SK301	円	0.30	0.30	0.34		古代				56
SK410	不規	0.35	0.30	0.09		古代				55
SK511	椭円	0.92	0.58	0.20	陶器(47)	古代				58
SK517	椭円	1.12	0.64	0.21	土師器, 陶器	古代				58
SK524	椭円	0.84	0.78	0.23	土師器, 陶器	古代				58
SK529	不規	1.08	(0.60)	0.20	土師器, 陶器	古代				58
SK539	円	0.60	0.44	0.36	陶器(46)	古代				51
SK617	円	0.25	(0.25)	0.24		古代		<SP618(S42)		54
SK628	円	0.24	0.22	0.15	土師器(48)	古代				
SK630	不規	0.40	(0.30)	0.23		古代		<SP629(S42)		54
SK637	円	(0.36)	(0.30)	0.18		古代		>SP638(S42)		54
SK643	円	0.26	0.25	0.10		古代				54
SK709	椭円	0.48	0.36	0.42	繩文土器(7)	縄文~古墳				53 44
SK849	不規	2.76	(1.42)	0.15	土師器, 陶器(49)	古代~				58 45

第21表 稲積天板北遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(1)

測定番号	形状	尺度	測定点	種類	形相	口径	高さ	底径	時間	評価基準	出土の特徴	経年	備考
60	I-66 B1	S109	施塗	圓筒	深井	110	16.0	30Y86/2	[1-3]A 黄褐色	砂粒			
2	2-66 B1	X1-62/148/149/150	施塗	圓文上唇	深井	90	16.0	30Y86/3	[1-3]A 黄褐色	砂粒			
3	2-62 B1	X1-62/148/149/150	施塗	圓文上唇	深井	96	16.0	30Y86/4	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒・骨片			
4	2-66 B2	X1-62/148/149/150	施塗	圓文上唇	深井	21.0	16.0	30Y86/2	[1-3]A 黄褐色	砂粒・石英			
5	33 A	S109	X011/196/197	土罐	要	17.4	16.0	30Y86/2	[1-3]A 黄褐色	砂粒・骨片			
6	46 A	S109	X011/151/152	土罐	要	17.8	16.0	30Y86/4	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒・骨片			
7	23 A	S109	X021/148/149/150	土罐	要	19.8	16.0	30Y86/3	[1-3]A 黄褐色	砂粒			
8	33 A	S109	X031/151/152	土罐	要	22.6	16.0	30Y86/3	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒・骨片			
9	33 A	S109	X067/146/147	土罐	要	14.5	16.0	30Y86/3	[1-3]A 黄褐色	砂粒・骨片			
10	53 A	S109	X035/150/151	土罐	要	21.6	16.0	30Y86/6	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒・骨片			
11	53 A	S109	X031/151/152	土罐	要	21.6	16.0	30Y86/6	[1-3]A 黄褐色	砂粒・骨片			
12	A	S109	X031/150/151/152	土罐	要	9.9	9.7	30Y86/2	[1-3]A 黄褐色	砂粒			
13	46 A	S109	X021/149/150/151	土罐	要	8.0	8.5	30Y86/2	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒・骨片			
14	46 A	S109	X031/150/151/152	土罐	要	7.7	8.0	30Y86/2	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒・骨片			
15	36 A	S109	X031/150/151/152	土罐	要	4.5	8.0	30Y86/2	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒・骨片			
16	47 A	S109	X031/150/151/152	土罐	要	20.2	16.0	30Y86/2	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒・骨片			
17	61 A	S109	X071/143	土罐	高杯	12.6	16.0	30Y86/2	[1-3]A 黄褐色	砂粒			
18	22 A	S109	X031/147/148	土罐	高杯	13.0	16.0	30Y86/2	[1-3]A 黄褐色	砂粒			
19	32 A	S109	X031/150/151/152	土罐	高杯	7.7	16.0	30Y86/4	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒・骨片			
20	32 A	S109	X081/145/146	土罐	高杯	4.5	16.0	30Y86/4	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒・骨片			
21	32 A	S109	X031/145/146/147	土罐	高杯	1.4	11.0	30Y86/2	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒			
22	32 A	S109	X031/149/150	土罐	高杯	9.8	2.4	30Y86/2	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒			
23	63 A	S109	X031/147/148	土罐	高杯	11.2	3.6	30Y86/2	[1-3]A 黄褐色	砂粒			
24	22 A	S109	X031/150/151/152	土罐	高杯	12.8	6.0	30Y86/6	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒			
25	23 A	S109	X081/145/146	土罐	高杯	12.6	4.2	30Y86/6	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒			
26	A	S109	X081/145/146/147	土罐	高杯	14.9	4.6	30Y86/6	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒			
27	47 A	S109	X031/149/150	土罐	高杯	13.8	4.8	30Y86/4	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒			
28	37 A	S109	X031/148/149	土罐	高杯	12.6	4.2	30Y86/4	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒			
29	A	S109	X031/147/148	土罐	高杯	14.8	4.2	30Y86/4	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒			
30	33 A	S109	X031/150/151/152	土罐	高杯	14.8	4.2	30Y86/4	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒			
31	33 A	S109	X031/150/151/152	土罐	高杯	11.8	4.2	30Y86/4	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒			
32	33 A	S109	X031/150/151/152	土罐	高杯	14.8	6.7	30Y86/4	[1-3]A 黄褐色	砂粒・砂粒			
33	47 A	S109	X031/148/149	土罐	高杯	11.3	3.2	30Y86/6	[1-3]A 黄褐色	砂粒			
34	36 A	S109	X031/150/151/152	土罐	高杯	12.4	6.0	30Y86/7	[1-3]A 黄褐色	砂粒			
35	37 A	S109	X031/150/151/152	土罐	高杯	37.0	16.0	30Y86/7	[1-3]A 黄褐色	砂粒			
36	A	S109	X031/148/149	土罐	高杯	10.8	16.0	30Y86/7	[1-3]A 黄褐色	砂粒			

第21表 稲積天板北遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(2)

種別	遺物名	形質	出土位置	種類	器種	口径	高さ	法寸(cm)	目録	詳細時期	新土色調	出土の特徴	種類	備考
61	J7	A	S016	X031148c-1層 X031149c-1層	直筒型 直筒型	件A	12.2	4.3	10177.2	灰白色	砂粒			
38	54	A	S016	X031152	直筒型 直筒型	件A	16.0	5.0	7C-	灰黄色	砂粒			
39	60	A	S016	X031152	直筒型 直筒型	件A	20.0	5.0	NS-9	灰黄色	砂粒			
40	47	A	S016	X031156c-1層 X031156c-1層	直筒型 直筒型	件A	7.8	2.4	70	古代	灰褐色手	灰白色	砂粒	
41	62	A	S016	X031156	直筒型 直筒型(2)	件A	15.6	5.0	7C-	灰白色	砂粒			
42	62	A	S016	X031156b層	直筒型 直筒型(2)	件A	15.6	5.0	31398.2	灰白色	砂粒			
43	47	B1	S021	X041150b層	直筒型 直筒型	件A	16.0	5.0	5187.8	褐色	砂粒			
44	30	B1	S024		直筒型 直筒型	件A	15.7	5.0	NS-0	灰色	砂粒			
45	31	B1	S027.16		直筒型 直筒型	件A	12.3	5.0	2576.1	灰白色	砂粒			
46	31	B1	S027.19		直筒型 直筒型	件A	17.6	5.0	37.0	灰白色	砂粒			
47	31	B1	S027.51		直筒型 直筒型	件B	13.2	3.5	SPHs.2	青灰色	砂粒			
48	31	B1	S028.08		直筒型 直筒型	件A	16.0	5.0	WY86.2	灰白色	砂粒			
49	32	B1	S028.459		直筒型 直筒型	件A	12.2	3.7	31372.2	灰白色	砂粒			
50	34	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	>16.0	5.0	NS-0	灰色	砂粒			
51	34	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	13.2	5.0	2576.1	灰白色	砂粒			
52	34	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	2.4	2.8	古代	灰白色	砂粒			
53	34	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	13.9	5.0	2577.4	灰白色	砂粒			
54	37	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	14.5	5.0	NS-0	灰色	砂粒			
55	34	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	>14.5	5.0	356.0	灰色	砂粒			
56	35	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	15.1	5.0	30	古代	白色彩砂-合符	白色	砂粒	
57	35	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	10.8	5.0	WY86.2	灰白色	砂粒			
58	36	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	11.6	2.9	古代	NS-0	白色			
59	36	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	11.7	3.2	2578.2	灰白色	砂粒			
60	47	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	11.8	3.6	56.0	灰色	砂粒			
61	36	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	11.8	3.4	古代	356.0	灰色			
62	36	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	11.9	3.1	古代	灰白色	白色彩砂-合符	白色	砂粒	
63	36	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	11.6	3.2	古代	NS-0/1	白色			
64	47	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	12.4	2.5	古代	NS-0	白色			
65	36	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	12.5	2.7	2577.4	灰白色	砂粒			
66	36	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	12.7	2.9	古代	NS-0	白色			
67	36	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	12.4	3.2	2577.4	灰白色	砂粒			
68	36	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	12.5	3.0	57.0	灰白色	砂粒			
69	47	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	12.6	3.6	357.0	灰白色	砂粒			
70	47	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	12.3	3.0	56.0	灰白色	砂粒			
71	36	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	12.4	3.3	SPHs.2	青灰色	砂粒			
72	36	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	12.9	3.2	2577.4	灰白色	砂粒			
73	36	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	12.8	3.1	2576.4	灰白色	砂粒			
74	36	B1	S027.17	EK	直筒型 直筒型	件A	12.8	3.3	古代	NS-0	灰色			

第21表 稲積天板北遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(3)

測定番号	測定番号	形状	直径	高さ	幅	厚さ	距離(m)	測量時期	鉄土色調	出土の特徴	相容	備考	
底径	高さ	直径	底高	底深	時間								
62 25	B1	S0717 AK BK	角筒形	円筒	13.2	3.2	80	古代	84.0	灰褐色	手取川帯付		
76 36	B1	S0717 BK	角筒形	円筒	13.1	2.3	古代	25/7/1	灰白色		移位		
77 38	B1	S0717 CK BK	角筒形	円筒	13.3	2.7	古代	35.0	灰褐色		移位		
78	B1	S0717 BK	角筒形	円筒	14.4	2.7	古代	25/7/1	灰白色		移位		
79	B1	S0717 BK	角筒形	円筒	15.0	2.8	古代	25/6/2	灰褐色		移位・帶付		
80 36	B1	S0717 FK	角筒形	円筒	15.2	2.4	古代	36.0	灰褐色		手取川帯付		
81	B1	S0717 EK	角筒形	圓筒	15.5	2.5	古代	JOC	NS-0	灰色	移位		
82	B1	S0717 X131Y1000	角筒形	圓筒	16.0	2.6	古代	30/9/3	12.5m.青褐色		外気田帶付		
83 38	B1	S0717 EK	角筒形	円筒	13.3	2.7	古代	75/7/1	灰色	白色・移位	外気田帶付		
84 38	B1	S0717	角筒形	円筒	14.2	3.4	古代	576.1	灰色	白色・移位	外気田帶付		
85 36	B1	S0717 BK	角筒形	円筒	16.8	2.8	古代	576.1	白色	白色・移位	外気田帶付		
86 38	B1	S0717 FK	角筒形	円筒	12.1	5.0	71	古代	25/7/1	灰白色	白色		
87 38	B1	S0717 BK X124	角筒形	円筒	11.4	4.8	75	古代	576.1	灰色	白色・移位・合計		
88 38	B1	S0717	角筒形	円筒	11.6	3.9	74	古代	36.0	灰色	移位		
89	B1	S0717	角筒形	円筒	11.6	6.4	84	古代	36.0	灰色	白色・移位		
90	B1	S0717 FK	角筒形	円筒	13.9	6.2	93	古代	36.0	灰色	移位		
91 37	B1	S0717 AK	角筒形	円筒	17.4	6.6	102	古代	36.0	灰白色	白色・移位		
92 37	B1	S0717	角筒形	円筒	16.2	4.7	102	古代	37.0	灰白色	移位		
93 37	B1	S0717 GK	角筒形	円筒	10.3	4.3	79	古代	36.0	灰色	白色・黑色・移位		
94 37	B1	S0717 BK	角筒形	円筒	10.6	4.4	73	古代	36.0	灰色	白色・黑色・移位		
95 37	B1	S0717 GK X124	角筒形	円筒	11.5	3.6	73	古代	35.0	灰色	移位		
96 37	B1	S0717 BK	角筒形	円筒	12.3	4.8	77	古代	30/7/2	12.5m.青褐色		外気田帶付	
97	B1	S0717	角筒形	円筒	16.8	2.8	古代	84.0	灰色	白色	白色・移位		
98 38	B1	S0717 EK	角筒形	円筒	8.0	1.8	80	古代	37/7/1	灰白色	白色・黑色・移位	外気田帶付	
99 38	B1	S0717 AK	角筒形	円筒	7.1	1.8	71	古代	25/7/1	灰白色	白色	外気田帶付	
100 38	B1	S0717	角筒形	円筒	7.2	1.8	81	古代	25/7/1	灰白色	白色	外気田帶付	
101 38	B1	S0717 FK	角筒形	円筒	8.1	1.8	81	古代	576.1	灰白色	白色	外気田帶付	
102 38	B1	S0717	角筒形	円筒	8.0	1.8	81	古代	576.1	灰白色	白色	外気田帶付	
103 40	B1	S0717 FK	角筒形	円筒	13.9	1.8	81	古代	36.0	灰白色	白色・黑色・移位	外気田帶付	
104 40	B1	S0717 BK	角筒形	円筒	13.0	1.8	81	古代	25/7/1	灰白色	白色	外気田帶付	
105 40	B1	S0717 BK	角筒形	円筒	12.0	1.8	81	古代	87.0	灰白色	移位		
106 48	B1	S0717 CK	角筒形	圓筒	9.0	1.8	76	古代	36.0	白色	白色		
107 48	B1	S0717 FK	角筒形	圓筒	11.6	1.8	76	古代	36.0	白色	白色		
108 40	B1	S0717 CR	角筒形	圓筒	20.1	1.8	76	古代	36.0	白色	白色		
109 49	B1	S0717 BK	角筒形	圓筒	21.5	1.8	76	古代	35.0	白色	白色		
110 60	B1	S0717 FK	角筒形	圓筒	21.0	1.8	76	古代	75/5/1	白色			
111 61	B1	S0717 CK BK	角筒形	圓筒	20.0	1.8	76	古代	576.1	白色			

第21表 稲積天板北遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(4)

測定番号	遺物名	測定名	直徑	出土点	種類	形態	口径	高さ	法長(cm)	時間	計量時期	新土色調	出土の特徴	相関	備考
64	LJ2 48	II	S0717	AK	BK	角切器	要	13.0	20.5	古代	N6.0	灰色	白色粘土色		
LJ2 48	III	S0717	GK	X123Y12Z	角切器	要	24.0	古代	N6.0	灰色	白色粘土色	黑色粘土色			
LJ4 39	II	S0717	AK	BK	角切器	要	11.6	古代	5Y7.1	灰白色	黑色粘土色	黑色粘土色			
LJ5 48	II	S0717	AK	FK	角切器	要	7.5	古代	N5.0	灰色	黑色粘土色	黑色粘土色			
LJ6 39	II	S0717	AK	FK	角切器	要	10.3	古代	N5.0	灰色	黑色粘土色	黑色粘土色			
LJ7 39	II	S0717	AK	FK	角切器	要	10.0	古代	N5.0	灰色	黑色粘土色	黑色粘土色			
65	LJ8	II	S0717	FK	土罐	陶	11.0	古代	3Y5R6.4	12.5cm黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ9	II	S0717	DK	土罐	陶	12.0	古代	4.5	7.5Y8R7.4	12.5cm黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ9 33	II	S0717	FK	土罐	陶	11.3	3.4	5.6	古代	5Y7.6	12.5cm黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ7	II	S0717	FK	土罐	陶	11.6	4.0	4.8	古代	7.5Y8R7.4	12.5cm黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ2 43	II	S0717	DK	土罐	陶	11.6	4.0	5.9	古代	7.5Y8R7.4	12.5cm黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ2 43	II	S0717	DK	土罐	陶	11.6	4.0	6.0	古代	25Y8R6.6	12.5cm黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ9	II	S0717	DK	土罐	陶	10.7	3.9	5.7	古代	5Y8R7.3	12.5cm黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ8 33	II	S0717	DK	土罐	陶	11.6	3.9	5.4	古代	5Y8R7.4	12.5cm黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ7 33	II	S0717	DK	土罐	陶	11.6	3.9	5.0	古代	5Y8R7.6	12.5cm黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ8	II	S0717	DK	土罐	陶	13.6	3.4	6.0	古代	3Y5R7.3	12.5cm黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ9	II	S0717	DK	土罐	陶	12.0	3.4	6.0	古代	3Y5R7.3	12.5cm黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ7 33	II	S0717	FK	土罐	陶	15.9	6.4	5.8	古代	5Y8R7.6	浅黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ7 61	II	S0717	DK	黑土上罐	陶	19.2	古代	5.6	古代	3Y5R7.2	浅黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ8 61	II	S0717	FK	黑土上罐	陶	20.0	古代	5.6	古代	3Y5R7.3	12.5cm黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ5 43	II	S0717	DK	土罐	陶	15.6	3.4	5.6	古代	5Y8R7.6	浅黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ8 33	II	S0717	DK	土罐	陶	17.4	3.4	5.6	古代	3Y5R7.4	浅黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ7 33	II	S0717	DK	土罐	陶	17.6	3.4	5.6	古代	3Y5R7.6	浅黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ7 61	II	S0717	DK	黑土上罐	陶	18.0	6.4	6.8	古代	3Y5R8.3	浅黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ8 61	II	S0717	DK	黑土上罐	陶	19.2	6.4	6.8	古代	3Y5R8.3	浅黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ5 43	II	S0717	DK	土罐	陶	20.0	6.4	6.8	古代	3Y5R8.4	浅黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ8 33	II	S0717	DK	土罐	陶	20.0	6.4	6.8	古代	3Y5R8.4	浅黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ7 33	II	S0717	DK	土罐	陶	20.0	6.4	6.8	古代	3Y5R8.4	浅黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ8 33	II	S0717	DK	土罐	陶	20.0	6.4	6.8	古代	3Y5R8.4	浅黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ7 32	II	S0717	DK	土罐	陶	20.0	6.4	6.8	古代	3Y5R8.4	浅黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
LJ9 62	II	S0717	DK	黑土上罐	陶	20.0	6.4	6.8	古代	3Y5R8.4	浅黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
HJ 62	II	S0717	DK	黑土上罐	陶	20.0	6.4	6.8	古代	3Y5R8.4	浅黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	
66	LJ7 48	II	S0717	X171Y172	角切器	要	12.0	4.3	古代	7.5Y8R7.1	浅黄色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	米灰土色
LJ7 36	II	S0717	X165Y171	角切器	要	12.0	3.6	古代	N7.0	灰白色	白色粘土色	白色粘土色	白色粘土色	白色粘土色	
LJ4 36	II	S0717	X165Y171	角切器	要	11.3	5.1	9.0	古代	N6.0	灰白色	白色粘土色	白色粘土色	白色粘土色	白色粘土色
LJ5 32	II	S0717	X171Y172	角切器	要	11.6	4.8	8.6	古代	N6.0	灰白色	白色粘土色	白色粘土色	白色粘土色	白色粘土色
LJ6 61	II	S0717	X165Y171	角切器	要	2.0	古代	2.0	25Y7.1	灰白色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	米灰土色	

第21表 稲積天板北遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(5)

測定番号	形状	尺度	出土地点	種類	形態	口径	高さ	底径	時間	評価基準	鉄土色調	出土の特徴	相容	備考
60	円筒	SD60	X171Y172	直筒	直筒	5.8			古代	古墳-古墳-古墳-	N6.0	灰白色	鉄	
168	T2	SD650	X174Y172	土器	直筒				古墳-古墳-古墳-	BYR2/3	土器			外縁火文
169	T2	SD650	X158Y170	土器	直筒	19.8			古墳-古墳-古墳-	BYR2/1	黑色			
170	A	X159Y170	X141Y170	直筒	直筒	11.3			古墳-古墳-古墳-	BYR2/2	灰白色			
171	B1	X157Y185	X157Y185	直筒	直筒	11.2			古墳-古墳-古墳-	BYR2/3	灰白色			
172	A	X133Y143	X133Y143	直筒	直筒	9.9			古墳-古墳-古墳-	BYR2/1	黑色			
173	T2	X141Y177	X141Y177	直筒	直筒	9.9			古墳-古墳-古墳-	BYR2/2	灰白色			
174	T2	X132Y178	X132Y178	直筒	直筒	11.0			古墳-古墳-古墳-	BYR2/3	灰白色			
175	B1	X125Y135	X125Y135	直筒	直筒	8.8			古墳-古墳-古墳-	BYR2/1	黑色			
176	A	X125Y135	X125Y135	直筒	直筒	8.9			古墳-古墳-古墳-	BYR2/2	灰白色			
177	B1	X136Y166	X136Y166	直筒	直筒	12.7			古墳-古墳-古墳-	BYR2/3	灰白色			
178	B1	X137Y156	X137Y156	直筒	直筒	10.6			古墳-古墳-古墳-	BYR2/1	黑色			
179	B1	X137Y156	X137Y156	直筒	直筒	17.9			古墳-古墳-古墳-	BYR2/2	灰白色			
180	B1	X126Y154	X126Y154	直筒	直筒	15.1			古墳-古墳-古墳-	BYR2/3	灰白色			
181	B1	X128Y156	X128Y156	直筒	直筒	15.3			古墳-古墳-古墳-	BYR2/1	黑色			
182	B1	X162Y156	X162Y156	直筒	直筒	19.1			古墳-古墳-古墳-	BYR2/2	灰白色			
183	B1	X145Y179	X145Y179	直筒	直筒	25			古墳-古墳-古墳-	BYR2/3	灰白色			
184	B1	X123Y134	X123Y134	直筒	直筒	22.0			古墳-古墳-古墳-	BYR2/1	黑色			
185	A	X167Y133	X111Y132	直筒	直筒	22.5			古墳-古墳-古墳-	BYR2/2	灰白色			
186	B1	X171Y180	X171Y180	直筒	直筒	24			古墳-古墳-古墳-	BYR2/3	灰白色			
187	B1	X125Y134	X125Y134	直筒	直筒	22.8			古墳-古墳-古墳-	BYR2/1	黑色			
188	B1	X148Y138	X148Y138	直筒	直筒	23			古墳-古墳-古墳-	BYR2/2	灰白色			
189	B1	X160Y156	X160Y156	直筒	直筒	12.5			古墳-古墳-古墳-	BYR2/3	灰白色			
190	A	X127Y156	X115Y131	直筒	直筒	26			古墳-古墳-古墳-	BYR2/1	黑色			
191	B1	X159Y166	X159Y166	直筒	直筒	13.1			古墳-古墳-古墳-	BYR2/2	灰白色			
192	B1	X171Y180	X171Y180	直筒	直筒	14			古墳-古墳-古墳-	BYR2/3	灰白色			
193	B1	X148Y138	X148Y138	直筒	直筒	13.3			古墳-古墳-古墳-	BYR2/1	黑色			
194	B1	X160Y156	X160Y156	直筒	直筒	13.3			古墳-古墳-古墳-	BYR2/2	灰白色			
195	B1	X127Y156	X115Y131	直筒	直筒	20			古墳-古墳-古墳-	BYR2/3	灰白色			
196	A	X127Y156	X115Y131	直筒	直筒	13.6			古墳-古墳-古墳-	BYR2/1	黑色			
197	B1	X159Y166	X159Y166	直筒	直筒	13.5			古墳-古墳-古墳-	BYR2/2	灰白色			
198	B1	X171Y180	X171Y180	直筒	直筒	14			古墳-古墳-古墳-	BYR2/3	灰白色			

第21表 稲積天板北遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧 (6)

件名 遺物番号	形状 施釉 有無	施釉 部位	出土点 地點名	種類	形相	法寸 (cm)		目録 登録番号	新土色調	出土の特徴	種類	備考
						口徑	高等					
66 688	B1	X141Y165615 X146Y165615 等	灰陶	直口 縁	14.1	>25.8	3.3	古代	N6-0	灰色	砂粒	
69 699	B1	X141Y153515 X147Y153515 等	灰陶	直口 縁	14.1	>25.8	3.3	古代	N5-0	灰色	黑色粘砂粒	
70 71D	B1	X141Y15615 X141Y15615 等	灰陶	直口 縁	14.1	>25.8	3.3	古代	N6-0	灰色	砂粒	
71 717	B1	X139Y146915 X121Y15615 等	灰陶	直口 縁	14.1	>25.8	3.3	古代	N7-0	灰白色	砂粒	
72 722	B1	X129Y155415 X129Y155415 等	灰陶	直口 縁	14.2	>25.8	3.3	古代	N5-0	灰色	砂粒	
723 69	B2	灰土	灰陶	直口 縁	14.2	>25.8	3.3	古代	N7-0	灰白色	砂粒	
724 714	B1	X138Y15615 X132Y15615 X133Y15615 等	灰陶	直口 縁	14.6	>25.8	2.3	古代	577-1	灰白色	砂粒	
725 715	B1	X132Y15715 等	灰陶	直口 縁	14.6	>25.8	2.6	古代	N6-0	灰色	砂粒	
726 711	B1	X139Y15715 X139Y15715 等	灰陶	直口 縁	14.5	>25.8	3.2	古代	N6-0	灰色	白色粘黑色粘砂粒	
727 717	B1	X145Y16315 等	灰陶	直口 縁	14.7	>25.8	4.1	古代	N6-0	灰色	砂粒	
67 728	A	X119Y16215 X130Y16215 X130Y16215 等	灰陶	直口 縁	14.4	>25.8	3.1	古代	N8-0	白色	白色粘砂粒	
729 69	B2	X132Y175015 等	灰陶	直口 縁	14.7	>25.8	3.1	古代	N7-0	灰白色	白色粘砂粒-骨片	
680 689	B1	X142Y15615 X149Y15615 等	灰陶	直口 縁	14.4	>25.8	3.1	古代	7576-1	灰色	白色粘砂粒	
681 687	B1	X130Y16315 等	灰陶	直口 縁	14.7	>25.8	3.1	古代	2577-1	灰白色	砂粒	
682 687	A	X115Y12315 X117Y13415 等	灰陶	直口 縁	11.9	>25.8	3.1	古代	7577-1	灰白色	白色粘砂粒-骨片	
687 688	B1	X134Y15615 等	灰陶	直口 縁	14.9	>25.8	3.1	古代	N6-0	灰色	砂粒	内凹型底
689 694	B1	X135Y15515 等	灰陶	直口 縁	15.0	>25.8	3.9	古代	2577-1	灰白色	白色粘砂粒-骨片	
685 685	B1	X132Y16115 X165Y17615 等	灰陶	直口 縁	15.2	>25.8	3.3	古代	N8-0	灰白色	白色粘砂粒	通孔说 内凹型底
686 682	B2	X165Y17115 等	灰陶	直口 縁	15.0	>25.8	3.4	古代	577-1	灰白色	白色粘砂粒-骨片	

第21表 稲積天板北遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(7)

測定番号	写真 調査名	着目 目立地點	柱相	形状	口径 直径	高さ 底径	時間	評価時期	鉄土色調	出土の特徴	相容	備考	
67	187 54	H1	X120Y154E154W X136Y154E154W X127Y153E153W	瓶形器	直	11.8 >25.8 29	1.6	古代	N7.0	灰白色	白色粘・砂粒		
188 49	H2	X130Y178E154W	瓶形器	直	>24.0 29	15.1	2.5	古代	N7.0	灰白色	白色粘・砂粒・骨片		
189 49	H1	X130Y153E153W	瓶形器	直	>25.8 30	11.7	古代	N7.0	灰白色	白色粘			
190	B1	X130Y156E156W	瓶形器	直	>25.8 26	14.7	2.3	古代	25Y6.1	黄灰色			
191	B1	X145Y162E156W X143Y166E156W	瓶形器	直	>25.8 29	15.0	1.9	古代	N6.0	灰白色			
192	H1	X144Y161	瓶形器	直	>25.8 3.5	15.1	2.3	古代	N6.0	灰白色	白色粘・砂粒		
193	B1	X145Y163E156W	瓶形器	直	>25.8 26	15.4	2.5	古代	25Y7.2	灰黄色	白色粘		
194	B1	X120Y162E156W	瓶形器	直	>25.8 3.5	15.6	2.5	古代	N7.0	灰白色	白色粘・砂粒		
195	B1	X136Y161E154W X129Y164E154W	瓶形器	直	>25.8 3.5	15.4	2.7	古代	N7.0	灰白色	砂粒		
196	B1	X123Y156E156W	瓶形器	直	>25.8 3.2	15.7	1.8	古代	N6.0	灰白色	白色粘・砂粒		
197	H2	X138Y170E156W	瓶形器	直	>25.8 3.1	15.8	2.0	古代	N6.0	灰白色	白色粘・黑色粘・砂粒	1.1.4.4	
198	H2	X167Y174E156W	瓶形器	直	16.0	1.6	古代	10Y6.1	灰白色	白色粘・砂粒			
199 55	H1	X130Y155E155W	瓶形器	直	16.5	1.6	古代	N6.0	灰白色		内凹型底		
200 49	H2	X167Y175E156W	瓶形器	直	>25.8 2.2	16.5	2.9	古代	N8.0	灰白色	白色粘・黑色粘・砂粒		
201 54	H2	X163Y171E156W X164Y171E156W X165Y171E156W 上部	瓶形器	直	>25.8 2.2	17.2	2.5	古代	N8.0	灰白色	白色粘・砂粒・含沙		
202	H1	X132Y161E156W	瓶形器	直	18.2				5Y7.1	灰白色			
203	B1	X148Y156E156W X150Y156E156W	瓶形器	直	18.0				25GY7.1	明ホーリー灰白色	白色粘・砂粒		
66	294 55	H1	X130Y156E156W X130Y144E156W	瓶形器	直	>25.8 3.2	15.0	2.5	N6.0	灰白色	砂粒		
205 36	H1	X120Y153E153W X125Y153E153W	瓶形器	直	>25.8 3.4	15.8	3.3	古代	5Y7.1	灰白色	白色粘・砂粒	内凹・V字型切口	

第21表 稲積天板北遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(8)

種別 用具番号	遺物 名	地名	遺構	出土点	種類	器種	口径 ×深さ cm	法寸 等高 cm	直径 cm	時間	新土色調		出土の特徴	種類	備考
											内面	外縁			
68 296	灰 B1	X131V1545瓦 X132V1562瓦 Y1561561瓦	灰	灰	直口 縁	直口 縁	11.1 ×2.4	2.7	古代	25G1Y1	オリーブ灰色	砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
297 355	灰 B2	X166V1758-中層	灰	灰	直口 縁	直口 縁	3.0	古代		N7.0	灰白色	砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
298 355	灰 B1	X125V1561瓦	灰	灰	直口 縁	直口 縁	3.5		古代	N6.0	灰色	砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
299 355	灰 B1	X127V1562瓦 X128V1573瓦 X131V1562瓦	灰	灰	直口 縁	直口 縁	11.8 ×2.4	3.9	古代	N6.0	灰色	白色砂・砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
310 355	灰 B1	X127V1563瓦 X147V1565瓦 X149V1606瓦	灰	灰	直口 縁	直口 縁	15.8		古代	57Y7.1	灰白色	白色砂・砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
311 355	灰 B1	X130V1562瓦	灰	灰	直口 縁	直口 縁	12.9		古代	N6.0	灰色	砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
312 355	灰 B1	X135V1563瓦	灰	灰	直口 縁	直口 縁	12.6		古代	N6.0	灰色	砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
313 355	灰 B2	X138V1758-瓦層	灰	灰	直口 縁	直口 縲	2.2		古代	57Y6.2	灰褐色	砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
314 355	灰 B1	X141V1563瓦	灰	灰	直口 縁	直口 縲	12.7		古代	75Y8E-2	灰褐色	白色砂・白色粘土		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
315 355	灰 B1	X143V1563瓦	灰	灰	直口 縲	直口 縲	2.4		古代	75Y7.1	灰白色	白色砂・砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
316 355	灰 B1	X132V1562瓦	灰	灰	直口 縲	直口 縲	2.3		古代	75Y5.1	灰色	白色砂・砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
317 355	灰 B1	X137V1562瓦	灰	灰	直口 縲	直口 縲	3.3		古代	25G1Y1	オリーブ灰色	白色砂・砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
318 355	灰 B2	X161V1760-上層	灰	灰	直口 縲	直口 縲	1.8		古代	N6.0	灰色	白色砂・砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
319 355	灰 B1	X129V1562瓦	灰	灰	直口 縲	直口 縲	2.8		古代	N6.0	灰色	砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
320 355	灰 B1	X131V1562瓦	灰	灰	直口 縲	直口 縲	1.6		古代	N6.0	灰色	砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
321 355	灰 B1	X145V1562瓦	灰	灰	直口 縲	直口 縲	1.9		古代	N6.0	灰色	白色砂・砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
322 355	灰 B1	X149V1606-上層	灰	灰	直口 縲	直口 縲	3.4		古代	35G1	燧灰色	砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
323 355	灰 B1	X151V1562瓦	灰	灰	直口 縲	直口 縲	1.0		古代	N4.0	灰色	砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
324 355	灰 B1	X142V1562瓦	灰	灰	直口 縲	直口 縲	2.3		古代	25G1Y1	オリーブ灰色	砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
325 355	灰 B1	X139V1562-上層	灰	灰	直口 縲	直口 縲	2.7		古代	75Y7.1	灰白色	砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
326 355	灰 B1	X130V1562瓦層	灰	灰	直口 縲	直口 縲	2.7		古代	N7.0	灰白色	白色砂・砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
327 355	灰 B1	X135V1562瓦	灰	灰	直口 縲	直口 縲	3.0		古代	N7.0	灰白色	白色砂・砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
328 357	灰 B1	X153	灰	灰	直口 縲	直口 縲	2.8		古代	N6.0	灰色	砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
329 357	灰 B1	X136V1562瓦	灰	灰	直口 縲	直口 縲	8.0		古代	N5.0	灰色	砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
330 357	灰 B1	X148V1575瓦	灰	灰	直口 縲	直口 縲	8.5		古代	75Y7.1	灰白色	白色砂・砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
331 359	灰 B1	X145V1562瓦	灰	灰	直口 縲	直口 縲	8.0		古代	75Y7.1	灰白色	白色砂・砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス
332 359	灰 B1	X148V1562瓦	灰	灰	直口 縲	直口 縲	8.0		古代	57Y7.1	灰白色	白色砂・砂粒		内面・外縁ガラス	内面・外縁ガラス

第21表 稲積天板北遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(9)

測定番号	等級	測定番号	着目	出土地点	種類	形態	口径	断面	底径	時間	評価時期	出土色調	出土の特徴	種類	備考
70	231	34	B1	X127Y135E15W	灰土器	灰A	11.2	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	235	34	B1	X135Y136E15W	灰土器	灰A	11.8	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	236	34	B1	X135Y136E15W	灰土器	灰A	12.2	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	237	34	B1	X129Y154E15W	灰土器	灰A	11.6	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	238	34	B1	X126Y161E15W	灰土器	灰A	11.1	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	239	34	B1	X132Y161E15W	灰土器	灰A	11.1	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	240	36	B1	X144Y161E15W	灰土器	灰A	11.1	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	241	36	B1	X149Y164E15W	灰土器	灰A	11.3	8.2	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	242	36	B1	X151Y170E15W	灰土器	灰A	11.2	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	243	32	B1	X131Y171E15W	灰土器	灰A	11.2	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	244	32	B1	X132Y172E15W	灰土器	灰A	11.6	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	245	36	B1	X135Y173E15W	灰土器	灰A	11.6	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	246	36	B1	X136Y173E15W	灰土器	灰A	11.6	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	247	32	B1	X140Y175E15W	灰土器	灰A	11.8	8.4	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	248	36	B1	X162Y175E15W	灰土器	灰A	11.8	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	249	36	B1	X130Y176E15W	灰土器	灰A	11.8	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	250	32	B1	X121Y178E15W	灰土器	灰A	12.0	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	251	40	B2	X151Y178E15W	灰土器	灰A	12.0	8.4	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	252	36	B1	X135Y178E15W	灰土器	灰A	12.1	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	253	36	B1	X145Y166E15W	灰土器	灰A	12.1	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	254	36	B1	X147Y166E15W	灰土器	灰A	12.1	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	255	36	B1	X147Y167E15W	灰土器	灰A	12.1	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	256	36	B1	X147Y168E15W	灰土器	灰A	12.1	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	257	36	B1	X147Y169E15W	灰土器	灰A	12.1	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	258	36	B1	X151Y170E15W	灰土器	灰A	12.4	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	259	36	B1	X151Y170E15W	灰土器	灰A	12.4	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	260	36	B1	X144Y161E15W	灰土器	灰A	12.4	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	261	36	B1	X139Y161E15W	灰土器	灰A	12.6	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	262	36	B1	X131Y162E15W	灰土器	灰A	12.5	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	263	36	B1	X137Y163E15W	灰土器	灰A	12.9	8.5	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	264	32	B1	X139Y164E15W	灰土器	灰A	13.1	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	265	34	B1	X134Y164E15W	灰土器	灰A	12.9	8.7	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	266	34	B1	X138Y164E15W	灰土器	灰A	12.9	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	267	34	B1	X147Y165E15W	灰土器	灰A	13.0	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	268	32	B1	X134Y165E15W	灰土器	灰A	13.0	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	269	32	B1	X139Y166E15W	灰土器	灰A	13.8	8.4	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	270	36	B1	X133Y166E15W	灰土器	灰A	13.8	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	271	36	B1	X150Y168E15W	灰土器	灰A	14.4	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	272	32	B1	X154Y167E15W	灰土器	灰A	14.6	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	
	273	32	B1	X120Y168E15W	灰土器	灰A	14.6	8.0	8.0	古代	7C	灰色	白色粒状	白色粒	

第21表 稲積天板北遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(10)

編目番号	遺物名	施設名	遺構	出土点	種類	形態	口径	高さ	直径	時間	計測値		新土色調	出土の特徴	相関	備考
											底径	高さ				
71	273	B1	X320Y161501 X321Y1561501 X320Y1551501 X320Y1581501	灰窓	灰窓	灰B	9.2	3.8	5.4	古代	NS5.0		灰白色	白色粒状		
274	57	B1	X320Y1561501 X320Y1551501 X320Y1581501	灰窓	灰窓	灰B	9.6	3.4	6.4	古代	NS4.0		灰色	白色粒状		
275	57	B1	X320Y1561501	灰窓	灰B	9.9	3.1	5.0	古代	NS7.7		灰白色	白色粒状			
276	57	B1	X320Y1481501 X320Y1541501	灰窓	灰B	10.2	4.9	7.6	古代	NS6.0		灰色	白色粒状			
277	57	B1	X320Y1541501 X320Y1541501	灰窓	灰B	10.4	4.0	7.0	古代	NS5.0		灰色	白色粒状			
278	B1	X320Y161501 X320Y161501	灰窓	灰B	10.6	4.1	6.8	古代	NS7.0		灰白色	白色粒状				
279	57	B1	X320Y161501 X320Y1741501 X320Y1791501	灰窓	灰B	11.1	3.7	8.0	古代	NS7.5		灰色	白色粒状			
280	B1	X320Y1741501 X320Y1791501	灰窓	灰B	11.2	3.9	7.5	古代	NS7.7		灰白色	白色粒状				
281	B1	X320Y161501 X320Y1741501	灰窓	灰B	11.6	3.9	7.8	古代	NS6.0		明りや灰色	白色粒状				
282	B1	X320Y1741501 X320Y1791501	灰窓	灰B	11.7	3.7	8.3	古代	NS5.4		青灰色	白色粒状				
283	B1	X320Y1791501 X320Y1791501 X320Y1791501	灰窓	灰B	12.0	4.0	8.7	古代	NS4.2		灰褐色	白色粒状				
284	B1	X320Y1791501 X320Y1791501 X320Y1791501	灰窓	灰B	12.0	4.2	7.0	古代	NS5.0		灰色	白色粒状				
285	B1	X320Y1791501 X320Y1791501	灰窓	灰B	12.0	3.8	8.4	古代	NS7.0		灰白色	白色粒状				
286	B1	X320Y1791501 X320Y1791501	灰窓	灰B	12.1	3.2	9.0	古代	NS7.7		灰白色	白色粒状				
287	57	B1	X320Y1791501 X320Y1791501	灰窓	灰B	12.2	3.5	8.4	古代	NS7.0		灰白色	白色粒状			
288	58	B1	X320Y1791501 X320Y1791501	灰窓	灰B	12.7	4.0	8.7	古代	NS5.0		灰色	白色粒状			
289	B1	X320Y1791501 X320Y1791501	灰窓	灰B	12.6	3.5	8.5	古代	NS5.1		青灰色	白色粒状				
290	B1	X320Y1791501 X320Y1791501	灰窓	灰B	12.7	4.5	8.2	古代	NS7.5		灰褐色	白色粒状				
291	B1	X320Y1791501 X320Y1791501	灰窓	灰B	14.9	6.4	11.2	古代	NS5.0		灰色	颗粒状				
292	B1	X320Y1791501 X320Y1791501	灰窓	灰B	16.5	4.7	12.0	古代	NS6.0		灰色	白色粒状				
293	B1	X320Y1791501 X320Y1791501	灰窓	灰B	16.2	4.9	11.3	古代	NS5.0		灰色	白色粒状				
294	57	B1	X320Y1791501 X320Y1791501 X320Y1791501	灰窓	灰B	15.8	4.1	12.0	古代	NS8.0		灰白色	白色粒状			
295	B1	X320Y1791501 X320Y1791501 X320Y1791501	灰窓	灰B	15.8	4.5	11.2	古代	NS7.0		灰白色	白色粒状				
296	57	B1	X320Y1791501 X320Y1791501	灰窓	灰B	15.6	4.7	11.4	古代	NS7.0		灰白色	白色粒状			
297	B1	X320Y1791501 X320Y1791501	灰窓	灰B	15.6	4.6	10.2	古代	NS7.3		褐色や灰色	白色粒状				
298	B1	X320Y1791501 X320Y1791501	灰窓	灰B	15.8	4.0	11.8	古代	NS8.0		灰白色	白色粒状				
299	50	B1	X320Y1791501 X320Y1791501	灰窓	灰B											

第21表 稲積天板北遺跡 土器・陶磁器・土製品一覽(11)

測量番号	等高 (m)	測量番号	等高 m)	測量点	標柱	標柱 高さ	口径	口径 高さ	底径	時間	評議會所	鉄土色調	出土の物類	相容	備考	
72	300	B1	X138Y1396E57號	無想窓	無B	125	4.2	72	古代	N7.0	灰白色	砂粒				
			X156Y150號	無想窓	無B	131	3.9	102	古代	57.6.1	白色	白色粒				
201	B1		X157Y156號	無想窓	無B	130	4.6	79	古代	58.6.1	灰色	白色粒				
322	A	X205Y144號	無想窓	無B	129	4.3	80	古代	58.6.1	灰色	白色粒					
323	B1	X149Y164號	無想窓	無B	129	4.0	93	古代	57.7	灰色	白色粒黑色粒					
249	B1	X139Y157號	無想窓	無B	134	3.9	96	古代	59.6.1	白色	白色粒					
305	B1	X143Y169號上層	無想窓	無B	134	3.9	96	古代	59.6.1	青灰色	白色粒					
		X144Y161號上層	無想窓	無B	134	4.2	103	古代	56.6.0	灰色	白色粒					
306	E2	X139Y166號	無想窓	無B	134	4.2	103	古代	56.6.0	灰色	白色	白色粒黑色粒				
307	56	E2	X163Y171號	無想窓	無B	134	5.0	82	古代	56.6.0	灰色	白色粒黑色粒				
		X164Y171號	無想窓	無B	134	5.0	82	古代	56.6.0	灰色	白色粒					
308	B1	X143Y166號	無想窓	無B	135	3.4	89	古代	56.6.0	灰色	白色	白色粒				
309	48	E2	X171Y179號	無想窓	無B	139	4.0	97	古代	57.7	灰白色	白色粒				
		X190Y166號上層	無想窓	無B	139	4.0	97	古代	57.7	灰白色	白色	白色粒				
310	57	B1	X142Y166號	無想窓	無B	139	4.0	97	古代	25.9.8.3	淡黄色	白色				
311	36	B1	X142Y167號	無想窓	無B	136	3.7	100	古代	57.7.0	灰白色	白色粒				
		X146Y171號	無想窓	無B	136	3.7	100	古代	57.7.0	灰白色	白色粒					
312	B1	X147Y174號	無想窓	無B	135	4.0	88	古代	57.7.0	灰白色	白色粒					
		X171Y174號	無想窓	無B	135	4.0	88	古代	57.7.0	灰白色	白色粒					
313	30	B1	X124Y176號	無想窓	無B	136	3.7	90	古代	57.7.1	灰白色	白色	白色	白色		
314	50	B1	X162Y174號	無想窓	無B	134	4.0	85	古代	57.7.0	灰白色	白色	白色	白色		
315	B1	X157Y157號	無想窓	無B	138	4.5	92	古代	57.7.0	灰白色	白色	白色	白色			
		X158Y156號	無想窓	無B	138	4.5	92	古代	25.9.8.1	中灰-深灰色	白色	白色	白色			
316	B1	X126Y156號	無想窓	無B	138	3.5	100	古代								
		X130Y163號	無想窓	無B	138	3.5	100	古代								
		X141Y163號	無想窓	無B	138	3.5	100	古代								
317	B1	X147Y165號	無想窓	無B	139	4.2	96	古代	7.5.7.1	灰白色	白色	白色	白色			
		X144Y168號上層	無想窓	無B	139	4.2	96	古代	7.5.7.1	灰白色	白色	白色	白色			
		X130Y166號下層	無想窓	無B	140	4.0	104	古代	57.7.1	灰白色	白色	白色	白色			
318	58	B1	X136Y170號	無想窓	無B	140	4.0	104	古代	57.7.1	灰白色	白色	白色	白色		
		X136Y170號	無想窓	無B	140	4.0	104	古代	57.7.1	灰白色	白色	白色	白色			
319	B1	X127Y153號	無想窓	無B	110	3.9	85	古代	20.6.1	灰色	白色	白色	白色	白色		
320	B1	X147Y154號	無想窓	無B	111	4.2	104	古代	7.5.9.2.3	中灰-深灰色	白色	白色	白色	白色		
321	57	B1	X120Y154號	無想窓	無B	110	4.0	89	古代	25.7.7.1	灰白色	白色	白色	白色	白色	
		X121Y154號	無想窓	無B	110	4.0	89	古代	25.7.7.1	灰白色	白色	白色	白色	白色		
322	B1	X149Y158號	無想窓	無B	112	2.6	94	古代	57.7.0	灰白色	白色	白色	白色	白色		
		X161Y170號	無想窓	無B	112	2.6	94	古代	56.6.0	灰白色	白色	白色	白色	白色		
323	B1	X137Y158號	無想窓	無B	112	4.3	87	古代	56.6.0	灰白色	白色	白色	白色	白色		
		X138Y158號	無想窓	無B	112	4.3	87	古代	56.6.0	灰白色	白色	白色	白色	白色		
325	E2	X145Y169號	無想窓	無B	112	3.9	104	古代	56.6.0	灰白色	白色	白色	白色	白色		
326	38	B2	X147Y171號	無想窓	無B	112	3.9	106	古代	56.6.0	灰白色	白色	白色	白色	白色	
		X134Y172號	無想窓	無B	112	3.9	106	古代	56.6.0	灰白色	白色	白色	白色	白色		
327	B1	X130Y172號	無想窓	無B	112	2.6	106	古代	57.7.1	灰白色	白色	白色	白色	白色		
		X131Y172號	無想窓	無B	112	2.6	106	古代	57.7.1	灰白色	白色	白色	白色	白色		
328	B1	X145Y164號	無想窓	無B	114	5.2	83	古代	57.7.1	灰白色	白色	白色	白色	白色		
		X151Y164號	無想窓	無B	115.5	3.7	110	古代	57.7.1	灰白色	白色	白色	白色	白色		
329	B1	X151Y166號	無想窓	無B	118	4.5	92	古代	57.7.0	灰白色	白色	白色	白色	白色		
		X152Y167號	無想窓	無B	118	4.5	92	古代	57.7.0	灰白色	白色	白色	白色	白色		

第21表 稲積天板北遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(12)

編目番号	遺物名	地名	遺構	出土点	種類	形態	口径	高さ	直径	周長	測定(m)	測定期間	新土色調	出土の特徴		相場	備考
														高さ	底径		
72	331	B1	X133Y195	原忠寺	井手型	井手	15.0	4.0	9.6	古代		365.0	灰白色	白色砂鉢			
	X133Y195井手														白色灰陶		
73	332	B1	X133Y195井手	原忠寺	井手型	井手	15.0	5.4	8.8	古代		366.0	灰白色	白色灰陶			
	X133Y195井手														白色灰陶		
73	333	A	X133Y195井手	原忠寺	井手型	井手	15.0	3.7	10.0	古代		377.0	灰白色	白色灰陶			
	X133Y195井手														白色灰陶		
234	334	B1	X143Y196井手	原忠寺	井手型	井手	15.1	4.6	9.2	古代		377.1	灰白色	白色灰砂粒+骨片			
	X143Y196井手														白色灰砂粒+骨片		
335	335	A	X165Y154井手	原忠寺	井手型	井手	15.5	4.3	11.0	古代		377.0	灰白色	白色灰砂粒+泥斑			
	X165Y154井手														白色灰砂粒+泥斑		
336	336	B2	X169Y174井手	原忠寺	井手型	井手	15.2	4.9	11.1	古代		377.0	灰白色	白色灰砂粒			
	X169Y174井手														白色灰砂粒		
338	338	B1	X143Y185井手	原忠寺	井手型	井手	15.3	3.5	10.3	古代		376.0	灰白色	白色灰砂粒			
	X143Y185井手														白色灰砂粒		
339	339	B1	X171Y157井手	原忠寺	井手型	井手	13.8	5.6	10.0	古代		375.6	灰白色	白色灰砂粒			
	X171Y157井手														白色灰砂粒		
340	340	B1	X143Y154井手	原忠寺	井手型	井手	13.1	3.7	9.0	古代		385.1	青灰色	白色灰砂粒			
	X143Y154井手														白色灰砂粒		
341	341	B1	X133Y151井手	原忠寺	井手型	井手	13.4	3.5	9.2	古代		366.0	灰白色	白色灰砂粒			
	X133Y151井手														白色灰砂粒		
342	342	B1	X128Y148井手上面	原忠寺	井手型	井手	15.4	3.9	9.6	古代		366.0	灰白色	白色灰砂粒			
	X128Y148井手上面														白色灰砂粒		
343	343	B2	X155Y178井手	原忠寺	井手型	井手	15.5	4.6	10.0	古代		376.0	灰白色	白色灰砂粒			
	X155Y178井手														白色灰砂粒		
344	344	S2	X169Y175	原忠寺	井手型	井手	15.0	4.0	9.7	古代		376.0	灰白色	白色灰砂粒			
	X169Y175														白色灰砂粒		
345	345	B1	X129Y185井手	原忠寺	井手型	井手	14.0	4.6	9.8	古代		366.0	灰白色	白色灰砂粒			
	X129Y185井手														白色灰砂粒		
346	346	B1	X129Y186井手	原忠寺	井手型	井手	14.0	4.6	9.8	古代		377.0	灰白色	白色灰砂粒			
	X129Y186井手														白色灰砂粒		
347	347	B1	X129Y187井手	原忠寺	井手型	井手	14.0	4.6	9.8	古代		366.0	灰白色	白色灰砂粒			
	X129Y187井手														白色灰砂粒		
348	348	B1	X129Y187井手	原忠寺	井手型	井手	14.0	4.6	9.8	古代		366.0	灰白色	白色灰砂粒			
	X129Y187井手														白色灰砂粒		
349	349	B1	X160Y185井手	原忠寺	井手型	井手	14.0	4.6	9.8	古代		375.0	灰白色	白色灰砂粒			
	X160Y185井手														白色灰砂粒		
350	350	B1	X155Y186井手上面	原忠寺	井手型	井手	14.0	4.6	9.8	古代		376.0	灰白色	白色灰砂粒			
	X155Y186井手上面														白色灰砂粒		
351	351	B1	X125Y151井手	原忠寺	井手型	井手	14.0	4.6	9.8	古代		377.0	灰白色	白色灰砂粒			
	X125Y151井手														白色灰砂粒		
352	352	B1	X147Y163井手	原忠寺	井手型	井手	14.0	4.6	9.8	古代		377.0	灰白色	白色灰砂粒			
	X147Y163井手														白色灰砂粒		
353	353	B1	X130Y148井手	原忠寺	井手型	井手	14.0	4.6	9.8	古代		377.0	灰白色	白色灰砂粒			
	X130Y148井手														白色灰砂粒		
74	354	B1	X130Y148井手	原忠寺	井手型	井手	12.2	2.6	9.5	古代		365.0	灰白色	白色砂粒+骨片			
	X130Y148井手														白色砂粒+骨片		
355	355	B1	X133Y166井手	原忠寺	井手型	井手	14.0	4.6	9.8	古代		377.0	灰白色	白色砂粒			
	X133Y166井手														白色砂粒		
356	356	B1	X130Y168井手	原忠寺	井手型	井手	14.0	4.6	9.8	古代		366.0	灰白色	白色砂粒			
	X130Y168井手														白色砂粒		
357	357	B1	X125Y165井手	原忠寺	井手型	井手	14.0	4.6	9.8	古代		377.0	灰白色	白色砂粒			
	X125Y165井手														白色砂粒		
358	358	B1	X130Y143井手	原忠寺	井手型	井手	14.0	4.6	9.8	古代		377.0	灰白色	白色砂粒			
	X130Y143井手														白色砂粒		
359	359	B1	X130Y143井手	原忠寺	井手型	井手	14.0	4.6	9.8	古代		377.0	灰白色	白色砂粒			
	X130Y143井手														白色砂粒		
360	360	B1	X130Y166井手	原忠寺	井手型	井手	12.6	3.0	9.5	古代		39388.3	浅黄色	白色砂粒			
	X130Y166井手														白色砂粒		
361	361	B1	X130Y166井手上面	原忠寺	井手型	井手	12.6	3.5	9.0	古代		377.0	灰白色	白色砂粒			
	X130Y166井手上面														白色砂粒		
362	362	B1	X130Y164井手	原忠寺	井手型	井手	11.7	3.4	7.3	古代		377.0	灰白色	白色砂粒			
	X130Y164井手														白色砂粒		
363	363	B1	X130Y157井手	原忠寺	井手型	井手	12.6	3.0	9.5	古代		2537.1	灰白色	白色砂粒			
	X130Y157井手														白色砂粒		

第21表 稲積天板北遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(13)

測点番号	等級	測定方法	測定地点	種類	形態	口径	高さ	底径	時間	測量結果		形状の特徴	経年	備考
										法里(m)	厘米(cm)			
74	260	B2	XU42Y174B小壺	瓶型	瓶		96	古代	N7.0	灰白色	白色粘土	高砂色~泥色		
75	265	B2	XU61Y177B小壺	瓶型	瓶		99	古代	2577.2	灰黄色	白色粘土	高砂色~泥色		
76	300	B1	XU59Y167	瓶型	瓶		124	古代	584.1	褐色	褐色	高砂色~泥色		
77	267	B2	XU58Y170B小壺	瓶型	瓶		130		N6.0	灰白色	白色粘土	高砂色~泥色		
78	288	B2	XU71Y178B	瓶型	瓶		27	古代	N7.0	灰白色	白色粘土	高砂色~泥色		
79	269	B1	XU72Y180B小壺	瓶型	瓶		69	古代	358.0	灰白色	白色粘土	高砂色~泥色		
80	270	B1	XU23Y154B小壺	把手付中空	把手付中空	口径8.0	4.2	98	古代	366.0	灰白色			
81			XU23Y154B小壺	把手付中空	把手付中空	口径8.0								
82			XU29Y156B小壺	把手付中空	把手付中空	口径8.0								
83	271	B1	XU37Y162B小壺	瓶型	瓶		120		356.0	灰白色	白色粘土	高砂色~泥色		
84	272	B1	XU40Y164B小壺	瓶型	瓶	口径7.4			577.1	灰白色	白色粘土	高砂色~泥色		
85	277	B1	XU45Y166B小壺	瓶型	瓶	口径7.4			2578.2	灰白色	白色粘土	高砂色~泥色		
86			XU47Y168B小壺	瓶型	瓶	口径7.4								
87	274	B1	XU22Y153B小壺	瓶型	瓶	口径7.4								
88			XU22Y153B小壺	瓶型	瓶	口径7.4								
89	275	B1	XU27Y154B小壺	瓶型	瓶	口径7.4								
90	276	B1	XU30Y144B小壺	瓶型	瓶	口径7.4								
91	277	B1	XU30Y145B小壺	瓶型	瓶	口径7.4								
92	278	B1	XU31Y143B小壺	瓶型	瓶	口径7.4								
93	279	B1	XU31Y142B小壺	瓶型	瓶	口径7.4								
94	280	B1	XU30Y143B小壺	瓶型	瓶	口径7.4								
95	275	B1	XU30Y143B小壺	瓶型	瓶	口径7.4								
96	276	B1	XU36Y163B小壺	瓶型	瓶	口径7.4								
97	277	B1	XU30Y144B小壺	瓶型	瓶	口径7.4								
98	278	B1	XU38Y148B小壺	瓶型	瓶	口径7.4								
99	279	B1	XU38Y153B小壺	瓶型	瓶	口径7.4								
100	280	B1	XU39Y148B小壺	瓶型	瓶	口径7.4								
101	281	B1	XU37Y148B小壺	瓶型	瓶	口径7.4								
102	282	B1	XU38Y156B小壺	瓶型	瓶	口径7.4								
103	283	B1	XU33Y164B小壺	瓶型	瓶	口径7.4								
104	284	B1	XU41Y163B小壺	瓶型	瓶	口径7.4								

第21表 稲積天板北遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧 (14)

番号	遺物名	分類	地名	遺構	出土点	種類	形状	法寸(㎝)		目付	計量時期	新土色調	出土の特徴	相手	備考
								口径	高さ						
73					X119Y1153薄 X120Y136小口平頭 X129Y133直管 X130Y135中身 1604Ⅲ號										
284	31	B1			X131Y135-154- 156-157-158-159- 159-160號	直	14.0	23.5	17.3	古代	576.4	灰色	砂粒		
285	60	B1			X132Y135-154- 155-156號										
286	39	B1			X134Y156-157 X157Y157直管 N3J26-13-26號	直			9.1	古代	553.0	灰色	砂粒		
287	39	B1			X128Y153直管 X127Y153直管	直			8.6	古代	553.0	灰色	砂粒		
288	60	A			X136Y146直管 X136Y154直管	直			10.5	古代	553.0	灰色	砂粒		
289	60	B1			X106Y123直管	直									輪郭外側へ泥付
290	60	B1			X121Y154直管	直			7.8	古代	573.0	灰白色	砂粒		
291	39	E2			X137Y143直管	直			10.0	古代	553.0	灰色	砂粒		
292	60	B1			X133Y178-179號	直			10.0	古代	573.0	灰白色	砂粒		
293	60	B1			X135Y136直管、 X125Y136直管	直			13.6	古代	563.0	灰色	瓦台於黑色粒		
294	60	B1			X141Y161直管	直			14.2	古代	756.0	灰色	砂粒		
295	40	B1			X121Y154直管 X130Y142直管 X132Y126直管 X133Y146直管	直			7.6	古代	553.0	灰色	砂粒		
296	51	B1			X135Y164直管	直			15.5	古代	566.0	灰色	砂粒		
297	39	B1			X136Y152直管 X141Y156直管	直			10.0	古代	547.0	灰白色	白肉粒砂粒		
298	39	B1			X109Y153直管 X120Y133直管	直			11.4	古代	553.0	灰色	瓦台於砂粒		
299	51	B1			X120Y132直管	直				古代	556.0	灰色	黑色砂粒		
					X120Y133直管										

第21表 稲積天板北遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(15)

測定番号	形状	寸法 （厘米）	測定番号	着目	出土地点	柱相	層相	法面(m)	口径	高さ	底径	時間	評議會期	鉄土色調	出土の特徴	組合	備考	
70	X1.1071.887.17.5.2 +	X1.1071.887.17.5.2 +																
389	A-EI	X1.1071.887.17.5.2 +																
400	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
401	B2	X1.1071.887.17.5.2 +																
402	B2	X1.1071.887.17.5.2 +																
403	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
404	B2	X1.1071.887.17.5.2 +																
77																		
405	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
406	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
407	B2	X1.1071.887.17.5.2 +																
408	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
409	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
410	B2	X1.1071.887.17.5.2 +																
411	B2	X1.1071.887.17.5.2 +																
412	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
413	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
414	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
415	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
416	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
417	B2	X1.1071.887.17.5.2 +																
418	B2	X1.1071.887.17.5.2 +																
419	A3	X1.1071.887.17.5.2 +																
420	B2	X1.1071.887.17.5.2 +																
421	B2	X1.1071.887.17.5.2 +																
422	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
423	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
424	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
425	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
426	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
427	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
428	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
429	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
430	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
431	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																
432	B1	X1.1071.887.17.5.2 +																

第21表 稲積天板北遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(16)

番号	遺物名	形質	組別	出土位置	種類	器種	法寸(㎝)	寸法	目録	新土色調	出土の特徴	相手	備考
77	灰瓦	A	X35Y156170上	土器部	手柄	口径	4.2	4.7	古代	25Y7.2	灰黄色	砂粒	
425	灰瓦	B1	X35Y156170	土器部	把手	口径	4.8	5.0	古代	JOYR7.3	赤褐色-青色	赤色砂-砂粒-骨粒	
427	灰瓦	B1	X35Y156170	土器部	把手	口径	4.7	5.0	古代	JOYR7.3	赤褐色-青色	赤色砂-砂粒-骨粒	
428	灰瓦	B1	X35Y156170	土器部	把手	口径	4.8	5.0	古代	JOYR7.3	赤褐色-青色	赤色砂-砂粒-骨粒	
429	灰瓦	B1	X35Y156170	土器部	把手	口径	4.8	5.0	古代	JOYR7.3	赤褐色-青色	赤色砂-砂粒-骨粒	
430	灰瓦	B1	X35Y156170	土器部	把手	口径	4.8	5.0	古代	JOYR7.3	赤褐色-青色	赤色砂-砂粒-骨粒	
431	灰瓦	B1	X35Y156170	土器部	把手	口径	4.8	5.0	古代	JOYR7.3	赤褐色-青色	赤色砂-砂粒-骨粒	
432	灰瓦	B1	X35Y156170	土器部	把手	口径	4.8	5.0	古代	JOYR7.3	赤褐色-青色	赤色砂-砂粒-骨粒	
433	灰瓦	B1	X35Y156170	土器部	把手	口径	4.8	5.0	古代	JOYR7.3	赤褐色-青色	赤色砂-砂粒-骨粒	
78	灰瓦	A	S200	X35Y153	越中字	直	6.1	4.0	古代	33Y7.8	褐色	赤色砂-骨粒	赤褐色-青色
435	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	725Y7.4	褐色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
436	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	N7.0	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
437	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
438	灰瓦	B1	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
439	灰瓦	B1	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
441	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
442	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	25Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
443	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	25Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
444	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	25Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
445	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	25Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
446	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
447	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	25Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
448	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
449	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
450	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
451	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
452	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
453	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
454	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
455	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
456	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
457	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
458	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
459	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
460	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
461	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
462	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
463	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
464	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
465	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒
466	灰瓦	B2	S200	X35Y170	直	3.9	3.8	3.9	古代	51Y7.1	灰白色	白色砂-砂粒	白色砂-砂粒

第21表 稲精天板北遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(17)

測定番号	形状	寸法 (mm)	測定点	断面	直径 口径	高さ 底径	時間	評価基準	鉄土色調	出土の特徴	相容	備考	
					直径	底径							
78	円筒	S230	X132Y120	肥前器	柄		5.5	浅縁	N8.0	灰白色		金223年6月人びと色 25765-3年-1人びと色。	
458	64	32	X147Y175	肥前器	柄		4.2	中縁	7.5Y87/4	12-35-褐色	7.5Y3.2	4-1-7-褐色	
459	64	32	X147Y175	肥前器	口		5.4	浅縁	N8.0	灰白色		金47306-3年-1人びと色 7.5M5-300青灰色	
79	487	62	A	X30Y145	口		30.2	中縁	5Y5.1	灰白色	5Y5.1		
460	62	B1	X127Y147-1切端	口	美	39.4			5S.0	灰白色	5S.0		
462	62	B1	X127Y134-1切端	口	美				N5.0	灰白色	N5.0	外削等式	
463	62	B2	X149Y169-1切端	口	美	25.4			N5.0	灰白色	N5.0		
464	62	B2	X160Y133切端	口	美	29.2			N5.0	灰白色	N5.0	内削等式	
465	62	B2	X157Y168-1切端	口	美				25Y7.1	灰白色	25Y7.1		
466	62	B2	X147Y174-1切端	口	美				5Y6.1	灰白色	5Y6.1	内削等式	
467	62	B2	X147Y168切端	口	美				N5.0	灰白色	N5.0		
468	62	B1	X136Y148切端	口	美				5S.0	灰白色	5S.0		
469	62	B2	X159Y168切端	口	美	34.0			N5-0	灰白色	N5-0		
470	62	B1	X159Y133切端	口	美				1-10周	25Y7.1	灰白色	25Y7.1	
471	62	B2	X162Y181-1切端	口	美				N6.0	灰白色	N6.0		
472	62	A	X163Y181切端	口	美				N6.0	灰白色	N6.0		
473	62	B1	X107Y166切端	口	美	35.6			N6.0	灰白色	N6.0		
474	62	B1	X127Y138切端	口	美	40.0			25Y87/4	12-35-褐色	25Y87/4		
475	62	B1	X159Y165切端	口	美	41.0			5Y6.1	灰白色	5Y6.1		
476	62	B1	X159Y133切端	口	美	46.0			N5.0	灰白色	N5.0		
80	67	63	B1	X57Y171-1切端	口	14.0			25Y7.1	灰白色	25Y7.1		
477	63	B2	X165Y186切端	口	中込器外縁	12.6			N7.0	灰白色	25Y6.1	4-1-7-褐色	
478	63	B1	X141Y164切端	口	中込器外縁	13.4			N7.0	灰白色	7.5Y6.1	4-1-7-褐色	
479	63	A	X165Y186切端	口	中込器外縁	6.0			N7.0	灰白色	25Y7.1	4-1-7-褐色	
480	63	B1	X127Y137切端	口	中込器外縁	7.6			N8.0	灰白色	10Y1.2		
481	63	B1	X130Y145切端	口	中込器外縁	52			N7.0	灰白色	5G7.6.1	4-1-7-褐色	
482	63	B1	X159Y164切端	口	中込器外縁	33			N8.0	灰白色		金223年6月人びと色 25765-3年-1人びと色	
483	63	B1	X153Y161切端	口	中込器外縁	52			N8.0	灰白色		金223年6月人びと色 25765-3年-1人びと色	
484	64	B2	系縄	口	丸	11.2	2.6	4.0	中縁	25Y7.1	灰白色	5Y4.4	4-1-7-褐色
485	63	B1	丸食器	口	丸	6.0	中縁		25Y88/4	浅原色	25Y6.3	4-1-7-褐色	
486	63	B1	X131Y173切端	口	周縁	7.0	中縁		10Y6.2	4-1-7-褐色	10Y6.2		
487	63	B2	X131Y173切端	口	周縁	6.0	中縁		7.5Y6.1	4-1-7-褐色	7.5Y6.3		
488	63	B1	X127Y156切端	口	周縁	6.0	中縁		25Y7.1	灰白色	25Y7.1		
489	64	A	X131Y134切端	口	天井部	4.4	中縁		30Y88/3	浅原色	7.5Y8A.2	4-1-7-褐色	
490	63	B1	S20717	X131Y132切端	口	天井部	5.0	中縁		5Y6.3	4-1-7-褐色	5Y6.3	
491	63	A	X131Y132切端	口	天井部	5.3	中縁		25Y7.1	灰白色	7.5Y6.3		
492	63	B1	S20717	X126Y136切端	口	天井部				5Y6.2	4-1-7-褐色	5Y6.2	

第21表 稲積天板北遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(18)

番号	遺物名	形質	出土地点	種類	形状	法面 (cm)	口径	厚度	時間	計量時期	新土色調	出土の特徴	色調	備考
81	803 64	B1	X137Y14511等	桶子底	桶子底	106	21	44	近鉢	10Y38E-2	灰白色	5Y5-4 4Y-7灰色	灰褐色	東北地系統
82	804 64	A1	X303Y14611等	桶子底	桶子底	74	53	38	25Y8E-4	灰白色	7.5Y38C-2	灰褐色	灰褐色	
83	805 64	A1	X125Y14411等	桶子底	桶子底	90	38	25Y8E-3	灰白色	5Y8C-3	灰褐色	灰褐色	真柏	
84	806 64	B2	X130Y14811等	桶子底	桶子底	14	20	35	25Y8E-3	灰白色	10Y32C-2	灰褐色	灰褐色	
85	807 64	B1	X125Y13411等	桶子底	桶子底	35	20	35	25Y8E-2	灰白色	7.5Y34C-3	灰褐色	灰褐色	
86	808 64	B1	X126Y13511等	桶子底	桶子底	38	28	25Y8E-2	灰白色	7.5Y35C-2	灰褐色	灰褐色	真柏	
87	809 64	A	X09Y13211等	肥前陶器	肥前陶器	53	38	25Y7E-6	灰白色	5Y6-1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	
88	810 64	A	X01Y14511等	肥前陶器	肥前陶器	59	38	25Y7E-6	灰白色	2.5Y7-2	灰褐色	灰褐色	灰褐色	
89	811 64	B1	X133Y14611等	肥前陶器	肥前陶器	58-0	38	25Y7E-6	灰白色	10Y37E-1等色	灰褐色	灰褐色	灰褐色	
90	812 64	B1	X132Y14311等	肥前陶器	肥前陶器	12.4	3.9	37	近鉢	NS8-0	灰白色	10G7-1	明神灰白色	青褐色
91	813 64	B1	X134Y14611等	肥前陶器	肥前陶器	94	38	38	NS8-0	灰白色	2.5Y36E-4等色	2.5Y36E-4等色	2.5Y36E-4等色	
92	814 64	B1	X132Y14211等	肥前陶器	肥前陶器	30	30	25Y8E-1	灰白色	7.5Y6-2	灰褐色	灰褐色	7.5Y6-2等色	
93	815 64	A	X03Y14711等	肥前陶器	肥前陶器	44	38	38-0	灰白色	7.5Y8-1	灰白色	灰白色	削尖七角?	
94	816 64	B1	X141Y14611等	肥前陶器	肥前陶器	46	38	38-0	灰白色	10G7-1	明神灰白色	青褐色	青褐色	
95	817 64	B1	X132Y13611等	肥前陶器	肥前陶器	47	38	38-0	灰白色	2.5Y7-1	灰褐色	灰褐色	2.5Y7-1等色	
96	818 64	B1	X128Y13711等	不明陶器	不明陶器									

第22表 稲積天板北遺跡 木製品一覧

辨別 番号	遺物 番号	考古 回版	遺構	出土地点	種類	法量(cm)			樹種	本取り	備考
						長さ	幅	厚さ			
81	508	65	SD200	X147Y175	漆器椀	1150	150	(5.40)	漆器	漆器皿	内面赤外黒茶
81	509	65	SD200	X148Y173	漆器椀	980	150	(5.60)	漆器	漆器皿	内面赤色
81	510	65	SD200	X156Y170	円形板	600	580	0.40	ヒノキ	板目	
81	511	65	SD90	X91Y156ビート盤	底板	1980	(16.30)	0.70	スギ	板目	
81	512	66	SD90	X91Y156ビート盤	底板	(28.70)	(14.70)	1.10	スギ	板目	
81	513	66	SD50	X89Y147N板	板材	(20.30)	1210	1.30	スギ	板目	抉入り
82	514	66	SD50	X91Y156ビート盤	板材	3220	2430	2.20	スギ	板目	孔1
82	515	67	SD50	X89Y143ビート盤	板材	4080	2190	4.00	スギ	板目	両端抉り孔3
82	516	67	SD50	X91Y149ビート盤	板材	4820	1450	4.40	スギ	板目	抉入り
82	517	67	SD50	X91Y156ビート盤	板材	6790	1430	3.10	スギ	板目	孔1
82	518	67	SD50	X91Y156ビート盤	板材	6230	1820	3.40	スギ	板目	抉入り
83	519	67	SD50	X91Y149ビート盤	板材	(109.9)	990	5.40	スギ	板目	貫穴1箇所
83	520	67	SD50	X91Y156ビート盤	板材	13370	1420	3.20	スギ	板目	孔1
83	521	67	SD50	X91Y150	板材	17660	1080	5.60	スギ	板目	貫穴3箇所
83	522	67	SD50	X92Y149V盤	角材	(58.90)	920	6.70	スギ	分割材	貫穴1

第23表 稲積天板北遺跡 石製品一覧

辨別 番号	遺物 番号	考古 回版	遺構	出土地点	種類	法量(cm ³)				材質	備考
						長さ	幅	厚さ	重さ		
84	523	68	SD200	X154Y170	石轆	448	2.48	0.65	512	無斑点ガラス質安山岩	
84	524	68	SD90	X111Y138II盤	磨製石斧	16.2	4.15	1.35	73.26	安山岩(新第三紀)	削形
84	525	69	B1	X140Y151II盤	磨製石斧	835	3.7	2.48	115.07	ムラクサ	刃部欠損
84	526	69	B2	X145Y175サブレンチ	磨製石斧	868	5	2.3	176.75	蛇紋岩	
84	527	69	B2	X171Y175サブレンチ	磨製石斧	(102)	5.7	2.7	213.99	ダイサク	
84	528	68	B1	X124~125Y137~138II盤	バスクル形石製品	28	0.6	0.5	155	葉状石	
84	529	68	B1	X161~163Y164~165II盤	石拂	(13.25)	3.5	3.1	202.83	緑色片岩	基部欠損
84	530	68	B1	X138Y152~153II盤	砥石	(7.15)	3.45	2.75	87.8	流紋岩	先端欠損
85	531	69	SD50	X94Y148V盤	研磨具	1369	19.79	2.81	964.47	砂岩	削面加工
85	532	69	B2	X171Y173II盤	石臼	13.7	(25.68)	1.8	690.31	無斑点質安山岩	

第24表 稲積天板北遺跡 金属製品一覧

辨別 番号	遺物 番号	考古 回版	遺構	出土地点	種類	法量(g ³)				備考
						長さ	幅	厚さ	重さ	
86	533	70	B1	X150Y153I~II盤	斧	11.9	0.8	0.1	6.1	
86	534	70	B1	X135Y145III~IV盤	斧	(13.5)	1.1	0.4	19.6	
86	535	70	B1	X137Y142I~II盤	刀子	19.7	1.4	0.3	46.9	
86	536	70	B2	X146Y77III~IV盤	鉤	20.9	2.2	0.5	117.0	
86	537	70	B2	X155Y176III~IV盤	鍔	2.4	2.4	0.1	17.3	「開元通寶」
86	538	70	SD200	X153Y170	銅錢	2.4	2.4	0.1	3.42	「祥符通寶」
86	539	70	B1		銅錢	2.4	2.4	0.1	2.73	「天聖元宝」

4 総 括

稲積天坂北遺跡では、縄文時代から近世の遺構を検出した。縄文時代、古墳時代、近世の遺構はいずれも散発的で、遺跡の性格がわかるものではない。

縄文時代の遺跡については、周辺の遺跡からも当該期の遺物が出土しているので、縄文時代から周間に集落がつくられていたことが想定される。

また、古墳時代は自然流路の検出に止まるが、当該期の遺物の出土については、周辺に当遺跡の南側の丘陵部には加納蛭子山古墳群や加納横穴墓群などが立地し、これらと関連のある集落が周辺に立地していても不思議ではない。

古代では、掘立柱建物5棟と多数の柱穴、井戸、溝を検出した。多数の柱穴の分布状況から5棟以上の掘立柱建物の存在が予測されるが、後世の削平が著しいため、現在のところその確証に欠ける。また、検出した5棟の建物も柱穴がすべて揃っているわけではないので、建物規模の変更の可能性もある。建物の時期は、棟方向から大きく2時期に分けられるが、建物の時期を明らかにする出土遺物も少なく、切り合い関係がないことから2群の新旧関係は不明である。集落の詳細な時期を出土遺物から推定してみる。溝の埋土及び包含層から出土している遺物の時期は7世紀から10世紀であるが、出土量が一番多いのは8世紀から9世紀代の土師器、須恵器である。この時期が集落の中心時期とみてよいと考える。また、遺物の中で特記すべきは、「魚」と書かれた墨書き土器である。前述したように、類例は近県では石川県千木ヤシキダ遺跡の出土例はあるが、現在富山県内では類例がない。遺跡の立地から余川川の水運を利用した施設を示すものであろうか。また、把手付中空円面鏡の出土は県内では初例であることも特筆に値する。

中・近世については、溝、包含層の中から遺物の出土が見られるが、当該期の遺構は溝だけで、建物等は見つかっていない。包含層からはわずかに中世前期の遺物は混じるが、多くは中世後半から近世初頭(17世紀)の遺物が出土する。近隣の稲積天坂遺跡では15世紀から近世の集落が見つかっており、関連する同時期の遺構と推定する。

(島田美佐子)

第V章 稲積オオヤチ南遺跡

1 概 要

稲積オオヤチ南遺跡は余川川下流左岸に立地し、現況は水田と宅地であった。北側は稲積オオヤチ古墳群が所在する丘陵が舌状に張り出す裾部にあたり、現在の余川川に挟まれた狭いエリアである。

調査は2ヶ年に渡って実施し、東側をA地区、西側をB地区とした。A地区では中世の井戸、溝が検出された。B地区では2面の文化層が確認され、上層では中・近世の遺構が、下層からは古墳時代の遺構が見つかっている。古墳時代の遺構には溝・自然流路があるが、散発的な検出で、建物等は見つかっていない。中・近世の遺構は後世の削平の影響か、地区中央部にのみ集中して検出している。

2 層 序

基本層序を地区別に記す。A地区は表土が20~40cm、I層(盛土):オリーブ黒色シルトが10~20cm、II層(遺物包含層):黒褐色シルトが10~40cm、III層(遺構検査面、地山):暗オリーブ灰色シルト、IV層(地山):灰黄色シルト・暗灰黄色シルト、V層(地山):灰色粘質シルト、VI層(地山):灰色シルト(植物遺体含む)、VII層(地山、湧水層)灰色砂である。

B地区は、I層(表土)、II層(中近世遺物包含層):黄灰色粘質土が10~30cm、III層(中近世遺物包含層):灰色粘質土が10~30cm、IV層(上層遺構検査面、古墳時代遺物包含層):黒褐色粘質土が20~70cm、V層(古墳時代遺構検査面、地山):灰色粘質シルト、にぶい黄橙色砂である。

以上のように、A地区とB地区の基本層序の状況は若干異なっているように見える。しかしながら、A地区的黒褐色土のII層上面では、平面図に図化されていないが、近世の溝(S D 1)を、II層下のIII層では中世前半の遺構を検出している。また、B地区ではIV層の黒褐色土上面で中世後半から近世の遺構を、IV層下では古墳時代の遺構を検出している。A地区的II層とB地区的IV層を同じ黒色土と判断し、古墳時代から中世前半の遺物包含層と理解すれば層位の齟齬は生じないと考える。

3 遺構と遺物

ここでは、古墳時代と中近世の大きく2時期に分けて記述する。

(1) 古墳時代

自然流路と溝を検出している。自然流路はその位置から、調査区南側を流れる余川川の旧河道と考える。溝は2条検出したが、詳細な時期と性格は不明である。

A 溝・自然流路

501号自然流路(S D501、第87・88図)

B地区南側で検出した自然流路である。南側の岸のラインはなだらかに立ち上がるが、平面図では表現していない。主な堆積土は黒褐色粘質土、にぶい黄褐色粘質土、暗褐色砂質シルトである。流路の中央寄りでは下層ににぶい黄褐色砂や暗褐色砂が堆積する。遺物は土師器の小片が出土している。前述したように、余川川の旧河道であろう。

502号溝（S D 502、第87・88・98図、図版75・77）

B地区北側の用水路を挟んだ小規模な三角形の地区で検出した。東西に直線的に延びる溝である。幅約1m前後で黒褐色粘質シルトが堆積する。出土遺物は、やや表面が摩耗する内外面ハケメの甕か壺の底部（1）が出土している。

560号溝（S D 560、第87・88図）

B地区西側で北西から南東方向へ延びる段掘り状の溝である。埋土は黒褐色粘質土に黄褐色粘質土がブロック状に混じる土が堆積する。検出面では幅が2m～3m近くにもなるが、下層では幅が約0.5m前後にせばまり断面形状は漏斗状になる。遺物の出土はない。

（2）中近世

A地区II層下で検出した遺構群と、A地区II層上面とB地区IV層上面で検出した遺構群に大きく分かれる。時期は前者が中世前半、後者が中世後半から近世である。

中世前半の遺構には、溝9条・自然流路2条・井戸6基・土坑がある。井戸は調査面積に対しては比較的多く検出しているが、柱穴も含めて建物等は検出していない。

中世後半から近世の遺構には、溝・自然流路・井戸・柱穴・土坑がある。B地区の中央部分、X60～73、Y65～63の範囲で集中して検出している。柱根の残る柱穴が数基あるが、確固たる建物の規模の把握までには至らなかった。

A 溝・自然流路

1号溝（S D 1、第98図、図版74・76・78・80・82）

A地区II層上面で検出した溝。平面図には表現されていないが、X55～64、Y51～55付近で検出した。幅1.5m、深さ0.3mの溝である。位置はS D 2上面に重複する。埋土はオリーブ黒色シルト、黒褐色シルトが主に堆積している。遺物には縄文土器（2）・須恵器（3）・中世土師器（4）・珠洲・近世陶磁器（5～7）が出土している。2は口縁部の破片で、3本の沈線によって区画され、区画内は縄文施文後磨り消している。縄文時代晩期の特徴をもつ。5は唐津の皿である。口縁は小波状を成し、表面には白濁した釉がかかる。6・7は越中瀬戸の播鉢の破片で、7は9条1単位の鉗目である。遺構の時期は近世以降である。

2号自然流路（S D 2、第90・92・98図、図版80）

A地区南側を北西から南西方向へ流れる自然流路。南肩は調査区外へ延びる。流路北側には平行して浅い段があり、流路の最終堆積段階を示す。そこには、灰色シルトが堆積し、南側の深さが1mにも及ぶ部分には、オリーブ黒色シルトが堆積する。遺物には土師器と須恵器（8）、珠洲がある。8は杯Bの底部で高台内側にヘラ状の工具による短線が円形状に巡る。

3号自然流路（S D 3、第90・92図）

A地区東側で検出した流路。S D 2に切られる。東側は調査区外へ延び、流路の幅は不明である。灰色砂が主体的に堆積する。遺物は縄文土器の小破片が多数出土している。

23～25・32・34号溝（S D 23～25・32・34、第90・92・98図、図版80）

A地区北側で検出した東西に流れる溝群。幅が平均0.6m、深さが20～25cmと規模がよく似ている。切り合いからS D 23・24・25の順で新しいことがわかるが、S D 23とS D 34及びS D 32とS D 25以外の新旧関係は不明である。S D 24から土師器と須恵器（9）が、S D 25から縄文土器と須恵器が出土している。

26号溝（S D 26、第90・92図）

A地区北東隅で検出した屈曲した溝。幅は0.2m前後、深さも5cm前後的小規模なものである。遺物には縄文土器がある。

28・31号溝（S D 28・31、第90・92図）

A地区北側で検出した、どちらも暗渠に平行する大小の浅い溝である。水田区画整備に伴う痕跡か。S D 31からは縄文土器が出土しているが、遺構の時期は新しい。

29号溝（S D 29、第90・92図）

A地区北端中央で検出した、南北方向の短い溝である。深さは20cm前後で、断面形は逆台形である。埋土は黒色シルトの単層である。遺物には縄文土器と須恵器がある。

102号自然流路（S D 102、第89・93・98・105図、図版75・77・79・80・81・86）

B地区東側で検出した幅約20mの自然流路である。深さは2mにも達し、下層は重機による断ち割りによって確認している。埋土は主に褐灰色粘質土が堆積するが、一部には砂層や砂礫層が堆積し、西側最下層には黒褐色粘質土が観察できる。流路のラインとしては、A地区的S D 2と重複するようにも見えるが、B地区的S D 102は埋土の特色からより新しい段階の流路と考える。遺物は、土師器・須恵器・中世土師器・珠洲、砥石が出土している。土師器は古墳時代の壺（10）・甕（11）・高杯（12・13）が、須恵器は長頸瓶（14）がある。これらは、全形を知り得る個体ではない。珠洲はⅠ・Ⅳ期の鉢（15・16）、Ⅲ期の甕（17）が出土している。砥石（136）は流紋岩製で、在地由来の石材である。二面の砥面が確認できる。

328号溝（S D 328、第89・98図、図版76）

B区中央西寄りで検出した長さ13mの短い溝。深さは14cmと浅く、埋土はオリーブ褐色粘質土の単層である。遺物は小型の丸底壺の体部（18）が出土している。表面は荒れてわかにくいが、一部にヘラミガキ調整が残る。

335号溝（S D 335、第89・98図、図版76）

S D 102西側で検出したその支流状の溝。深さ10cm程度の浅いもので、埋土は砂が多く混じる灰色粘質土である。出土遺物に青磁（19）がある。蓮弁文碗の底部で、釉は高台内側までかかる。見込みは円形に釉が剥げている。

B 井戸

A地区で検出した中世前半の6基と、B地区で検出した中世後半から近世の11基の井戸がある。規模は、直径1m前後で円筒形の小型のものと、直径2mを超える大型のものに分かれる。

A地区で検出した井戸はすべて素掘りで、1基以外はほぼ南北の直線上に並ぶ。すべて下層の断ち割り確認を行い、灰色粘質シルトの湧水層まで掘り込んでいることを確認している。

B地区で検出した井戸もすべて素掘りで、このうち9基が調査区中央部分に集中している。

4号井戸（S E 4、第94・103・104図、図版74・83～85）

直径1.2mの円形の井戸。埋土はオリーブ黒色シルトが主に堆積し、深さは1.4mと他に比べて深いほうである。遺物は詳細時期不明の土師器片と木製品が出土している。木製品は漆器皿・匙・箸・加工板がある。木製品が出土している井戸はこのS E 4のみで、容器、食事具など実用的なものばかりである。109は直径10cm、高さ1cmの黒色漆の無高台の漆器皿で、見込みに赤色漆で文様が描かれる。材はトネリコ属である。112は細かい削り出しによる削物の匙で、大きく湾曲する柄の上部は欠損する。材はカキノキ属である。箸（114～134）は21本出土し、形態は両端を細く削るタイプである。材

は20本がスギ、1本はヒノキである。II3は長方形の板状の木製品で両側の短辺中央に半円形状の削り込みがある。糸巻きのような用途の製品か。材はヒノキである。

21号井戸（S E 21、第94図）

直径約1mの円形の井戸。この1基だけ、東に離れた位置にある。深さは0.9mと、井戸の中では浅い方である。底面は湧水層までは達してはいない。埋土はオリーブ黒色シルトが主体である。出土遺物はない。

22号井戸（S E 22、第94図）

直径0.9m、深さ1.1mの井戸。上層は灰色シルトが堆積し、下層は黒色シルトが堆積する。土師器の部片が出土している。

30号井戸（S E 30、第94図、図版74）

直径約0.9mの円形の井戸。S E 22の北西で検出する。井戸の中では一番深く、1.6mを測る。下層には再下層にオリーブ黒色シルトが堆積し、その上には灰色シルトが厚く堆積する。この灰色シルトの上面には珪藻土を含む土塊が多数検出され、意識的に埋めたことが想定される。出土遺物には須恵器がある。

36号井戸（S E 36、第94図、図版74）

直径0.8m、深さ0.9m、底面形は丸底で下に向かってすぼまる形である。比較的浅いが、底は湧水層にまで達する。遺物には土師器・須恵器がある。

39号井戸（S E 39、第94・99図、図版74・80）

S E 36南側に隣接する円形の井戸である。直径0.9m、深さ1.2mである。埋土は下層に灰色シルト、上層に黒褐色シルトが堆積する。既述した6基の井戸の埋土の堆積の仕方は大きく4種類あり、オリーブ黒色シルトと灰色シルトがレンズ状に交互に堆積するもの（S E 4）、オリーブ黒色シルトが全般的に堆積するもの（S E 21・S E 36）、上層に灰色シルト、下層に黒色シルトが堆積するもの（S E 22）、上層に黒色シルト、下層に灰色シルトが堆積するもの（S E 30・S E 39）に分かれる。これは、井戸の埋没の仕方によっての差異と考える。遺物には須恵器・土師器・珠洲（20）がある。20は珠洲Ⅲ期の壺の口縁部である。

115号井戸（S E 115、第95・103図、図版75・83）

直径1m前後、深さ0.7mの小型の井戸。埋土は灰黄色粘質土、黒褐色粘質土、暗灰黄色粘質土がレンズ状に堆積し、最下層には砂が多量に混じる。遺物には、須恵器片と直径9cmの曲物の柄杓（II10）がある。口縁部は欠損し、高さは不明である。底板外面中央には「寶性院」の墨書が残る。樹種は底板、側板とともにヒノキである。「寶生院」については、現存する周辺の寺院はすべて浄土真宗の寺院で、「寶生院」との関連は不明である。ただ、石川県と富山県氷見市の両県にまたがる「石動山」の院坊遷移の中には、慶長2（1597）年、慶安2（1649）年、寛文5（1665）年に、漢字は違うが「宝性院」の院坊名がある⁸¹⁾。

180号井戸（S E 180、第95図、図版75）

直径0.8m前後、深さ約1mの小型の井戸。黒褐色粘質土、黄灰色粘質土、オリーブ黒色粘質土がレンズ状に堆積し、いずれの層にも礫が多量に混じる。遺物には越中瀬戸の擂鉢片がある。

191号井戸（S E 191、第95・99図、図版81）

直径1m前後、深さ約1mの小型の井戸。上層に暗灰黄色粘質土、下層に礫が混じる黒褐色粘質土が堆積する。遺物には越中瀬戸の鉄軸の皿（21）がある。

81） 石動山文化財調査団・富山県氷見市教育委員会 1999『国指定史跡石動山（文化財調査報告書－八代仙賀門建設計画復元－）』

204号井戸 (S E204, 第95・99図, 図版82)

直径約0.8m, 深さ1mの小型の井戸。埋土は黄褐色粘質土と砂礫が多く混じる黒褐色粘質土の単層である。遺物には越中瀬戸(22)・唐津(23)がある。23は透明な黄緑色の釉がかかる溝縁皿で、見込みには砂目が残る。高台周辺は露胎で、造りはやや粗雑である。同様な皿がS E291からも出土している。17世紀前半か。

218号井戸 (S E218, 第95・99図, 図版81・82)

長軸約1m, 短軸約0.9mの楕円形の井戸。深さは1.1mで、上面は厚さ10cmの褐灰色粘質土でバッケされ、下層は礫が多量に混じる黒褐色粘質土の単層である。遺物には越中瀬戸の皿(28)・椀(29)・擂鉢(30・31)がある。30・31は接合できなかったが、同一個体の可能性がある。内面は摩耗し、一部黒色に変色し光沢を放つ。

226号井戸 (S E226, 第95図)

B地区中央で検出した、直径2m前後の大型の井戸。下方に向かってすぼまる形態をなし、上層には黄灰色粘質土を主体に、下層には黒褐色粘質土が主に堆積し、中央にレンズ状に灰オリーブ色粘質土が堆積している。深さは2.36mである。

230号井戸 (S E230, 第96図)

直径1m前後の小型の井戸。深さは0.7mと浅い。2層の黄灰色粘質土に礫が、3層のオリーブ黒色粘質土には砂が多く混じる。遺物には鉄軸の近世陶器片がある。

291号井戸 (S E291, 第96・99図, 図版82)

B地区中央で検出した大型の井戸である。断面形は下に向かってすぼまる形態で、上面では直径約28mだが、底面近くでは直径0.7mである。深さは26mと井戸の中では一番深い。主に黒褐色粘質土が堆積する。遺物は、須恵器片、唐津の皿(24)と越中瀬戸の擂鉢片(25)がある。24は前述したようにS E218出土皿と同形態である。このことからS E204と同時期の17世紀前半頃に機能していたと考える。

292号井戸 (S E292, 第96・99図, 図版75・80・81)

長軸1.6m、短軸1.2mの楕円形の井戸。深さは1m、上面に黄灰色粘質土が堆積し、その下にはオリーブ黒色粘質土が堆積する。遺物は、珠洲のIV期の鉢(32~34)と壺(35)が出土している。

379号井戸 (S E115, 第96・99図, 図版82)

直径約0.8mの小型の井戸。深さは約0.8m、黒褐色粘質土が堆積し、下層から円形板が出土した。遺物は、越中瀬戸の擂鉢の口縁(36)が出土している。

C 土坑・柱穴

土坑としたものの中には、当初井戸としていたものもあり、形態だけでは判別が難しいものもある。また、B地区では柱根が残る柱穴を8基検出したが、前述したように、建物の確定までに至らなかつたため、土坑と一緒にしてこの欄で記述する。

27号土坑 (S K27, 第90・100図, 図版80)

S E22とS E30の間で検出した楕円形の土坑。南西側半分は試掘トレンチに切られる。深さは11cmと浅く、埋土は暗灰黄色シルトの単層である。遺物には須恵器の杯底部(37)がある。

148号土坑 (S K148, 第97図)

S E180の北側で検出した一辺80cm前後の二段掘りの土坑、上面は灰黄色粘質土が堆積し、下層はオリーブ黒色粘質土が堆積する。遺物は須恵器が出土する。

187号土坑（S K187、第97・100図、図版79）

B地区中央東寄りで検出した長方形の二段掘りの土坑。遺物は土錘（46）が出土している。

200号土坑（S K200、第91・100図、図版79・81・82）

B地区南東で検出した不整形の大型土坑。深い所では検出面から深さ50cmもあり、主に砂が多く混じる暗灰黄色粘質土が堆積する。遺物は土師器・須恵器・珠洲（40・41・43）・越中瀬戸（38・39・42）・近世磁器・土錘（47）が出土している。38は口縁部が小波状の皿で、表面にススが付着する。39は匣鉢か。41は珠洲V期の片口鉢。胎土のキメが荒く、卸目の櫛歯は太い。43とは接合できないが、櫛歯の太さは非常に良く似ている。

263号土坑（S K263、第97図）

B地区中央北端で検出した楕円形の土坑。当初、井戸と判断していたが、深さと埋土の特徴から土坑として取り扱う。深さは70cm、埋土は黄褐色粘質土の単層である。遺物は土師器が出土している。

286号土坑（S K286、第97・100図、図版78）

長軸1.5m、短軸1.2mの楕円形の土坑。B地区中央の遺構集中区からやや西にはずれた場所で検出した。主に黒褐色粘質土が堆積するが、中間にレンズ状に薄く黄灰色粘質土が堆積する。遺物は、中世後半の中世土師器皿（44）が出土している。

338号土坑（S K338、第97図）

S E291の南に隣接して検出した、直径80cm前後の円形の土坑である。円筒形を呈し、埋土は黒褐色粘質土の単層である。遺物は須恵器片が出土している。

346号土坑（S K346、第97図）

B地区中央遺構集中区の南端で検出した二段掘りの土坑。上面は方形で、下部は円形となる。上層は黄灰色粘質土、下層はオーリープ黒色粘質土が堆積する。遺物は越中瀬戸が出土している。

352号土坑（S K352、第97・100図）

遺構の密度がやや希薄となるB地区中央北東で検出した、浅い楕円形の土坑。埋土には炭化物と砂が多く混じる。遺物は、土師器の高杯脚部（45）が出土している。

168号土坑（S K168、第97図、図版75）

楕円形の柱穴。柱根は西側の一段下がった場所で検出した。

173号土坑（S K173、第97図）

楕円形の柱穴。柱根は南側に寄った位置で検出した。上面は灰黄褐色粘質土でパックされ、下層は黒褐色粘質土である。

182号土坑（S K182、第97図）

直径40cmの円形の柱穴である。

198号土坑（S K198、第97図、図版75）

隅丸方形の柱穴。中央東寄りの一段深くなった穴の中で柱根を検出した。

210号土坑（S K210、第97図）

直径60cmのやや歪な円形の柱穴。中央で柱根を検出した。埋土は灰黄褐色粘質土で、S K168・173・182・198が黒褐色粘質土が主に堆積するのに対し、S K210・S K211・S K384・S K400は黒褐色粘質土の堆積は認められない。埋土の違いから時期差があると考える。

211号土坑（S K211、第97図）

直径44cmの円形の柱穴。中央に柱根が残る。深さは28cmと浅い。

384号土坑（S K384、第97図）

楕円形の柱穴で、中央に直径30cmの円形の土坑があり、その中から柱根が見つかっている。深さは70cmと深い。北に位置するS K210とは深さ、埋土が似ていることから対になる可能性がある。

400号土坑（S K400、第97図）

B地区遺構集中区南西端で検出した楕円形の小型柱穴。近くにS K338・S E291があるが、これより南は遺構は検出されない。深さ35cm、埋土は褐灰色粘質土の単層である。

(3) 包含層出土遺物(第100~102・105図、図版76~82・86)

包含層からは土師器(48~80)・須恵器(81~87)・中世土師器(90・91)・珠洲(92~100)・越中瀬戸(101)・近世陶磁器(102~106)、土錘(108)、石製品(135)、金属製品(137)が出土している。

土師器は、壺・壺・高杯・手捏ね土器がある。全形を知り得るものは少ないが、小型の丸底壺が目立つ。粘土質の包含層の影響で器表面が剥落しているものが多く、調整が不明なものが多い。胎土は砂粒が多く混じりそれが目立つものと、そうでないものに大きく分けられる。時期は5世紀頃のものである。これらの土師器は当遺跡北側の丘陵上にある稲積オオヤチ古墳群との関連を考えられようが、残念ながら当該期の遺構は溝・自然流路のみで、集落に繋がる遺構は検出されていない。

須恵器は杯蓋・杯・盤・壺・壺がある。81は7世紀代の杯蓋、84は口縁端部が外反する盤Bである。89は把手付き壺の破片。須恵器は土師器に比べて出土量は少ない。

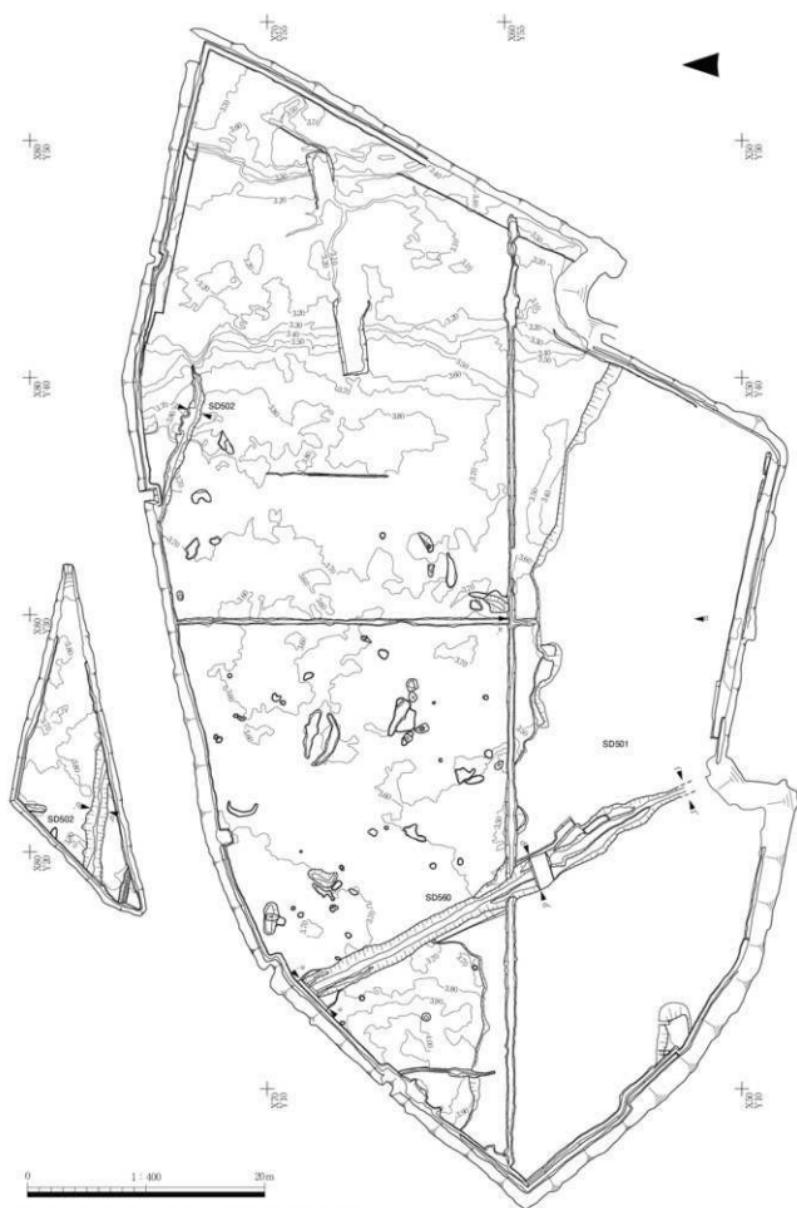
中世土師器の90・91は中世前半の特徴をもつ。珠洲には壺・壺・鉢があり、鉢はIV期とVI期のものがある。94は壺の破片で、ヘラ書きによる朝顔と唐草を表現している。

近世陶磁器は越中瀬戸・唐津・伊万里がある。101は越中瀬戸の灰釉のひだ皿。102~105は唐津で、17世紀前半頃の特徴をもつ。遺物包含層から出土した近世陶磁器の様相を見ても、B地区中央の遺構群は17世紀前半を中心としたものと考える。

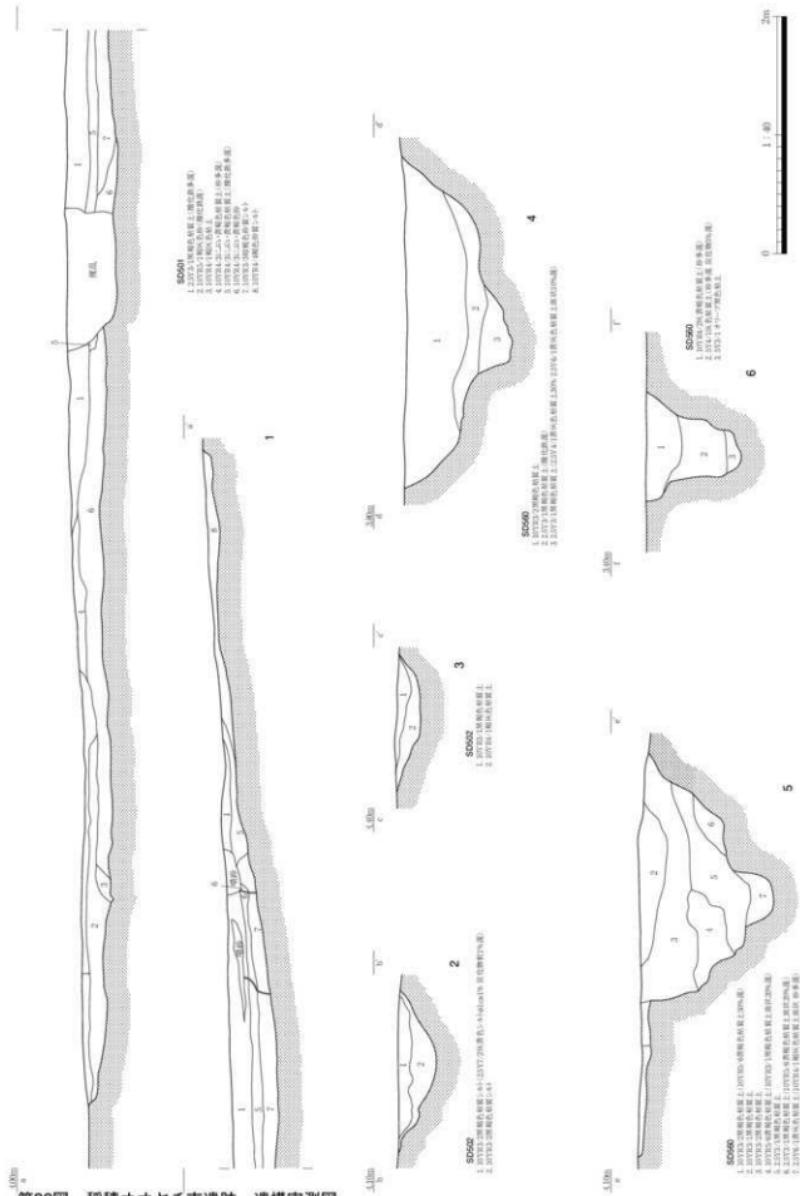
石製品には打製石斧がある。135は長さ22.2cmのやや大型の打製石斧、石材は流紋岩で、在地で採取できる石材である。刃部周辺は使用による摩耗と線状痕認められ、基部近くの両側縁には敲打痕が認められる。

金属製品には小柄の柄(137)がある。材質は調べていないが、縁銷が出てることから銅が含まれている製品だということがわかる。地板の表面には線彫りによる波形の文様が描かれる。

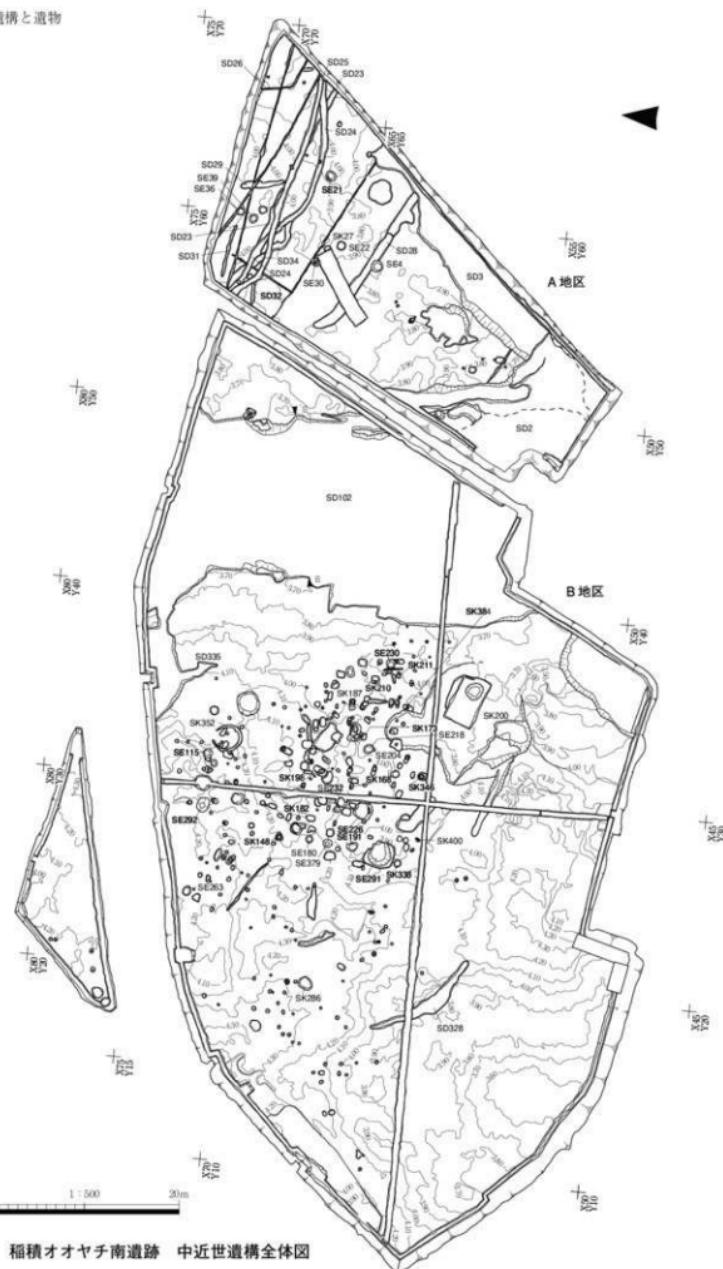
(島田美佐子)



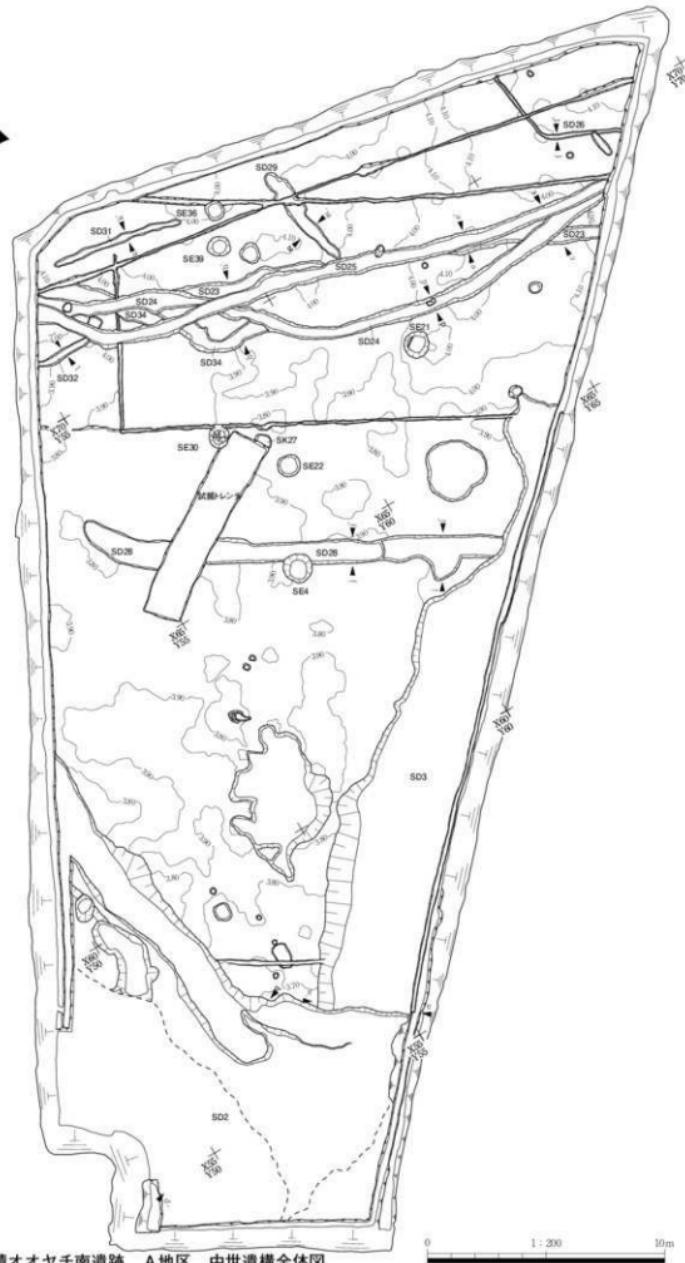
第87図 稲積才オヤチ南遺跡 古墳時代遺構全体図



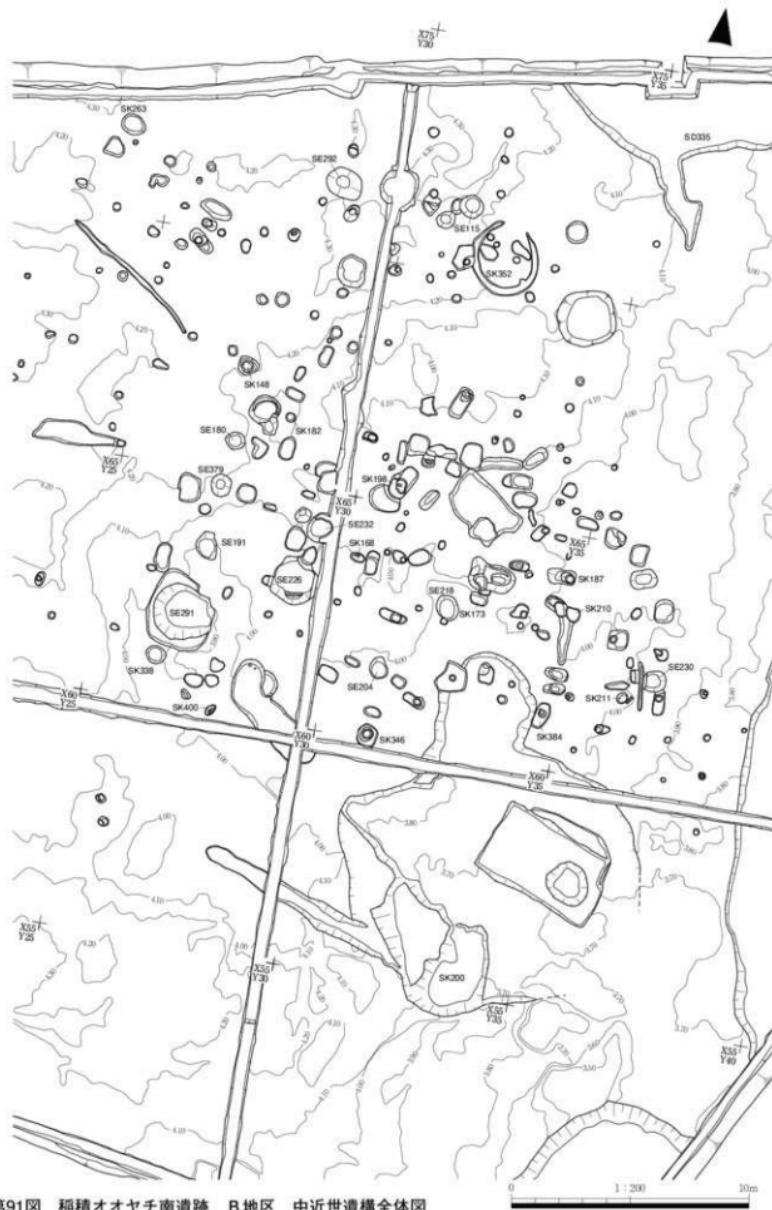
第88図 稲積オオヤチ南遺跡 遺構実測図
1. SD501 2・3. SD502 4~6. SD560



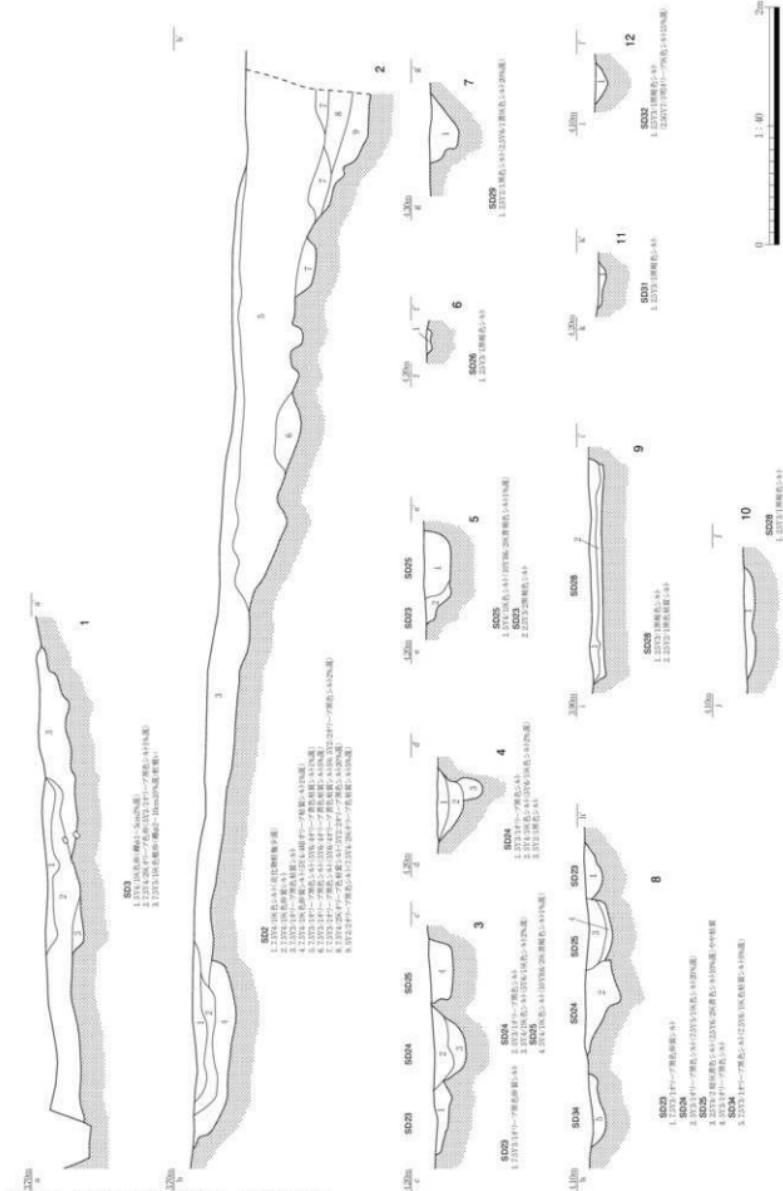
第89図 稲積オヤチ南遺跡 中近世遺構全体図



第90図 稲積才オヤチ南遺跡 A地区 中世遺構全体図

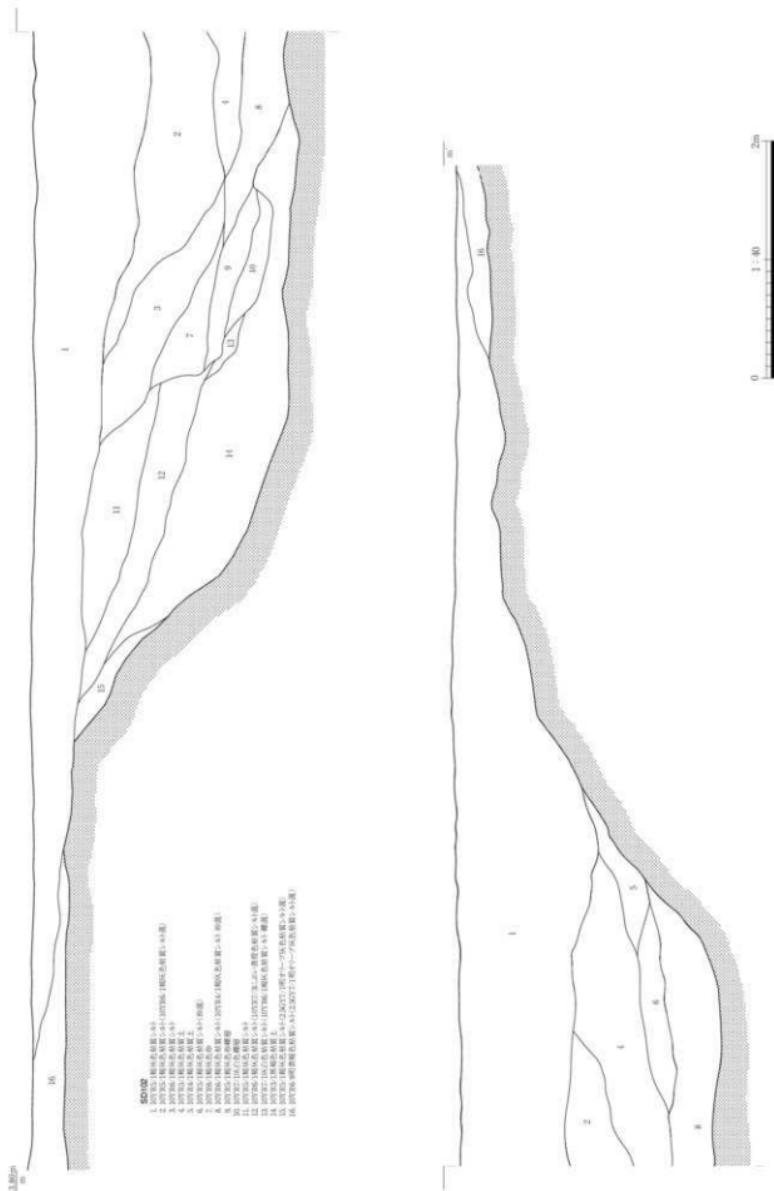


第91図 稲積オヤチ南遺跡 B地区 中近世遺構全体図

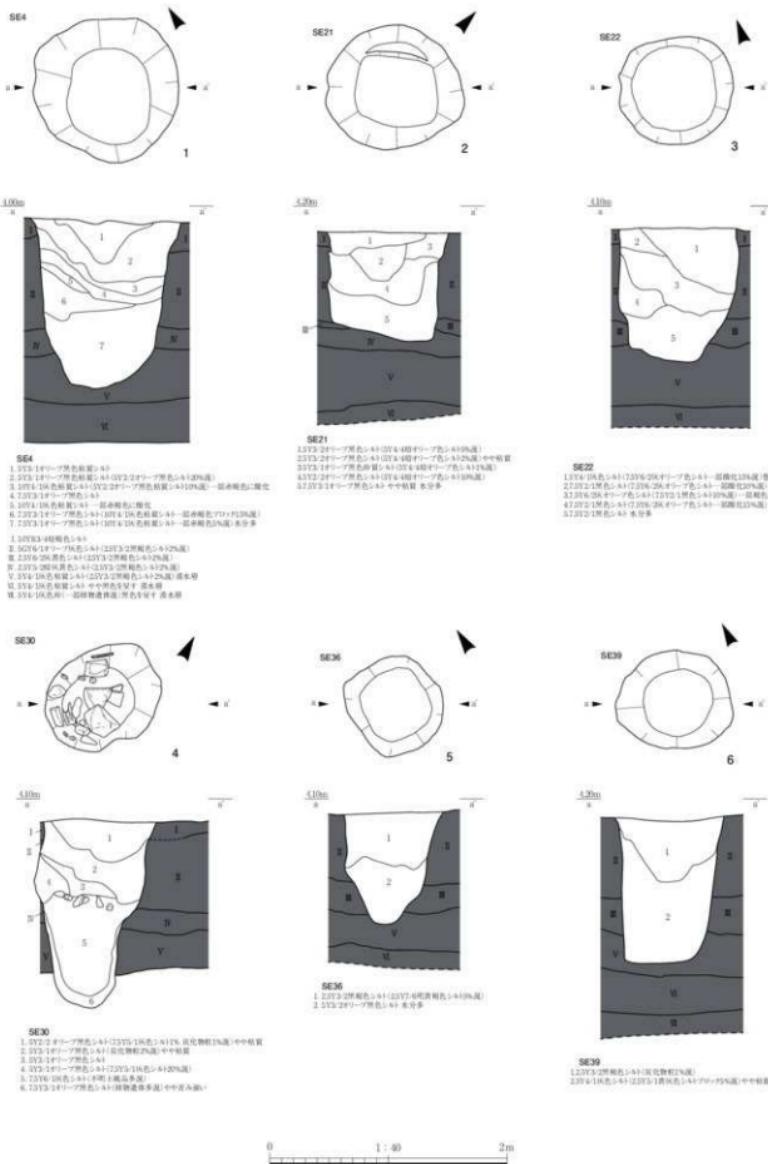


第92図 稲積オオヤチ南遺跡 遺構実測図

1. SD3
2. SD2
3. SD23~SD25
4. SD24
5. SD23・SD25
6. SD26
7. SD29
8. SD23・SD24・SD25・SD34
- 9・10. SD28
11. SD31
12. SD32



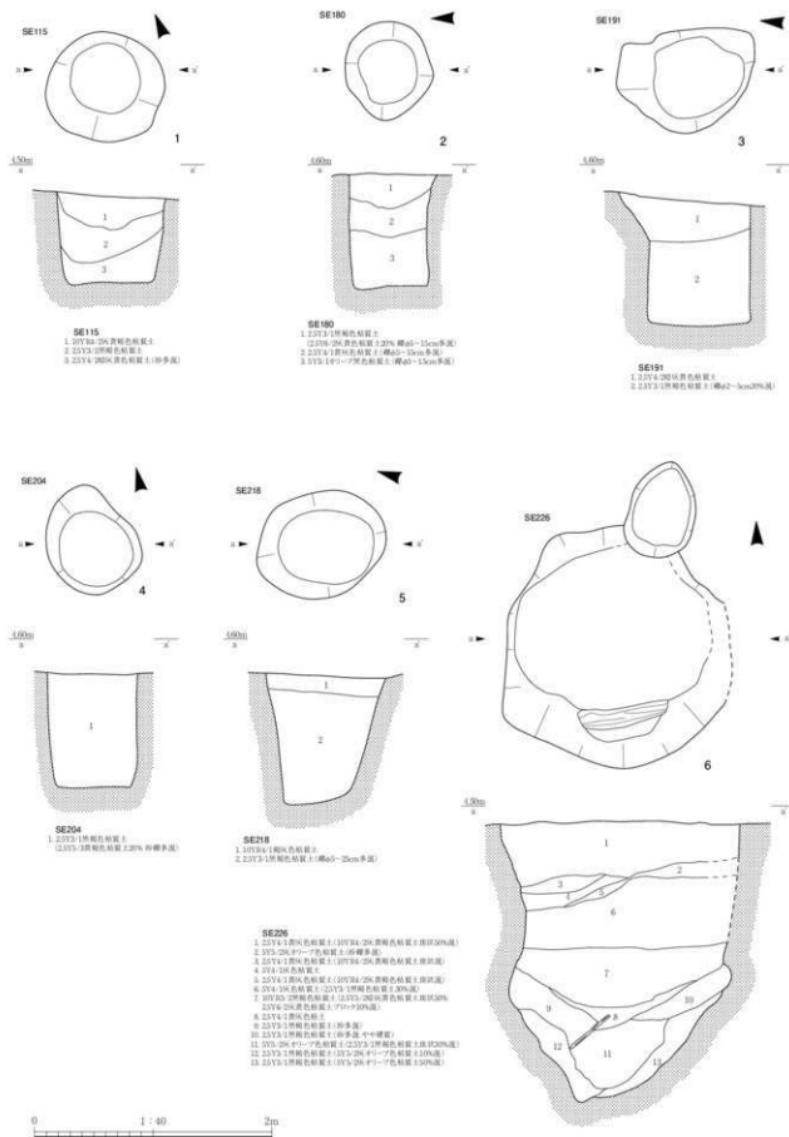
第93図 稲積オヤチ南遺跡 遺構実測図
SD102



第94図 稲積オオヤチ南遺跡 遺構実測図

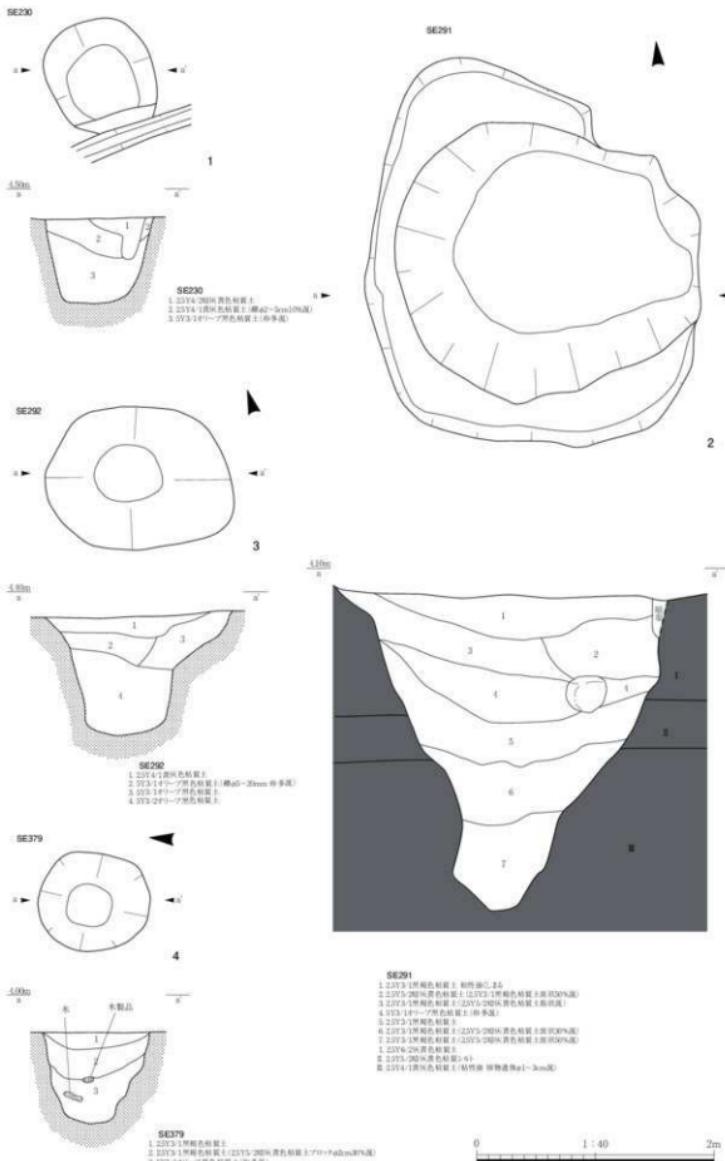
1. SE4 2. SE21 3. SE22 4. SE30 5. SE36 6. SE39

3 遺構と遺物



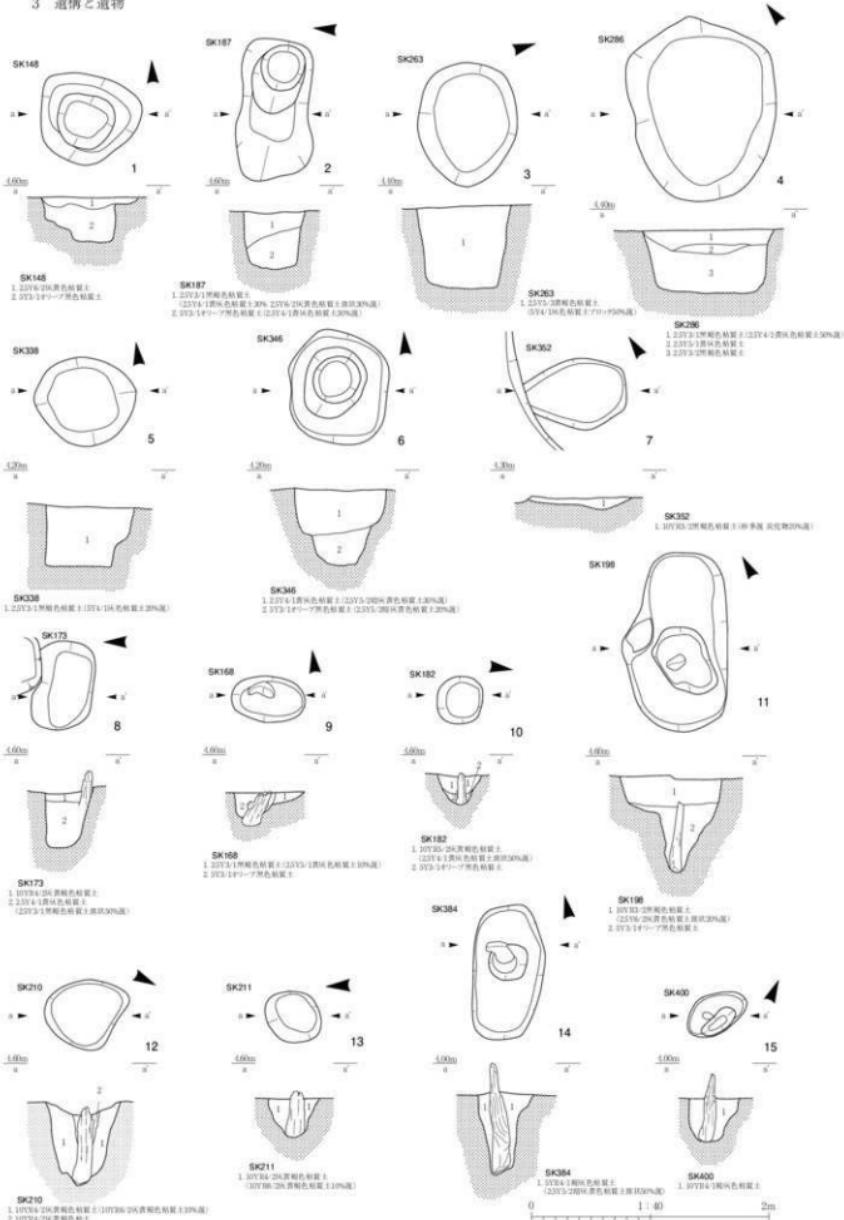
第95図 稲積才オヤチ南遺跡 遺構実測図

1. SE115 2. SE180 3. SE191 4. SE204 5. SE218 6. SE226



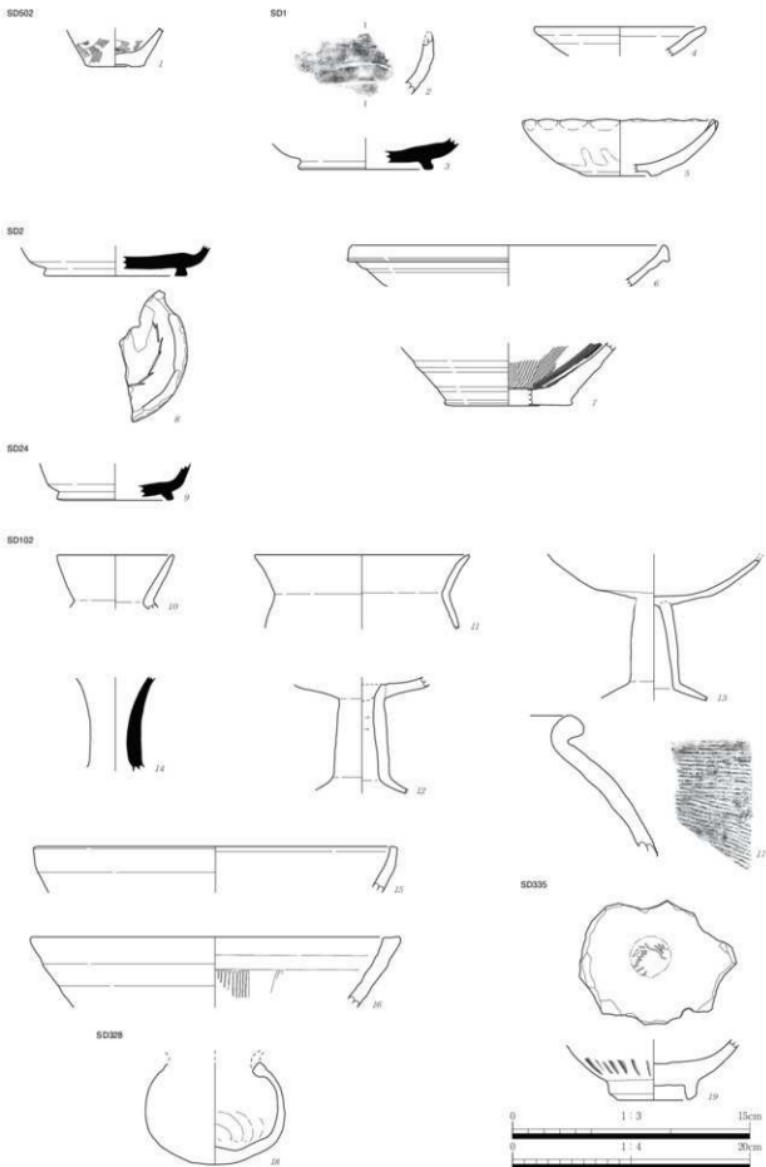
第96図 稲積オオヤチ南遺跡 遺構実測図

1. SE230 2. SE291 3. SE292 4. SE379

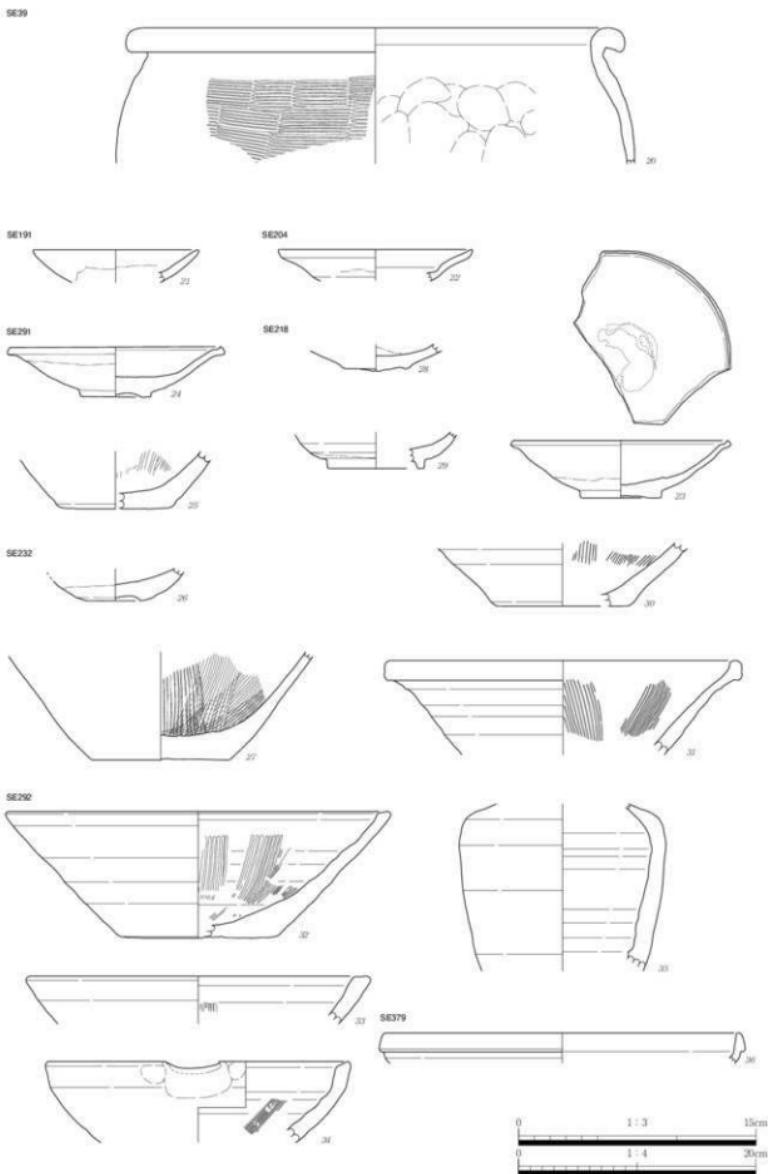


第97図 稲積才オヤチ南遺跡 遺構実測図

1. SK148 2. SK187 3. SK263 4. SK286 5. SK338 6. SK346 7. SK352 8. SK173 9. SK168
10. SK182 11. SK198 12. SK210 13. SK211 14. SK384 15. SK400

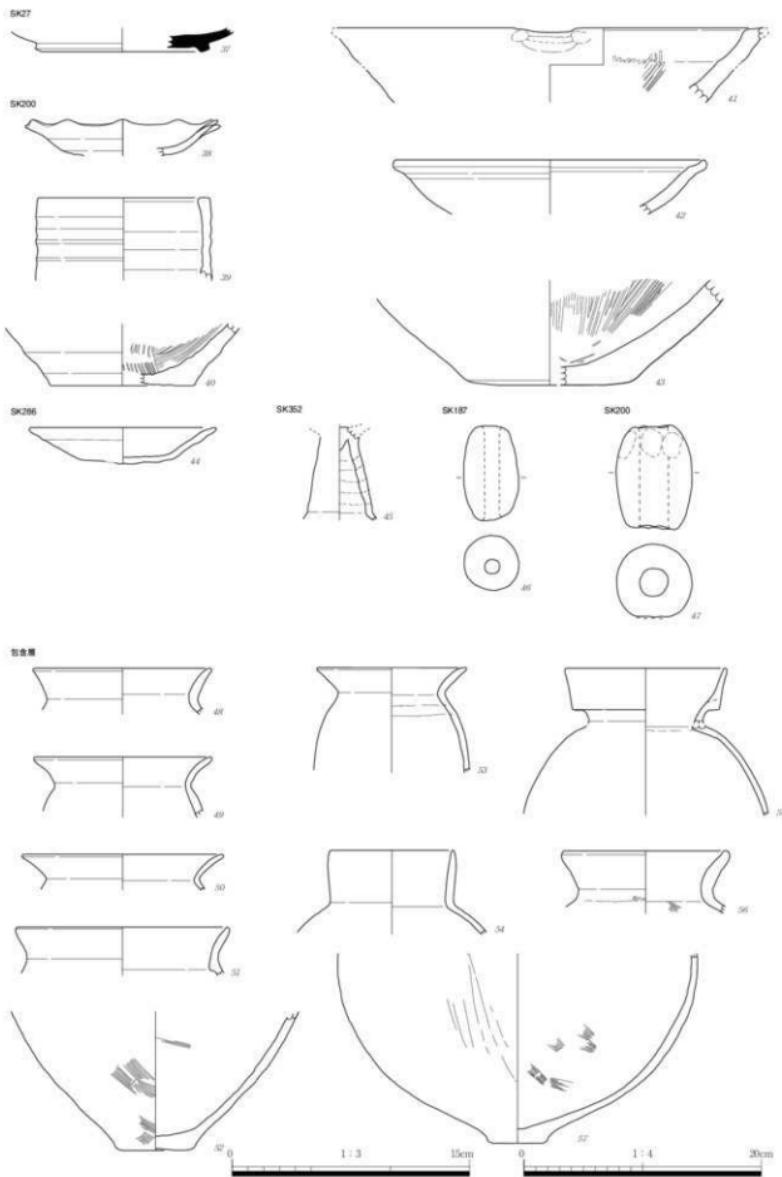


第98図 稲積オオヤチ南遺跡 遺物実測図 (3~5・8・9・18・19 1/3, 1・2・6・7・10~17 1/4)
 SD1(2~7) SD2(8) SD24(9) SD102(10~17) SD328(18) SD335(19) SD502(1)



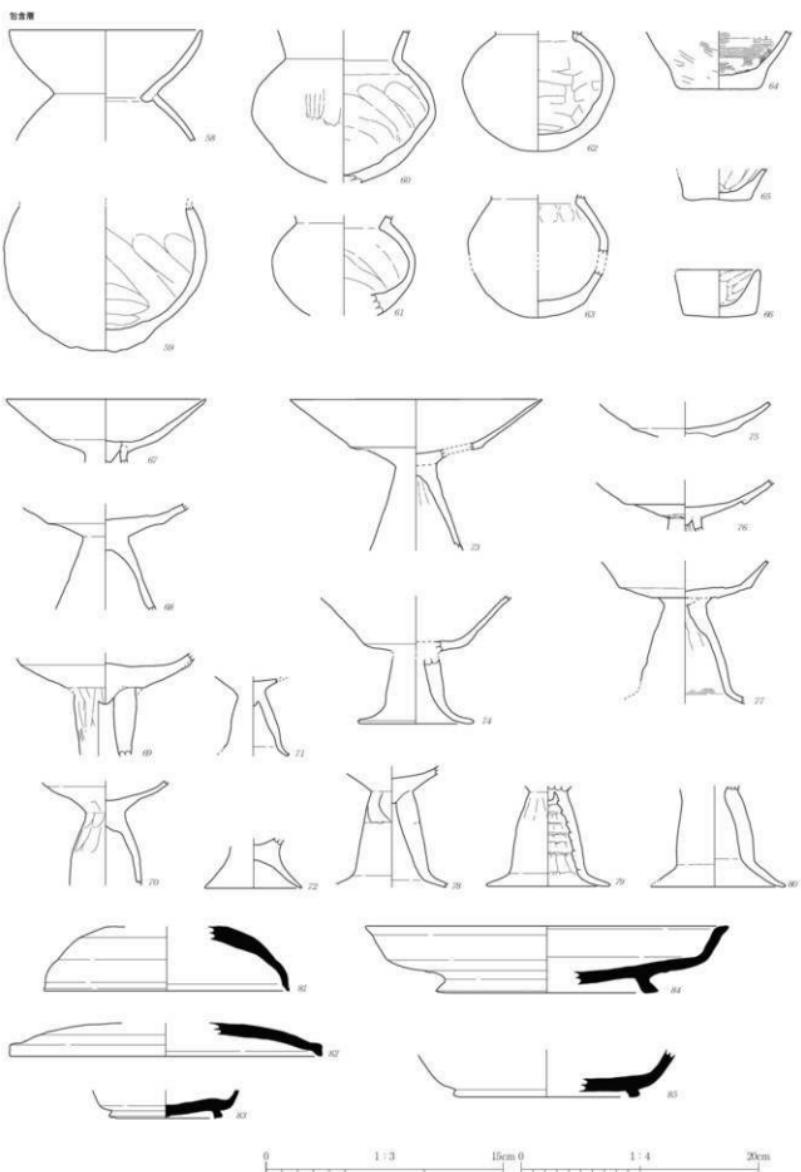
第99図 稲積オヤチ南遺跡 遺物実測図 (21~24・26・28・29 1/3, 20・25・27・30~36 1/4)

SE39(20) SE191(21) SE204(22・23) SE218(28・31) SE232(26・27) SE291(24・25)
SE292(32～35) SE379(36)

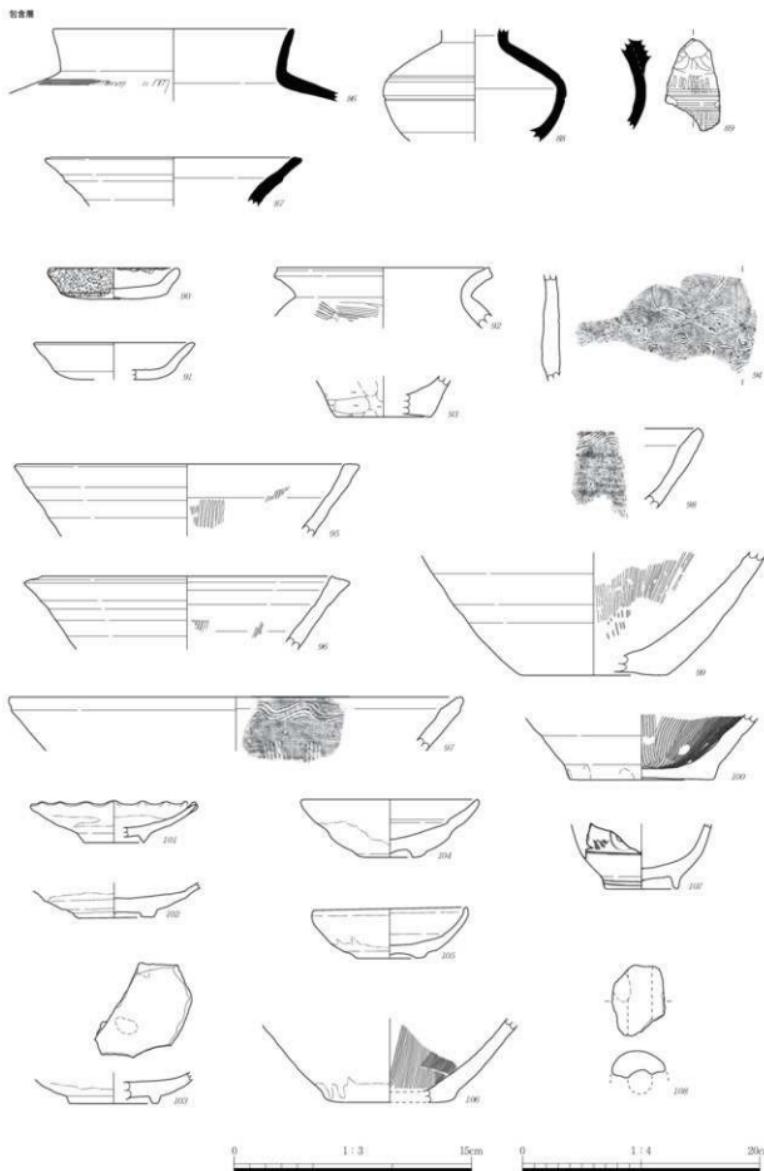


第100図 稲積オオヤチ南遺跡 遺物実測図 (37・38・44・46・47 1:3, 39~43・45・48~57 1:4)

SK27(37) SK187(46) SK200(38~43・47) SK286(44) SK352(45)
包含層

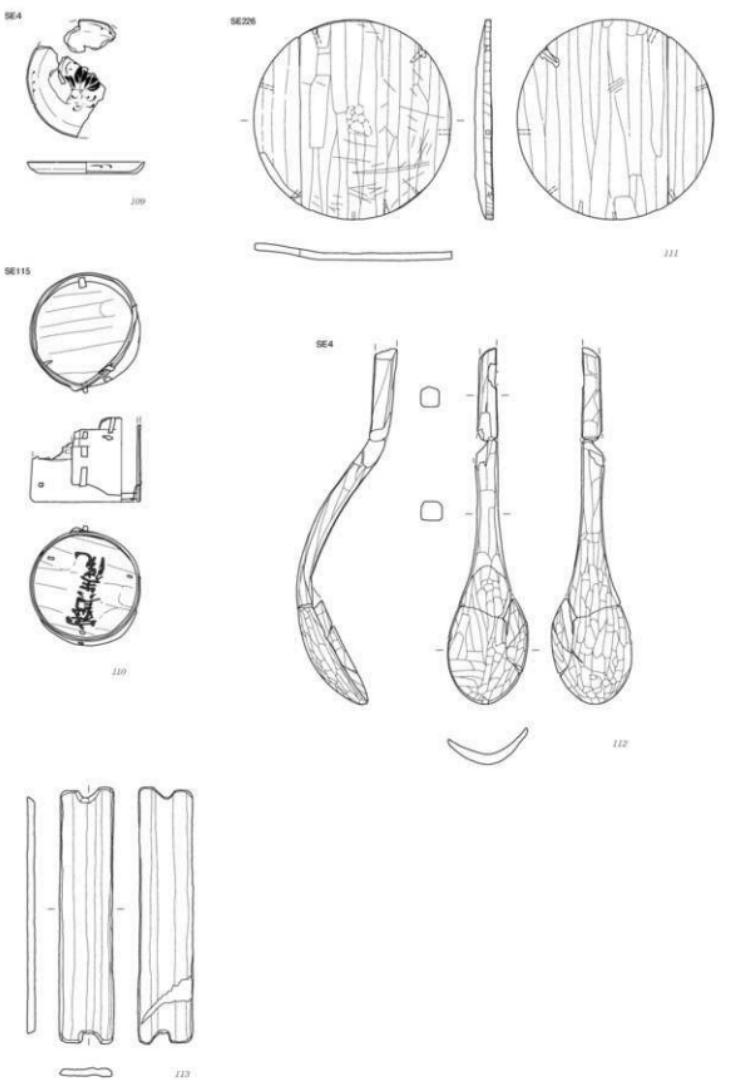


第101図 稲積オヤチ南遺跡 遺物実測図 (58~63・65・66・81~85 1/3, 64・67~80 1/4)
包含層



第102図 稲積オオヤチ南遺跡 遺物実測図 (90・91・101-105・107 1/3, 86~89・92~100・106・108 1/4)
包含層

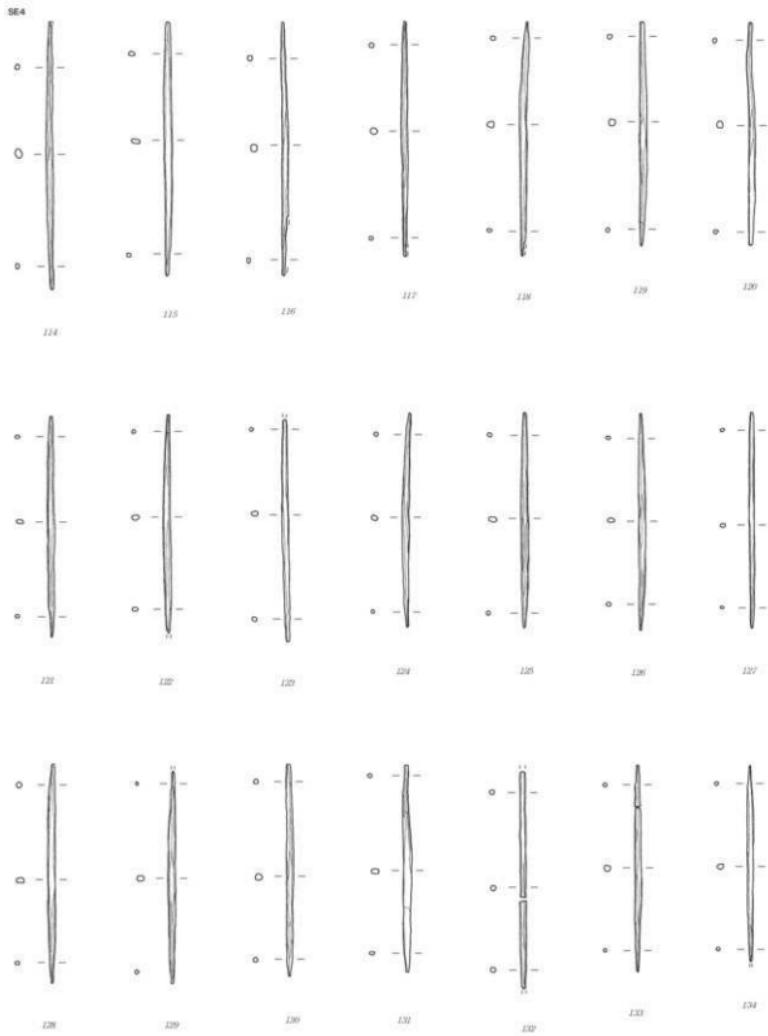
3 遺構と遺物



第103図 稲積才オヤチ南遺跡 遺物実測図 (1/4)

SE4(109・112・113) SE115(110) SE226(111)

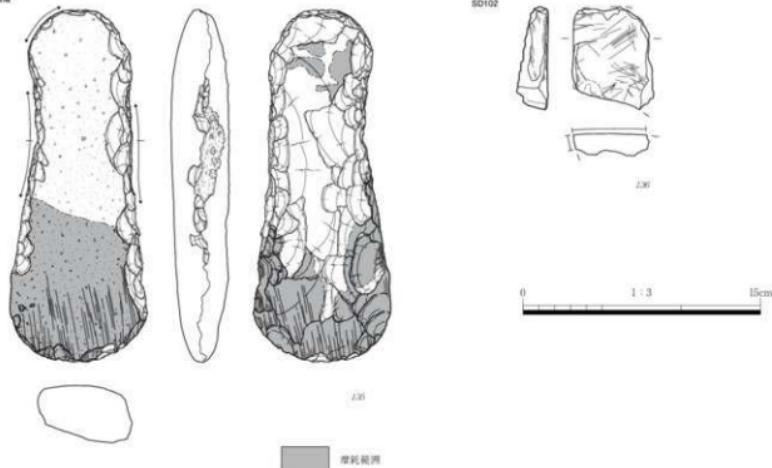




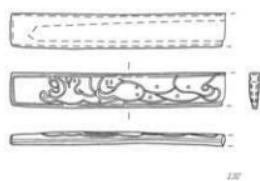
第104図 稲積オオヤチ南遺跡 遺物実測図 (1/4)
SE4

3 遺構と遺物

包含層



包含層



第105図 稲積才オヤチ南遺跡 遺物実測図 (I37 1/2, I35・I36 1/3)

SD102(I36) 包含層

第25表 稲積オオヤチ南遺跡 溝・自然流路一覧

遺構	横幅	規格(m)	出土遺物	時期	特征事項	切り合ひ	辨別	
							写真	図版
SD1 潟	150	0.30	縄文土器(2), 領部器(3), 中世土器(4), 珠洲, 越中瓢箪(6?7), 唐津(5)	近世				
SD2 自然流路		1.52	土師器, 瓢箪器(8), 珠洲	中世		>SD3	90-92	
SD3 自然流路	(1.92)	0.40	縄文土器	縄文		<SD2	90-92	
SD23 潟	0.35	0.15	土師器	中世	SD35と同一遺構	<SD24-25	90-92	
SD24 潟	a0.74 b0.63	a0.29 b0.20	土師器, 領部器(9)	中世		>SD23-31, <SD25	90-92	
SD25 潟	a0.55 b0.83	a0.20 b0.22	縄文土器, 領部器	中世		>SD23-24, SD34	90-92	
SD26 潟	0.23	0.05	縄文土器	中世			90-92	
SD28 潟	a1.87 b0.95	a0.14 b0.10		近世?			90-92	
SD29 潟	0.60	0.24	縄文土器, 領部器	中世			90-92	
SD31 潟	0.39	0.11	縄文土器	近世?			90-92	
SD32 潟	0.35	0.10		中世		<SD25	90-92	
SD34 潟	0.62	0.15		中世		<SD24-25	90-92	
SD102 自然流路	20.00	2.30	土師器(10~13), 領部器(14), 中世土器類, 珠洲(15~17), 瓢箪(18)	近世		>SD602	89-90	75
SD328 潟	1.64	0.14	土師器(18)	不明			89	
SD335 潟	0.96	0.10	土師器, 領部器, 中世製青磁(19)	近世			89	
SD501 自然流路	-	-	土師器	古墳	古墳時代には埋没 余出用(田舎道)	<SD600	87-88	
SD502 潟	1.20	0.15	土師器(21)	古墳		<SD102	87-88	75
SD500 潟	2.20	1.00		古墳		>SD501	87-88	

第26表 稲積オオヤチ南遺跡 戸戸一覧

遺構	平面形	規格(m)	出土遺物	時期	特征事項	切り合ひ	辨別	
							写真	図版
SE4 円	L1.1	1.20	1.40 土師器, 塵器類(109), 瓢箪(112), 加工板(113), 箕(114~134)	中世			94	74
SE21 円	1.16	1.02	0.91	中世			94	
SE22 円	0.93	0.93	1.09 土師器	中世			94	
SE30 円	1.00	0.84	1.60 黒漆器, 石製品	中世			94	74
SE26 請丸方	0.80	0.75	0.94 土師器, 領部器	中世			94	74
SE39 円	0.93	0.82	1.23 土師器, 領部器, 珠洲(20)	中世			94	74
SE115 円	0.96	0.92	0.70 黒漆器, 曲輪(柄杓)(21)	中世?			95	75
SE180 円	0.84	0.72	1.02 越中瓢箪	近世			95	75
SE191 不整	1.20	0.88	1.00 黒漆器, 越中瓢箪(22)	近世			95	
SE204 円	0.92	0.80	1.00 越中瓢箪(22), 肥前陶器, 唐津(23)	近世			95	
SE218 檜円	1.04	0.86	1.10 越中瓢箪(24~31)	近世			95	
SE226 円	2.06	2.00	2.30 曲輪, 円形板(33)	中世?			95	
SE229 円	0.90	0.88	0.20 云母陶器	近世			96	
SE232 不明	1.28	-	0.70 肥前陶器(26), 唐津, 不明陶器(27)	近世			96	
SE261 円	3.24	2.84	2.65 黒漆器, 床, 越中瓢箪(28), 肥前陶器, 唐津(29)	近世			96	
SE292 檜円	1.60	1.20	1.08 珠洲(30~35)	中世	V照		96	75
SE359 円	0.96	0.84	0.80 越中瓢箪(36), 曲輪	近世			96	

第27表 稲積オオヤチ南遺跡 土坑一覧

遺構	平面形	規格(m)	出土遺物	時期	特征事項	切り合ひ	辨別	
							写真	図版
SK27 檜円	0.74	(0.20)	0.11 黑漆器(37)	近世			90	
SK148 不整	0.84	0.76	0.42 黒漆器	近世			97	
SK168 檜円	0.62	0.60	0.18 柱	近世			97	75
SK173 檜円	0.76	0.50	0.46 柱	近世			97	
SK182 円	0.40	0.40	0.26 柱	近世			97	
SK187 長方	1.20	0.60	0.76 土師(48)	近世			97	
SK196 請丸方	1.52	0.88	0.82 柱	近世			97	75
SK200 不整	1.50	1.00	0.50 土師器, 黑漆器, 珠洲(49~63), 越中瓢箪(64~68), 肥前陶器, 土師(67)	近世			91	
SK210 円	0.60	0.60	0.20 柱	近世			97	
SK211 円	0.48	0.44	0.28 柱	近世			97	
SK263 檜円	1.04	0.84	0.70 土師器	近世			97	
SK286 檜円	1.56	1.20	0.60 中世土師器(44)	中世			97	
SK338 円	0.84	0.76	0.58 黑漆器	近世			97	
SK346 円	0.92	0.80	0.64 越中瓢箪	近世			97	
SK352 檜円	(0.84)	0.60	0.10 土師器(45)	不明			97	
SK384 檜円	1.16	0.60	0.20 柱	近世			97	
SK400 檜円	0.56	0.36	0.35 柱	近世			97	

第28表 稲積オオヤチ南遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(1)

標印番号	写真	地名(区)	施設	出土地点	断面	口径(cm)	底径	时期	詳細説明	出土位置	色相	釉面	備考
96 1 77	B	S012 X077/24	土塙跡	柱穴	直筒	5.0	4.0	10YR7/4	12.5cm-黄色	本施設-柱穴			
2 76	A	S01 X067/55	被覆土跡	(柱穴)	直筒	8.5	6.0	10YR6.1	褐色	本施設-柱穴			
3 80	A	S01 X062/32	被覆土跡	柱B	直筒	7.5	5.5	75YR4.1	褐色	本施設-柱穴			
4 78	A	S01 X051/9	中等土塙跡	直筒	10.7	8.0	75YR6.4	12.5cm-黄色	本施設-柱穴				
5 82	A	S01 X060/32	柱溝	直筒	12.4	2.6	5.0	25Y7/2	灰白色	本施設-柱穴			
6 82	A	S01 X062/51	被覆土跡	柱B	直筒	26.0	16.0	25Y7/3	浅黄色	本施設-柱穴			
7 82	A	S01 X062/51	被覆土跡	柱B	直筒	21.6	16.0	10YR8.3	浅黄色	本施設-柱穴			
8 80	A	S02 X069/32	被覆土跡	柱B	直筒	9.0	5.0	N6.0	灰色	本施設-柱穴			
9 80	A	S024 X069/66	被覆土跡	柱B	直筒	7.4	5.0	N6.0	灰色	本施設-柱穴			
10 77	B	S0102 X74/41	土塙跡	直筒	9.8	5.0	5.0	75YR7/6	褐色	本施設-柱穴			
11 77	B	S0102 X74/42	土塙跡	直筒	18.0	5.0	5.0	10YR7/2	12.5cm-黄色	本施設-柱穴			
12 79	B	S0102 X089/42	土塙跡	直筒	9.6	5.0	5.0	51YR6.6	褐色	本施設-柱穴			
13 79	B	S0102 X089/42	土塙跡	直筒	12.6	5.0	5.0	10YR7.2	12.5cm-黄色	本施設-柱穴			
14 80	B	S0102 X61/45	被覆土跡	直筒	10.8	5.0	5.0	75YR7.1	灰白色	本施設-柱穴			
15 81	B	S0102 X57/26	柱溝	直筒	30.6	10.0	5.0	51YR6.1	褐色	本施設-柱穴			
16 81	B	S0102 X64/50	柱溝	直筒	31.2	10.0	5.0	51YR6.1	褐色	本施設-柱穴			
17 80	B	S0102 X65/50	柱溝	直筒	31.2	10.0	5.0	51YR6.1	褐色	本施設-柱穴			
18 76	B	S0102 X035/25	中等土塙跡	直筒	13.2	5.0	5.0	10YR6.6	浅黄色	本施設-柱穴			
19 76	B	S0102 X74/25	中等土塙跡	直筒	13.2	5.0	5.0	10YR6.6	浅黄色	本施設-柱穴			
20 80	A	S020 X74/26	柱溝	直筒	42.0	10.0	5.0	51YR6.1	褐色	本施設-柱穴			
21 81	B	S0102 X74/26	柱溝	直筒	31.4	10.0	5.0	25YR6.4	12.5cm-黄色	本施設-柱穴			
22 82	B	S0204	被覆土跡	直筒	12.2	5.0	5.0	10YR7/1	灰白色	本施設-柱穴			
23 82	B	S0204	柱溝	直筒	13.5	3.7	5.0	25Y7/1	灰白色	本施設-柱穴			
24 82	B	S0204	柱溝	直筒	13.2	3.2	4.4	10YR7/2	浅黄色	本施設-柱穴			
25 82	B	S0204	柱溝	直筒	13.0	3.0	4.0	25YR7/20	浅黄色	本施設-柱穴			
26 82	B	S0204	柱溝	直筒	13.0	3.0	4.0	10YR7/1	灰白色	本施設-柱穴			
27 82	B	S0204	柱溝	直筒	11.5	3.0	4.0	10YR7/1	灰白色	本施設-柱穴			
28 81	B	S0204	柱溝	直筒	4.4	3.0	4.0	25YR5.6	灰白色	本施設-柱穴			
29 82	B	S0204	柱溝	直筒	6.0	3.0	4.0	NT.0	灰白色	本施設-柱穴			
30 82	B	S0204	柱溝	直筒	11.0	3.0	4.0	75YR6.4	12.5cm-黄色	本施設-柱穴			
31 82	B	S0204	柱溝	直筒	21.0	3.0	4.0	75YR6.4	12.5cm-黄色	本施設-柱穴			
32 81	B	S0204	柱溝	直筒	32.4	10.2	3.0	10YR7/1	灰白色	本施設-柱穴			
33 81	B	S0204	柱溝	直筒	29.0	10.2	3.0	10YR6.3	12.5cm-黄色	本施設-柱穴			
34 81	B	S0204	柱溝	直筒	25.7	10.2	3.0	25YR5.1	灰白色	本施設-柱穴			
35 80	B	S0204	柱溝	直筒	31.0	10.2	3.0	NT.0	灰白色	本施設-柱穴			
36 82	B	S0204	柱溝	直筒	31.0	10.2	3.0	10YR6.3	浅黄色	本施設-柱穴			

第28表 稲積才オヤチ南遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(2)

番号	部類	地区名	遺物	出土場所	性別	口径	底径	厚さ	型番	基部	高さ(cm)	底径	時間	調査時間	出土の特徴	褐色面	施墨	備考
100	37	80	A	SK27							11.0	11.0	N7.0	瓦白地		白色釉		
28	81	B	SK20	X617234							12.1	11.0	N7.0	瓦白地		白色釉		
39	82	B	SK20	X507324							14.4	10.0	N6.0	瓦白地		白色釉		
40	81	B	SK20	X577235							12.2	10.0	N6.0	瓦白地		白色釉		
41	81	B	SK20	X507325							12.2	10.0	N6.0	瓦白地		白色釉		
42	82	B	SK20								12.0	10.0	N6.0	瓦白地		白色釉		
43	78	B	SK20								14.0	11.0	N6.0	瓦白地		白色釉		
44	78	B	SK20								11.8	2.3	N7.0	75YR7.6	褐色	白色釉	合計	
45	73	B	SK20								12.6	11.0	N7.0	75YR6.6	褐色	白色釉	合計	
46	79	B	SK187								16.0	11.0	N7.0	75YR7.2	12.5cm黃褐色	白色釉	合計	
47	79	B	SK200	X617234							12.6	11.6	N7.0	75YR7.2	瓦白地	白色釉	合計	
48	77	B	X607180								14.8	11.0	N7.0	75YR7.2	12.5cm褐色	白色釉	合計	
49	77	B	X537229								11.9	11.0	N7.0	75YR7.3	12.5cm黃褐色	白色釉	合計	
50	77	B	X537229								16.5	11.0	N7.0	75YR7.3	12.5cm褐色	白色釉	合計	
51	77	B	X711709								17.7	11.0	N7.0	75YR7.3	12.5cm褐色	白色釉	合計	
52	52		X5072109								12.5	11.0	N7.0	75YR7.4	12.5cm褐色	白色釉	合計	
53	77	B	X507190								12.5	11.0	N7.0	75YR7.4	12.5cm褐色	白色釉	合計	
54	77	B	X507190								10.3	11.0	N7.0	75YR7.6	褐色	白色釉	合計	
55	77	B	X5172109								12.3	11.0	N7.0	75YR6.6	褐色	白色釉	合計	
56	77	B	X5272109								13.7	11.0	N7.0	75YR7.4	12.5cm褐色	白色釉	合計	
57	76	B	X587323								4.3	4.0	N7.0	75YR6.4	12.5cm黃褐色	白色釉	合計	
101	58	77	B	X557461							12.1	11.0	N7.0	75YR6.8	褐色	白色釉	合計	
59	76	B	X657345								12.5	11.0	N7.0	75YR6.4	12.5cm褐色	白色釉	合計	
60	78	B	X537238								12.5	11.0	N7.0	75YR6.4	12.5cm黃褐色	白色釉	合計	
61	78	B	X6072109								12.5	11.0	N7.0	75YR7.3	12.5cm黃褐色	白色釉	合計	
62	78	B	X627345								12.5	11.0	N7.0	75YR6.4	12.5cm黃褐色	白色釉	合計	
63	78	B	X5972038								12.5	11.0	N7.0	75YR7.4	12.5cm黃褐色	白色釉	合計	
64	77	B	X607345								12.5	11.0	N7.0	75YR7.4	12.5cm褐色	白色釉	合計	
65	79	B	X557341								6.8	4.0	N7.0	75YR7.6	褐色	白色釉	合計	
66	79	B	X557341								4.1	4.0	N7.0	75YR7.6	褐色	白色釉	合計	
67	77	B	X607345								3.2	3.0	N7.0	75YR8.3	12.5cm褐色	白色釉	合計	
68	79	B	X577323								16.8	11.0	N7.0	75YR7.4	12.5cm黃褐色	白色釉	合計	
69	79	B	X697220								12.5	11.0	N7.0	75YR7.4	12.5cm褐色	白色釉	合計	
70	79	B	X577323								12.5	11.0	N7.0	75YR6.4	12.5cm褐色	白色釉	合計	
71	79	B	X557341								12.5	11.0	N7.0	75YR7.3	12.5cm褐色	白色釉	合計	
72	79	B	X557341								12.5	11.0	N7.0	75YR6.6	褐色	白色釉	合計	
73	79	B	X537238								21.2	11.0	N7.0	75YR6.6	12.5cm褐色	白色釉	合計	
74	79	B	X711709								9.2	4.0	N7.0	75YR7.4	12.5cm褐色	白色釉	合計	
75	79	B	X577323								12.5	11.0	N7.0	75YR6.6	褐色	白色釉	合計	

第28表 稲積オヤチ南遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(3)

種別 標本番号	写真 区画	地区名	遺物 名	生地点	種類	形状 (口径) 直徑(cm)	厚さ (mm)	底形	剖面	測定範囲	出土特徴	色調	施墨	備考
101 76 H		X62717050	土器	新所	盆形					57Y6E.6	褐色			
77 79 B		X5917300	土器	新所	盆形			凸盤		10Y7E.4	褐色 白色 青白			
78 79 B		X7117009	土器	新所	盆形			六角		73Y6E.6	褐色 白色 青白			
79 79 B		X7217275	土器	新所	盆形			六角		10Y7E.4	褐色 白色 青白			
80 79 B		X5717275	土器	新所	盆形	11.3	1.7	六角		25Y6E.1	褐色			
81 80 B		X6017009	土器	新所	盆形	15.4		六角		57Y3.2	褐色 白色			
82 80 B		10	土器	新所	盆形	19.6		六角		10Y7.0	褐色 白色			
83 80 A		X7317648	土器	新所	盆形			六角		10Y7.0	褐色 白色			
84 80 A		X7117500	土器	新所	盆形	22.8	4.3	六角		10Y6.0	褐色 白色			
85 80 B		X6717009	土器	新所	盆形	26.0	1.8	六角		10Y5.0	褐色 白色			
102 86 B		X53717009	土器	新所	盆形	28.0	1.8	六角		25Y7.1	褐色 白色			
87 80 A		X52717009	土器	新所	盆形	29.6		六角		10Y5.0	褐色 白色			
88 80 A		X7117009	土器	新所	盆形	31.0		六角		10Y6.0	褐色 白色			
89 80 A		X5717500	土器	新所	盆形	31.0		六角		10Y6.0	褐色 白色			
90 78 B		X651743	中腹土器	新所	盆	7.9	2.0	中腹		10Y8.3	褐色 白色			
91 78 B		X6017009	中腹土器	新所	盆	10.0		中腹		10Y7.3	褐色 白色			
92 80 B		X5917300	盆形	新所	盆	18.4		中腹		73Y7.1	褐色			
93 80 B		X6817009	盆形	新所	盆	18.6		中腹		10Y6.0	褐色 白色			
94 76 B		X58017009	盆形	新所	盆	20.0		中腹		25Y6.1	褐色 白色			
95 81 A		X6517500	盆形	新所	盆	29.0		中腹		10Y6.1	褐色 白色			
96 81 B		X641750	盆形	新所	盆	27.4		中腹		10Y6.0	褐色 白色			
97 81 B		X5817009	盆形	新所	盆	38.2		中腹		10Y6.0	褐色 白色			
98 81 B		X611729	盆形	新所	盆			中腹		10Y6.0	褐色 白色			
99 81 B		Y29	盆形	新所	盆	11.8	1.0	中腹		10Y6.1	褐色			
100 81 A		X6517648	盆形	新所	盆	32.2	中腹			10Y4.1	褐色 白色			
101 81 B		X6217334	盆形	新所	盆	30.6	2.7	38.近底		10Y7.3	褐色 白色			
102 82 B		X5717300	盆形	新所	盆	47	1.7	38.近底		73Y8.3	褐色 白色			
103 82 B		X6017009	盆形	新所	盆	5.6	1.7	38.近底		10Y7.4	褐色 白色			
104 82 B		X6017300	盆形	新所	盆	31.7	4.2	38.近底		10Y7.1	褐色 白色			
105 82 B		X651730	盆形	新所	盆	9.6	3.2	4.1	盆底	73Y6.3	褐色 白色			
106 82 B		X6217334	盆形	新所	盆	30.7	3.0	38.近底		10Y8.2	褐色 白色			
107 82 B		X581734	盆形	新所	盆	4.4	1.7	38.近底		10Y6.0	褐色 白色			
108 79 B		X561741	土器	新所	土器	4.5	3.2	38.近底		10Y8.2	褐色 白色			
														10Y17.6g

第29表 稲積オオヤチ南遺跡 木製品一覧

編 目	遺物 番号	写真 図版	遺構	出土地点	種類	法量(cm)				樹種	採取日	備考
						長さ	幅	厚さ	重さ			
103	I09	83	SE4	底面	漆器里	口19.90	部高1.00	底深8.10	トヨコ属	楠木地絨目	内面漆水絵外面黒 漆文絵	
103	I10	83	SE115		漆物 (柄杓)	(9.20)	(9.20)	(7.10)	6.70	欅板欅江 楓板欅江	黒唐草・曾生虎 (欅板外絵)	
103	I11	84	SE226		円形板	16.80	16.60	0.60	1.10	楓目		
103	I12	83	SE4	底面	乾	(30.10)	6.70	0.90	カキノキ属	削出		
103	I13	84	SE4		加工板	21.60	4.70	0.70	1.10	楓目		
104	I14	85	SE4	遺物	箸	22.60	0.70	0.80	2.80	削出		
104	I15	85	SE4	遺物	箸	21.50	0.75	0.80	2.80	削出		
104	I16	85	SE4	遺物	箸	21.40	0.65	0.60	2.80	削出		
104	I17	85	SE4	遺物	箸	19.90	0.60	0.50	2.80	削出		
104	I18	85	SE4	遺物	箸	19.80	0.60	0.50	2.80	削出		
104	I19	85	SE4	遺物	箸	18.90	0.60	0.60	2.80	削出		
104	I20	85	SE4	遺物	箸	18.90	0.50	0.60	2.80	削出		
104	I21	85	SE4	遺物	箸	18.70	0.60	0.30	2.80	削出		
104	I22	85	SE4	遺物	箸	(18.40)	0.60	0.40	2.80	削出		
104	I23	85	SE4	遺物	箸	(18.70)	0.60	0.40	2.80	削出		
104	I24	85	SE4	遺物	箸	18.10	0.50	0.40	2.80	削出		
104	I25	85	SE4	遺物	箸	18.10	0.70	0.40	2.80	削出		
104	I26	85	SE4	遺物	箸	18.30	0.60	0.40	2.80	削出		
104	I27	85	SE4	遺物	箸	18.20	0.40	0.30	2.80	削出		
104	I28	85	SE4	遺物	箸	18.50	0.70	0.40	2.80	削出		
104	I29	85	SE4	遺物	箸	(17.90)	0.60	0.40	2.80	削出		
104	I30	85	SE4	遺物	箸	17.90	0.60	0.50	2.80	削出		
104	I31	85	SE4	遺物	箸	17.60	0.76	0.40	2.80	削出		
104	I32	85	SE4	遺物	箸	(18.40)	0.40	0.40	2.80	削出		
104	I33	85	SE4	遺物	箸	(17.50)	0.60	0.50	2.80	削出		
104	I34	85	SE4	遺物	箸	(16.50)	0.50	0.40	2.80	削出		

第30表 稲積オオヤチ南遺跡 石製品一覧

編 目	遺物 番号	写真 図版	遺構	出土地点	種類	法量(cm)				材質	備考
						長さ	幅	厚さ	重さ		
105	I35	86	B	X59Y22層	打製石斧	22.25	8.65	3.67	927.77	流紋岩	
105	I36	86	SD102	X72Y46	砾石	6.5	(5.18)	2	79.01	流紋岩	

第31表 稲積オオヤチ南遺跡 金属製品一覧

編 目	遺物 番号	写真 図版	地区	出土地点	種類	法量(cm)				材質	備考
						長さ	幅	厚さ	重さ		
105	I37	86	B	X67Y32層	小柄	(9.1)	14	0.4	13.3		

4 総 括

稲積オオヤチ南遺跡は、余川川と宝達丘陵から富山灣に向かって延びる小丘陵支群に挟まれた狭隘な平地に立地する。北側の丘陵上には稲積オオヤチ古墳群、稲積ウシロ古墳群、やや離れるが北東には阿尾島田古墳群が立地する。これらの古墳群を築いた地元の有力者の集落が近隣に存在することは予測されたが、残念ながら今回の稲積オオヤチ南遺跡の発掘調査においては、当該期の遺物が若干出土するものの、集落の存在を明らかにする遺構は検出することができなかった。これは丘陵部と余川川の間が一番近接している場所という立地によることが大きいと考える。古墳時代以降の古代においても、遺物は出土しつつも僅かであり、建物等の遺構も検出されてはいない。

中世に入ると、丘陵上の三角山には稲積城跡が築かれている。稲積城跡は、『氷見市史』によれば、山名の三角山から「三角山城」、または山名を鏡山とすることから「鏡山城」とする説があり、「三角山城」の説を探れば、観応3(1352)年の「斎藤六章房軍忠状」に桃井直常方が三角山城を守っていたという内容がある。この頃になると、余川川の河道も安定したと見え、稲積オオヤチ南遺跡においても、建物こそは検出はされていないが、井戸や溝の生活の跡が見つかっている。その後近世に入ると、17世紀前半頃の柱穴や井戸が見つかっており、規模こそ不明であるが建物の存在は明らかである。集落の広がりが余川川左岸にまで広がっていたことがわかる。

このように稲積オオヤチ南遺跡は、発掘調査の成果としては寡少な遺跡ではあったが、余川川左岸の遺跡の状況を知る上での一助となったと言えよう。
(島田美佐子)

第VI章 宇波西遺跡

1 概 要

宇波西遺跡は三方を宝達丘陵に囲まれ、一方を富山湾に面した、宇波川左岸の沖積平野に立地している。宇波西遺跡では主に弥生時代終末期～古墳時代初頭、古代、中近世の遺構が確認された。

弥生時代終末期～古墳時代初頭の遺構はB1地区からB2地区にかけて分布しており、自然流路(SD1001)、溝、土坑、木組遺構が確認されている。古代の遺構はB1地区からB2地区にかけて流れている自然流路の他は、A地区の中央からやや西南側に密に分布している。遺構には掘立柱建物4棟、堅穴建物2棟、構列1条、自然流路、溝15条以上、井戸2基、土坑250基が確認された。中近世の遺構はB1地区からB2地区にかけて流れているSD1001の周辺と、A地区の中央からやや北側に分布している。掘立柱建物8棟、自然流路、溝10条以上、井戸2基、土坑150基以上が確認されている。

2 層 序

調査はA地区、B1地区、B2地区の3地区に分割して実施し、現況は水田である。基本層序は、I層で表土・耕作土、II層で古代～中近世の遺物包含層、III層で基盤層となっている。I層は黒褐色シルト質粘土を基調とし、層厚はB1・B2地区で約0.9m、A地区で0.2mを測る。II層は黄灰色シルト質粘土を基調とし、広がりはA地区の西側で0.2mであるのに対し、東側に向かって薄くなり、掘立柱建物群が分布している範囲ではほとんど認められなくなる。III層は暗オリーブ灰色粘土質砂～礫であり、遺構はこのIII層上面で検出された。

3 遺 構

(1) 弥生時代終末期～古墳時代初頭

A 溝・自然流路

1001号自然流路(SD1001、第107・110・111図、図版94)

B1地区からB2地区北側を東流する自然流路で、下流ほど川幅が広い。幅27.5m、深さ2.2mを測る。埋土は黒色粘土質シルトを基調とする。弥生時代終末期から中世にかけてながれていたとみられ、堆積と浸食を繰り返しながら埋没していったとみられる。その支流であるSD1001-b・cは本流であるSD1001から分流し、SX434とSX435付近で合流する。出土遺物は弥生土器、土師器、須恵器、黑色土器、灰釉陶器、製塙土器、珠洲、瀬戸、中国製白磁、中国製青磁、唐津、土錘、木製品、石製品、金属製品、種実がある。

1550号溝(SD1550、第107・111図)

B2地区の北側のやや直線的に延びる溝で、北端はSD1001に重複する。幅3.65m、深さ0.21mを測る。埋土はオリーブ黒色粘土質シルトを基調とする。出土遺物には土師器がある。SD1001-bなどと、ほぼ同時期に構築された可能性がある。

1556号溝 (S D1556, 第107・111図)

B 2 地区の北西端を東流する溝で、北端は S D1001 - c に切られる。幅238m, 深さ0.39mを測る。埋土は黒褐色粘質シルトを基調とする。出土遺物には縄文土器、弥生土器(9・14~18)、土師器、棒材(233)がある。

1557号溝 (S D1557, 第107・111図)

B 2 地区の北西端にある小規模な溝で、Y字状を呈する。幅234m, 深さ0.25mを測る。埋土はオリーブ黒色粘質シルトを基調とする。出土遺物には土師器がある。S D1001 - b などと、ほぼ同時期に構築された可能性がある。

B 木組造構**434号木組造構 (S X434, 第112図, 図版89)**

B 2 地区の西端に S D1001 - b・c に面する落ち際に構築されており、北側2m程の場所には S X435が並列している。岸側には長さ1.85m, 幅1.48m, 深さ0.28mの穴を掘り、川側の両サイドに板材を打設し、その前後に2枚の板材を渡すように配置していることから、平面形は長方形の箱形を呈する。2枚の板材の内、穴側のものは半分に折れているが上端には、三角形の切れ込みが施されている。埋土はオリーブ灰色~黒色シルト質粘土を基調とする。用途としては、岸側にある穴に水を満たし、板材上端部に三角形の切れ込みが施された部分からオーバー・フローした水が長方形の枠内へ溜める、水溜めのような機能が推定される。出土遺物には土師器(24・25)、須恵器、板材(243・244・247)、棒材、杭状、種実がある。

435号木組造構 (S X435, 第112図, 図版89)

B 2 地区の西端に S D1001 - b・c に面する落ち際に、S X434と並列している。構造は S X434と類似するが、両サイドの板材は打設していない。岸側には長さ1.61m, 幅1.2m, 深さ0.42mの穴を掘り、川側に両サイドに板材を渡し、その両側に2枚の板材を渡すように配置し、上から見ると長方形の箱形を呈する。2枚の板材の内、穴側のものの上端には、三角形の切れ込みが施されている。切れ込みの入った板の大きさは、長さ143.6cm、幅47.8cm、厚さ3.8cmを測る(240)。S X434と比較して残りは良好でない。埋土はオリーブ灰色~黒色シルト質粘土を基調とする。出土遺物には弥生土器(19~22)、土師器(23)、板材(240・245・246)、棒材(248)、種実がある。

(2) 古 代**A 掘立柱建物****1号掘立柱建物 (S B 1, 第117図, 図版91)**

A 地区の中央からやや西南側に位置する。規模は3間×2間の側柱建物である。桁行7m、梁行4.35m、面積は30.45m²である。主軸はN-43°-Wである。柱穴の平面形は円形~楕円形で、規模は径0.39~0.95m、深さは0.2~0.68mである。埋土は黒褐色粘土質シルトを基調とし、下位ほど粘性に富む。S P446から最大幅0.22mの柱根の残欠が確認された。出土遺物は S P245・284・443から土師器、S P441から棒材、S P444・473・478から土師器、須恵器(35・36) S P446から土師器、須恵器(36)がある。

2号掘立柱建物 (S B 2, 第117図, 図版91)

A 地区の中央からやや西南側に位置する。規模は3間×2間の側柱建物である。桁行6.1m、梁行4.05m、面積は24.71m²である。主軸はN-37°-Wである。柱穴の平面形は円形~楕円形で、規模は

径0.31～0.64m、深さは0.13～0.39mである。埋土は黒色～黒褐色粘土質シルトを基調とし、下位ほど粘性に富む。柱根やその痕跡を裏付けるようなものは確認されなかった。若干主軸方位が異なるが、東側にあるS A 1を伴うとみられる。出土遺物はS P 135・147から土師器、S P 153から土師器、須恵器(37)がある。

3号掘立柱建物 (S B 3、第118図、図版92)

A地区の中央からやや西南側に位置する。規模は3間×2間の側柱建物である。桁行5.6m、梁行4.25m、面積は23.8m²である。主軸はN-20°-Wである。柱穴の平面形は円形～楕円形で、規模は径0.26～0.77m、深さは0.06～0.49mである。埋土は黒褐色粘土質シルトを基調とし、下位ほど粘性に富む。S P 330から最大幅0.1mの柱根の残欠が確認された。S D 122とS D 185とは主軸方位が一致していることから、同時期に存在した可能性が高い。出土遺物はS P 318・320・352から土師器、S P 331・334・339・427から土師器、須恵器、S P 410から土師器、須恵器(38)、種実、S P 428から土師器、不明土製品がある。

4号掘立柱建物 (S B 4、第118図、図版92)

A地区の中央からやや南側に位置する。規模は3間×2間の側柱建物である。桁行5.95m、梁行4.3m、面積は25.59m²である。主軸はN-41°-Wである。柱穴の平面形は隅丸方形～円形で、規模は径0.28～0.75m、深さは0.1～0.4mである。埋土は黒褐色粘土質シルトを基調とし、下位ほど粘性に富む。S P 223から最大幅0.07mの柱根の残欠が確認された。また、S P 365では埋土断面に柱の痕跡とみられる幅0.22mの土層が確認された。S D 72とは主軸方位が直交していることから、同時期に存在した可能性がある。出土遺物はS P 190から土師器、S P 191から須恵器がある。

B 壊穴建物

235号壊穴建物 (S I 235、第119図、図版93)

A地区の中央からやや南側に位置する。規模は長径3.93m、短径2.28m、深さ0.08mである。面積は8.55m²で、平面形は隅丸方形を呈する。南北棟で、埋土は黒褐色から黄灰色細～中粒砂質シルトを基調とし炭化物を多く含んでいる。カマドなどの付属施設は確認されていないが炭化物層の広がりが2箇所検出された。炭化物範囲Aで長径1.55m、短径0.9m、深さ0.13m、炭化物範囲Bで長径1.31m、短径0.95m、深さ0.1mの窪みに炭化物が多く含まれていた。S B 1とは位置的に重複しているが、柱穴との切り合は認められない。出土遺物には、土師器、須恵器の蓋(39～43)、杯(44～46)、壺(47～50)、製塙土器、種実がある。

300号壊穴建物 (S I 300、第119図、図版93)

A地区の中央からやや南側に位置する。規模は長径2.93m、短径2.06m、深さ0.08mである。面積は7.73m²で、平面形は方形を呈する。南北棟で、埋土は灰色細～中粒砂質シルトを基調とし炭化物を多く含んでいる。カマドなどの付属施設は確認されていないが炭化物層の広がりが1箇所確認された。長径1.02m、短径(0.52m)、深さ0.09mの窪みに炭化物が多く含まれていた。S B 1の柱穴との切り合は認められ、S I 300が先行する。出土遺物には、土師器の把手(52)や須恵器の蓋(51)、製塙土器がある。

C 棚列

1号棚列 (S A 1、第120図)

A地区的中央からやや西南側に位置する。3間の規模を有し、1間の距離が1.75～2.1mで、主軸はN-45°-Wである。柱穴の平面形は円形で、規模は径0.35～0.95m、深さは0.11～0.26mである。埋

土は黄灰色～黒褐色粘土質シルトを基調とし、下位ほど粘性に富む。主軸方位が若干異なるがSB2に伴う柵列とみられる。

D 溝

72号溝（SD72、第116・120図）

A地区の中央に位置する溝で、北端はSD432により途切れている。幅1.26m、深さ0.31mを測る。埋土は黄褐色砂礫を基調とする。SB4とは主軸方位が直交するように配置されており、同時に存在していた可能性がある。また、SD72の埋土は砂礫であるため、通路として利用されていた可能性もなくもないが、形態や埋土の砂礫の淘汰が良く、土器片などの遺物がみられないことなどから、溝として報告する。

122号溝（SD122、第115・120図）

A地区の中央からやや南側に位置するL字状に巡る溝で、南端はSD201により途切れている。幅0.68m、深さ0.16mを測る。埋土は黒褐色粘土質シルトを基調とする。SD185とは本来同一の造構で、コ字状に巡る溝の可能性が高い。SB3とは主軸方位が同じことからSB3を区画していた溝の可能性が高い。出土遺物には土師器、須恵器(89・90・92・93)、製塩土器がある。

185号溝（SD185、第115・120図）

A地区の中央からやや南側に位置する直線的に延びる溝である。南端はSD201により途切れている。幅1.04m、深さ0.38mを測る。埋土は黒褐色粘土質シルトを基調とする。SD122とは本来同一の造構の可能性が高い。出土遺物には土師器、須恵器(91)、製塩土器がある。

315号溝（SD315、第115・120図）

A地区の中央からやや南側に位置する直線的に延びる溝で、やや小規模である。東端はSD424に切られる。幅0.24m、深さ0.08mを測る。埋土は黒褐色粘土質シルトを基調とする。SB3に伴う溝の可能性がある。出土遺物には土師器、須恵器がある。

E 井 戸

258号井戸（SE258、第120図）

A地区の中央からやや南側に位置する素掘り井戸である。長径1.59m、短径1.32m、深さ1.01mを測り、断面は播鉢状を呈する。井戸の東側には検出面から約0.75mの深度にテラス状の平坦部が認められる。埋土は黒褐色粘土質シルトを基調とする。出土遺物は土師器、須恵器がある。

460号井戸（SE460、第120図）

A地区の西端に位置する素掘り井戸である。長径1.43m、短径1.4m、深さ1.18mを測り、断面は逆台形を呈する。埋土は灰オリーブ～オリーブ黒色粘土質シルトを基調とする。出土遺物は土師器、須恵器がある。

F 土 坑

211号土坑（SK211、第121図）

A地区の中央からやや南側に位置する。梢円形を呈する土坑で、長径1.88m、短径1.57m、深さ0.38mを測る。SB1の柱穴であるSP478とは重複しているが先後関係は不明である。埋土は灰～黒褐色粘土質シルトを基調とし、出土遺物は土師器、須恵器がある。

231号土坑（SK231、第121図）

A地区の中央からやや南側に位置する。梢円形を呈する土坑で、長径2.46m、短径1.25m、深さ0.22mを測る。SB1の柱穴である。埋土は黄灰～黒色粘土質シルトを基調とし、出土遺物は土師器、須

惠器がある。

362号土坑（S K362、第121図）

A地区の中央からやや南側のS D201の落ち際に位置する。方形を呈する土坑で、長径4.11m、短径(4m)、深さ0.2mを測る。S B 1の柱穴であるS P478とは重複しているが先後関係は不明である。また、S D292・293とは切り合いからS K362が先行する。埋土は黒褐色粘土質シルトを基調とし、出土遺物は土師器、須恵器がある。

475号土坑（S K475、第120図）

A地区の西端に位置する方形に近い形状を有する土坑で、長径3.52m、短径3.44m、深さ0.16mを測る。S B 1の柱穴であるS P478とは重複しているが先後関係は不明である。埋土は黒褐色粘土質シルトを基調とし、出土遺物は土師器(115・116)、須恵器(114)、製塩土器、珠洲、不明土製品がある。

(3) 中近世

A 挖立柱建物

5号掘立柱建物（S B 5、第128図）

A地区の中央から西南側に位置する。規模は3間×2間の総柱建物である。桁行8.55m、梁行5.85m、面積は50.02m²である。主軸はN-22°-Eである。柱穴の平面形は円形で、規模は径0.23~0.39m、深さは0.07~0.33mである。埋土は黒色粘土質シルト～黒褐色粘土質を基調とし、下位ほど粘性に富む。S P91から最大径0.12mの柱根が確認された。

6号掘立柱建物（S B 6、第128図）

A地区の中央から西南側のS B 5の西側に位置する。規模は3間×2間の総柱建物である。桁行5.9m、梁行5.45m、面積は32.16m²である。主軸はN-22°-Eである。柱穴の平面形は円形で、規模は径0.17~0.37m、深さは0.09~0.31mである。埋土は黒褐色粘土質シルトを基調とし、下位ほど粘性に富む。S P41から最大径0.18mの柱根が確認された。

7号掘立柱建物（S B 7、第129図）

A地区的北端に位置する。規模は2間×2間の総柱建物である。桁行4.9m、梁行4.6m、面積は22.54m²である。主軸はN-20°-Eである。柱穴の平面形は円形～楕円形で、規模は径0.23~0.41m、深さは0.12~0.21mである。埋土は黒色～黒褐色粘土質シルトを基調とし、下位ほど粘性に富む。S P41から最大径0.18mの柱根が確認された。

8号掘立柱建物（S B 8、第129図、図版94）

A地区的北東側のS B 9・S B 10の北に位置する。規模は1間×1間の小規模な建物である。桁行3.2m、梁行3m、面積は9.6m²である。主軸はN-21°-Eである。柱穴の平面形は円形で、規模は径0.55~0.81m、深さは0.17~0.27mである。埋土は黒色粘土質シルトを基調とし、下位ほど粘性に富む。S P531やS P532から最大径0.20~0.26mの柱根が確認された。出土遺物はS P532から須恵器がある。

9号掘立柱建物（S B 9、第130図、図版94）

A地区的北東側のS B 8の南に位置する。規模は4間×3間の総柱建物である。桁行8.85m、梁行7.4m、面積は65.49m²である。主軸はN-11°-Wである。柱穴の平面形は円形～楕円形で、規模は径0.2~0.48m、深さは0.15~0.44mである。埋土は黄灰～黒褐色粘土質シルトを基調とし、下位ほど粘性に富む。出土遺物はS P539から板材、S P545から磨製石斧(258)がある。

10号掘立柱建物 (S B 10, 第131図, 図版94)

A地区の北東側に位置し, S B 9と重複する。規模は4間×3間の縦柱建物である。桁行8.5m, 梁行6.8m, 面積は55.04m²である。主軸はN-8°-Wである。柱穴の平面形は円形～楕円形で, 規模は径0.16～0.45m, 深さは0.1～0.44mである。埋土は黄灰～黒褐色粘土質シルトを基調とし, 下位ほど粘性に富む。出土遺物はS P 525から種実がある。

11号掘立柱建物 (S B 11, 第132図)

A地区の東端に位置する。規模は1間×1間の小規模な建物である。桁行4m, 梁行3m, 面積は12m²である。主軸はN-47°-Wである。柱穴の平面形は円形～楕円形で, 規模は径0.41～0.58m, 深さは0.31～0.56mである。埋土は黒色粘土質シルトから黄灰色シルト質粘土を基調とし, 下位ほど粘性に富む。S P 511, S P 514から最大幅0.20mの柱根が確認された。

12号掘立柱建物 (S B 12, 第132図, 図版94)

A地区の東端に位置する。規模は1間×1間の小規模な建物である。桁行3.5m, 梁行3m, 面積は10.5m²である。主軸はN-20°-Eである。柱穴の平面形は円形で, 規模は径0.39～0.5m, 深さは0.18～0.25mである。埋土は黒色粘土質シルトを基調とし, 下位ほど粘性に富む。S P 558・559・564から最大径0.14～0.18mの柱根が確認された。

B 溝**71号溝 (S D 71, 第125・126・132図)**

A地区の西端から東側に延びる溝で, 東端はS D 432によって途切れる。幅1.79m, 深さ0.21mを測る。埋土は黒褐色粘土質シルトを基調とする。S D 375とは本来同一の遺構の可能性が高い。出土遺物には須恵器がある。

375号溝 (S D 375, 第124・133図)

A地区の西端から東側に延びる溝である。幅2.13m, 深さ0.17mを測る。埋土は黒色粘質シルトを基調とする。S D 71とは本来同一の遺構の可能性が高い。出土遺物には土師器がある。

398号溝 (S D 398, 第124・133図)

A地区の西端から東側に延びる溝である。幅5m, 深さ0.33mを測る。埋土は黒色粘質シルトを基調とする。

C 井戸**1537号井戸 (S E 1537 a・b, 第133図, 図版94)**

B2地区の北側に位置する石組井戸である。2基が重複しており, a井戸はb井戸より後出する。a井戸は長径2.2m, 短径2.16m, 深さ0.52mを測り, 断面形は不明瞭であるが, 石組みが一段分程度残存している。底には水溜用の曲物の残欠が検出されている。埋土はオリーブ黒～黒色シルトを基調とする。出土遺物は土師器, 須恵器, 珠洲, 漆器, 曲物, 下駄(229・230), 円形板(223)がある。a井戸の東側にb井戸があり, 石組みが一段分程度残存している。底には水溜用の曲物の残欠が認められる。埋土はオリーブ黒～黒色シルトを基調とする。出土遺物は土師器, 曲物がある。

1538号井戸 (S E 1538, 第133図)

B2地区の北側に位置する石組井戸であるが, 石組み自体は原形を留めていない。長径1.08m, 短径0.72m, 深さ0.9mを測り, 断面は不明。埋土はオリーブ黒～黒褐色粘土質シルトを基調とする。底には水溜用の曲物の残欠が認められ, 中位で南北方向に約0.3m崩れた状態で検出された。出土遺物は弥生土器, 土師器, 須恵器, 曲物がある。

D 土 坑

81号土坑（S K81、第133図）

A地区の西側に位置し、円形を呈する。長径0.31m、短径0.27m、深さ0.18mを測る。埋土は黒褐色粘土質を基調とし、出土遺物は須恵器がある。

394号土坑（S K394、第133図）

A地区の西端に位置し、円形を呈する。長径0.28m、短径0.28m、深さ0.16mを測る。埋土は黒色粘質シルトを基調とし、出土遺物は珠洲がある。

395号土坑（S K395、第133図）

A地区の西側に位置し、楕円形を呈する。長径0.49m、短径0.47m、深さ0.08mを測る。遺構内からは木製品・板材(256)が出土している。埋土は黒色粘質シルトを基調とする。

519号土坑（S K519、第133図）

A地区的北側のS B 9・S B 10の東に位置する。円形を呈する土坑で、長径0.73m、短径0.62m、深さ0.58mを測る。他と比較してやや深度のある土坑である。埋土は黒褐色シルト質粘土を基調とし、出土遺物は漆器皿(217)、種実がある。

4 遺 物

出土遺物には弥生時代終末期～古墳時代初頭では土器、古代では土師器・須恵器・墨書き土器・線刻土器・灰釉陶器・綠釉陶器・黒色土器・赤彩土器・製塙土器・土鍤がある。中近世では中世土師皿・珠洲・越前・瀬戸美濃・中国製青磁・中国製白磁・土師質土器・越中瀬戸・土鍤・銅錢がある。その他には包含層・SD1001出土の木製品・石製品・金属製品等がある。

I～34は弥生時代終末期～古墳時代初頭の土器、35～173は古代の土器・土製品、174～216は中近世の土器・陶磁器・土製品である。217～256は木製品、257～261は石製品、262～271は金属製品である。

(1) 土器・陶磁器・土製品（第134～147図、図版95～108）

I～34は弥生土器もしくは、土師器で、I～25は遺構出土、26～34は包含層出土のものである。

I～13はSD1001出土の弥生土器である。Iは有段壺で、外面はハケメ調整が施される。2は有段の短頸壺で、外面ミガキ調整。3は広口壺か。4は有段気味の壺で、口径17cmを測る。5は小型の有段壺で器高は11.4cmである。6は広口壺で、外面ハケメ調整。7は短頸壺とみられる個体で、平縁口縁気味である。8は短頸壺で、内外面ハケメ調整。9は長頸壺とみられる個体で、外面にミガキ調整、赤彩が施される。10・11は短頸壺とみられる個体である。12は有段器台で、内外面ミガキある。13は蓋で1箇所に穿孔が施される。14～18はSD1566出土の弥生土器である。14は付加状壺である。15は有段壺で、内外面には赤彩が施される。16は有孔鉢の底部である。17は有段鉢で、内外面にミガキ調整と赤彩が施される。18は有段台付壺で外面に赤彩が施される。口径10cm、器高17.7cm、である。19～23はSX435出土のものである。19・20は有段口縁部、21は平縁口縁壺である。22は壺の底部である。23は有段壺の口縁部で1箇所に穿孔が施される。24は口唇部を肥厚させた布留系の壺である。25は丸縁壺で、外面に一部ケズリを施す。

26～34は包含層出土の遺物である。26は擬凹線壺で内面ケズリ調整である。27は有段壺で、ミガ

キ調整が施される。28は有段壺とみられる個体で、竹管刺突文が施される。29は壺の口縁破片で、端部内面に綾杉状刺突文が施される。外面にはヘラ状工具による記号がみられ、1箇所に穿孔を有する。中期の土器とみられる。30は有段器台で、ミガキ調整が施される。口径21.2cm。31は有段高杯で、平坦な底部から大きく開く杯部を有する。32は高杯の脚部で、棱を持って緩く外反する。33は有段台付鉢とみられる個体で、外面をミガキ調整が施される。内外面赤彩されている。34は有紐蓋で、八字状に広がる体部を有する。

35~173は古代の土器・土製品で、35~116遺構出土、117~173は包含層出土のものである。35はS P 444出土の須恵器の蓋で、口縁端部を屈曲し垂下させる。36はS P 444・S P 446出土の杯Aで、体部下位で棱をもつ。口縁部は外反気味に立ち上がる。37はS P 153出土の蓋で、口縁にかえりを有する。天井部つまみの痕跡が認められる。口径10.5cm。38はS P 410出土の蓋で口縁端部は短く垂下させる。39~50はS I 235出土のものである。39~43は須恵器の蓋で、39と40の口縁部にはかえりを有する。39は高さのある天井部に擬宝珠状のつまみが付き、40は扁平な天井部である。口径は39で10.6cm、40で18.6cmを測る。41~43は口縁部端部を短く垂下せる。44~47は須恵器である。44は杯Aで、底部の破片である。45・46は杯Bで、底部器厚はやや肉厚である。高台見込みにヘラ記号が認められる。47は須恵器の壺で内面には同心円状の当具痕がみられる。48~50は土師器の壺で、48は口縁端部を小さくつまみ上げ、体部外面にはカキメ調整が施され、下位にはケズリ調整が施される。49・50の口縁端部は丸くおさめており、外面ハケメ調整である。51・52はS I 300出土のもので、51は口縁端部が外傾してのびる須恵器杯蓋である。52は土師器で、頬もしくは妻の把手である。53~88はS D 1001出土のものである。53~81は須恵器で、82~85が土師器である。53~58は蓋で、53は天井が高く、口縁部にかえりをもつ。54~57は扁平な天井部で、口縁端部を短く垂下するか、やや巻きこみ気味となる。58は天井部に擬宝珠状のつまみを有する。59~69は杯Aで、59・60・66・67は器高が低く、体部が大きく開く。61は尖底気味の底部に外反しながら立ち上がる体部を有する。62は平底に外反しながら立ち上がる体部を有し、全体に器壁が肉厚である。63・64は大きく開く体部を有する。65・68は平底に、内湾気味に立ち上がる体部を有する。65の外面には「」の線刻が施される。69は底部に「依カ」の墨書きが施される。70~73は杯Bで、底部と体部の屈曲部近くに高台を有し、体部は直線的に立ち上がる。74は水瓶の頸部である。75~78は双耳壺で、76には突帯が2条巡る。79は横瓶で、閉塞円盤は欠落している。80・81は壺で、81は大型で、口縁部には櫛描波状文が施される。82は椀で、底部は回転糸切りによる切り離しである。体部下位にケズリを施す。83は皿Bで、回転糸切りが残る底部に、三角状の高台を有する。84は内黒土器で、体部下位はケズリを施す。85は壺で口縁端部はやや方頭を呈する。86は灰釉陶器の椀で、三日月高台を有する。底部の内外面には施釉されていない。K90号窯式に比定される。87は製塙土器の底部で、尖底タイプである。88は土鍤で、模型を呈する。89・90はS D 122出土の須恵器で、89は口縁端部を垂下させる蓋であり、90は外反気味に立ち上がる体部を有する杯Aである。S D 185出土の91は須恵器の杯Bで、八字状の高台に、外反気味に開く体部を有する。92・93はS D 122出土の須恵器で、杯Aである。93はやや器高の高い個体で、体部は内湾気味に緩やかに立ち上がる。94~102はS D 201出土で、94~101は須恵器、102は土師器である。94~98は蓋で、口縁端部を垂下させるもの(95~97)、三角状を呈するもの(94)、巻き込み気味のもの(98)がある。97は内面に墨痕が認められ、転用硯と考えられる。99は杯Aで、尖底気味の底部を有する。100・101は杯Bで、高台は八字状を呈する。102は壺で、口縁部にかけて緩やかに外反する。内外面ハケメ調整を施す。103はS D 241出土の須恵器の

長頸壺で、口縁部は大きく開く。104はS D293出土の土師器の壺で、口縁端部は丸くおさめる。105はS D408出土の須恵器の杯Bで、高台は長めでハ字状に踏ん張る。106・107はS K181出土の須恵器杯Bで、106の高台見込みには「一」とみられるヘラ記号が施される。108はS K183出土の須恵器の杯Bで、体部は外反気味に立ち上がる。109はS K222・230出土の須恵器杯Aで、尖底気味の底部から外反気味に立ち上がる体部を有する。シャープな作りである。110はS D1001・S K238出土の長頸壺で、高台を有する。頸部には突帯が巡る。111はS K373出土の製塙土器で、尖底タイプである。112・113はS K426出土のものである。112・113は須恵器の蓋で、口縁端部は短く垂下させる。114～116はS K475出土である。114は須恵器の蓋で内面には線刻されている。115は土師器の壺で内外面ハケメ調整である。116は土師器の壺で、口縁端部は丸くおさめる。内外面ハケメ調整である。117～159は須恵器で、117～135は蓋である。117は天井部にヘラ切りのち粗いナデ調整で、口縁端部を丸くおさめる。118～127はかえりのあるタイプで、器高のあるもの(118)、扁平なもの(119～127)がある。118～125は口径10.5～13.5cm、126・127は口径17.4cmである。128は口縁端部を丸くおさめ気味である。129～135は口縁端部を短く垂下させる。135は内面に「一」と線刻が施される。136～144は杯Aである。136は尖底気味の底部から外反しながら立ち上がる体部を有する。137～143は平坦な底部から、体部は外反気味に立ち上がる。140の高台は欠失しており、体部外面には「丶」と線刻が施される。141底部外面には「一」が、142にも内面に線刻が施される。143・144の底部外面には墨書きされているが、判読は出来ない。145～151は杯Bである。145～147は杯部が低いタイプで、平坦な底部から外反気味に立ち上がる体部を有する。端部は丸くおさめる。147の口径は15.9cmである。148は杯部の器高が高いタイプで、体部は内湾気味に立ち上がる。口径14cm、器高5.7cmである。149～151は底部外面に線刻を施している。149・150は「二」、151は判読が不可能である。152は壺の底部で、平底である。153～155は横瓶で、153は閉塞円盤が認められ、外面にはタタキ調整が施される。154・155は口縁部で、端部は平坦である。156～159は壺の口縁部で、156は大きく開く。157・158は口縁端部を外方へ拡張している。160～166は土師器で、160～162は椀Aで、回転糸切りの底部に、内湾もしくは内湾気味に立ち上がる体部を有する。161・162の口縁部にはススが付着する。163は黒色土器の椀Bで、内面に黒色処理を施す。高台は高いタイプである。164は椀Aで、体部が直線的に立ち上がる。165は壺で、口縁端部は丸くおさめる。体部外面はハケメ調整である。166は堀の把手である。167は緑釉陶器の皿で、内外面をヘラミガキし、暗緑色釉を刷毛で薄く施釉している。見込みに三又トチンの痕跡があり、貼り付け高台の接地面内端に弱い段を有する。胎土は灰色で硬質で、東濃産である。168は灰釉陶器の椀で、底部の内面には施釉されていない。K90号窯式か。169～173は製塙土器で、169・170は体部が直線的に外傾するタイプで、粘土紐接合痕がみられる。171～173は尖底タイプである。

174～215は中近世の土器・陶磁器類である。174～183は遣構出土のもので、184～215は包含層出土のものである。174～182はS D1001出土のもので、174～180が珠洲、181が中国製白磁、182は中国製青磁である。174～179は擂鉢で、174は口縁端部を嘴状に突出させる。175は内湾気味に立ち上がる体部に、口縁部は外傾し、端部をわずかに引き出す。鉗目13条1単位である。176は端部を三角状に引き出す。鉗目10条1単位である。177は口縁部の破片で、端部が方頭を呈し、内端をわずかに尖らせる。178・179は内湾気味に立ち上がる体部に、口縁部は方頭を呈する。口縁部には片口を作出している。179の鉗目は12条1単位である。時期は吉岡編年の174・178・179でI～II期、175でIII～IV期、176でV期、177でII～III期に比定される。180は壺で、口縁部は円頭を呈する。吉

岡編年のⅢ～Ⅳ期に比定される。181は口縁端部の釉を剥ぎ取る、口禿の皿で、大宰府分類のⅨ類に相当する。182は龍泉窯系青磁の椀の底部である。183はS D432出土の珠洲の擂鉢で、内湾しながら立ち上がり、端部は方頭を呈する。184～191は中世土師器の皿で、184・185はロクロ成形である。12世紀後半。186は口縁端部を面取る。187・191は器壁が肉厚で、一段ナデを施す。188・189は器壁を薄く仕上げ、口縁部にヨコナデを施す。190は底部から体部にかけて強く屈曲する。192～205は珠洲である。192～196は甕の口縁部で、192・194は口縁部が圓頭を呈し、192の口縁部は短く屈曲する。193・195は口縁部が方頭を呈し、口縁部が短く屈曲する。192・193がⅣ～Ⅴ期、194・195がⅣ期、196でⅠ期に比定される。197は壺の口縁で、端部がわずかに引き出す。198～205は擂鉢で、198は直線的な体部に、口縁部は方頭を呈する。卸目は確認できない。199は大きく開く体部を有し、方頭を有する。卸目は9条1単位である。200は内湾気味に立ち上がる体部に、口縁部は外傾し、内端を引き上げる。卸目は波状を呈し、10条1単位である。201・203は口縁部がやや肥厚し、端部は平坦である。201は卸目で14条1単位である。202は口縁部が拡張し、嘴状に引き出す。204・205は口縁が圓頭状となり、波状文が施される。198でⅠ～Ⅱ期、199でⅣ期、200でⅡ期、201～203でⅣ～Ⅴ期、204・205でⅥ期に比定される。206は中国製白磁の椀の底部である。207は中国製青磁の杯とみられる個体で、高台は三角形を呈する。208～210は瀬戸美濃で、208は天目茶碗で、内湾気味に立ち上がる体部に、口縁部は外反する。209は折縁皿で、直線的に大きく開く体部を有する。210は皿で、見込みに灰釉が施される。211～213は越中瀬戸で、211は丸皿である。削り出し高台に、灰釉が施される。212は擂鉢で、口縁部の縁帯を外方につまみ出す。213は壺で、口縁部は直立する。214は土師質土器の擂鉢で、口縁部は丸くおさめる。内面には沈線が巡る。215は土師質土器の羽釜である。216は土錐で、樽型を呈する。重量7.37gである。

(2) 木製品 (第148～153図、図版109～115)

木製品は自然流路であるS D1001からの出土が多い。

S D201出土は227、S D1001出土は219～222・224～226・228・232・234～239・241・242・249～255、S D1556出土は233、S E1537 a出土は223・229・230、S K395出土は256、S K519出土は217、S X434出土は243・244・247、S X435出土は240・245・246・248である。

217は漆器の皿であり、内外面に黒漆が塗られている。218は漆器の蓋で、内外面黒漆が塗られている。219は堅杆で、下端に加工痕が認められる。220・221は盤で、220は平面が長方形を、側面は台形を呈している。口縁部は内端に段を有していることから、蓋が付く可能性が高い。長さ31cm、幅10.7cm、高さ7.4cmを測る。221は平面が長方形で、器高が低い。222は加工材で1箇所に穴が穿たれている。223～228は円形板もしくは曲物の底板である。225は目釘が1箇所認められる。229・230は下駄で、229は歯を差し込むタイプ、230は歯を削り出すタイプである。231は火鑽臼で、4箇所臼が認められる。使用痕が認められないことから未使用品と考えられる。232は梯子の一級分の半分が残存している。233～237・241・248～251は棒材である。233は断面楕円形を呈し、両端を加工し、234～237は先端を断面四角形に成形している。251は先端を弱く抉るように加工している。238～240・242～247・252～256は板材である。238・239は1～2箇所穿孔されている。建築部材か。240は成形が丁寧であり、中央の一側面には三角状に削り込んでいる。242は中央付近に円形の穴を穿つ。243・244・247は先端を加工し、矢板のように使用していた軒用材で、243・244は綴り皮が残存しており、桶を転用したものか。245は中央の一側面に三角状に削り込んでいる。246には穴が

4箇所穿たれており、252は先端を三角状に加工している。建築部材の一部の可能性がある。253は平面が五角形を呈し、方形の穴が4箇所穿たれている。254・255は幅の狭い細長い個体に、方形の穴が穿たれている。256は中央に大きな穴が穿たれている。

(3) 石製品 (第154図、図版116)

S D 1001出土は257・259・260、S P 545出土は258である。

257は磨製石剣の未製品で、石材は頁岩である。258は磨製石斧で、石材は蛇紋岩である。混入品である。259～261は砥石で、いずれも一部分が欠失している。259と261は仕上げ砥石、260は中砥石である。石材は259・261で流紋岩、260で砂岩である。

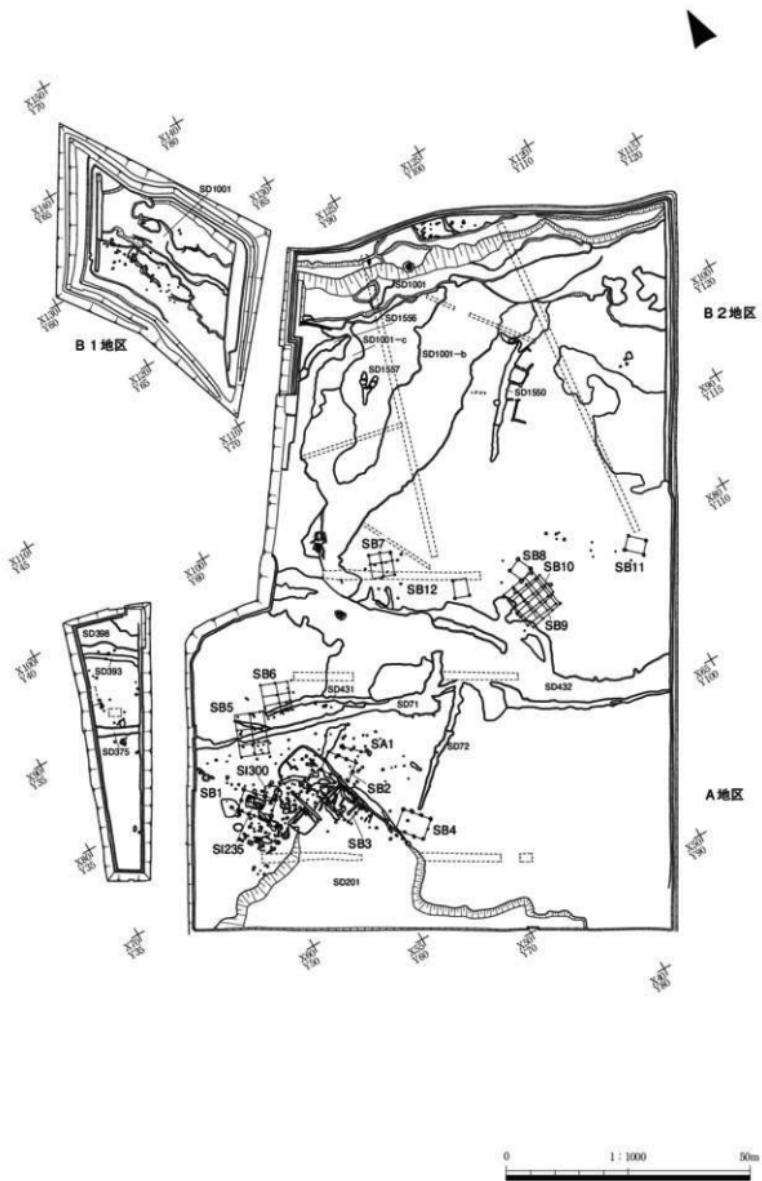
(4) 金属製品 (第155図、図版117)

262はS D 1001出土の馬銚で、法量は長さ19.8cm、幅2.2cmである。263は不明鉄製品で、「へ」字状を呈する。直線的な刃を有する。鎌の一種と推定される。264～271は銅錢である。264で開元通寶、265で太平通寶、266で天聖元寶、267で皇宋通寶、268で熙寧元寶、269・270で元豐通寶、271で正隆元寶である。

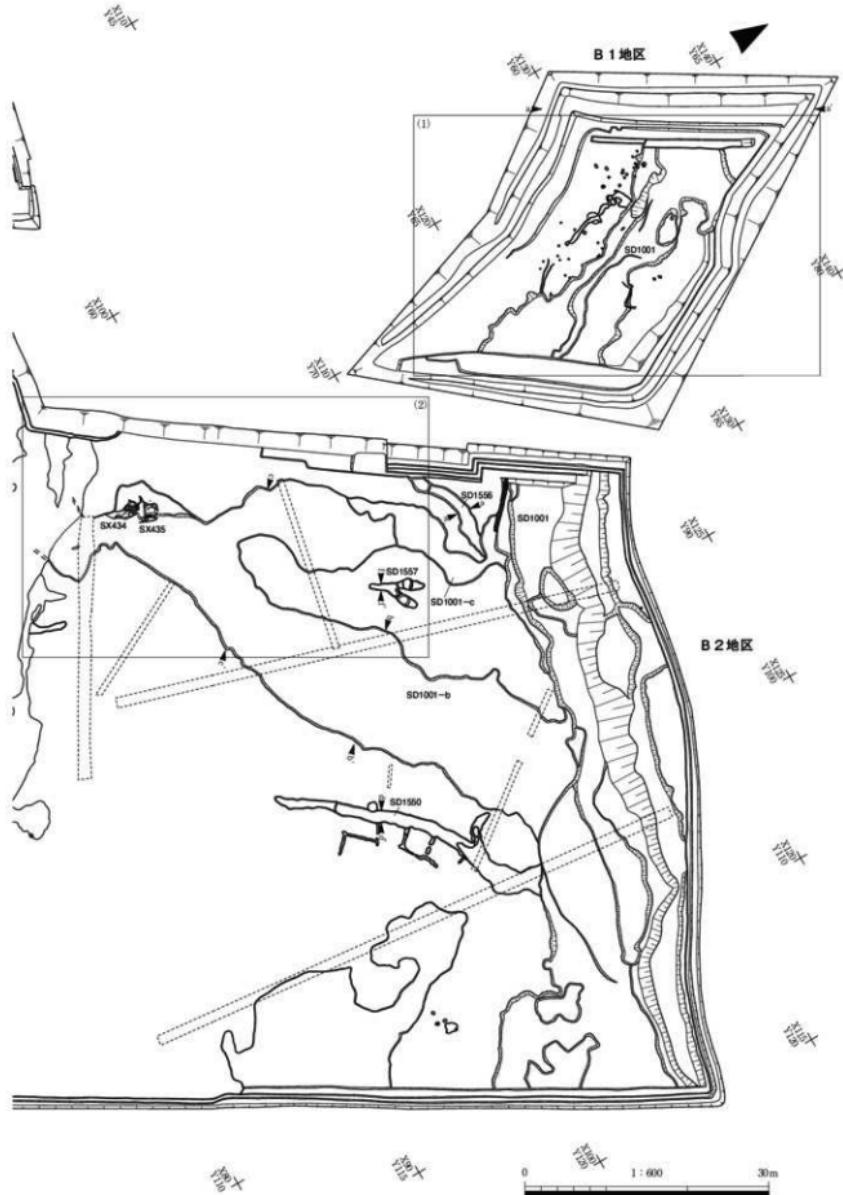
(島田亮仁)

参考文献

- 池野正男 1987 「射水丘陵における8世紀後半の須恵器窯跡」「大境第11号」富山考古学会
- 内田亜希子 2000 「越中朝日郡の古代土師器煮炊具－朝日町中名I・V・VI遺跡の堅穴住居出土資料を中心にして－」『富山考古学研究 紀要第3号』財團法人富山県文化振興財團
- 高橋照彦 1995 「縁袖陶器」「概説 中世の土器・陶磁器」真陽社
- 細辻真澄 2001 「任海宮田遺跡出土の土鍤について」『富山考古学研究 紀要第4号』財團法人富山県文化振興財團
- 奈良国立文化財研究所 1993 「木器集成図録 近畿原始編(解説)」



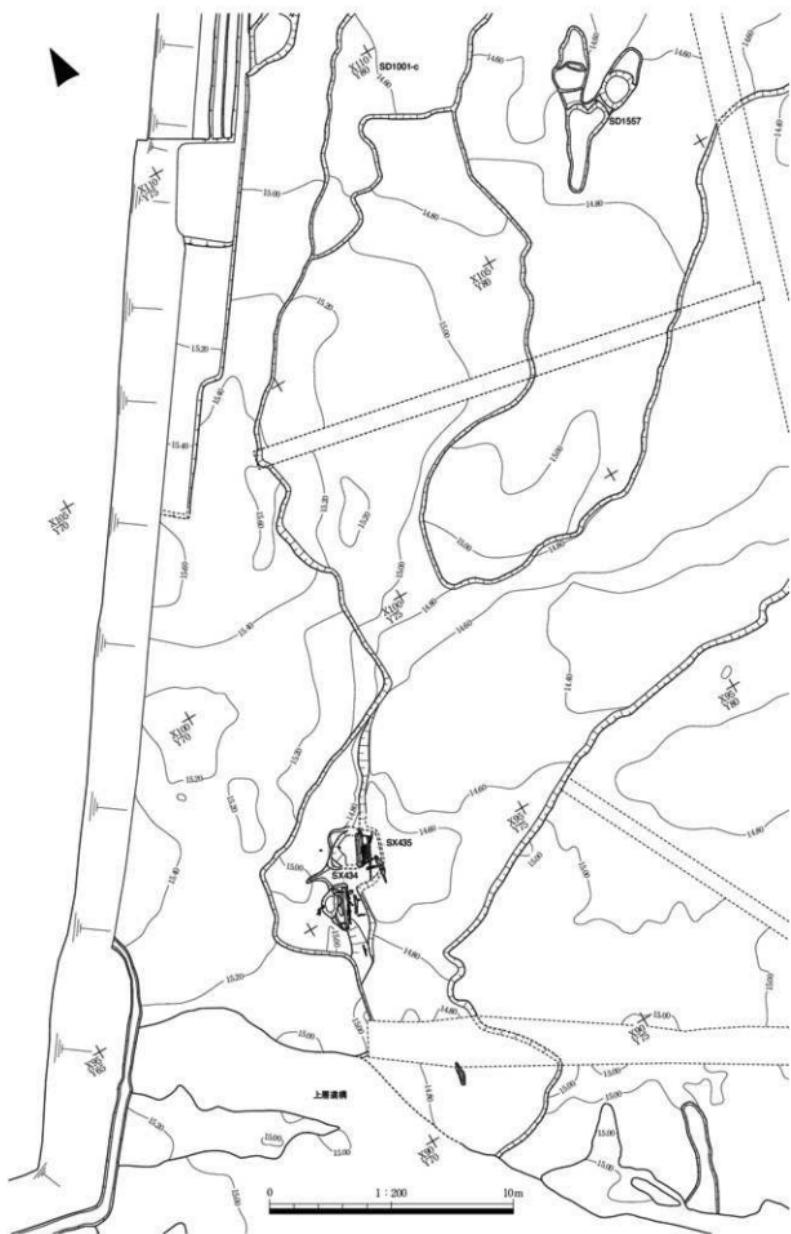
第106図 宇波西遺跡 遺構全体図



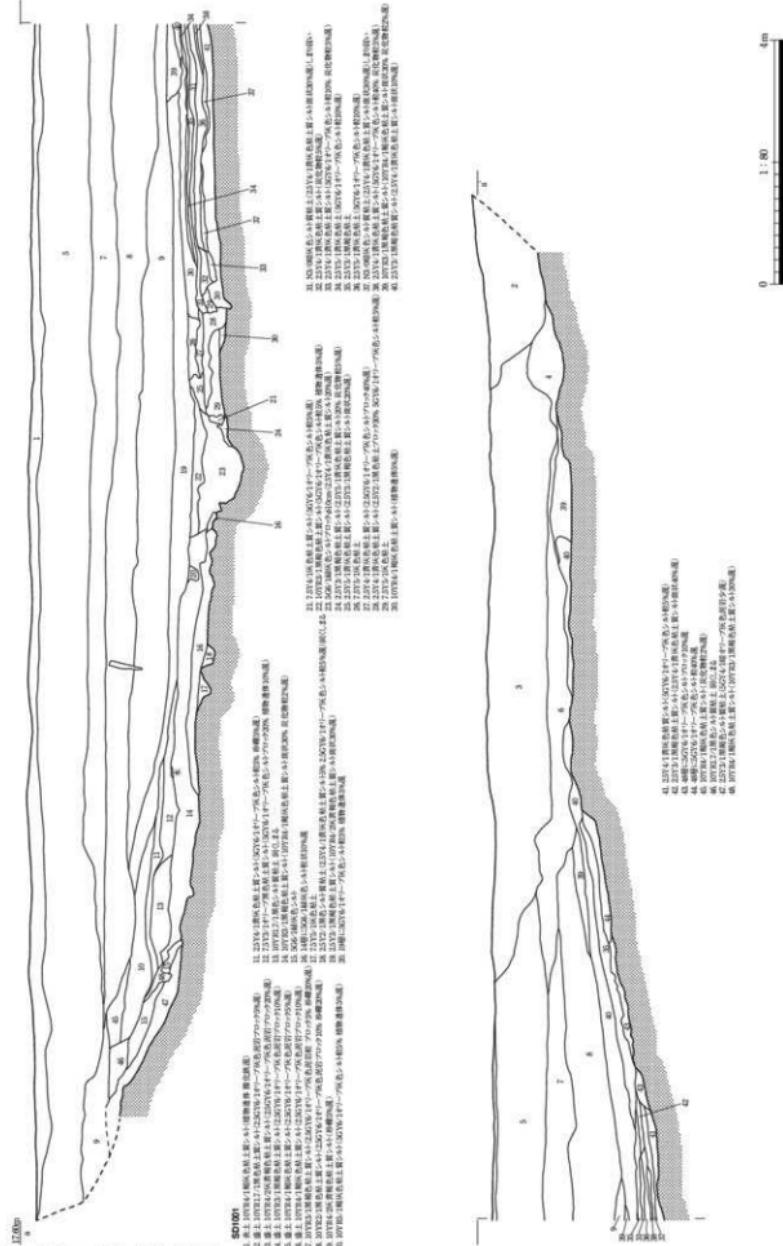
第107図 宇波西遺跡 弥生～古墳時代遺構全体図



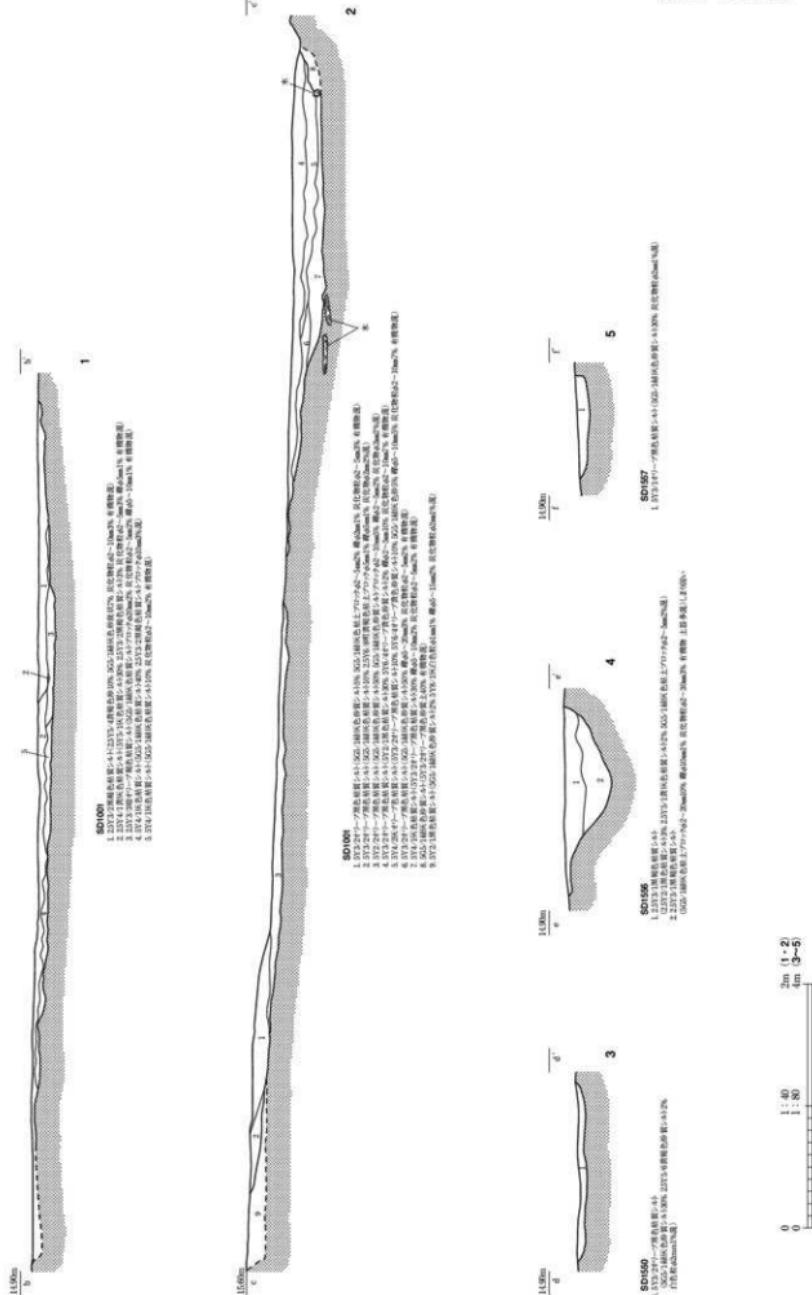
第108図 宇波西遺跡 弥生～古墳時代遺構全体図（1）



第109図 宇波西遺跡 弥生～古墳時代遺構全体図（2）

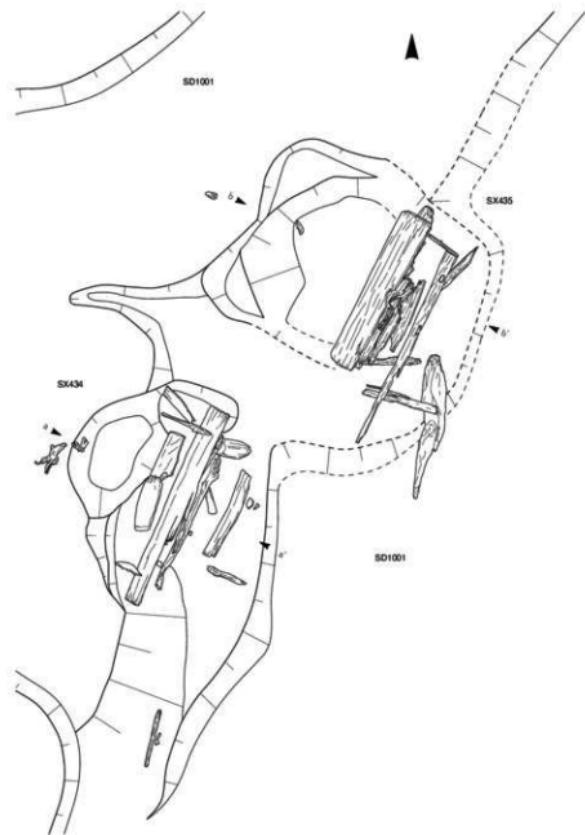


第110図 宇波西遺跡 遺構実測図
SD1001

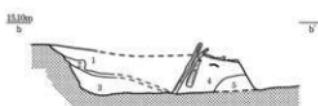


第1111図 宇波西遺跡 遺構実測図

1・2. SD1001 3. SD1550 4. SD1556 5. SD1557



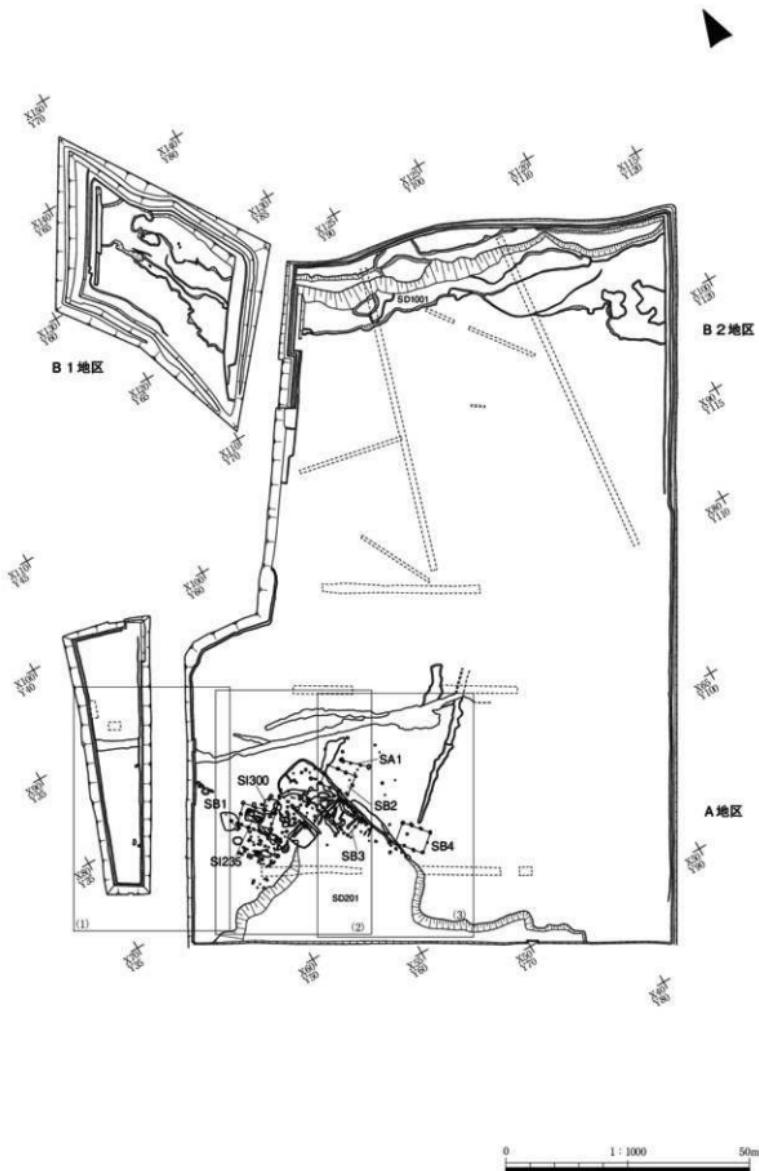
SX434
1. 3073-29リーフ褐色シラバ板柱土(7.3V7-3浅黄色板土プロトφ5-30mmφ、花化度1%)
2. 1073-14リーフ褐色シラバ板柱土(7.3V7-20浅黄色板土プロトφ5-30mmφ、花化度1%)
3. 1073-24リーフ褐色シラバ板柱土、やや有機質
4. 1072-28リーフ褐色板柱土



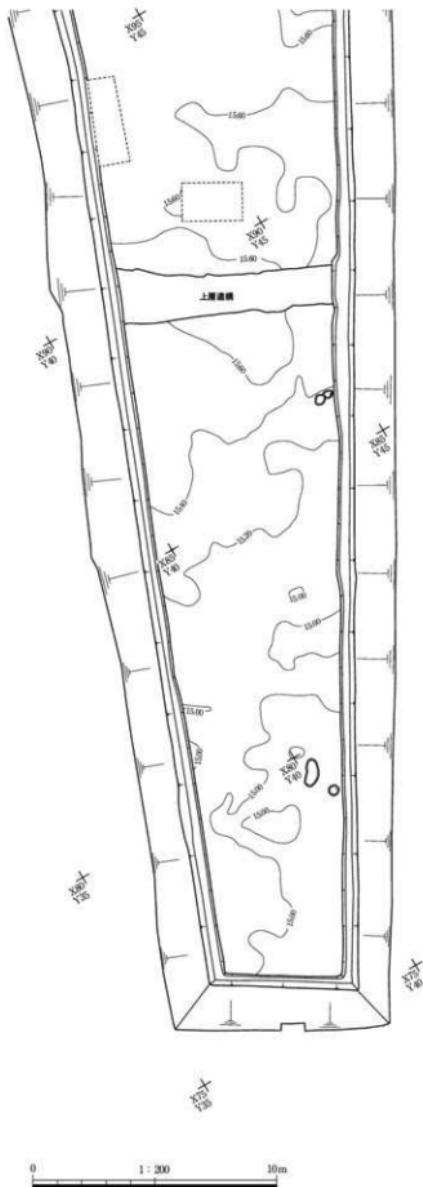
SX435
1. 3073-2リーフ褐色シラバ板柱土(7.3V7-3浅黄色板土プロトφ5-20mmφ、花化度1%)
2. 1073-1リーフ褐色シラバ板柱土(7.3V7-20浅黄色板土プロトφ5-30mmφ、花化度1%)
3. 1073-11リーフ褐色シラバ板柱土、やや有機質
4. 1073-12リーフ褐色シラバ板柱土、やや有機質
5. 2374-2黄褐色粘土質シラバ板柱土、やや有機質

0 1 : 40 2m

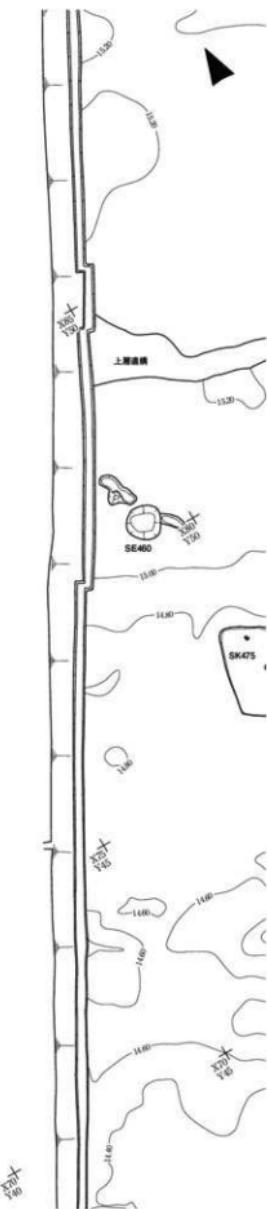
第112図 宇波西遺跡 遺構実測図
SX434・SX435



第113図 宇波西遺跡 古代遺構全体図



第114図 宇波西遺跡 古代造構全体図 (1)

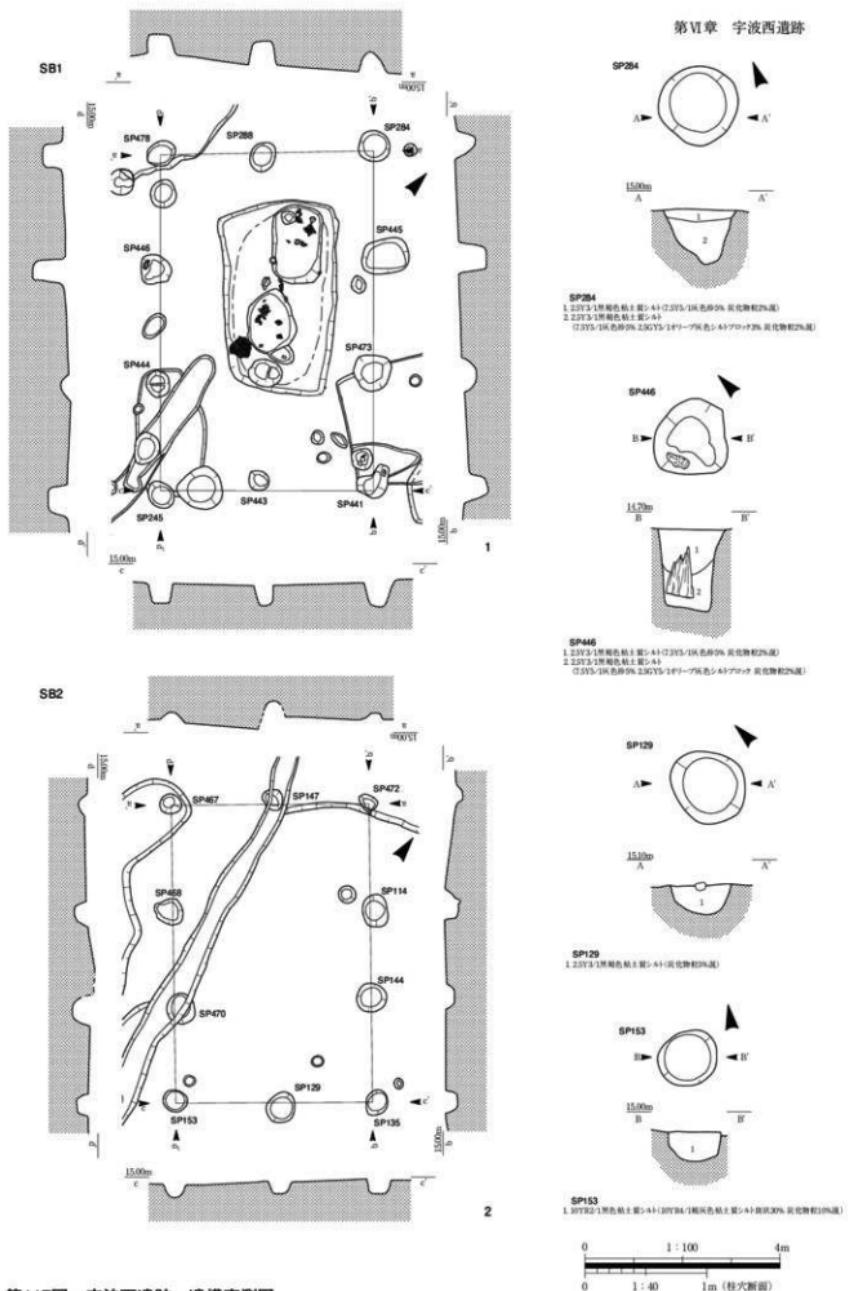




第115図 宇波西遺跡 古代遺構全体図（2）

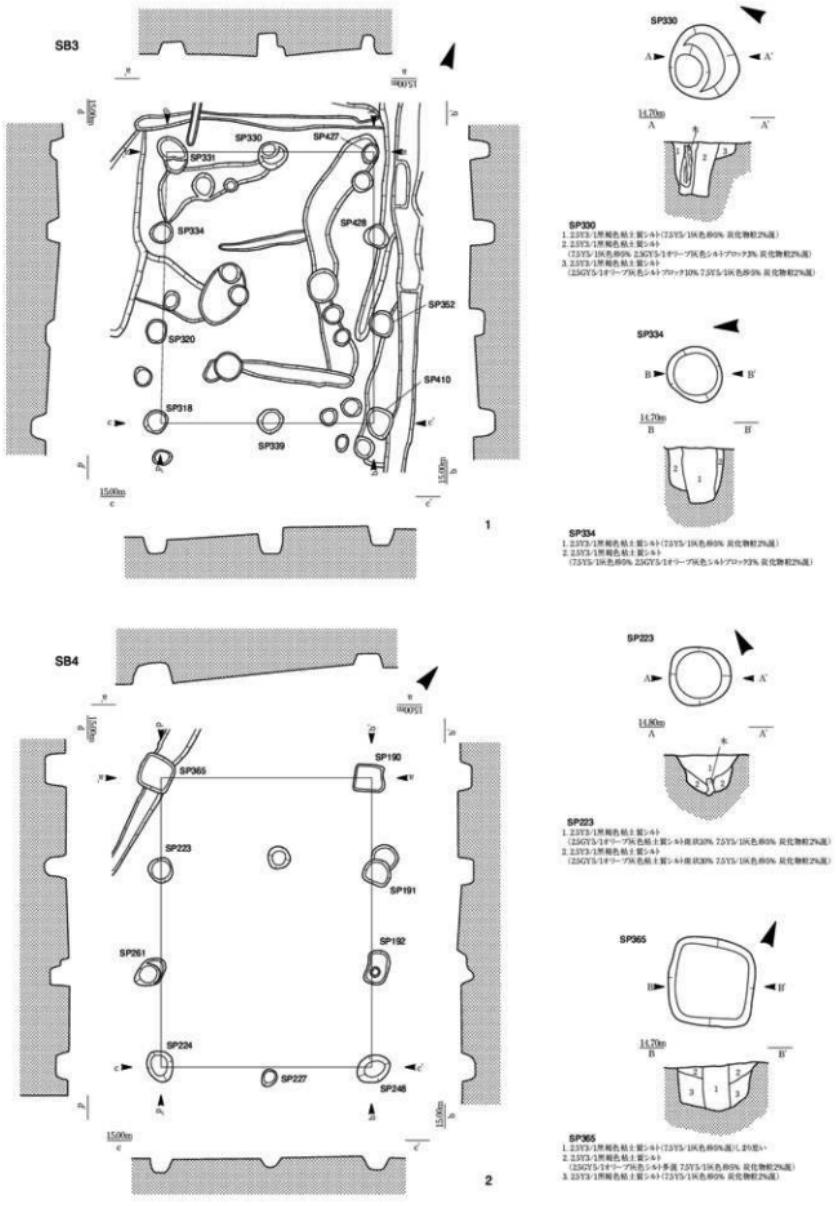


第116図 宇波西遺跡 古代造構全体図 (3)



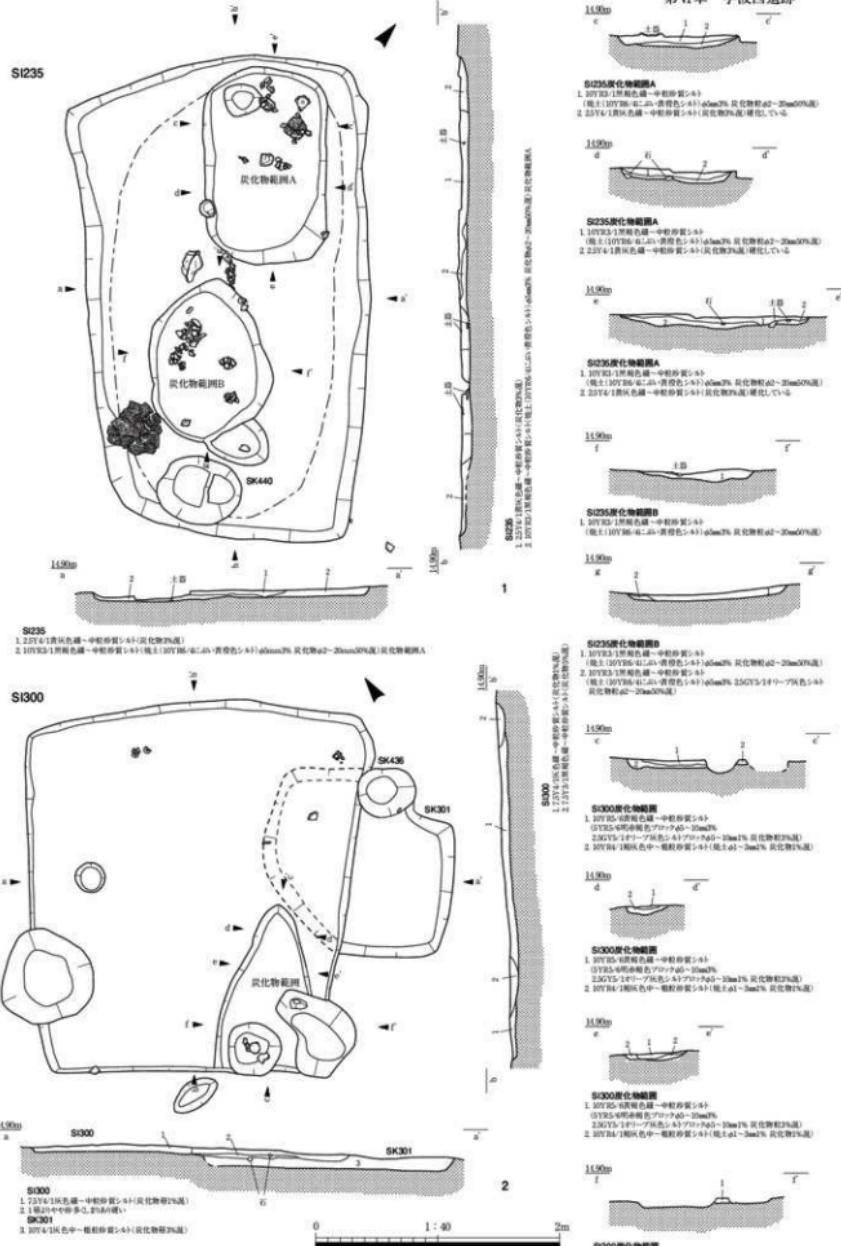
第117図 宇波西遺跡 遺構実測図

1. SB1 2. SB2



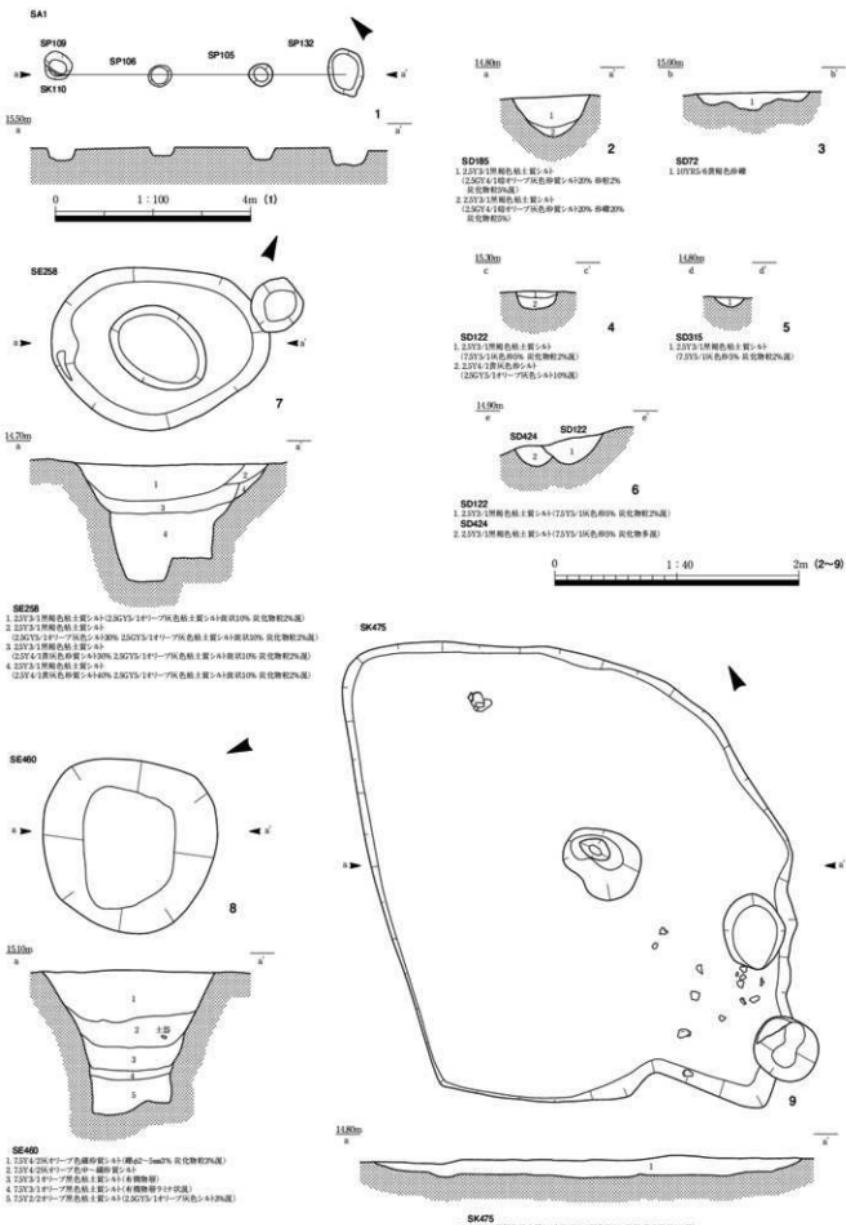
第118図 宇波西遺跡 遺構実測図

1. SB3 2. SB4



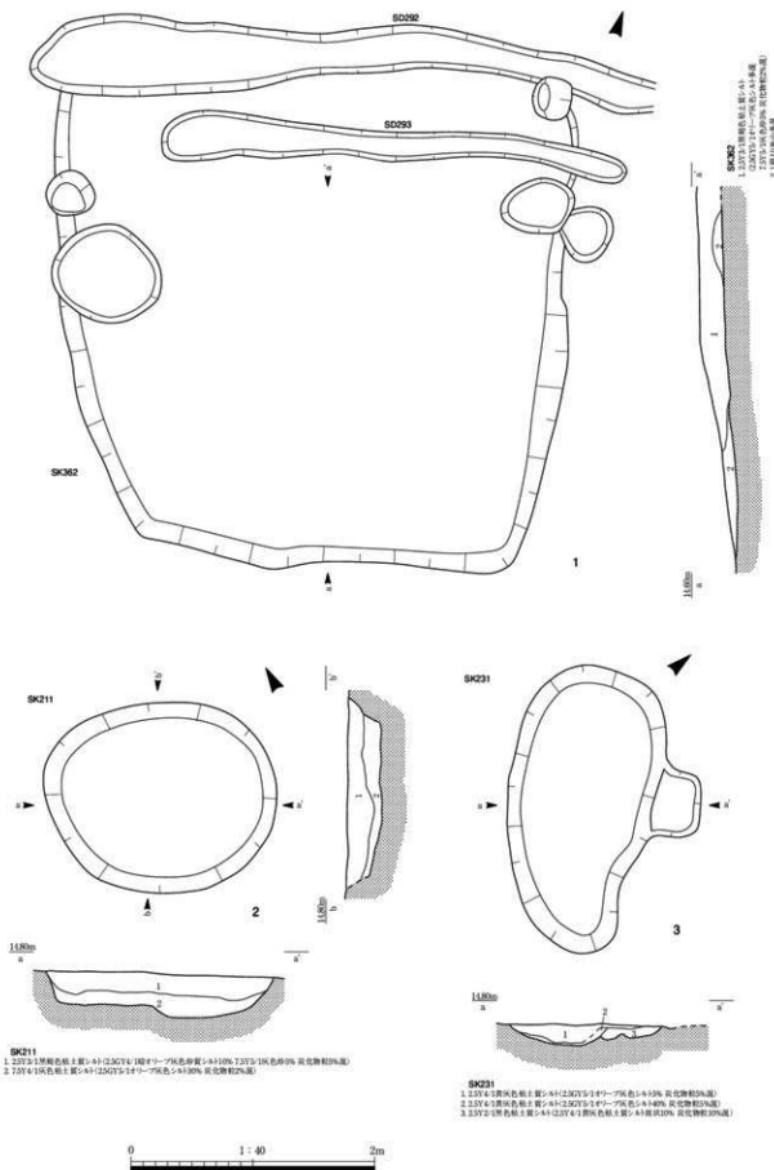
第119図 宇波西遺跡 遺構実測図

1. SI235 2. SI300



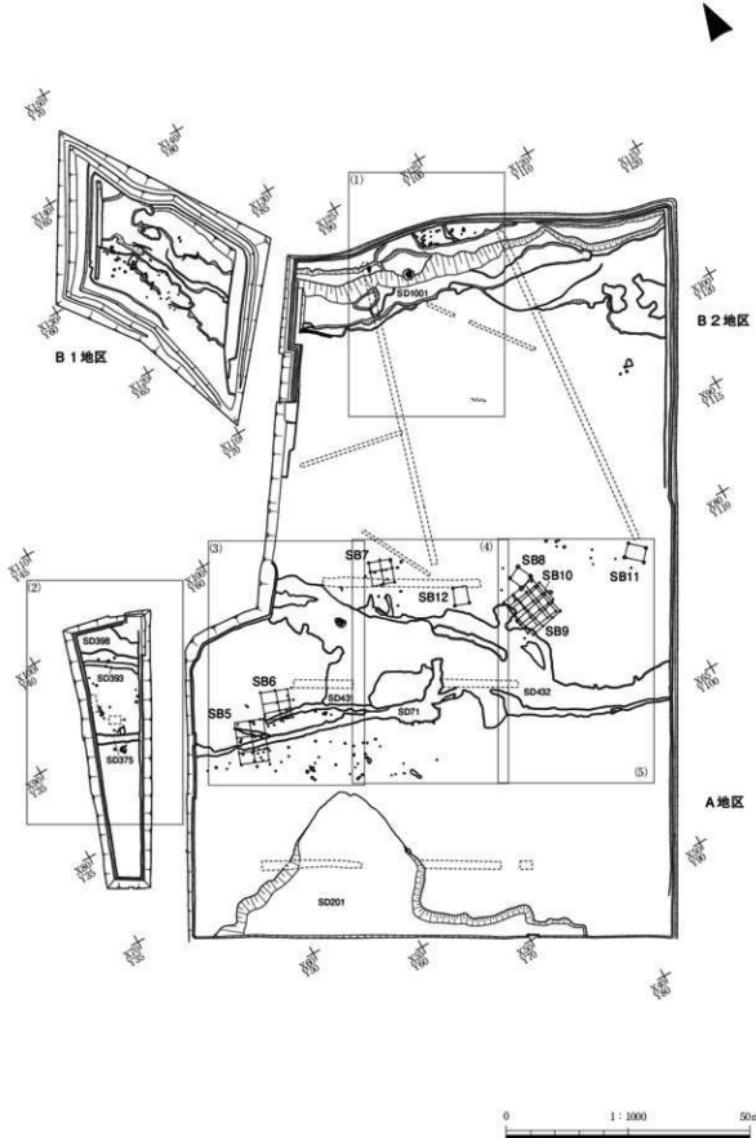
第120図 宇波西遺跡 遺構実測図

1. SA1 2. SD185 3. SD72 4. SD122 5. SD315 6. SD122・SD424 7. SE258 8. SE460 9. SK475



第121図 宇波西遺跡 遺構実測図

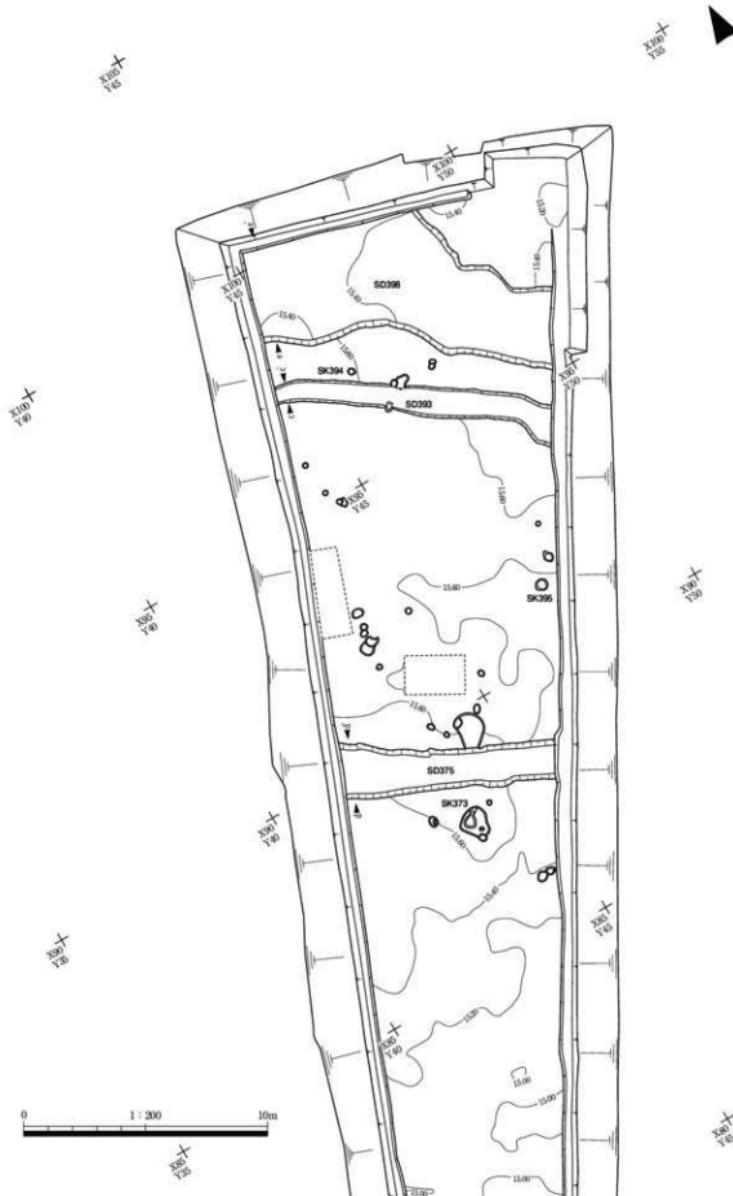
1. SK362 2. SK211 3. SK231



第122図 宇波西遺跡 中近世遺構全体図



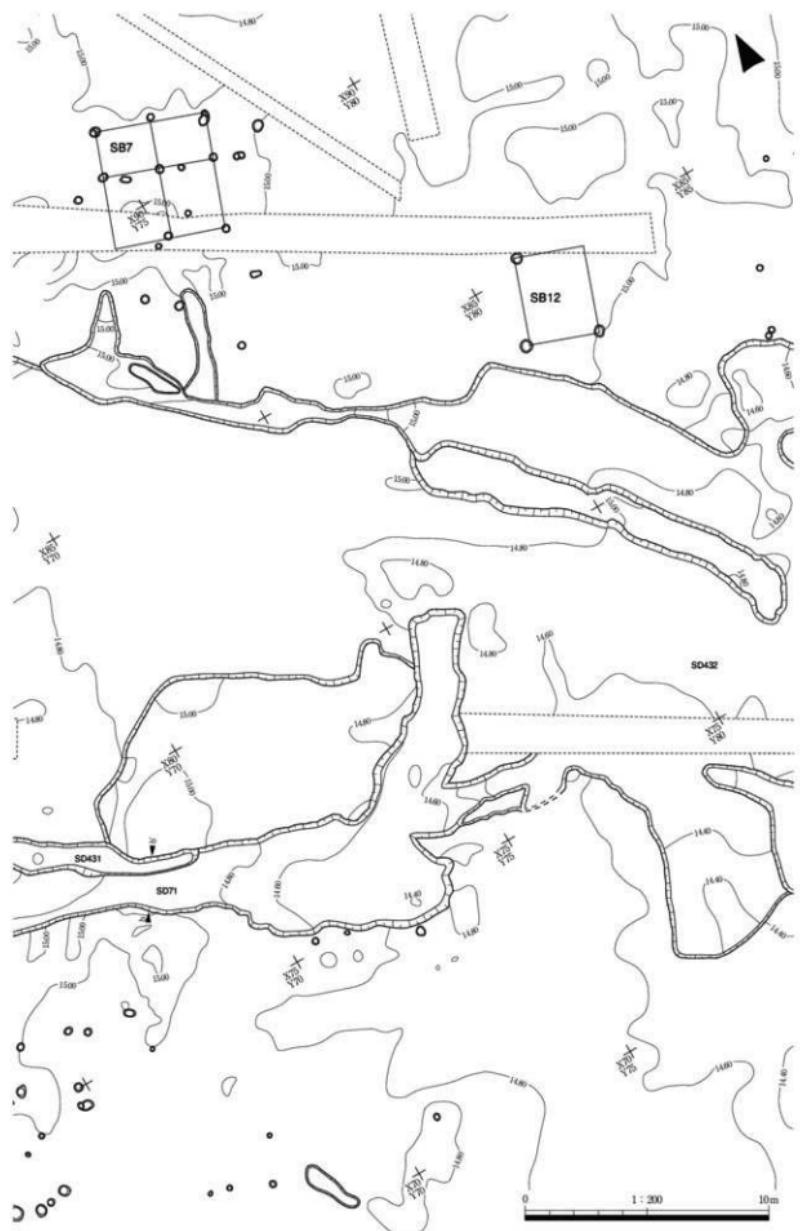
第123図 宇波西遺跡 中近世遺構全体図（1）



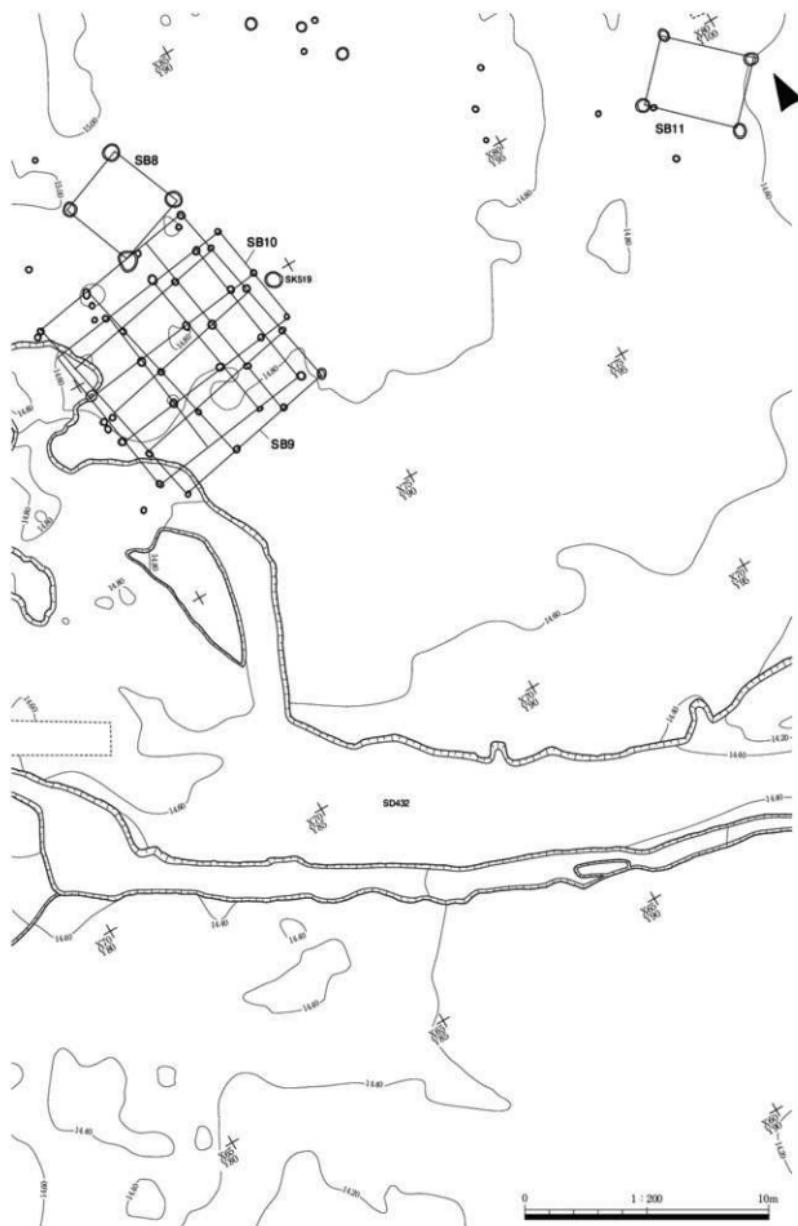
第124図 宇波西遺跡 中近世遺構全体図（2）



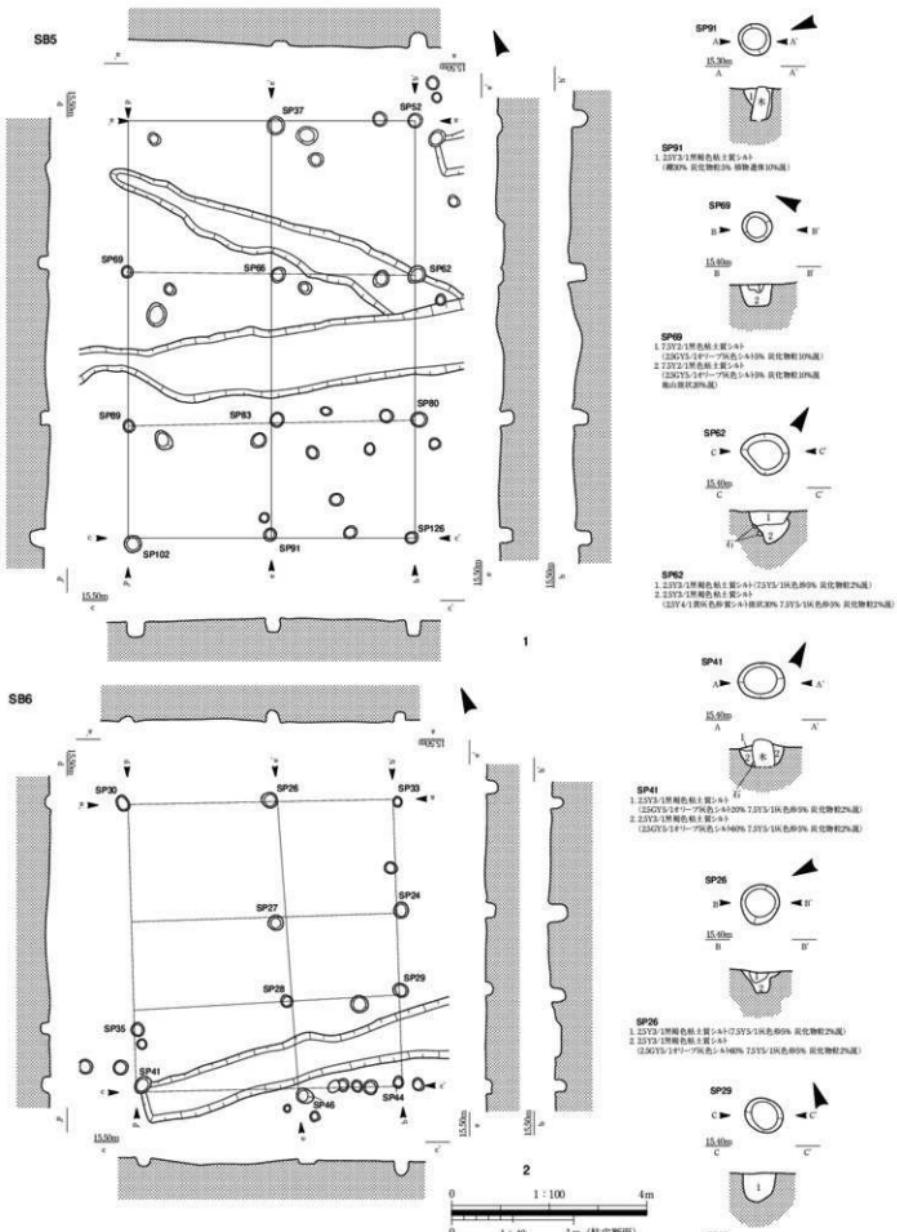
第125図 宇波西遺跡 中近世遺構全体図（3）



第126図 宇波西遺跡 中近世遺構全体図 (4)

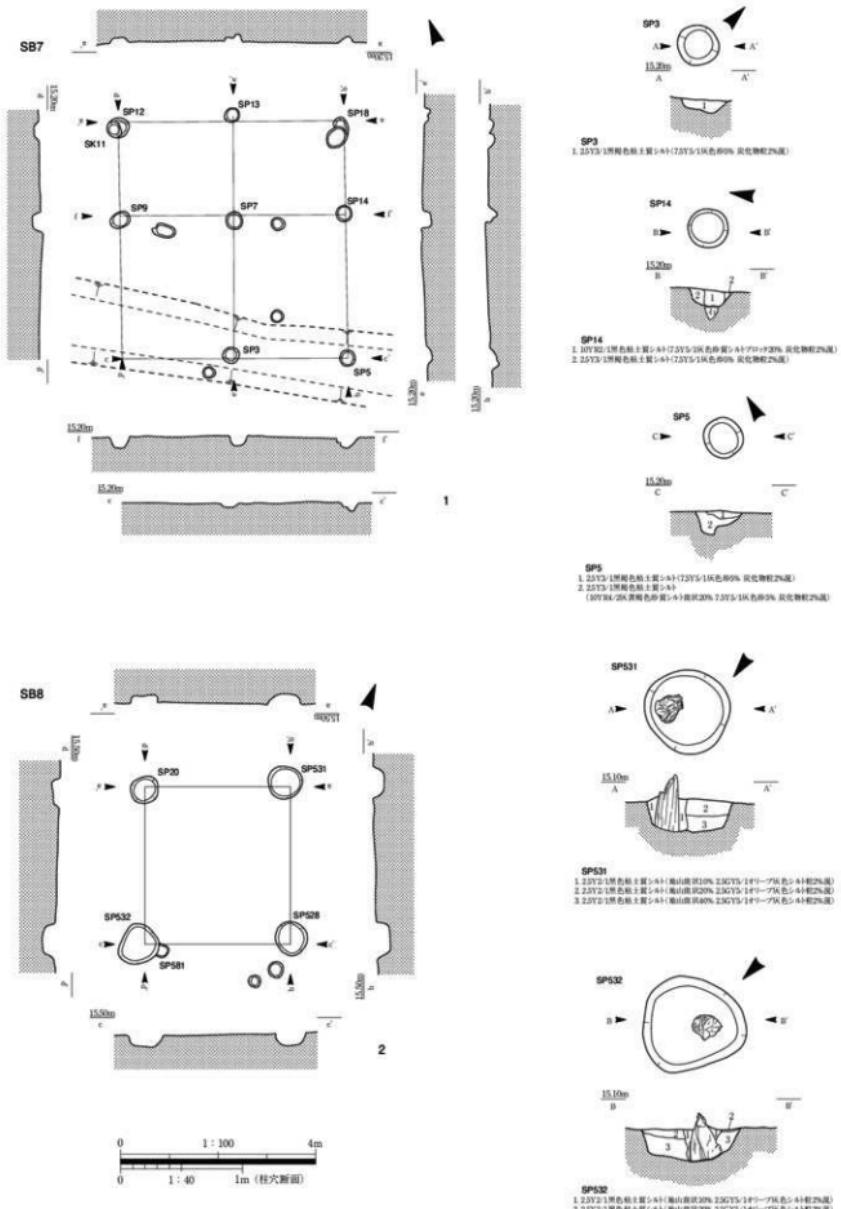


第127図 宇波西遺跡 中近世遺構全体図（5）



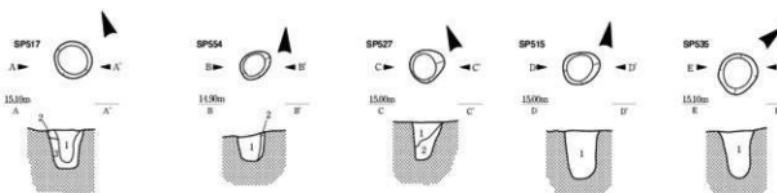
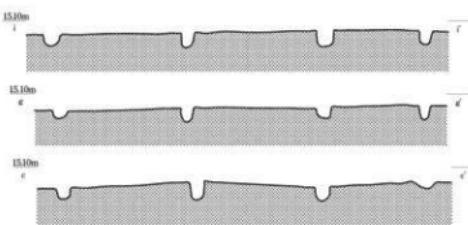
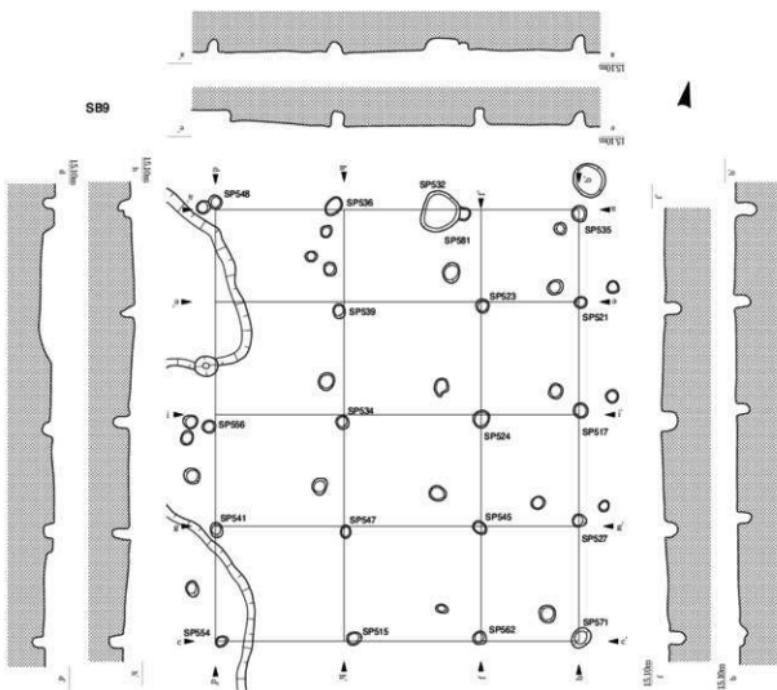
第128図 宇波西遺跡 遺構実測図

1. SB5 2. SB6



第129図 宇波西遺跡 遺構実測図

1. SB7 2. SB8

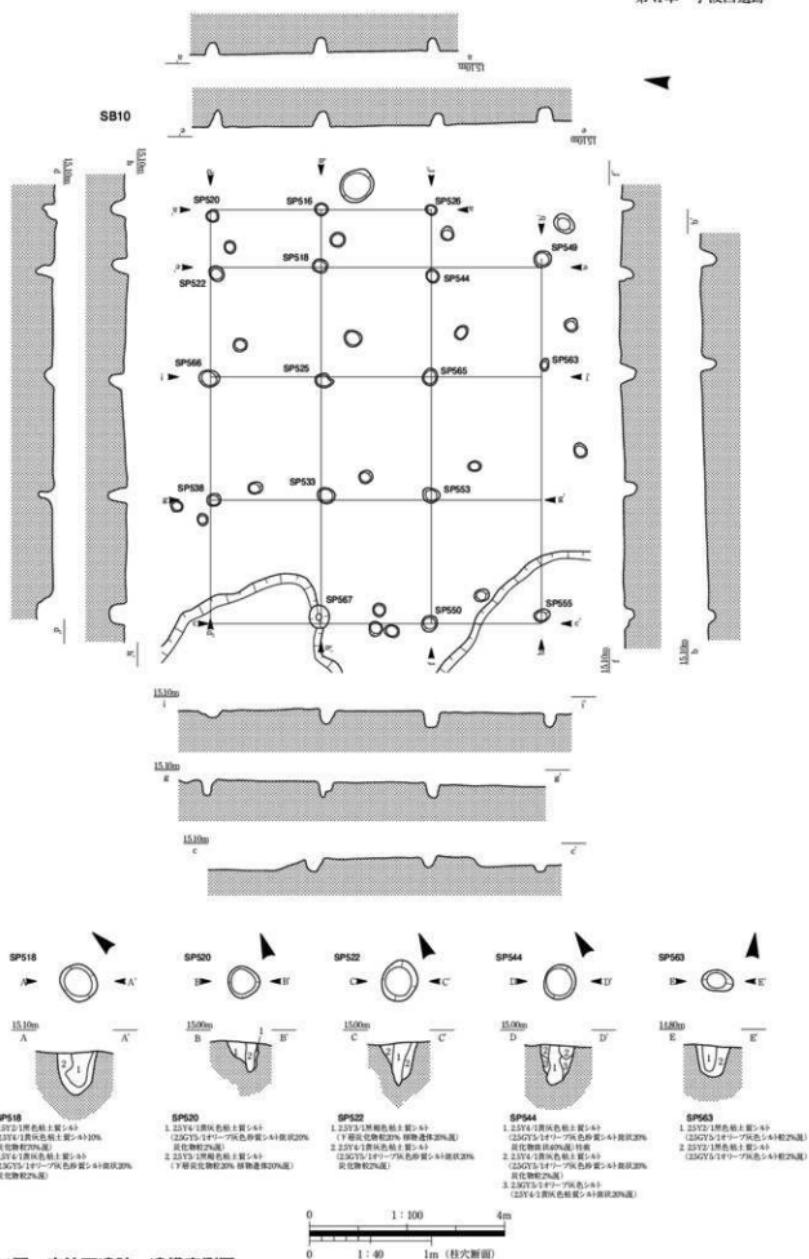


SP517
1. (2.973±1.47m) 黒褐色土質シルト質(20% 灰化物含む)
2. 2.734±1.47m 黑褐色土質シルト質
SP554
1. (2.973±1.47m) 黒褐色土質シルト質(20% 灰化物含む)
2. 2.734±1.47m 黑褐色土質シルト質
SP527
1. (2.973±1.47m) 黒褐色土質シルト質(20% 灰化物含む)
2. 2.734±1.47m 黑褐色土質シルト質
SP515
1. (2.973±1.47m) 黒褐色土質シルト質(20% 灰化物含む)
2. 2.734±1.47m 黑褐色土質シルト質
SP535
1. (2.973±1.47m) 黒褐色土質シルト質(20% 灰化物含む)
2. 2.734±1.47m 黑褐色土質シルト質

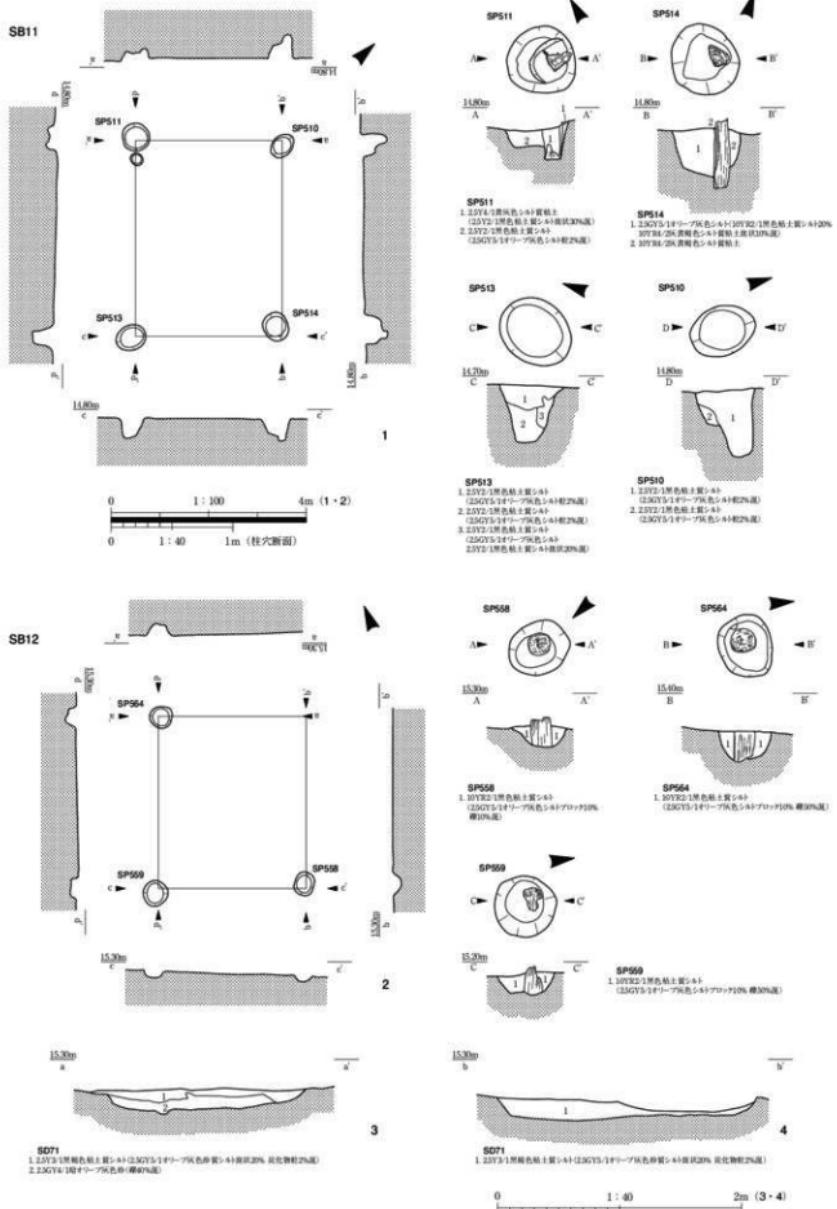
0 1:100 4m
0 1:40 1m (柱穴断面)

第130図 宇波西遺跡 遺構実測図

SB9

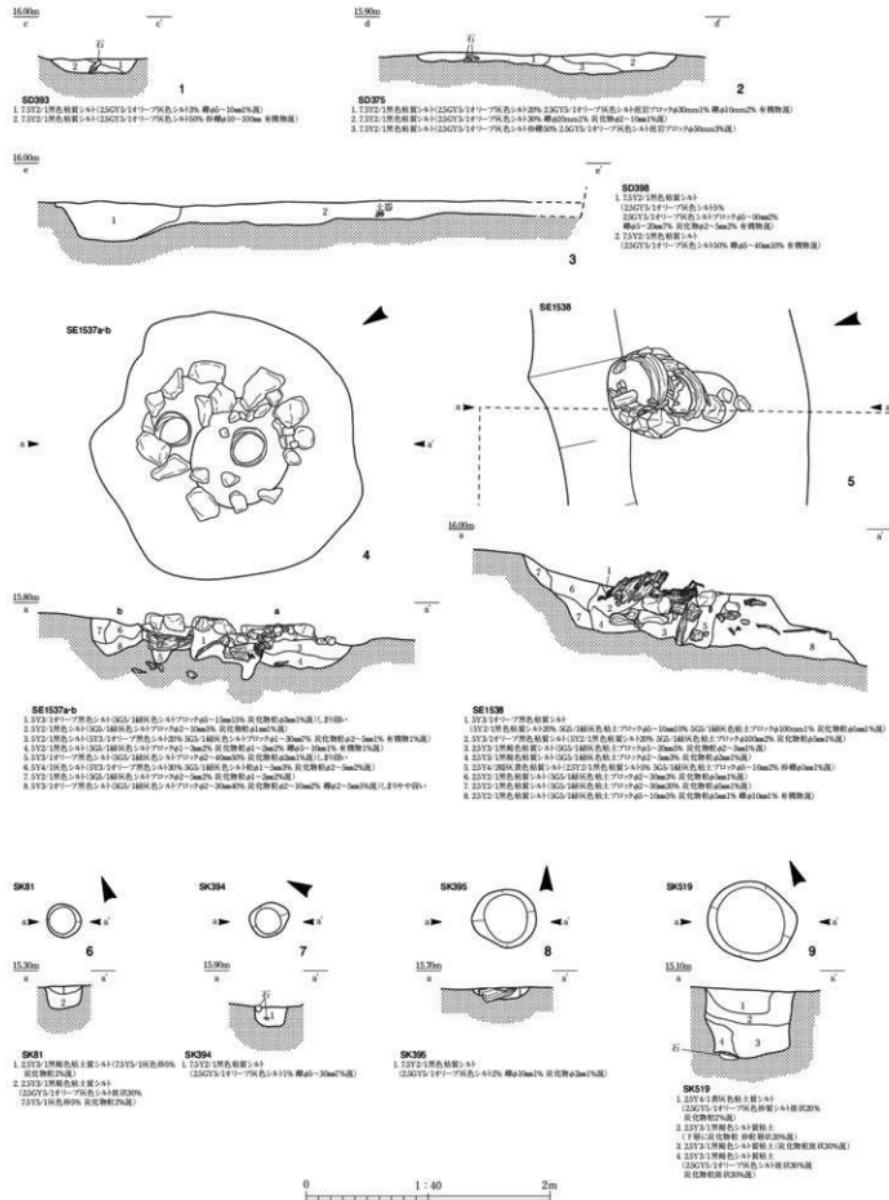


第131図 宇波西遺跡 遺構実測図
SB10



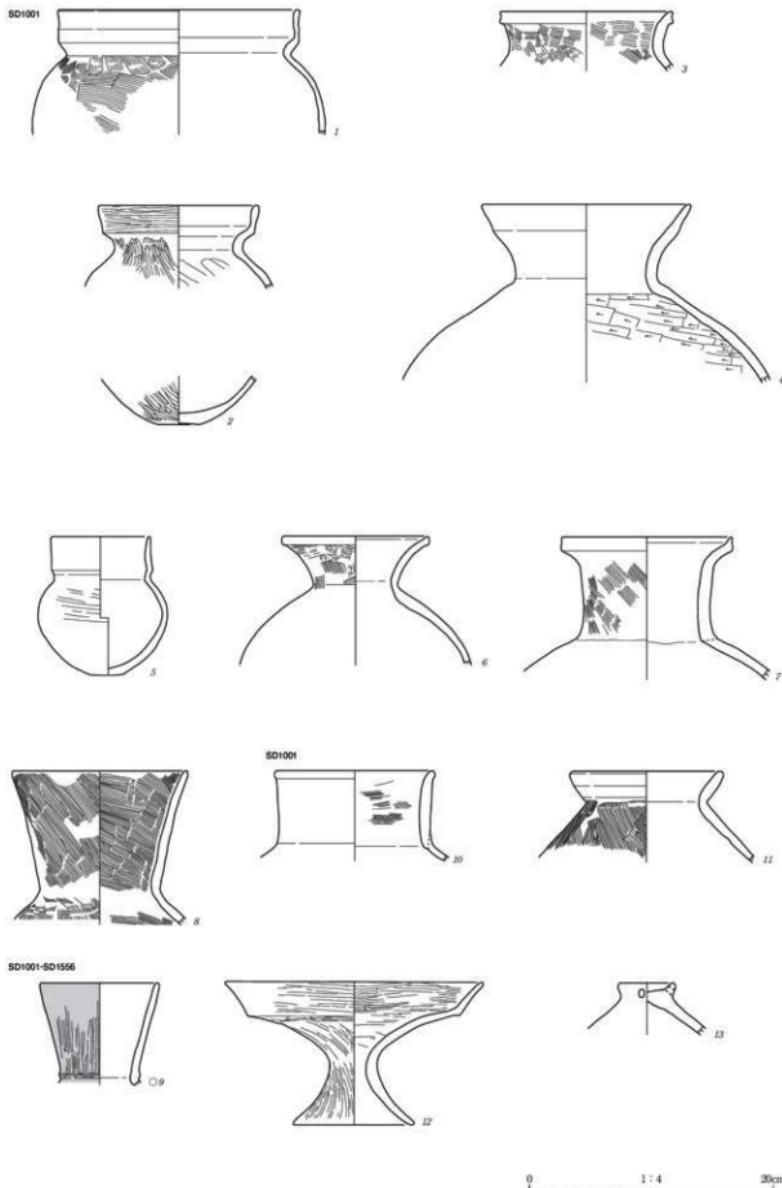
第132図 宇波西遺跡 遺構実測図

1. SB11 2. SB12 3・4. SD71



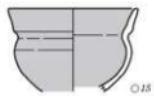
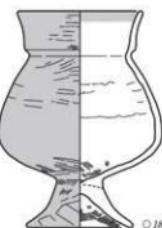
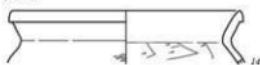
第133図 宇波西遺跡 遺構実測図

1. SD393 2. SD375 3. SD398 4. SE1537a・b 5. SE1538 6. SK81 7. SK394 8. SK395 9. SK519



第134図 宇波西遺跡 遺物実測図 (1/4)
SD1001 (1~8・10~13) SD1001・SD1556 (9)

SD1556

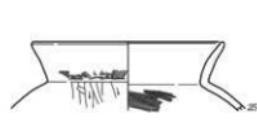
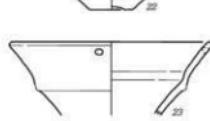
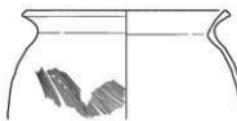
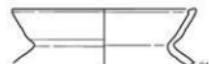
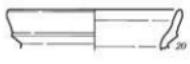
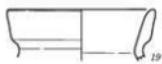


○18

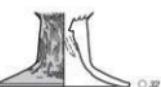
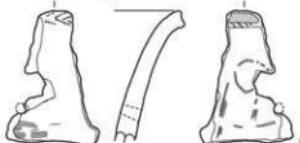
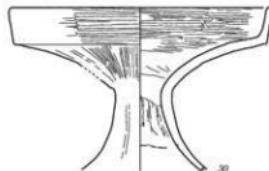
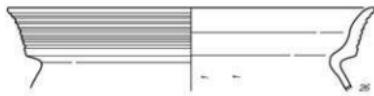


○19

SX435

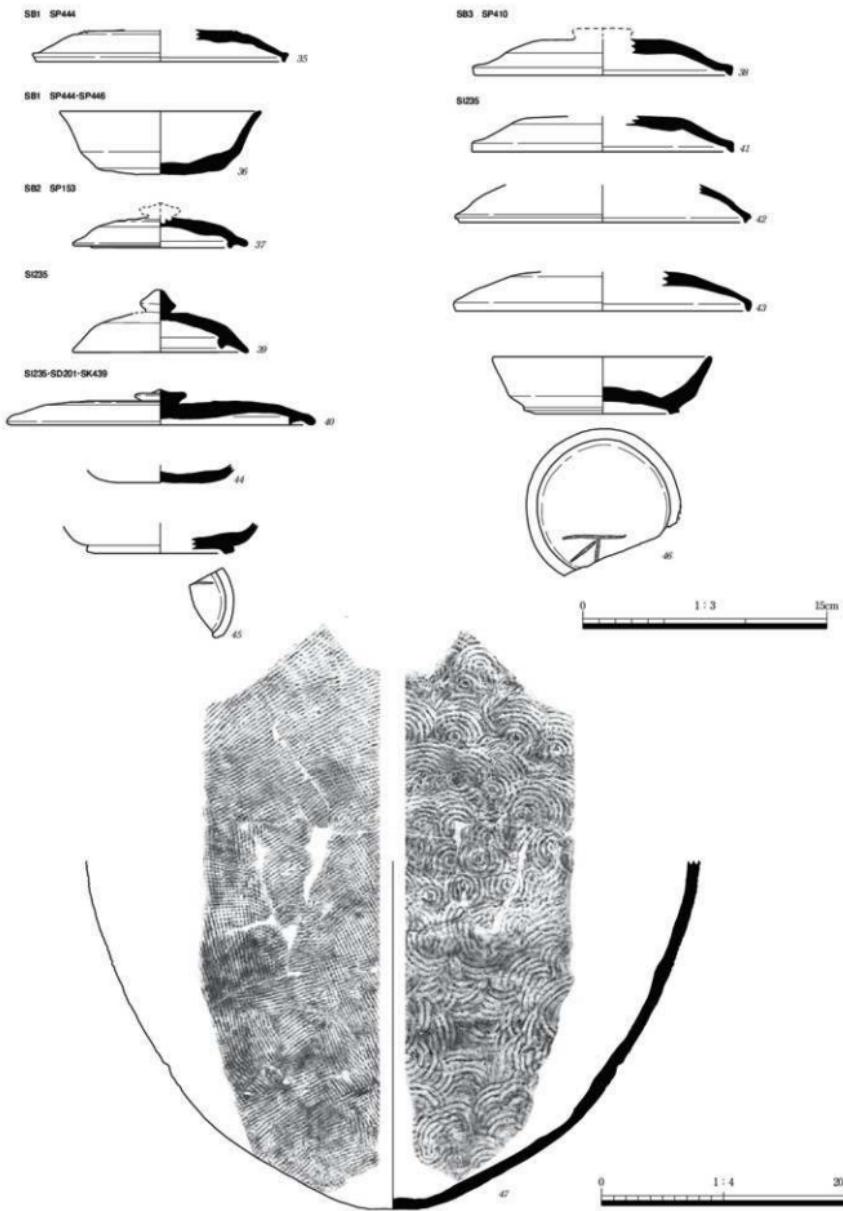


動物層



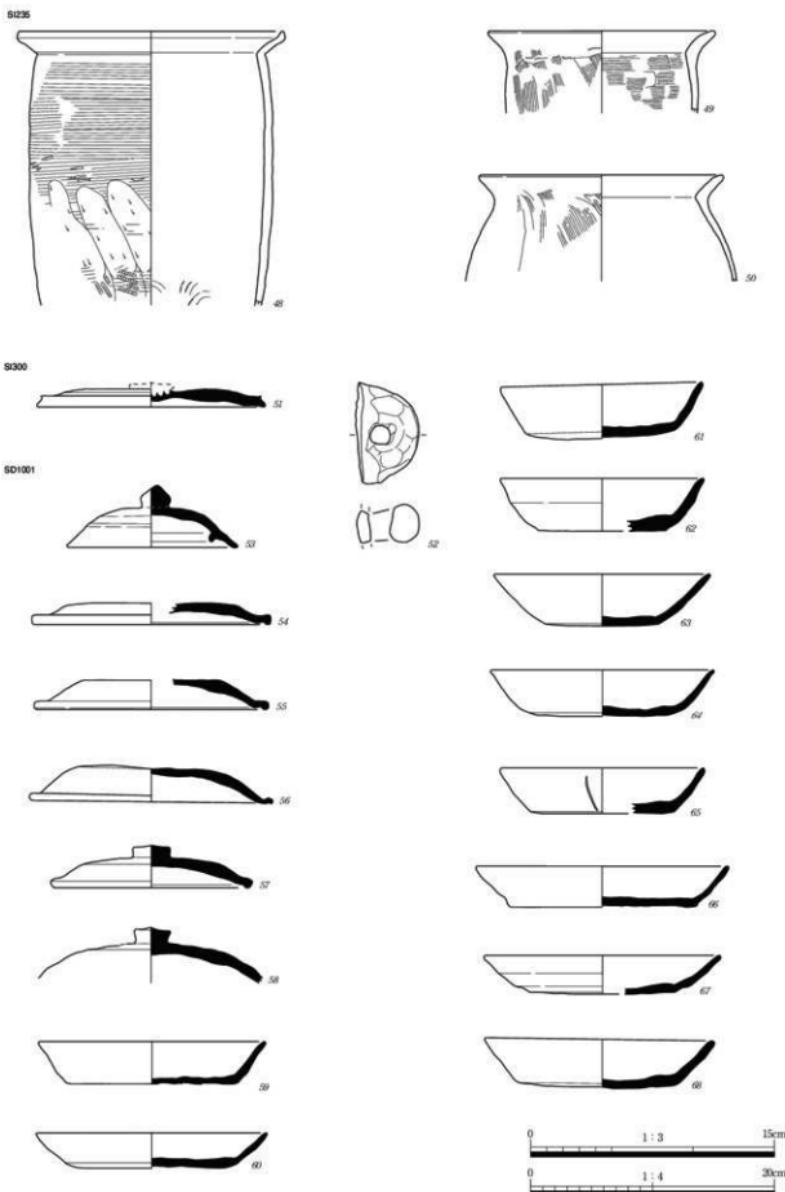
第135図 宇波西遺跡 遺物実測図 (1/4)

SD1556(14~18) SX434(24·25) SX435(19~23) 包含層

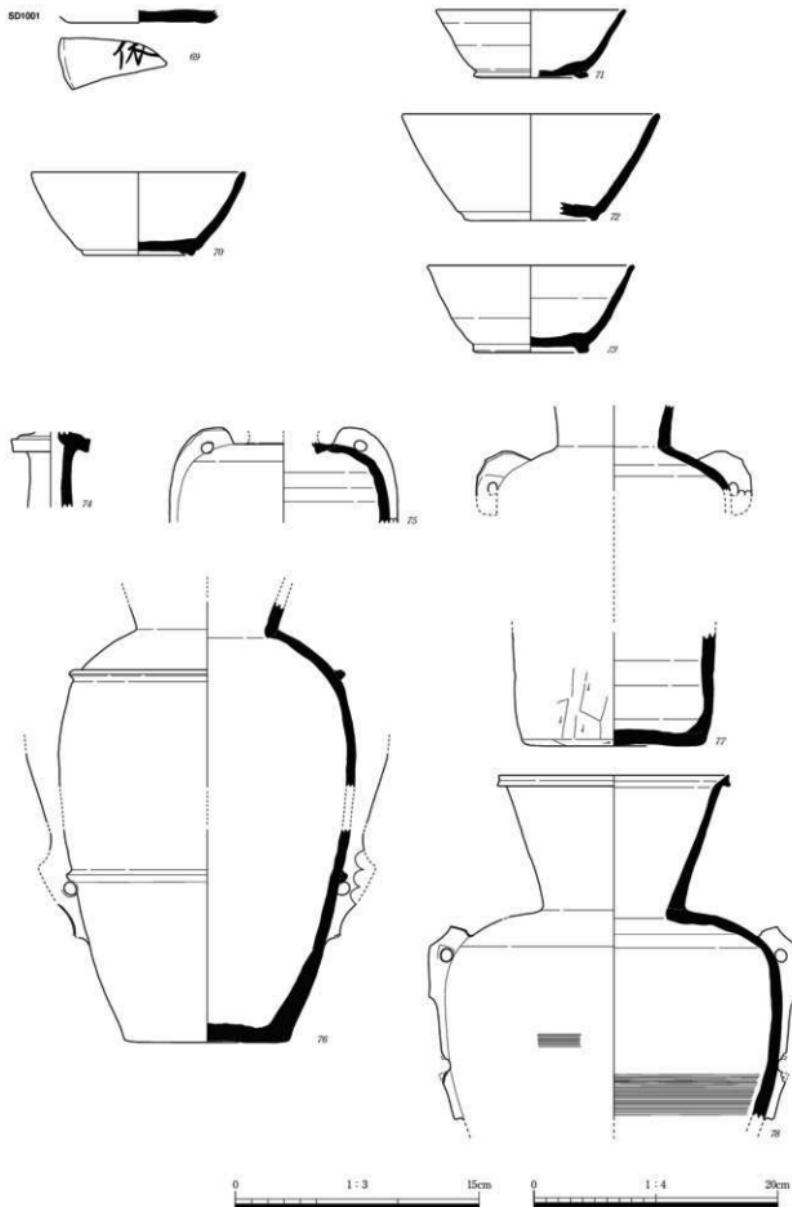


第136図 宇波西遺跡 遺物実測図 (35~46 1/3, 47 1/4)

SI235(39・41~47) SI235・SD201・SK439(40) SB1 SP444(35) SB1 SP444・SP446(36)
SB2 SP153(37) SB3 SP410(38)



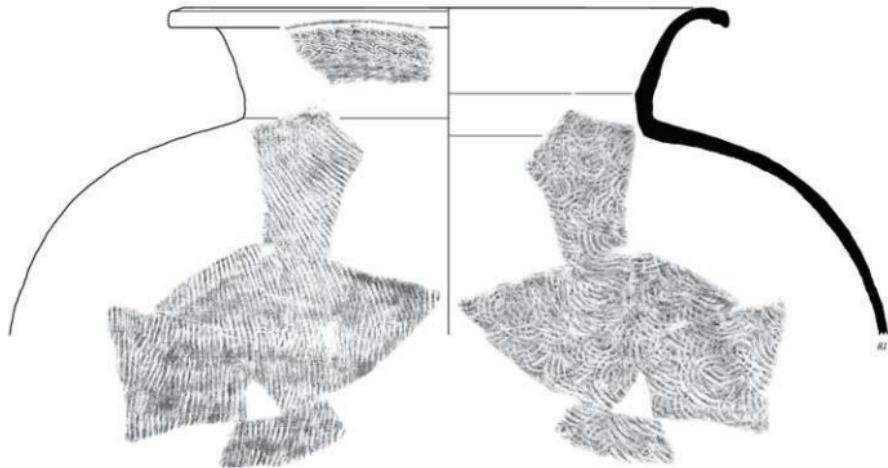
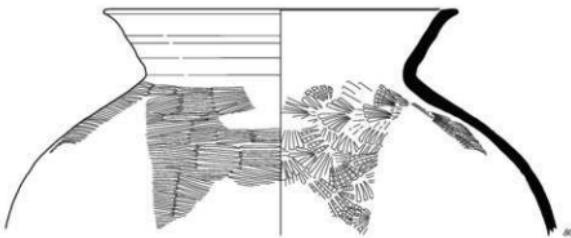
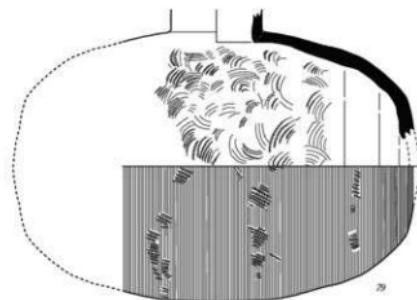
第137図 宇波西遺跡 遺物実測図 (51~68 1/3, 48~50 1/4)
SI235(48~50) SI300(51・52) SD1001(53~68)



第138図 宇波西遺跡 遺物実測図 (69~74 1/3, 75~78 1/4)

SD1001

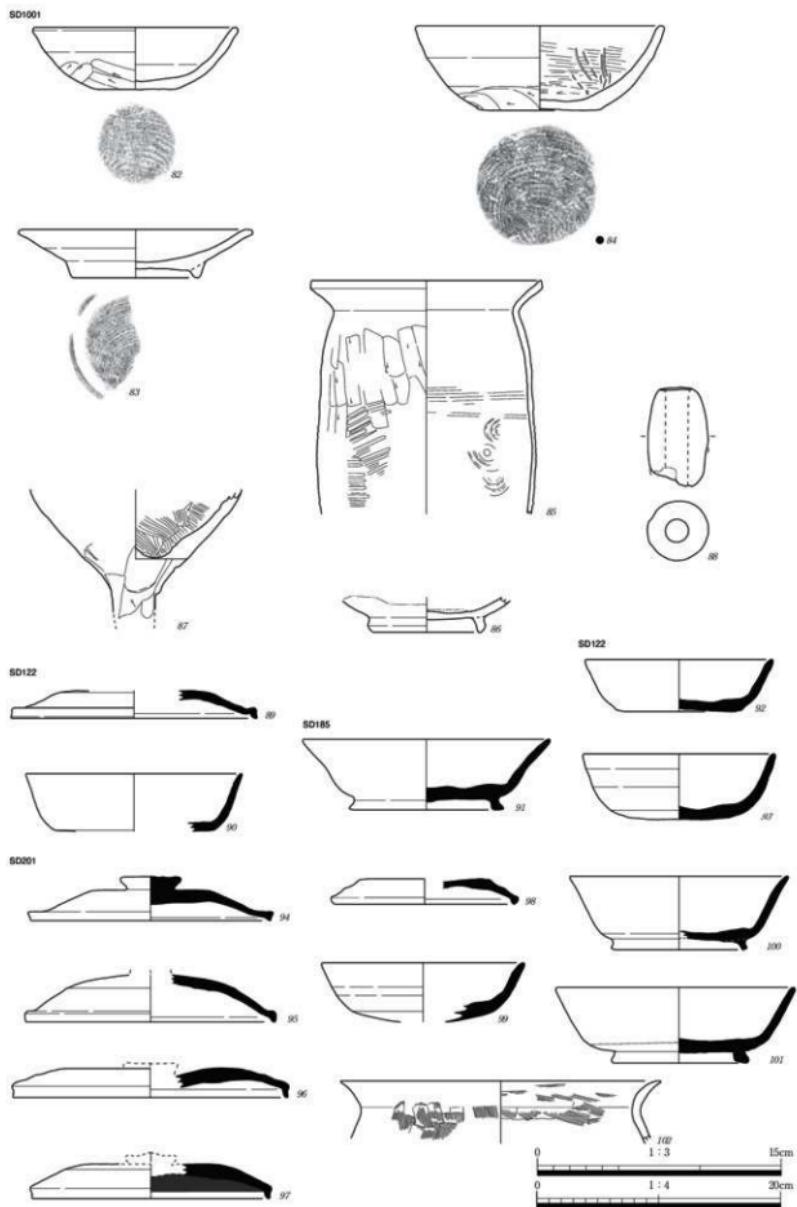
SD1001



0 1 : 4 20cm

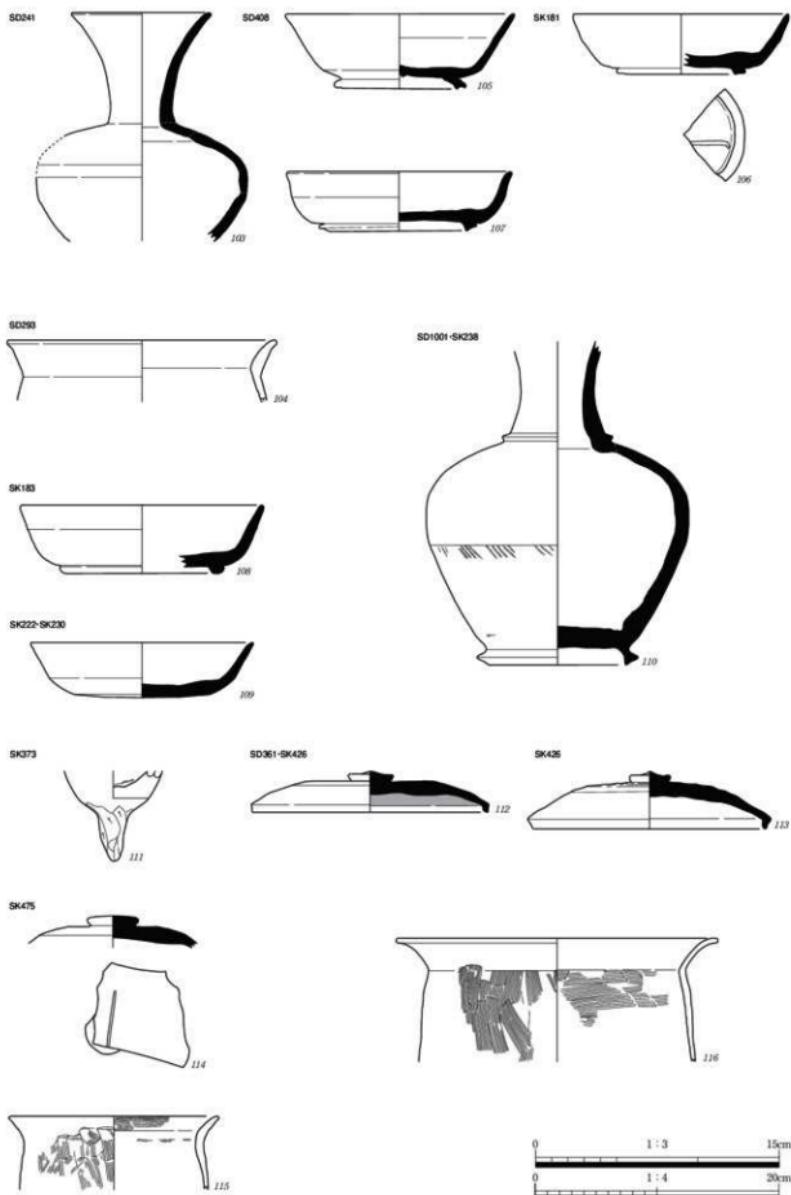
第139図 宇波西遺跡 遺物実測図 (1/4)

SD1001



第140図 宇波西遺跡 遺物実測図 (82~84・86~101 1/3, 85・102 1/4)

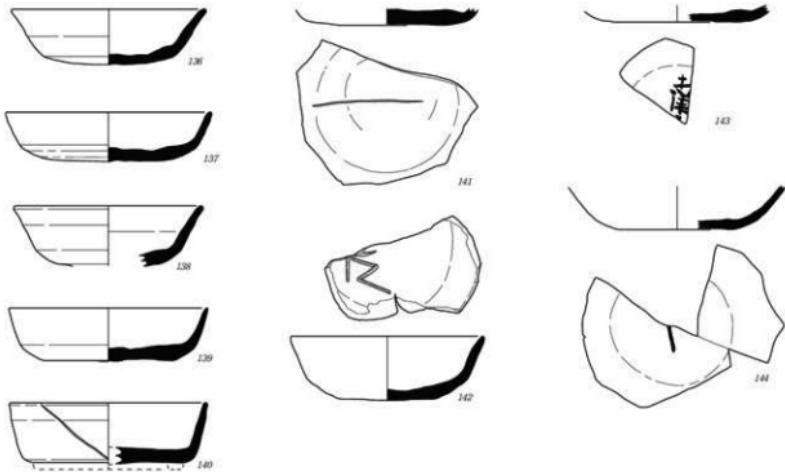
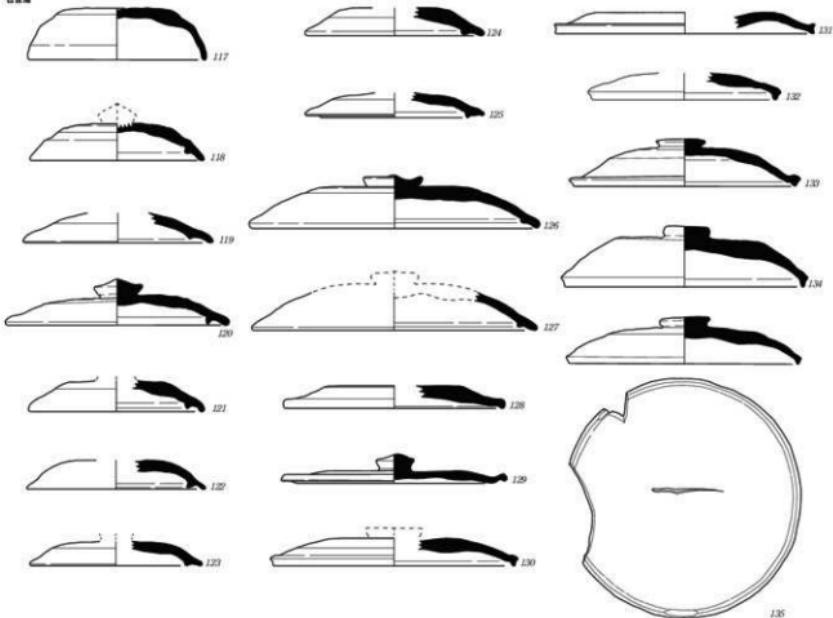
SD122(89, 90, 92, 93) SD185(91) SD201(94~102) SD1001(82~88)



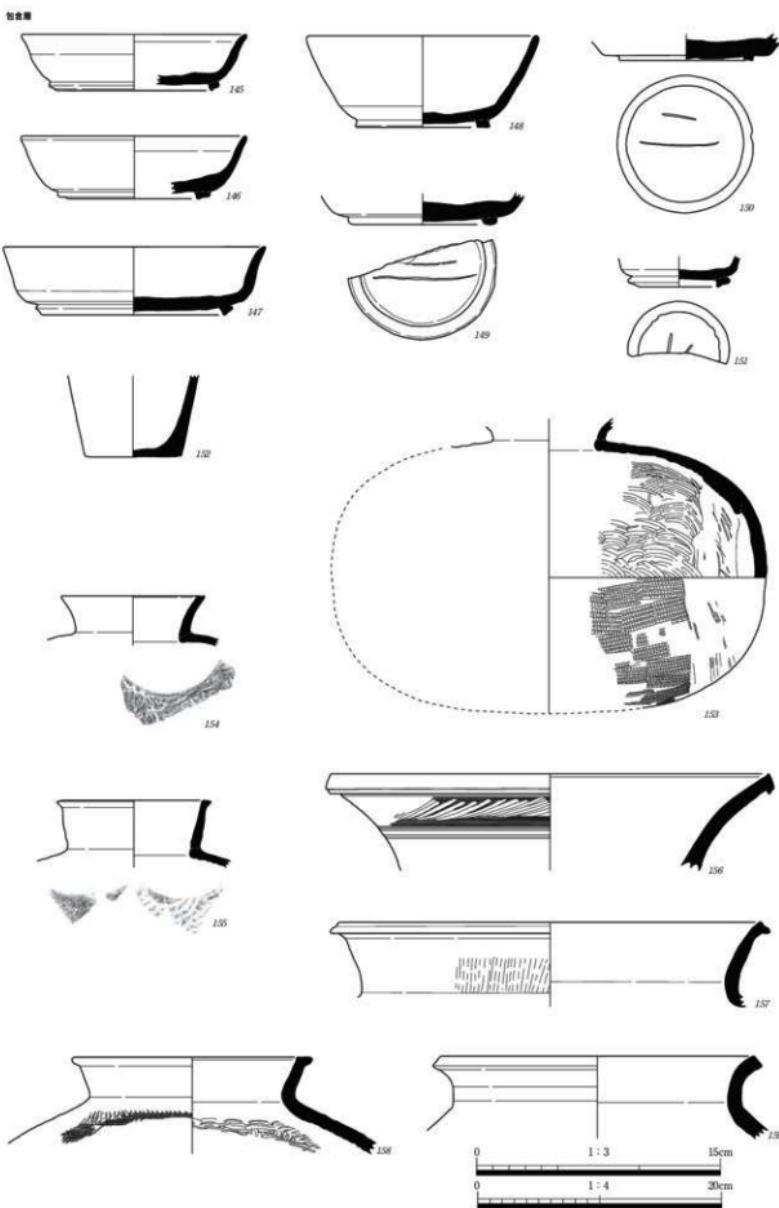
第141図 宇波西遺跡 遺物実測図 (105~109・111~114 1/3, 103・104・110・115・116 1/4)

SD241(103) SD293(104) SD361・SK426(112) SD408(105) SD1001・SK238(110)
SK181(106・107) SK183(108) SK222・SK230(109) SK373(111) SK426(113) SK475(114~116)

包含層

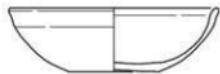


第142図 宇波西遺跡 遺物実測図 (1/3)
包含層

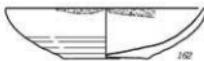


第143図 宇波西遺跡 遺物実測図 (145~152 1/3, 153~159 1/4)

包含層



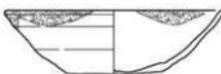
160



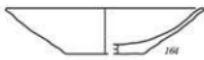
162



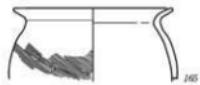
163



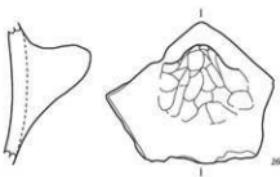
164



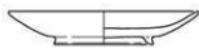
166



165



166



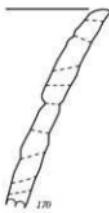
167



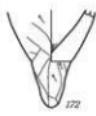
168



169



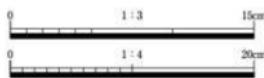
171



172



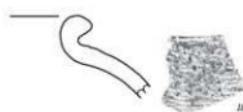
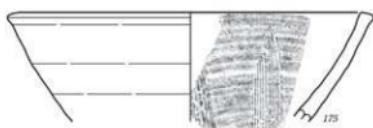
173



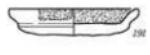
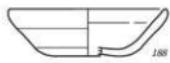
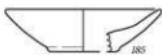
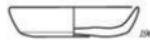
第144図 宇波西遺跡 遺物実測図 (160~164・166~173 1/3, 165 1/4)

包含層

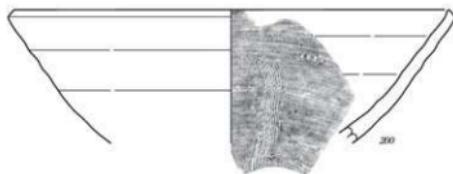
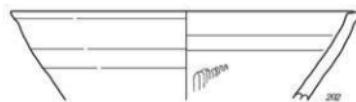
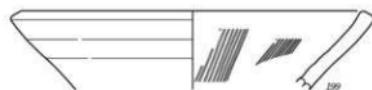
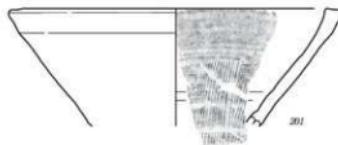
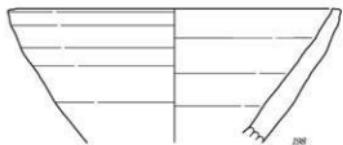
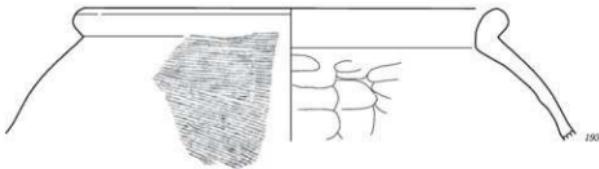
SD1001



包含層



第145図 宇波西遺跡 遺物実測図 (181・182・184~191 1/3, 174~180・183・192 1/4)
SD432(183) SD1001(174~182) 包含層



第146图 宇波西遗址 遗物实测图 (1/4)
包含层

包含層



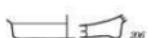
206



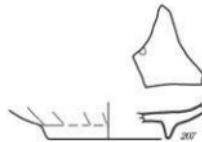
204



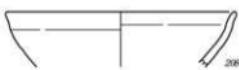
205



206



207



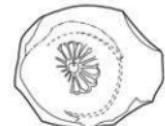
208



209



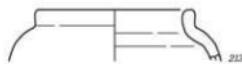
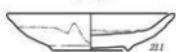
210



211



212



213



214



215

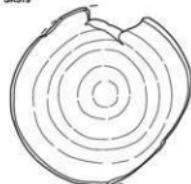


216



第147図 宇波西遺跡 遺物実測図 (206~211・213・215・216 1/3, 203~205・212・214 1/4)
包含層

SK519

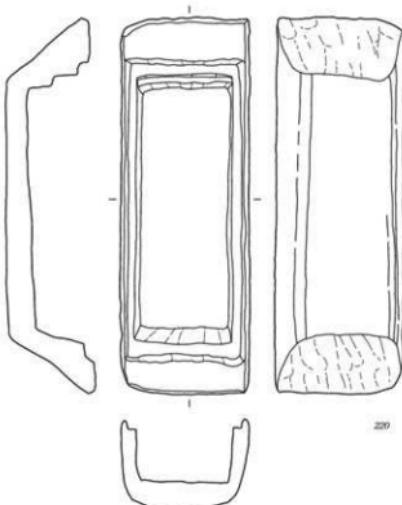


217

包含層



218

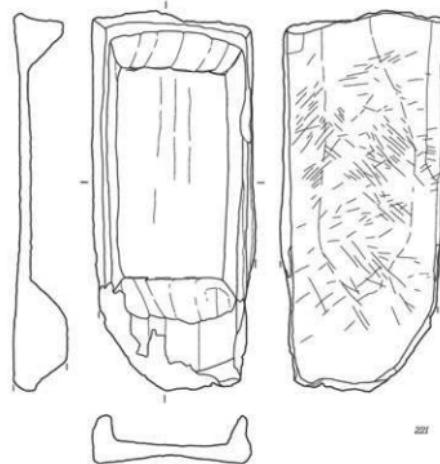


220

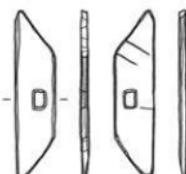
SD1001



219



221



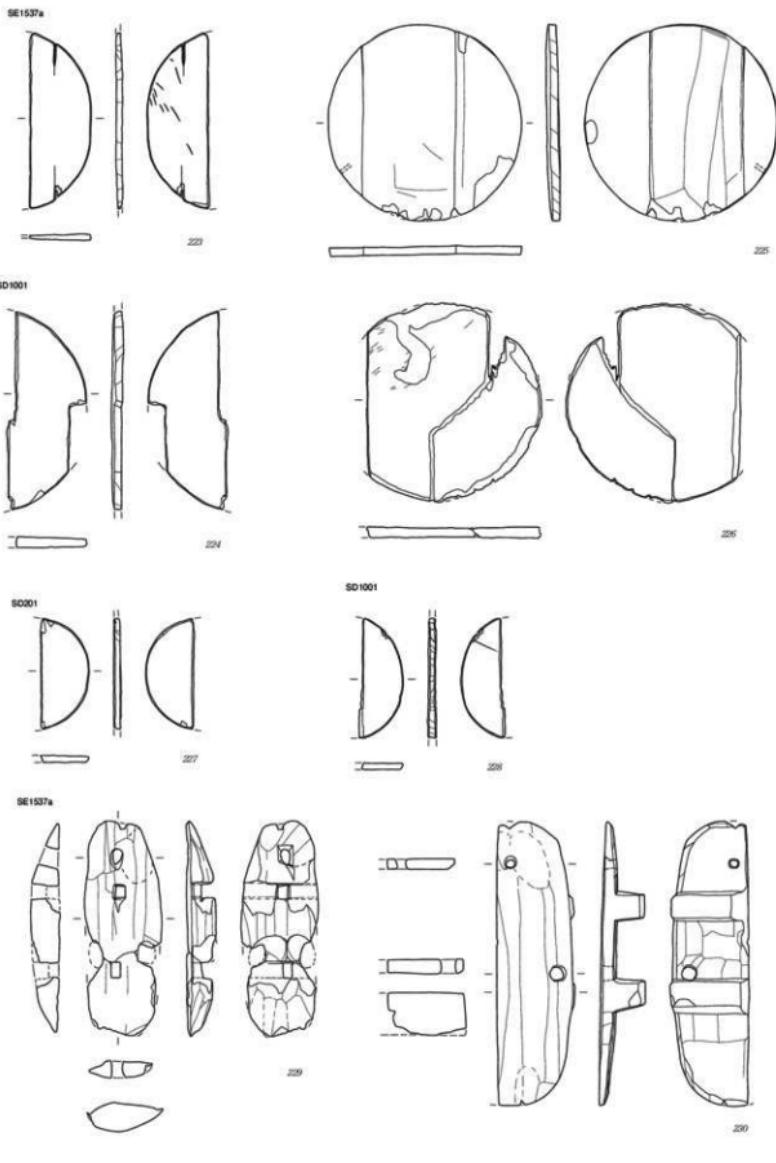
222

□□□



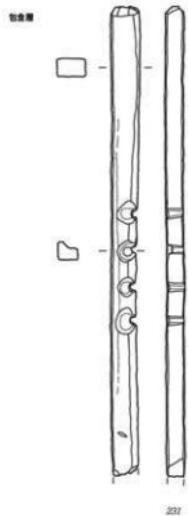
第148図 宇波西遺跡 遺物実測図 (1/4)

SD1001(219～222) SK519(217) 包含層

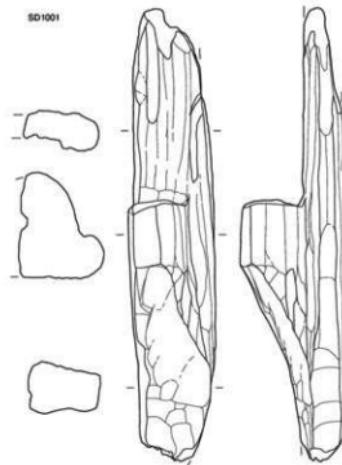


第149図 宇波西遺跡 遺物実測図 (1/4)

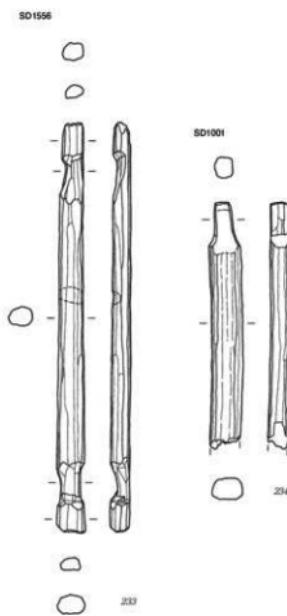
SD201(227) SD1001(224～226・228) SE1537a(223・229・230)



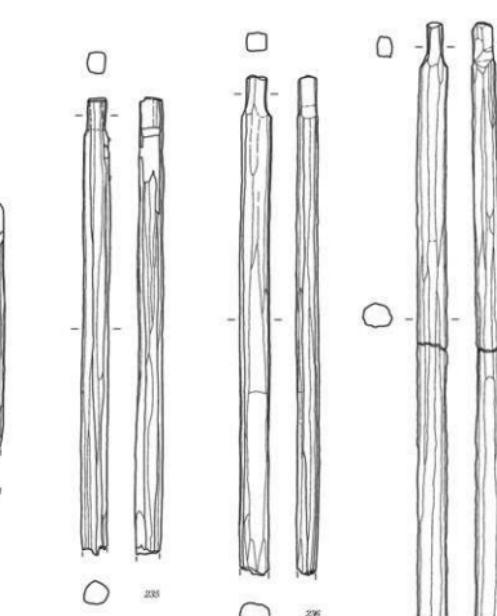
232



232



233

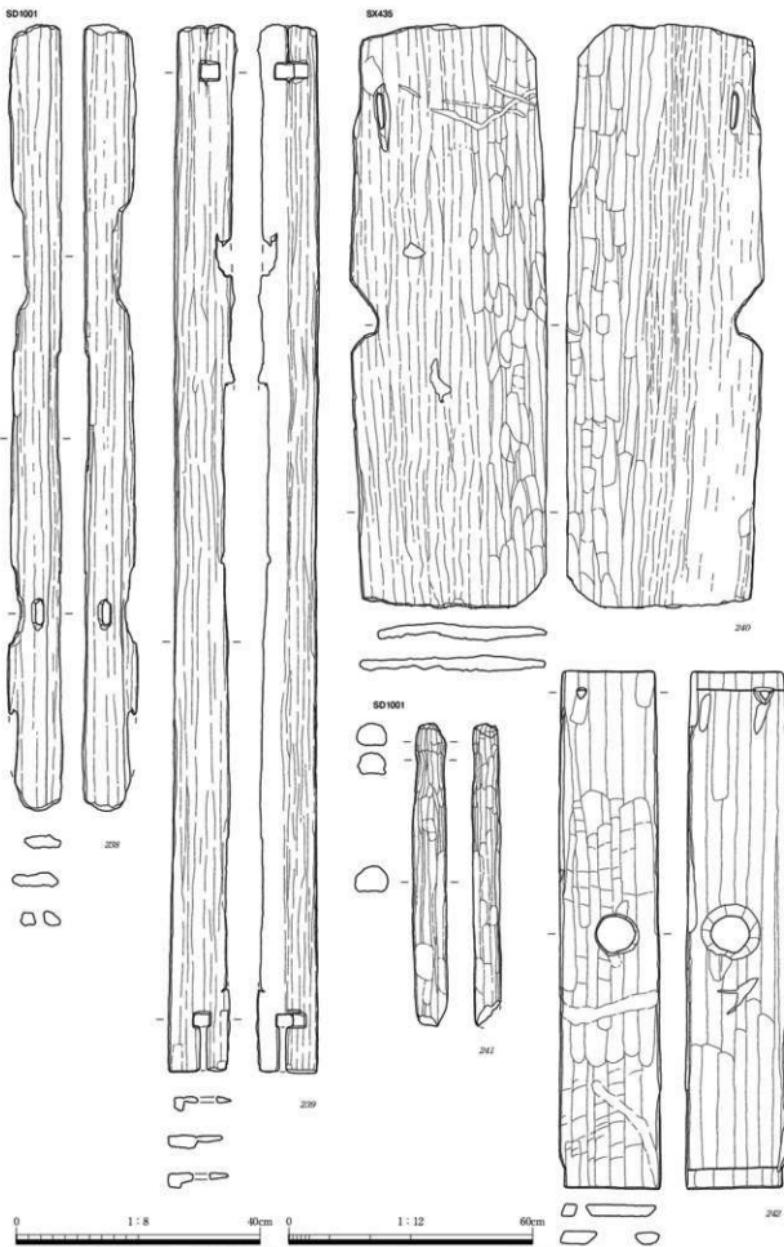


234

0 1 : 4 20cm

第150図 宇波西遺跡 遺物実測図 (1/4)

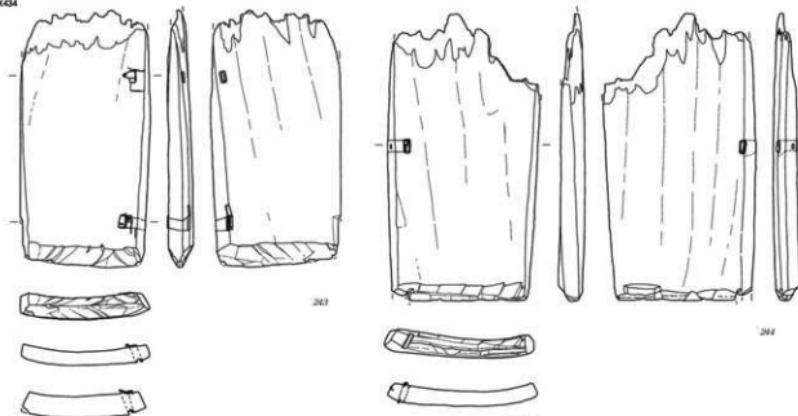
SD1001(232・234～237) SD1556(233) 包含層



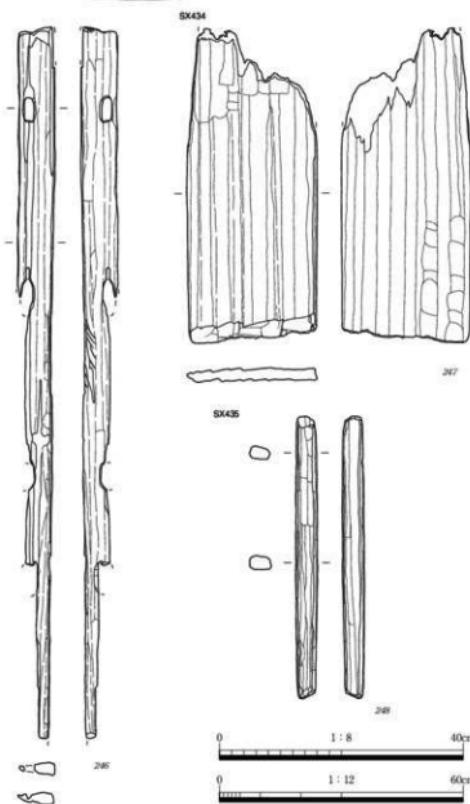
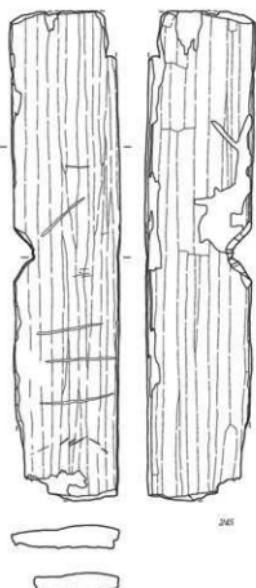
第151図 宇波西遺跡 遺物実測図 (241・242 1/8, 238~240 1/12)

SD1001(238・239・241・242) SX435(240)

SX434

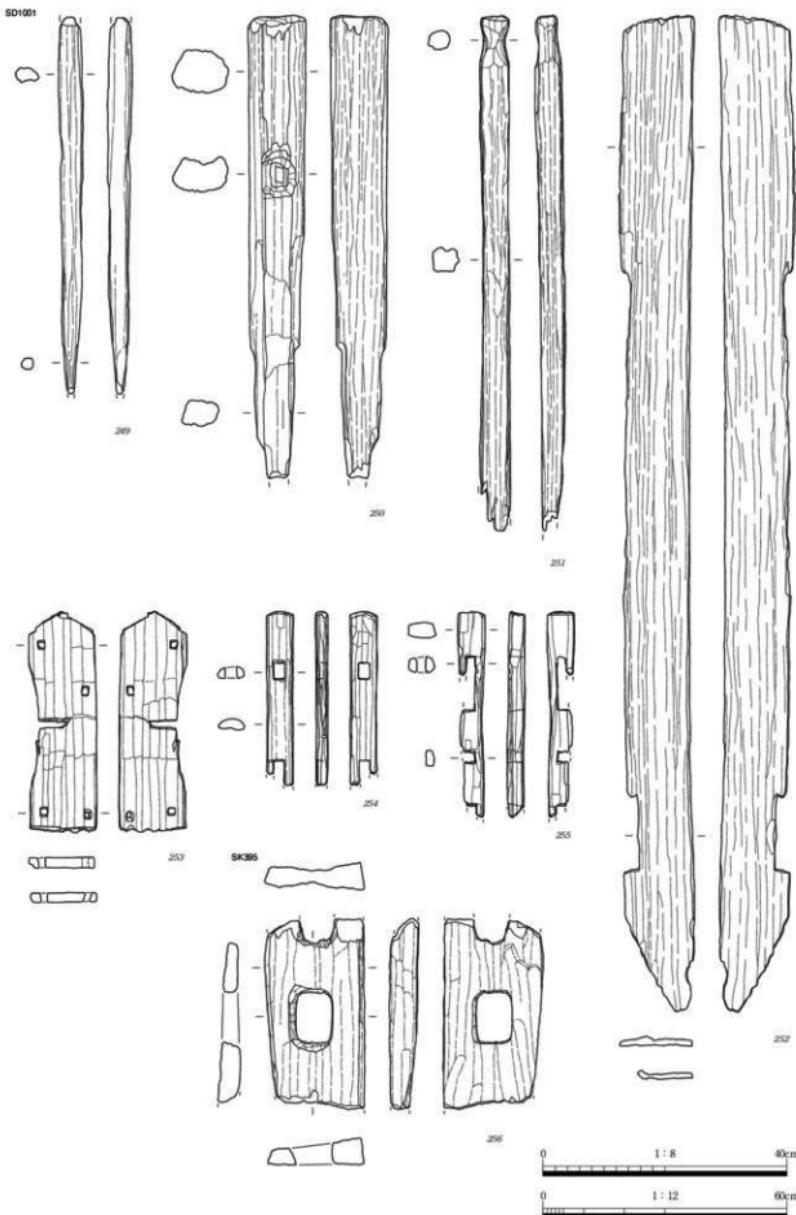


SX435



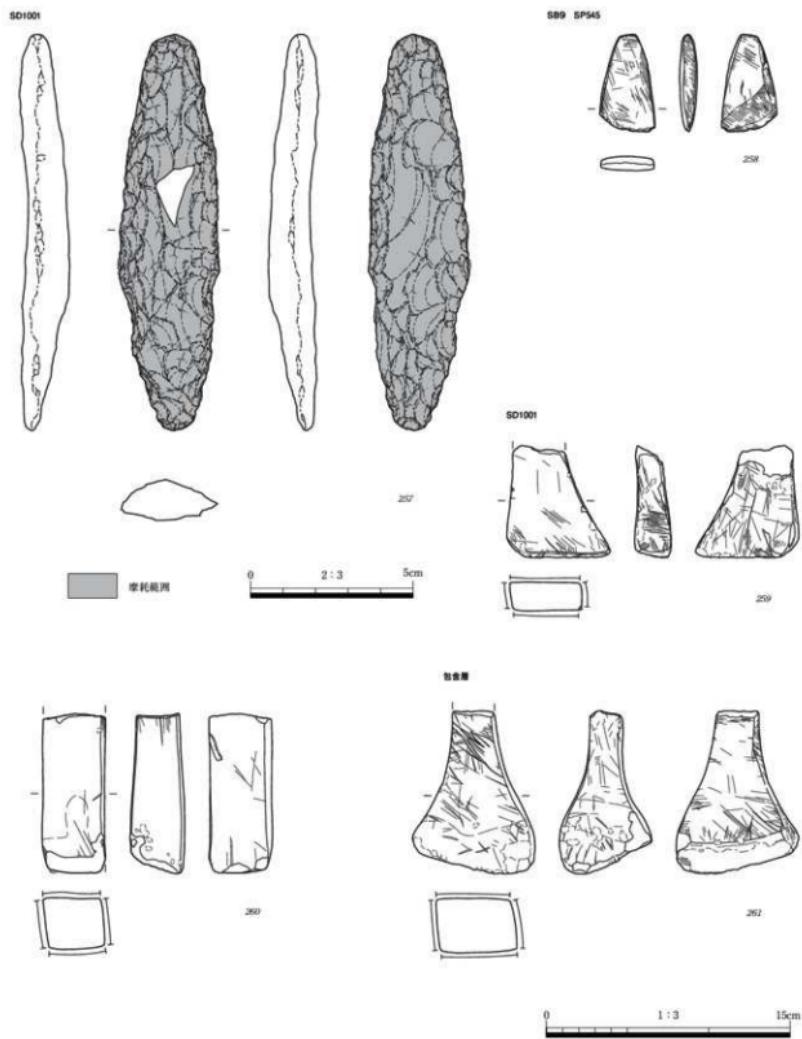
第152図 宇波西遺跡 遺物実測図 (243・244・247・248 1/8, 245・246 1/12)

SX434(243・244・247) SX435(245・246・248)



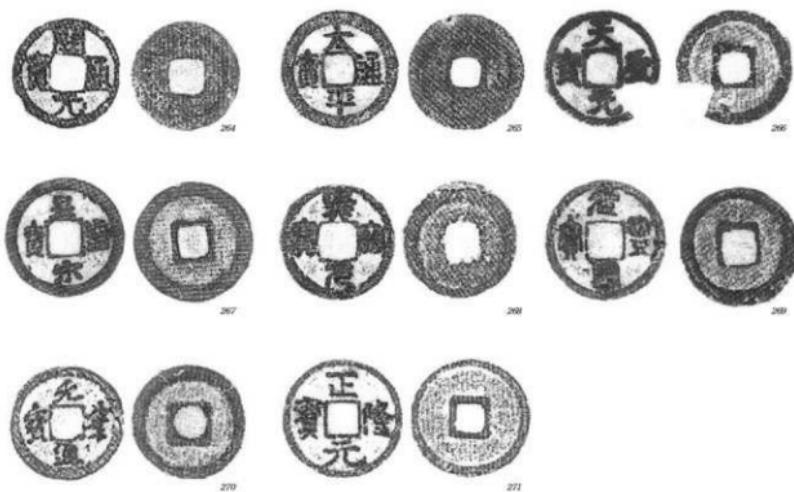
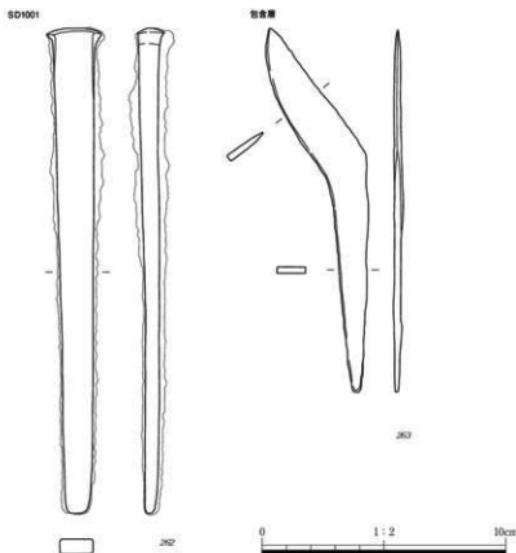
第153図 宇波西遺跡 遺物実測図 (253~256 1/8, 249~252 1/12)

SD1001(249~255) SK395(256)



第154図 宇波西遺跡 遺物実測図 (258~261 1/3, 257 2/3)

SB9 SP545(258) SD1001(257・259・260) 包含層



第155図 宇波西遺跡 遺物実測図 (264~271 1/1, 262・263 1/2)
SD1001(262) 包含層

第32表 宇波西遺跡 木組造構一覧

造構	平面形	面積(m)			出土遺物	時期	符記事項	切り合ひ	桿固	写真 図版
		長さ	幅	深さ						
SX434	不整	185	1.48	0.28	土師器(24-25),須恵器,板材(243-244-247),棒材,枕状,椎実	古代			112	89
SX435	不整	161	1.20	0.42	灰生土器(19-22),土師器(20),板材(240-245-246),棒材	古代			112	89

第33表 宇波西遺跡 穹穴建物一覧

建物	平面形	面積(m)			出土遺物	時期	符記事項	切り合ひ	桿固	写真 図版
		長さ	幅	深さ						
SI235	圓丸	393	2.28	0.08	土師器(48-50),須恵器(39-47),製塙土器,珠洲,椎実	古代	炭化物範A 長径1.50m 幅約0.9m 深20.13m 炭化物範B 長径1.31m 幅約0.95m 深20.1m	<SK439	119	93
SI300	方	293	2.06	0.08	土師器(52),須恵器(51),製塙土器	古代	炭化物範A 長径1.02m 幅約0.52m 深20.09m	>SK301, <SP441-473(SB1)	119	93

第34表 宇波西遺跡 古代掘立柱建物一覧

建物	種別	軒行(m)	梁行(m)	面積(m ²)	桿方位	柱穴対横径(m)	柱穴対縦深(m)	柱間距離柱(m)	柱間距離梁(m)	出土遺物	桿固	写真 図版		
SB1	南北桟 櫛柱	3間	7.00	2間	4.35	30.45	N-43°W	0.29~ 0.95	0.20~ 0.68	230~ 240	200~ 230	土師器,須恵器,棒材,柱根	117	
SB2	南北桟 櫛柱	3間	6.10	2間	4.05	24.71	N-37°W	0.31~ 0.64	0.13~ 0.39	175~ 220	195~ 220	土師器,須恵器	117	
SB3	南北桟 櫛柱	3間	5.60	2間	4.25	23.80	N-20°W	0.26~ 0.77	0.06~ 0.49	170~ 205	195~ 235	土師器,須恵器,不明土器品,柱根, 椎実	118	
SB4	南北桟 櫛柱	3間	5.95	2間	4.30	25.59	N-41°W	0.28~ 0.75	0.10~ 0.40	190~ 210	215~ 230	土師器,須恵器,柱根	118	

第35表 宇波西遺跡 中近世掘立柱建物一覧

建物	種別	軒行(m)	梁行(m)	面積(m ²)	桿方位	柱穴対横径(m)	柱穴対縦深(m)	柱間距離柱(m)	柱間距離梁(m)	出土遺物	桿固	写真 図版		
SB5	南北桟 櫛柱	3間	8.55	2間	5.85	50.02	N-22°E	0.23~ 0.39	0.07~ 0.33	235~ 320	280~ 310	柱根	128	
SB6	南北桟 櫛柱	3間	5.90	2間	5.45	32.16	N-22°E	0.17~ 0.37	0.09~ 0.31	115~ 250	195~ 330	柱根	128	
SB7	南北桟 櫛柱	2間	4.90	2間	4.60	22.54	N-20°E	0.23~ 0.41	0.12~ 0.21	180~ 300	225~ 240		129	
SB8	南北桟 櫛柱	1間	3.20	1間	3.00	9.60	N-21°W	0.55~ 0.81	0.17~ 0.27	320	285~ 315	須恵器,柱根	129	
SB9	南北桟 櫛柱	4間	8.85	3間	7.40	65.49	N-11°W	0.20~ 0.48	0.15~ 0.44	185~ 240	200~ 295	板材,磨製石斧	130	
SB10	東西桟 櫛柱	4間	8.50	3間	6.80	55.04	N-8°W	0.16~ 0.45	0.10~ 0.44	115~ 260	215~ 235	椎実	131	
SB11	南北桟 櫛柱	1間	4.00	1間	3.00	12.00	N-47°W	0.41~ 0.58	0.31~ 0.56	370~ 410	300	柱根	132	
SB12	南北桟 櫛柱	1間	3.50	1間	3.00	10.50	N-20°E	0.39~ 0.50	0.18~ 0.25	360	310	柱根	132	

第36表 宇波西遺跡 柱穴一覧 (1)

遺物番号	遺構	平面形	規模(m)			出土遺物	時期	特記事項	切り合ひ	種別	参考文献
			長S	幅	深S						
SA1	SP105	円	0.48	0.46	0.16		古代			120	
	SP106	円	0.48	0.44	0.11		古代			120	
	SP109	円か	0.58	0.35	0.14		古代			120	
	SP132	椭円	0.95	0.71	0.26		古代			120	
SB1	SP245	円	0.65	0.48	0.31	土鍤器	古代			117	
	SP284	椭円	0.65	0.60	0.45	土鍤器	古代			117	
	SP288	椭円	0.56	0.50	0.49		古代			117	
	SP441	椭円	0.70	0.61	0.51	柱根	古代	>SD300		117	
	SP443	円	0.43	0.39	0.48	土鍤器	古代			117	
	SP444	円	0.55	0.48	0.20	土鍤器,須恵器(35-36)	古代			117	
	SP445	椭円	0.95	0.71	0.29		古代			117	
	SP446	椭円	0.61	0.54	0.68	土鍤器,須恵器(36),柱根	古代			117	
SB2	SP473	椭円	0.75	0.68	0.33	土鍤器,須恵器	古代	>SD300		117	
	SP478	円	0.59	0.50	0.42	土鍤器,須恵器	古代			117	
	SP114	椭円	0.64	0.49	0.35		古代			117	
	SP129	円	0.58	0.50	0.25		古代			117	
	SP135	椭円	0.53	0.44	0.27	土鍤器	古代			117	
	SP144	椭円	0.61	0.58	0.20		古代			117	
	SP147	円	0.59	0.44	0.29	土鍤器	古代	<SD122		117	
SB3	SP153	円	0.44	0.43	0.24	土鍤器,須恵器(37)	古代			117	
	SP467	円	0.43	0.41	0.19		古代	SD406と重複		117	
	SP468	円	0.55	0.53	0.28		古代			117	
	SP470	円	0.60	0.56	0.30		古代			117	
	SP472	椭円	0.33	0.31	0.13		古代			117	
	SP318	円	0.50	0.45	0.24	土鍤器	古代	SD301と重複		118	
	SP320	円	0.47	0.34	0.06	土鍤器	古代	SD301と重複		118	
SB4	SP330	椭円	0.60	0.52	0.45	柱根	古代	SD301と重複		118	
	SP331	円	0.77	0.51	0.25	土鍤器,須恵器	古代	SD301と重複		118	
	SP334	円	0.45	0.26	0.46	土鍤器,須恵器	古代	SD301と重複		118	
	SP339	円	0.50	0.50	0.49	土鍤器,須恵器	古代	SD301と重複		118	
	SP352	椭円	0.52	0.45	0.18	土鍤器	古代	<SD424		118	
	SP410	円	0.63	0.53	0.45	土鍤器,須恵器(38),椎実	古代	>SD122		118	
	SP427	椭円	0.39	0.32	0.30	土鍤器,須恵器	古代	>SD361		118	
SB5	SP428	椭円	0.52	0.46	0.46	土鍤器,不明上製品	古代			118	
	SP190	楕丸	0.60	0.55	0.24	土鍤器	古代			118	
	SP191	不整	0.56	0.38	0.27	須恵器	古代			118	
	SP192	楕丸	0.71	0.43	0.23		古代			118	
	SP223	円	0.51	0.47	0.33	柱根	古代			118	
	SP224	椭円	0.56	0.52	0.16		古代			118	
	SP227	円	0.34	0.28	0.10		古代			118	
	SP248	椭円	0.75	0.56	0.26		古代			118	
	SP261	椭円	0.70	0.50	0.26		古代			118	
	SP365	楕丸	0.71	0.66	0.40		古代			118	
	SP97	円	0.39	0.36	0.07		中近世			128	
	SP98	円	0.30	0.27	0.26		中近世			128	
	SP92	円	0.34	0.33	0.27		中近世	>SD71		128	
	SP96	円	0.31	0.27	0.07		中近世			128	
	SP99	円	0.27	0.23	0.18		中近世			128	
	SP80	円	0.37	0.30	0.33		中近世			128	
	SP83	円	0.30	0.27	0.21		中近世			128	
	SP89	円	0.25	0.23	0.18		中近世			128	
	SP91	円	0.25	0.24	0.25	柱根	中近世			128	

第36表 宇波西遺跡 柱穴一覧(2)

柱物番	遺構	平面形	範囲(m)			出土遺物	時期	特記事項	切口合v.	神岡	写真 図版
			長S	幅	深S						
	SP102	円	0.33	0.30	0.15		中近世			128	
	SP126	円	0.26	0.36	0.29		中近世			128	
SB6	SP24	円	0.31	0.29	0.31		中近世			128	
	SP26	円	0.34	0.32	0.18		中近世			128	
	SP27	円	0.31	0.31	0.18		中近世			128	
	SP28	円	0.25	0.23	0.14		中近世			128	
	SP29	円	0.27	0.27	0.24		中近世			128	
	SP30	円	0.30	0.24	0.11		中近世			128	
	SP33	円	0.21	0.17	0.13		中近世			128	
	SP35	円	0.28	0.26	0.17		中近世			128	
	SP41	円	0.37	0.28	0.18	柱根	中近世			128	
	SP44	円	0.24	0.19	0.17		中近世			128	
SB7	SP3	円	0.37	0.33	0.12		中近世			129	
	SP5	円	0.38	0.33	0.20		中近世			129	
	SP7	円	0.35	0.33	0.17		中近世			129	
	SP9	椭円	0.41	0.31	0.21		中近世			129	
	SP12	円	0.39	(0.24)	0.13		中近世			129	
	SP13	円	0.33	0.28	0.16		中近世			129	
	SP14	円	0.35	0.32	0.15		中近世			129	
	SP18	円	0.31	(0.29)	0.14		中近世			129	
SB8	SP20	円	0.60	0.55	0.17		中近世			129	
	SP28	円	0.67	0.63	0.26		中近世			129	
	SP31	円	0.71	0.68	0.27	柱根	中近世			129	
	SP32	円	0.81	0.79	0.27	埴輪器・柱根	中近世			129	
SB9	SP515	円	0.28	0.25	0.40		中近世			130	
	SP517	円	0.30	0.29	0.31		中近世			130	
	SP521	円	0.26	0.25	0.31		中近世			130	
	SP523	円	0.29	0.26	0.38		中近世			130	
	SP524	円	0.36	0.32	0.30		中近世			130	
	SP527	円	0.36	0.24	0.31		中近世			130	
	SP534	円	0.28	0.25	0.34		中近世			130	
	SP535	円	0.33	0.29	0.40		中近世			130	
	SP536	椭円	0.42	0.29	0.29		中近世			130	
	SP539	円	0.29	0.23	0.36	板材	中近世			130	
	SP541	円	0.32	0.23	0.28		中近世			130	
	SP545	椭円	0.30	0.24	0.15	磨製石斧(258)	中近世			130	
	SP547	円	0.27	0.20	0.44		中近世			130	
	SP548	円	0.29	0.29	0.27		中近世			130	
	SP564	円	0.21	0.21	0.24		中近世			130	
SB10	SP566	円	0.30	0.25	0.17		中近世			130	
	SP562	円	0.29	0.26	0.32		中近世			130	
	SP571	円	0.48	0.35	0.17		中近世			130	
	SP581	円	0.25	(0.20)	0.23		中近世			130	
	SP516	円	0.27	0.26	0.19		中近世			131	
	SP518	円	0.32	0.30	0.36		中近世			131	
	SP520	円	0.25	0.25	0.26		中近世			131	
	SP522	円	0.33	0.31	0.36		中近世			131	
	SP525	円	0.29	0.28	0.28	棒実	中近世			131	
	SP526	椭円	0.23	0.21	0.27		中近世			131	
	SP533	円	0.31	0.30	0.44		中近世			131	
	SP538	円	0.28	0.26	0.28		中近世			131	

第36表 宇波西遺跡 柱穴一覧（3）

記物番号	遺構	平面形	規模(m)			出土遺物	時期	特記事項	切り合ひ	種別	参考図版
			長さ	幅	深さ						
SF544	円		0.28	0.25	0.33		中近世			131	
SF549	円		0.34	0.33	0.30		中近世	柱根		131	
SF550	不規		0.38	0.31	0.20		中近世			131	
SF553	楕円		0.34	0.30	0.34		中近世			131	
SF555	円		0.31	0.25	0.20		中近世			131	
SF563	楕円		0.28	0.16	0.27		中近世			131	
SF565	円		0.34	0.29	0.31		中近世			131	
SF566	円		0.35	0.35	0.10		中近世			131	
SF567	楕円		0.45	0.40	0.21		中近世			SD402比量表	131
SB11	SF510	楕円	0.49	0.41	0.56		中近世			132	
	SF511	円	0.53	0.51	0.31	柱根	中近世			132	
	SF513	円	0.54	0.53	0.47		中近世			132	
	SF514	円	0.58	0.55	0.40	柱根	中近世			132	
SB12	SF558	円	0.46	0.39	0.18	柱根	中近世			132	94
	SF559	円	0.50	0.47	0.19	柱根	中近世			132	
	SF564	円	0.46	0.42	0.25	柱根	中近世			132	

第37表 宇波西遺跡 満・自然流路一覧

造構	種類	面積(m ²)		出土遺物	時期	特記事項	切替合意	H618	写真 図版
		幅	深さ						
SD 71	溝	1.29	0.21	土師器	中近世		<SP62(SB5) SD72-432±重複	125-126- 132	
SD 72	溝	1.26	0.31		古代		SD71-432±重複	116-120	
SD 122	溝	0.30/ 0.65/ 0.68	0.11/ 0.10/ 0.16	土師器, 陶器(89-90-92-93), 鋸塙土器	古代		>SP147(SB2)-SD424, <SP410(SB3)-SD408	115-116- 120	
SD 185	溝	1.04	0.38	土師器, 陶器(90), 鋸塙土器	古代			115-120	
SD 201	谷状地	29.30	1.32	土師器(102), 陶器(40-94-101), 鋸塙土器, 陶器, 板材, 円形板(227)	古代～近世		>SK362 <SP32-410- 427-428(SB3)-SF365 (SB4)-SD424 SF318-320-330-331- 334-339(SB3)-SK426 ±重複	113	
SD 241	溝	0.86	0.22	土師器, 陶器(103), 中国製青磁, 越中衛門, 伊万里			<SK222	115	
SD 293	溝	0.19	0.07	土師器(104), 陶器, 越中衛門, 陶器			>SK362	121	
SD 315	溝	0.24	0.08	土師器, 陶器	古代		<SD424 SD301±重複	116-120	
SD 361	溝	0.62	0.08	土師器, 陶器(122)			<SP427(SB3)-SK426 SD301±重複	115	
SD 375	溝	2.13	0.17	土師器	中近世			124-133	
SD 393	溝	0.70-1.17	0.11	土師器				124-133	
SD 398	溝	3.88-5.00	0.33	土師器, 陶器	中近世			124-133	
SD 408	溝	1.82	0.16	土師器, 陶器(105)			>SD122 SP467(SB2)±重複	115	
SD 424	溝	0.31-0.40	0.17	土師器, 陶器, 鮎実			>SP352(SB3)-SD315, <SD122	116-120	
SD 432	溝	40.80	0.41	弥生土器, 土師器, 陶器, 黒色土器, 鋸塙土器, 中曾土師器, 陶器(106), 中国製染付			SP567(SB10)-SD71- 72±重複	122	
SD 1001	自然流路	22.50/ 17.90/ 10.30	1.21/ 2.20	洗生土器(1-17), 土師器(82-83-85), 内凹土師器, 手捏, 陶器(53-81-110), 陶色土器(84), 灰釉陶器(86), 鋸塙土器(87), 陶器(174-180), 中国製白磁(184), 中曾製青磁(182), 円形板(224-226-228), 瓦板(225), 加工材(222), 鮎(226), 板材(228-239-242-251-253), 陶材(234-237-242-249-251), 鋸割石(257), 打削石等, 鋸割石等, 破石(239-289), 丸頭(282), 鮎壳	弥生～中晩?		>SD1001bc-1550, <SE1037ab-1538	107-110	94
SD 1001b	自然流路	15.00/7.60	0.55	弥生土器, 土師器, 陶器, 棒材	弥生～古墳		<SD1001-1001c	107-111	
SD 1001c	自然流路	10.80/1.05	0.60	弥生土器, 土師器, 陶器, 灰釉陶器, 鋸塙土器, 陶器, 加工材, 瓦片	弥生～古墳		>SD1001b-1556, <SD1001	107-111	
SD 1550	溝	365-685	0.21	土師器	弥生～古墳		<SD1001	107-111	
SD 1556	溝	238-649	0.29	縹文土器, 弥生土器(9-14-18), 土師器, 木製品, 棒材(233)	弥生～古墳		<SD1001c	107-111	
SD 1557	溝	234-630	0.25	土師器	弥生～古墳			107-111	

第38表 宇波西遺跡 土坑一覧

遺構	平面形	規模(m)			出土遺物	時期	特記事項	切合い	種別	等級
		長さ	幅	深さ						
SK81	円	0.31	0.27	0.18	埴輪器	中近世			133	
SK181	不要	1.87	1.13	0.27	土師器、埴輪器(106-107)、製塙土器	古代			115	
SK183	椭円	0.29	0.26	0.12	埴輪器(108)	古代			115	
SK211	椭円	1.88	1.37	0.38	土師器、埴輪器	古代			121	
SK222	円	0.38	0.38	0.28	土師器、埴輪器(109)	古代		>SD241	115	
SK230	椭円	0.41	0.29	0.30	土師器、埴輪器(109)、製塙土器	中世?			115	
SK231	椭円	2.46	1.25	0.22	土師器、埴輪器	古代			122	
SK238	円	0.95	0.82	0.17	土師器、埴輪器(110)	古代			115	
SK301	不整	(1.56)	(1.53)	0.14	土師器、埴輪器			<SI300	119	
SK302	方	4.11	(4.00)	0.20	土師器、埴輪器	古代		<SD292-293	121	
SK373	不要	1.23	1.10	0.09	土師器、埴輪器、製塙土器(111)				124	
SK394	円	0.28	0.28	0.16	珠陶	中近世			133	
SK395	椭円	0.49	0.47	0.08	板状(堤板)(2/96)	中近世			133	
SK426	円	0.42	0.42	0.30	土師器、埴輪器(112-113)			>SD361 SD301と重複	115	
SK439	円	0.29	0.25	0.09	埴輪器(40)			>SI235	115	
SK475	不要	3.52	3.44	0.16	土師器(115-116)、埴輪器(214)、製塙土器珠陶、不明上解品	古代			120	
SK519	円	0.73	0.62	0.58	漆器黑(227)、核実	中世			133	

第39表 宇波西遺跡 井戸一覧

遺構	平面形	規模(m)			出土遺物	時期	特記事項	切合い	種別	等級
		長さ	幅	深さ						
SE258	円	1.59	1.32	1.61	土師器、埴輪器	古代			120	
SE460	円	1.43	1.40	1.18	土師器、埴輪器	古代			120	
SE1537a	P?	2.20	2.16	0.52	土師器、埴輪器、珠陶、唐瓦、曲物、下敷(229-230)、円形板(225)	中世	石組井戸で上部は削平されている	>SD1001-SE1537b	133	94
SE1537b	P?	0.80		0.37	土師器、曲物	中世	石組井戸で上部は削平されている	>SD1001, <SE1537a	133	94
SE1538	P?	1.08	0.72	0.9	珠陶上層、土師器、埴輪器、曲物	中世	石組井戸で上部は削平されている	>SD1001	133	

第40表 宇波西遺跡 土器・陶磁器・土製品一覽(1)

遺物番号	写真 (1面)	遺物名	出土地点	層別	形態	17面 底面	底面 底面	剖面 底面	剖面 底面	剖面 底面	剖面 底面	備考
134 / 97	B1	SD1001	X1167571 X1167861 X1173901	張生土器 張生土器 張生土器	甕	19.6	底面	底面	10Y26.2	灰褐色	砂粒・骨粉	外縁丸み
2 / 97	B2	SD1001	X1173901	張生土器	甕	13.0	32	張生	底面	10Y27.3	12-15.5 黄褐色	手色:砂粒・骨粉
3 / 92	B2	SD1001	X10719861	張生土器	甕	14.0	底面	底面	10Y27.3	12-15.5 黄褐色	手色:砂粒・骨粉	
4 / 97	B2	SD1001	X1173863-1~4	張生土器 張生土器 張生土器 張生土器	甕	17.0	底面	底面	5YR27.6	褐色	手色:砂粒・骨粉	
5 / 95	B2	SD1001	X1173889	張生土器	小壺瓶	8.0	11.4	26	張生	底面	7.5YR27.4	12-15.5 黄褐色
6 / 95	B2	SD1001	X10861114.1~4	張生土器 張生土器 張生土器 張生土器	甕	11.9	底面	底面	7.5YR27.4	12-15.5 黄褐色	手色:砂粒・骨粉	
7 / 95	B2	SD1001	X1173921-1~4	張生土器 張生土器 張生土器 張生土器	甕	13.8	底面	底面	7.5YR27.3	12-15.5 黄褐色	手色:砂粒・骨粉	
8 / 97	B2	SD1001	X1157822-1~4	張生土器 張生土器 張生土器 張生土器	甕	14.2	底面	底面	2A7.2	灰褐色	砂粒・骨粉	
9 / 95	B2	SD1001	X1157886 X1173903-1~4	張生土器 張生土器 張生土器 張生土器	甕	9.6	底面	底面	2A7.6	褐色	手色:骨粉	
10 / 92	B2	SD1001	X1173883	張生土器	甕	12.8	底面	底面	5YR27.4	12-15.5 黄褐色	手色:骨粉	
11 / 92	B2	SD1001	X1173903-1~4	張生土器 張生土器 張生土器 張生土器	甕	12.0	底面	底面	7.5YR27.4	12-15.5 黄褐色	手色:骨粉	
12 / 95	B1	SD1001	X130770	張生土器	甕	20.9	11.8	97	張生	底面	10Y27.4	12-15.5 黄褐色
13 / 95	B2	SD1001	X1173906	張生土器	甕	12-13.6	10.7	張生	底面	2A7.1	褐色	手色:骨粉
13 / 95	B2	SD1001	X111778	張生土器	甕	18.6	底面	底面	2A7.6	12-15.5 黄褐色	手色:砂粒・骨粉	
15 / 92	B2	SD1001	X113781	張生土器	甕	10.5	底面	底面	5YR27.2	灰褐色	手色:砂粒・骨粉	
16 / 92	B2	SD1001	X111778	張生土器	有孔汲	4.2	底面	底面	7.5YR27.2	明灰灰色	骨针	
17 / 92	B2	SD1001	X111778	張生土器	甕	18.2	底面	底面	10Y27.2	12-15.5 黄褐色	手色:砂粒・骨粉	
18 / 95	B2	SD1001	X111778	張生土器	台座	10.0	17.7	8.6	張生	底面	10Y27.3	12-15.5 黄褐色
19 / A	SX435 N41			張生土器	甕	11.8	底面	底面	10Y27.3	12-15.5 黄褐色	手色:砂粒・骨粉	
20 / A	SX435 N415			張生土器	甕	14.1	底面	底面	10Y27.2	明灰灰色	砂粒・骨粉	
21 / A	SX435 N48			張生土器	甕	17.0	底面	底面	5YR27.3	12-15.5 黄褐色	手色:砂粒・骨粉	
22 / A	SX435			張生土器	甕	3.5	底面	底面	7.5YR27.1	黑灰色	手色:砂粒・骨粉	
23 / 97	A	SX435 N49		土師器	甕	16.2	古墳	底面	10Y27.3	12-15.5 黄褐色	砂粒・骨粉	
24 / 97	A	SX434		土師器	甕	15.0	古墳	底面	10Y27.2	12-15.5 黄褐色	砂粒・骨粉	
25 / A	SX434			土師器	甕	15.6	古墳	底面	10Y27.3	12-15.5 黄褐色	砂粒・骨粉	
26 / 97	B1	X1307718	X1307718	張生土器	甕	29.8	底面	底面	10Y27.3	12-15.5 黄褐色	手色:砂粒・骨粉	
27 / 91	B1	X1157720	X1157720	張生土器	甕	13.7	底生	底面	10Y28.2	灰白色	手色:砂粒・骨粉	
28 / 97	B1	X1317720	X1317720	張生土器	甕	13.0	底生	底面	5YR27.4	12-15.5 黄褐色	手色:砂粒・骨粉	
29 / 96	B1	X1297700	X1297700	張生土器	甕	21.2	底生	底面	10Y27.2	12-15.5 黄褐色	砂粒・骨粉	
30 / 96	B1	X1307718	X1307718	張生土器	甕	21.2	底生	底面	5YR27.6	褐色	砂粒・骨粉	

第40表 宇波西遺跡 土器・陶磁器・土製品一覽(2)

測量番号	測量番号	測量番号	測量番号	測量番号	測量番号	測量番号	測量番号	測量番号	測量番号	測量番号	測量番号	測量番号	測量番号	測量番号	測量番号	測量番号	測量番号	測量番号	測量番号
H 97	B1	X131Y20E7	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点
22 96	B2	X111Y78	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点
33 97	B1	X126Y71E9	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点
34 96	B1	X129Y72E9	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点	灰土点
136 35	—	A	S101	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
26 102	A	S104A	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
37 101	A	S102	X270Y60E9	灰土点															
38	A	S103	X271Y61E9	灰土点															
39 101	A	N49	X273Y59E9	灰土点															
40 98	A	S1235	X270Y62E9	灰土点															
41	A	S1235	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
42	A	S1235	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
43	A	S1235	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
44	A	S1235	N47	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
45 103	A	S1235	X273Y49E9	灰土点															
46 96	A	S1235	X273Y49E9	灰土点															
47 98	A	S1235	N47	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
137 69	97	A	S1235	N47	土壤														
49	A	S1235	C48	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
50 97	A	S1235	N42	土壤															
51 102	A	S1230	A41	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
52 106	A	S1230	N45	土壤															
53 96	E2	S1001	X101Y14E9	灰土点															
54 102	E2	S1001	X133Y97E9	灰土点															
55	E2	S1001	X127Y101E9	灰土点															
56 96	E2	S1001	X117Y96E9	灰土点															

第40表 宇波西遺跡 土器・陶磁器・土製品一覽(3)

測定番号	写真 番号	器物 名	遺構 名	出土地点	種類	形態	寸法 (mm)	位置	時間	計画 番号	出土色調	出土の状態	相面	備考
57	102	II2	SD1001	X1212Y1003号	瓦	瓦	178	27	古代	5Y6/1	灰色	白色粘砂粒		
58	102	II2	SD1001	X135Y95/1~2号	瓦	瓦	125×82/3		古代	5Y6/1	灰色	黑色粘砂粒		
59	102	II2	SD1001	X1711Y97/1号	瓦	瓦	138	26	AIR	73Y5/1	灰色	黑色粘		
60	102	II2	SD1001	X165Y95/1~3号	瓦	瓦	140	22	古代	73Y6/1	灰色	含沙		
61	96	II2	SD1001	X151Y1003号	瓦	瓦	122	36	古代	5Y7/1	灰白色	砂粒		
62			SD1001	X099/105号	瓦	瓦	124	33	古代	23Y5/1	黄灰色	白色粘砂粒		
63	102	II2	SD1001	X137Y96/3号	瓦	瓦	132	32	古代	5Y5/1	灰色	砂粒		
64	102	II2	SD1001	X137Y96/3号	瓦	瓦	136	28	古代	5Y6/2	灰+リード色	白色粘砂粒		
65	103	II2	SD1001	X1717Y9/3号	瓦	瓦	124	28	古代	5Y6/1	灰色	砂粒+针		
66	96	A-322	SD1001	X273Y1003号	瓦	瓦	153	35	古代	23Y7/1	灰白色	白色粘砂粒		
67	102	II2	SD1001	X140/100号	瓦	瓦	144	24	古代	23Y8/2	灰黄色	含沙+白色粘		
68	96	II2	SD1001	X141Y96/1~2号	瓦	瓦	139	31	古代	N5/0	灰色	白色粘砂粒		
138	49	II3	SD1001	X1717Y9/2	瓦	瓦	130	27	古代	23Y7/2	灰黄色	砂粒		
70	103	II2	SD1001	X130/102号	瓦	瓦	131	51	67	古代	23Y5/1	黄灰色	砂粒	
71	103	II2	SD1001	X157Y90	瓦	瓦	116	42	70	古代	23Y5/1	黄灰色	砂粒	
72	103	II2	SD1001	X121Y1003号	瓦	瓦	157	65	80	古代	23Y5/1	黄灰色	砂粒+针	
73	103	II2	SD1001	X111Y101号	瓦	瓦	126	54	70	古代	N5/0	灰色	砂粒+针	
74	104	II2	SD1001	X111Y97/3号	瓦	瓦	130	50	古代	N5/0	灰白色	黑色粘		
75	104	II2	SD1001	X153Y95/1~3号	瓦	瓦	130	50	古代	N5/0	灰白色	黑色粘		
76	99	II2	SD1001	X133Y9/1号	瓦	瓦	130	50	古代	N5/0	灰白色	砂粒		
77	104	II2	SD1001	X135Y96/2~3号	瓦	瓦	134	50	古代	23Y6/1	黄灰色	砂粒		
78	99	II2	SD1001	X153Y96/2~3号	瓦	瓦	130	50	古代	23Y6/1	黄灰色	砂粒		
139	29	II2	SD1001	X153Y96/3号	瓦	瓦	168		古代	N5/0	灰色	砂粒		
										5Y4/1	灰色			

第40表 宇波西遺跡 土器・陶磁器・土製品一覽(4)

第40表 宇波西遺跡 土器・陶磁器・土製品一覽(5)

測定番号	写真 番号	測定名	遺構	出土地点	種類	形態	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	時間	計画	出土色調	出土の状態	鉢面	備考	
141	107 99	A	SK241	No.1	瓦	瓦	11.2	—	—	古代	N7.0	灰白色	砂粒・管付	—	地盤不良	
142	A	SK253		土塙跡	瓦	瓦	21.8	—	—	古代	73Y8S-3	浅黄褐色	砂粒・管付	—	西造田	
143	99	A	SK408		瓦	瓦	13.9	4.6	8.1	古代	N6.0	灰色	黑色・砂粒	—	高野山～足守	
146	103	A	SK181		瓦	瓦	13.2	3.7	7.9	古代	51Y6.2	灰青色	砂粒	—	—	
147	99	A	SK181	No.1	瓦	瓦	13.6	3.7	9.7	古代	8C	灰色	白色・砂粒	—	—	
148	103	A	SK183		瓦	瓦	14.7	4.2	9.9	古代	8C	灰白色	砂粒	—	—	
149	102	A	SK222		瓦	瓦	13.6	3.4	8.4	古代	23Y7.1	灰白色	白色・砂粒	—	—	
		SK230	X73Y7.6S								23Y8.1	灰白色	白色・砂粒	—	—	
150	100	A/B	SK1001	X136.3Y1.1～1.7	瓦	瓦	—	—	—	古代	10Y5.2	灰褐色	黑色・砂粒	—	—	
		SK228	X136.3Y1.1～1.7								13.2	古代	10Y5.2	灰褐色	—	—
151	105	A	SK373	X609.6S	瓦	瓦	—	—	—	古代	73Y8S-2	灰褐色	砂粒・管付	—	—	
152	102	A	SK426	X609.6S	瓦	瓦	14.5	2.8	2.5	古代	23Y8.1	灰褐色	黑色・砂粒	—	—	
153	102	A	SK106	X17.7Y9.1～9.7	瓦	瓦	14.2	2.5	3.5	古代	N7.0	灰白色	白色・黑色・砂粒	—	雨田井生着	
154	102	A	SK475	X17.7Y9.1～9.7	瓦	瓦	13.5	2.5	3.5	古代	23Y7.1	灰白色	砂粒	—	雨田井生着	
155		A	SK475	CER	瓦	瓦	16.8	—	—	古代	73Y8S.2	灰褐色	砂粒	—	—	
156		A	SK475	X17.7Y9.1～9.7	瓦	瓦	26.2	—	—	古代	73Y8S.2	灰褐色	砂粒・管付	—	—	
157	101	A	X73Y7.6S	X73Y7.6S	瓦	瓦	10.7	—	3.2	古代	TC3.0	灰色	砂粒	—	—	
158	101	A	X73Y7.6S	X73Y7.6S	瓦	瓦	10.5	—	—	古代	TC3.0	灰色	白色・砂粒	—	—	
159	101	A	X80Y7.6S	X80Y7.6S	瓦	瓦	11.4	—	—	古代	N6.0	灰色	砂粒	—	—	
160	100	A	X80Y7.6S	X80Y7.6S	瓦	瓦	13.5	—	—	古代	TC3.0	灰色	白色・黑色・砂粒	—	—	
161	101	A	X80Y7.6S	X80Y7.6S	瓦	瓦	10.6	—	—	古代	N7.0	灰白色	白色・黑色・砂粒	—	—	
162	101	A	X80Y7.6S	X80Y7.6S	瓦	瓦	10.6	—	—	古代	N7.0	灰白色	白色・黑色・砂粒	—	—	
163	101	A	X73Y7.6S	X73Y7.6S	瓦	瓦	10.8	—	—	古代	N7.0	灰白色	砂粒	—	—	
164	101	A	X80Y7.6S	X80Y7.6S	瓦	瓦	10.4	—	—	古代	N7.0	灰白色	砂粒	—	—	
165	101	B2	X80Y7.6S	X80Y7.6S	瓦	瓦	10.8	—	—	古代	23Y7.1	灰白色	砂粒	—	—	
166	101	A	X73Y7.6S	X73Y7.6S	瓦	瓦	17.4	—	—	古代	N7.0	灰白色	砂粒	—	—	
167	101	A	X80Y7.6S	X80Y7.6S	瓦	瓦	17.4	—	—	古代	23Y7.1	灰白色	砂粒	—	—	
168	102	A	X80Y7.6S	X80Y7.6S	瓦	瓦	13.4	—	—	古代	N7.0	灰白色	砂粒	—	—	

第40表 宇波西遺跡 土器・陶磁器・土製品一覽(6)

測量番号	測量年	測量場所	測量	出土地点	種類	直徑 (cm)	口径	深さ	時間	測量時間	出土位置	粘土の特徴	粘土	備考	
L29	102	X117545面番	X117545面番	瓦	瓦	13.7	13.7	1.8	古K	N7.0	瓦白色	黑色砂粒			
L30	A	X06765面番	X06765面番	瓦	瓦	14.8	14.8	1.8	古K	N6.0	瓦白色	砂粒			
L31	A	X06765面番	X06765面番	瓦	瓦	15.9	15.9	1.8	古K	N6.0	瓦白色	砂粒			
L32	A	X06765面番	X06765面番	瓦	瓦	11.2	11.2	1.8	古K	N6.0	瓦白色	砂粒			
L33	102	A	X06765面番	X06765面番	瓦	13.6	13.6	2.9	古K	N7.0	瓦白色	白色砂粒			
L34	100	A	X081750面番	X081750面番	瓦	14.6	14.6	2.7	古K	N6.0	瓦白色	白色砂粒			
L35	100	A	X06765面番	X06765面番	瓦	14.1	14.1	2.9	古K	N6.0	瓦白色	砂粒			
L36	102	A	X070150面番	X070150面番	瓦	11.9	11.9	3.4	古K	N6.0	瓦白色	白色砂粒			
L37	102	A	X081750面番	X081750面番	瓦	12.6	12.6	3.0	古K	TC後半~N6.0	瓦白色	白色砂粒			
L38	A	X177545面番	X177545面番	瓦	11.5	11.5	3.0	古K	TC後半~N6.0	瓦白色	白色砂粒				
L39	A	X373750面番	X373750面番	瓦	12.1	12.1	3.2	古K	TC後半~N6.0	瓦白色	白色砂粒				
L40	A	X177545面番	X177545面番	瓦	12.0	12.0	3.4	古K	TC後半~N6.0	瓦白色	白色砂粒				
L41	103	A	X331725面番	X331725面番	瓦	11.7	11.7	3.9	古K	TC後半~N6.0	瓦白色	白色砂粒			
L42	101	A	X081750面番	X081750面番	瓦	12.0	12.0	4.2	古K	TC後半~N6.0	瓦白色	白色砂粒			
L43	103	A	X3081750面番	X3081750面番	瓦	14.0	14.0	5.7	古K	N6.0	瓦白色	砂粒			
L44	103	102	X117545面番	X117545面番	瓦	13.9	13.9	6.4	古K	N6.0	瓦白色	白色砂粒			
143	145	103	A	X177545面番	X177545面番	瓦	13.7	13.7	10.4	古K	N6.0	瓦白色	砂粒		
146	A	X331725面番	X331725面番	瓦	13.8	13.8	3.8	古K	TC後半~N6.0	瓦白色	白色砂粒				
147	103	A	X177545面番	X177545面番	瓦	15.9	15.9	4.2	古K	TC後半~N6.0	瓦白色	白色砂粒			
148	103	A	X3081750面番	X3081750面番	瓦	14.0	14.0	5.7	古K	N6.0	瓦白色	砂粒			
149	103	A	X06765面番	X06765面番	瓦	13.9	13.9	6.4	古K	N6.0	瓦白色	白色砂粒			
150	103	A	X331725面番	X331725面番	瓦	13.8	13.8	6.4	古K	N6.0	瓦白色	白色砂粒			
151	103	A	X331725面番	X331725面番	瓦	13.8	13.8	6.4	古K	N6.0	瓦白色	白色砂粒			
152	103	A	X331725面番	X331725面番	瓦	13.8	13.8	6.4	古K	N6.0	瓦白色	白色砂粒			
153	100	A	X06765面番	X06765面番	瓦	13.9	13.9	6.4	古K	N6.0	瓦白色	白色砂粒			
154	104	A	X331725面番	X331725面番	瓦	13.8	13.8	6.4	古K	N6.0	瓦白色	白色砂粒			
155	104	A	X331725面番	X331725面番	瓦	13.8	13.8	6.4	古K	N6.0	瓦白色	白色砂粒			
156	104	A	X331725面番	X331725面番	瓦	13.8	13.8	6.4	古K	N6.0	瓦白色	白色砂粒			
157	104	102	X0817116面番	X0817116面番	瓦	13.8	13.8	6.4	古K	N6.0	瓦白色	白色砂粒			

第40表 宇波西遺跡 土器・陶磁器・土製品一覽(7)

測定番号	写真	器物名	遺構	出土地点	種類	形態	寸法	底面	時間	詳細	出土の状態	経年	備考
158 104	A	XNBY164罐	瓦	要	196	27B	古代	N7.0	灰白色	白色灰-黑色-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
159 104	B2	XNBY164罐	瓦	要	127	39	古代	N5.0	灰色	白色灰-黑色-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
144 160 95	B2	X135Y90	土瓶	陶A	13.3	57	古代	23YR7.3	灰白色	白色灰-黑色-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
161 97	B2	X135Y94	土瓶	陶A	12.1	31	古代	10YR7.3	灰白色	白色灰-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
162 97	B1	X135Y79罐	土瓶	陶A	8.3	48	古代	10YR7.3	灰白色	白色灰-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
163 105	B2	X135Y90	黑色土器	陶B	12.1	28	古代	5YR7.4	灰白色	白色灰-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
164 97	B2	X135Y90	土瓶	陶A	12.7	21	古代	10YR6.2	灰白色	白色灰-砂粒-骨片	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
165	B1	X121Y78罐	土瓶	要	11.6	21	60	10C灰	5YR7.6	白色	白色灰-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	17年火入
166 106	A	XZBY156罐	土体芯	把手	8.1	古代	10C灰	N5.0	灰白色	23YR4.1	灰白色	高分量-高分量-骨片	17年火入
167 105	A	XNBY168罐	粗粘泥器	盖	2.9	23YR7.4	古代	10YR8.1	灰白色	白色灰-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
168 105	A	XNBY160罐	瓦	陶	30.5	12.5	古代	7.5YR7.4	灰白色	白色灰-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
169 105	B1	X125Y78罐	粗粘泥器	平底	17.9	26	古代	5YR6.6	白色	白色灰-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
170 105	B1	X125Y78罐	粗粘泥器	平底	17.9	26	古代	5YR6.6	白色	白色灰-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
171 105	A	XNBY152罐	粗粘土器	灰灰	1.8	5YR5.1	古代	10YR8.1	灰白色	白色灰-砂粒-骨片	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
172 105	A	XNBY151罐	粗粘土器	灰灰	1.8	7C	16YR8.1	灰白色	白色	白色灰-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
173 105	A	XNBY153罐	粗粘土器	灰灰	30.0	11.0	中世	N5.0	灰白色	白色灰-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
145 174	B2	SD1001	瓦	瓦	30.0	51.7	中世	10YR7.1	灰白色	白色灰-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
175 107	B2	SD1001	X104Y75	瓦	37.4	10.5	中世	10YR7.1	灰白色	白色灰-砂粒-骨片	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
176	B2	SD1001	X114Y90	瓦	2.9	23YR2	中世	10YR7.1	灰白色	白色灰-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
177 107	B2	SD1001	X111Y88	瓦	2.9	23YR2	中世	10YR7.1	灰白色	白色灰-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
178	B2	SD1001	X137Y52.1~2罐	瓦	22.0	中世	NS.0	NS.0	灰白色	白色灰-砂粒-骨片	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
179 107	B2	SD1001	X137Y91	X117Y90	瓦	30.0	11.0	中世	N5.0	灰白色	白色灰-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	17年火入
180 107	B2	SD1001	X111Y96.2罐	瓦	8.8	22	50	10YR7.6	白色	白色灰-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
181 106	B2	SD1001	X137Y90.5罐	瓦	9.4	26	40	10YR7.3	灰白色	白色灰-砂粒-骨片	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
182 106	B2	SD1001	X09Y109.3罐	中空筒形器	陶	8.1	中世	7.5YR7.3	灰白色	白色灰-砂粒-骨片	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
183	A	SD432	XN0Y66	瓦	11.6	中世	7.5YR8.2	灰白色	白色	白色灰-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
184 106	B1	X128Y68罐	中世土器	瓦	11.0	中世	10YR7.1	灰白色	白色灰-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	
185 106	B1	X120Y77罐	中世土器	瓦	11.0	中世	10YR7.1	灰白色	白色灰-砂粒-骨片	白色灰-砂粒-骨片	17年火入		
186 106	B1	X125Y78罐	中世土器	瓦	11.0	中世	10YR7.1	灰白色	白色灰-砂粒-骨片	白色灰-砂粒-骨片	17年火入		
187 106	B2	X100Y75	中世土器	瓦	11.6	中世	10YR8.2	灰白色	白色	白色灰-砂粒	白色灰-砂粒-骨片	17年火入	

第40表 宇波西遺跡 土器・陶磁器・土製品一覽(8)

編號	器物 組合	組合 名	遺址 點	層級	出土位置	種類	直徑 (cm)	厚度	時間	測量 時間	出土位置	黏土的特徵	顏色	備考
188	106	B1	XU385780號	中世土器層	周	1.15	0.95	29	印加	7.5YR7.3	[2.5-3]黑色 赤褐色帶泥質	白色或深紅色	170mmX35mm	
189	106	A	XU37900號	中世土器層	周	9.2	2.0	中世	5V7R6.6	褐色	赤褐色-骨質	褐色	中世	
190	106	A	XU37900號	中世土器層	周	7.8	1.8	66	中世	10YR6.2	灰褐色	褐紅-骨質	中世	
191	106	A	XU37900號	中世土器層	周	7.8	1.7	中世	10YR6.3	[2.5-3]黑色 赤褐色	白色	中世		
192	107	A	XU37773	鳥形	美	6.02	0.62	中世	N6.0	灰色	白色R:黑色-赤褐色 骨質	白色	中世	
146	107	E2	XU64778號	鳥形	美	35.7	—	中世	N4.0	灰色	白色較穩定-骨質	白色	中世	
194	107	A	XU37570號	鳥形	美	—	—	中世	2.5G74.1	褐色+1-2灰色	白色-黑色-赤褐色 骨質	褐色	中世	
186	107	E2	XU133616號	鳥形	美	—	—	中世	N5.0	灰色	白色R:黑色-骨質	白色	中世	
196	107	A	XU7730	鳥形	美	—	—	中世	N5.0	灰色	白色R:黑色-骨質 骨質	白色	中世	
187	107	A	XU37560號	鳥形	美	21.4	—	中世	N7.0	灰白色	白色R:黑色-赤褐色 骨質	白色	中世	
188	107	A	XU7784號	鳥形	美	27.3	—	中世	N4.0	灰色	白色R:黑色-赤褐色 骨質	白色	中世	
189	107	A	XU37630號	鳥形	美	29.8	—	中世	5YR7.1	灰色	白色R:黑色-赤褐色 骨質	白色	中世	
200	107	A	XU37300號	鳥形	美	30.6	—	中世	2.5YR6.8	灰黑色	白色R:黑色-赤褐色 骨質	白色	中世	
201	107	E2	XU17787號	鳥形	美	27.4	—	中世	2.5Y7.1	灰白色	白色	中世		
202	107	A	XU37630號	鳥形	美	28.7	—	中世	N6.0	灰色	白色R:黑色-赤褐色 骨質	白色	中世	
147	107	A	XU7760號	鳥形	美	—	—	中世	2.5G77.1	褐色+1-2色	白色R:黑色-赤褐色 骨質	褐色	中世	
241	108	A	XU37902	鳥形	美	—	—	中世	N6.0	灰色	白色R:黑色-赤褐色 骨質	白色	中世	
205	108	A	XU37631號	鳥形	美	—	—	中世	N5.0	灰色	白色R:黑色-赤褐色 骨質	白色	中世	
206	108	B1	XU17765號	中國版山田 碗	碗	6.6	中世	5Y7.1	灰白色	10YR6.1	灰白色	白色地 青花繪	青花地 青花紋	
207	108	A	XU37765號	中國版山田 碗	碗	7.2	中世	N8.0	灰白色	10G7.1	明暗灰白 青花繪	青花繪	青花地 青花紋	
208	108	A	XU37904號	圓口尖底 瓶	瓶	14.0	—	5Y7.1	灰白色	5Y4.4	褐色+1-2色	褐色	中世	
209	108	A	XU37900號	圓口尖底 瓶	瓶	—	—	10YR8.1	灰白色	7.5Y5.3	褐色+1-2色	褐色	中世	
210	108	A	XU37634號	圓口尖底 瓶	瓶	6.4	中世	7.5YR8.1	灰白色	4.5Y-5.2	褐色+1-2色	褐色	中世	
211	108	A	XU37660號	圓中腹凸 底	杯	10.2	—	4.6	近世	2.5YR6.4	1.5-2.5黑色 褐色	褐色	中世印文文 字	
212	108	A	XU37520號	圓中腹凸 底	杯	26.2	近世	7.5YR7.4	[2.5-3]黑色 褐色	10YR2.4	灰褐色	灰褐色	中世	
213	108	A	XU37700號	圓中腹凸 底	杯	9.5	近世	7.5YR7.4	[2.5-3]黑色 褐色	7.5YR4.2	灰褐色	灰褐色	中世	
214	108	A	XU37740號	土陶質器	杯	30.4	中世	10YR7.2	[2.5-3]黑色 褐色	10YR5.2	灰褐色	灰褐色	中世	
215	106	B1	XU29367號	土陶質 器	杯	—	中世	10YR5.2	灰褐色	10YR4.4	灰褐色	灰褐色	中世	
216	106	B1	XU30073號	土陶質 器	杯	長34.5 寬17	近世	10YR4.4	灰褐色	10YR5.4	灰褐色	灰褐色	中世	

第 41 表 宇波西遺跡 木製品一覧

種別	遺物 番号	写真 図版	遺構 地区	出土地点	種類	法量 (cm)			樹種	木取り	備考
						地区	長さ	幅			
146	217	109	SK519		漆器類	口H1460	器高390	底径720	ケヤキ	横木地板	内外面黒
148	218	109	A	X88Y76II層	漆器蓋	口H400	器高110		モケシノ属	縦木地	
148	219	109	SD1000	X116Y86	漆杯	(23.50)	6.60	6.90	ツツキノ属	芯持丸木	縦邵丸い
148	220	109	SD1000	X134Y69	漆盤	31.00	10.20	7.40	スギ	板目	
148	221	110	SD1000	集中地点A	漆盤	(31.00)	13.40	4.50	スギ	板目	
148	222	110	SD1000	X100Y73	加工材	13.90	3.30	0.60	スギ	板目	穿孔
149	223	110	SE1537a		円形板	(14.40)	(5.10)	0.50	スギ	板目	
149	224	110	SD1000	X100Y108	円形板	(16.20)	6.50	0.90	スギ	板目	
149	225	111	SD1000		圓板	16.10	15.80	0.70	スギ	板目	
149	226	111	SD1000	X114Y97	円形板	16.40	(14.30)	0.90	スギ	板目	
149	227	111	SD201	X56Y67	円形板	(9.10)	(4.00)	0.60	アヌナコ	造出	
149	228	111	SD1000	X112Y103	円形板	(9.80)	(3.40)	0.60	スギ	板目	
149	229	112	SE1537a		下駄	(17.60)	6.30	2.40	モクレン属	板目	差便(露卯)
149	230	112	SE1537a		下駄	(23.30)	(6.40)	3.50	スギ	板目	通舟
150	231	112	B1	X127Y70壁	火燭	(38.50)	2.40	1.50	スギ	板目	
150	232	112	SD1000	X100Y108	梯子	(37.10)	(7.00)	8.70	スギ	板目	
150	233	112	SD1556	X111Y78	梯材	33.60	2.20	1.50	スギ	削出	
150	234	113	SD1000	X100Y112	梯材	(20.30)	2.50	1.70	スギ	削出	
150	235	113	SD1000	X100Y112	梯材	(37.50)	2.20	1.90	スギ	削出	
150	236	113	SD1000	X100Y112	梯材	(40.90)	2.50	1.80	スギ	削出	
150	237	113	SD1000	X100Y112	梯材	(49.50)	2.40	2.00	スギ	削出	
151	238	113	SD1000	集中地点A	梯材	192.80	13.00	3.00	スギ	板目	穿孔
151	239	113	SD1000	集中地点B	梯材	257.80	15.00	3.60	スギ	板目	穿孔
151	240	113	SX435		梯材	143.60	47.80	3.80	スギ	板目	
151	241	113	SD1000	X112Y100	梯材	(49.60)	5.60	4.60	スギ	削出	
151	242	113	SD1000	X117Y87	梯材	84.90	16.60	2.10	スギ	板目	
152	243	114	SX434		梯材	(42.20)	21.30	3.60	スギ	板目	
152	244	114	SX434		梯材	(47.10)	24.80	2.40	スギ	板目	
152	245	114	SX435		梯材	130.60	26.40	5.40	スギ	板目	
152	246	114	SX435		梯材	(174.80)	9.00	3.20	スギ	板目	
152	247	114	SX434		梯材	(55.70)	21.30	2.10	スギ	板目	
152	248	115	SX435		梯材	46.30	2.60	2.30	スギ	板目	
153	249	115	SD1000	集中地点A	梯材	(92.40)	5.80	3.60	スギ	分割材	
153	250	115	SD1000	集中地点A	梯材	(113.80)	14.20	10.40	スギ	削出丸木	
153	251	115	SD1000	X112Y100	梯材	(126.70)	7.50	6.80	スギ	分割材	
153	252	115	SD1000	集中地点A	梯材	244.60	18.00	2.20	スギ	板目	
153	253	115	SD1000	X100Y90	梯材	36.20	10.90	1.70	スギ	板目	
153	254	115	SD1000	X102Y118	梯材	(28.50)	4.40	1.90	スギ	穿孔	
153	255	115	SD1000	X100Y112	梯材	(33.70)	4.50	2.60	スギ	板目	四角の穿孔
153	256	115	SK396		梯材	(31.20)	16.30	4.50	スギ	板目	

第 42 表 宇波西遺跡 石製品一覧

種別	遺物 番号	写真 図版	遺構 地区	出土地点	種類	法量 (cm · g)				材質	備考
						長さ	幅	厚さ	重さ		
154	257	116	SD1000	X94Y98	磨製石斧	12.18	3.1	1.52	37.31	頁岩	
154	258	116	SDP	SDP545	磨製石斧	5.95	3.4	1.1	32.91	蛇紋岩	
154	259	116	SD1000	X100Y90	砾石	(6.9)	6.35	2.25	123.1	流紋岩	
154	260	116	SD1000	X100Y93	砾石	(9.8)	3.9	3.38	212.67	砂岩	
154	261	116	B2	X117Y87E壁	砾石	(10)	7.53	5.71	314.52	流紋岩	

第 43 表 宇波西遺跡 金属製品一覧

種別	遺物 番号	写真 図版	遺構 地区	出土地点	種類	法量 (cm · g)				備考	
						長さ	幅	厚さ	重さ		
155	262	117	SD1000	X92Y112	馬銚	19.8	22	1.1	189.7		
155	263	117	A	X91Y77E壁(谷輝土上)	不明	14.8	19	0.3	367		
155	264	117	A	X91Y75I壁	鋼鉄	23	23	0.1	186	「天安通寶」	
155	265	117	A	X74Y79壁	鋼鉄	2.5	2.5	0.1	2.79	「太平通寶」	
155	266	117	A	X74Y60E壁	鋼鉄	24	24	0.1	1.55	「天聖元宝」/2片1個体	
155	267	117	A	X74Y83E壁	鋼鉄	25	25	0.1	3.43	「皇宋通寶」	
155	268	117	A	X83Y32E壁	鋼鉄	24	24	0.1	2.74	「熙寧通寶」	
155	269	117	A	X62Y89I壁	鋼鉄	25	25	0.1	1.81	「元豐通寶」	
155	270	117	A	X60Y69II壁	鋼鉄	23	23	0.1	2.35	「元豐通寶」	
155	271	117	A	X90Y76I壁	鋼鉄	24	24	0.1	2.05	「嘉祐通寶」	

5 総括

ここでは、主要遺構変遷を示して総括としたい。遺構は大きく弥生時代終末～古墳時代初頭、古代、中近世の時期であるが、建物遺構が確認されたのは古代と中近世だけである。集落を構成する建物遺構はA地区に分布しており、A地区の中でも中央から西側に偏在している。建物遺構だけをみると比較的コンパクトにまとまっている様相が認められる。古代から中近世までの建物は、堅穴建物2棟、掘立柱建物12棟から構成されており、それに溝、井戸2基、土坑などが加わる。古代の主要遺構には堅穴建物2棟、掘立柱建物4棟、柵列1条、溝、土坑で構成されている。中近世の主要遺構は大小様々な規模の掘立柱建物8棟、溝などで構成されている。これらの遺構群から、大きくI～III期に分類し、建物変遷を考えてみた。しかし、柱穴や土坑から時期決定できるような遺物がほとんど無いため、変遷には概念的な部分が大きいことを断っておく。

I期

この時期は、弥生時代終末～古墳時代初頭の遺構群であるが、建物などの集落を構成する明確な遺構は確認されていない。遺構には自然流路であるSD1001や不明遺構であるSX434・SX435などがある。SX434・SX435はSD1001の支流に構築された集水遺構の可能性がある遺構で、近隣に集落の存在が推定される。

IIa期

II期は古代の建物群を中心に、更にa～cの3小期に細分される。IIa期は2棟の堅穴建物群で構成されている。長径2.9～3.9mの小規模な堅穴建物(SI235とSI300)で、同時併存の可能性は、互いに近接しているため低いと考えられる。この場合、建て替えの結果と考えた方が妥当であるとみられる。SI235からはかえりのある蓋が出土しており、器高の低い扁平な天井部に、口径が18.6cmと大型の個体(40)出土している。また、天井の高い、笠形を呈し、口径も10.6cmと小型の個体(39)も見受けられる。SI300からは、器高の低い扁平な天井部に、口縁端部はかえりのない、わずかに屈曲気味の個体が出土している。このことより、SI235→SI300の建て替えが想定される。SI235は7世紀後葉、SI300は8世紀初頭の時期を考えておく。

IIb期

この時期は古代の中で最も建物群が展開した時期で、掘立柱建物のSB1・SB2・SB4の3棟に、柵列のSA1で構成されている。建物群の規模はいずれも3間×2間で、床面積も24～30m²と一定の規格性が確認される。主軸も同一方位であるため同時期に存在していた可能性が指摘できよう。SA1の柵列は建物群とは主軸方位で若干異なるものの、この時期に含め、SB2に付随すると考えておく。また、SB4から延びるSD72も同時期の可能性がある。SI235と主軸がほぼ同じであることから、堅穴建物に続く建物群と位置づけられる。ここでは時期を8世紀の初頭～前半と考えておく。

IIc期

この時期は、掘立柱建物1、「コ」字状に巡る溝1、土坑1で構成されている。SB3とSD122は主軸方位が類似しており、SB3に付随する区画的な要素を有する溝と考えられる。SK362はSD122に近接して分布しており、主軸がほぼ同一方向であることからこの時期に含めた。建物に付随する土坑の可能性がある。これら建物群の時期はII期に続く8世紀前半～後半を考えておく。

IIIa期

III期は中近世の建物群を中心に、更にa～cの3小期に細分される。IIIa期は主軸方位において、

古代の掘立柱建物群と次の時期のSB5～SB7・SB12へ移る中間的な方位を示しているSB8～SB11の掘立柱建物4棟で構成される。SB11は古代の建物群に近い主軸方位であることから、離れているがSB10とSB11を相互関係にあり、SB10が主屋、SB11が副屋的な存在とみられる。SB8とSB9はSB10とSB11の建て替えとみられ、ほぼ同位置に構築されている。主屋・副屋共に規模がやや小さくなっている。柱穴から出土した遺物は少なく時期決定が困難だが、ここではA地区の包含層出土の遺物から14世紀～15世紀の年代観を推定しておく。

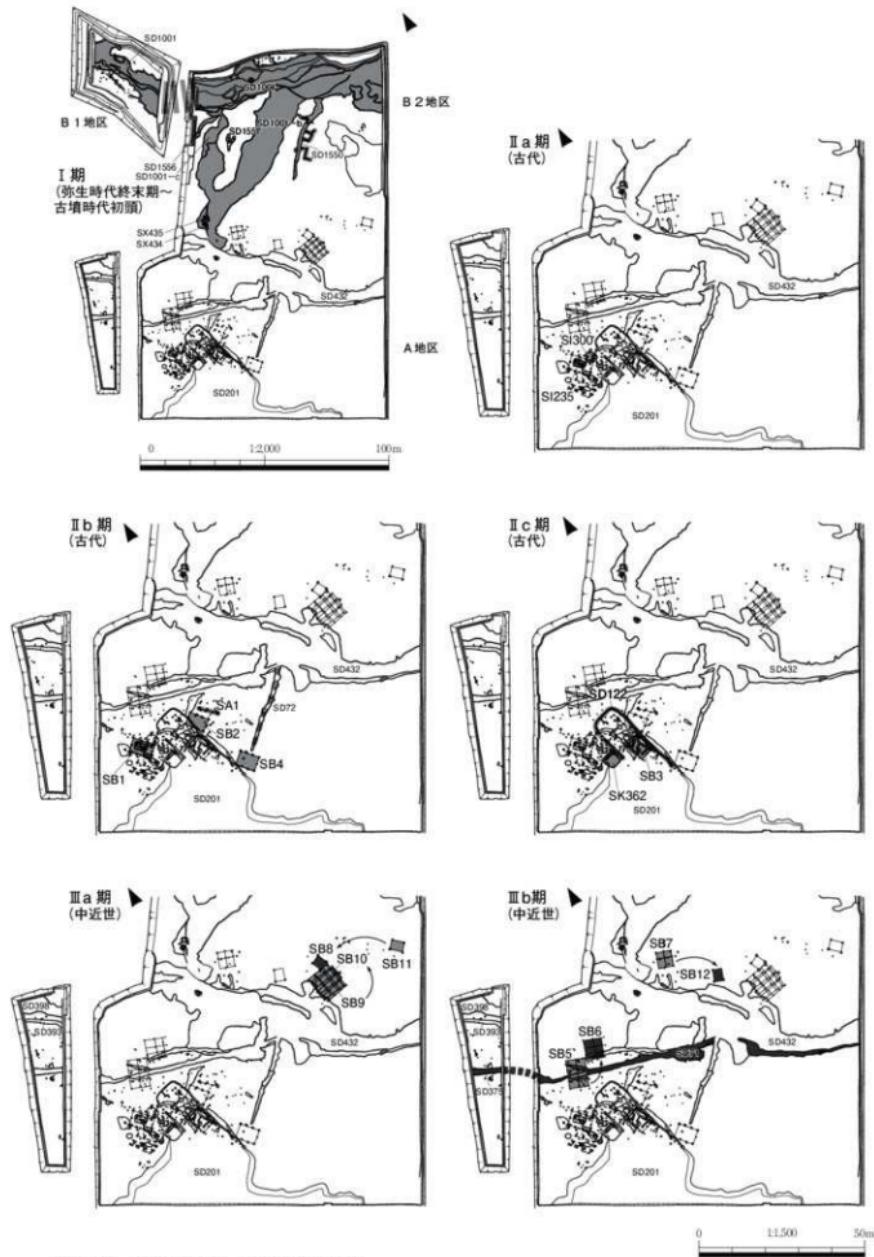
III b期

この時期はSB5～SB7・SB12の掘立柱建物4棟で構成される。SB5とSB7は柱穴配置が比較的整然と並んでおり、SB6とSB12はややいびつな柱穴配置を呈している。SB5とSB7、SB6とSB12をセット関係とし、SB5とSB6が主屋、SB7とSB12が副屋の構成と考えられる。先後関係では、いびつな柱穴配置は中世と比較して中世末～近世に多い傾向にあること、V期からの流れで小規模化していくことから、SB5とSB7が先行し、建て替えでSB6とSB12がつづくと考えられる。時期は、III a期につづく年代が推定される。

以上、建物群を中心に遺構変遷案を提示してきた。宇波西遺跡では弥生時代終末～古墳時代初頭の後は古代まで集落を構成する建物群が確認されていない。しかし、遺跡が接する舌状に張り出した丘陵上には、熊野神社古墳群があり、更に海側の丘陵上には、宇波安居寺古墳群が築造されている。宇波安居寺古墳群で5世紀初頭～5世紀中頃、熊野神社古墳群はそれより先行して構築された可能性があり³¹、この時期に相当する集落跡は宇波平野では発見には及んでいない。当然、後世の削平、遺構の埋没などで遺構が確認されていないもしくは消滅したなどが考えられるが、これらの古墳群を構築したであろう集落の存在が近隣に成立していたと推定される。古代では主に8世紀を中心建物群が展開しており、9世紀から10世紀の遺物も少量出土していることから、宇波西遺跡の別の地点もしくは近隣に集落の存在が推定される。中近世においても建物が分布しているA地区の包含層出土遺物が14世紀～15世紀が中心であると考えられるため、建物時期も当該期と推定される。また、少量の12世紀～13世紀、16世紀～17世紀の遺物も出土している。このようにみると、宇波西遺跡は断続的に営まれた集落であることが推定できるが、宇波西遺跡未発掘部分または、近隣に宇波西遺跡の空白時期に相当する集落が営まれていた可能性が指摘できよう。しかし、遺跡のより詳細な遺構変遷は調査の進展や資料の増加を待って再検討しなければならない課題である。

(島田亮仁)

註1 『永見古史』2002年見古編さん委員会



第156図 宇波西遺跡 主要遺構変遷図

第VII章 自然科学分析

1 樹種同定

(1) 試 料

試料は、稲積天板遺跡11点、稲積天板北遺跡15点、稲積オオヤチ遺跡26点、宇波西遺跡40点の計92点である。このうち、稲積オオヤチ南遺跡の曲物110は、側板と底板の部材が残存したことから、双方を分析対象としている。

(2) 分析方法

試料の木取りを観察した後、剃刀を用いて木口（横断面）・柵目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler他（1998）、Richter他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995、1996、1997、1998、1999）を参考にする。

(3) 結 果

同定結果は各遺跡の木製品一覧に記載する。出土木製品は、針葉樹4分類群（スギ、ヒノキ、アスナロ、ヒノキ科）と、広葉樹11分類群（ブナ属、クリ、ケヤキ、カツラ、モクレン属、ツバキ属、トチノキ、ウコギ属、カキノキ属、トネリコ属、モクセイ属）に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2~4個。放射組織は単列、1~10細胞高。

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか~やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型~トウヒ型で、1分野に1~3個。放射組織は単列、1~10細胞高。

・アスナロ (*Thujopsis dolabrata* Sieb. et Zucc.) ヒノキ科アスナロ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、内壁には茶褐色の樹脂が顯著に認められる。分野壁孔はヒノキ型で、1分野に1~4個。放射組織は単列、1~10細胞高。

・ヒノキ科 (Cupressaceae)

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか~やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され

る。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1-10細胞高。

上記したヒノキやアスナロを含むヒノキ科のいずれかであるが、分野壁孔が壊れているために観察できず、ヒノキ科とした。

・ブナ属 (*Fagus*) ブナ科

散孔材で、道管は単独または放射方向に2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は單穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織はほぼ同性、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圈部は3-4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圈部は1-2列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帶状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・カツラ (*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.) カツラ科カツラ属

散孔材で、管孔はほぼ単独で散在し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-30細胞高。

・モクレン属 (*Magnolia*) モクレン科

散孔材で、道管壁は中庸～薄く、横断面では角張った楕円形～多角形、単独および2-4個が放射方向に複合して散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は單穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-40細胞高。

・ツバキ属 (*Camellia*) ツバキ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では多角形～角張った楕円形、単独および2-3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-20細胞高。

・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

散孔材で、道管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または2-3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1-15細胞高で層階状に配列する。

・ウコギ属 (*Acanthopanax*) ウコギ科

散孔材～紋様孔材で、道管は単独または2-8個が斜～放射方向に複合して、帶状あるいは紋様状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-8細胞幅、数細胞高のものから広放射組織まである。

・カキノキ属 (*Diospyros*) カキノキ科

散孔材で、道管壁は厚く、横断面では楕円形、単独または2-3個が時に年輪界をはさんで複合する。道管は單穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は異性、1-3細胞幅、10-20細胞高で層階状に配列する。

・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔圈部は1-3列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1-3細胞幅、1-20細胞高。

・モクセイ属 (*Osmanthus*) モクセイ科モクセイ属

紋様孔材で、道管は多数が複合して斜方向に配列し、X字状、Y字状等の紋様状を呈する。道管壁は薄く、横断面では多角形となる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-20細胞高。

(4) 考 察

稲積天板遺跡ほか4遺跡からは、針葉樹4分類群（スギ、ヒノキ、アスナロ、ヒノキ科）と、広葉樹11分類群（ブナ属、クリ、ケヤキ、カツラ、モクレン属、ツバキ属、トチノキ、ウコギ属、カキノキ属、トネリコ属、モクセイ属）の計15種類の木材が確認された。各分類群の材質をみると、針葉樹のスギは、木理が通直で割裂性が高く、加工は容易である。ヒノキ、アスナロおよびヒノキ科は、木理が通直で割裂性や耐水性が比較的高く、加工が容易である。また、スギに比べて晩材部が薄く、全体的に均質である。広葉樹のブナ属は、比較的重硬で強度が高いが、加工は容易である。クリとケヤキは、重硬で強度や耐朽性が高く、加工はやや困難な部類に入る。ツバキ属、カキノキ属およびトネリコ属は、比較的重硬で強度が高い。モクセイ属は、比較的重硬・緻密で強度が高い。カツラ、モクレン属およびトチノキは、やや軽軟で、加工は容易であるが、強度や保存性は低い。ウコギ属は、比較的重硬で強度が高いが、小径木が多いためにあまり利用されない。

A 稲積天板遺跡

稲積天板遺跡の出土木製品11点は、いずれも中近世の試料とされ、漁労具（浮子）、容器（漆器椀）、服飾具（下駄）、祭祀具（木像）、建築部材（柱根）に分類される（第44表）。浮子は、径約3cmの芯持丸木を有頭棒状に加工した試料であり、ウコギ属に同定された。ウコギ属は、人里近くの山野に普通にみられる樹木であることから、周辺に生育した樹木の利用が推定される。漆器椀は、いずれも横木地であり、246は底面が柾目になる木取りであることが確認できたが、247は底面の木取りが確認できなかった。246はブナ属、247はトチノキに同定された。いずれも漆器木地として一般的な種類であり、遺跡からの出土例も多い（伊東・山田、2012）。民俗事例の調査では、ブナ属とトチノキは、漆器木地として同じグループに分類され、加工は容易であるが、乾燥が難しく狂いが多いとされる（橋本、1979）。

下駄は、台と齒を一本で作り出す連歛下駄で、台は楕円形を呈し、台表が板目となる。針葉樹のヒノキ

第44表 稲積天板遺跡の器種別種類構成

種類	通常	背型	腹脚	祭壇	更舟	合計
	浮子	漆器椀	下駄	木像	日根	
針葉樹						
ヒノキ			1		1	1
アスナロ				1		1
広葉樹						
ブナ属		1				1
クリ					5	5
ケヤキ					1	1
トチノキ		1				1
ウコギ属	1					1
合計	1	1	1	1	6	11

*木製品の器種分類は、伊東・山田（2012）を参考にした。

が利用されており、加工性や耐水性の高い木材を利用したと考えられる。木像は、柾目板から加工されたと考えられ、針葉樹のアスナロに同定された。この結果から、加工性の高い木材の利用が推定される。

柱根は、いずれも芯持丸木で、径12.5cm～19cmの5点がクリ、径22.8cmの1点がケヤキであった。この結果から、強度および耐朽性の高い木材を選択的に利用したことが推定される。遺構別にみると、柵列の柱はいずれもクリ、掘立柱建物跡の柱がケヤキとなり、柵列と掘立柱建物跡では木材選択が異なる可能性がある。なお、柱にケヤキを使用した事例は、富山県内のデータベース（伊東・山田、2012）によれば、梅原胡麻堂遺跡（旧福光町）で中近世とされる柱に確認されている程度である。

B 稲積天坂北遺跡

稲積天坂北遺跡の出土木製品15点は、古墳時代および近世の試料からなり、容器、施設材・器具材に分類される（第45表）。

古墳時代の木製品は、底板、板および角材があるが、角材を除くといずれも板状を呈する試料である。板材は、長方形を呈する試料のほか、孔や段を有する試料が含まれ、何らかの部材に由来すると考えられる。また、様々な形態がみられることから、複数の器種が混在している可能性がある。底板、板、角材は、全てスギに同定されたことから、分割加工が容易な木材の利用が推定される。

近世の木製品は、漆器椀2点と円形板1点がある。円形板は、径約6cmの柾目板であり、針葉樹のヒノキに同定された。この結果から、分割加工が容易で耐水性の高い木材を選択したことが推定される。漆器椀の509は口辺がほぼ垂直に立ち上がり、内外面ともに赤漆が塗られている。また、底部外側には同心円状の加工痕も明瞭である。一方の508は、一般的な椀型を呈し、外面に黒漆、内面に赤漆が塗られている。樹種は、前者がカツラ、後者がブナ属に同定された。ブナ属は、挽物椀の本地として一般的な種類であり、遺跡からの出土例も多い。カツラも挽物本地として利用される種類であるが、ブナ属に比べると利用量は少ない。富山県内では、五社遺跡（小矢部市）の鎌倉～室町時代前半とされる資料と中名V・VI遺跡（旧婦中町）の室町前半とされる資料の中にカツラの漆器椀が確認された例がある（伊東・山田、2012）。

C 稲積オオヤチ南遺跡

稲積オオヤチ南遺跡の出土木製品27点は、中世前半および中近世の試料からなり、容器、調理加工

第45表 稲積天坂北遺跡の器種別種類構成

種類	古墳				近世				合計
	容器	施設・器具	板	角材	容器	施設・器具	板	角材	
柾目板	—	—	—	—	円形板	—	—	—	—
スギ	2	1	3	6	—	—	—	—	12
ヒノキ	—	—	—	—	—	—	—	—	1
合計	2	1	3	6	1	—	—	—	13

*木製品器種分類は、伊東・山田（2012）を参考にした。

第46表 稲積オオヤチ南遺跡の器種別種類構成

種類	中世前半				中近世				合計
	容器	施設・器具	板	角材	容器	施設・器具	板	角材	
柾目板	—	—	—	—	楕円板	—	—	—	—
唐松板	—	—	—	—	楕円板	—	—	—	—
木地	—	—	—	—	楕円板	—	—	—	—
柾目板	—	—	—	—	楕円板	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—	—	—

種類	中世前半				中近世				合計
	容器	施設・器具	板	角材	容器	施設・器具	板	角材	
丸木	—	—	—	—	楕円板	—	—	—	—
ヒノキ	—	—	—	—	楕円板	—	—	—	—
ヒノキ	—	—	—	—	楕円板	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—	—	—

種類	中世前半				中近世				合計
	容器	施設・器具	板	角材	容器	施設・器具	板	角材	
カシノ木属	—	—	—	—	楕円板	—	—	—	—
トクサノ木属	—	—	—	—	楕円板	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—	—	—

*木製品器種分類は、伊東・山田（2012）を参考にした。

具、食事具、施設材・器具材に分類され、器種別にみると中世前半の箸が多数を占める(第46表)。

中世前半の試料の多数を占める箸は、20点がスギ、1点がヒノキと、全て針葉樹材であった。この結果から、スギを主体として分割加工が容易な針葉樹材の利用が推定される。板はヒノキ科であり、箸と同様に分割加工が容易な木材の利用が窺える。また、ヒノキ科には耐水性の高い種類が多いことから、木材の選択にあたり、耐水性も考慮されている可能性がある。匙はカキノキ属であった。同様の事例は、富山県内では梅原胡摩堂遺跡(旧福光町)の中近世とされる剣物匙や田尻遺跡(旧福野町)の室町時代前半~江戸時代初期とされる剣物匙に確認された例がある。漆器皿は、口径が約10cm、内外面ともに黒漆塗りであり、内面底部には赤色の絵が認められる。樹種はトネリコ属であった。富山県内では、トネリコ属の漆器はほとんど報告例がないが、民俗事例ではケヤキと同様に扱われ、遺跡からの出土例も各地で報告されている(橋本、1979 伊東・山田、2012)。

中近世の試料は、曲物(柄杓)の側板と底板、円形板の3点全てがヒノキに同定された。ヒノキの利用は、分割加工が容易であり、上記したように耐水性が高いこと等によると考えられる。

D 宇波西遺跡

宇波西遺跡の出土木製品40点は、弥生時代から中近世までの時期の試料からなり、工具、農耕土木具、容器、服飾具、建築部材、施設材・器具材、その他に分類される(第47表)。

弥生時代の試料は全て板材であるが、孔のある板材、樹皮の継じ紐が残る板材などがあり、器種・用途は多岐に渡ると推定される。板材は全てスギであったことから、用途に関わらず加工性の高いスギ材が利用されたと考えられる。なお、板材の240と245は、いずれも板の長辺にV字状の切り込みがあることから、最終的に堰板等に転用された可能性がある。

弥生時代~古墳時代の試料は、棒材と加工材の2点である。棒材は削出棒状、加工材は板目板状を呈し、いずれもスギが利用されている。加工は異なるが、弥生時代の試料と同様に加工性の高いスギの利用が推定される。

弥生時代~中近世の試料は、今回の分析試料中で数量が最も多く、梯子、堅柱、盤、底板、円形板、火鑽臼、板材、棒材などからなる。芯持丸木の堅柱にツバキ属が認められた他は全てスギであり、加工性の高いスギ材が広く利用されていたことが示唆される。堅柱は、その用途から強度の高い

第47表 宇波西遺跡の器種別種類構成

種類	弥生~中古世												合計
	工具	農耕	容器	建築	施設材・器具材								
大漁口	漆器	円彫版	板目	板子	板目	板目	板目	板目	削出	丸木	分削材	削出	
針葉樹													
スギ	1	1	1	1	1	1	3	4	4	1	2	1	
アスナロ													
広葉樹													
ケヤキ													
ツバキ属		1											
モクレン属													
モクセイ属													
合計	1	1	1	1	1	1	3	4	4	1	2	1	
弥生													
施設材・器具材													
板材													
梯子													
火鑽臼													
板材													
堅柱													
梯子													
堅柱													
盤													
底板													
円形板													
火鑽臼													
合計	5	2	1	1	1	1	2	1	1	1	35	1	
針葉樹													
スギ													
アスナロ													
広葉樹													
ケヤキ													
ツバキ属													
モクレン属													
モクセイ属													
合計	5	2	1	1	1	1	2	1	1	1	40	1	

*木製品部類分類は、伊東・山田(2012)を参考にした。

木材が選択・利用されたと推定される。富山県内における堅木の事例をみると、下村加茂遺跡（旧下村）の弥生時代後期～古墳時代初頭？とされる資料にムクロジ、江上A遺跡（上市町）の弥生時代後期～古墳時代初頭とされる資料にアカガシ亜属とクヌギ節が認められている（伊東・山田、2012）。樹種は異なるが、いずれも強度の高い木材が利用されている点は共通する特徴と言える。

古墳時代～中世の試料は、円形板2点である。いずれも柾目板であり、スギが利用されている。この結果は、弥生時代～中世の結果とも調和的である。

古代の試料は、円形板1点で、追柾状の木取りを呈する。アスナロが利用されており、他の円形板とは樹種選択が異なる。アスナロは、富山県内では桜町遺跡などで古代の木製品に確認されているが、円形板としての利用はほとんど確認されていない（伊東・山田、2012）。

古代～中世の試料は、漆器皿1点である。漆器皿は、ケヤキの横本地柾目取りで、内外面ともに黒漆が塗られている。ケヤキは、挽物本地としてブナ属やトチノキと共によく利用される種類である。富山県内でも多くの確認例が知られているが、特に中世の資料にケヤキの利用が多い。

中世の試料は、漆器蓋、円形板、下駄（2点）の計4点がある。形状から合子の蓋と考えられる漆器蓋は、縦木取りであり、蓋の中央付近に樹芯がある。この漆器蓋にはモクセイ属が認められた。モクセイ属は、緻密で細かな加工に適しており、民俗事例でも合子として利用される。富山県内では、石名田木舟遺跡（小矢部市・旧福光町）の中世の漆塗の合子蓋にモクセイ属（ヒイラギ）が確認された事例がある。円形板は、柾目板状を呈し、スギに同定された。この結果から、板状を呈する試料については、前時代に続きスギが利用されていたことが推定される。下駄は、台と歯を一本で作る連歎下駄230と、台と歯を別材で作る差歎下駄（露卯）の台229がある。連歎下駄は、台表が板目になる木取りで、スギが利用されている。一方、差歎下駄の台は、台表が柾目になる木取りで、モクレン属が利用されている。樹種は異なるが、いずれも下駄としてよく利用される樹種であり、加工性や軽い木材であること等が利用の背景として考えられる。

（パリノ・サーヴェイ株式会社 高橋 敏）

引用文献

- 林 昭三 1991 「日本産木材 跡微鏡写真集」京都大学木質科学研究所
- 橋本鉄男 1979 「ろくろ」「ものと人間の文化史 31」法政大学出版局 444p
- 伊東隆夫 1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載 I」『木材研究・資料 31』京都大学木質科学研究所 81-181
- 伊東隆夫 1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載 II」『木材研究・資料 32』京都大学木質科学研究所 66-176
- 伊東隆夫 1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載 III」『木材研究・資料 33』京都大学木質科学研究所 83-201
- 伊東隆夫 1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載 IV」『木材研究・資料 34』京都大学木質科学研究所 30-166
- 伊東隆夫 1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載 V」『木材研究・資料 35』京都大学木質科学研究所 47-216
- 伊東隆夫・山田昌久（編） 2012 「木の考古学 出土木製品用材データベース」海青社 449p
- Richter H.G., Grosser D., Heinz L. and Gasson P.E.（編） 2006 「針葉樹材の識別」IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト」伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘（日本語版監修）海青社 70p [Richter H.G., Grosser D., Heinz L. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification]
- 鳥地 謙・伊東隆夫 1982 「図説木材組織」地球社 176p
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E.（編） 1998 「広葉樹材の識別」IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト」伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩（日本語版監修）海青社 122p [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification]



1. ヒノキ (248)
 2. アスナロ (249)
 3. ブナ属 (246)
 4. クリ (254)
 5. ケヤキ (253)
 6. トチノキ (247)

a : 木口, b : 楢目, c : 板目

— 200 μm : 3-6a
 — 100 μm : 1-2a, 3-6b, c
 — 100 μm : 1-2b, c

写真1 稲積天板遺跡の木材 (1)

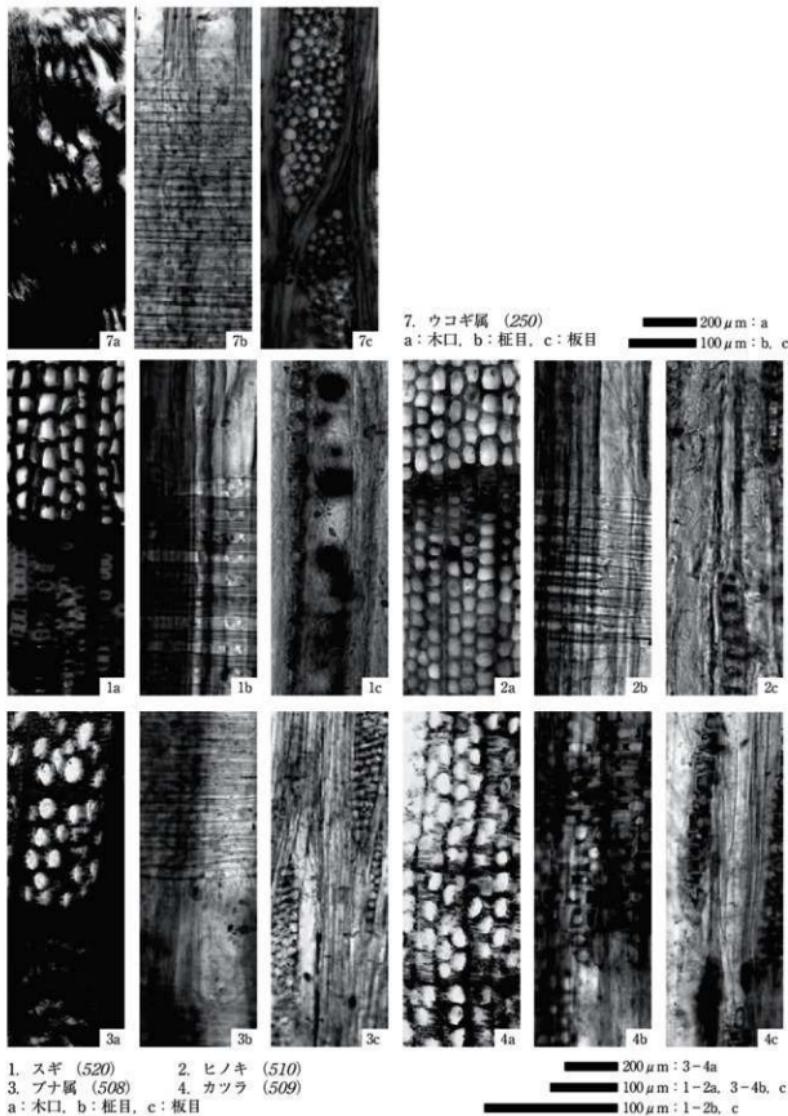
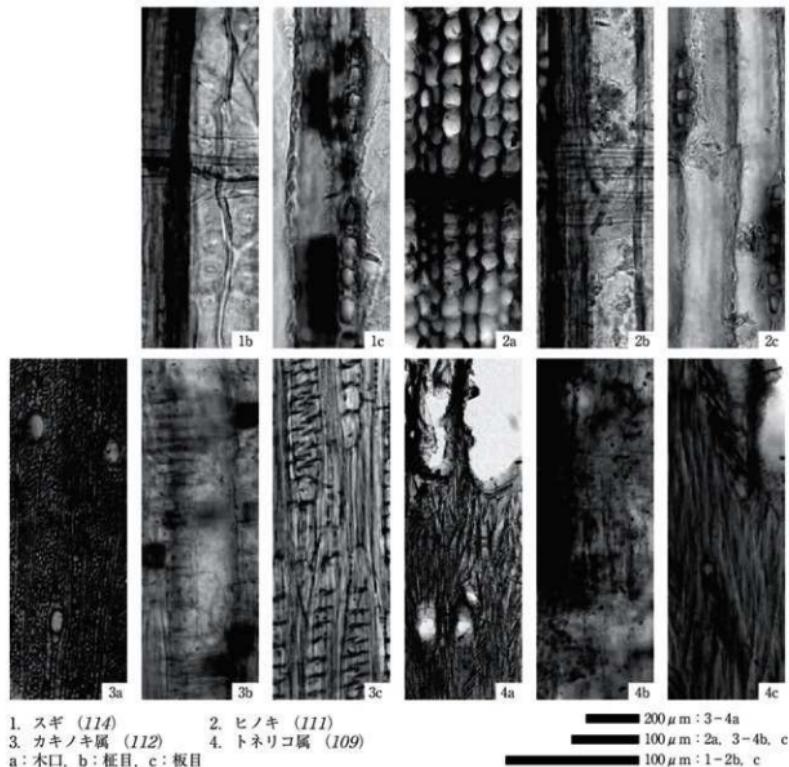


写真2 稲積天板遺跡の木材 (2) ・ 稲積天板北遺跡の木材



1. スギ (*II4*)

2. ヒノキ (*III*)

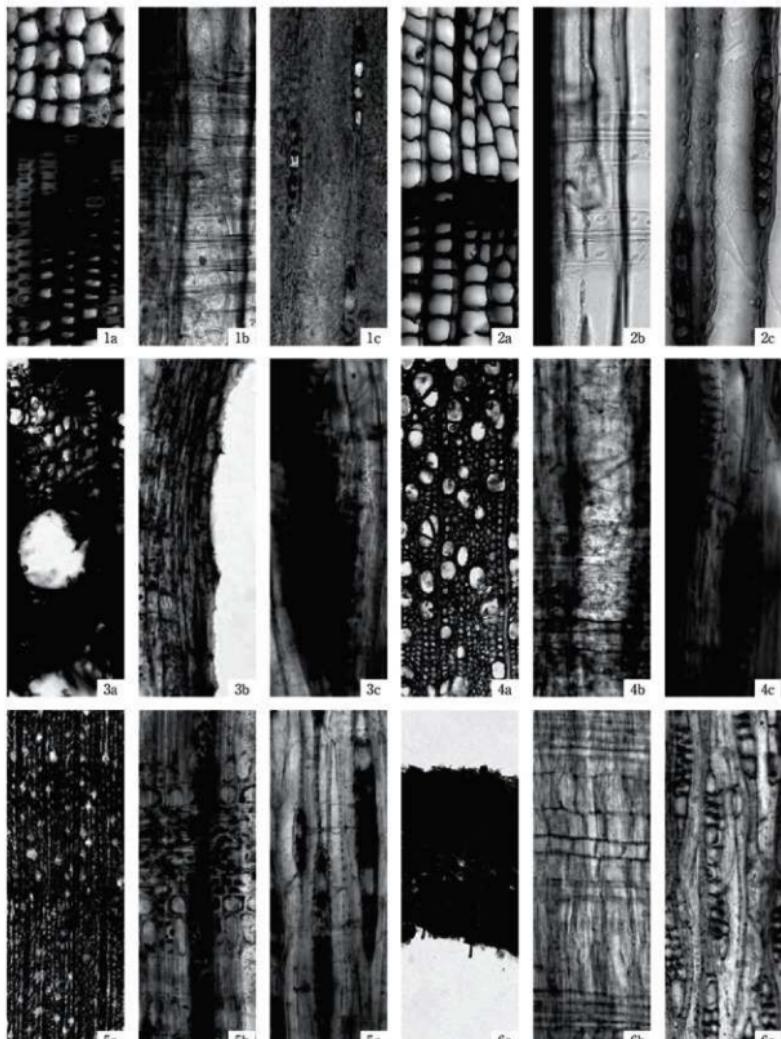
3. カキノキ属 (*II2*)

4. トネリコ属 (*I09*)

a: 木口, b: 楢目, c: 板目

200 μm : 3-4a
100 μm : 2a, 3-4b, c
100 μm : 1-2b, c

写真3 稲積オオヤチ南遺跡の木材



1. スギ (237)
 2. アスナロ (227)
 3. ケヤキ (217)
 4. モクレン属 (229)
 5. ツバキ属 (219)
 6. モクセイ属 (218)
- a : 木口, b : 枢目, c : 板目

200 μm : 3-6
 100 μm : 1-2a, 3-6b, c
 100 μm : 1-2b, c

写真4 宇波西遺跡の木材

2 石材鑑定

(1) 試 料

石材鑑定の対象とした石製品は、稲積天坂遺跡17点、稲積天坂北遺跡10点、稲積オオヤチ南遺跡2点、宇波西遺跡5点の計34点である。

(2) 分析方法

鑑定は、野外用ルーペを用いて、試料表面の鉱物や構成組織を観察し、肉眼で判定できる範囲の岩石名を付与した。

(3) 結 果

鑑定結果は各遺跡の石製品一覧に記載する。なお、稲積天坂遺跡および稲積天坂北遺跡の鑑定試料に確認された輝石安山岩については、変質鉱物の有無などから、新第三紀の地質に由来すると判断されるものには「新第三紀」、未変質で火山ガラスが残存するものについては「第四紀」としている。また、稲積天坂遺跡の鑑定試料に確認された変質凝灰岩については、肉眼で確認された色調を石製品一覧の備考に記した。

A 稲積天坂遺跡

鑑定の結果、半深成岩類の斜長斑岩（1点）、火山岩類の流紋岩（3点）、角閃石デイサイト（1点）、輝石安山岩（1点）、輝石安山岩（第四紀）（1点）、多孔質輝石安山岩（新第三紀）（1点）、堆積岩類のシルト岩（1点）、頁岩（1点）、変成岩類の緑色粘板岩（1点）、変質岩類の変質凝灰岩（1点）、風化蛇紋岩（4点）、鉱物の翡翠（1点）となった。

B 稲積天坂北遺跡

鑑定の結果、半深成岩類のドレライト（1点）、火山岩類の流紋岩（1点）、デイサイト（1点）、安山岩（新第三紀）（1点）、無斑晶ガラス質安山岩（1点）、無斑晶質安山岩（1点）、堆積岩類の砂岩（1点）、変成岩類の緑色片岩（1点）、変質岩類の蛇紋岩（1点）、鉱物の葉ろう石（1点）となった。

C 稲積オオヤチ南遺跡

鑑定の結果、いずれも火山岩類の流紋岩（2点）であった。

D 宇波西遺跡

鑑定の結果、火山岩類の流紋岩（2点）、堆積岩類の砂岩（1点）、頁岩（1点）、変質岩類の蛇紋岩（1点）となった。

(4) 考 察

稲積天坂遺跡、稲積天坂北遺跡、稲積オオヤチ南遺跡および宇波西遺跡は、氷見平野北部の余川川下流域に分布する丘陵裾から沖積地（谷底平野）および氷見平野北方の宇波川が形成した谷底平野（宇波川谷平野）に位置する。上述した遺跡の周囲には、宝達丘陵を水源とする余川川や上庄川、宇波川などの河川が富山湾に注いでいることから、これらの河川水系の地質に由来する河床礫を容易に入手できる環境であったことが推定できる。そこで、5万分の1 地域地質図幅「石動」（角ほか、1989）、20万分の1 地質図幅「高山」（山田ほか、1989）および日本の地質4「中部地方Ⅱ」（日本の地質「中部地方Ⅱ」編集委員会編、1988）を参照し、本地域および富山県周辺の地質について、概観してみる。

上述した河川の流域には、新第三紀の堆積岩類が主に分布しており、宝達丘陵南方に位置する石動山は、花崗閃綠岩、トーナル岩、花崗岩から構成される船津花崗岩類が露出している。船津花崗岩類を断層で境して、新第三系や第四系の堆積岩類が分布している。新第三系は、下位より太田累層、瓜生累層、八尾累層、音川累層、氷見累層、埴生累層の6つに区分されている（角ほか、1989）。遺跡周辺には、主として頁岩やシルト岩から構成される音川累層や、氷見累層の砂岩が分布している。

呉西地域は、主に小矢部川と庄川の河川が流下している。小矢部川および庄川の上流域には、白亜系の流紋岩・デイサイト火碎岩からなる濃飛流紋岩類や古第三系の流紋岩溶岩および火碎岩からなる太美山層群が分布している。小矢部川中流域には、新第三系の医王山累層が分布している。医王山累層は、富山県下では、小矢部川流域、庄川および室牧川に分布し、流紋岩・デイサイト溶岩および火碎岩からなり。火碎岩は、凝灰岩、凝灰角礫岩、軽石質凝灰岩から構成される。庄川中流域には、三疊紀の古期飛騨花崗岩類の優白質花崗岩および片麻状花崗岩、花崗岩-花崗閃綠岩からなる新期飛騨花崗岩類の庄川花崗岩が分布している。富山県-岐阜県境には、本邦最古の岩石で、時期不詳の苦鉄質片麻岩、石英質片麻岩、石灰質片麻岩からなる、飛騨変成岩類が広く分布する。

呉東地域は、おもに神通川、常願寺川といった河川が流下している。山田ほか（1989）によると、神通川流域には、飛騨帶、飛騨外縁帶、美濃帶および濃飛流紋岩類が分布している。飛騨帶は、おもに飛騨変成岩類とジュラ紀前期の船津花崗岩類からなり、ジュラ紀中期-白亜紀前期の手取層群がこれらを不整合に覆っている。飛騨外縁帶は、シルル紀-二疊紀の堆積岩と、それに伴う変成岩類・蛇紋岩・変はんれい岩からなる。美濃帶は、ジュラ系を主とする堆積岩コンプレックスで、メランジュ相が数帯にわたって発達することがある。濃飛流紋岩類は、後期白亜紀-前期新第三紀の流紋岩・デイサイト火碎岩からなっており、広く分布している。常願寺川流域には、古い地質として、先新第三系の飛騨帶が分布している。飛騨帶は、おもに飛騨変成岩類とジュラ紀前期の船津花崗岩類からなり、ジュラ紀中期-白亜紀前期の手取層群がこれらを不整合に覆っている。また、上流域には、後期中新世-完新世に活動した立山火山が分布しており、角閃石普通輝石紫蘇輝石安山岩、黒雲母紫蘇輝石デイサイトなどの溶岩および火碎岩が分布している。常願寺川中流域では、新第三系の安山岩溶岩・火碎岩、泥岩、砂岩および礫岩からなる岩稈累層や、砂岩、泥岩および礫岩からなる八尾層が分布している。常願寺川下流域には、第四系の堆積物が扇状地を形成している。

以上の地質背景を踏まえ、各遺跡から出土した石器・石製品に認められた石材について、時代および種類別に記述する。

A 稲積天坂遺跡（第48表）

縄文時代の石器は、打製石斧、凹石、磨製石斧、敲石、敲石？からなる。打製石斧に使用されている斜長斑岩は、白亜系の濃飛流紋岩類や古第三系の太美山層群に由来する石材とみられ、これらの地質が分布する小矢部川や庄川といった河川の下流域において採取可能の石材とみられる。

凹石に使用されている多孔質輝石安山岩（新第三紀）は、石基が変質しており、庄川や神通川流域に分布する下部中新統の岩稈累層および能登半島に分布する穴水層に由来すると考えられ、遺跡の近隣地域において採取可能の石材である。岩稈累層は、安山岩-デイサイト溶岩・火碎岩からなる。穴水層は、安山岩質火碎岩を主とする地質である。

磨製石斧4点は、いずれも風化蛇紋岩が使用されており、遺跡に近い産地として飛騨外縁帶の青海-白馬地域などが挙げられる。後述する稻積天坂北遺跡の縄文時代の磨製石斧には、蛇紋岩、ドレライト、デイサイトが確認されており、本遺跡とは石材利用が若干異なる。

敲石および敲石？に使用されている輝石安山岩（第四紀）や輝石安山岩は、斑晶鉱物や石基に変質が殆ど認められない岩相を示す。このことから、常願寺川上流域に分布する第四紀火山噴出物や、前述の岩稟累層に由来する石材とみられ、同河川の下流域において採取可能の石材と考えられる。

弥生時代の石器は、加工石器、勾玉および管玉からなる。加工石器に使用されている頁岩は、遺跡周辺の音川累層に由来する石材と考えられ、近隣地域において採取可能の石材である。

勾玉に使用されている翡翠は、前述の飛騨外縁帯の蛇紋岩に胚胎して産出するため、蛇紋岩と同様の産地が想定される。翡翠の産地としては、朝日町や糸魚川市（新潟県）が有名である。

管玉に使用されている変質凝灰岩は、小矢部川や庄川流域の下部中新統の医王山累層を構成する流紋岩質火砕岩の変質部に産出するものが知られており、こうした産地との比較が重要と考えられる。

中世の石製品は、砥石、宝鏡印塔からなる。砥石は、流紋岩、角閃石ダイサイトおよび緑色粘板岩が使用されている。流紋岩や角閃石ダイサイトは、白亜系の濃飛流紋岩類や古第三系の太美山層群に由来する石材とみられ、これらの地質が分布している庄川や神通川といった河川の下流域において採取可能の石材と考えられる。緑色粘板岩は、石川県下や富山県下には手取層群や来馬層群といった古期堆積岩類が分布する。ただし、砂岩、泥岩、礫岩を主体として粘板岩の産出は殆どないため、石材の由来する地質の推定は難しい。宝鏡印塔に使用されているシルト岩は、軟質で、貝殻片を含む岩相を呈する。岩相の特徴および石製品が大型の径を示すことから、遺跡周辺に分布する新第三系の音川累層や氷見累層から採取された石材とみられる。

B 稲積天坂北遺跡（第49表）

縄文時代の石器は、石鎌、打製石斧、磨製石斧、石棒からなる。石鎌に使用されている無斑晶ガラス質安山岩は、石基が青灰色を示し、斑晶が1%以下含む岩相で、岐阜県下呂市、長野県諏訪市、石川県富来地城といった産地が想定されるため、それらとの比較が重要と考えられる。

打製石斧は、安山岩（新第三紀）が使用されている。庄川や神通川流域に分布する下部中新統の岩稟累層や、能登半島北部に分布する穴水層に由来する石材とみられ、庄川や神通川といった河川の下

第48表 稲積天坂遺跡の種類別石材組成

石 質	縄文					弥生			中古世		合 計
	打 製 石 斧	磨 製 石 斧	磨 製 石 器	礫 石	鐵 石 ？	加 工 石 器	勾 玉	管 玉	鐵 石	寶 鏡 印 塔	
牛深岩類											
斜長斑岩	1										1
火山岩類											
流紋岩									3		3
角閃石ダイサイト									1		1
輝石安山岩					1						1
輝石安山岩（第四紀）					1						1
多孔質輝石安山岩（新第三紀）		1									1
堆積岩類											
シルト岩									1		1
頁岩						1					1
変成岩類											
緑色粘板岩									1		1
変質岩類											
変質凝灰岩								1			1
風化蛇紋岩			4								4
鉱物											
翡翠							1				1
合 計	1	1	4	1	1	1	1	1	5	1	17

流域や遺跡近傍において採取可能な石材とみられる。

磨製石斧は、ドレライト、デイサイト、蛇紋岩が使用されている。ドレライトは、中新世の火山岩類に伴って岩脈として産出する半深成岩類で、产地特定が難しい石材である。おそらく、石川県下や富山県下の新第三系の火山岩類に伴って産出する石材と想定され、遺跡近隣において入手可能な石材とみられる。デイサイトは、庄川や神通川流域に分布する古第三系の太美山層群、白亜系の濃飛流紋岩類に由来すると考えられ、これらの河川下流域において採取可能な石材である。蛇紋岩は、飛騨変成帯の青海-白馬地域や埼玉県長瀬地域に分布が知られており、遺跡に近い青海-白馬地域から移入されたとみるのが自然である。

石棒は、緑色片岩が使用されている。肉眼では点紋は認められないものの、片状組織が認められる岩相を示す。緑色片岩は、富山県下には産出せず、関東山地から静岡県下にかけて分布する三波川変成帯や中国地方に分布する三都変成帯に分布が知られていることから、こうした遠隔地域との比較が重要である。また、緑色片岩が使用された石製品の事例では、真脇遺跡（石川県能都町）から出土した磨製石斧や石刀など（能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団、1986）があり、こうした周辺遺跡の資料との比較検討も視野に入れる必要がある。

古墳時代？の擦切具は、砂岩が使用されている。表面に、酸化鉄由来と推定される赤褐色の模様が観察される。やや軟質の岩相を示し、大型の径を有する石材の特徴から、遺跡近傍の新第三系の地質に由来すると考えられる。

縄文-近世の石器・石製品は、石包丁、バステル形石製品、砥石が出土している。石包丁は、無斑晶質安山岩が使用されている。大型の径を有しているが、前述した石鎌に使用されている無斑晶ガラス質安山岩に類似した岩相を示しており、同様の产地が推定される。

バステル形石製品に認められた葉ろう石は、流紋岩などの火山岩が熱水変質を受けて生じた石材で、特定产地からの搬入品とみられる。国内では、山口県下の阿武地域、岡山県下の三石-吉永地方、広島県下の勝光山地域、栃木県下の大貫・大席鉱山、群馬県下の四万鉱山での产出が知られている。

第49表 稲積天板北遺跡の種類別石材組成

石質	縄文				古墳？	縄文-近世			合計
	石鎌	打削刃斧	磨削刃斧	石棒		擦切具	石盤	石製品	
半深成岩類 ドライ				1					1
火山岩類 流紋岩								1	1
デイサイト				1					1
安山岩（新第三紀）		1							1
無斑晶ガラス質安山岩	1								1
無斑晶質安山岩						1			1
堆積岩類 砂岩						1			1
変成岩類 緑色片岩					1				1
変質岩類 蛇紋岩				1					1
鉱物 葉ろう石							1	1	1
合計	1	1	3	1	1	1	1	1	10

砥石に使用されている流紋岩は、斑晶が少なく、酸化鉄と推定される赤褐色の模様が明瞭に認められる。古第三系の太美山層群や新第三系の医王山累層に由来する石材とみられ、これらの地質が分布する庄川や神通川といった河川の下流域において採取可能な石材である。

C 稲積オオヤチ南遺跡

縄文時代の打製石斧と中世の砥石は、ともに流紋岩が使用されている。縄文時代の打製石斧に使用されている流紋岩は、やや斑晶が多く、変質鉱物を含む岩相を示す。このような特徴から、古第三系の太美山層群に由来するとみられ、庄川や神通川の下流域において採取可能な石材と考えられる。一方、中世の砥石に使用されている流紋岩は、縄文時代の打製石斧とは異なる岩相を示し、斑晶が少なく、酸化鉄由来と推定される赤褐色の模様が認められる。このことから、新第三系の医王山累層に由来すると推定され、小矢部川や庄川の下流域において採取できる石材と考えられる。

D 宇波西遺跡

縄文時代の磨製石斧は、蛇紋岩が使用されている。蛇紋岩は、青海-白馬地域や埼玉県長瀬地域において産出が認められる。源岩が残存するものが散見されることから、遺跡に近い青海-白馬地域に由来するものが多く含まれると解される。上述した稲積天坂遺跡の縄文時代の磨製石斧4点が風化蛇紋岩、稲積天坂北遺跡の縄文時代の磨製石斧3点がドレライト、デイサイト、蛇紋岩に鑑定されていることから、本地域における磨製石斧の石材として、蛇紋岩を主体とした利用が推定される。

弥生時代の磨製石劍は、頁岩が使用されている。やや堅硬緻密質の岩相を示し、遺跡周辺の中新統の音川累層に由来する石材と推定される。

古代～中世の砥石（3点）は、流紋岩および砂岩が使用されている。流紋岩は、いずれも石基は白色を示し、斑晶が少なく、酸化鉄と推定される赤褐色の模様が認められる岩相を示すことから、小矢部川や庄川流域に分布する中新統の医王山累層や古第三系の太美山層群に由来すると考えられ、これらの河川の下流域において容易に採取できる石材とみられる。

砂岩は、泥質の基質が少ないアルコース質砂岩で、堅硬緻密質の岩相を示すことから、白亜系の古期堆積岩類から構成される手取層群に由来すると考えられ、西方からの移入が想定される。

（パリノ・サーヴェイ株式会社 坂元秀平）

引用文献

- 鹿野和彦・原山 智・山本博文・竹内 誠・宇都浩三・駒澤正夫・広島俊男・須藤定久 1999 「金沢」「20万分の1地質図幅」地質調査所
- 日本の地質「中部地方II」編集委員会編 1988 「中部地方II」「日本の地質2」共立出版 310p
- 能都郡教育委員会・真鶴遺跡発掘調査団 1986 「石川県能都町真鶴遺跡-農村基盤総合整備事業能登東地区真鶴工区に係る発掘調査報告書-」(本編) 482p
- 角 靖夫・野沢 保・井上正昭 1989 「石動」「5万分の1地域地質図幅」地質調査所 118p
- 山田直利・野沢 保・原山 智・浅沢文教・加藤慎一・広島俊男・駒澤正夫 1989 「高山」「20万分の1地質図幅」地質調査所

3 宇波西遺跡の自然科学分析

(1) 分析目的と試料

宇波西遺跡は、宇波川が形成したとみられる谷底平野と宝達丘陵から派生する小丘陵に面した箇所に位置する。本遺跡では、周辺植生および植物利用の検討を目的として、以下に示した試料を対象に、花粉分析・植物珪酸体分析・種実分析を実施した。

試料は、古墳～中世の自然流路（SD1001）のトレンチ（STr1）より採取された土壌5点（①～⑤）と、2箇所のトレンチ（STr1, STr2）から採取された種実（STr1 ①～⑤, STr2 ①～④）、7世紀後半の堅穴建物（SI235）内に認められた炭化物層より採取された土壌（SI235 炭化物層A）、弥生時代末～古墳時代の集水を目的としたと考えられる遺構（SX434, SX435）より採取された土壌（SX434①, ②・③, SX435覆土）である。なお、SD1001は、層位別に試料が採取されており、①が中世？, ②が古代～中世, ③が古代, ④が古代?, ⑤が古墳時代とされている。

(2) 分析方法

A 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下で、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本はじめ、Erdman (1952, 1957), Faegri and Iversen (1989)などの花粉形態に関する文献や、島倉(1973)、中村(1980)、藤木・小澤(2007)などの邦産植物の花粉写真集などを参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の層位分布図として表示する。図表中で複数の種類を「-」で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基準として、百分率で出現率を算出し図示する。なお、木本花粉総数が100個未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を「+」で表示するにとどめている。

B 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由來した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体）および葉身機動細胞に由來した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体）を、近藤(2010)の分類を参考に同定し、計数する。分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残流量を正確に計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量（同定した数を堆積物1gあたりの個数に換算）を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、各分類群の含量は100単位として表示し、100個/g未満は「<100」と表示する。また、各分類群の植物珪酸体含量の層位の変化を図示する。

C 種実分析

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定が可能な種実遺体を拾い出す。種実遺

体の同定は、現生標本と石川(1994)、中山ほか(2000)などとの対照より実施し、個数を数えて一覧表で示す。分析後は、種実遺体を約70%のエタノール溶液を入れた容器中で保存する。

(3) 結果

A 花粉分析

結果を第50表、第157図に示す。花粉化石の保存状態は、全体的に悪い。SD1001 STR1の試料番号②～④は比較的検出量が多いが、その他では少ない。木本花粉組成は、3試料とも類似し、スギ属が木本花粉全体の30～40%程度を示し、次いでブナ属、マツ属、クリ属、ニレ属－ケヤキ属などが検出される。草本花粉は、試料番号③では少ないが、試料番号②・④では多い。草本花粉はイネ科が大部分を占め、イネ科の検出数によって、草本花粉全体の量比が変わる。イネ科以外には、カヤツリグサ科、サナエタデ節－ウナギツカミ節、ヨモギ属が検出される。また、オモダカ属、ミズアオイ属などの水生植物が少量検出される。

S I 235 炭化物層Aは、花粉化石の保存状態が悪くほとんど見られない。残渣の多くは微粒炭である。

S X 434とS X 435では、S X 434①はS X 435より花粉化石が比較的多く検出される。S X 434②・③は花粉化石が少ない。いずれの試料もSD1001より花粉化石の保存が悪い。花粉化石が比較的多く検出された2試料は、組成が類似し、シダ類胞子の割合が高く、木本花粉と草本花粉では、木本花粉の割合がやや高い。木本花粉では、スギ属が30～40%程度を占め、次いでマツ属、サワグルミ属、ブナ属、コナラ亜属、クリ属、ニレ属－ケヤキ属などが検出され、SD1001の組成と類似する。草本類では、イネ科が多く、クワ科、サナエタデ節－ウナギツカミ節、ヨモギ属が検出される。なお、化石の保存が悪い影響でシダ類胞子が多産するため、基数が大きくなりSD1001と比べ相対的に低率のようにみえる。

B 植物珪酸体分析

結果を第51表、第158図に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるが、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められるなど、保存状態が悪い。以下に、各地点の産状を述べる。

・ SD1001

SD1001の植物珪酸体含量は4,100～9,500個/gであり、試料番号②で最も高い。試料番号⑤ではクマザサ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属などが認められる。試料番号④～①はクマザサ属を含むタケ亜科とともに栽培植物であるイネ属が検出される。なお、イネ属珪酸体の含量は全体的に低く、最も含量が高い試料でも機動細胞珪酸体が1,000個/g程度である。なお、珪化組織片としては、試料番号④でイネ属の葉部や穂(穎)、試料番号②・①ではイネ属の短細胞列が検出される。

・ S I 235 炭化物層A

S I 235 炭化物層Aでは、イネ属の産出が顕著であり、その含量は短細胞珪酸体が16,000個/g、機動細胞珪酸体が22,800個/gである。また葉部や穂(穎)に由来する珪化組織片も検出され、とくに短細胞列と穎珪酸体が多い。この他に、クマザサ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科なども検出される。

・ S X 434

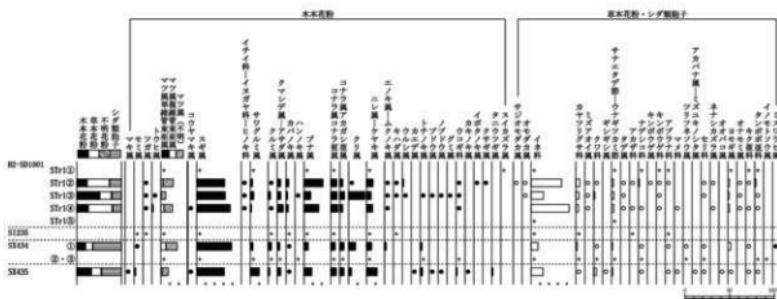
S X 434①および②・③では、ともにクマザサ属を含むタケ亜科の含量が高い。また、栽培植物のイネ属の機動細胞珪酸体や穎珪酸体も検出される。

・ S X 435

S X 435は、S X 434試料と同様にクマザサ属を含むタケ亜科の含量が高く、イネ属の機動細胞珪酸体や穎珪酸体が検出される。

第50表 宇波西遺跡 花粉分析結果

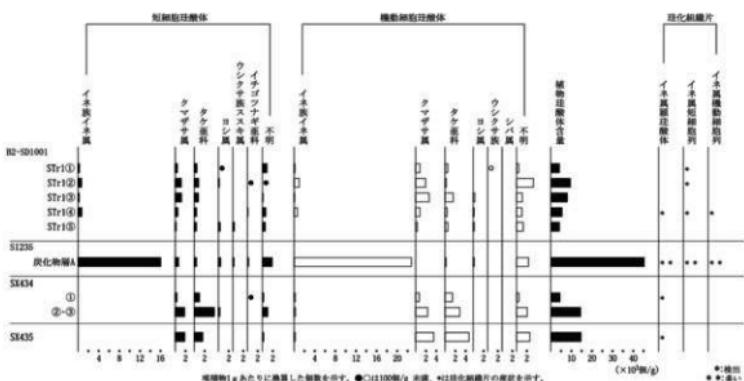
分類群	R2SD1001					SI235	SX434		SX435
	Str1(1)	Str1(2)	Str1(3)	Str1(4)	Str1(5)		(1)	(2)-(3)	
木本花粉									
マキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1
モク属	-	-	-	-	-	1	1	-	4
ツバキ属	-	1	1	1	-	1	-	-	-
トウヒ属	-	-	1	3	-	-	-	-	-
マツ属単球被葉樹属	-	-	-	-	-	1	-	-	-
マツ属複球被葉樹属	-	5	1	8	-	1	6	2	4
マツ属(不明)	5	24	12	21	-	7	13	6	15
コナラ属	-	-	-	1	-	-	-	-	2
スギ属	2	65	76	84	-	9	41	18	71
イワイ科イヌガヤ科ヒノキ科	-	2	1	2	-	-	-	-	-
サワグルミ属	1	5	9	3	-	-	3	5	23
クルミ属	-	1	6	2	-	1	4	2	4
クシジオ属アザダ属	-	8	10	15	-	-	3	2	9
カバハグ属	-	6	4	5	-	1	1	-	2
ハンノキ属	-	-	2	-	-	-	-	1	-
ブナ属	2	44	18	37	-	1	5	-	20
コナラ属コナラ属	3	14	17	18	-	1	5	1	14
コララ属アカシナ属	-	7	13	7	-	-	5	1	11
タケ属	-	1	43	-	-	-	8	-	7
ニニニ属ヤカニ属	1	15	12	15	-	2	6	4	27
エノキ属ムクノキ属	-	1	2	1	-	-	2	-	-
キンモクセイ属	-	2	2	-	-	1	-	-	-
ウルシ属	-	3	2	-	-	-	-	-	-
カエデ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1
トチノキ属	-	-	1	-	-	-	32	2	6
ブナ属	-	-	1	-	-	-	-	-	1
ノブリ属	-	-	1	-	-	-	-	-	1
グリ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-
ウツギ科	-	2	2	1	-	-	-	1	3
カシノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1
イロタチノキ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-
タカラギ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-
タケウチギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	3
スイセズギ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-
草本花粉									
サンオモガガ属	-	4	-	-	-	-	-	-	-
オモガガ属	-	6	1	-	-	-	-	-	-
イモ科	37	303	63	364	2	18	41	11	91
カヤノリグサ科	-	40	16	26	-	2	9	4	5
スヤノイ科	-	2	1	6	-	-	-	-	-
クサ科	-	2	6	-	-	-	1	1	21
ゼンギシ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1
サンエタニア属-クナギツカ属	1	19	12	21	1	-	6	1	9
タケ属	-	7	4	8	-	-	-	-	-
アカザ科	-	1	-	3	-	1	-	-	-
ナシ科	3	11	-	4	-	-	1	1	3
キンポウゲ属	-	2	-	-	-	-	-	-	-
キンポウゲ科	1	2	2	1	-	-	-	-	-
アブラナ科	2	7	-	-	-	1	1	-	1
マメ科	-	-	-	1	-	-	-	-	4
ツリフネノウ属	-	-	-	-	-	-	2	1	-
アハナ科-ミズエキシモシタ属	-	-	-	-	-	-	-	-	2
セリ科	-	1	3	-	-	-	1	1	1
ホシクサ科属	-	1	-	4	-	-	-	-	-
オオバコ属	-	-	-	-	-	-	-	-	3
ヨモギ属	12	17	6	15	-	-	37	-	6
オナモ属	-	1	1	2	-	-	-	-	-
キク科	2	3	-	3	-	-	3	-	1
ラン科植物	6	15	1	5	-	-	-	1	1
不明花粉	3	7	8	11	-	-	5	4	12
シダ類孢子									
イモモク属	-	-	-	-	-	-	-	1	-
スズラン属	-	-	-	-	-	-	1	-	-
地衣シダ類孢子	109	239	99	170	30	22	335	130	306
合計	15	308	238	224	0	27	105	45	230
草本花粉	64	444	116	463	3	22	82	21	149
不明花粉	3	7	6	11	0	0	5	4	12
シダ類孢子	109	239	99	170	30	22	336	121	306
総計(不明を除く)	188	891	453	857	33	71	523	187	685



第157図 宇波西遺跡 花粉化石群集

第51表 宇波西遺跡 植物珪酸体含量

分類群	B2-SD1001				SI235	SX434	SX435
	STr1(1)	STr1(2)	STr1(3)	STr1(4)			
イネ科葉被短細胞珪酸体							
イネ族イネ属	300	700	200	700	-	16,000	-
クマザサ属	400	1,200	1,200	500	300	300	1,800
タケ草科	500	800	800	400	400	1,000	3,900
ヨモギ属	<100	200	-	-	300	400	300
ウンカサチススキ属	-	-	-	-	300	200	-
イネコトキ草科	-	<100	-	100	-	200	<100
不明	900	<100	100	600	500	1,900	200
イネ科葉被長細胞珪酸体							
イネ族イネ属	200	1,000	100	600	-	22,800	200
クマザサ属	900	1,900	2,600	800	300	700	2,300
タケ草科	500	300	1,600	400	500	1,500	2,900
ヨモギ属	-	-	300	100	200	300	-
ウンカサチ族	<100	-	-	-	-	-	-
不明	400	3,900	1,100	1,100	1,300	2,300	500
イネ科葉被短細胞珪酸体							
イネ科葉被長細胞珪酸体	2,100	3,000	2,300	2,400	1,800	19,800	1,600
イネ科葉被短細胞珪酸体	2,000	6,500	5,700	3,100	2,400	25,500	2,800
総計	4,100	9,500	8,000	5,500	4,200	45,300	4,400
珪酸組成							
イネ族珪酸体	-	*	*	-	*	**	*
イネ族短細胞珪酸	-	*	-	*	-	**	-
イネ族長細胞珪酸	-	-	*	-	*	-	*



第158図 宇波西遺跡 植物珪酸体含量

C 種実分析

結果を第52表に示す。分析に供されたSD1001の9試料を通じて、木本17分類群(カヤ、アサダ、イヌシデ、モモ、アカメガシワ、カラスザンショウ、イヌザンショウ、サンショウ、キハダ、ブドウ属、ノブドウ、ミズキ、クマノミズキ、タラノキ、エゴノキ、クサギ、ガマズミ節)99個と、草本18分類群(ミクリ属、イネ、オオムギ、ホタルイ近似種、サンカクイ近似種、アサ、カナムグラ、ミゾソバ近似種、サナエタデ近似種、タデ属、ツリフネソウ、ヒヨウタン類、トウガン、モモルディカメロン型、マクワ・シロウリ型、メロン類、イヌコウジュ属、オナモミ属)58個、計157個の種実が抽出・同定された。

試料別の出土種実個数は、STr1①が木本6個、STr1②が25(木本4、草本21)個、STr1③が76(木本58、草本18)個、STr1④が18(木本12、草本6)個、STr1⑤が6(木本2、草本4)個、STr2①が8(木本4、草本4)個、STr2②が7(木本3、草本4)個、STr2③が木本7個、STr2④が4(木本3、草本1)個であった。

種実遺体群のうち、栽培種は、モモの核が1個(STr2③)、炭化したイネの胚乳が1個(STr2①)、炭化したオオムギの胚乳が1個(STr1②)、アサの果実が1個(STr2②)、ヒヨウタン類の種子が1個(STr2②)、トウガンの種子が1個(STr1④)、モモルディカメロン型の種子が2個(STr1④、STr2②)、マクワ・シロウリ型の種子が14個(STr1②、STr1④、STr1⑤、STr2①)、メロン類の種子が1個(STr1②)の、計23個が確認された。

栽培種を除いた分類群は、木本は、針葉樹のカヤ(常緑低木のチャボガヤの可能性)と、落葉広葉樹で高木になるアサダ、イヌシデ、カラスザンショウ、キハダ、ミズキ、クマノミズキ、小高木のアカメガシワ、エゴノキ、低木のイヌザンショウ、サンショウ、タラノキ、クサギ、ガマズミ節、籐本のブドウ属、ノブドウが確認された。アサダ、ミズキ、クマノミズキなどの河畔林要素や、伐採地や崩壊地、森林の林縁等の明るく開けた場所に先駆的に侵入する陽樹を主体とする。草本は、ミクリ属、ホタルイ近似種、サンカクイ近似種、ミゾソバ近似種、ツリフネソウなどの水湿地生植物や、カナムグラ、サナエタデ近似種、タデ属、イヌコウジュ属、オナモミ属などの明るく開けた場所に生育する分類群が確認された。

以下に、各分類群の形態的特徴等を以下に記す。

〈木本〉

・カヤ (*Torreya nucifera* (L.) Sieb. et Zucc.) イチイ科カヤ属

種子は灰褐色、完形ならば、長さ2.0cm、径1.2cm程度の倒卵形で両端は尖る。破片の残存長は1.0cm。種皮は硬く骨質で、表面には10数本の浅い縦溝が走る。

・アサダ (*Ostrya japonica* Sarg.) カバノキ科アサダ属

果実は灰褐色、長さ6.7mm、幅3.2mm、厚さ1.5mm程度の偏平な皮針状狭卵形で頂部は尖る。果皮表面はやや平滑で、両面には各10本程度の縱隆条が配列する。

・イヌシデ (*Carpinus tschonoskii* maxim.) カバノキ科クマシデ属

果実は灰褐色、径4~5mm、厚さ1.5mm程度の偏平な広卵形。果皮表面は粗面で、両面に各6本程度の縱隆条が配列する。

・モモ (*Prunus persica* Batsch) パラ科サクラ属

核(内果皮)は灰褐色、長さ37.07mm、幅19.29mm、厚さ15.54mmのやや偏平な広楕円体。1本の明瞭な縦の縫合線上が発達し、背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に

第52表 宇波西遺跡 種実分析結果

分類群	部位	状態	B2-SD1001								備考	
			STr1				STr2					
			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)		
木本												
カヤ	種子	破片	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
アサガ	果実	完形	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
イヌクチ	果実	完形	-	2	-	-	1	-	-	-	-	
モモ	核	完形	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
アカメガシワ	種子	完形	1	2	5	1	-	-	-	-	-	
カラスザンショウ	種子	完形	-	-	1	1	-	-	-	-	-	
イヌザンショウ	種子	完形	-	-	-	1	1	-	-	-	-	
サンショウ	種子	完形	-	-	-	1	3	-	-	-	-	
キハダ	種子	完形	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
ブドウ属	種子	完形	-	-	-	2	2	-	1	-	-	
ノブトウ	種子	完形	-	-	-	4	-	-	-	-	-	
ミズキ	核	完形	2	-	21	-	-	4	-	2	2	
ケマノミズキ	核	完形	-	-	9	-	-	-	-	-	-	
ドリノキ	核	完形	-	-	3	-	-	-	-	-	1	
エゴノキ	種子	完形	-	-	2	-	-	-	-	-	-	
クサギ	核	完形	-	-	22	1	-	-	-	-	-	
ガマズミ属	核	破片	-	-	1	-	-	-	-	3	-	
草本											1個体分	
ミクリ属	果実	破片	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
イネ	胚乳	完形	斑化	-	-	-	1	-	-	-	-	
オオバギ	胚乳	完形	斑化	1	-	-	-	-	-	-	-	
ホタルイズム属	果実	完形	-	-	32	-	-	-	-	-	-	
サンショウ属	果実	完形	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
アサガ	果実	完形	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
カナムグラ	核	完形	-	4	1	-	-	2	-	-	1	
シノハナズム属	果実	完形	-	4	2	-	1	-	-	-	-	
サンエイズム属	果実	完形	-	-	-	1	-	-	-	-	28個体	
タデ属	果実	完形	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
ツワボソウ	種子	完形	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
ヒガクシ属	種子	完形	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
トケンソウ	種子	完形	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
モモルディカロン属	種子	完形	-	-	-	1	-	-	-	1	-	
マクワシロリ属	種子	完形	-	10	-	1	2	1	-	-	-	
メリノ属	種子	破片	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
イヌクシ属	果実	破片	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
オナモ属	根茎	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	

幅の狭い帶状部がある。頂部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。

・アカメガシワ (*Mallotus japonicus* (Thunb.) Muell. Arg.) トウダイグサ科アカメガシワ属

種子は赤～黒褐色、径3.2～4 mm程度の歪な球体。基部にY字形の稜がある。種皮表面には瘤状突起が密布する。

・カラスザンショウ (*Zanthoxylum ailanthoides* Sieb. et Zucc.) ミカン科サンショウ属

種子は灰黒褐色、長さ2.5～3.7mm、幅3.0mm、厚さ2 mm程度のやや偏平な非対称広倒卵体。腹面正中線上に広線形の臍がある。種皮は厚く硬く、表面に深く大きな網目模様がある。

・イスザンショウ (*Zanthoxylum schinifolium* Sieb. et Zucc.) ミカン科サンショウ属

種子は灰黒褐色、長さ3.7mm、幅2.5mm、厚さ2 mm程度のやや偏平な非対称広倒卵体。腹面正中線上に広線形の臍がある。種皮は厚く硬く、表面にはカラスザンショウよりも細かく、サンショウよりも粗い網目模様がある。

・サンショウ (*Zanthoxylum piperitum* (L.) DC.) ミカン科サンショウ属

種子は灰黒褐色、長さ4 mm、幅3.5mm、厚さ2.7mm程度のやや偏平な倒卵体。腹面正中線上基部に斜切形の臍がある。種皮は厚く硬く、表面には浅く細かな網目模様がある。表面に黒色で薄く表面がやや平滑で光沢がある膜が残存する個体もみられる。

・キハダ (*Phellodendron amurense* Rupr.) ミカン科キハダ属

種子は黒褐色、長さ4mm、幅2.5mm、厚さ1.5mm程度のやや偏平な半横広卵体。種皮は硬く、表面には浅く微細な縱長の網目模様が配列する。

・ブドウ属 (*Vitis*) ブドウ科

種子は灰～黒褐色、広倒卵体で側面觀は半広倒卵形。長さ4.3～4.7mm、幅2.8～3.8mm、厚さ2.1～2.6mm。基部は細く嘴状に尖る核嘴がある。背面正中線の頂部から長さ約0.7mm程度の部分に、長さ2mm、幅1mm程度の卵形の合点があり、細く浅い溝に開まれる。合点中央は、5個は瘤まず、1個は瘤む。腹面正中線は(鈍)稜をなし、細い筋が走る。正中線の左右には、各1個の長さ2mm、幅0.5mm程度の倒皮針形で深く窪む核窪がある。種皮は薄く硬く、表面は粗面。断面は柵状。

・ノブドウ (*Ampelopsis brevipedunculata* (Maxim.) Trautv.) ブドウ科ノブドウ属

種子は灰～黒褐色、径4～4.5mm程度の広倒卵体。側面觀は半広倒卵形。基部は細く嘴状に尖る核嘴があり、腹面側の先に臍がある。背面は、正中線上の頂部から長さ3mm、幅1.5mm程度のU字状の合点がある。腹面は正中線上に(鈍)稜をなし、細い筋が走る。正中線の左右には、各1個の長さ2mm、幅0.5mm程度の倒皮針形で深く窪む核窪がある。種皮表面は粗面。

・ミズキ (*Swida controversa* (Hemsl.) Sojak) ミズキ科ミズキ属

核(内果皮)は長さ4～5mm、径4～6mm程度の偏球体。基部に大きく深い孔がある。内果皮は硬く、表面には一周する1本の幅広く深い縦溝と、やや深い縦溝が数本走る。内部には正中線上に隔壁があり、2室をもつ。

・クマノミズキ (*Swida macrophylla* (Wall.) Sojak) ミズキ科ミズキ属

核(内果皮)は灰褐色、長さ3.5～4mm、径4mm程度の偏球体。基部に小さく浅い凹みがある。内果皮は硬く、表面には一周する1本のやや幅広く深い縦溝と細く浅い縦溝数本が走る。

・タラノキ (*Aralia elata* (Miq.) Seemann) ウコギ科タラノキ属

核(内果皮)は灰褐色、長さ2～2.5mm、幅1.5mm程度のやや偏平な半月形。腹面はほぼ直線状で、片端に突起がある。背面には数本の浅い溝が走る。表面は小さな凹凸が多く粗面。

・エゴノキ (*Styrax japonica* Sieb. et Zucc.) エゴノキ科エゴノキ属

種子は灰～黒褐色、長さ0.8～1.1cm、径0.6～0.8cm程度の卵体。頂部から基部にかけて3本程度の縦溝と縦隆条がある。基部は斜切形で、淡灰褐色、径3mm程度の粗面の着点がある。種皮は硬く断面は柵状。表面にはハクウンボク (*S. obassia* Sieb. et Zucc.) よりもやや粗い粒状網目模様がある。

・クサギ (*Clerodendrum trichotomum* Thunb.) クマツラ科クサギ属

核(内果皮)は灰褐色、長さ5～6mm、幅4.5～5mm、厚さ3.5mm程度の広卵体。側面觀は三日月形、背面は丸みがあり、腹面は平らで腹面方向にやや湾曲する。腹面の一端には裂け目状の発芽口がある。内果皮は厚く硬い。背面には大きな網目模様があり、腹面表面は粗面。

・ガマズミ節 (*Viburnum* Sect. *Odontotinus*) スイカズラ科ガマズミ属

核は灰褐色、長さ5.0mm、幅4.9mm、厚さ1.0mm程度の偏平な倒卵体。頂部は尖り、基部は切形。背面と腹面には、それぞれ2個と3個の浅い縦溝がある。表面は粗面。

(草本)

・ミクリ属 (*Sparganium*) ミクリ科

果実は淡灰褐色、完形ならば、長さ3.5～5.5mm、径2.5mm程度の紡錘体または倒卵体。破片の存長は2.0mm。果実頂部は尖る個体や切形の個体がみられる。基部は切形。果皮は海緑状で、表面に

は数本の縱隆条が縱列する。

・イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

胚乳は炭化しており黒色。長さ4.43mm、幅2.32mm、厚さ1.67mmのやや偏平な楕円体。基部一端に胚が脱落した斜切形の凹部がある。表面はやや平滑で、2~3本の隆条が縱列する。一部焼き崩れている。

・オオムギ (*Hordeum vulgare* L.) イネ科オオムギ属

胚乳は炭化しており黒色。長さ5.76mm、幅2.94mm、厚さ2.4mmのやや偏平な紡錘状長楕円体。両端は尖る。腹面は正中線上にやや太く深い縱溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑で、微細な縱筋がある。

・ホタルイ近似種 (*Scirpus cf. juncoides* Roxb.) カヤツリグサ科ホタルイ属

果実は黒褐色、長さ2.2~2.7mm、径1.8~2mm程度の片凸レンズ状広倒卵体。頂部は尖り、基部は切形で、淡灰褐色。果実の長さとほぼ同長または長い刺針状花被片が伸びる。背面正中線上は鈍稜。果皮表面は光沢があり、不規則な波状横皺状模様がある。

・サンカクイ近似種 (*Scirpus cf. triquetus* L.) カヤツリグサ科ホタルイ属

果実は灰褐色、長さ2.5mm、幅1.6mm、厚さ1.0mm程度の片凸レンズ状広卵体。頂部は尖り、基部は切形で、淡灰褐色。果実の長さとほぼ同長の刺針状花被片が伸びる。背面正中線上は鈍稜。果皮表面は平滑で光沢がある。

・アサ (*Cannabis sativa* L.) クワ科アサ属

果実は灰褐色、長さ4.17mm、幅3.27mm、厚さ2.66mmの歪な広卵体。縦に一周する稜に沿ってやや割れている。両端は切形で、頂部に淡灰褐色、径1.0mm程度の楕円形の突起がある。果皮表面は粗面で葉脈状網目模様がある。

・カナムグラ (*Humulus japonicus* Sieb. et Zucc.) クワ科カラハナソウ属

核は暗褐色、径3.5~4.5mm、厚さ1.5mm程度の側面觀は円形、上面觀は両凸レンズ形。基部はやや尖り、縦方向に一周する稜に沿って半分以下に割れた個体がみられる。頂部に淡黄褐色、径1mm程度のハート形の漿点がある。表面は粗面で断面は柵状。

・ミゾソバ近似種 (*Polygonum cf. thunbergii* Sieb. et Zucc.) タデ科タデ属

果実は淡灰褐色、完形ならば、長さ3.5~5mm、径2~2.5mm程度の丸みのある三稜状卵体。頂部は尖り、基部は切形で径0.8mm程度の萼がある。破片は稜に沿って削れた1/3片で、残存長は4.2mm。果皮は柔らかく、表面には微細な網目模様がある。

・サナエタデ近似種 (*Polygonum cf. lapathifolium* L.) タデ科タデ属

果実は黒褐色、長さ3.0mm、幅2.2mm程度の偏平な広卵状二面体。頂部はやや尖り、2花柱がある。基部は切形で、基部は切形、灰褐色の萼から果実と同長かやや長い花被脈が伸び、先が2つに分かれ反り返る。果皮表面は平滑で光沢がある。

・タデ属 (*Polygonum*) タデ科

果実は黒褐色、長さ2.7mm、径1.9mm程度のレンズ状広卵体。頂部はやや尖り、花柱を欠損する。基部は切形で、灰褐色の萼がある。果皮表面には網目模様があり、灰褐色の花被の一部が付着する。

・ツリフネソウ (*Impatiens textori* Miq.) ツリフネソウ科ツリフネソウ属

種子は黒褐色、長さ3.8mm、径2.3mm程度の楕円体。基部に三稜形の短い嘴状突起がある。種皮は硬く、表面には不規則に絡み合った浅く光沢の強い隆起がある。

・ヒヨウタン類 (*Lagenaria siceraria* Standl.) ウリ科ヒヨウタン属

種子は灰褐色、長さ11.99mm、幅5.1mm、厚さ2.39mmの偏平な倒広皮針体。頂部は切形で角張る。基部は切形で臍と発芽口がある。種皮表面は粗面で、両面外縁部の幅広く低い稜に2本の縫線がある。

・トウガン (*Benincasa hispida* (Thunb. ex Murray) Cogn.) ウリ科トウガン属

種子は灰褐色、長さ10.50mm+、幅5.69mm、厚さ1.68mmの偏平な倒卵体で頂部をわずかに欠損する。基部は切形で梢円形の臍がある。種子両面の全周の縁には段差があり薄くなる。種皮表面は粗面。

・メロン類 (*Cucumis melo* L.) ウリ科キュウリ属

種子は淡～灰褐色、長さ6.5～8.84mm、幅2.91～3.72mm、厚さ0.65～1.74mmの偏平な狭倒皮針形。藤下(1984)の基準による中粒のマクワ・シロウリ型(長さ6.1～8.0mm)が14個と、大粒のモモルディカ・メロン型(長さ8.1mm以上)が2個確認された。なお、長さが計測できない破片をメロン類としている。種子の基部には倒「ハ」の字形の凹みがある。種皮表面は比較的平滑で、綾長の細胞が密に配列する。

・イスコウジュ属 (*Mosla*) シソ科

果実は灰褐色、径1.5mm程度の倒広卵体。基部には臍点があり、舌状にわずかに突出する。果皮はやや厚く硬く、表面には大きく不規則な網目模様がある。

・オナモミ属 (*Xanthium*) キク科

総苞は灰褐色、長さ1.1cm+、径0.7cm程度の梢円体で基部を欠損する。頂部はやや尖り、長さ0.5mm程度の太い嘴2個が残る。表面には長さ0.5～1mm程度の刺が散在し、鉤状に曲がった刺先端部を欠損する。

(4) 考 察

古墳～中世の自然流路(SD1001)の花粉分析結果では、木本花粉はスギ属が多く、マツ属、サワグルミ属、ブナ属、コナラ属、クリ属、ニレ属-ケヤキ属などを伴う。この傾向は集水を目的とした造構とされるSX434やSX435でも同様である。スギは沢や低地沿いなど多湿な場所を好み、扇状地や斜面地など土地条件の悪いところでも生育可能である。スギは風媒花で花粉生産量が多く、実際の周辺植生よりも花粉の割合が高くなることを考慮したとしても、低地や斜面などにスギが多く生育していたと考えられる。このような傾向は、中尾新保谷内遺跡においても確認されており、古代～中世の時期にハンノキ属とともにスギが多く生育していたことが考えられている(パリノ・サーヴェイ株式会社, 2009a)。また、七分一堂口遺跡でもスギが低地を中心に多く生育していたと推定されることから、氷見市周辺の富山湾に面した地域では沿岸の低地を中心にスギが生育していた地域が多かったと考えられる。なお、中尾新保谷内遺跡では、調査区によってはハンノキ属の花粉化石の多産が認められていることや、七尾市小島西遺跡ではモミ属の花粉化石が多産する(パリノ・サーヴェイ株式会社, 2008)ことから、谷底平野の規模や地形発達過程の違いにより、富山湾に面した低地の植生は異なっていたと考えられる。また、随伴するサワグルミ属、コナラ属、クリ属、ニレ属-ケヤキ属などは林縁、河川沿い、渓谷の斜面地など土地条件の悪い多湿な場所に生育する種類であることから、河川沿いの植生を反映していると考えられる。ブナ属は安定した森林を構成する種類であることから、山地を中心に生育していたと思われる。マツ属も、斜面地や尾根沿いなど土地条件の悪い場所に生育することが多く、山地の植生を反映していると思われる。種実遺体においても、木本類が多く検出されたが、カヤ、アサダ、イヌシデ、アカメガシワ、イヌザンショウ、ブドウ属、ノブドウ、ミズキ、クマノミズキ、タラノキ、エゴノキなどの林縁や明るい林地を好む種類が多く、花粉化石と重複している種類も多い。これらも林縁や谷沿いなどの植生を反映していると考えられる。

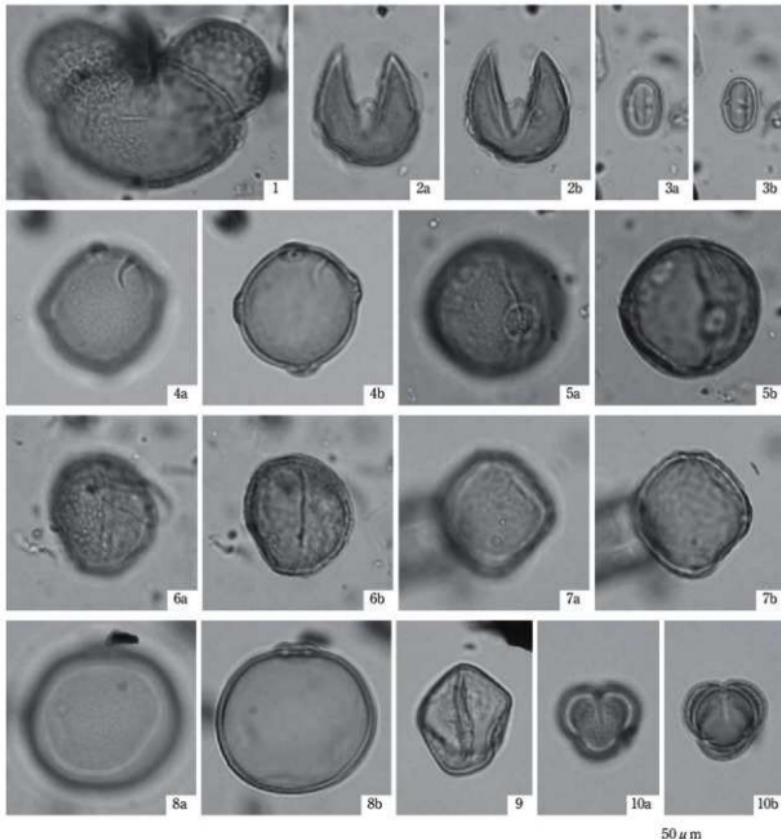
草本花粉では、SD1001, SX434, SX435のいずれもイネ科を中心に、クワ科、サナエタデ節－ウナギツカミ節、ヨモギ属など開けた場所を好む種類が検出された。また、草本種実は、ミクリ属、ホタルイ、カナムグラ、ミゾソバ、サナエタデ、ツリフネソウ、イヌコウジユ属、オナモミ属など開けた水湿地や草地を構成する種類が検出される。これらは、人為もしくは洪水などの災害により植生が失われた場所に先駆的に侵入し、草地を形成していたと思われる。今回の調査では、草本花粉の割合が低いが、これは化石の保存が悪く、風化に強いシダ類胞子が多産した結果、草本花粉の割合が相対的に低くなっているとみられる。

植物珪酸体においても、SD1001, SX434, SX435の組成は類似する。多産したクマザサ属を含むタケア科は、林縁部や丘陵地内のギャップなど森林が失われた場所に先駆的に進入してササ草原を形成したり、落葉樹林の林床に生育することが多い。そのため、検出されたクマザサ属は山地に由来するものと思われる。また、ヨシ属やススキ属などの開けた場所を好む種類も検出されている。草本花粉ではイネ科の割合が高いが、これらに由来する可能性がある。

栽培植物に着目すると、SD1001, SX434, SX435のいずれの遺構からもイネ属の植物珪酸体が検出された。イネ属珪酸体の含量を考慮すると、調査地付近における稲作については検討の余地が残るが、少なくともイネの利用が推定される。種実では、SD1001から、モモ、イネ、オオムギ、アサ、ヒヨウタン類、トウガン類、メロン類が検出され、周辺での栽培や利用が窺える。これらの種実は氷見市域の古代～中世の遺跡（中尾新保谷内遺跡、神明北遺跡、惣領浦之前遺跡など）でも検出されており（パリノ・サーヴェイ株式会社、2009a, 2009b, 2010）、広く利用されていたと考えられる。また、古代（7世紀後半）とされる堅穴建物（S1235）の炭化物層Aは、イネ属の含量が極めて高く、葉部や穂の炭化組織片が検出されたことや微粒炭が大部分を占める状況から、当該期のイネの植物体などが炭化した痕跡と推定される。（パリノ・サーヴェイ株式会社 田中義文・馬場健司・松元美由紀）

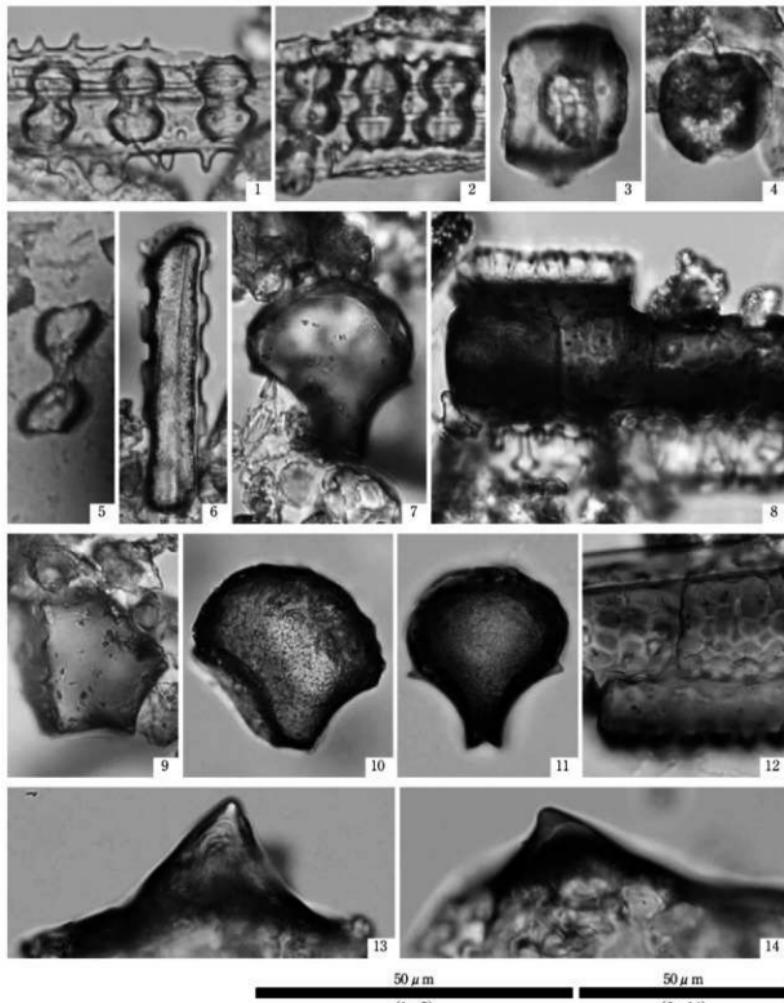
引用文献

- Erdtman G. 1952. Pollen morphology and plant taxonomy: Angiosperms (An introduction to palynology. I). Almqvist & Wiksell, 539p.
- Erdtman G. 1957. Pollen and Spore Morphology/Plant Taxonomy: Gymnospermae, Pteridophyta (Illustrations) (An Introduction to Palynology. II), 147p.
- Feagri K. and Iversen Jhs. 1989. Textbook of Pollen Analysis. The Blackburn Press, 328p.
- 藤下典之 1984 「出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法」『古文化財の自然科学的研究』古文化財編集委員会編 同朋会 638-654
- 藤木利之・小澤智生 2007 「琉球列島植物花粉図鑑」アカクラーラ企画 155p
- 石川茂雄 1994 「原色日本植物種子写真図鑑」石川茂雄刊行委員会 328p
- 近藤錦三 2010 「プラント・オ・パール図譜」北海道大学出版会 387p
- 中村 純 1967 「花粉分析」古今書院 232p
- 中村 純 1980 「日本鹿花粉の標識」I II (国版) 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12-13集 91p
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志 2000 「日本植物種子図鑑」東北大出版会 642p
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2008 「自然環境の変遷と動植物と人々との関わり」七尾市小島西遺跡「石川県教育委員会・財團法人石川県埋蔵文化財センター 134-194
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2009a 「中尾新保谷内遺跡の自然科学分析」「中尾茅戸遺跡・中尾新保谷内遺跡・神明北遺跡・大野江瀬遺跡発掘調査報告 -能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書Ⅲ-」第二分冊 富山県文化振興財团埋蔵文化財発掘調査報告第41集、財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 2-70
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2009b 「神明北遺跡の自然科学分析」「中尾茅戸遺跡・中尾新保谷内遺跡・神明北遺跡・大野江瀬遺跡発掘調査報告 -能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書Ⅳ-」第二分冊 富山県文化振興財团埋蔵文化財発掘調査報告第41集、財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 125-140
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2010 「惣領浦之前遺跡 木製品の樹種同定、種実遺体分析、微細物分析、昆虫同定、骨同定」「惣領浦之前遺跡・惣領野際遺跡発掘調査報告 -能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書Ⅴ-」第二分冊 富山県文化振興財团埋蔵文化財発掘調査報告第45集、財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 89-125
- 鳥倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集 60p



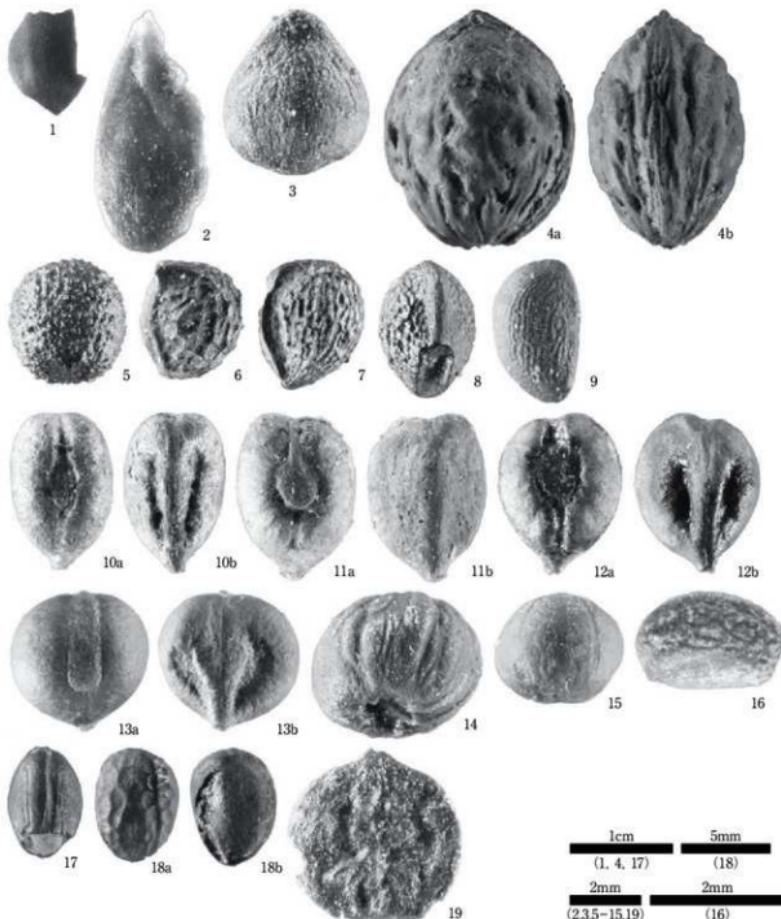
1. マツ属 (SD1001 : ③)
 2. スギ属 (SD1001 : ③)
 3. クリ属 (SD1001 : ③)
 4. クマシデ属 - アサダ属 (SD1001 : ④)
 5. ブナ属 (SD1001 : ③)
 6. コナラ属コナラ亜属 (SD1001 : ③)
 7. ニレ属 - ケヤキ属 (SD1001 : ④)
 8. イネ科 (SD1001 : ④)
 9. カヤツリグサ科 (SD1001 : ④)
 10. ヨモギ属 (SD1001 : ④)

写真5 花粉化石



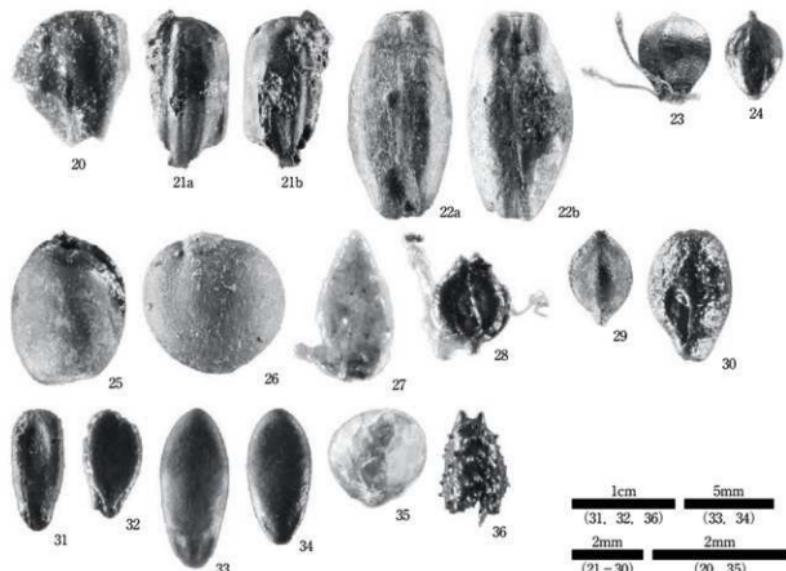
- 50 µm (1-5) 50 µm (6-14)
1. イネ属短細胞列 (SD1001 : ①)
 2. イネ属短細胞列 (SD1001 : ④)
 3. クマザサ属短細胞珪酸体 (SD1001 : ①)
 4. ヨシ属短細胞珪酸体 (SD1001 : ⑤)
 5. ススキ属短細胞珪酸体 (SD1001 : ⑤)
 6. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体 (SD1001 : ④)
 7. イネ属機動細胞珪酸体 (SD1001 : ①)
 8. イネ属機動細胞列 (SD1001 : ④)
 9. クマザサ属機動細胞珪酸体 (SD1001 : ⑤)
 10. ヨシ属機動細胞珪酸体 (SD1001 : ⑤)
 11. イネ属機動細胞珪酸体 (SI235 : 炭化物層 A区)
 12. イネ属機動細胞列 (SI235 : 炭化物層 A区)
 13. イネ属頸珪酸体 (SX434 : ①)
 14. イネ属頸珪酸体 (SX434 : ①)

写真6 植物珪酸体



1. カヤ 種子 (STr1④: 4)
 2. アサダ 果実 (STr2①: 1)
 3. イヌシデ 果実 (STr1②: 2)
 4. モモ 核 (STr2③: 3)
 5. アカメガシワ 種子 (STr1③: 3)
 6. カラスザンショウ 種子 (STr2②: 2)
 7. イスザンショウ 種子 (STr1④: 4)
 8. サンショウ 種子 (STr1④: 4)
 9. キハダ 種子 (STr1①: 1)
 10. ブドウ属 種子 (STr2①: 1)
 11. ブドウ属 種子 (STr2②: 2)
 12. ノブドウ 種子 (STr1③: 3)
 13. ミズキ 核 (STr1③: 3)
 14. タラノキ 核 (STr1③: 3)
 15. クマノミズキ 種子 (STr1③: 3)
 16. エゴノキ 種子 (STr1④: 4)
 17. ガマズミ節 核 (STr2③: 3)
 18. クサギ 核 (STr1③: 3)

写真7 種実遺体 (1)



20. ミクリ属 果実 (STr1⑤ : 5)
 22. オオムギ 胚乳 (STr1② : 2)
 24. サンカクイ近似種 果実 (STr1③ : 3)
 26. カナムグラ 核 (STr1② : 2)
 28. サナエタデ近似種 果実 (STr1④ : 4)
 30. ツリフネソウ 種子 (STr1② : 2)
 32. トウガン 種子 (STr1④ : 4)
 34. マクワ・シロクリ型 種子 (STr1② : 2)
 36. オナモミ属 総苞 (STr1④ : 4)

 21. イネ 胚乳 (STr2① : 1)
 23. ホタルイ近似種 果実 (STr1③ : 3)
 25. アサ 果実 (STr2② : 2)
 27. ミゾバ近似種 果実 (STr2② : 2)
 29. タデ属 果実 (STr1④ : 4)
 31. ヒヨウタン類 種子 (STr2② : 2)
 33. モモルディカメロン型 種子 (STr1④ : 4)
 35. イヌコウジュ属 果実 (STr1③ : 3)

写真8 種実遺体 (2)

4 氷見市域における木材利用について

(1)はじめに

氷見市域では、能越自動車道建設に伴い発掘調査が実施されており、本書を含めその成果が報告されている。なお、これらの発掘調査では縄文時代から近代までの多くの木製品が出土しており、器種も多岐にわたる。また、出土木製品については1,000点以上の資料を対象に樹種同定が実施されており、本地域における木製品の木材利用に関する情報が蓄積されている。

本稿では、能越自動車道建設に伴う発掘調査により得られた樹種同定結果をもとに、氷見市域における出土木製品の木材利用を概観し、各時期の様相および変遷について検討した。

(2)資料

本稿では、氷見市域の出土木製品の木材利用を検討するにあたり、本書および既刊報告書の掲載データに基づき集計を行った。以下に、対象とした遺跡および集計の際のデータ（器種、時期、樹種など）の整理方法を示す。

A 対象資料

既存データの集計の対象とした遺跡は、能越自動車道建設に伴い発掘調査が行われた氷見市域に所在する遺跡のうち、出土木製品や自然木などの樹種同定等の調査が行われた13遺跡（宇波西遺跡、稲積オオヤチ南遺跡、稲積天坂北遺跡、稲積天坂遺跡、加納谷内遺跡、大野江淵遺跡、神明北遺跡、中尾新保谷内遺跡、中尾茅戸遺跡、中谷内遺跡、上久津呂中屋遺跡、惣領浦之前遺跡、惣領野際遺跡）と、鉄製品に付着する木質について樹種同定が行われた稲積オオヤチ古墳群を含む計14遺跡である。

B 木製品の器種分類・年代（時代・時期）

出土木製品の器種別の集計は、「木の考古学」（伊東・山田、2012）の器種分類を参考とした。なお、詳細な器種別の樹種選択（木材利用）は、本文中に記した。また、木製品の帰属時期は、「縄文時代」・「弥生時代」、あるいは「12世紀」・「13世紀」などのように時代・時期が限定されている資料がある。一方「中世」などとして一括されている資料や、「古代～中世」のように時間幅が広い資料もある。そのため、木製品の帰属時期の集計は、縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世、近世および近代という時代区分に統一し、「古代～中世」のように時間幅が広い資料は、既刊の報告書の表記に従った。さらに詳細な時期が検討できる場合は、本文中に記した。

C 樹種

出土木製品など対象とした樹種同定は、複数の機関・分析者によって実施されているため、同じ分類群（種類）を指すのに名称が異なる場合がある（例えば、マツ属複維管束アシ属とニヨウマツ類など）。本稿では、明らかに同一の分類群と判断できるものについては、集計に影響の無い範囲で統一した。

(3)木材利用

A 概要（第53・54表）

氷見市域の14遺跡より出土した木製品のうち、これまでに樹種同定が実施された資料数は、上久津呂中屋遺跡の512点を最多として、計1,336点に上る。年代別では、中世の資料が全体の約半数を占め、次いで弥生時代、古墳時代、中世～近世の資料なども比較的多い。

これらの樹種同定結果では、合計で木本48分類群（針葉樹9分類群、広葉樹39分類群）のほか、イ

第53表 遺跡別・時期別の資料数

	縄文	弥生	彌生 ～ 古墳	古墳 ～ 古代	古代 ～ 中世	中世 ～ 近世	近世	縄文 ～ 古代	弥生 ～ 中世	弥生 ～ 近世	古代 ～ 近世	不明	合計
宇治西		12				6			17	5			40
福岡オヤナ古墳群			7										7
福岡オヤナ古墳						27							27
福岡坂北			12				3						15
福岡坂						11							11
加納谷内		16				108							124
大野江淵	23					4	2						29
神明北	2												6
中尾保谷内				2	2	144	25	2					175
中尾茅戸						4							4
中尾内			40		11	7	12		1		1		72
上久津呂中屋	24	38		1	10	22	34	372		2	18	1	512
惣領浦之前		157				14	18			1		1	191
惣領野際	25	1	44				53						123
合計	24	245	29	104	10	49	33	634	154	7	2	1	1336

ネ科タケ亜科、イネ科、ヒヨウタン類も確認されている。確認された分類群の構成比は、針葉樹のスギが約6割と全体の半数以上を占め、この他に針葉樹のモミ属、広葉樹のクリ、ケヤキが比較的多い。

B 時期別の木材利用

1) 縄文時代（第55表）

縄文時代の資料は24点あり、すべて上久津呂中屋遺跡から出土した資料である。器種は、漁労具（刺突具）、武器（箭弓）、運搬具（丸木舟）、容器（浅鉢・把手付鉢・小型鉢・鉢）、服飾具（腕輪・堅拂・垂飾）、建築部材（柱）、その他（棒材）からなり。木本8分類群（針葉樹1分類群、広葉樹7分類群）と草本のイネ科が認められている。

刺突具、丸木舟。棒材にスギが利用される。刺突具や棒材は、いずれも削出丸棒状を呈しており、スギの加工性を考慮した木材利用が推定される。丸木舟は、加工性の他、耐水性や浮力等も考慮されている可能性がある。箭弓は、本体がコナラ属であり、表面に樹皮が巻き付けられている。コナラ属の利用から、加工性よりも強度が優先された可能性がある。容器は、全て本胎漆器で、浅鉢・把手付鉢・小型鉢・鉢がある。浅鉢はトチノキ、ケヤキ、トネリコ属、把手付鉢はトチノキとケヤキ、小型鉢と鉢はケヤキである。複数の資料がある浅鉢と把手付鉢は複数種から構成されており、特定の樹種が利用される傾向はみられない。また、浅鉢では軽軟なトチノキが利用される一方で、重硬で強度や韌性の高いケヤキやトネリコ属等も利用されており、利用される材質にも幅がある。

服飾具のうち、腕輪は2点あるが、同一個体の可能性がある。樹種は、いずれもクリであり、比較的重硬な材質の木材が利用されている。堅拂は、削出丸木の櫛歯がサカキ。結具が不明である。能登半島では、三引遺跡の櫛歯がムラサキシキブ属に同定された事例がある。樹種は異なるが、比較的重硬・緻密な小径木から削り出している点は共通している。

建築部材は、芯持丸木の柱がクリに同定されており、強度・耐朽性の高い木材を利用したことが推定される。

2) 弥生時代（第56表）

弥生時代の資料は245点あり、大野江淵遺跡、神明北遺跡、上久津呂中屋遺跡、惣領浦之前遺跡および惣領野際遺跡の5遺跡から出土している。器種は、工具（斧の柄）、紡織具（綱台目盛板）、農耕土木（平鋤・泥除・臼・堅杵・田下駄）、漁労具（刺突具・網枠か）、武器（鞘・盾・弓）、調理加工具（杓子・籠・編物）、容器（刳物桶・槽・蓋・楕円板など）、調度（腰掛未成品）、建築部材（梯子・蹴放し・柱・建築部材）、土木材（杭・板杭）、施設材・器具材（板）、祭祀具（剣形・刀形・人形か・

第54表 時期別種類構成

分類群*	縦文	弥生	後生 ～ 古墳	古墳 ～ 古代	古代 ～ 中世	中世 ～ 近世	近世	縦文 ～ 近代	弥生 ～ 中世	後生 ～ 古墳	古代 ～ 近世	不明	合計				
計葉樹																	
マツ属被覆被束葉属			1	1	7	10	1						30				
モミ属		15			25	1							41				
スギ	4	193	24	80	7	31	16	447	52	1	3	17	5	1			
ヒノキ					1	19	18	1					39				
サワカ							1						1				
アスナロ	1						5	12				1	19				
ヒノキ科	1	1		1			4	5					12				
スギまたはヒノキ科	3												3				
イヌガヤ	3		1		2	1	1						8				
計葉樹			2			2				1			5				
広葉樹																	
ヒメグルミ	1												1				
ヤナギ属							1						1				
ハンノキ属							2						2				
イヌシテ属		2					1	2					5				
アサダ			1										1				
ツチ属						6	12	4				1	23				
コナラ属ケヌギ組	1												1				
コナラ属コナラ組	1					1							2				
コナラ属アカガシ組		4	2	2		2							10				
コナラ属	1												1				
タリ	3	1	6		9	8	39	22		1	11		100				
スダジイ						1	13	2			4		20				
エノキ属	1						2	1					4				
ケヤキ	5	3	3	1	3	2	23	4					44				
ヤマグワ	1		1										2				
モクレン属	2	1				1	7	2					13				
カツラ							1		1				2				
マタタビ属	1												1				
ツバキ属	1	1						1					3				
サカキ	1	1											2				
イヌクイ							1						1				
ウツギ属							1						1				
サクラ属	2					2	3	1					8				
キムノキ							1						1				
アカメガシ組	1												1				
キハダ	2		2				1						5				
カエデ属			1				2						3				
トチイチ	5	2					1	1					9				
ツゲ							1						1				
ケンボナシ属			1			3							4				
タマノミズキ組						1							1				
ミズナ属								1					1				
ウコギ属							1						1				
カキノキ属							1						1				
エゴノイ属				1									1				
トネリコ属	1						1						2				
モクセイ属							1						1				
キリ						2							2				
タニウツギ属						1							1				
広葉樹	2		2			2							6				
その他																	
タケモ科			2			2			1				5				
イネ科	1					2							3				
ヒカリテンノ類					1								1				
樹皮	1						6						7				
不明	1	1											2				
合計	24	245	29	104	10	49	33	634	154	7	2	1	19	17	6	2	1,336

*「ヨウウツブ属」はマツ属被覆被束葉属、「クリ」はタリ「カツラ属」はカツラ「ヤマガシ属」またはシランバ「及び「広葉樹の樹皮」は樹皮「広葉樹」「広葉樹」「広葉樹(つる性木本か)」「広葉樹(塊状材)」「広葉樹(板状材)」は広葉樹「不明」(質)」は不明物を含め集計した。

第55表 繩文時代の器種分類別種類構成

分類群	漁労	武器	調度	容器	粗面	建築	その他	合計
針葉樹								
スギ	2		1				1	4
広葉樹								
ヒメガシ属					1			1
コナラ属		1						1
クリ				2	1			3
タヤキ			5					5
サカキ				1				1
トチノキ			5					5
トネリコ属				1				1
その他								
イネ科							1	1
樹皮		1						1
不明					1			1
合計	2	2	1	11	5	1	2	24

第56表 弥生時代の器種分類別種類構成

分類群	工具	紡織	農耕	漁労	武器	調度	容器	調度	建築	土木	施設	祭祀	その他	合計
針葉樹														
モミ属				14									1	15
スギ	1	3	1	4	1	32	2	28	8	1	20	92	193	
アヌマロ						1							1	1
ヒノキ科						1							1	1
スギまたはヒノキ科											2	1	3	
イヌガヤ					1	1						1	3	
広葉樹														
イヌクシ節								2					2	
コナラ属クヌギ節			1										1	
コナラ属コナラ節								1					1	
コナラ属アカガシ亜属			2								2	4		
クリ								1					1	
エノキ属							1						1	
タヤキ					1	1	1						3	
ヤマグワ				1									1	
モレノ属						1						1	2	
マタタビ属					1							1	1	
ツバキ属							1						1	
サクキ												1	1	
サクラ属												2	2	
アカメガシ属												1	1	
キダ						2							2	
トチノキ	1				1								2	
広葉樹						1						1	2	
その他														
不明(節)								1					1	
合計	1	3	5	5	16	5	38	2	34	10	1	22	103	245

团扇形など)、その他からなり、木本22分類群(針葉樹6分類群、広葉樹16分類群)が認められている。

スギが資料の約8割を占め、工具、紡織具、漁労具、調度、建築部材、土木材、施設材・器具材、祭祀具、その他などの板状を呈する資料に多く認められる。農耕土木具では田下駄にスギ、堅杵にクヌギ節、平鍬と泥除にアカガシ亜属、臼にトチノキが認められた。田下駄は分割しやすいスギの加工性、臼は切削が容易なトチノキが選択されたと推定される。堅杵や平鍬は、加工性よりも強度が重視されたと考えられる。武器は盾の破片14点が全てモミ属、弓にイヌガヤが認められた。上述のように針葉樹のスギが多く利用される傾向にあるが、盾にはモミ属のみに認められる。弥生時代の盾の調査事例では西日本を中心にモミ属の利用が圧倒的に多い(伊東・山田、2012)ことから、盾の伝播のほか用材選択などの情報も同時に伝わっていた可能性がある。

容器は、剖物を主体とする。惣領野跡遺跡と惣領浦之前遺跡では、剖物桶、舟形容器、槽などの剖物容器のほとんどがスギであるが、上久津呂中屋遺跡の井戸側に転用された剖物桶（2点）はともキハダである。惣領野跡遺跡と惣領浦之前遺跡の剖物桶は板状で、いくつかを組み合わせて桶とするが、上久津呂中屋遺跡の剖物桶は一本を剖貫していることから、木材の加工方法の違いによって樹種選択が異なっていた可能性がある。

建築部材は、大野江淵遺跡、惣領浦之前遺跡、惣領野跡遺跡の板状の部材や梯子などにスギが多用される一方、上久津呂中屋遺跡の芯持丸木の柱では広葉樹のケヤキ、イヌシデ節、エノキ属、ツバキ属が利用されており、部位や加工方法、形状によって樹種が異なる。

3) 古墳時代（第57表）

古墳時代の資料は104点あり、稲積天坂北遺跡、中谷内遺跡、惣領野跡遺跡から出土した木製品と、稲積オオヤチ古墳群から出土した鉄器付着の木質などからなる。器種は、工具（ヤリガンナ）、紡織具（編台・本錘か）、漁労具（刺突具）、運搬具（櫓）、武器（鞘・鉄劍・鉄刀・鉄鎌）、容器（槽・指物・円形板・底板）、楽器（琴）。建築部材（梯子・柱根・垂木か）、土木材（角杭・板杭・杭）、その他などからなり、木本10分類群（針葉樹3分類群、広葉樹7分類群）が認められている。

板状の資料にスギの利用が多い傾向は、弥生時代から継続する特徴である。器種別にみると、容器では、弥生時代では剖物桶や槽が多くあったが、古墳時代では槽に指物、円形板（底板）が加わる。弥生時代とは木製品の器種構成が異なっているが、樹種は全てスギである。

紡織具では、板状の編台に加工性の高いスギ、芯持丸木で木錘の可能性がある資料に重硬なアカガシ亞属が利用され、用途と部位に応じて樹種を使い分けている。

武器は、全て稲積オオヤチ古墳群から出土した鉄器（鉄劍、鉄刀、鉄鎌など）に付着した木質である。鉄劍と鉄刀の木質は柄または鞘、鉄鎌の木質は矢柄と考えられる。このうち、鉄劍の木質は針葉樹であるが、鉄刀の木質は2点とも広葉樹で、うち1点がカエデ属に同定されている。この結果から、鉄劍と鉄刀とで鞘または柄の用材が異なっていたことが推定される。鉄鎌の木質は2点ともタケア科であり、矢柄がタケ製であったことがうかがえる。

建築部材は、惣領野跡遺跡から出土した分割材や板目板状などの垂木と考えられる部材にスギ、中谷内遺跡の芯持丸木の柱根にクリを中心にケヤキ、アカガシ亞属が認められている。また、両遺跡で出土した梯子は、いずれも板目状となるが、惣領野跡遺跡でキハダ、中谷内遺跡でスギが確認されており、遺跡によって樹種選択が異なる結果となっている。

第57表 古墳時代の器種分類別種類構成

分類群	工具	紡織	漁労	運搬	武器	容器	楽器	建築	土木	その他	合計
針葉樹											
マツ属										1	1
スギ	1	3		1	11	1	7	10	46	80	
イヌシデ									1	1	
針葉樹	1			1						2	
広葉樹											
アカガシ				1						1	
コナラ属			1				1			2	
クリ						5			1	6	
ケヤキ						2			1	3	
ヤマグワ									1	1	
キハダ							1		1	2	
カエデ属					1					1	
広葉樹	1			1						2	
その他											
タケ兼科				2						2	
合計	2	2	3	1	6	11	1	16	10	52	104

4) 弥生時代～古墳時代（第58表）

弥生時代～古墳時代の資料は29点あり、宇波西遺跡、加納谷内遺跡、惣領野際遺跡から出土している。器種は、工具（ヘラ状木製品）、農耕土木具（鍬未成品）、武器（弓）、容器（剣物桶・槽）、建築部材（蹴放し）、その他などからなり、本本5分類群（針葉樹2分類群、広葉樹3分類群）が認められている。

工具のヘラ状木製品、容器、建築部材、その他にはスギの利用が多く、弥生時代や古墳時代と同様の傾向が見られる。スギを除く針葉樹では、加納谷内遺跡の弓にヒノキ科が確認されている。広葉樹では、加納谷内遺跡の鍬未成品にアカガシ亜属、容器未成品にモクレン属、宇波西遺跡の堅杵にツバキ属が確認されている。鍬未成品にアカガシ亜属が利用される傾向は、弥生時代の資料と同様である。製作途中の鍬が出土していることから、遺跡内の鍬の製作と、その素材であるアカガシ亜属が入手できる植生環境の存在が推定される。また、堅杵のツバキ属は、樹種は異なるが、硬い木を利用している点は弥生時代のクヌギ節と同様の傾向といえる。

5) 古代（第59表）

古代（飛鳥末～奈良、8世紀後半、11世紀代、奈良・平安、古代、古代末～中世初頭を一括）の資料は49点あり、中尾新保谷内遺跡、中谷内遺跡、上久津呂中屋遺跡、惣領浦之前遺跡から出土している。器種は、調理加工具（柄杓）、容器（曲物底板と側板・円形板）、日用品（栓）、建築部材（柱）、施設材・器具材（井戸枠・井戸部材・曲物）、祭祀具（齊串）、その他などからなり、本本7分類群（針葉樹4分類群、広葉樹3分類群）と草本のヒヨウタン類が確認されている。

全体としてスギの利用が多い点は、弥生時代～古墳時代の資料と同様である。詳細な時期が分かる資料についてみると、最も古いのは惣領浦之前遺跡の飛鳥末～奈良時代とされる建築部材（柱）の2点である。いずれも1/4分割材が利用されており、断面が多角形に加工される。2点ともスギが利用され、分割加工が容易な樹種が利用される。

8世紀後半の資料は18点あり、上久津呂中屋遺跡から出土した施設材・器具材（井戸部材）からなる。いずれも板状に加工されており、板目板が多いが、柾目板も含まれる。全てスギに同定されている。

11世紀代の資料は、惣領浦之前遺跡の容器（漆器椀）の2点がある。いずれも横木地で、内外面共に黒色に塗られ、ケヤキに同定されている。この2点は、漆塗膜の分析も行われており、内面が炭粉漆下地に漆層を塗り、外表面は下地が認められずスリ漆となる資料と、内外面共に木目が見える薄いスリ漆となる資料とが確認されている（四柳、2010a）。

奈良・平安、古代、古代？、古代末～中世初頭とされる資料は27点あり、中尾新保谷内遺跡、中谷内遺跡、惣領浦之前遺跡から出土している。器種別に見ると、惣領浦之前遺跡から出土した調理加工具の柄杓は、ヒヨウタン類の果皮を利用したものである。容器は、惣領浦之前遺跡の漆器椀1点がケ

第58表 弥生時代～古墳時代の器種分類別種類構成

分類群	工具	農耕	武器	容器	建築	その他	合計
針葉樹							
スギ	1			8	1	14	24
ヒノキ科				1			1
広葉樹							
コナラ属アカガシ亜属		2					2
モクレン属				1			1
ツバキ属		1					1
	合計	1	3	1	9	1	29

第59表 古代の器種分類別種類構成

分類群	調理	容器	日用	建築	施設	祭祀	その他	合計
針葉樹								
マツ属複数種東亞属			1					1
スギ	7		2	19	1	2	31	
ヒノキ				1				1
イヌガヤ						2	2	
広葉樹								
クワ				9				9
ケヤキ		3						3
エゴノキ属						1	1	
草本類								
ヒヨウタン類	1							1
	合計	1	10	1	11	20	1	49

ヤキに同定されており、同遺跡の11世紀とされる漆器碗と同様の木材利用が確認される。一方、曲物の側板と底板、円形板は、中尾新保谷内遺跡、中谷内遺跡、惣領浦之前遺跡から9点が出土しているが、中尾新保谷内遺跡でヒノキが1点認められた他は全てスギである。基本的にスギが継続して利用されているが、ヒノキが確認された点は注目される。

建築部材の柱あるいは柱根は、上久津呂中屋遺跡と中谷内遺跡から出土している。上久津呂中屋遺跡の柱は、分割材が3点、芯持丸木が1点である。一方、中谷内遺跡は、芯持丸木が6点、分割材が2点で、上久津呂中屋遺跡に比べて芯持丸木の比率が高い。これらの柱材は、遺跡や加工法に問わらず、全てクリであり、強度・耐朽性に優れた木材選択が示唆される。

6) 中世(第60表)

中世(11~12世紀、12~13世紀、12世紀後半~15世紀、13世紀、13世紀前半、13世紀中頃、13世紀後半、13~14世紀、14世紀、14世紀後半~15世紀初頭、14~15世紀、16世紀前半を一括)の資料は634点あり、稲積オオヤチ南遺跡、神明北遺跡、中尾新保谷内遺跡、中尾茅戸遺跡、中谷内遺跡、上久津呂中屋遺跡、惣領浦之前遺跡、惣領野際遺跡から出土している。器種は、工具(柄・楔・ヘラか・火付け木か)、紡織具(糸巻・台脚)、漁労具(網枠・刺突具・釣針)、服飾具(下駄・櫛)、容器(漆器・木皿・曲物・円形板)、調理加工具(編物・柄杓・杓子)、食事具(箸・匙・折敷)、調度(脚)、日用品(栓)、建築部材(柱・礎板)、土木材(杭)、施設材・器具材(井戸枠・井戸部材・曲物・方形枠など)、祭祀具(斎串)、その他などからなり、木本30分類群(針葉樹7分類群、広葉樹23分類群)と草本のイネ科が認められている。

第60表 中世の器種分類別種類構成

分類群	工具	紡織	漁労	瓶詰	容器	調理	食事	調度	日用	建築	土木	施設	祭祀	その他	合計	
計集計																
マツ属根縫管束系属				1						1	4		1	7		
モミ属					1		2	1				19	2	25		
スギ	3	2	3	5	40	4	94		1	10	1	266	1	17	447	
アスナロ						3	2								5	
ヒノキ	1		1		6		7					4		19		
ヒノキ科						2						1		4		
イヌクサ科				1										1		
針葉樹												2		2		
広葉樹																
ハンノキ属ハンノキ亜属											2				2	
クマツ属イヌシダ類											1				1	
ブナ属					6										6	
クリ										14	6	17	2	39		
スダジイ									12				1	13		
エノキ属							1						1	2		
ケヤキ	1		21							1				23		
モクレン属	2		2							2			1	2		
カツラ属					1									1		
イスクサ				1										1		
ウツク属	1													1		
サクラ属									2	1				3		
ネムノキ											1			1		
キハダ									1					1		
カエデ属									2					2		
トチノキ				1										1		
ツゲ				1										1		
ケンボナシ属				1							2			3		
クマノミスイ属													1	1		
カキノハ属						1								1		
トネリコ属				1									2	1		
キリ							1							2		
タニウツギ属							1							1		
広葉樹											1		1	2		
その他																
イネ科		1					1							2		
穀					3		1							6		
合計		6	2	5	12	87	5	109	1	1	42	20	315	1	28	634

全体では、古代までの資料と同様にスギの占める割合が高い。スギは、食事具や施設材・器具材など、分割加工する器種にとくに多く認められる傾向がある。

時期が明確な資料についてみると、11～12世紀の資料は、中尾新保谷内遺跡のS P 426から出土した柱1点がある。柵目板状を呈しているが、柱穴内に立った状態で出土していることから、芯去分割材の柱材と考えられている。柱材は、針葉樹のスギに同定されており、分割加工が容易な材質の樹種が利用されている。

12～13世紀の資料は、上久津呂中屋遺跡の54点と中尾新保谷内遺跡の4点がある。施設材（井戸部材）が中心で、他に食事具、容器、服飾具、建築部材がある。井戸部材は、上久津呂中屋遺跡のS E 90の部材が中心で、他に中尾新保谷内遺跡のS E 5044の剖貫の井戸側がある。S E 90の井戸部材38点は、スギ36点、モミ属2点に同定されている。また、S E 5044の井戸側もスギに同定され、井戸部材の形状や加工法に関わらずスギの利用が多い。食事具は、上久津呂中屋遺跡の箸20点と折敷1点で、全てスギに同定されている。

容器は、上久津呂中屋遺跡の漆器椀、漆器小皿、中尾新保谷内遺跡の円形板の3点である。板状の円形板はスギ。漆器椀と漆器小皿はケヤキに同定された。漆器2点の塗膜分析によれば、いずれも表面が黒色で、下地は炭粉渋下地で、下地の上に漆が1層塗られる簡単な作りである（四柳、2013）。12～13世紀の段階では、比較的簡単な漆塗りの漆器にケヤキが利用されたことが推定される。

服飾具は、中尾新保谷内遺跡の下駄1点がスギに同定されている。建築部材は、中尾新保谷内遺跡から出土した柱1点がスギに同定されている。

13世紀の資料は、13世紀前半、13世紀中頃、13世紀後半、13世紀後半～14世紀前半、13世紀の資料がある。13世紀前半の資料は、惣領野際遺跡の箸、井戸枠、中尾新保谷内遺跡の漆器椀、柄杓、円形板、折敷、井戸部材（隅柱、横桟、曲物）がある。漆器がケヤキである他は、全てスギである。13世紀中頃の資料は、中尾新保谷内遺跡の釣針1点がスギに同定されている。13世紀後半の資料は、惣領野際遺跡の箸、柱、中尾新保谷内遺跡の折敷、箸、円形板、漆器椀、井戸部材（縦板、横桟、曲物）等がある。漆器椀にケヤキ、芯持丸木の柱材にクリ、スダジイ、キハダが確認された他は、全てスギである。このほか、詳細な時期は不明であるが、13世紀代の資料として、惣領野際遺跡の箸、円形板、曲物、漆器盆、漆器、目釘、上久津呂中屋遺跡の井戸枠、中尾新保谷内遺跡の折敷、指物、円形板、蓋、井戸側、下駄、網枠、齊串、棒材等がある。これらの木製品は、漆器盆、漆器、蓋にケヤキが認められる他は、スギの利用が多い。漆器類をみると、ケヤキに混じって惣領野際遺跡の漆器皿にブナ属が1点認められるが、塗膜の分析（四柳、2010b）を実施した資料は、樹種に関わらず炭粉渋下地であり、樹種と用材に違いは認められない。これらの結果をみると限りでは、13世紀代を通して、12世紀とほぼ同様の木材利用が継続した可能性がある。

なお、中尾新保谷内遺跡の箸の中にタニウツギ属が1点認められる。他のスギの箸が削出棒状で断面不定形の資料が多いのに対し、同じ削出でもタニウツギ属の1点は断面楕円形に成形されており、スギとは加工方法が異なる。

14世紀の資料は、14世紀前葉～後葉、14世紀前半、13世紀末～14世紀前半、13世紀末～14世紀、14世紀とされる資料を一括している。14世紀前半あるいは13世紀末～14世紀前半の資料は、上久津呂中屋遺跡の井戸枠、中尾新保谷内遺跡の箸、曲物、井戸側が全てスギに同定されている。13世紀末～14世紀、14世紀前葉～後葉、14世紀の資料は、惣領野際遺跡の円形板、棒材、折敷、方形枠、中尾新保谷内遺跡の円形板、曲物、井戸側が全てスギ。上久津呂中屋遺跡芯持丸木や芯持材の柱材がクリとカ

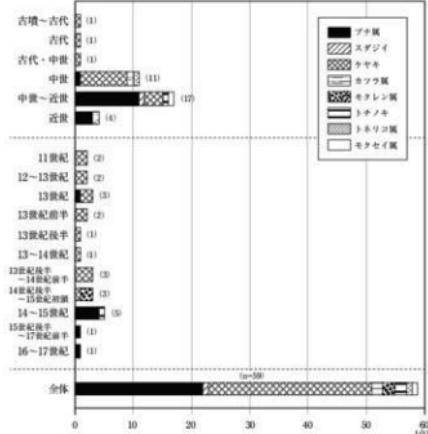
エデ属に同定されている。スギが多用される傾向は13世紀代と同様である。

14世紀後半～15世紀初頭、14～15世紀、14～15世紀前半、15世紀中頃以降の資料は、円形板、箸、火付け木かなどにスギが利用される結果は、14世紀までの資料と同様である。一方、曲物や円形板にはスギとともにヒノキあるいはヒノキ科が利用される。また、井戸欄でもモミ属とヒノキ科で構成される等、針葉樹の利用状況に変化が認められる。挽物容器についても、14世紀以前の資料では惣領野際遺跡でブナ属が1点認められる他は、全てケヤキであるのに対し、14世紀後半～15世紀初頭や14～15世紀の資料では、ブナ属を中心としたケヤキ以外の種類の占める割合が高く、14世紀以前と14世紀以後とで樹種選択に変化が認められる（第159図）。

中世に一括される資料は、稻積オオヤチ南遺跡、神明北遺跡、中尾新保谷内遺跡、中谷内遺跡、上久津呂中屋遺跡、惣領野際遺跡から出土した330点があり、中世全体の約半数を占める。工具では楔とヘラかにスギ、柄の本体にウツギ属、柄の編物にイネ科が認められる。漁労具では刺突具がスギ、網枠がイスガヤである。とくに刺突具では、分割角棒と削出丸棒があるが、加工法に関わらず、いずれもスギである。容器は、漆器椀にケヤキ、カツラ属、漆器蓋にヒノキ、漆器皿にトネリコ属、円形板と桶側板にスギが確認されている。

服飾具は、中尾新保谷内遺跡の下駄5点と櫛1点、中谷内遺跡の下駄2点と櫛1点がある。櫛は、中谷内遺跡の資料がツゲ、中尾新保谷内遺跡の資料がイスノキに同定されている。いずれも重硬で緻密な材質を有しており、民俗事例でも櫛の用材として使われる。現在は、ツゲが最良とされるが、遺跡出土資料ではイスノキの出土例が多く（伊東・山田、2012）、かつてはイスノキが広く利用されていたことが推定される。ツゲとイスノキは、共に暖温帯常緑広葉樹林内に生育する常緑樹であり、能登半島には分布していないことから、製品が持ち込まれたことが推定される。下駄は、台と歯を一本で作る連歎下駄と、台と歯を別材で作る差歎下駄がある。また、中尾新保谷内遺跡の下駄（1058）は、いわゆる小町と呼ばれるタイプに分類される。連歎下駄は、中谷内遺跡の資料がケヤキ、中尾新保谷内遺跡の資料がマツ属複維管束亞属であり、2種類の利用が確認される。ケヤキは重硬であるのに対し、マツ属複維管束亞属は軽軟であり、材質的に大きく異なる。材質の違いは利用者の性別や年齢なども関係している可能性がある。中尾新保谷内遺跡の小町は、スギに同定された。小町は、一般に女性用の下駄であることから、比較的軽いスギが利用された可能性がある。差歎下駄は、中谷内遺跡の資料がスギ、中尾新保谷内遺跡の資料がケンボナシ属とモクレン属で、3種類の木材が利用される。ケンボナシ属は中庸、モクレン属は軽軟な材質であり、全般的に重い材より中庸～軽い木材が利用される傾向がある。

調理加工具は、中尾新保谷内遺跡の杓子と柄杓の2点がスギに同定されている。食事具は、箸が多く、折敷や匙が混じ



第159図 挽物容器の時期別種類構成

る。箸と折敷は、基本的に針葉樹から構成され、スギの利用が多く、モミ属、ヒノキが少數混じる。一方、匙は、上久津呂中屋遺跡でエノキ属、稲穂オオヤチ南遺跡でカキノキ属が認められる。カキノキ属については、同様の事例が梅原胡摩堂遺跡（旧福光町）の中世とされる剣物匙や田尻遺跡（旧福野町）の室町時代前半～江戸時代初期とされる剣物匙のほか、坂井遺跡（新潟県見附市）の中世とされる杓子に確認されており、数量は少ないものの出土例が富山県に多く認められる傾向がある（伊東・山田、2012）。カキノキ属は、現在の富山県では栽培種のカキノキとマメガキの2種があるのみで、自生種（トキワガキ、リュウキュウマメガキ）は分布していない。そのため、富山県内で製作されていた場合には、カキノキやマメガキの可能性がある。水見市域では、中谷内遺跡の中世とされる土坑（SK3184）の花粉分析でカキノキ属花粉が多数検出されており、カキノキ属の栽培と用材としての木材利用を合わせた検討が期待される。

調度は、上久津呂中屋遺跡の芯持丸木の脚1点がモミ属に同定されている。日用品は、中尾新保谷内遺跡の栓がスギに同定されている。建築部材では、懇領野際遺跡の芯持丸木にクリ、スダジイ、サクラ属、スギ、礎板にカエデ属とクリが認められている。一方、上久津呂中屋遺跡の柱材では、1点がサクラ属の他は全てスダジイ、中谷内遺跡の柱材は全てクリ、中尾新保谷内遺跡の柱と礎板は全てスギで、遺跡によって種類構成に違いが認められる。古代の柱材と比較すると、中谷内遺跡では古代と同様の木材利用が確認できるが、上久津呂中屋遺跡ではクリからスダジイへ用材が変化したようにもみえる。しかし、古代の資料が少ないため慎重に検討する必要がある。

施設材・器具材は、井戸枠が多数を占める。樹種はスギの利用が多いが、上久津呂中屋遺跡のSE200ではクリが一部に混じり、SE301ではモミ属の利用が多いなど、遺構によって若干の用材差が認められる。土木材は、中尾新保谷内遺跡の杭16点で、マツ属複維管束亜属、スギ、ハンノキ亜属、イヌシテ節、クリ、ケヤキ、サクラ属、ネムノキ、ケンボナシ属が認められ、雑多な種類構成となる。

7) 古代～中世(第61表)

古代～中世の資料は33点あり、中谷内遺跡、中尾新保谷内遺跡、上久津呂中屋遺跡から出土している。器種は、服飾具(下駄)、容器(椀・鉢・円形板)、計量・文房具(札)、建築部材(柱)、その他からなり、本本8分類群(針葉樹1分類群、広葉樹7分類群)が確認されている。

スギが約半数を占め、スギ材が多く利用される点は、古代・中世を通じて確認される傾向と調和的である。器種別にみると、服飾具2点は下駄で、上久津呂中屋遺跡の資料が差歛下駄(露卯)の台、中尾新保谷内遺跡の資料が連歛下駄である。差歛下駄の台はモクレン属、連歛下駄はスギであった。いずれも中世の下駄に確認されている樹種である。このうち、モクレン属は、中尾新保谷内遺跡の差歛下駄(露卯下駄)に確認されており、古代～中世の資料も同様の利用状況が推定される。スギは、中谷内遺跡の差歛下駄と中尾新保谷内遺跡の小町に認められており、下駄の形態に関わらず利用される樹種であったと考えられる。

容器は、中谷内遺跡の椀、鉢、円形板、中尾新保谷内遺跡の円形板がある。円形板は、いずれもスギである。椀と鉢は、いずれもケヤキである。板状の容器にスギが主となる点や、漆器椀にケヤキが利用される傾向は、前述の古代から中世前半(～13世紀代)の結果に類似する。

計量・文房具は、上久津呂中屋遺跡の札2点が

第61表 古代～中世の器種分類別種類構成

分類群	楓	柏	杉	建築	その他	合計
針葉樹 スギ	1	3	2	3	7	16
広葉樹						
コナラ属コナラ属					1	1
コナラ属アガシ属					2	2
クリ				7	1	8
スダジイ					1	1
ケヤキ				2		2
モクレン属			1			1
サクラ属					2	2
	合計	2	5	2	14	33

スギに同定されている。建築部材は、全て上久津呂中屋遺跡の柱材で、芯持丸木にクリを中心にコナラ節、サクラ属が混じる組成、分割材にスギ、クリ、スダジイが認められた。スギ利用の有無で、芯持丸木と分割材とで用材に違いが認められる。柱材の樹種構成は、上久津呂中屋遺跡の古代と中世の柱材の樹種同定結果のいずれともやや異なる。建物の規模、構造、用途なども関係している可能性がある。

8) 中世～近世(第62表)

中世～近世の資料は154点あり、宇波西遺跡、稻積天坂北遺跡、加納谷内遺跡、大野江瀬遺跡、中尾新保谷内遺跡から出土している。器種は、工具(柄・柄状部材)、紡織具(木錘)、農耕土木具(鍬)、漁労具(浮子)、服飾具(下駄・櫛)、容器(漆器・桶・曲物・円形板・盤)、調理加工工具(杓子)、食事具(箸・折敷)、調度(机の天板と脚)、日用品(栓?)、建築部材(柱)、施設材・器具材(曲物桶・木臼・剝物桶)、土木材(杭)、祭祀具(舟形?・木像)、その他からなり、木本22分類群(針葉樹8分類群、広葉樹14分類群)と草本のイネ科が確認されている。

全体を通してスギが多く利用される状況は中世までの傾向と同様であるが、スギの占める割合は1/3程度であり、それまでの時期に比べてスギの利用は低率となる傾向にある。器種別に見ると、工具は、全て加納谷内遺跡の資料で、柄1点と柄状木製品3点の計4点がある。全て針葉樹であり、マツ属複維管束亞属、スギ、アスナロが認められた。この結果から、強度よりも軽さや加工性が優先された可能性がある。

紡織具は、中尾新保谷内遺跡の木錘1点がサクラ属に同定されている。紡織具の部材は針葉樹の利用が比較的多いが、木錘では広葉樹の利用が目立っており(伊東・山田, 2012)。重りとして比較的比重の高い木材を選択したことが推定される。中尾新保谷内遺跡のサクラ属も、そうした木材利用の一例といえる。

第62表 中世～近世の器種分類別種類構成

分類群	工具	紡織	農耕	漁労	容器	調理	食事	調度	日用	建築	施設	土木	祭祀	その他	合計	
針葉樹																
マツ属複維管束亞属	1				2	1		1		1	2		2		10	
モミ属					1										1	
スギ	2				2	22	1	3		1	10		1	10	52	
ヒノキ					1	6	1				10				18	
サワラ						1									1	
アスナロ	1					6					3		1	1	12	
ヒノキ科						2		1			2				5	
イヌガヤ														1	1	
広葉樹																
ヤナギ属											1				1	
イヌマキ属											2				2	
ブナ属						12									12	
タリ		1									19		1		22	
スダジイ						1								1	2	
エノキ属							1								1	
ケヤキ						3					1				4	
モクレン属					2										2	
ツバキ属							1								1	
サクラ属			1												1	
トネリコ							1								1	
ミズキ属											1				1	
ウコギ属					1										1	
モクセイ属						1									1	
その他																
イネ科タケ科等								2							2	
合計	4	1	1	1	8	58	3	5	4	1	22	27	1	2	16	154

農耕土木具は、加納谷内遺跡の鍬1点がクリに同定され、重硬で強度・耐朽性が高い木材が利用される。なお、鍬は柾目板状となるが、この木取りは弥生時代の資料と同様であり、中世まで木取りに大きな変化は認められない。

漁労具は、稲積天坂北遺跡の浮子1点がウコギ属に同定された。ウコギ属には重硬な材質の種類が含まれ、ヤマウコギでは気乾比重が0.80との報告もある(平井、1996)。浮子としては、材の比重が重いようにも思われるが、水(1.00)よりも軽いため、水には浮いたと考えられる。

服飾具は、宇波西遺跡の下駄2点、稲積天坂遺跡の下駄1点、加納谷内遺跡の下駄2点と櫛1点、中尾新保谷内遺跡の下駄2点である。このうち、中尾新保谷内遺跡の下駄(1056)は、前にノメリがあり、後歯が明瞭ではないが、差歯下駄とは異なるため連歯下駄に含めた。下駄は、中尾新保谷内遺跡の連歯下駄にモミ属とスギ、加納谷内遺跡の連歯下駄にマツ属複雜管束亞属、稲積天坂遺跡の連歯下駄にヒノキ、宇波西遺跡の連歯下駄にスギ、差歯下駄にモクレン属である。連歯下駄にマツ属複雜管束亞属、差歯下駄にモクレン属が利用される傾向は、中世の資料と同様である。スギについても、中世の資料では連歯下駄と差歯下駄の両方に確認されており、同様の木材利用といえる。モミ属とヒノキについては、中世の資料には認められなかった樹種である。加納谷内遺跡の櫛は、モクレン属であった。中世の櫛に認められたイスノキやツゲと比較すると、材が均質である点は同様であるが、強度ははるかに低い。櫛としての耐久性も低かったと考えられるが、モクレン属は本地域に分布しており、域内で木材の調達と加工が可能であったと考えられる。

容器は、宇波西遺跡、稲積天坂遺跡、加納谷内遺跡、大野江淵遺跡、中尾新保谷内遺跡から出土した58点があり、中世～近世の全資料の約1/3を占める。資料の主体は円形板や曲物の部品であり、他に桶側板、漆器類がある。円形板、曲物の部品、桶側板などの板状の資料では、スギが多い利用され、他にマツ属複雜管束亞属、ヒノキ、サワラ、アスナロ、ヒノキ科が認められる。スギが多い傾向は同様であるが、14世紀頃よりスギとともに確認されるヒノキ科(ヒノキ、サワラ、アスナロ)が中世～近世の資料でも認められる。スギが計22点であるのに対し、ヒノキ科も計15点と利用が多いことから、時代が新しくなるにつれてヒノキ科の利用が増加している可能性がある。なお、円形板に打ち込まれていた木釘や桶の蓋にはタケ亜科が認められた。漆器(椀、蓋、皿)は18点中12点をブナ属が占め、この他ケヤキ(3点)、スダジイ、トチノキ、モクセイ属(各1点)からなる。漆器についても、13世紀～14世紀に認められたケヤキからブナ属への用材の変化が中世～近世の資料でも認められる。なお、宇波西遺跡の漆器蓋は、蓋の中央に樹芯がある芯持の継木取りで、形状から合子の蓋と考えられる。確認されたモクセイ属は、合子に利用される樹種であり、富山県内では石名田木舟遺跡の中近世とされる漆塗りの合子蓋にモクセイ属に含まれるヒイラギが確認されている。緻密な材質を有しており、合子に選択的に利用されていた可能性がある。

調理加工工具では、加納谷内遺跡の杓子や杓子状とされる3点がある。スギ、ツバキ属、エノキ属が確認されており、硬く緻密な木材(ツバキ属)や、木理が直通で割裂の高い木材(スギ)からなる。

食事具は、中尾新保谷内遺跡の箸1点と、加納谷内遺跡の折敷の底板4点がある。折敷の底板では、スギ、ヒノキ、ヒノキ科が認められ、分割加工が容易な木材が利用される点は共通する。箸にはスギが利用されており、中世と同様の用材が認められる。

調度は、加納谷内遺跡の机の天板と脚がある。机の天板はマツ属複雜管束亞属が利用され、比較的軽く、加工性の高い木材を選択したことが推定される。脚は、3点中2点がイヌシデ節で硬く丈夫な木材が利用されるのに対し、1点は軽軟で強度が低いヤナギ属が利用されている。ヤナギ属について

は、後の修理など、由来が異なる可能性が考えられる。

建築部材は、加納谷内遺跡および稻積天坂遺跡の芯持丸木の柱材20点と、中尾新保谷内遺跡の柱2点がある。加納谷内遺跡と稻積天坂遺跡の柱材は、稻積天坂遺跡の1点がケヤキに同定された他は全てクリであり、強度や耐朽性に優れた木材の利用が推定される。また、この結果から、加納谷内遺跡と稻積天坂遺跡の2遺跡では、似たような木材選択が見られたと考えられる。中尾新保谷内遺跡の2点は、マツ属複雜管束亞属とミズキ属であり、保存性が高い木材や強度の高い木材の利用が推定される。なお、中尾新保谷内遺跡の土木材の杭でもクリが認められ、柱材と同様の同じく木材利用が推定される。

施設・器具材は、中尾新保谷内遺跡と加納谷内遺跡から出土しており、全て井戸枠である。曲物桶が多くを占め、スギ、ヒノキ、アスナロ、ヒノキ科が認められる。井戸部材は、前述のように14世紀頃からスギとともにヒノキ科が利用されるが、中世～近世の資料においてもスギとヒノキ科が混在しており、集計結果を参考とするとスギよりもヒノキ科の利用が多い。加納谷内遺跡の井戸枠の中には、木臼や剣物桶の転用品が含まれる。これらの樹種をみると、剣物桶にマツ属複雜管束亞属、木臼にマツ属複雜管束亞属とスギが認められた。木臼は広葉樹であることが多いが、加納谷内遺跡の資料では2点とも針葉樹であり、臼の形態・用途と樹種との関係を考える上で重要な資料である。

9) 近世・近代(第63表)

近世(16～17世紀や18世紀後半)・近代の資料は9点あり、大野江淵遺跡、中尾新保谷内遺跡、稻積天坂北遺跡、上久津呂中屋遺跡から出土している。器種は全て容器であり、木本5分類群(針葉樹3分類群、広葉樹2分類群)と草本のイネ科が認められている。

近世の容器は、稻積天坂北遺跡、大野江淵遺跡、中尾新保谷内遺跡から出土した漆器椀を中心で、他に大野江淵遺跡と稻積天坂北遺跡の円形板が2点ある。漆器椀は、5点中4点がブナ属、1点がカツラであり、ブナ属を主体とした木材利用が推定される。14世紀頃にケヤキからブナ属に用材が変化して以降、近世においてもブナ属を主体としていたことが推定される。一方、円形板はスギとヒノキが各1点であった。

近代の資料は、桶の側板と蓋で、側板にマツ属複雜管束亞属、蓋にタケアケ科が認められた。明治時代に編纂された「木材ノ工藝的利用」(農商務省山林局、1912)によれば、マツの桶の用途として、風呂桶や勝手用桶が挙げられている。

第63表 近世・近代の器種分類別種類構成

分類群	近世		合計
	容器	容器	
針葉樹			
マツ属複雜管束亞属		1	1
スギ	1		1
ヒノキ	1		1
広葉樹			
ブナ属	4		4
カツラ	1		1
その他			
イネ科タケアケ科		1	1
合計	7	2	9

(4)まとめ

氷見市域の縄文時代から近代までの出土木製品の木材利用を概観した結果、以下の傾向や特徴が指摘された。

- ①縄文時代は広葉樹材の利用が多く、針葉樹は少ないが、弥生時代以降は針葉樹材の利用が増える傾向にある。
- ②弥生時代～古代に利用される針葉樹材はスギが多いが、13～14世紀頃よりスギとともにヒノキ科の利用が目立つようになり、同様の傾向は近世まで継続する。なお、スギが利用される器種は比較的多岐に渡る一方、ヒノキ科の利用は容器(曲物、円形板など)・施設材(井戸枠(曲物桶側板)など)

を主体とするという特徴がある。

③挽物容器は、12～13世紀にはケヤキの利用が多いが、14世紀以降はケヤキの利用が減り、替わってブナ属の利用が増える。また、ブナ属の利用は近世まで継続する。

④②・③の特徴から、中世の13～14世紀に木材利用に変化が生じたと推定される。

⑤富山県内で初めて出土した弥生時代の盾は、他の多くの地域と同様にモミ属が認められ、同時期の他の器種でスギが多く利用される中で特異な木材利用を示す。盾にモミ属が利用される事例は西日本を中心に数多く知られていることから、盾の伝播とともに用材に関わる情報も伝わっていた可能性が考えられた。

⑥積穀オオヤチ南遺跡の匙に認められたカキノキ属の利用は、全国的には同様の事例はほとんど認められない。富山県内では田尻遺跡・梅原胡麻堂遺跡、新潟県の坂井遺跡などで確認されており、現段階では報告事例が少なく判然としないが、本地域を含む北陸地方における木材利用を考える上で注目される。

⑦下駄は、形態に関わらずスギが利用される傾向にあるが、モクレン属は差歛下駄に多く認められることから、形態による木材選択が想定される。 (パリノ・サーヴェイ株式会社 高橋 敦)

引用文献

- 平井信二 1996『木の大百科 解説編』朝倉書店 642p
伊東隆夫・山田昌久 2012『木の考古学 出土木製品用材データベース』海青社 449p
農商務省山林局(編) 1912『木材ノ工藝の利用』大日本山林會 1308p
四柳嘉章 2010a「漆器・漆製品の科学分析」「懇領浦之前遺跡・懇領野際遺跡発掘調査報告 第二分冊」富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第45集 財團法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 128-137
四柳嘉章 2010b「漆器の科学分析」「懇領浦之前遺跡・懇領野際遺跡発掘調査報告 第三分冊」富山県文化振興財團埋蔵文化財発掘調査報告第45集 財團法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 170-174
四柳嘉章 2013「漆器の科学分析」「上久津呂中屋遺跡発掘調査報告 第三分冊 自然科学分析・総括編」富山県文化振興財團埋蔵文化財発掘調査報告第55集 公益財團法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 224-241



稲積天板遺跡 遺物

1. 土器（弥生時代） 2. 玉類（SI130 271～273） 3. 陶磁器（近世）

図版2



1



2

稲積天坂遺跡・稲積天坂北遺跡 遺構・遺物

1. 稲積天坂遺跡A2地区全景（北西から） 2. 稲積天坂北遺跡 土器（古墳時代～古代）



1



2

宇波西遺跡 土器

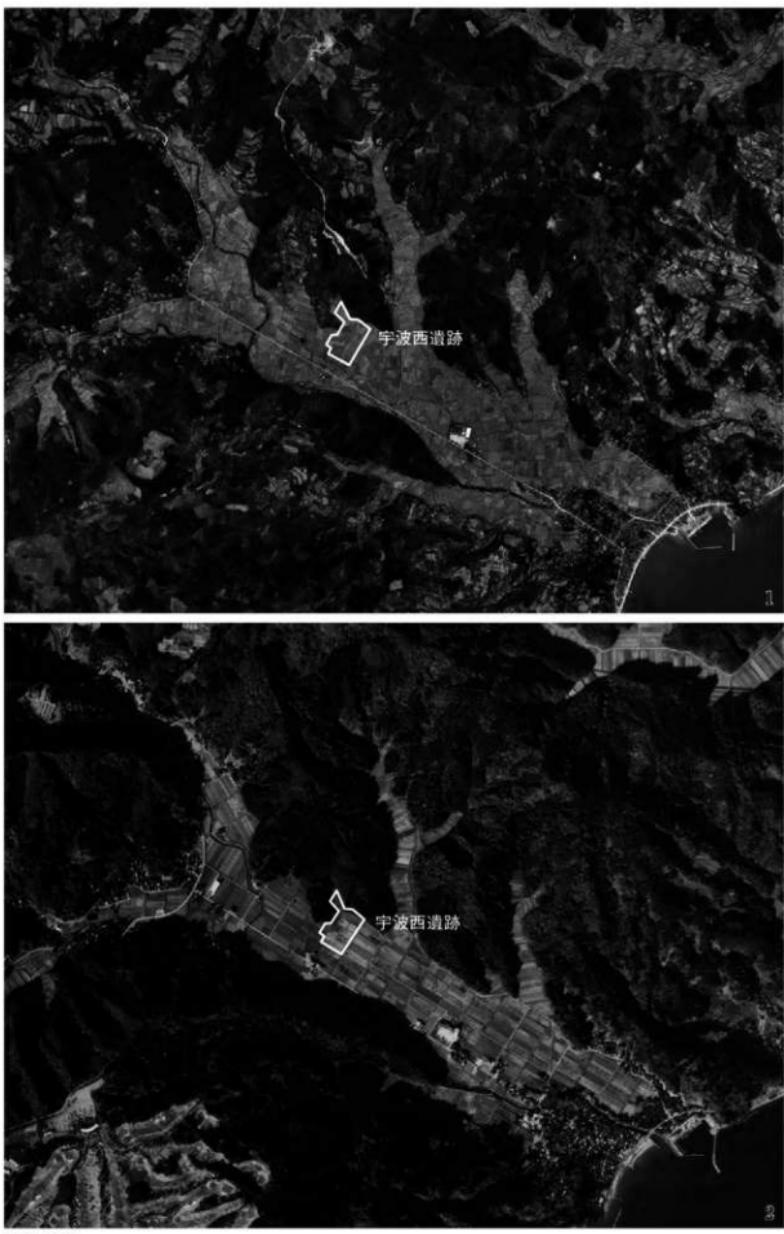
1. 弥生時代～古墳時代 2. 古代

図版4



航空写真

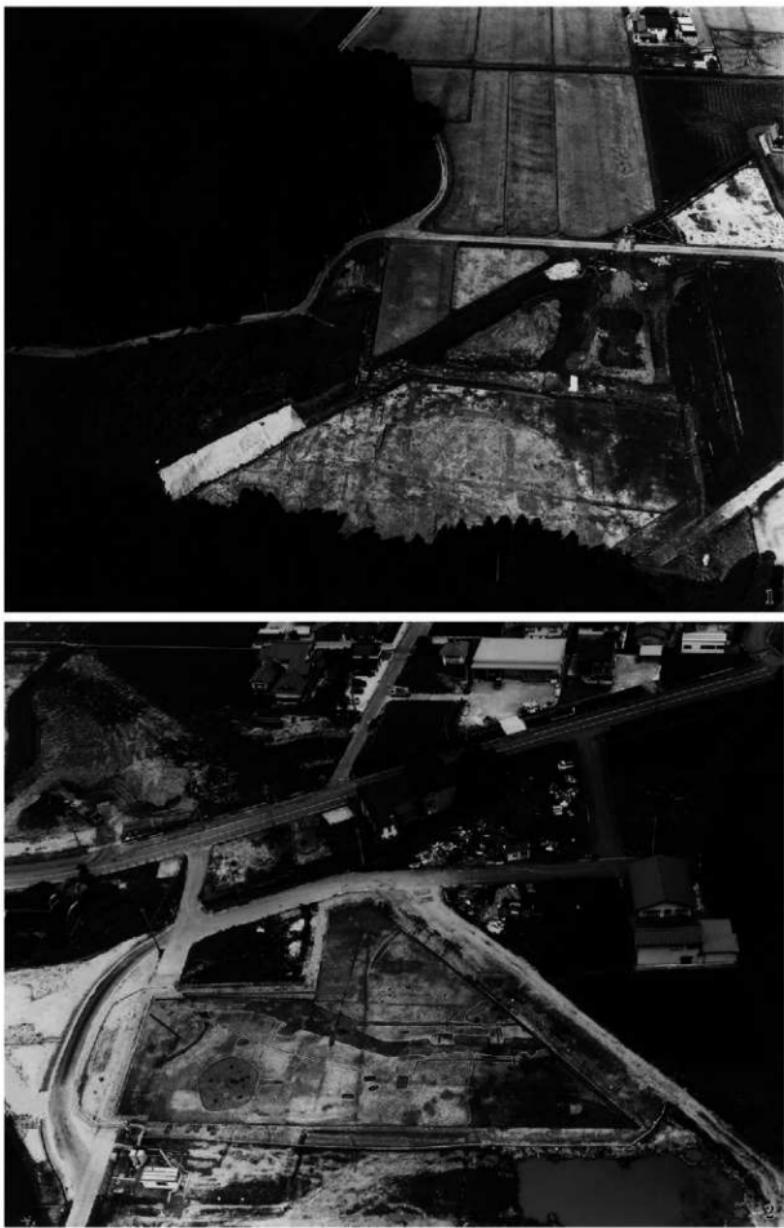
1. 1963年撮影 2. 2003年撮影



航空写真

1. 1963年撮影 2. 2003年撮影

図版6



稲積天坂遺跡 全景

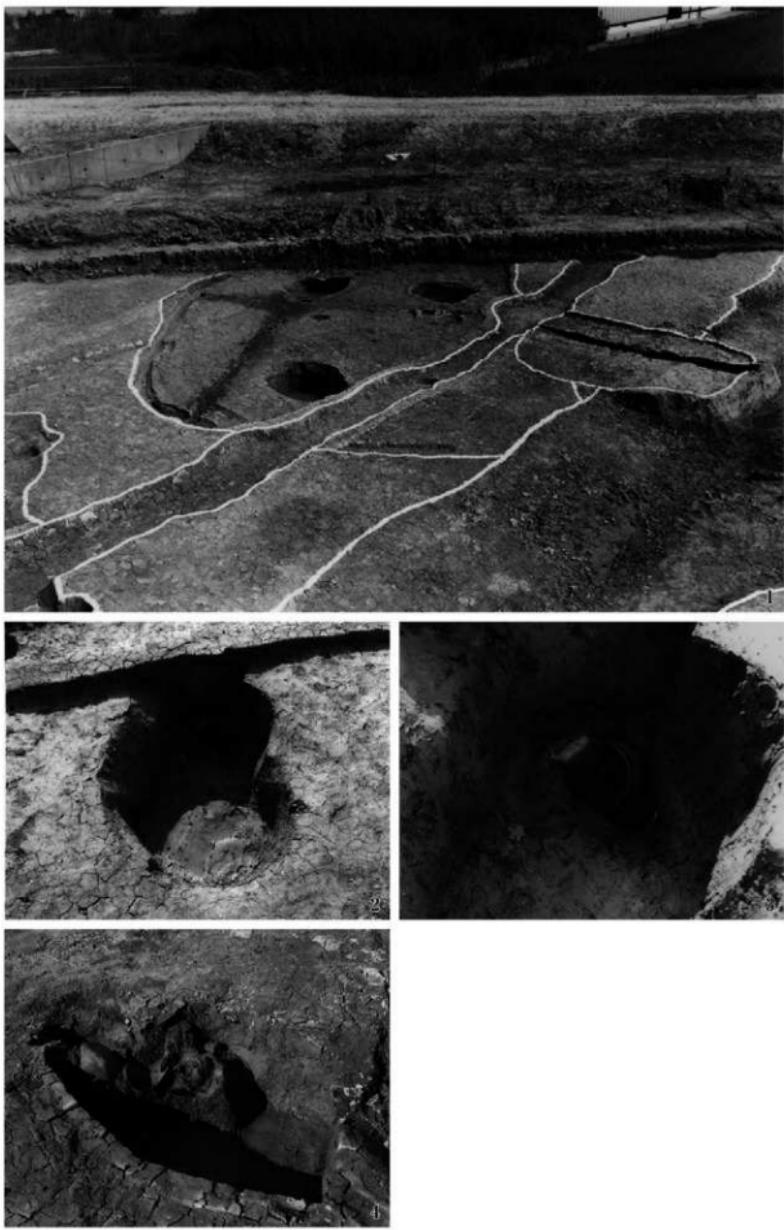
1. A1地区（南から） 2. A2地区（西から）



稲積天坂遺跡 全景（縄文時代）

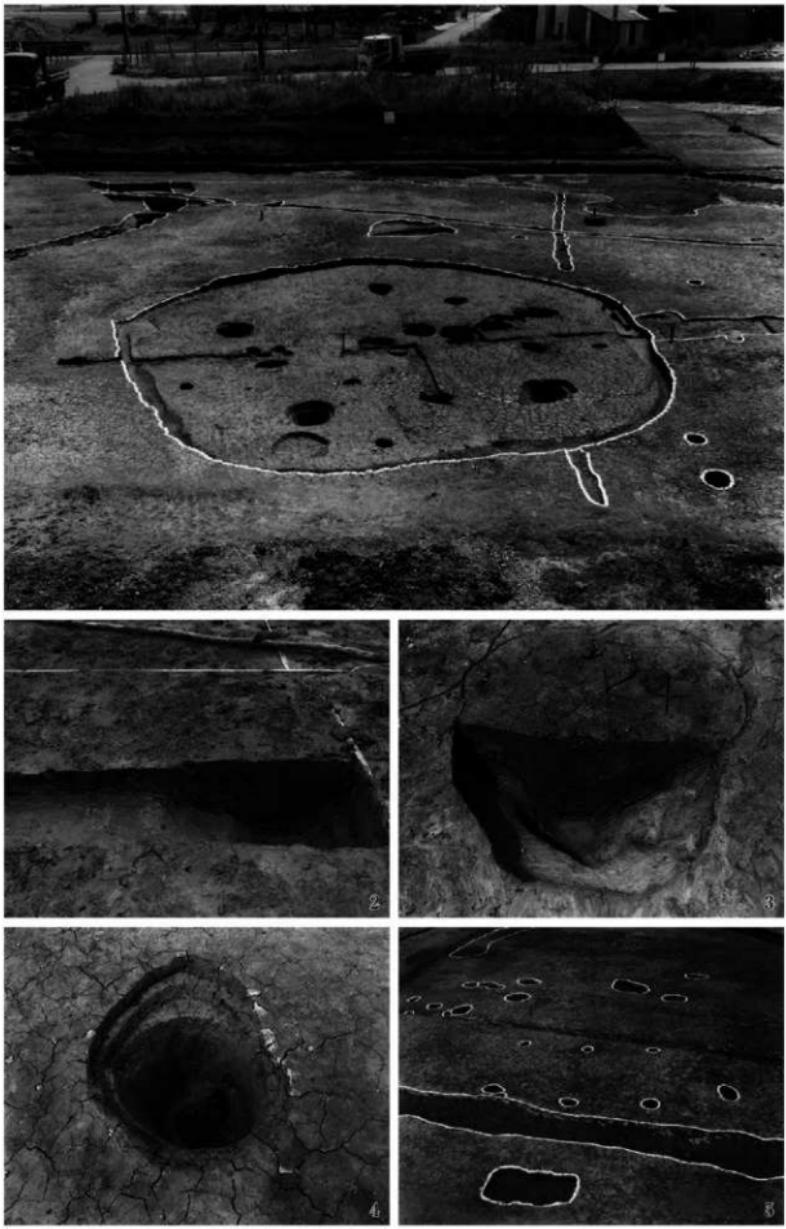
1. B地区（南から） 2. A1地区 SR1（南から） 3. SR1縄文土器出土状況

図版8



稲積天坂遺跡 竪穴建物（弥生時代）

1. SI130 (北西から) 2・3. SI130 K8 (東から) 4. SI130 K2 (西から)



稲積天坂遺跡 積立建物・掘立柱建物（弥生時代）

1. SI153（西から） 2. SI153（北から） 3. SI153 K4（南西から） 4. SI153 K20（東から）
5. SB1（西から）

図版10



稲積天坂遺跡 溝・土坑（弥生時代）

1. SD160（西から） 2. 土坑群（西から）



稲積天板遺跡 挖立柱建物・溝（弥生時代～古代）

1. SD123 (南から) 2. SD1 (南から) 3. SD150 (南から) 4. SB2 (西から) 5. SB2 SP144 (南から)

図版12



稲積天坂遺跡 堀立柱建物・井戸（中世）

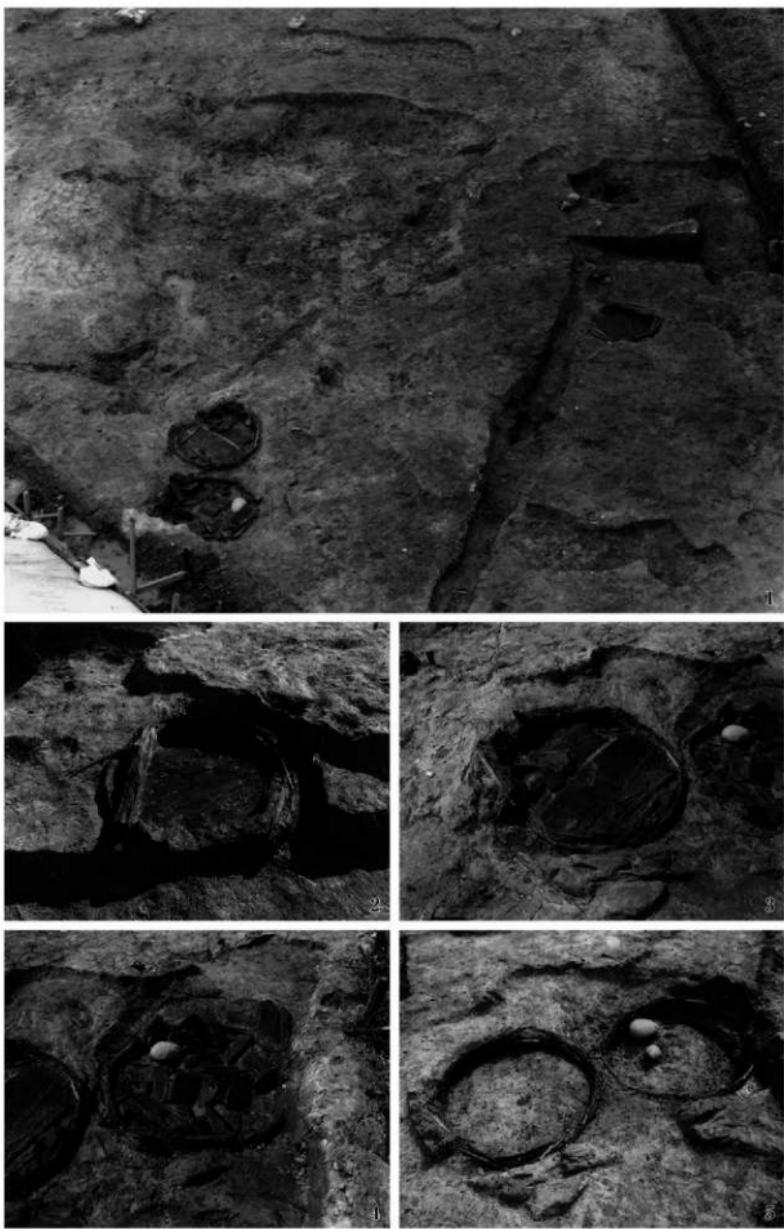
1. SB3 (西から)
2. SB3 SP26 (南東から)
3. SA1 SP17 (東から)
4. SA5 SP67 (北から)
5. SE56断ち割り (南から)



稻積天坂遺跡 井戸・土坑（中世）

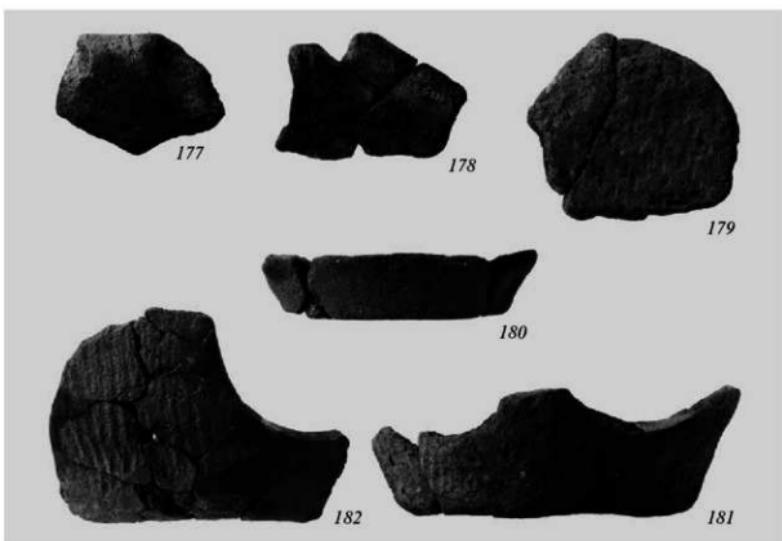
1. SE41・SE46・SK47（東から） 2. SE46断ち割り（東から） 3. SE46（西から） 4. SE46（南東から）

図版14

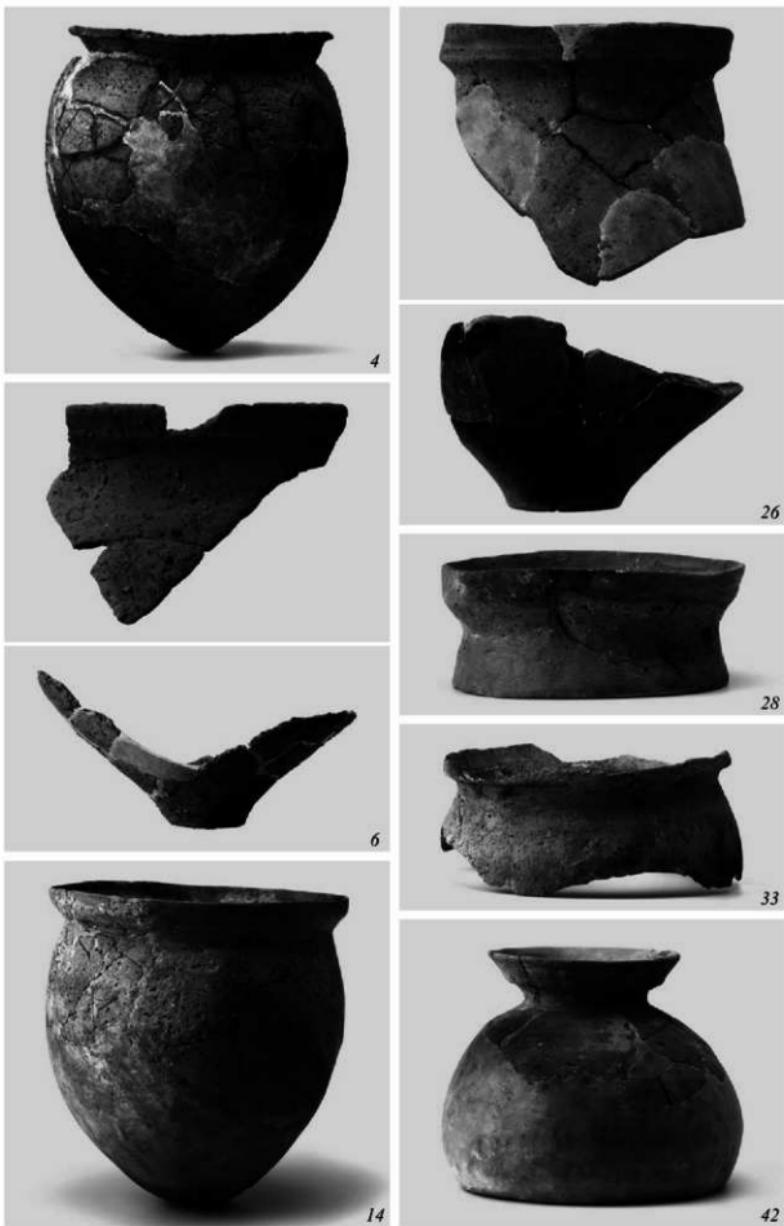


稲積天坂遺跡 土坑（近世）

1. 全景（西から）
2. SK3曲物出土状況（北から）
3. SK58（北から）
4. SK57（北から）
5. SK57・SK58（北から）



稻積天板遺跡 土器
SR1 (I77~182) SI130 (1·3)



稻積天坂遺跡 土器

SI153 (4) SD160 (6 · 14 · 26 · 28 · 33 · 42)



37



51



49



52



50



60

稻積天板遺跡 土器

SD160



61



62



63



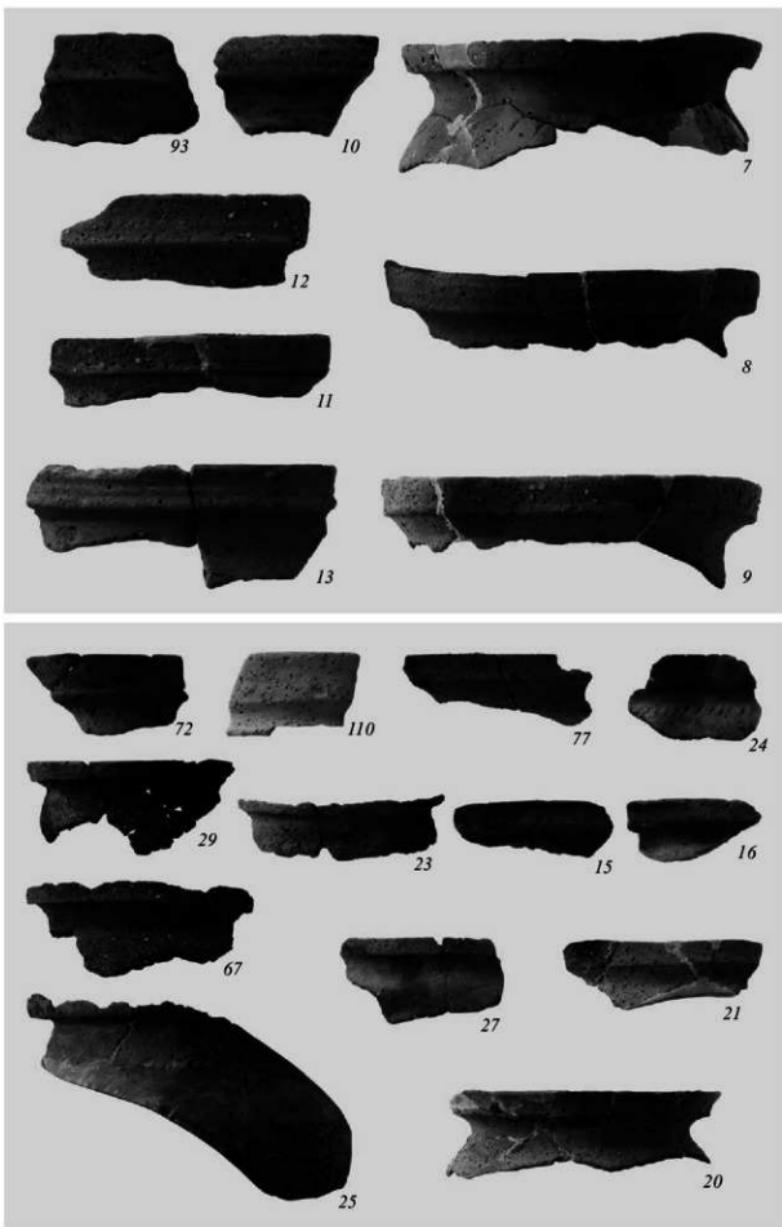
68



70

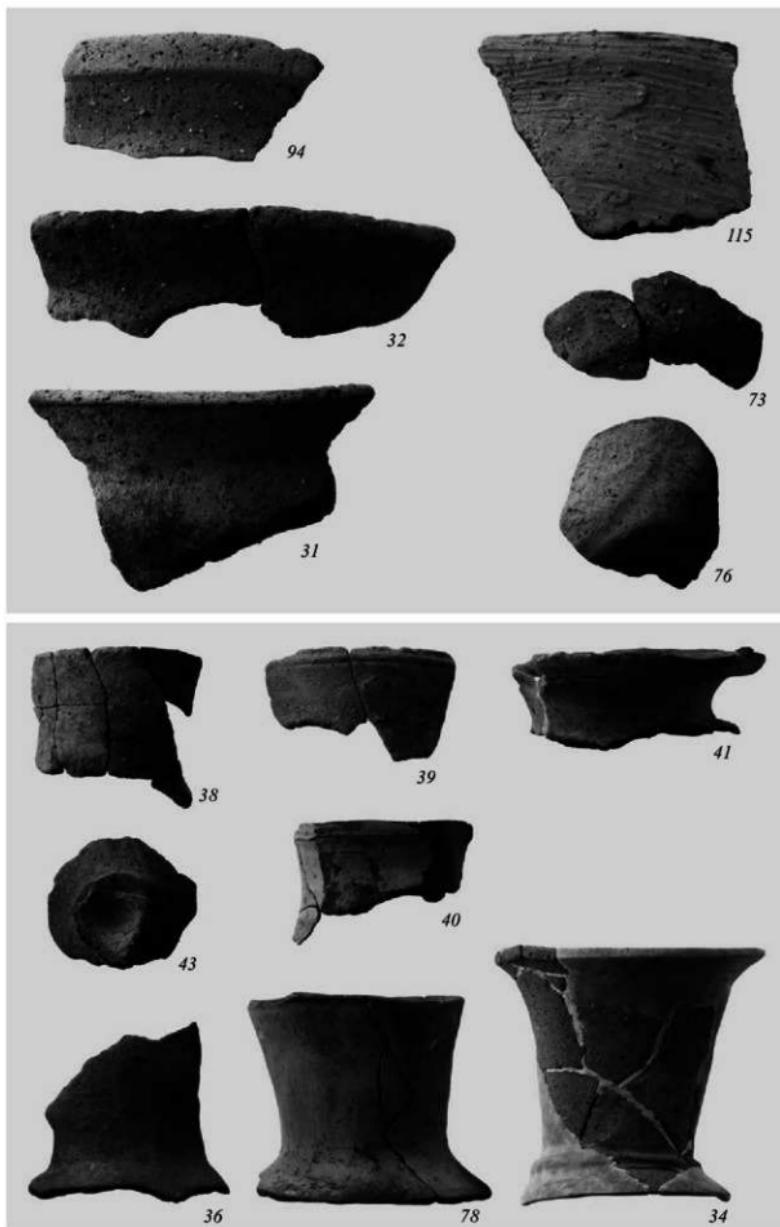
稲積天坂遺跡 土器

SD160 (61~63) SD162 (68・70)



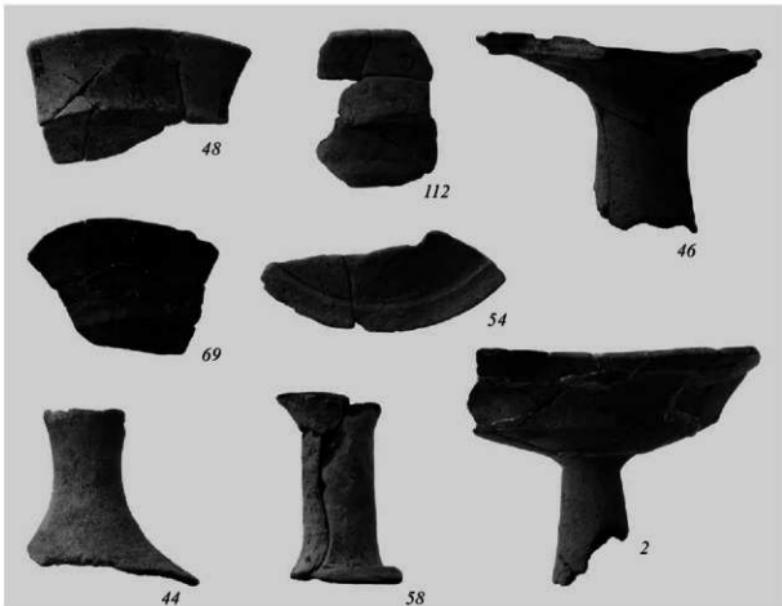
稲積天板遺跡 土器

SD1 (77) SD123 (93) SD160 (7~13・15・16・20・21・23~25・27・29) SD162 (67) SD201 (110)
SK107 (72)



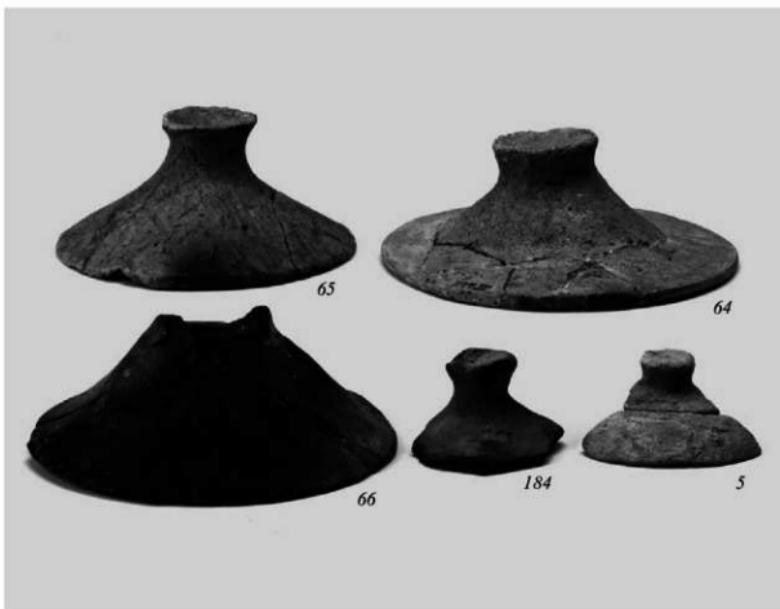
稲積天板遺跡 土器

SD1 (78) SD123 (94) SD160 (31・32・34・36・38~41・43) SD208 (115) SK108 (73)
SK167 (76)



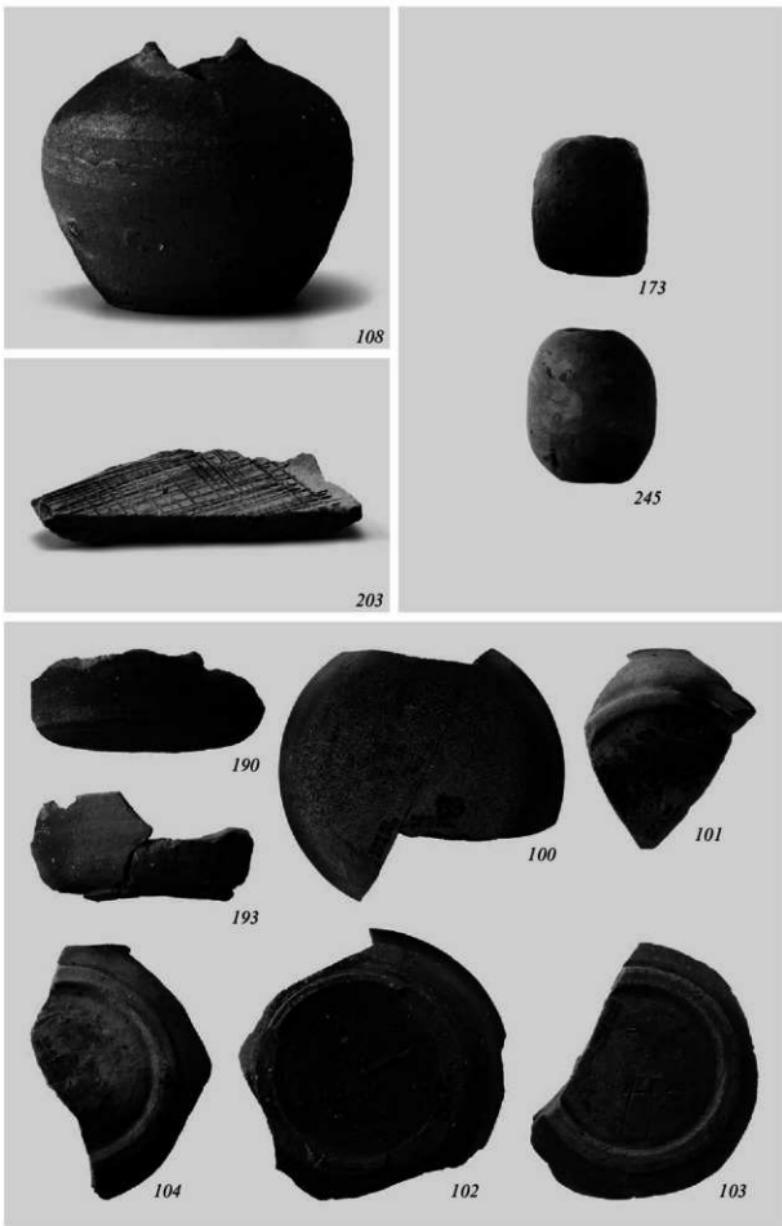
稲積天板遺跡 土器

SI130 (2) SD160 (44~48・54~58) SD162 (69) SD201 (112)



稲積天坂遺跡 土器

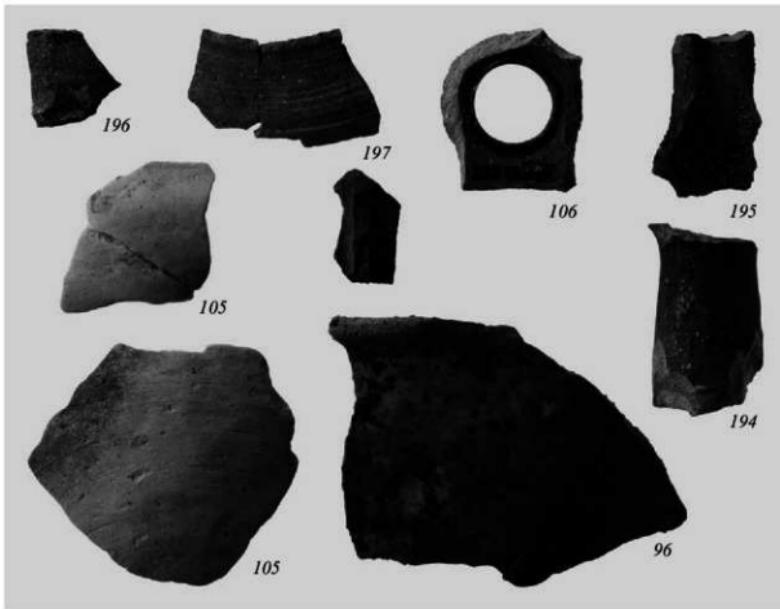
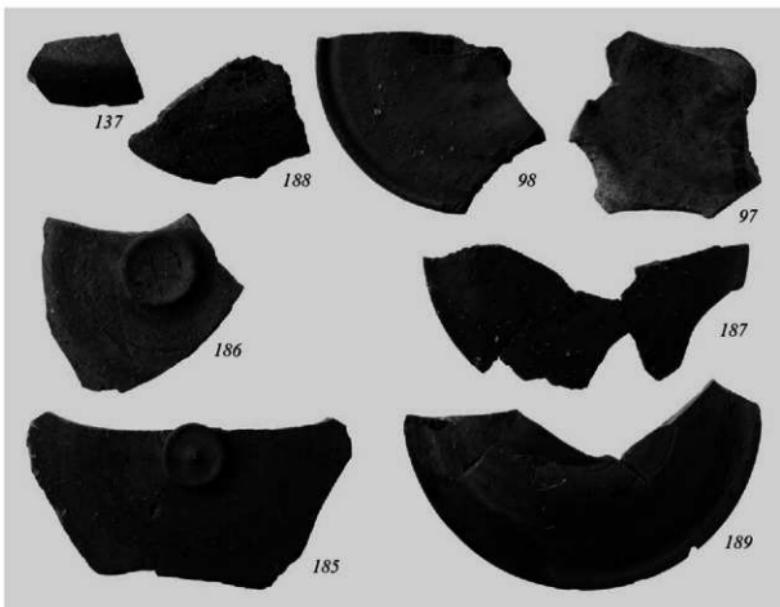
SI153 (5) SD1 (79) SD123 (99・107) SD160 (64～66) 包含層



稲積天板遺跡 土器・土製品

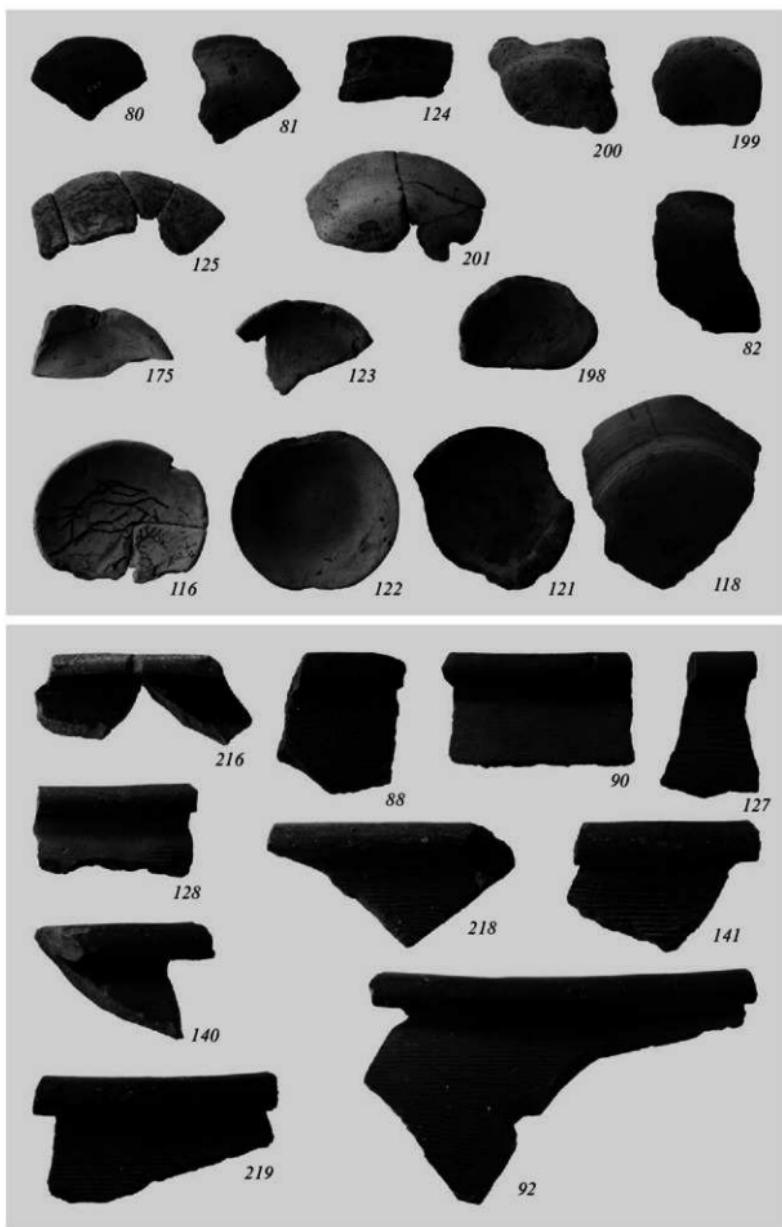
SD123 (I00~I04) SD123・SD154 (I08) SG34 (I73) 包含層

図版24



稲積天坂遺跡 土器・土製品

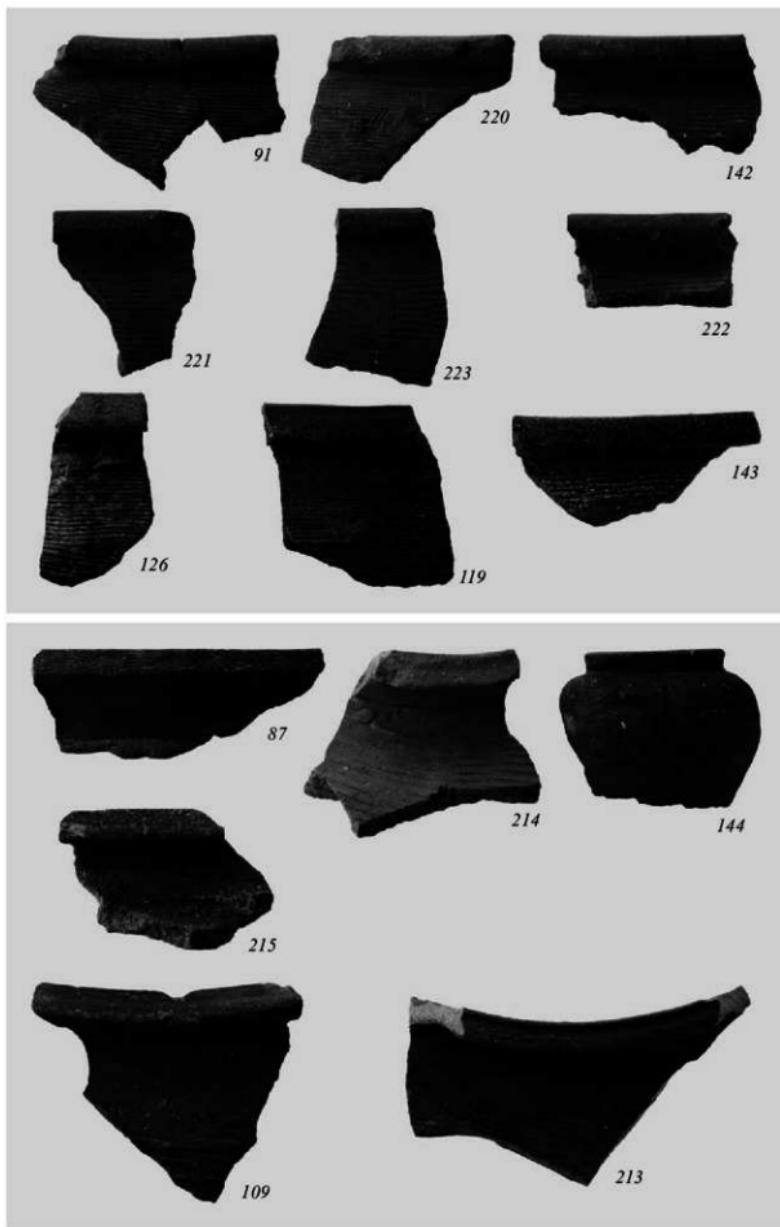
SD123 (97・98・105・106) SD123・SD201 (96) SX2 (137) 包含層



稲積天板遺跡 土器

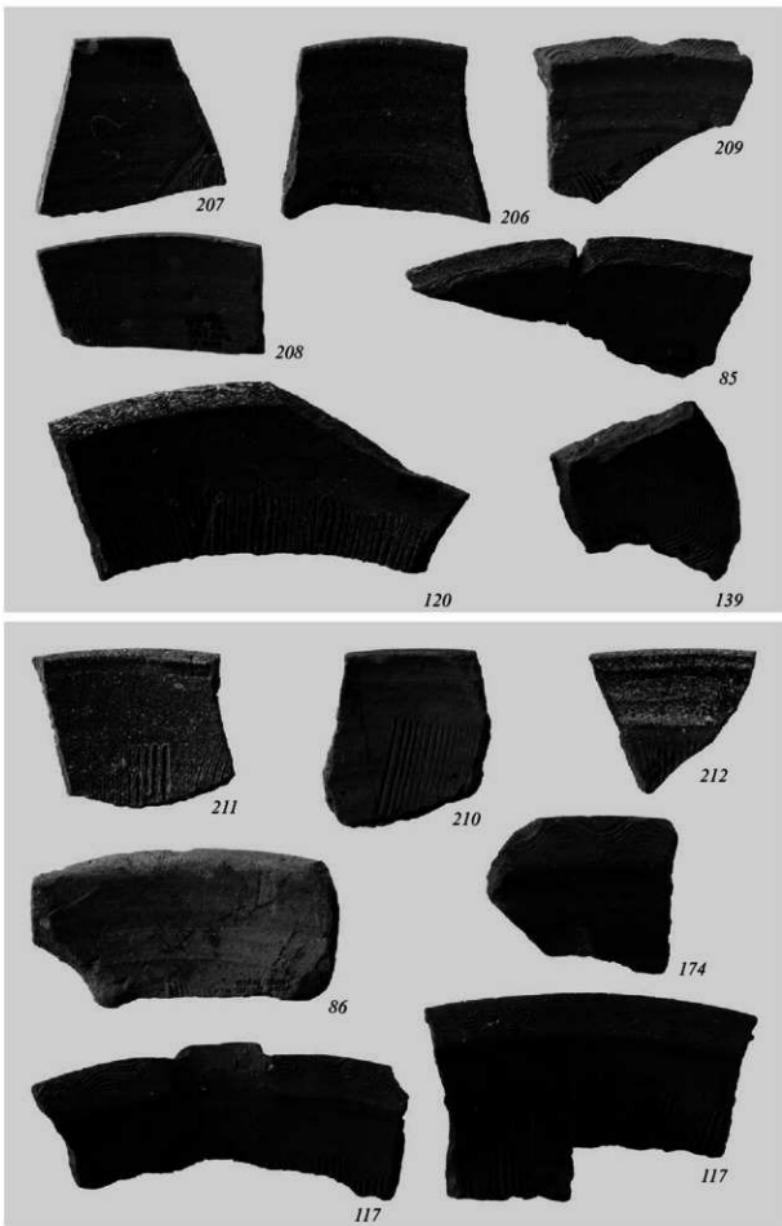
SD1 (80~82・88・90・92) SD7 (128) SE14 (116) SE46 (118) SE56 (121~125・127)
SX2 (140・141) SG55 (175) 包含層

図版26



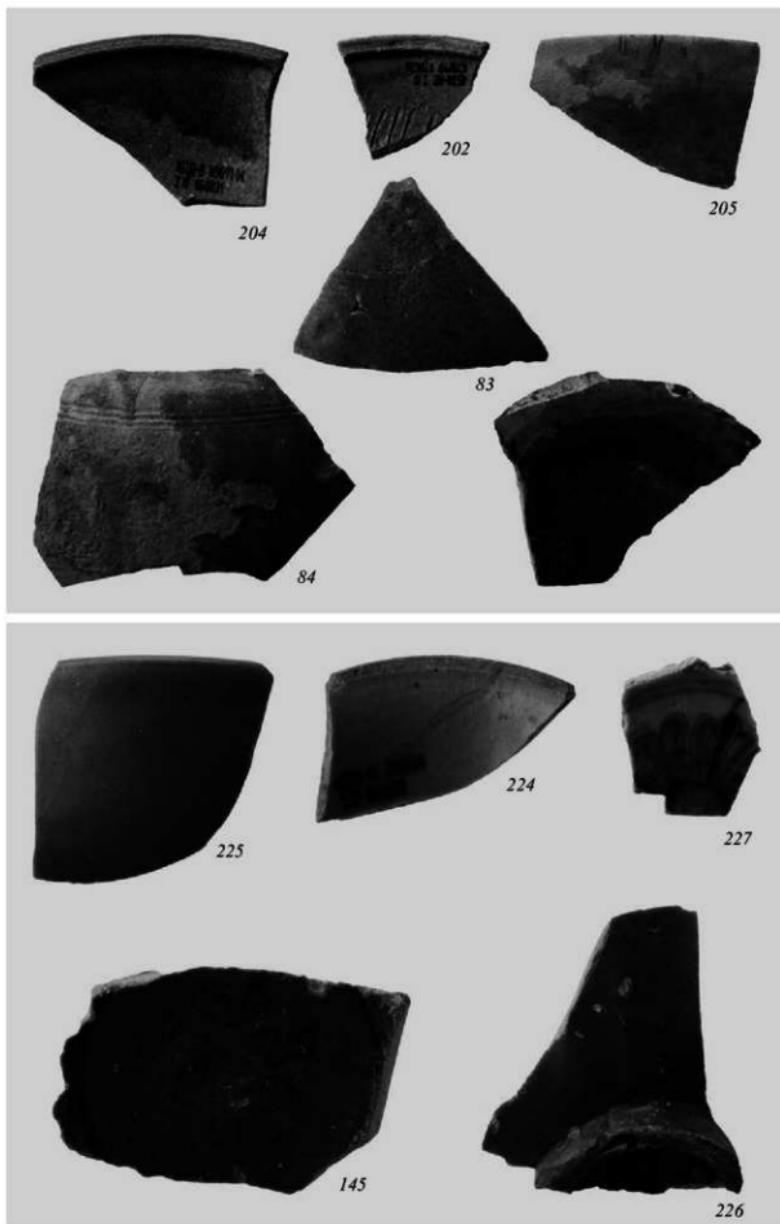
稲積天坂遺跡 土器

SD1 (87・91) SD123 (109) SE46 (119) SE56 (126) SX2 (142~144) 包含層



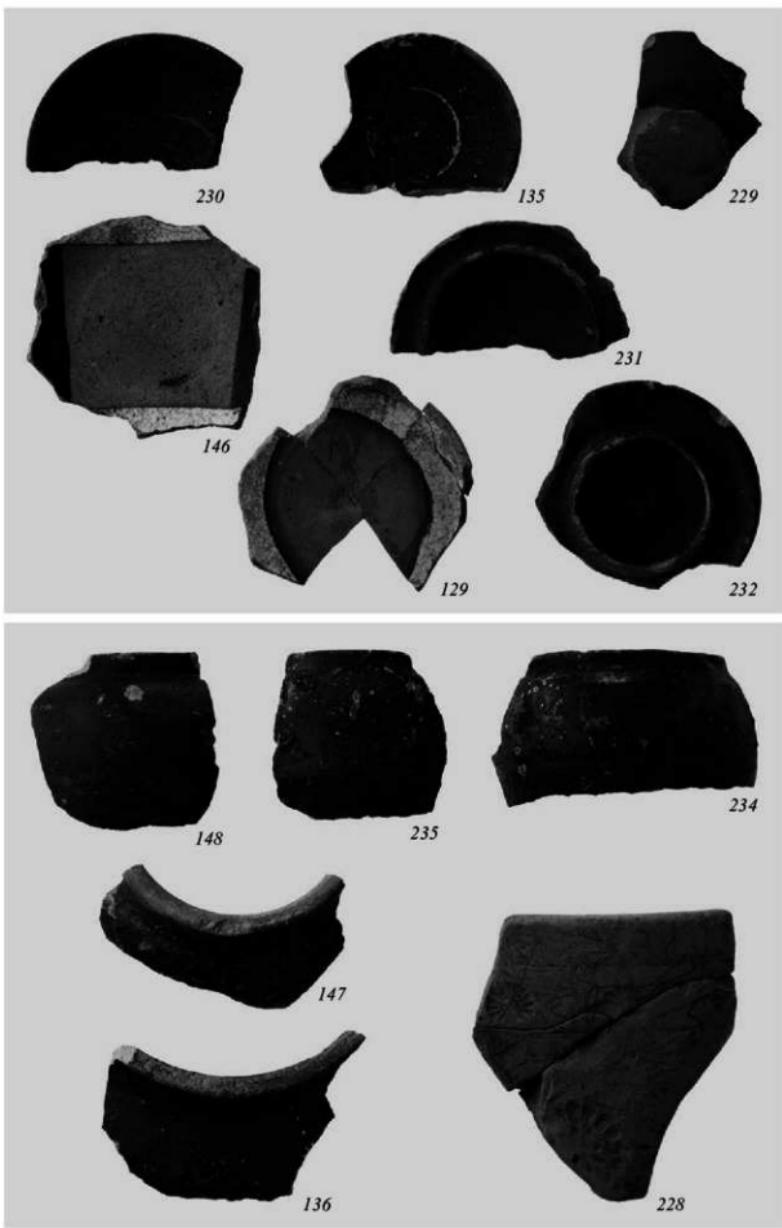
稲積天板遺跡 土器

SD1 (85・86) SE41 (117) SE46 (120) SX2 (139) SG34 (174) 包含層



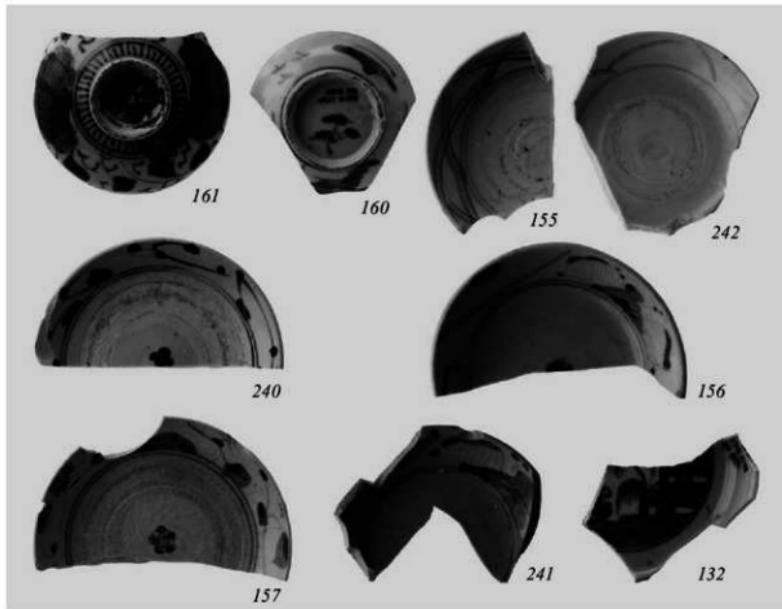
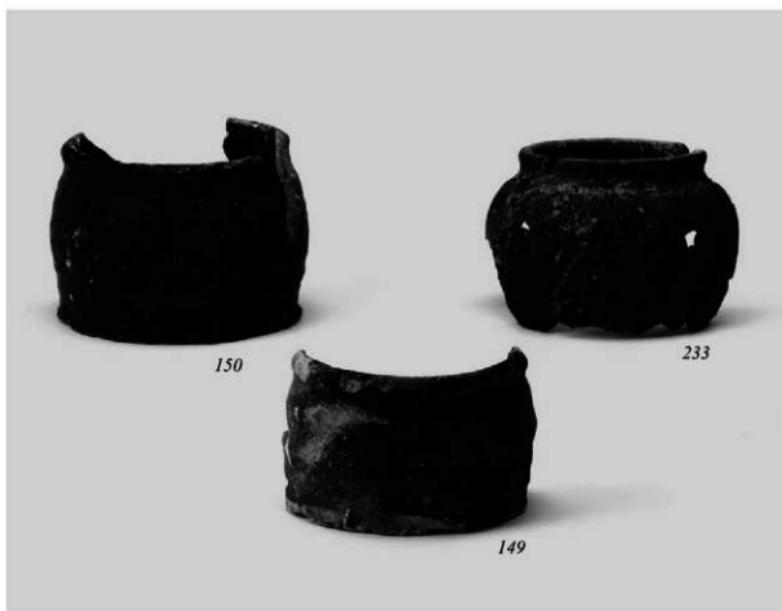
稲積天坂遺跡 陶磁器

SD1 (83・84) SX2 (145) 包含層



稻積天板遺跡 陶磁器

SD7・SD8・SX2 (129) SD51 (135・136) SX2 (146～148) 包含層



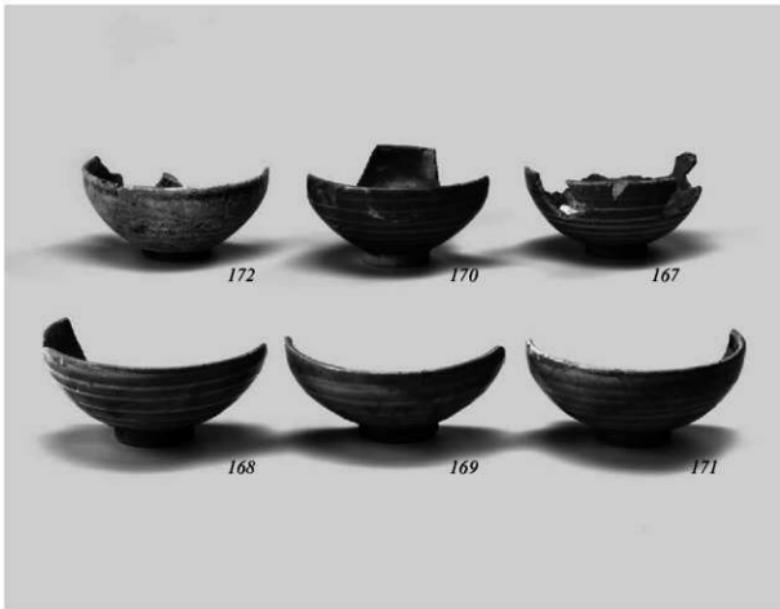
稲積天坂遺跡 陶磁器

SD7 (132) SX2 (149・150・155~157・160・161) 包含層



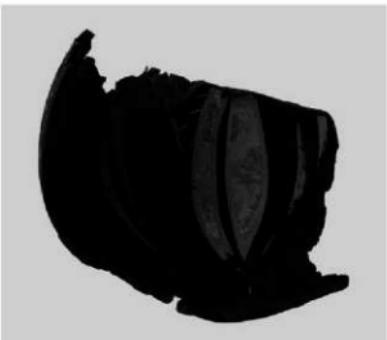
稻積天板遺跡 陶磁器

SD7・SD8 (151) SX2 (151~154・158・159・163) 包含層



稲積天坂遺跡 陶磁器

SD7・SD8 (130) SX2 (164~172) SG55 (176)



246



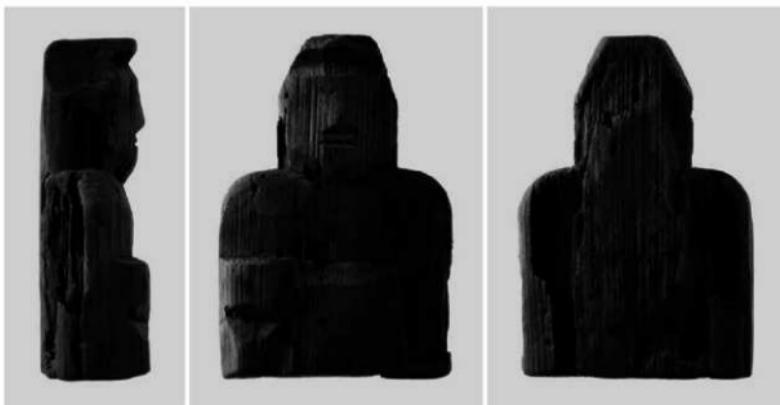
247



248

稲積天板遺跡 木製品

SE22 (247) SE56 (246・248)

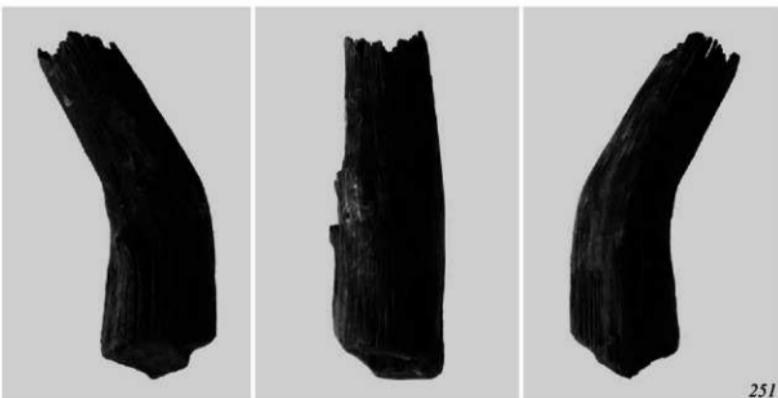


249



250

稲積天坂遺跡 木製品
SE46 (249) SG55 (250)



251



252



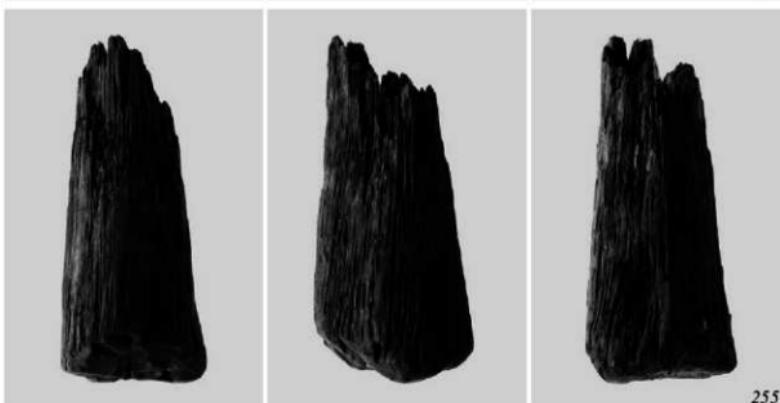
253

稲積天板遺跡 木製品

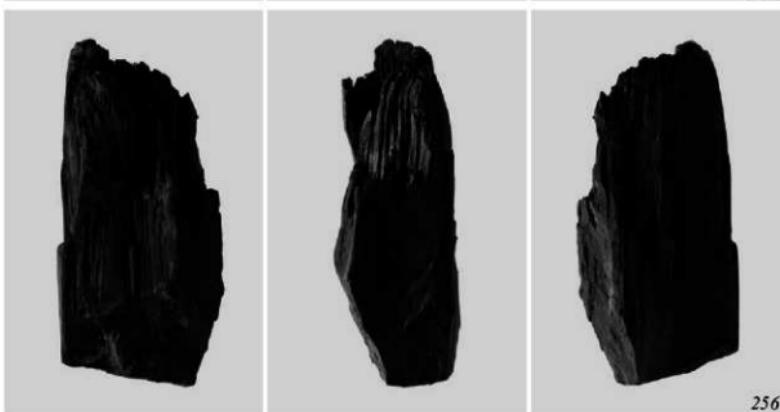
SB3 SP26 (253) SA1 SP17 (251) SP39 (252)



254



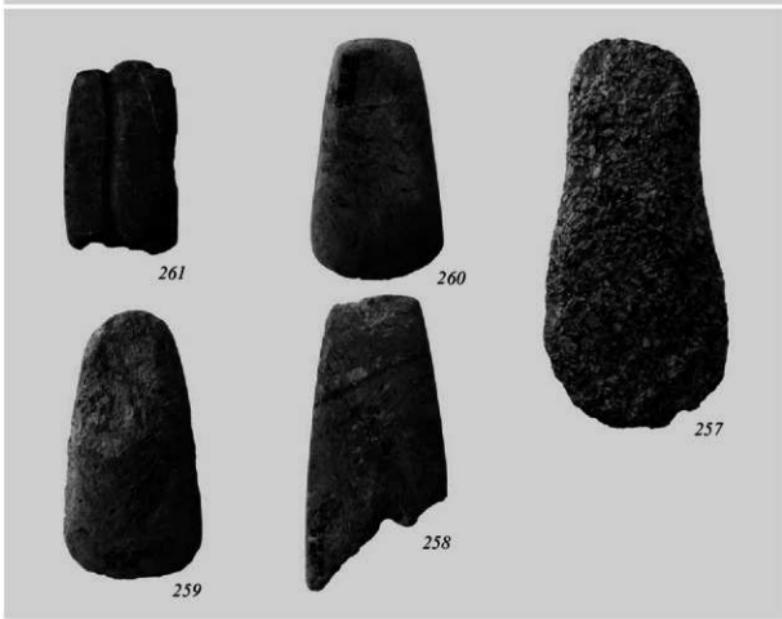
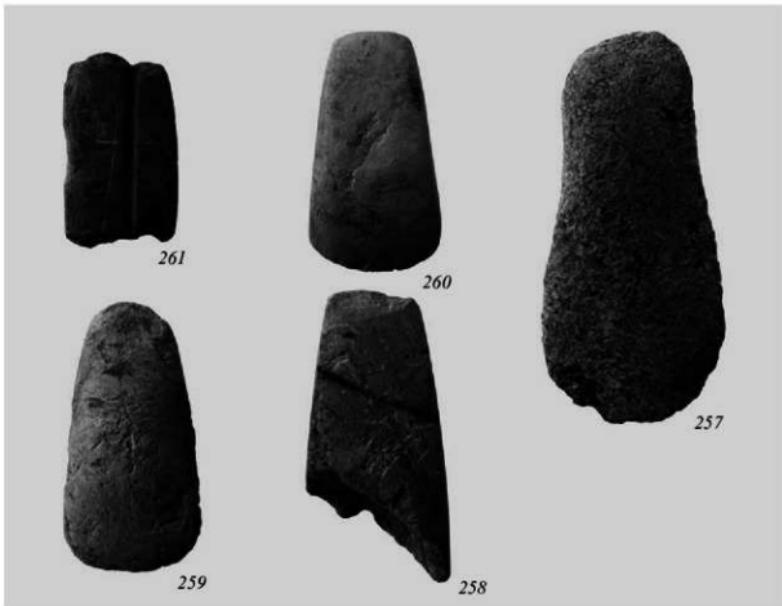
255



256

稲積天坂遺跡 木製品

SA4 SP61 (255) SA5 SP67 (256) SP32 (254)



稻積天板遺跡 石製品
SX2 (260・261) 包含層



259



260



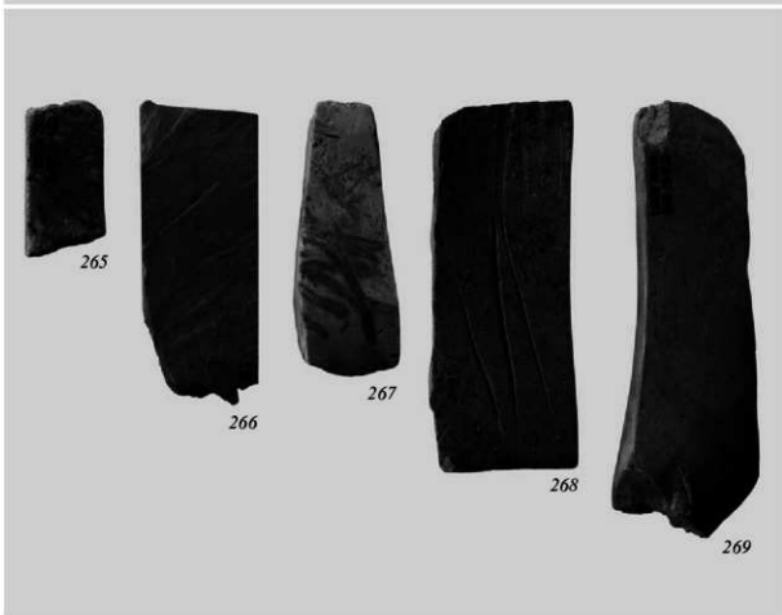
270



274

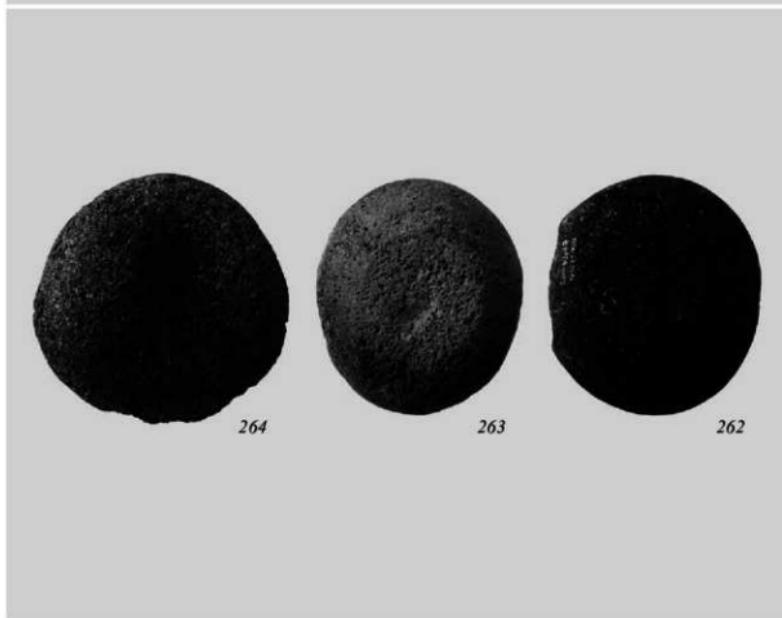
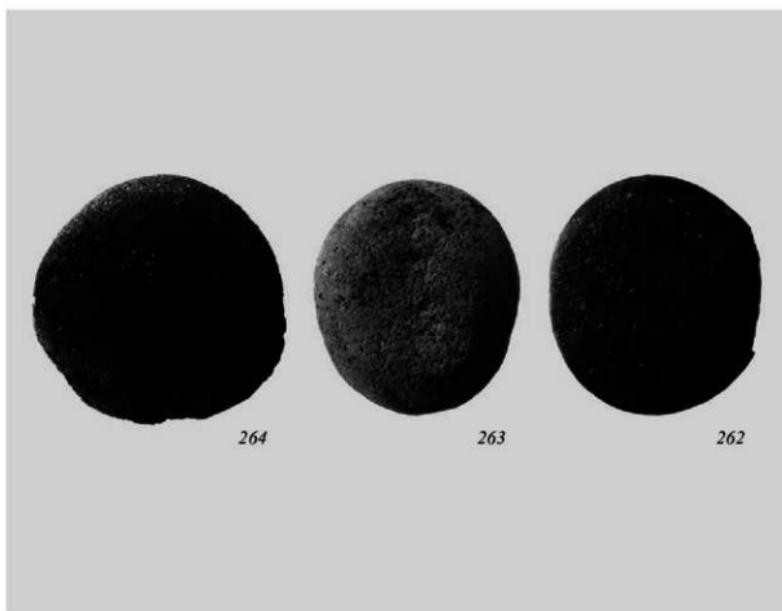
稲積天坂遺跡 石製品

SI130 (270) SK9 (274) SX2 (260) 包含層

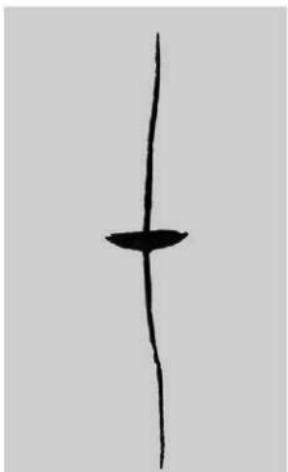


稲積天板遺跡 石製品

SD123 (267) SD212 (266) SE46 (269) SX2 (265) 包含層



稲積天坂遺跡 石製品
SD123 (263) SE46 (262) SK9 (264)



275



276

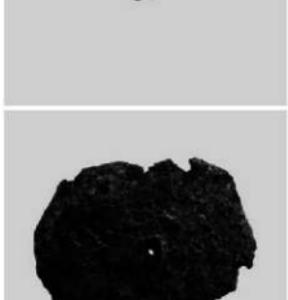


277



278

279



276



278

279

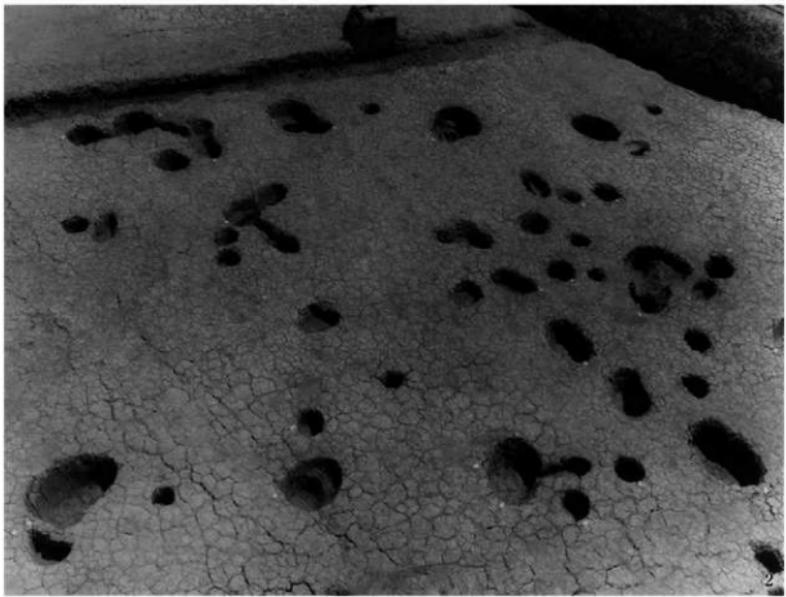
稲積天板遺跡 金属製品

SD208 (275・277・278) 包含層



稲積天坂北遺跡 全景

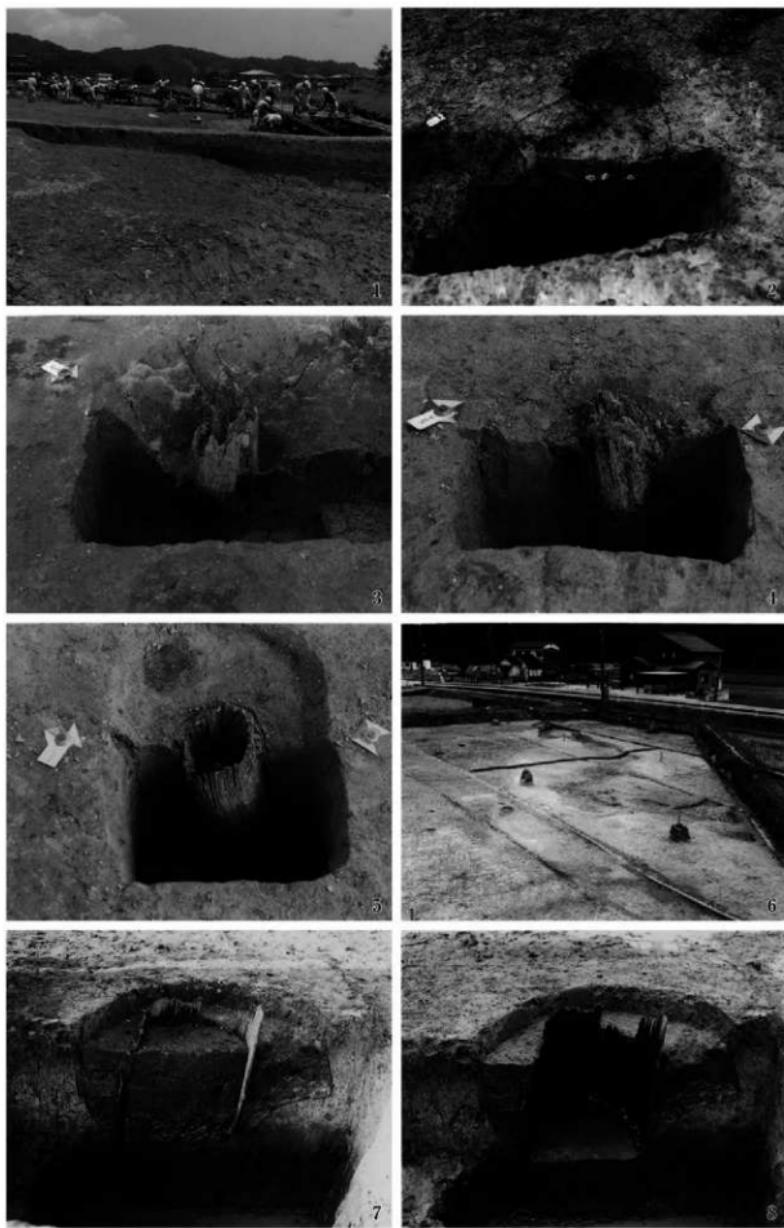
1. A地区（西から） 2. A地区・B1地区（南東から）



稲積天坂北遺跡 挖立柱建物

1. SB1 (西から) 2. SB5 (西から)

図版44



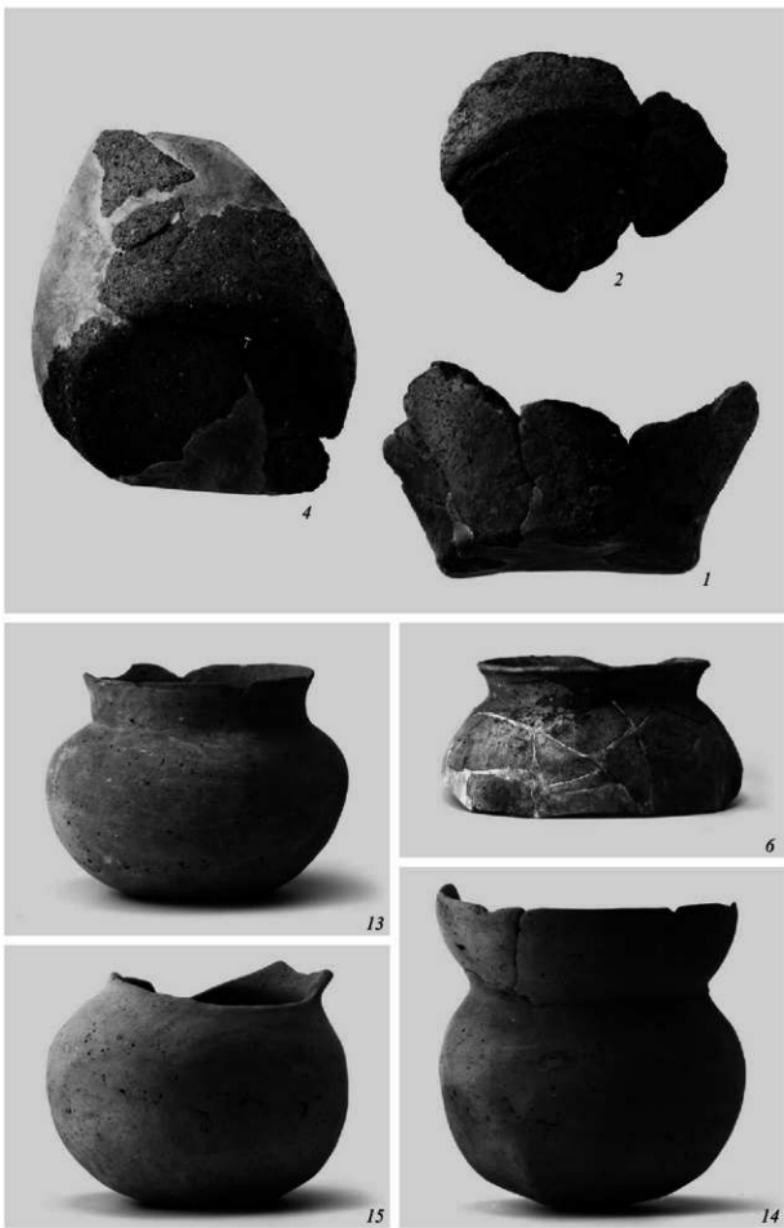
稲積天坂北遺跡 溝・土坑・柱穴・井戸

1. SD50 (西から) 2. SK709 (西から) 3. SP578 (南東から) 4. SP585 (南から) 5. SP588 (南西から)
6. SD717 (北東から) 7・8. SE716 (南から)



稲積天板北遺跡 挖立柱建物・柱穴・溝・土坑

1. B2地区全景（北から）
2. SP804（西から）
3. SP805（西から）
4. SD850（南から）
5. SK849（南から）



稲積天坂北遺跡 土器

SD50 (6・13-15) SK709 (1) 包含層



稲積天板北遺跡 土器

SD50 (16・27・33・40) SD717 (60・63・69・70)



106



115



107



142



112



113

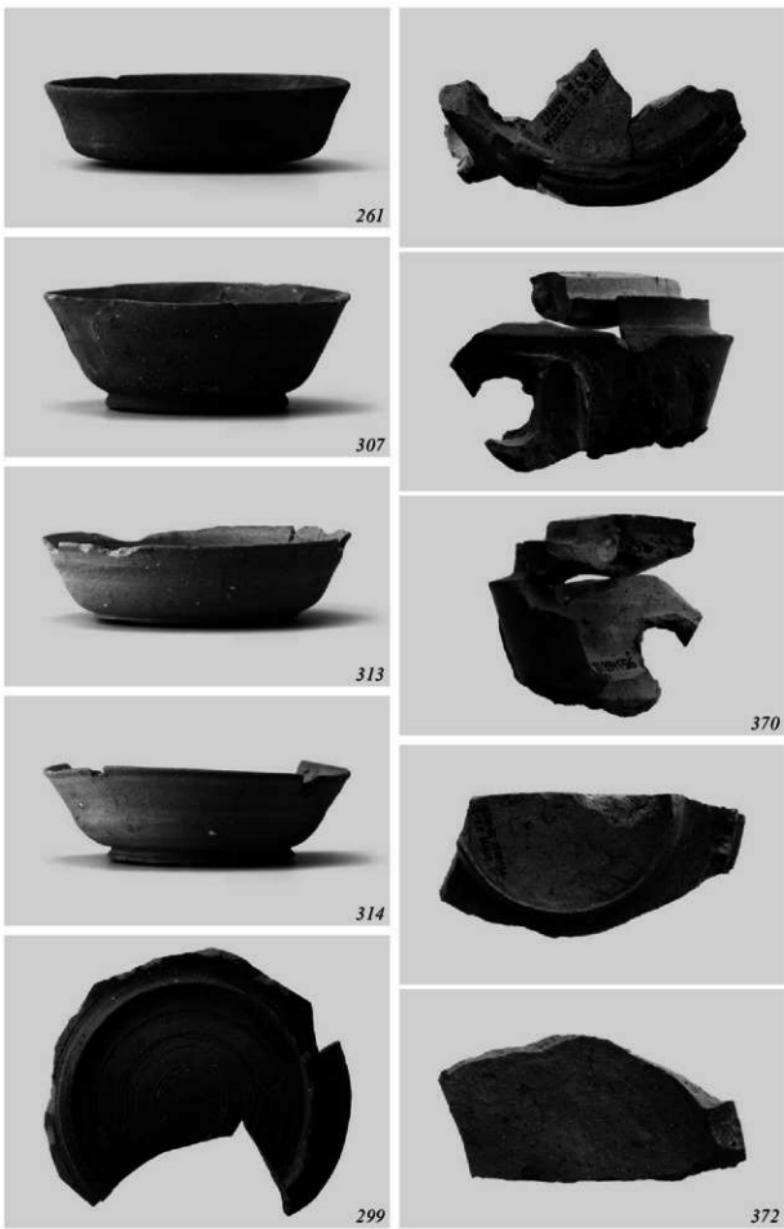
稻積天坂北遺跡 土器

SD717 (106・107・112・113・115) SD850 (142)



稻積天坂北遺跡 土器

包含層



稲積天坂北遺跡 土器
包含層



384



399



395



441

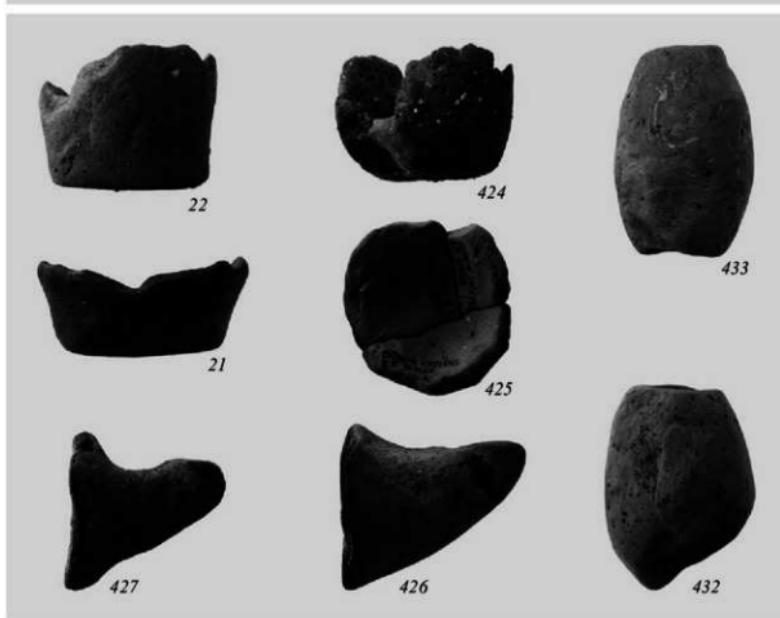
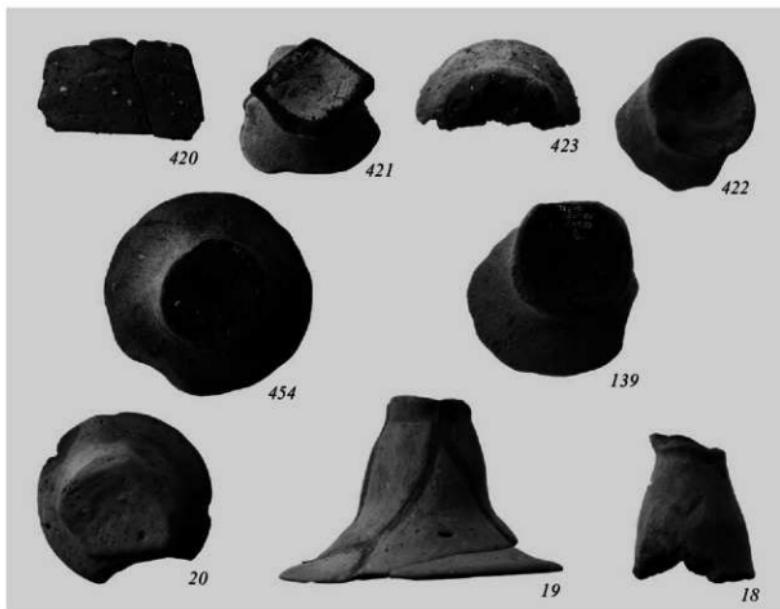


398



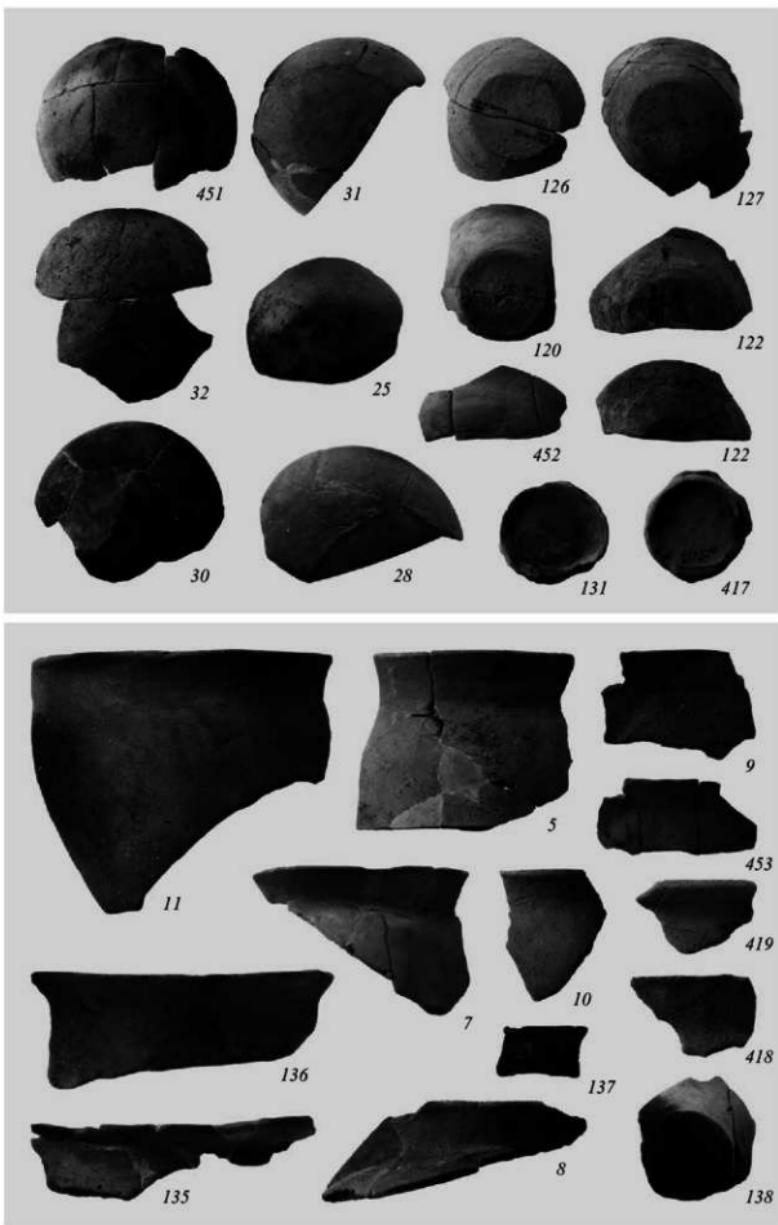
442

稻積天坂北遺跡 土器
SD200 (441・442) 包含屑



稲積天坂北遺跡 土器・土製品

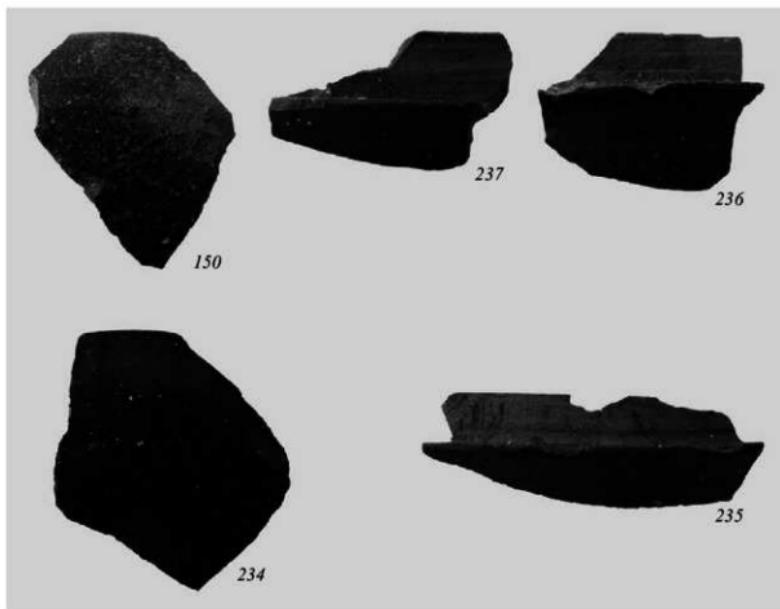
SD50 (18~22) SD200 (454) SD717 (139) 包含層



稲積天板北遺跡 土器

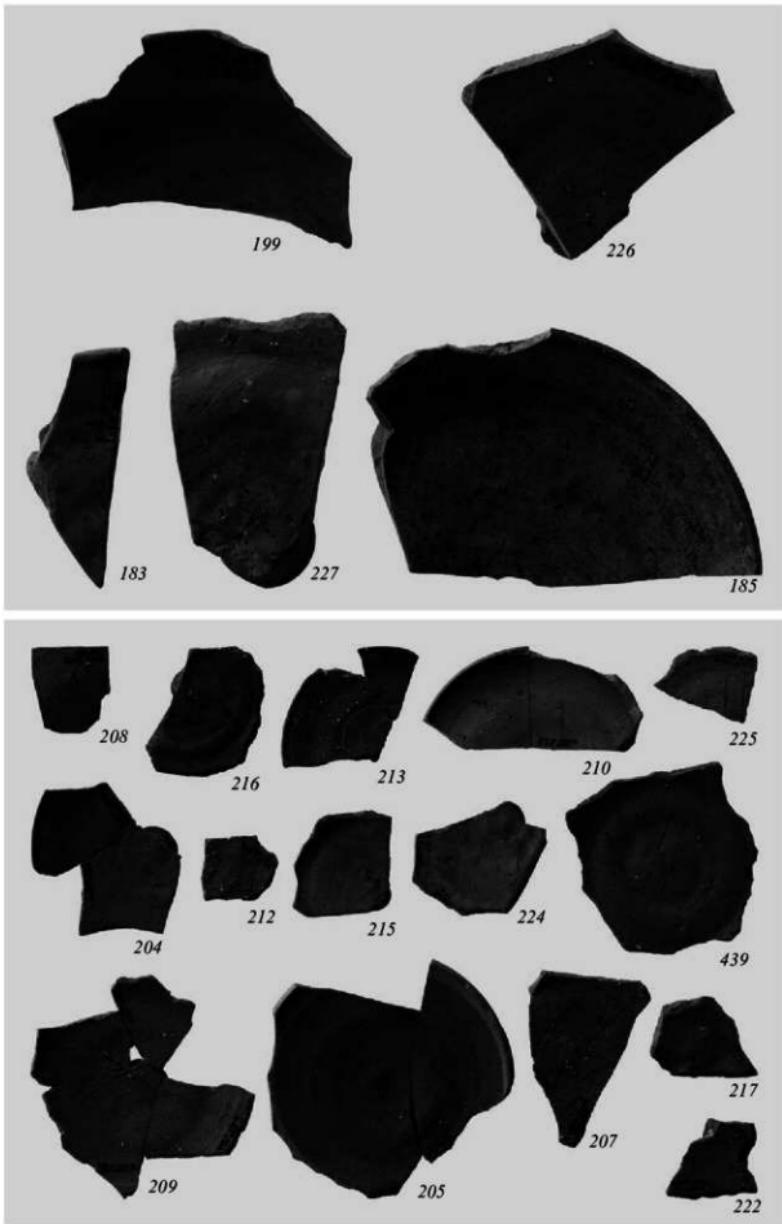
SD50 (5・7~11・25・28・30~32) SD200 (451~453) SD717 (120・122・126・127・131・135~138)
包含層

図版54



稲積天坂北遺跡 土器

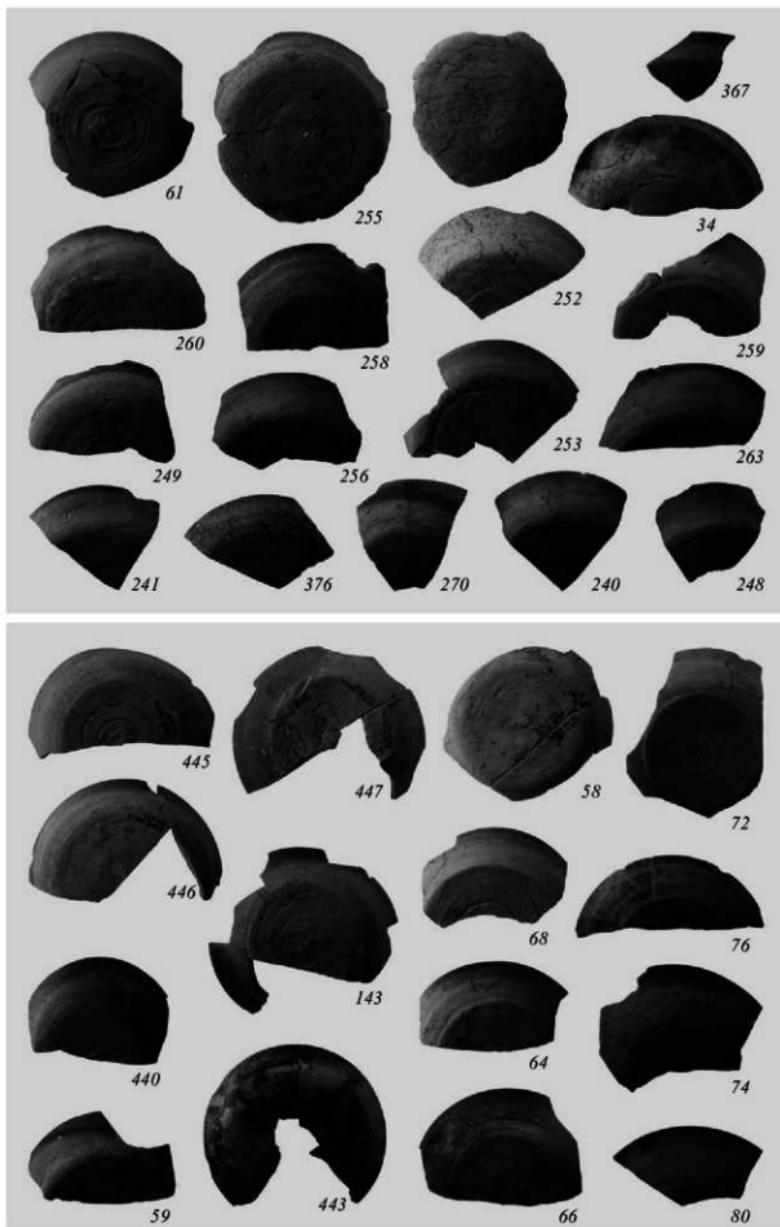
SD50 (38) SD717 (50~52) 包含層



稲積天板北遺跡 土器

SD200 (439) 包含層

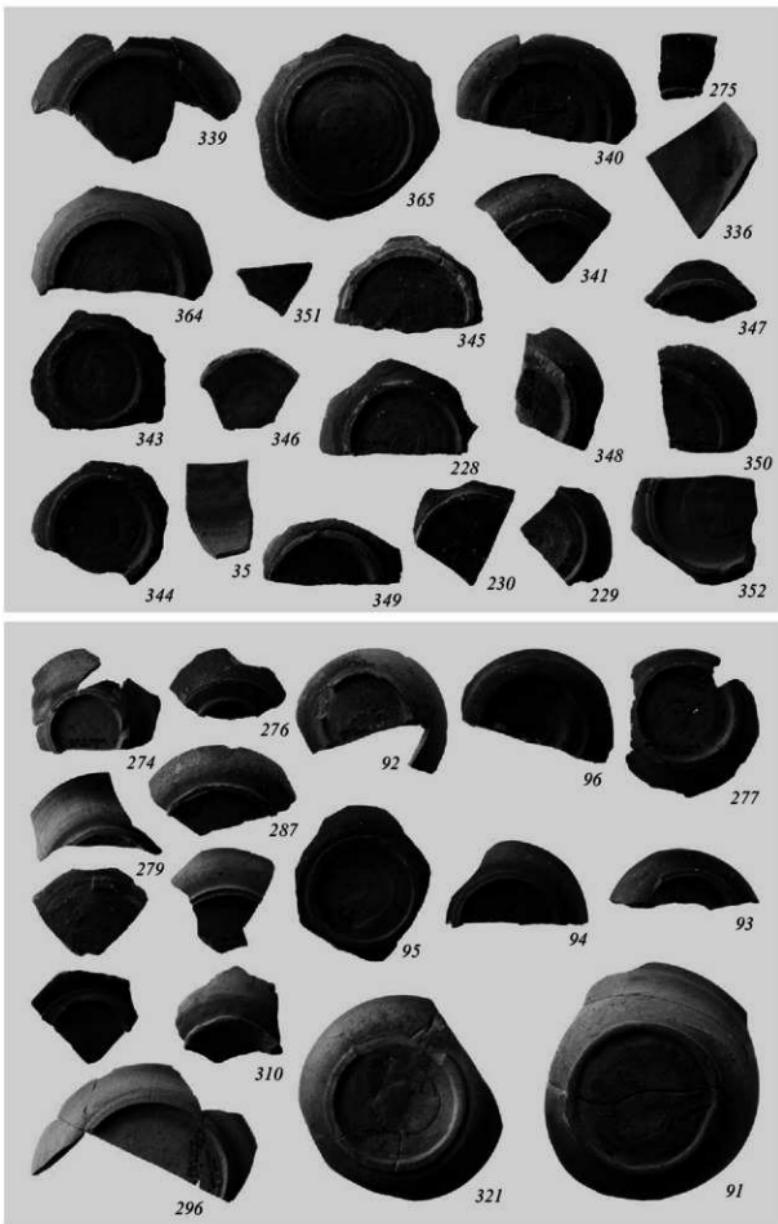
図版56



稻積天坂北遺跡 土器

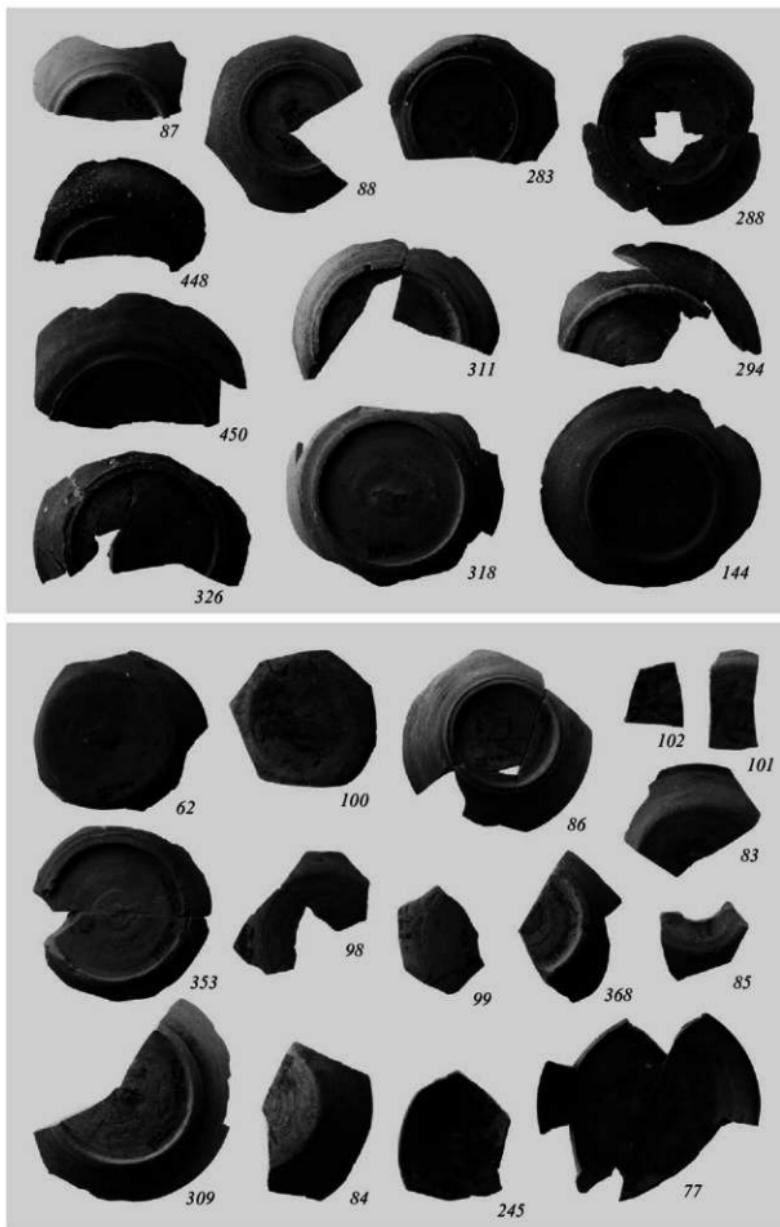
SD50 (34) SD200 (440・443・445～447) SD717 (58・59・61・64・66・68・72・74・76・80)

SD850 (143) 包含層



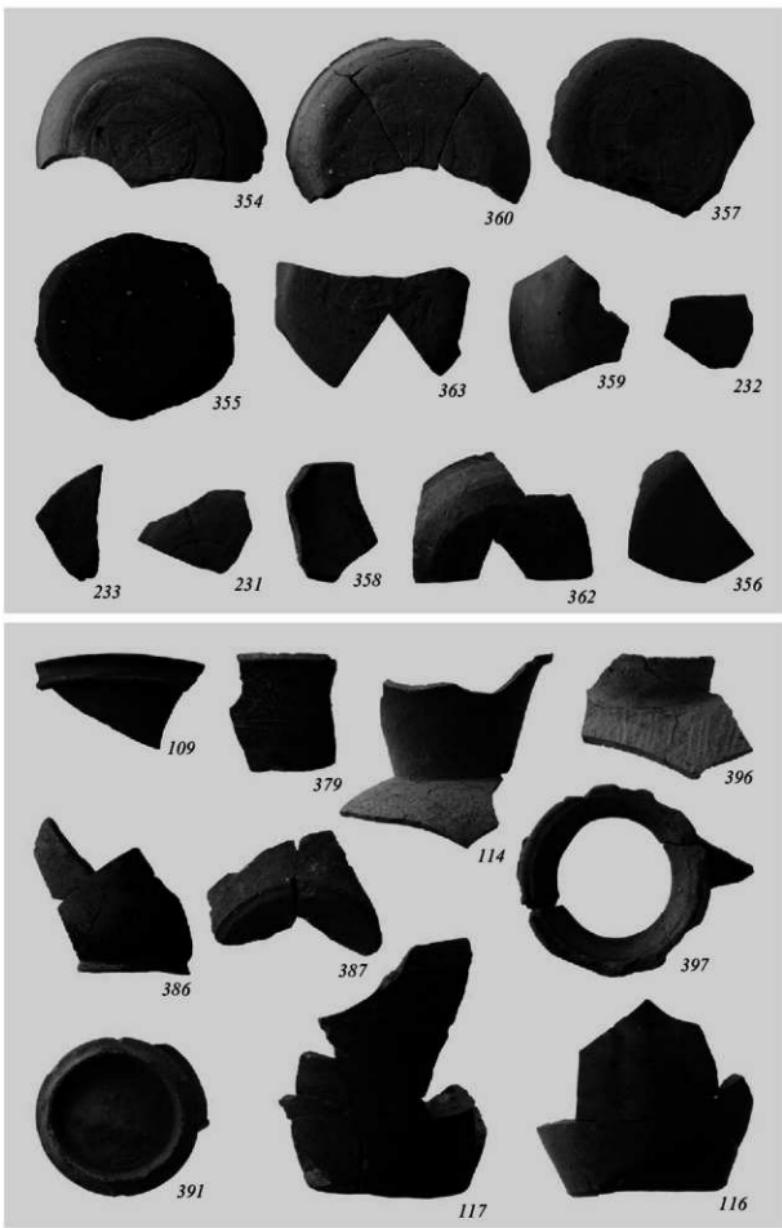
稲積天坂北遺跡 土器

SD50 (35) SD717 (91~96) 包含層

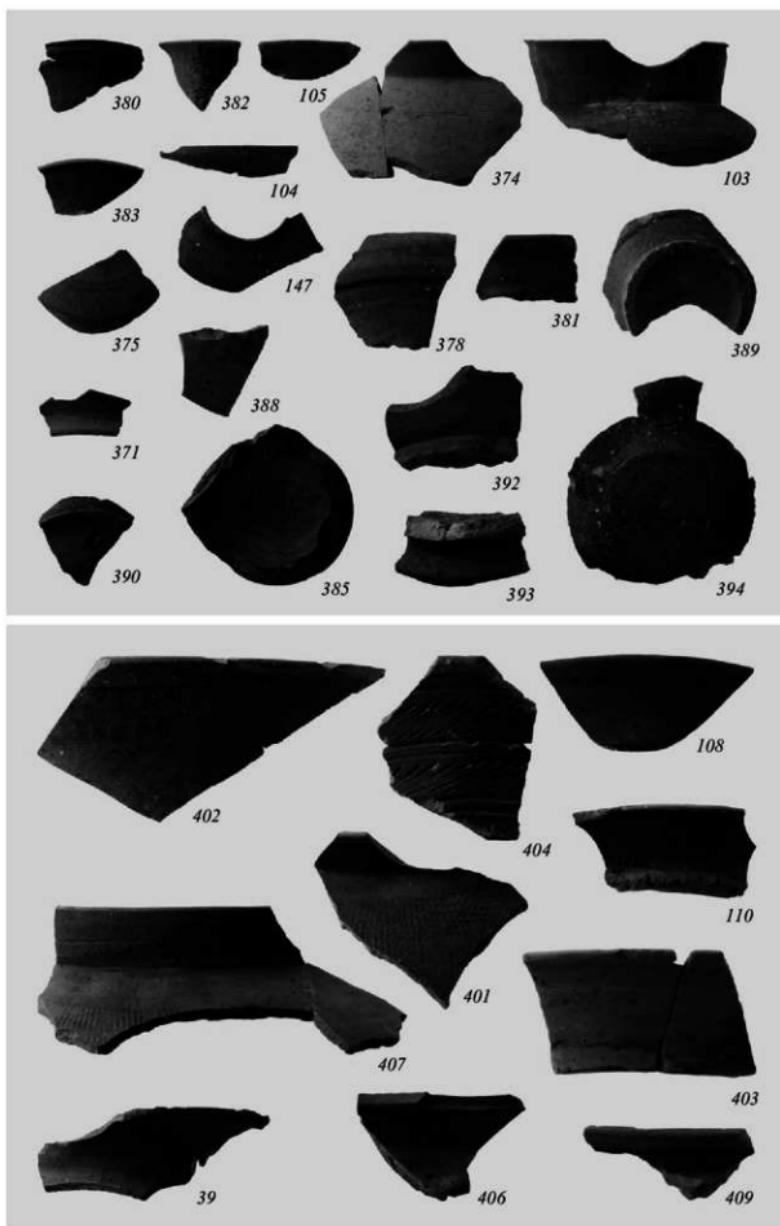


稲積天坂北遺跡 土器

SD200 (448・450) SD717 (62・77・83~88・98~102) SD850 (144) 包含層

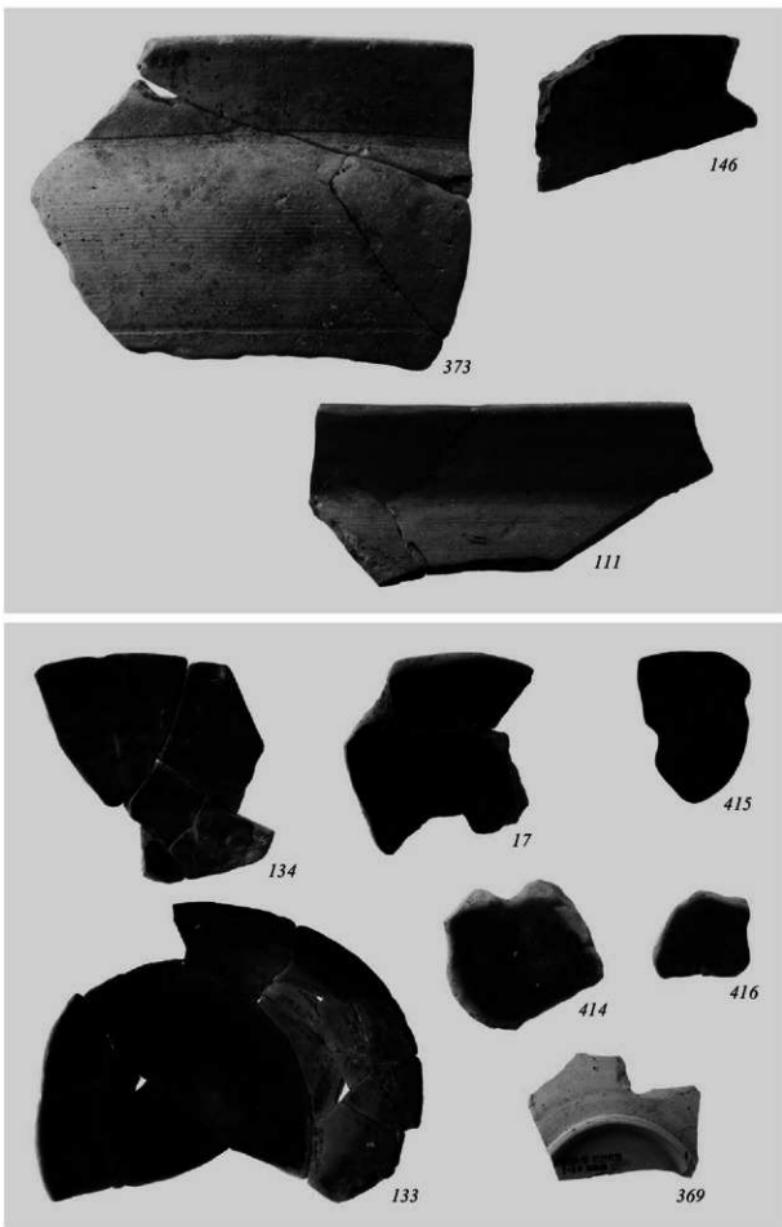


稲積天坂北遺跡 土器
SD717 (109・114・116・117) 包含層



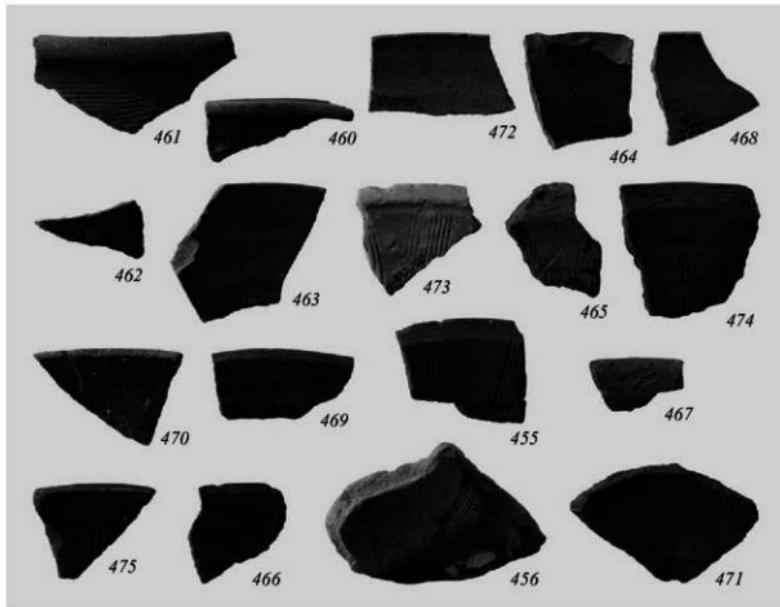
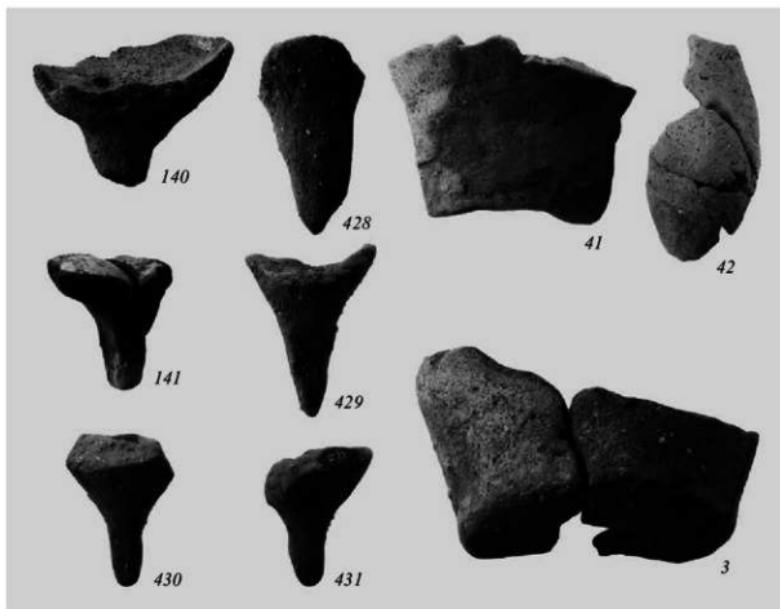
稲積天坂北遺跡 土器

SD50 (39) SD717 (103~105・108・110) SD850 (147) 包含層



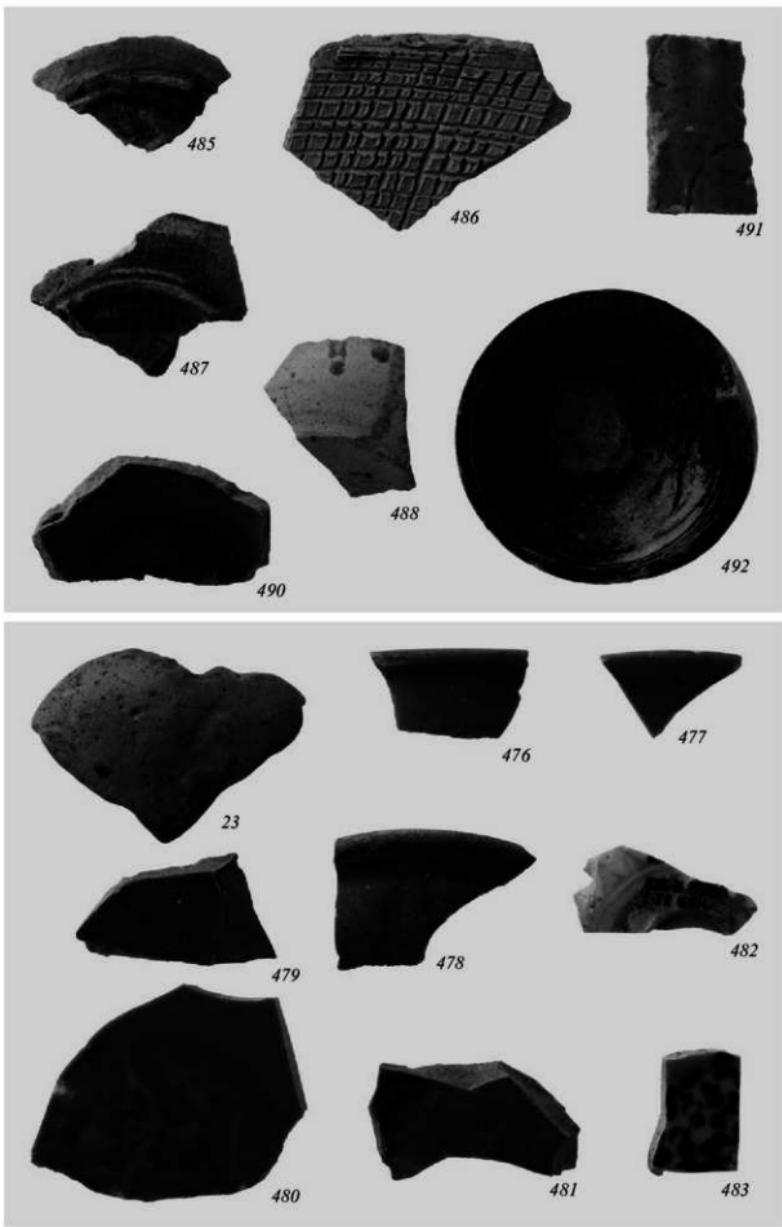
稻積天坂北遺跡 土器

SD50 (17) SD717 (III・133・134) SD850 (146) 包含層



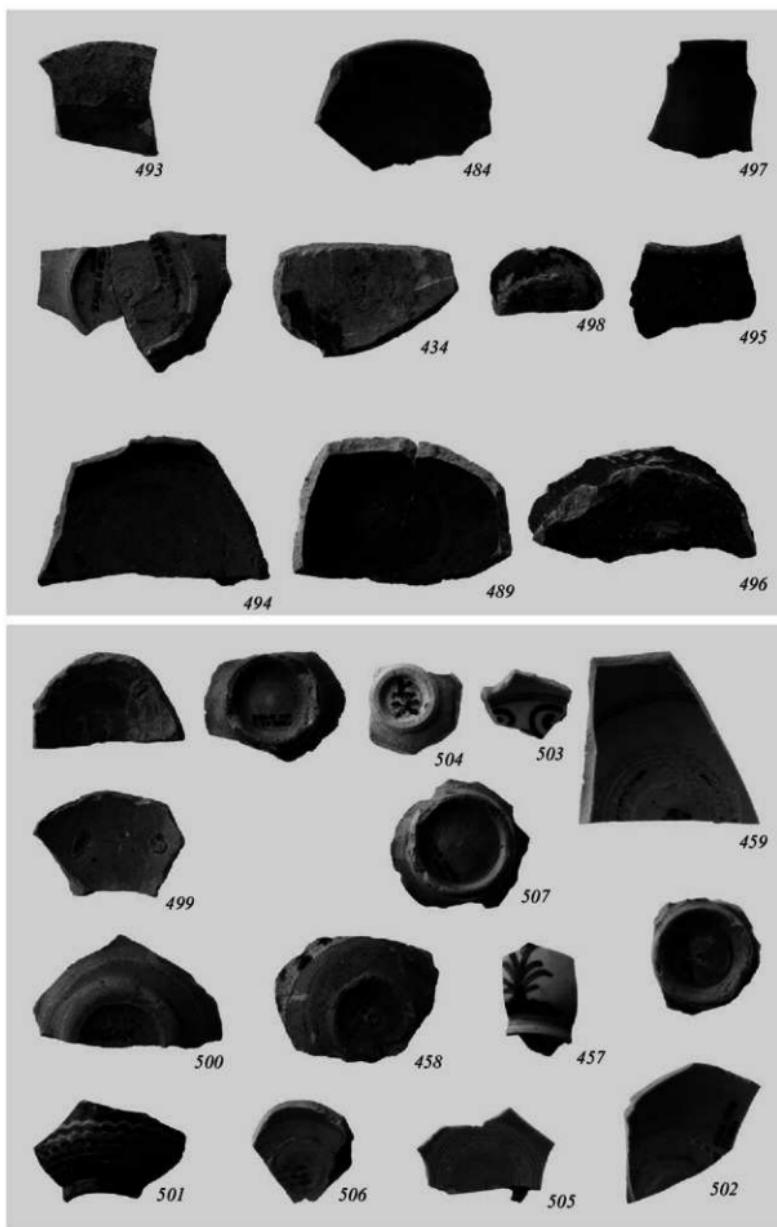
稲積天坂北遺跡 土器

SD50 (41・42) SD200 (455・456) SD717 (140・141) 包含層



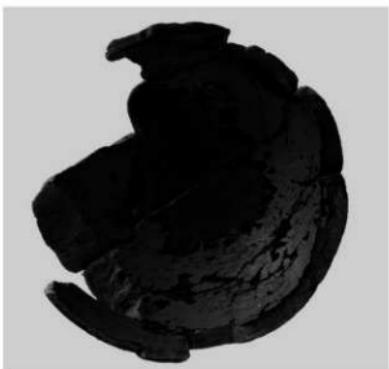
稲積天坂北遺跡 土器・陶磁器

SD50 (23) 包含層



稲積天坂北遺跡 陶磁器

SD30 (434) SD200 (457~459) 包含層

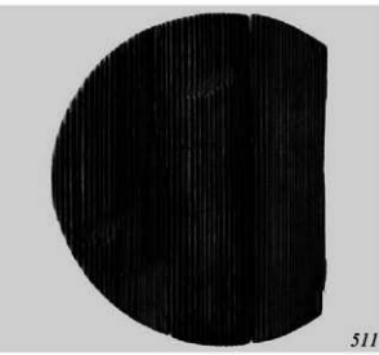
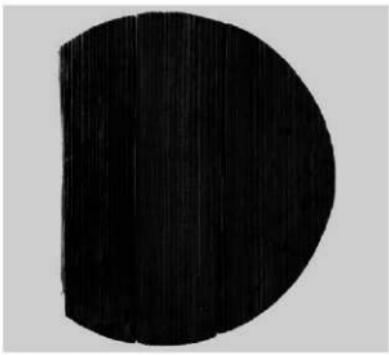


508

509



510



511

稲積天板北遺跡 木製品

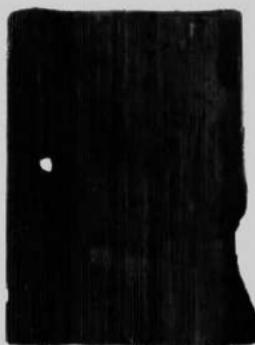
SD50 (511) SD200 (508~510)



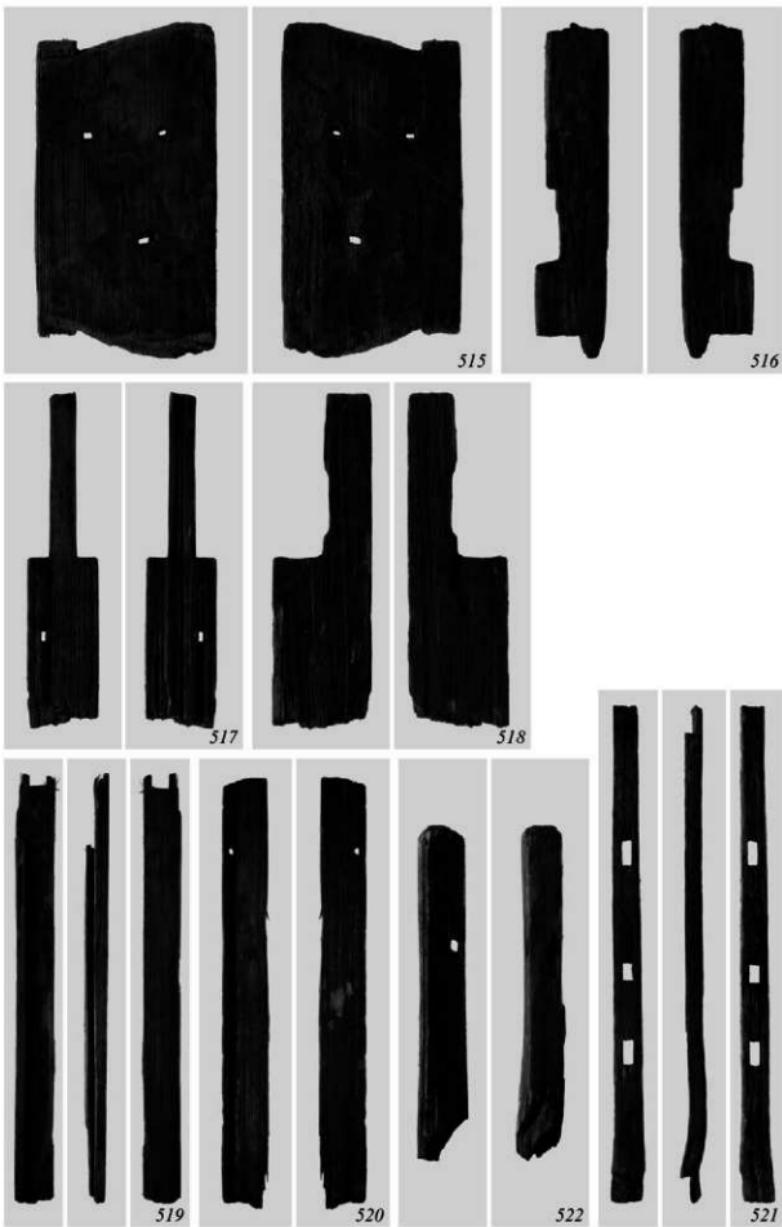
512



513



514

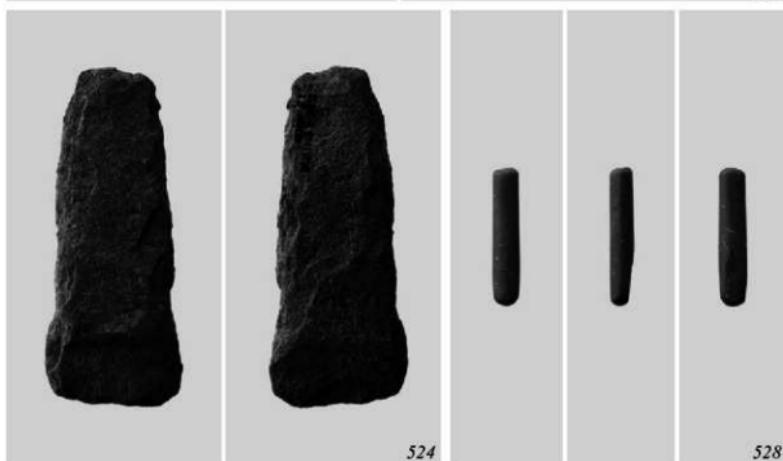


稲積天坂北遺跡 木製品

SD50



523



524

528

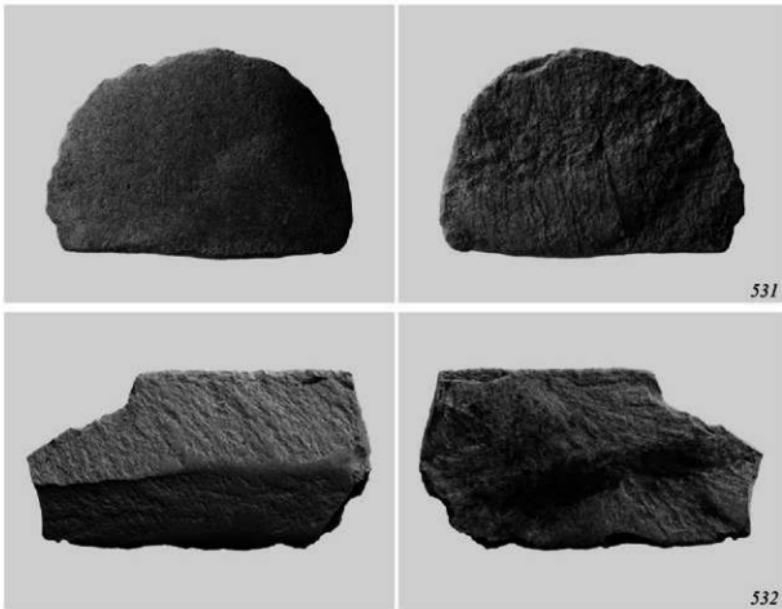
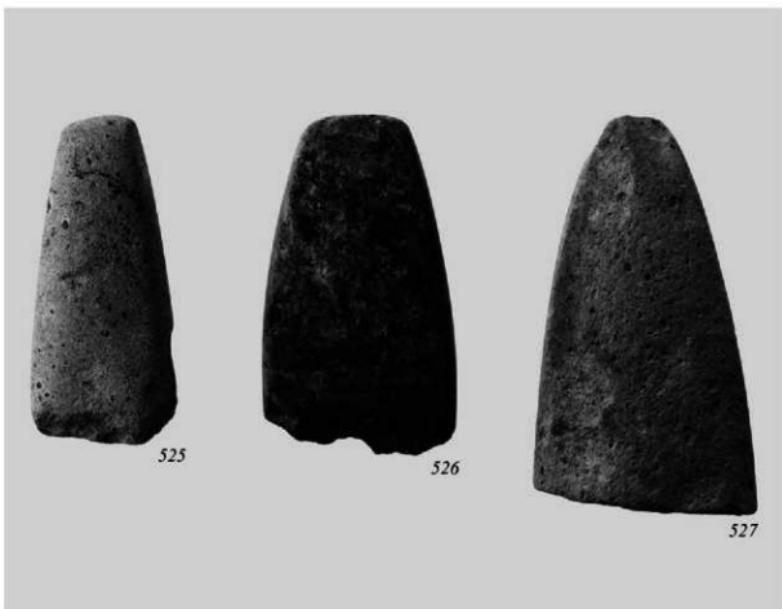


529

530

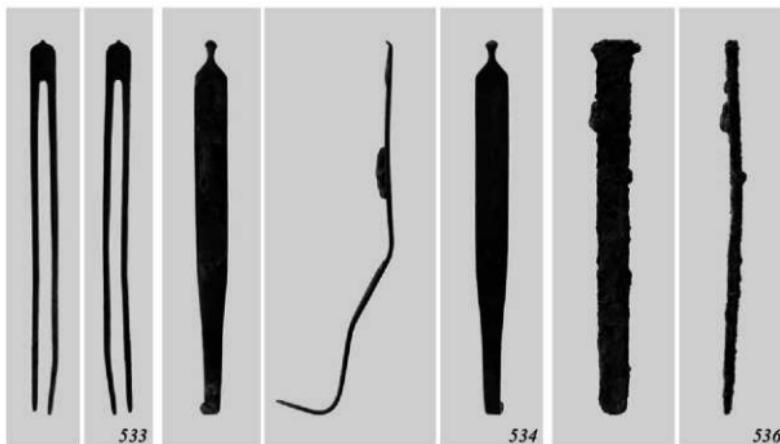
稻積天坂北遺跡 石製品

SD50 (524) SD200 (523) 包含層



稻積天板北遺跡 石製品

SD50 (531) 包含層



538 537 539



538 537 539



稲積オオヤチ南遺跡 全景

1. B地区下層（南東から） 2. B地区下層（南から）



1



2

稲積オオヤチ南遺跡 全景

1. A地区（東から） 2. A地区（南西から）



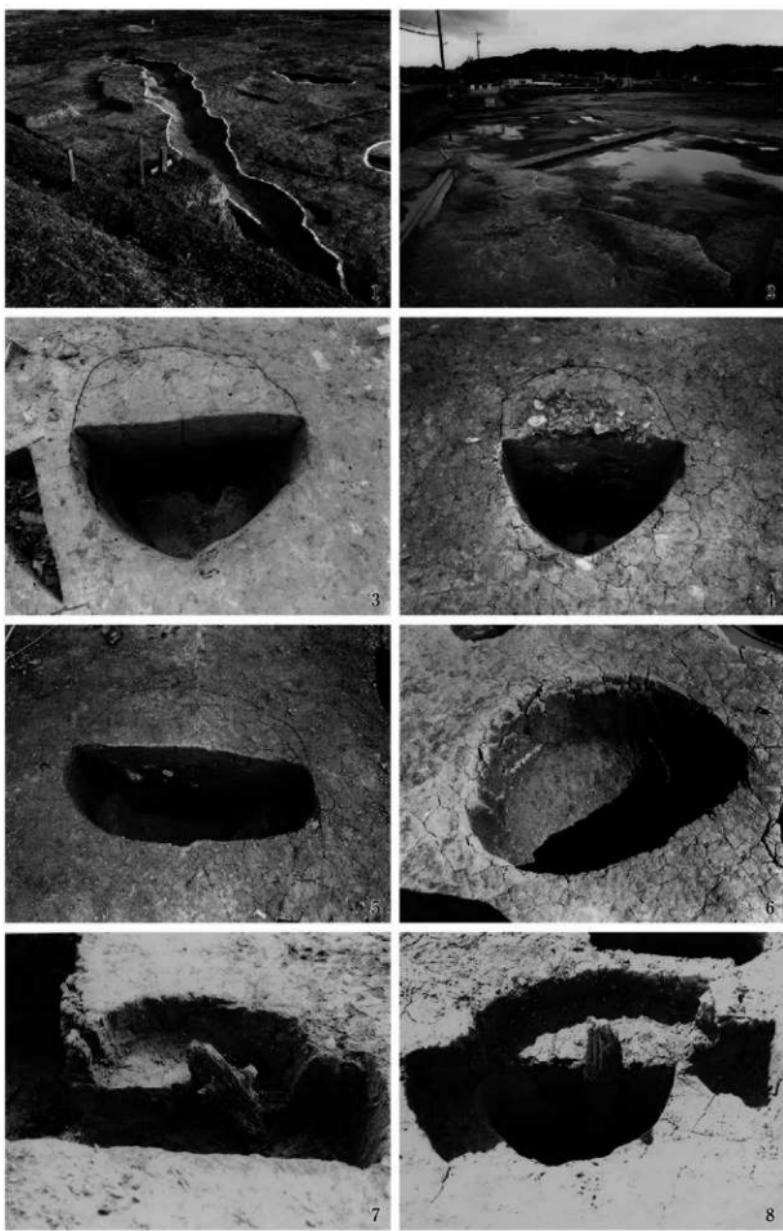
稲積オオヤチ南遺跡 全景

1. B地区上層（北東から） 2. B地区上層（南から）



稲積オオヤチ南遺跡 井戸

1. SE36・39（西から） 2. SE4（南から） 3. SE4（北から） 4. SE30（西から） 5. SD1（北から）



稲積オヤチ南遺跡 溝・井戸・土坑

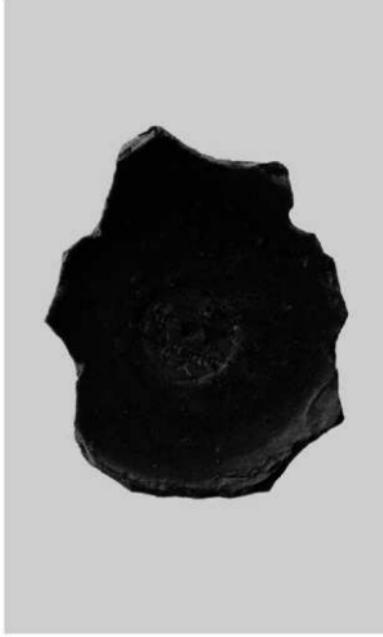
- | | | | |
|-----------------|-----------------|----------------|----------------|
| 1. SD502 (北東から) | 2. SD102 (北東から) | 3. SE115 (南から) | 4. SE180 (西から) |
| 5. SE292 (南西から) | 6. SE292 (西から) | 7. SK168 (北から) | 8. SK198 (北から) |



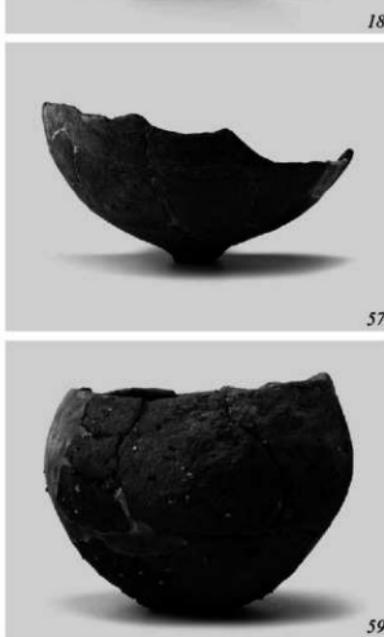
2



18



57



59



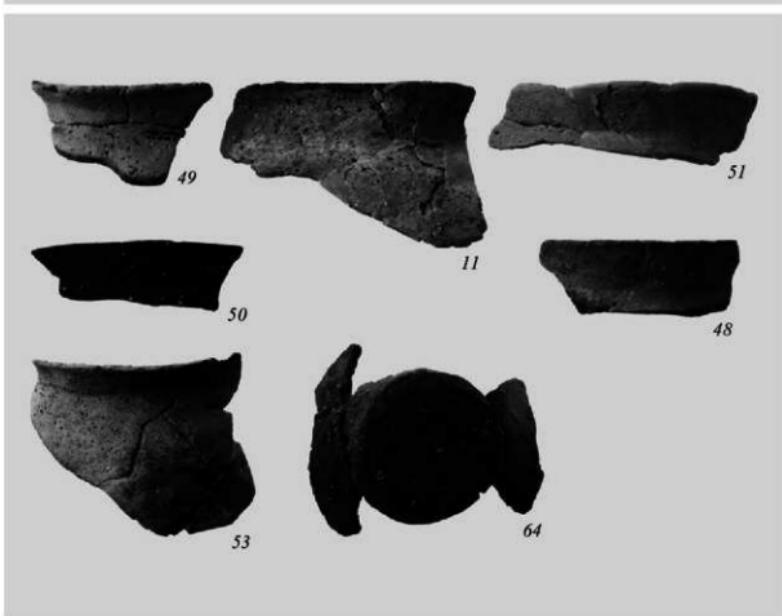
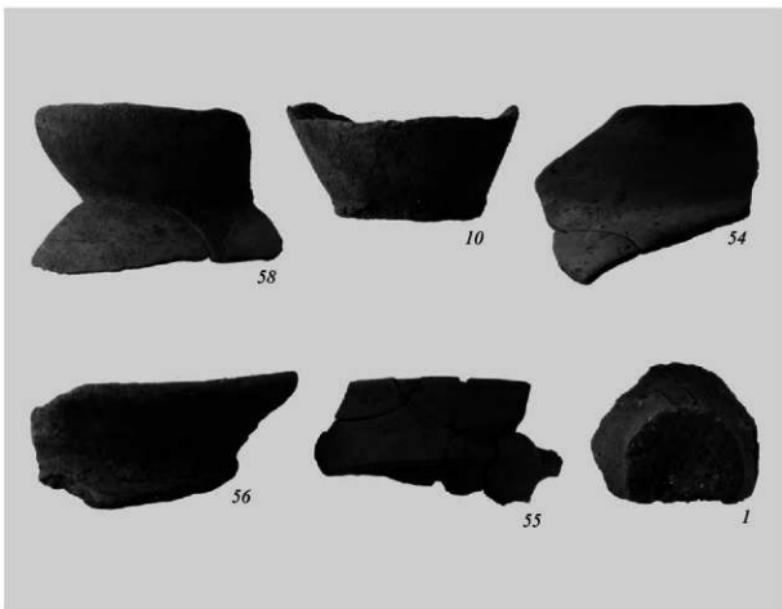
19



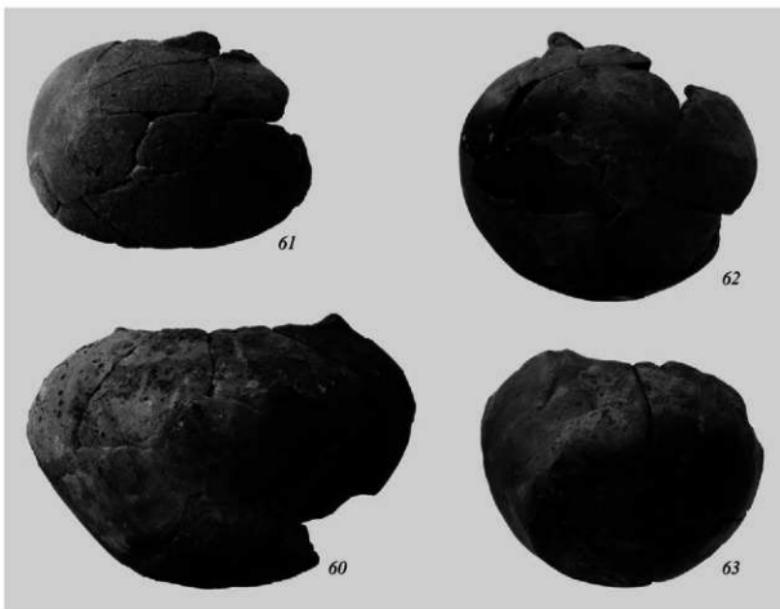
94

稲積オオヤチ南遺跡 土器・陶磁器

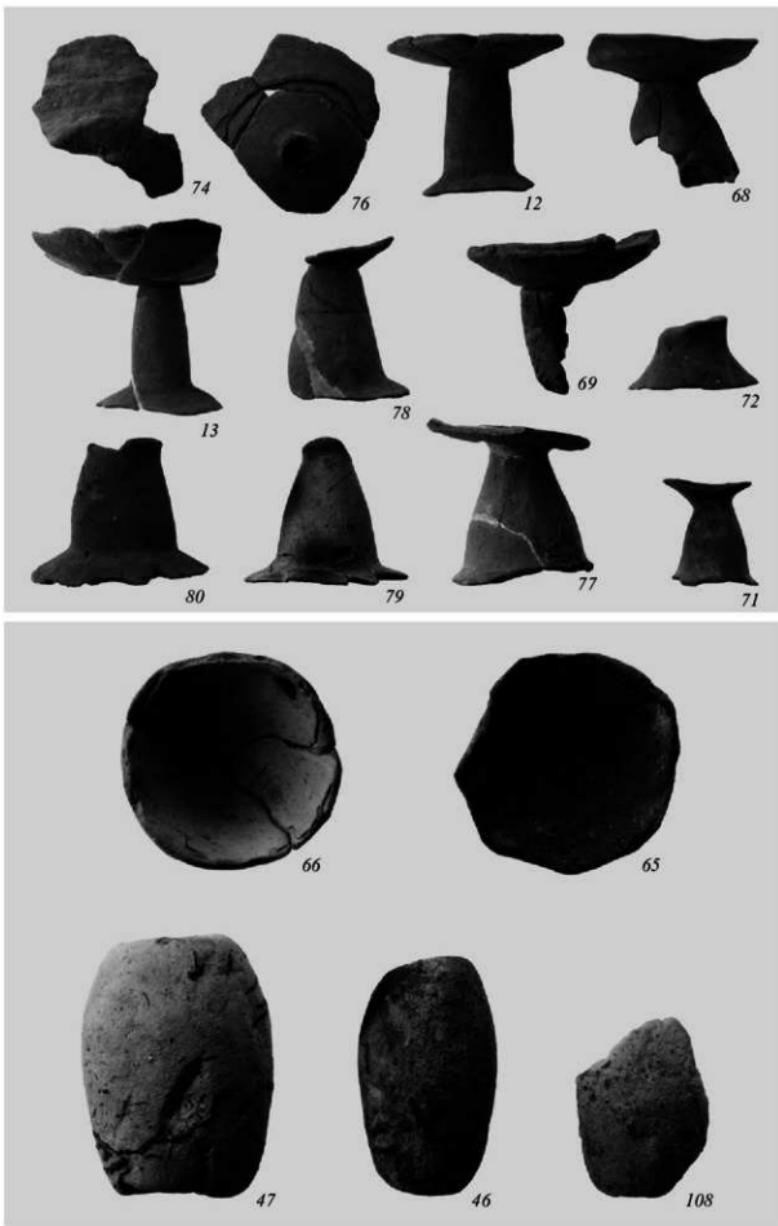
SD1 (2) SD328 (18) SD335 (19) 包含層



稲積才オヤチ南遺跡 土器
SD102 (10・11) SD502 (1) 包含層

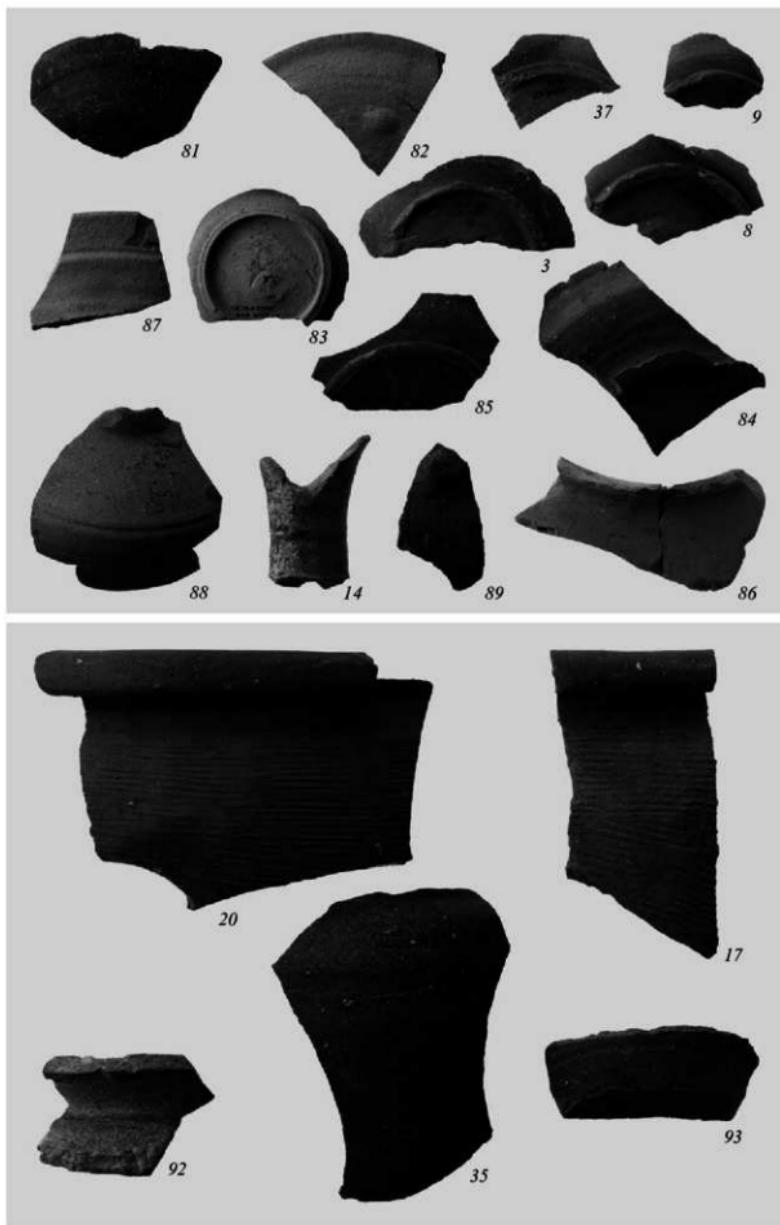


稲積オヤチ南遺跡 土器
SD1 (4) SK286 (44) 包含層



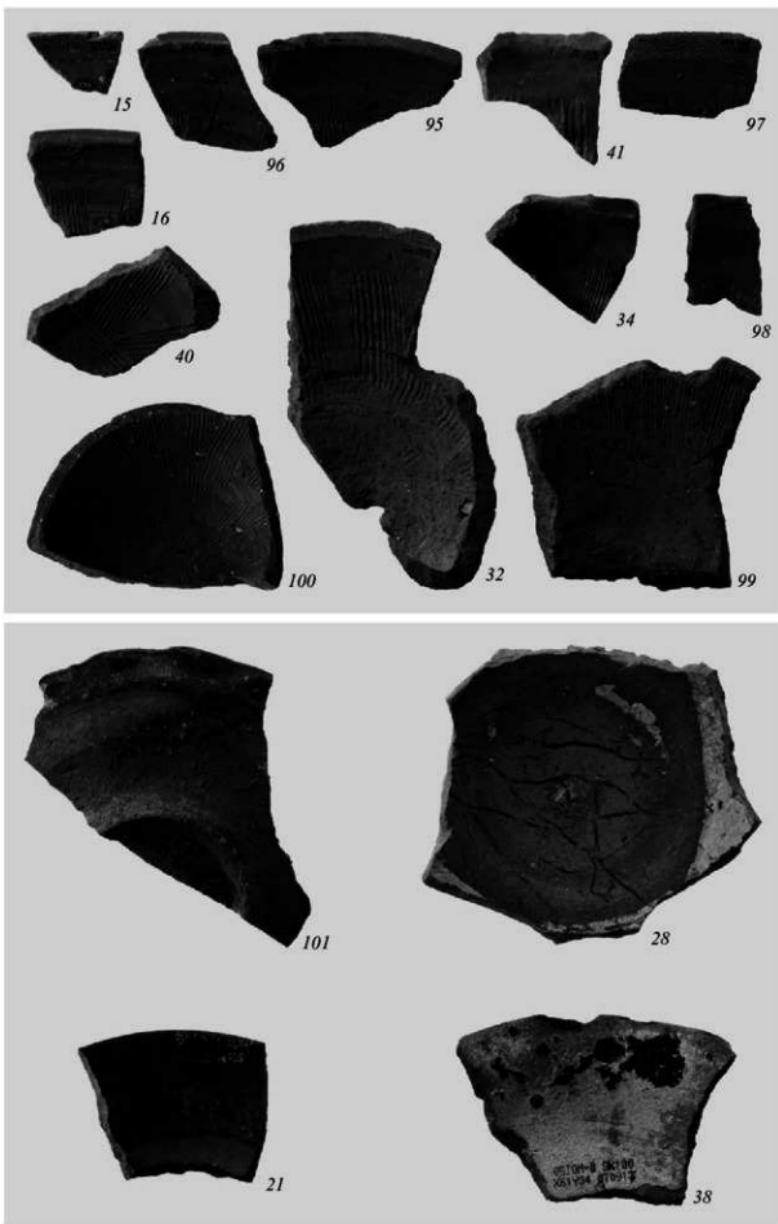
稲積オオヤチ南遺跡 土器・土製品

SD102 (12・13) SK187 (46) SK200 (47) 包含層



稲積オオヤチ南遺跡 土器

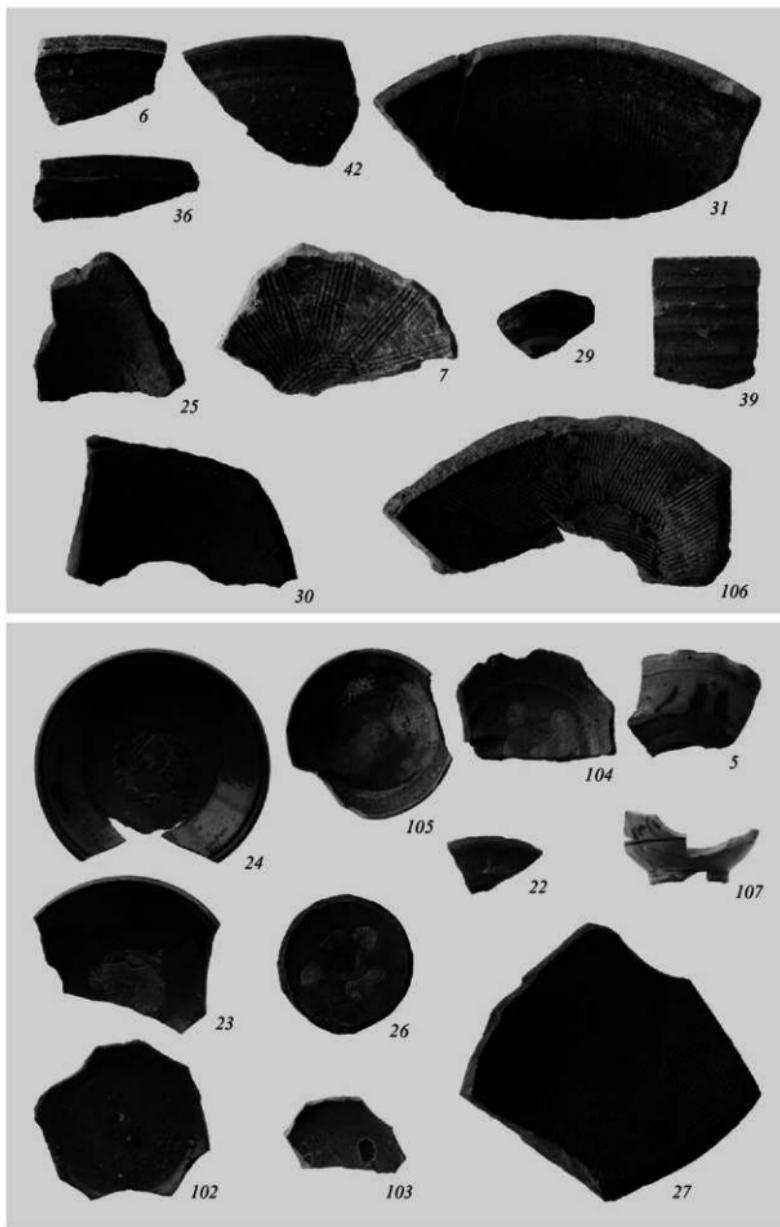
SD1 (3) SD2 (8) SD24 (9) SD102 (14・17) SE39 (20) SE292 (35) SK27 (37) 包含層



稲積才オヤチ南遺跡 土器・陶磁器

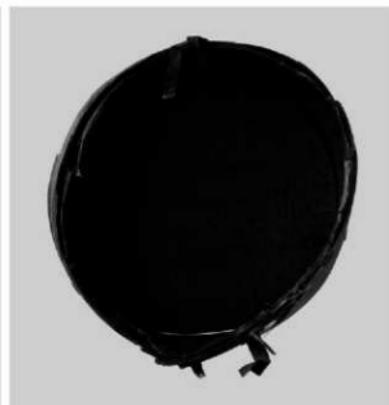
SD102 (15·16) SE191 (21) SE218 (28) SE292 (32·34) SK200 (38·40·41) 包含層

図版82



稲積オオヤチ南遺跡 土器・陶磁器

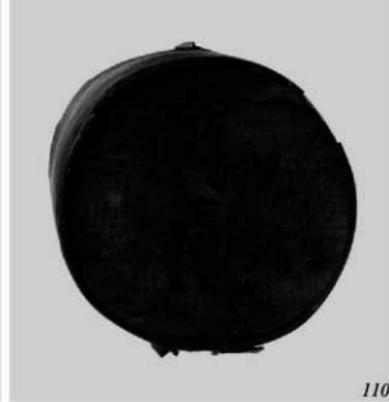
SD1 (5~7) SE204 (22·23) SE218 (29~31) SE232 (26·27) SE291 (24·25) SE379 (36)
SK200 (39·42) 包含層



109

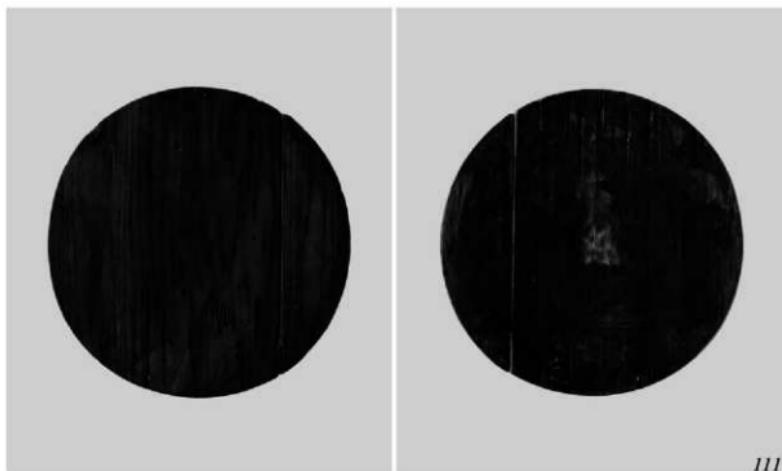


112

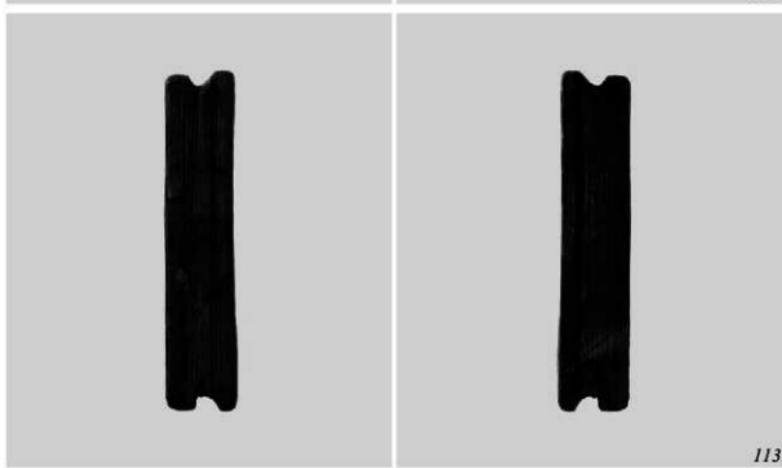


110

稲積才オヤチ南遺跡 木製品
SE4 (109・112) SE115 (110)

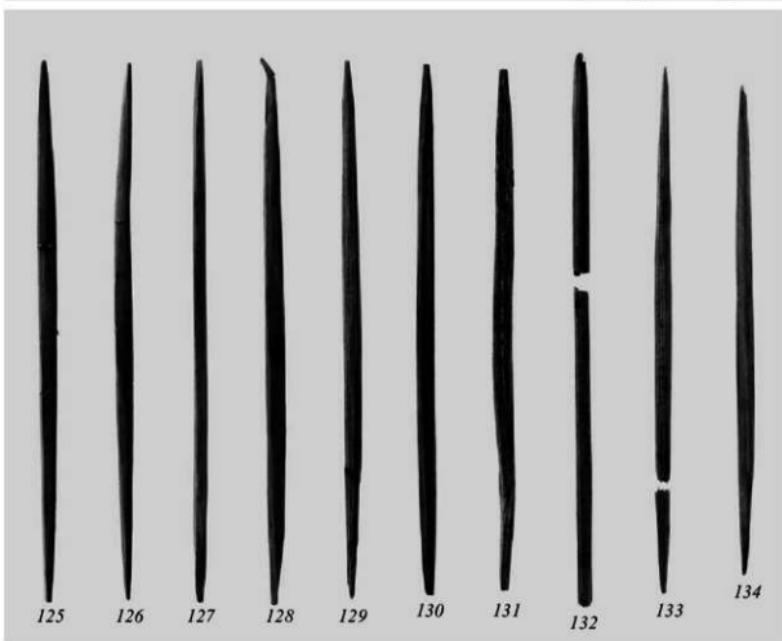
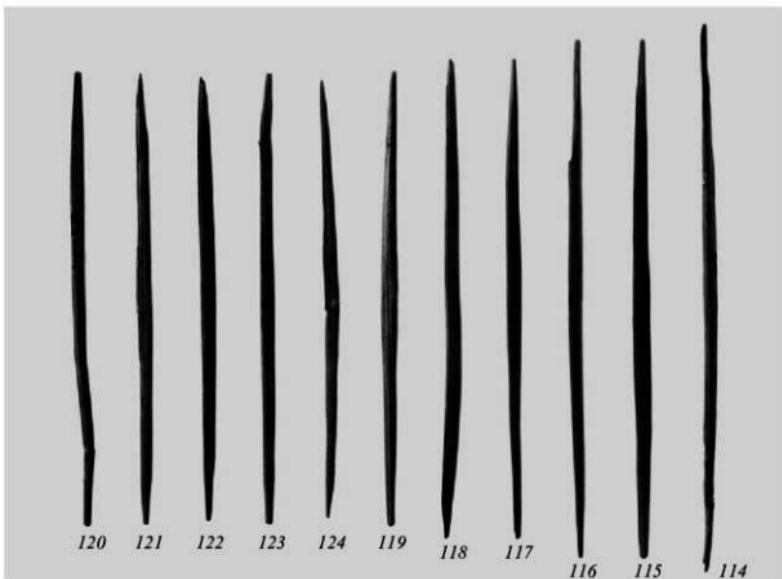


III



II3

稲積オオヤチ南遺跡 木製品
SE4 (II3) SE226 (III)



稲積才オヤチ南遺跡 木製品

SE4



135



136



137

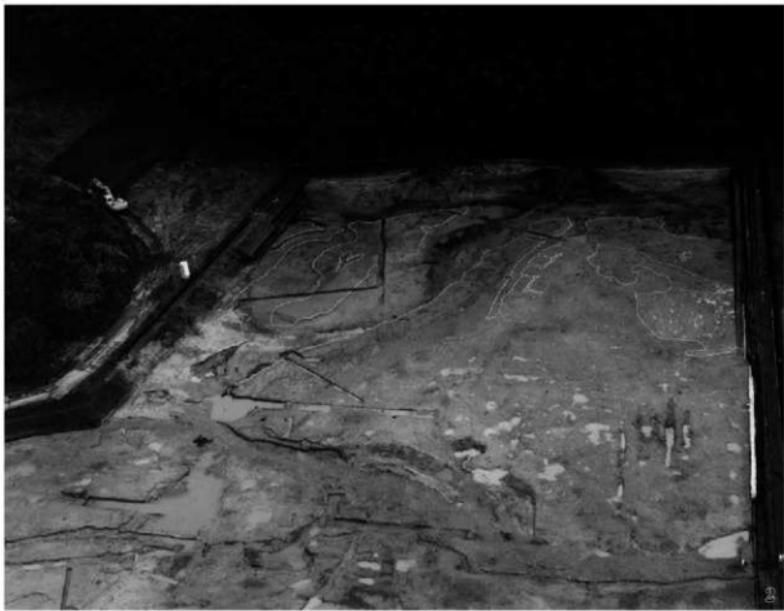
稻積才オヤチ南遺跡 石製品・金属製品

SD102 (136) 包含層



宇波西遺跡 全景

1. A地区（南西から） 2. A地区（南西から）



宇波西遺跡 全景

1. B1地区（南から） 2. B2地区（南西から）



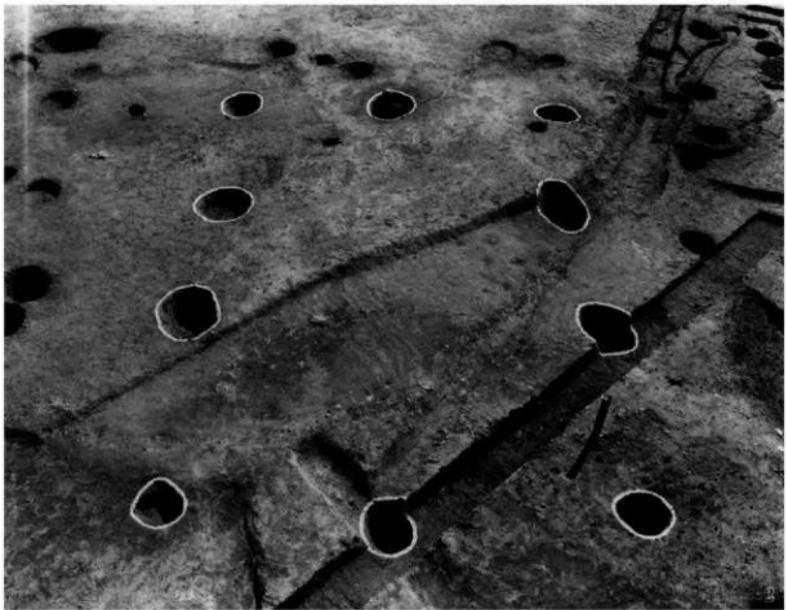
宇波西遺跡 木組遺構

1. SX434・SX435 (南西から)
2. SX434 (西から)
3. SX435 (西から)
4. SX435 土器出土状況 (南から)
5. SX435 土器出土状況 (南から)



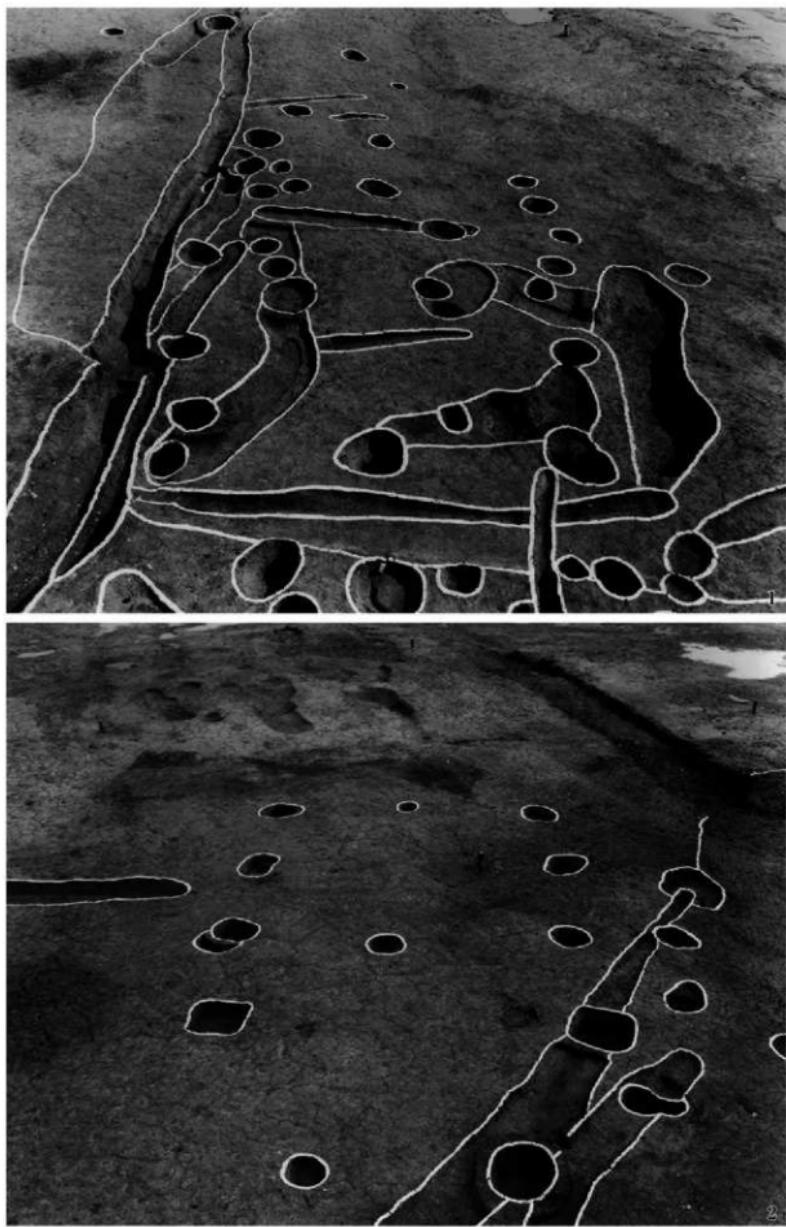
宇波西遺跡 全景

1. A地区西側ブロック (北から) 2. 建物群 (北西から)



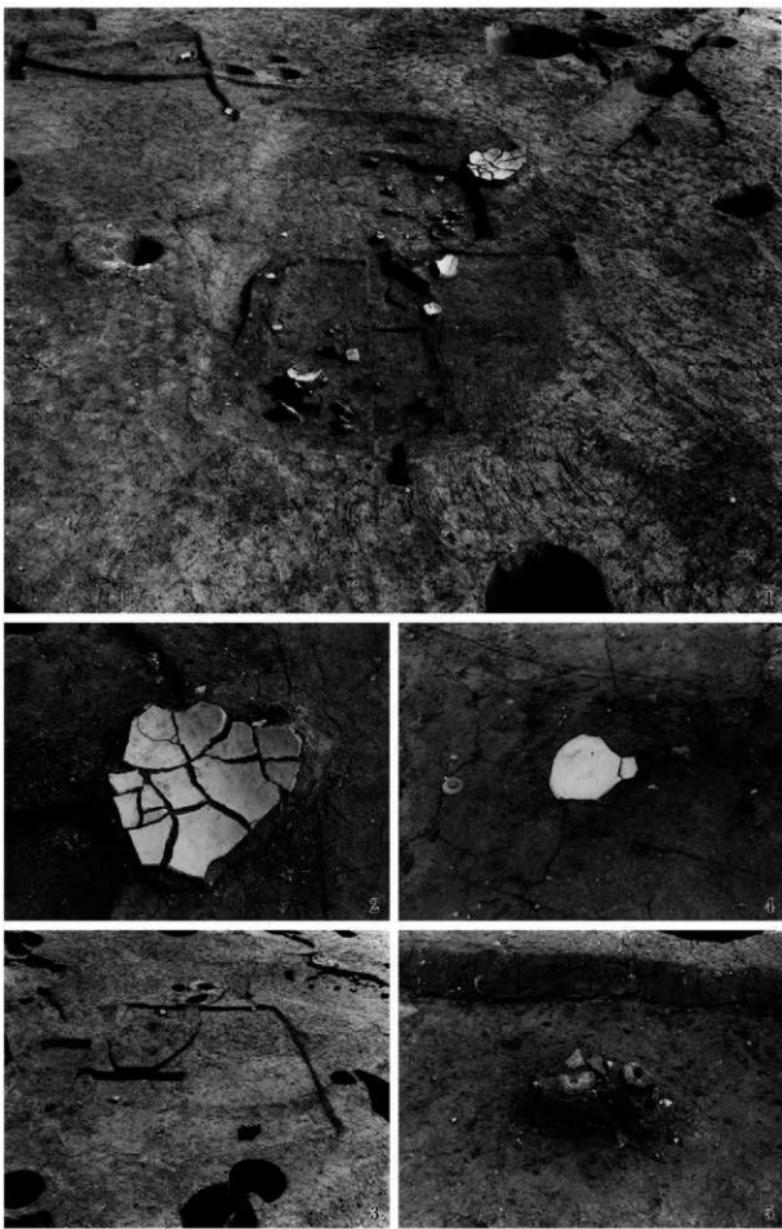
宇波西遺跡 挖立柱建物

1. SB1 (北西から) 2. SB2 (北西から)



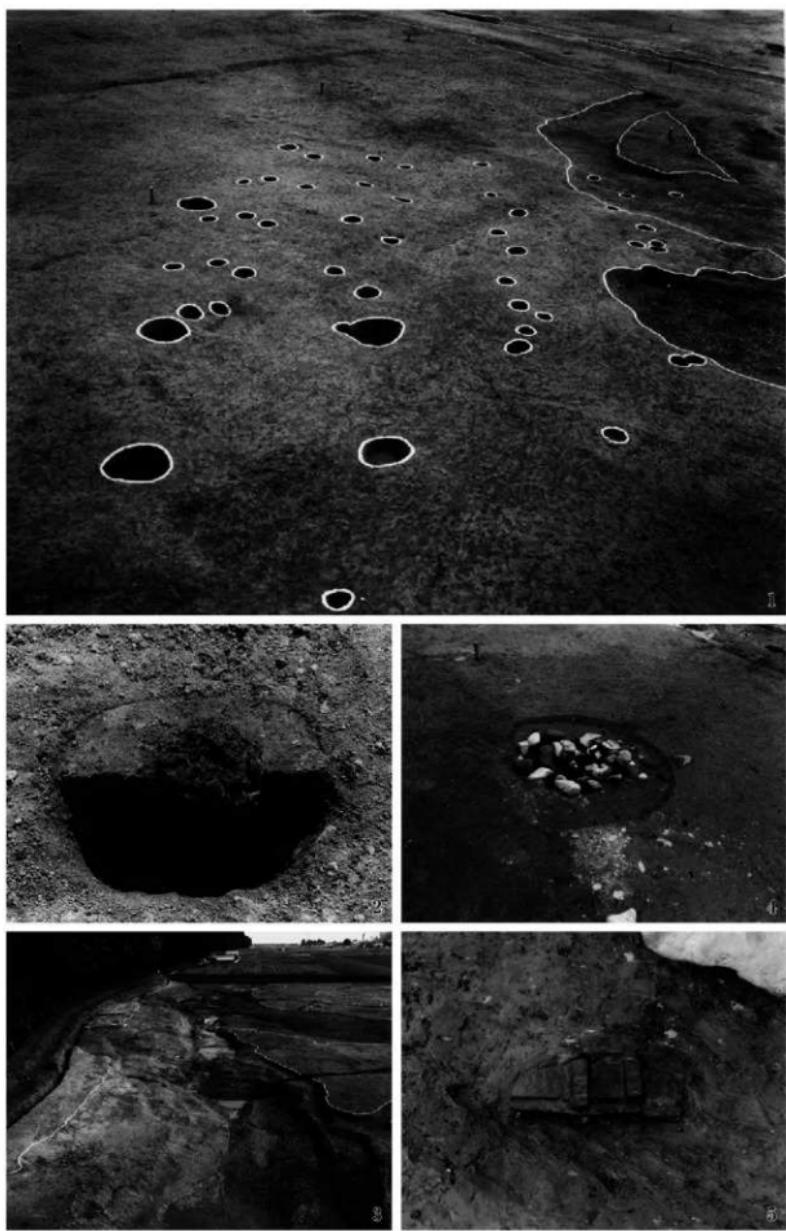
宇波西遺跡 捩立柱建物

1. SB3 (北西から) 2. SB4 (北西から)



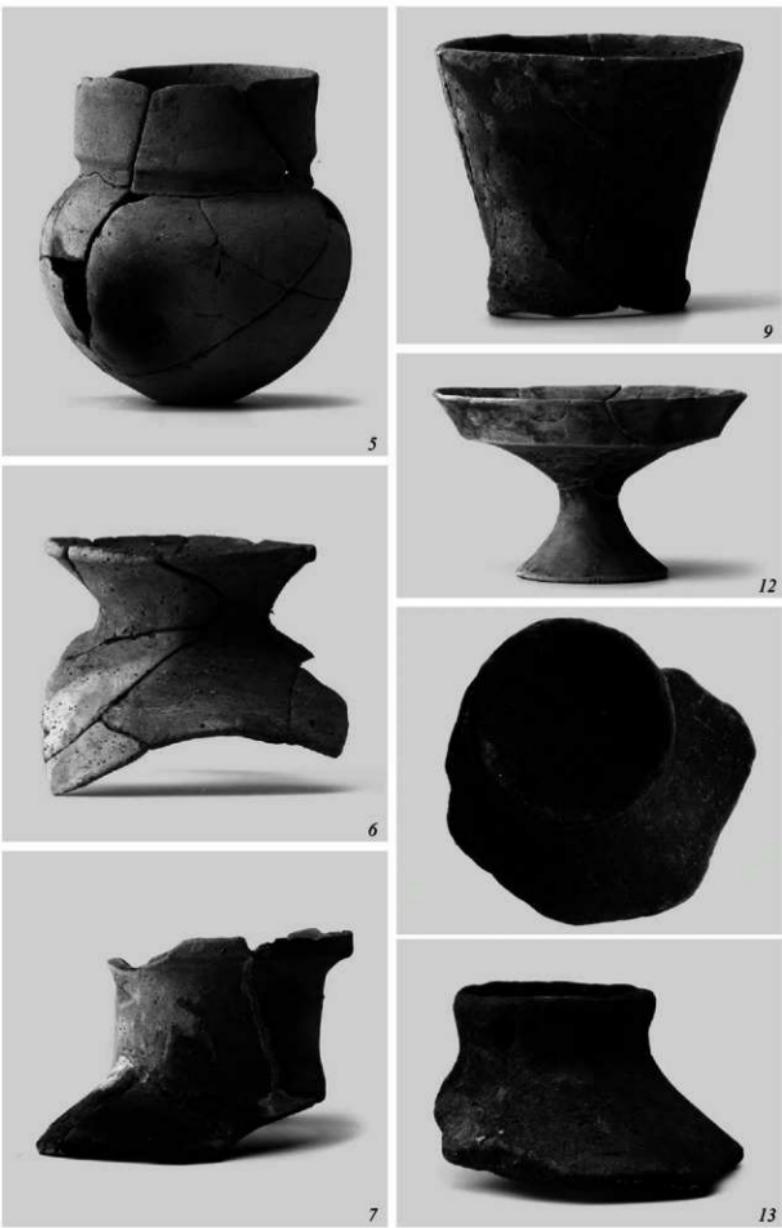
宇波西遺跡 壺穴建物

1. SI235 (北西から) 2. SI235 土器出土状況 (西から) 3. SI300 (北東から)
4. SI300 土器出土状況 (北から) 5. SI300 土器出土状況 (南から)



宇波西遺跡 捩立柱建物・溝・井戸

1. SB8-SB10 (北から)
2. SB12 SP558 (北から)
3. SD1001 (北西から)
4. SE1537a・b (西から)
5. SE1537a 下駄出土状況 (西から)



宇波西遺跡 土器

SD1001 (5-7・12・13) SD1001・SD1556 (9)



18



30



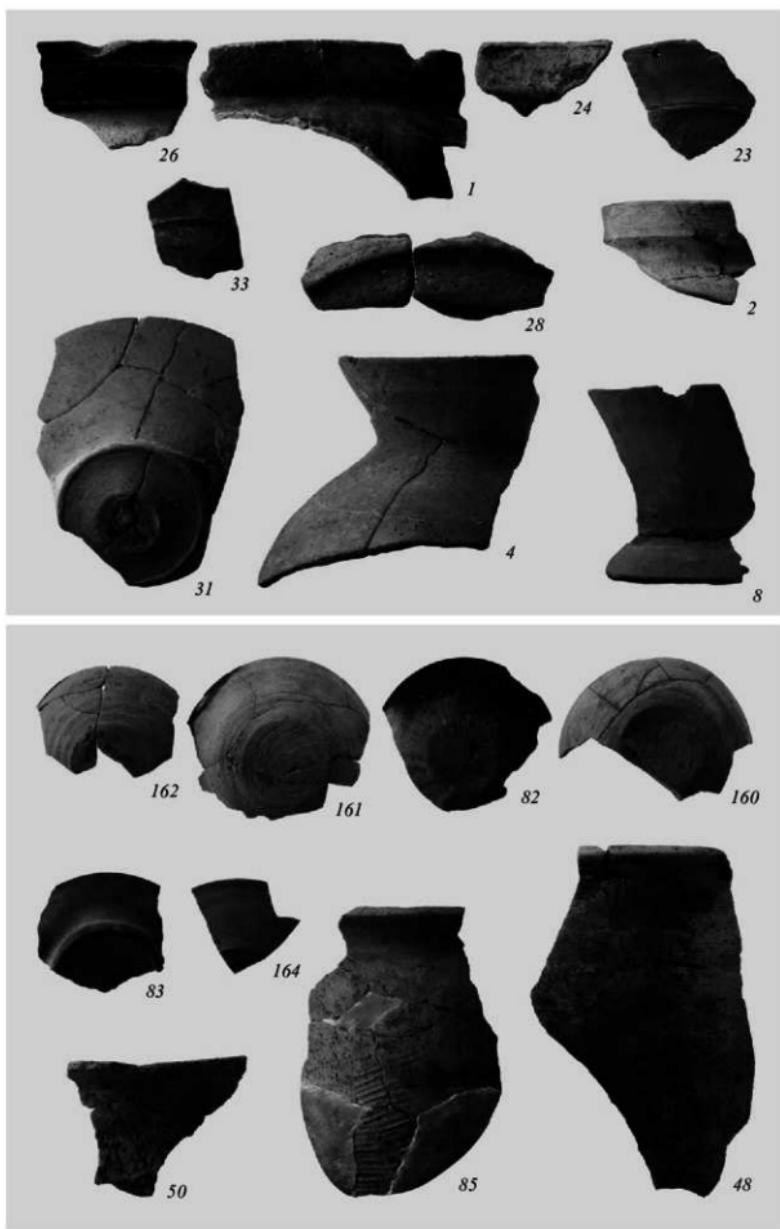
29



32

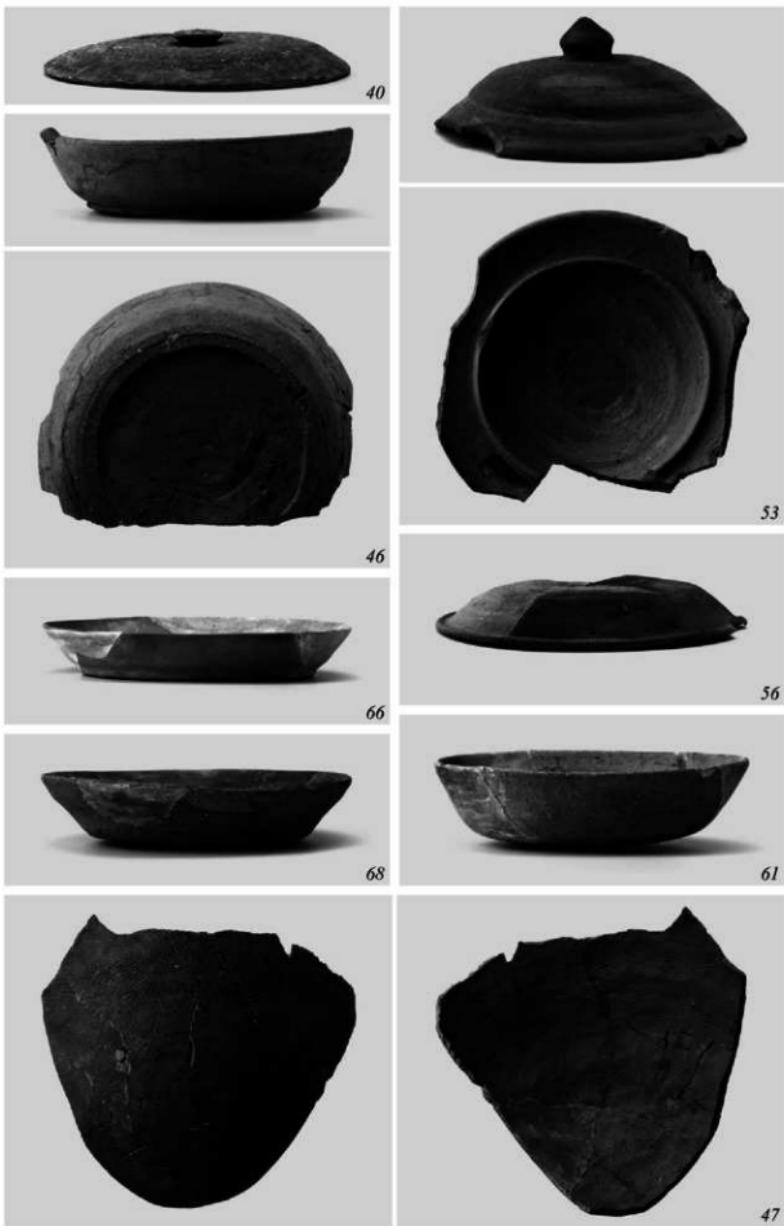
34

宇波西遺跡 土器
SD1556 (18) 包含層



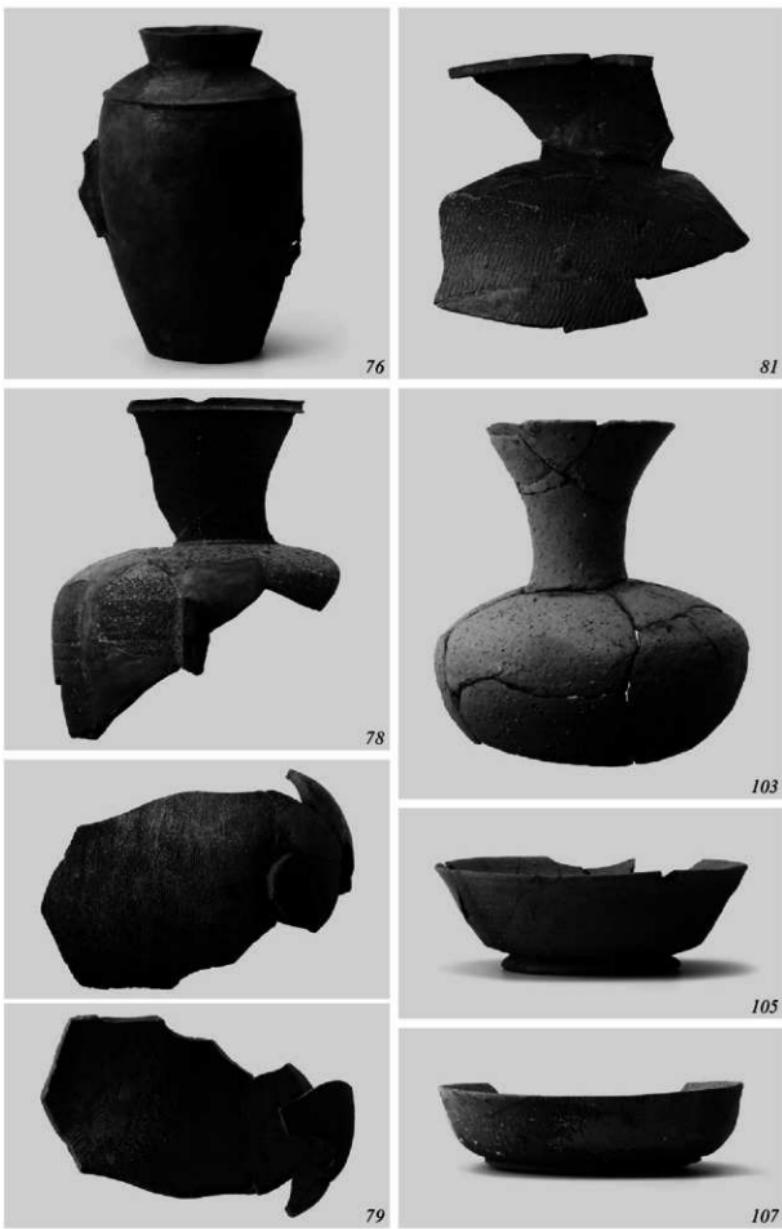
宁波西遺跡 土器

SI235 (48·50) SD1001 (1·2·4·8·82·83·85) SX434 (24) SX435 (23) 包含層



宇波西遺跡 土器

SI235 (46・47) SI235・SD201・SK439 (40) SD1001 (53・56・61・66・68)

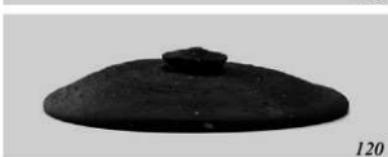


宇波西遺跡 土器

SD241 (103) SD408 (105) SD1001 (76・78・79・81) SK181 (107)



110



120



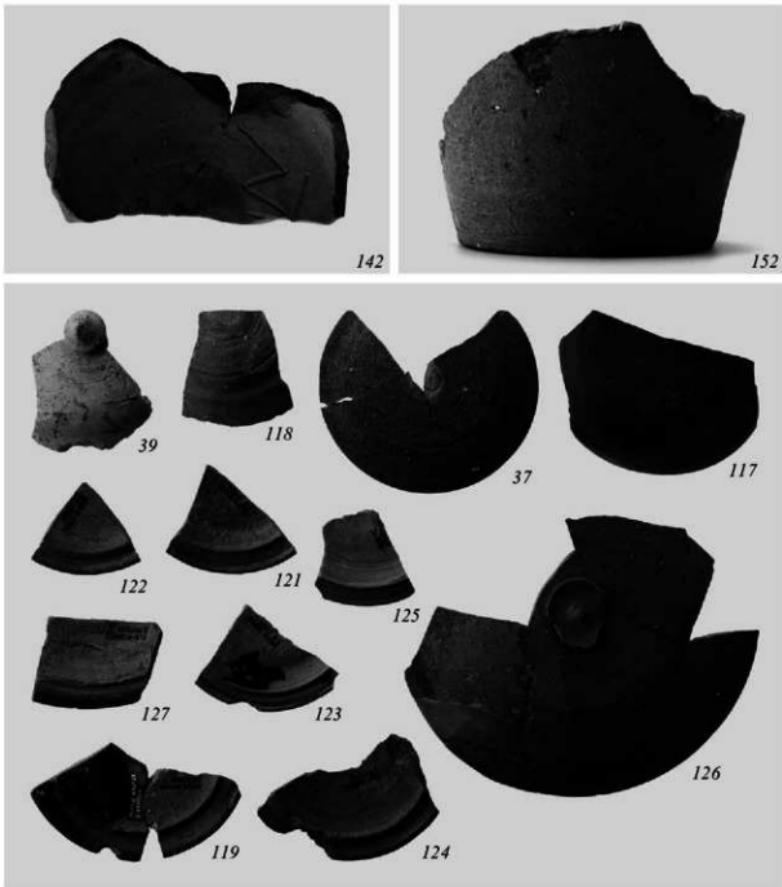
134



135

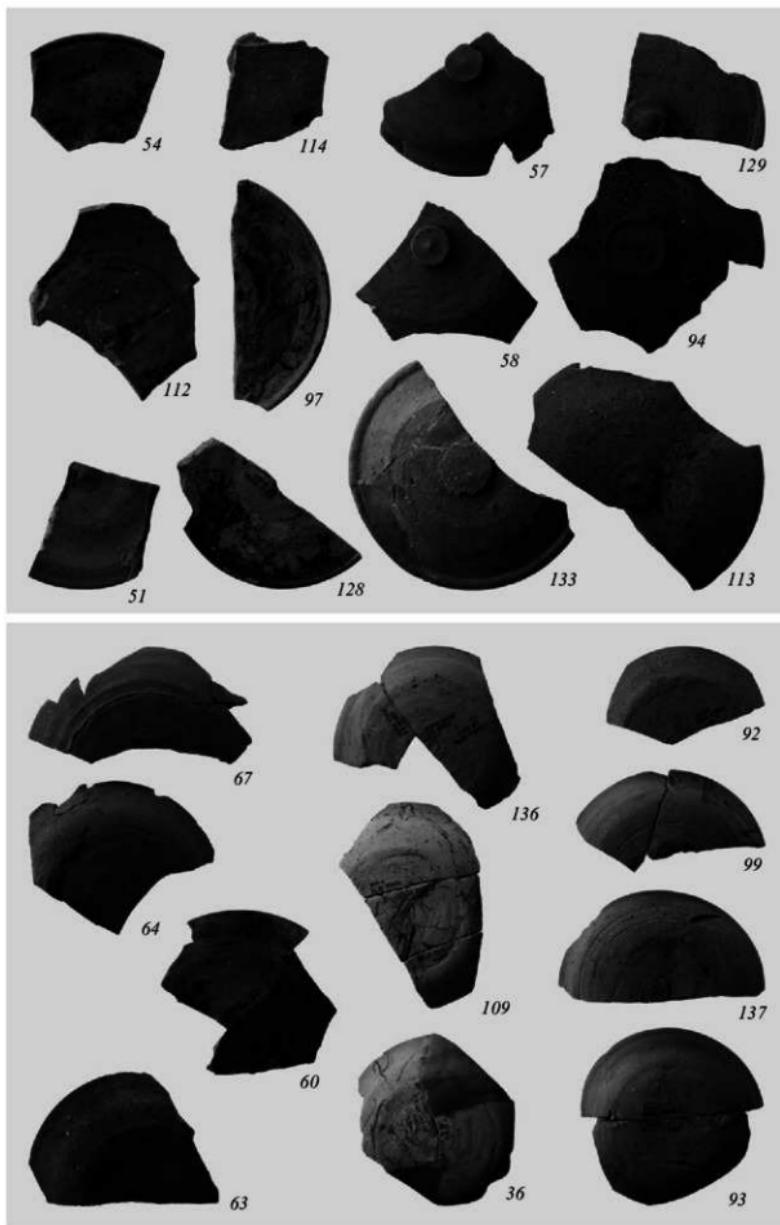


153



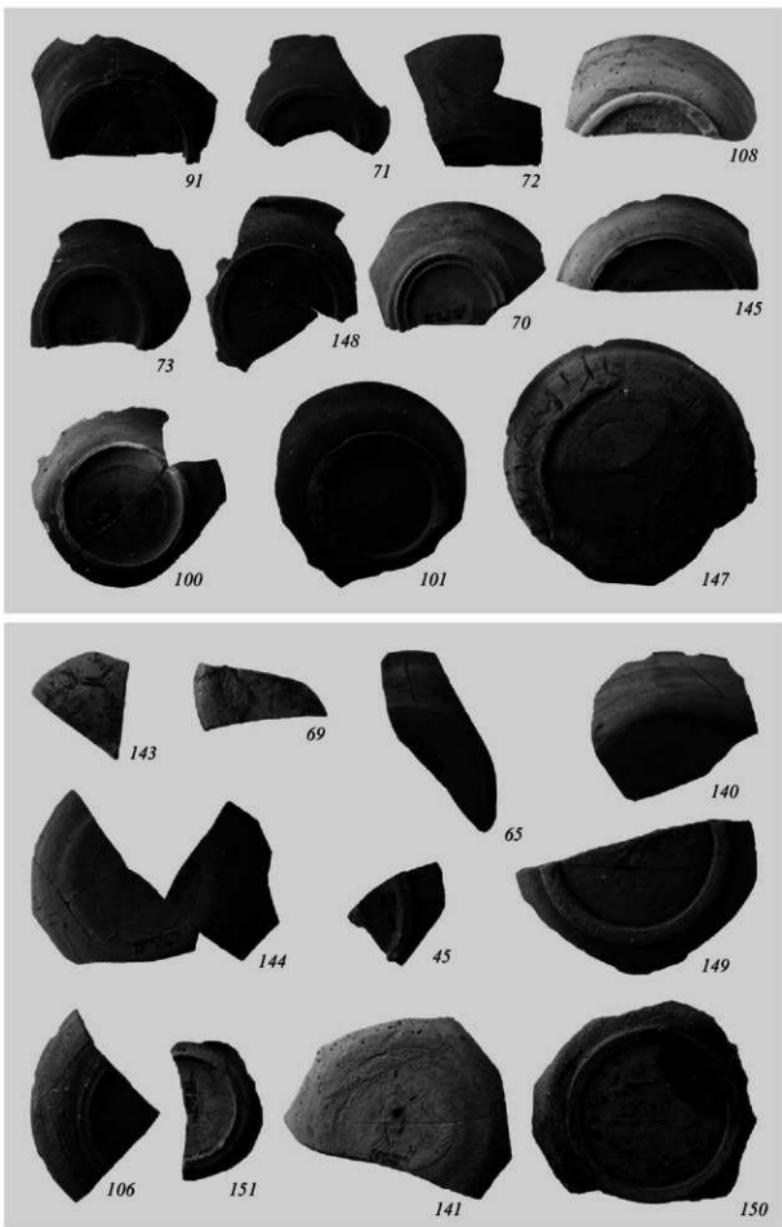
宇波西遺跡 土器

SI235 (39) SB2 SP153 (37) 包含層



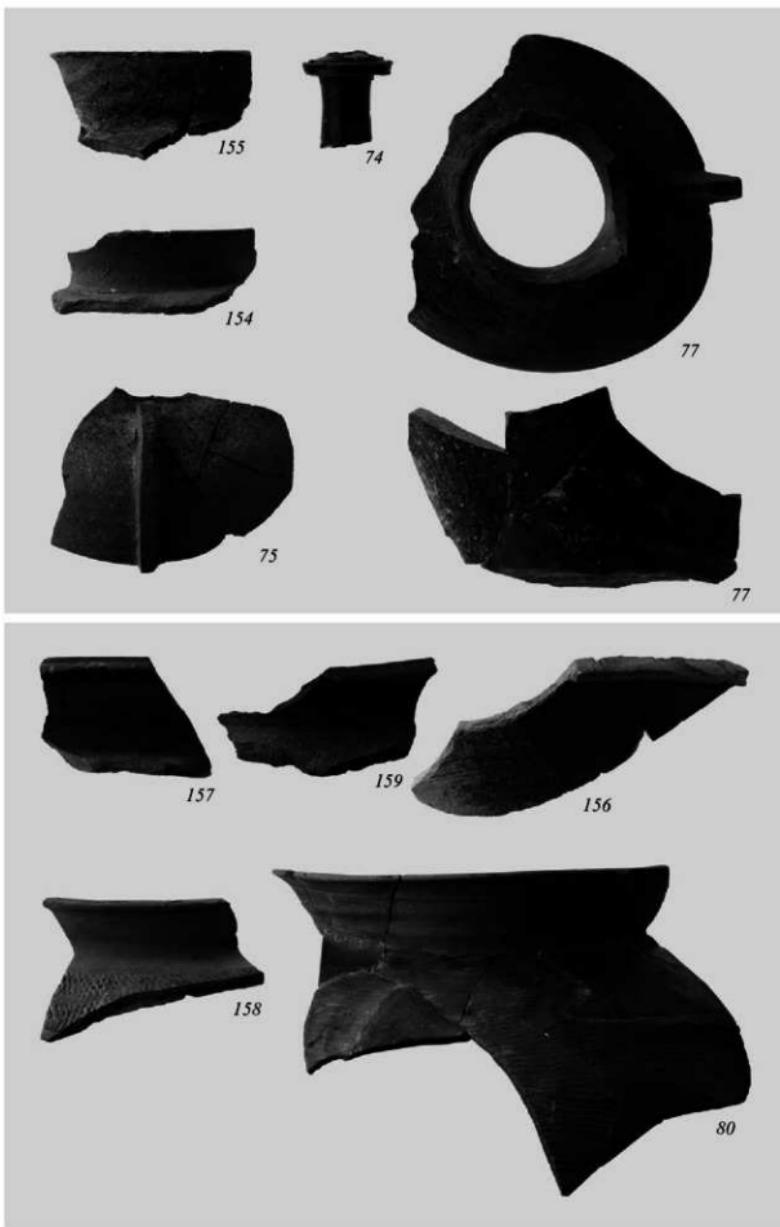
宇波西遺跡 土器

SI300 (51) SB1 SP444 · SP446 (36) SD122 (92 · 93) SD201 (94 · 97 · 99) SD361 · SK426 (112)
SD1001 (54 · 57 · 58 · 60 · 63 · 64 · 67) SK222 · SK230 (109) SK426 (113) SK475 (114) 包含層



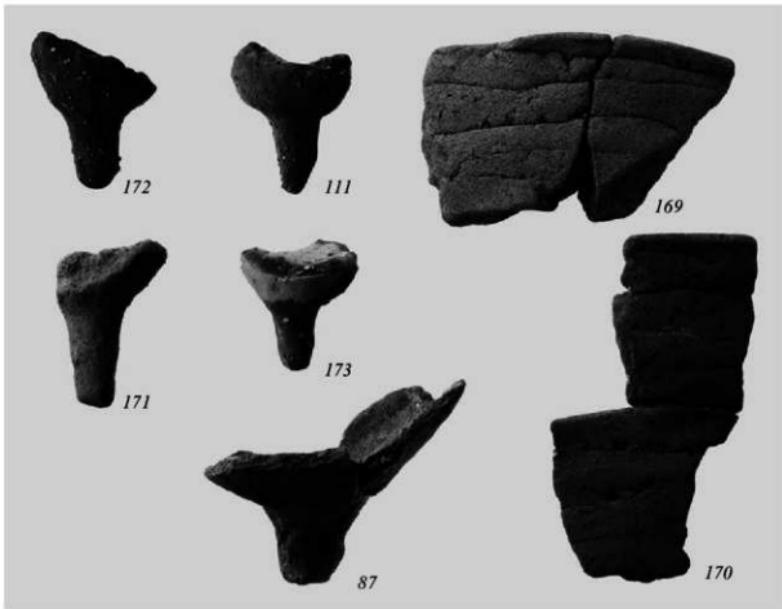
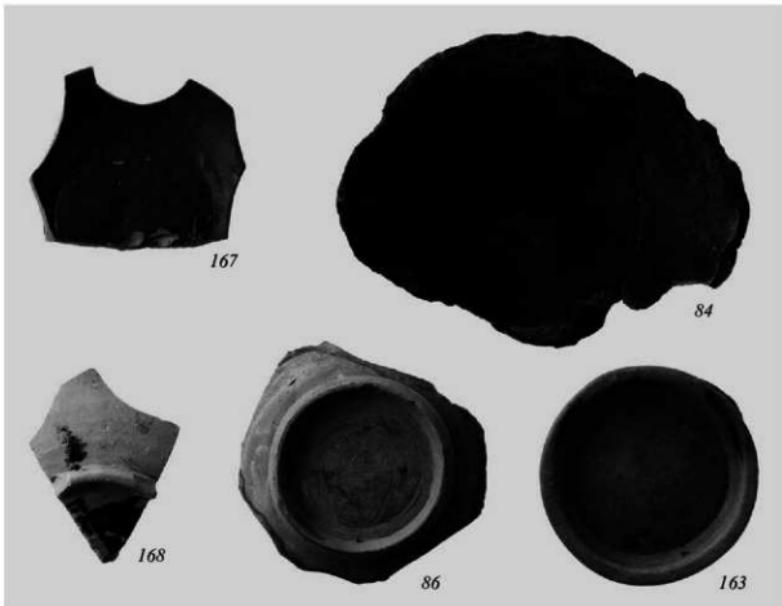
宇波西遺跡 土器

SI235 (45) SD185 (91) SD201 (100・101) SD1001 (65・69~73) SK181 (106) SK183 (108)
包含層



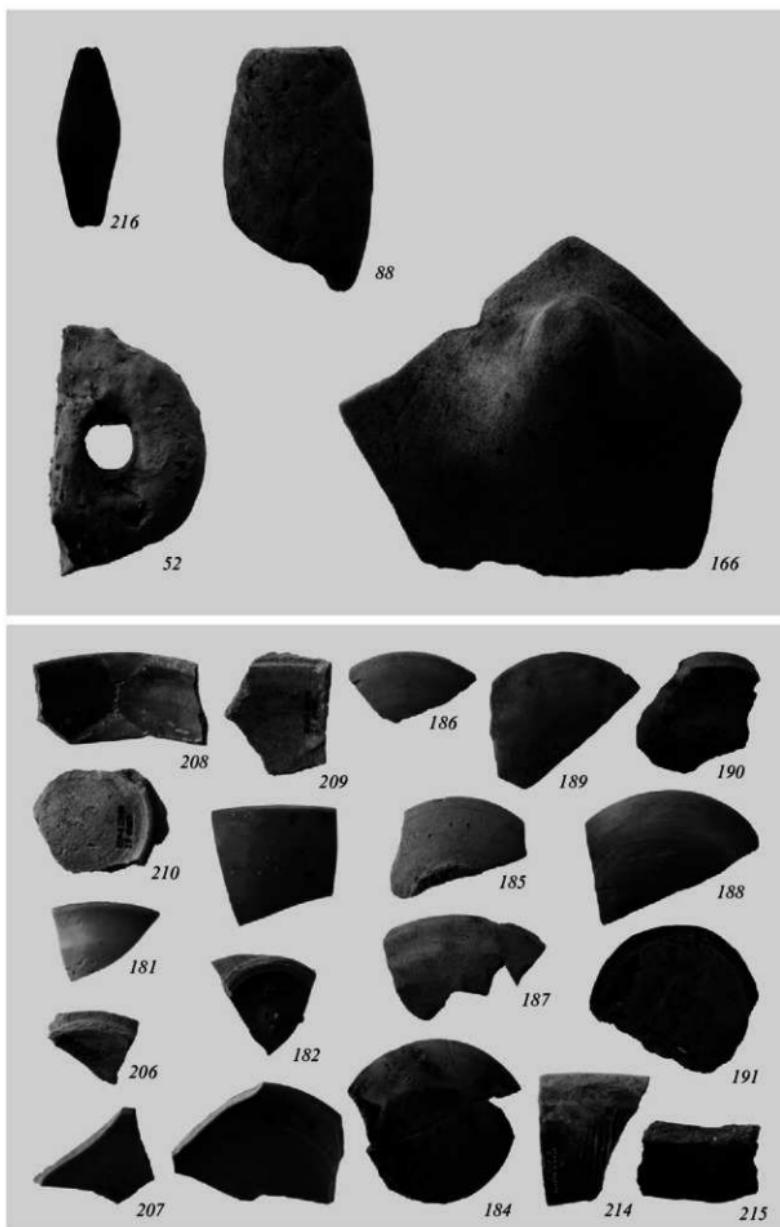
宇波西遺跡 土器

SD1001 (74・75・77・80) 包含層



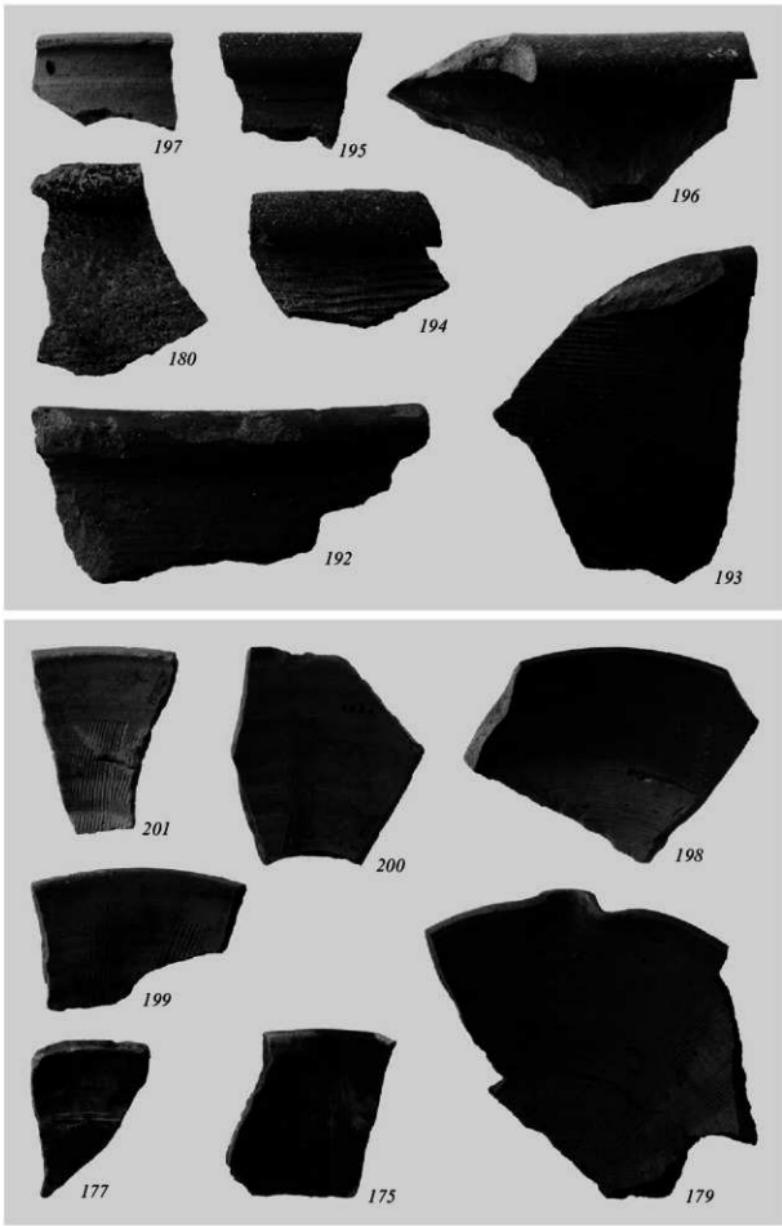
宇波西遺跡 土器

SD1001 (84·86·87) SK373 (111) 包含層



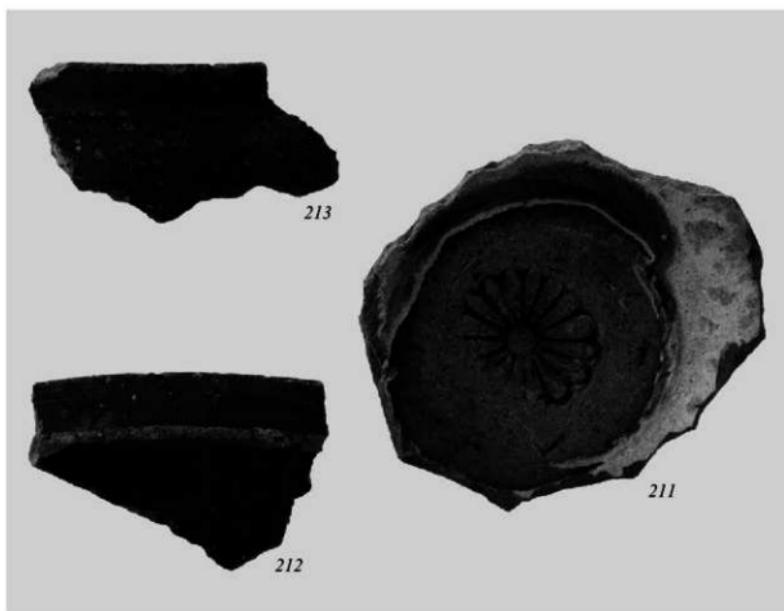
宇波西遺跡 土器・土製品

SI300 (52) SD1001 (88・181・182) 包含層



宁波西遺跡 土器

SD1001 (175·177·179·180) 包含層



宇波西遺跡 陶磁器
包含層



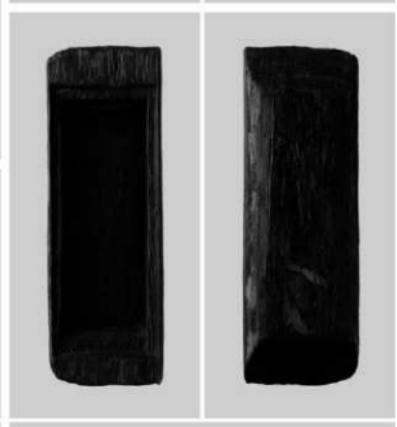
219



217



218

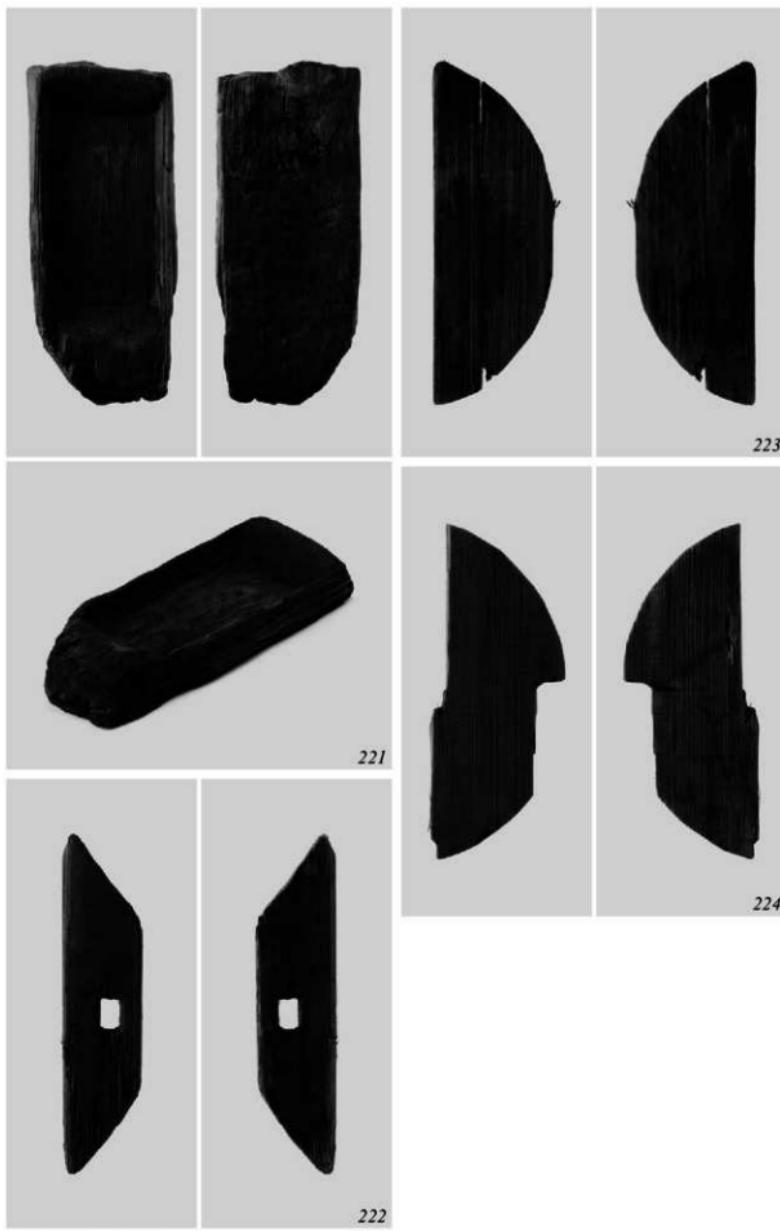


220



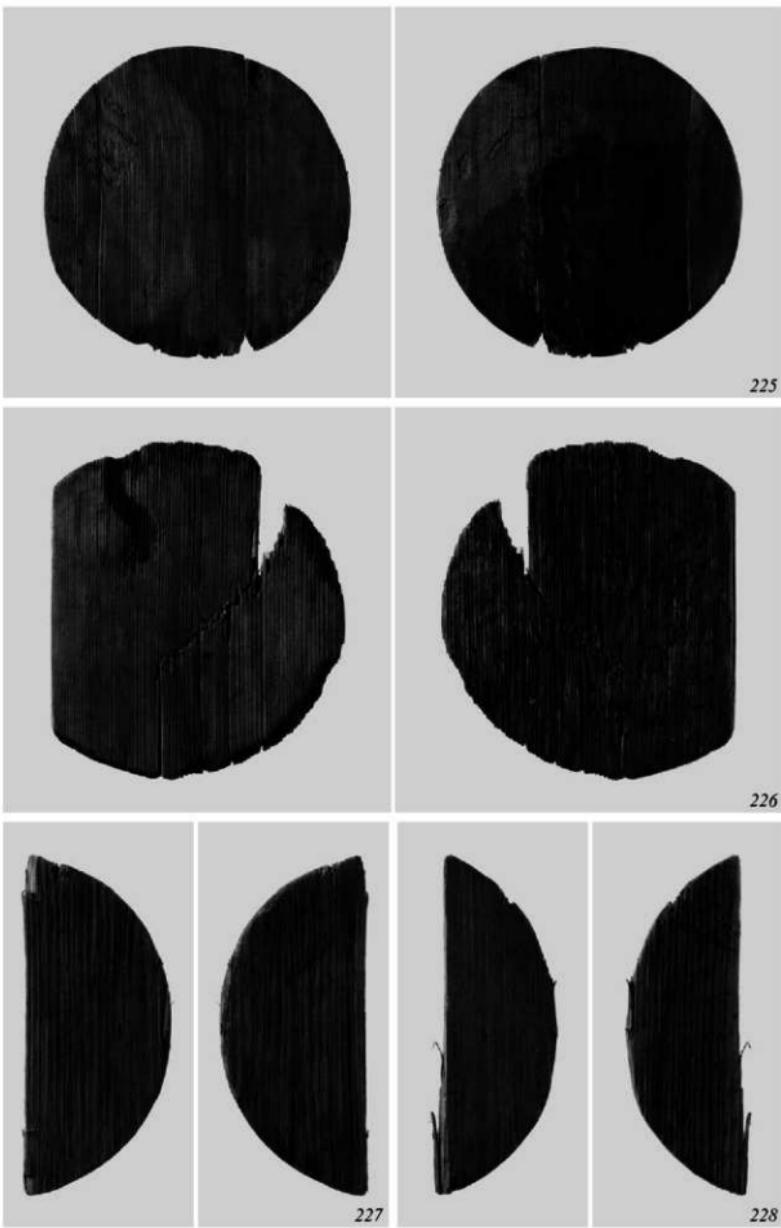
宇波西遺跡 木製品

SD1001 (219・220) SK519 (217) 包含層



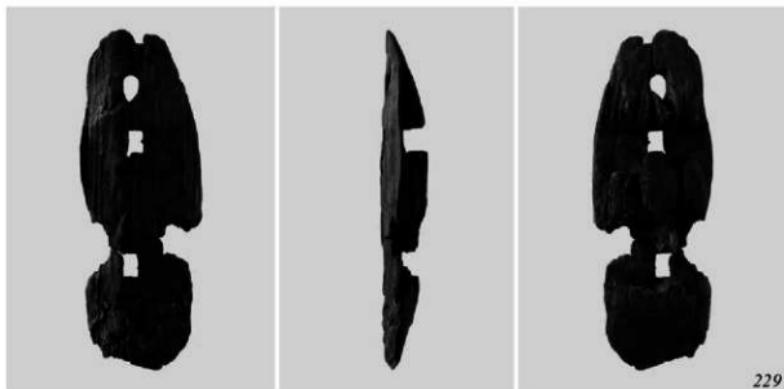
宇波西遺跡 木製品

SD1001 (221・222・224) SE1537a (223)

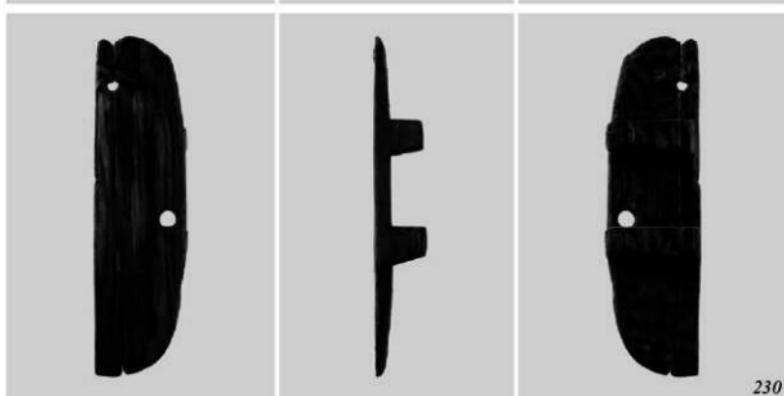


宇波西遺跡 木製品

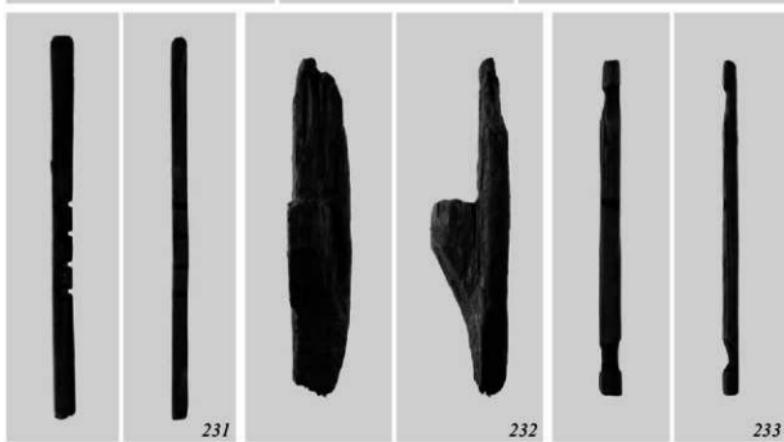
SD201 (227) SD1001 (225・226・228)



229



230



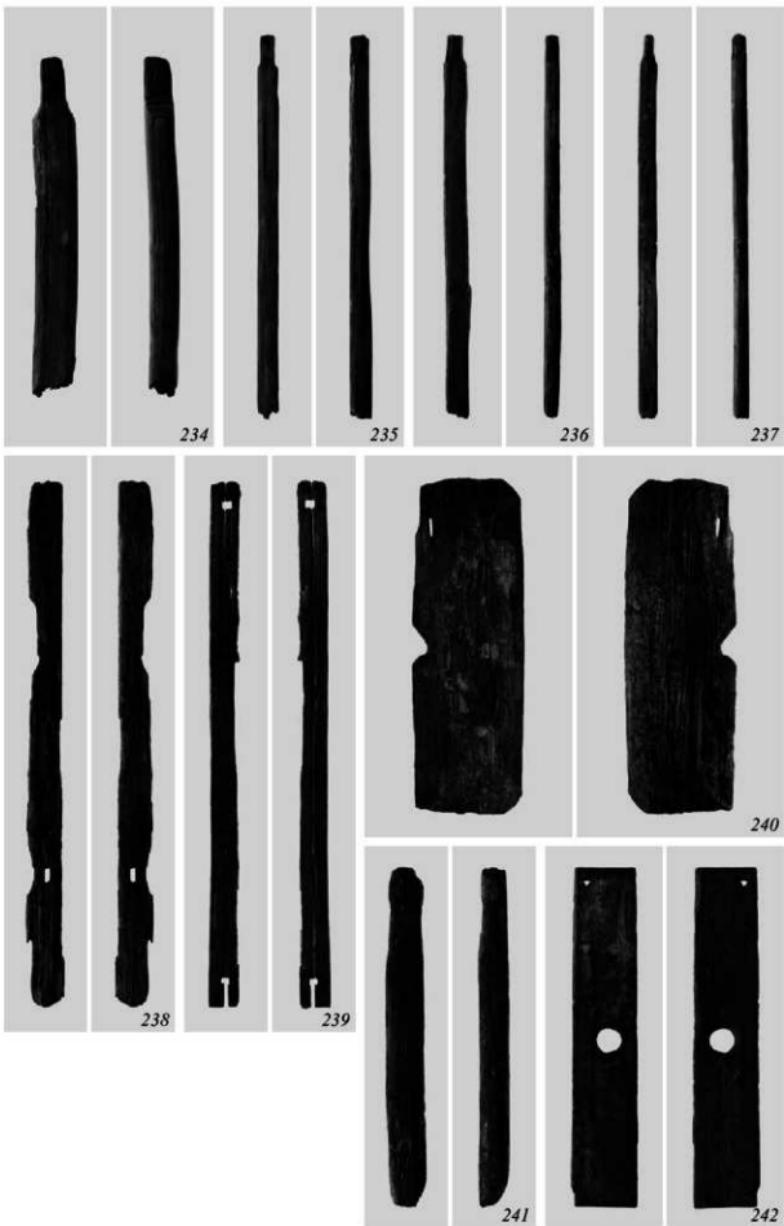
231

232

233

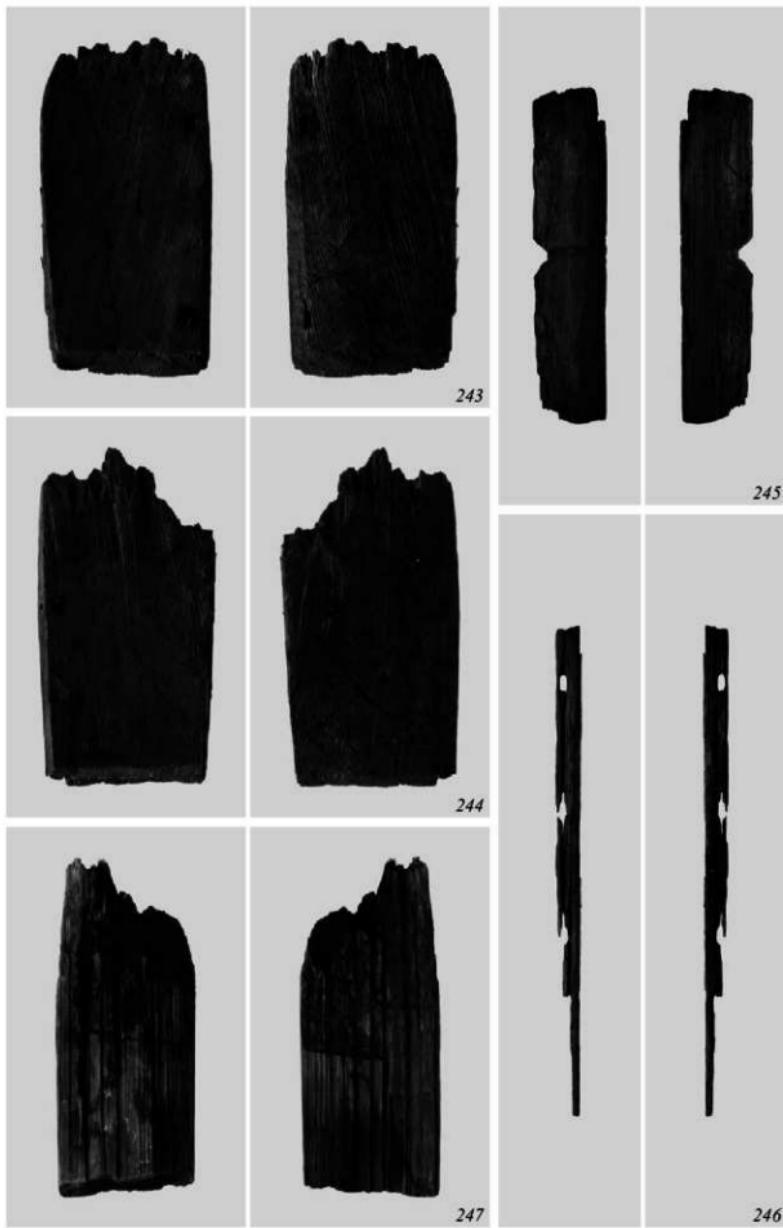
宇波西遺跡 木製品

SD1001 (232) SD1556 (233) SE1537a (229・230) 包含層



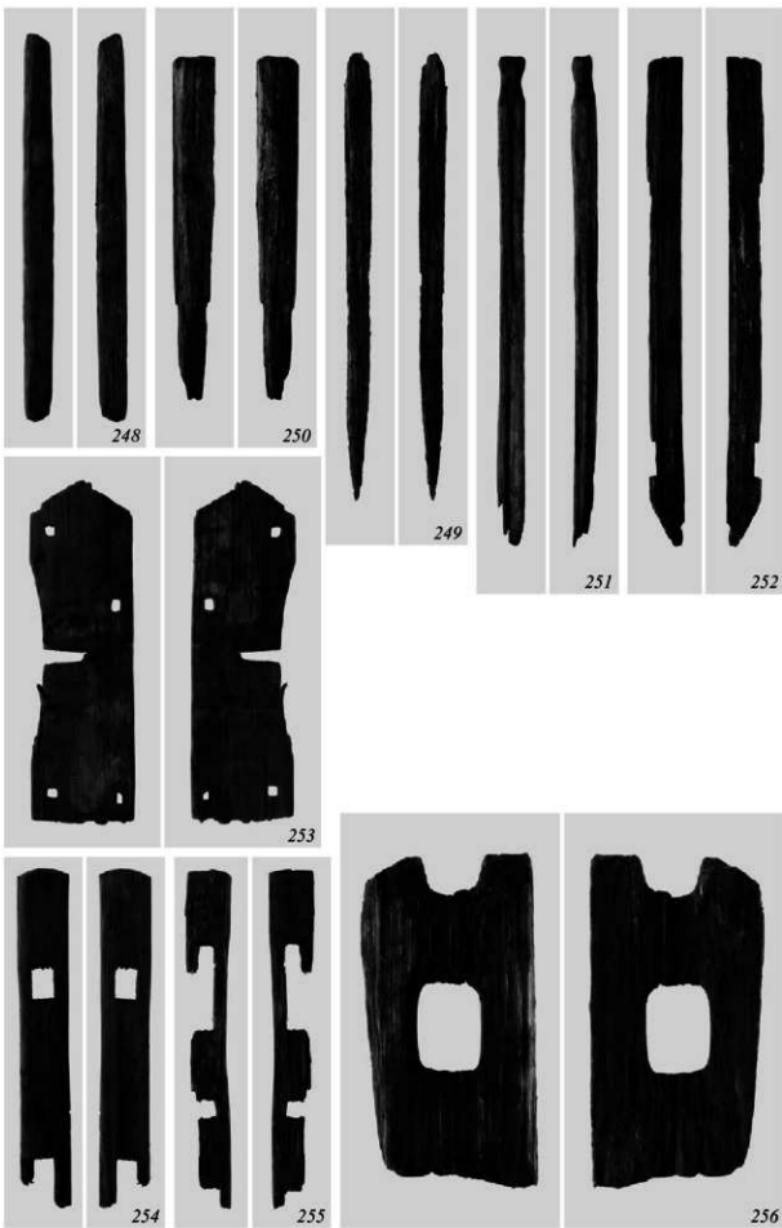
宇波西遺跡 木製品

SD1001 (234~239・241・242) SX435 (240)



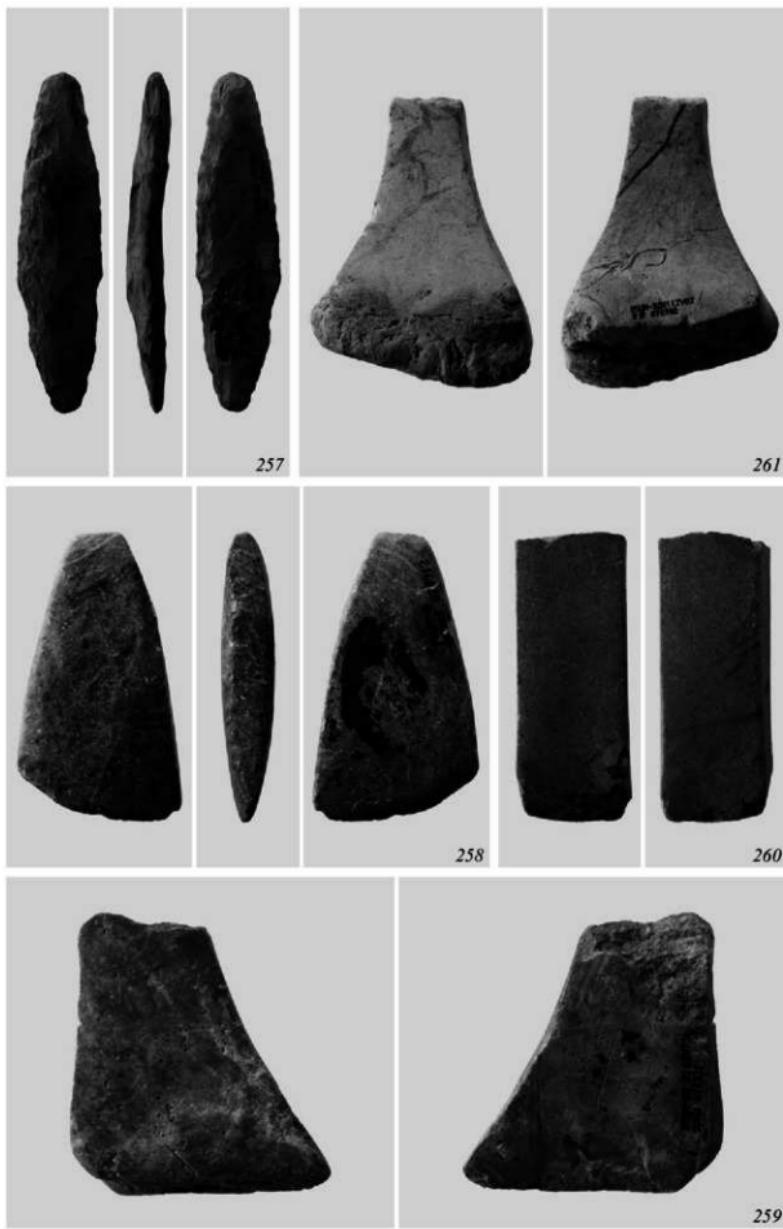
宇波西遺跡 木製品

SX434 (243・244・247) SX435 (245・246)



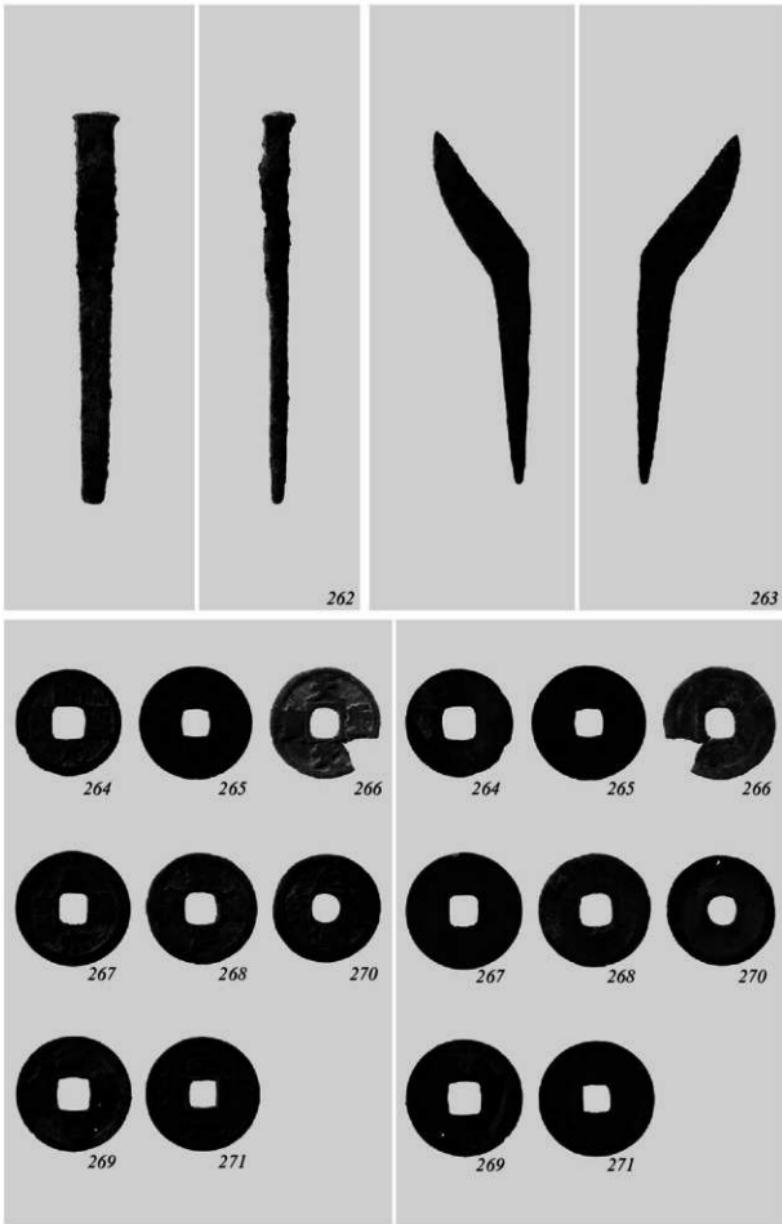
宇波西遺跡 木製品

SD1001 (249~255) SK395 (256) SX435 (248)



宇波西遺跡 石製品

SB9 SP545 (258) SD1001 (257・259・260) 包含層



宇波西遺跡 金属製品

SD1001 (262) 包含層

報告書抄録

ふりがな	いなづみあまさかいたせき							
書名	相模天坂遺跡・相模天坂北遺跡・相模オオヤナ海遺跡・宇波西遺跡発掘調査報告							
研究者名	鹿島自前幸道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告							
巻次	五五							
シリーズ名	宮山遺文化振興財団叢書文化財発掘調査報告							
シリーズ番号	第 61 集							
著者名	島田美佐子、島田亮仁、新宅一義、高橋由紀子、町田賢一							
編集機関	会社法活用大富山周辺文化振興財団、埋蔵文化財調査事務所							
所在地	〒930-0882 富山県富山市五福4384番1号 TEL 076-442-4229							
発行年月日	2014年3月30日							
ふりがな 所又遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 道路番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因	
相模天坂	富山県 魚住郡 高岡市 相模	16205	374	36° 52° 28°	136° 58° 05°	20060619 ~ 20060927 20070524 ~ 20070810	8,497	道路（能越自動車道） 建設に伴う事前調査
相模天坂北	富山県 魚住郡 高岡市 相模	16205	375	36° 52° 33°	136° 58° 10°	20060515 ~ 20061113	10,908	
相模オオヤナ海	富山県 魚住郡 高岡市 相模	16205	366	36° 52° 45°	136° 58° 25°	20060925 ~ 20061025 20070529 ~ 20071128	5012	
宇波西	富山県 魚住郡 高岡市 宇波	16205	318	36° 55° 10°	137° 00° 16°	20070604 ~ 20071122	15,524	
所以遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
相模天坂	集落	縄文時代後期前葉	谷	縄文土器				
		弥生時代後期後半～ 終末	堅穴建物 柱立柱建物 溝 土坑	2種 1種 4種 12系	先住上部・玉網（管玉・ヒスイ海玉・ ガラス小玉）・石製品 瓦舟形の堅穴建物からは玉網の他、管玉未製品や陶器の製作過程物が出土。			
		古代	柱立柱建物 自然流路 溝 土坑	1種 1種 7種 1系	土罐型・須恵器・土製品・木製品・ 石製品	8～9世紀の小規模集落		
		中世	柱立柱建物 樋 柱穴 溝 井戸 土坑	1種 4列 3系 4系 6系 2系	中世上部器・珠陶・中国製青磁・ 中国製白磁・中国製染付・土製品・ 木製品・石製品・陶器	15世紀の小規模集落。 井戸から木像（神像）が出土。		
		近世～近代	樋 溝 土坑 墓坑状遺構 溝	2列 6条 1系 3系	中世中瀬戸・肥前陶器群・土製品・ 木製品・石製品・陶器			
相模天坂北	集落	縄文時代地層	土坑	1系	縄文土器	縄文時代後期の埋設土器		
		古墳時代後半～古代	自然流路	1条	土罐器・須恵器本製品・石製品			
		古代	柱立柱建物 井戸 溝 土坑	5種 1列 1系 2系 14系	土罐器・須恵器・黑色土器・灰釉 陶器・須恵器・土製品・木製品・ 石製品	8～9世紀代の集落。 墨書き土器・把手付中空円筒鏡が出土。		
		中近世	溝	2条	中世中瀬戸・肥前陶器群・木製品・ 石製品・陶器			
相模オオヤナ海	集落	古墳時代	自然流路 溝	1条 2条	土罐器			
		中近世	自然流路 溝	12条 3条 17条 17条	中世上部器・珠陶・中国製青磁・ 中國中瀬戸・肥前陶器群・土製品・ 木製品・石製品・金属製品			
宇波西	集落	弥生時代後半～ 古墳時代初期	自然流路 溝 木造遺構	3条 3条 2条	弥生土器・土罐器・木製品・ 石製品	自然流路の落ち間に集水の為とみられる 木組遺構を検出。		
		古代	柱立柱建物 堅穴建物 樋 溝 井戸 土坑	4種 2種 1列 6条 22系 8条	土罐器・須恵器・灰釉陶器・縁結 陶器・黑色土器・須恵器・土製品・ 木製品	7～8世紀の集落		
		中近世	柱立柱建物 樋 溝 井戸 土坑	8種 5条 3系 5系	中世上部器・珠陶・鍵形・中国製 青磁・中国製白磁・土罐器・土製品 中世中瀬戸・肥前陶器群・土製品・ 木製品・陶器	14～16世紀の集落		

要約

- 相模天坂遺跡では、弥生時代後半から古墳時代初期の集落、古墳（15世紀）の集落を主に調査した。弥生時代では平面が方形の堅穴建物を複数出し、副建物からは玉網と石製品を用いた遺構を主としました。古墳の集落は集落縁辺部にありました。中世では1箇所の井戸から出土物の少ない「本像（神像）」が見つかった。
- 相模天坂北遺跡では、古墳（14世紀）の集落を主としました。富山県内では類を見ない「丸」と書かれた土管玉と「手付付中空円筒鏡」が出土した。
- 相模オオヤナ海遺跡では、古墳時代末～古墳時代初期の自然流路と木造遺構、古代（7～8世紀）の集落、中世（14～16世紀）の集落を主に調査した。古代から中世ま
にかけて斬築的に集落が営まれていたことが明らかとなった。

2014（平成26）年3月3日 印刷
2014（平成26）年3月20日 発行

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第64集

稻積天坂遺跡
稻積天坂北遺跡 発掘調査報告
稻積オオヤチ南遺跡
宇波西遺跡

—能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告XIV—

編集・発行 公益財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
〒930-0887 富山市五福4384番1号
TEL 076-442-4229

印刷 北日本印刷株式会社
〒930-2201 富山市草鳥134番地10
TEL 076-435-9224